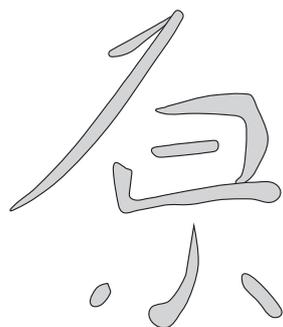


熊本県文化財調査報告書 第308集

桑鶴遺跡群 五丁中原遺跡

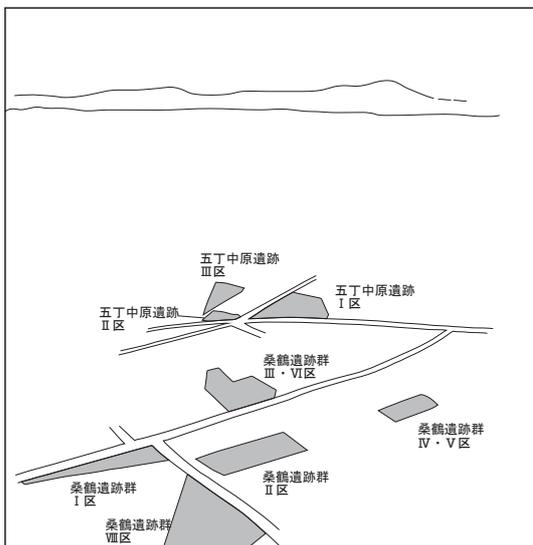
—砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告—



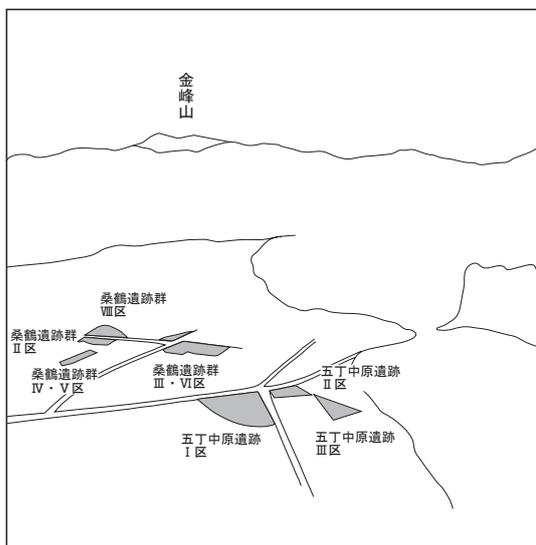
熊本県教育委員会

2015

巻頭カラー 1
空撮 1 (SW →)

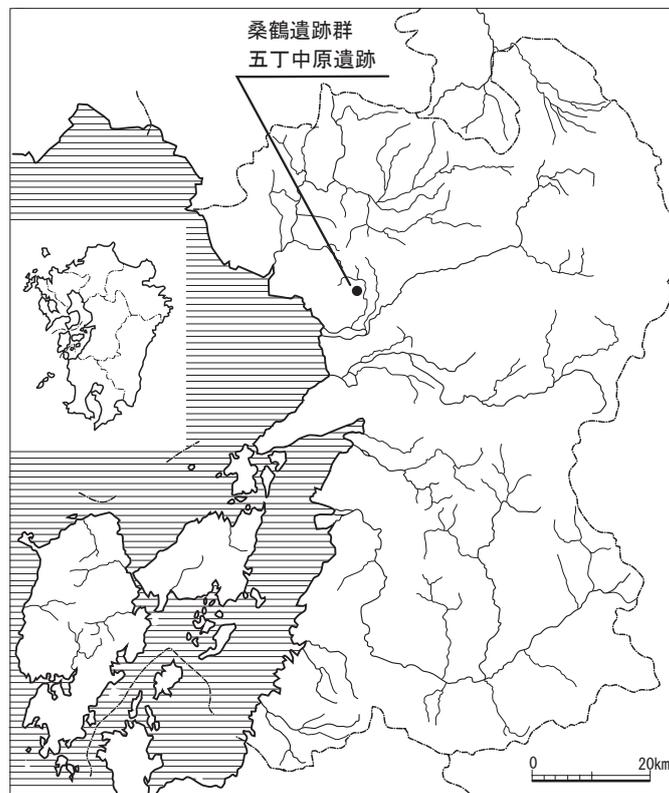


SW →



桑鶴遺跡群 五丁中原遺跡

— 熊本県熊本市北区所在の埋蔵文化財 —



熊本県教育委員会

2015

序 文

熊本県教育委員会は砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴い、桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡の調査を実施しました。その結果、古代の住居跡や中世期と推定される建物群などの生活居住地を確認することができました。

今回の調査の成果の一つに旧石器の出土があります。これはこれまで不確定であった熊本西部にて良好な出土になりました。これから、この時代を考える上で貴重な情報の提示ができ、今後に弾みが付くものでしょう。また出土遺物の中には「原」と書かれた文字資料があり、調査地の古代地名や自然環境を窺い知ることができました。

今回の文化財調査は調査・整理が熊本市の政令市に伴い権限移譲するという形態ではありましたが、熊本市の深いご理解のもと、本報告書の発行ができました。

記録保存という形ではありますが本報告が地域の発展とともに、将来、地域の貴重な歴史の情報として引き継がれ、生かされていくことを望んでおります。

なお、本調査を実施するにあたり、御理解とご協力をいただいた地元の皆様並びに関係機関に深く感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月 31 日

熊本県教育長 田崎 龍一

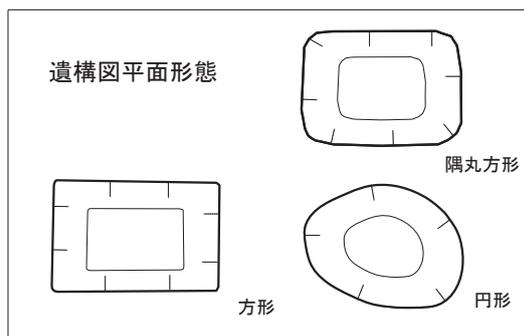
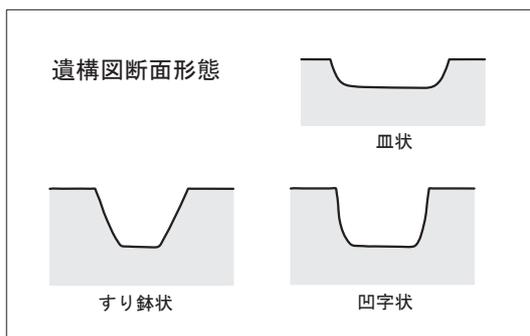
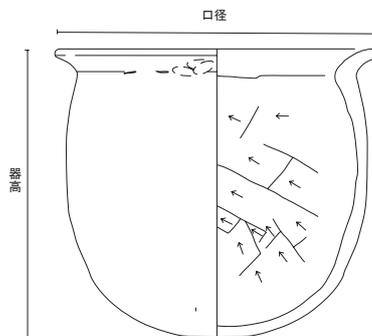
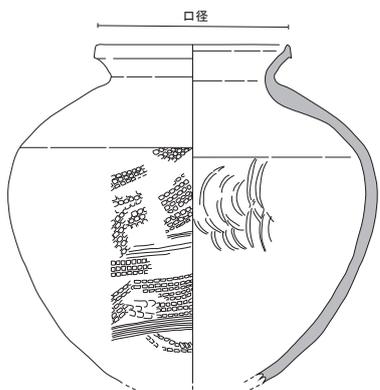
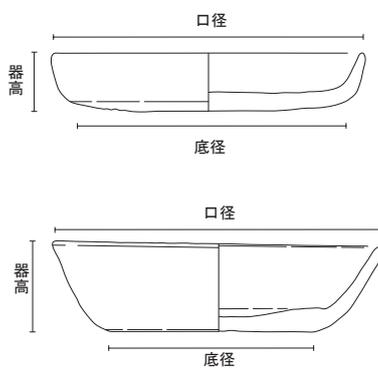
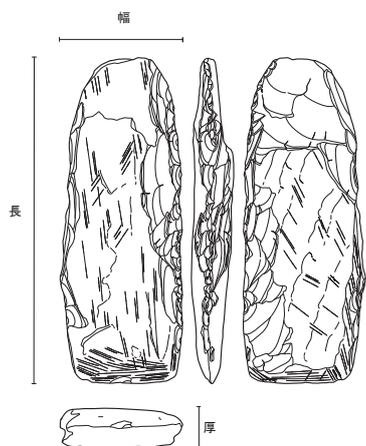
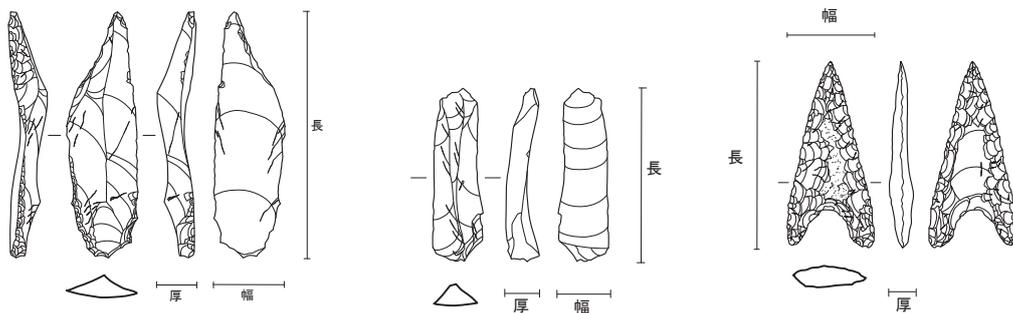
例 言

- 1 本書は、熊本県熊本市北区に所在する桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡調査の報告書である。桑鶴遺跡群は平成18年度に第1次、21～23年度に2次調査を実施した。
- 2 発掘調査は、熊本県土木部及び熊本土木事務所の依頼を受け、熊本県教育委員会が実施した。調査費及び整理報告費については、同事業部局及び熊本市が負担した。
- 3 遺物の整理・報告作業は、熊本県文化財資料室で平成25年度から26年度まで実施した。
- 4 本書で用いる地形図は、熊本県土木部から提供、並びに国土地理院発行の2万5千分の1地形図をもとに作成した。
- 5 遺跡の測量の基準点測量及び水準測量は株式会社長田測量設計・株式会社ワールドコンサルタント・有限会社坂井設計コンサルタント・株式会社十八測量設計の委託事業とした。現地での写真撮影は各調査員が行い、遺構実測は現場作業員の協力のもと各調査員が実施した。遺物の実測・製図は、春川香子・今田里枝・出家麻里・濱崎清子・園田智子・立岩恵美子・山下義満が行い、一部株式会社イビソク、株式会社九州文化財研究所の委託事業とした。遺物の写真撮影は、村田百合子・松本智子・蓮池千絵が行い、一部、春川・今田が行った。
- 6 自然科学分析については火葬骨分析は、NPO法人人類学研究機構、炭素同位体年代測定は株式会社古環境研究所に委託した。
- 7 本書の執筆は、第V章自然科学分析は、NPO法人人類学研究機構、炭素同位体年代測定は古環境研究所が行った。第IV章第1節旧石器の調査成果・及び第VII章の旧石器の稿は岡本が、その他を山下が執筆した。
- 8 整理後の保管は熊本県文化財資料室で保管されている。
- 9 本書の編集は、熊本県教育庁文化課が行い、春川・今田の援助を得て山下が担当した。

凡 例

- 1 方位／座標 国土座標第II系（日本測地系）を基準とし、方位もそれに準じた。
- 2 遺跡地区名 遺跡全体の地区（第1図）の通りである。また桑鶴遺跡群は平成18年度を1次・平成21～23年度を2次と区分した。
- 3 遺構名略号 次の通りである。SH；住居・SB；掘立柱建物・SK・ST；土坑・SD；溝・SI；埋設遺構・S0；燃焼土坑・SX；不明遺構・P；Pit遺構
- 4 遺構図版 標高は東京湾平均海水面（Tokyo Peil [T.P.]）による。
- 5 遺構図版 縮尺 遺構図版は、ブロックごとに掲載し、縮尺はキャプション及びスケールで図示した。
- 6 遺構図版 線種 遺構平面図は原則として確定ラインは実線で掲載し、遺構上・下端の推定線は破線で示した。また攪乱および調査区範囲については実線及び一点破線で示した
- 7 遺構図版 断面ポイント 各遺構の平面及び断面図では—ラインの内側をポイントとしている。
- 8 遺物図版 縮尺 遺物実測は原則として土器は1/3、で行い、石器は1/1・2/3・1/3・1/4・1/5、その他は2/3で掲載した。またこれに該当しないものは、その縮尺を図中に示した。
- 9 遺物図版 線種 外形線、中心線及び区画線は実線、稜線は一点破線または二点破線、推定線は破線で示した。また、須恵器については、断面を塗りつぶした。また彩色土器については原色に近い色を用いた。
- 10 遺物図版 土器の小破片については、断面図の左を内面、右を外面の立面図にしている。
- 11 接合痕跡は、断面の内側に細線を入れている。
- 12 遺物観察表 すべての実測個体について、遺物観察表を掲載した。その凡例は、観察表の上に別項にて注記している。
- 13 色調 本書で用いた土壌・胎土色調名は、農林水産省技術事務局監修「新版 標準土色帳」を用いた。陶磁器・玉類については、大日本インキ化学工業株式会社発行「中国の伝統色」第2版（1986）を用いた。

凡例



本文目次

第I章 調査の経過……………	1	第V章 自然科学分析……………	217
第1節 調査に至る経緯と経過……………	1	第1節 火葬人骨……………	217
第2節 調査の組織……………	1	第2節 放射性炭素年代測定……………	223
		(1) 五丁中原遺跡I区……………	223
		(2) 桑鶴遺跡群II区……………	225
		(3) 桑鶴遺跡群VIII区……………	227
第II章 遺跡の環境……………	4		
第III章 調査の概要……………	5	第VI章 遺構・遺物データ……………	229
第1節 調査区の位置……………	5	遺構データ……………	229
第2節 調査の概要……………	5	出土遺物観察表(石器)……………	236
第3節 基本土層……………	5	出土遺物観察表(土器)……………	242
		出土遺物観察表(金属製品)……………	261
第IV章 調査の成果……………	22		
第1節 旧石器……………	22	第VII章 総括……………	263
第2節 縄文……………	25	第1節 遺構……………	263
第3節 弥生……………	25	第2節 遺物……………	264
第4節 古代……………	25	第3節 結言……………	270
第5節 中世……………	25		
第6節 不明……………	26		

第 51 図	五丁中原遺跡Ⅱ区 SX-04実測図 及び出土遺物実測図……………	66	第 74 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-03実測図……………	89
第 52 図	五丁中原遺跡Ⅲ区Ⅳ層・Ⅴ層遺構配置図・ 10号集石実測図及び出土遺物実測図……………	67	第 75 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-03出土遺物実測図・ SH-04実測図及び出土遺物実測図……………	90
古代					
第 53 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区遺構配置図……………	68	第 76 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-05実測図……………	91
第 54 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SD-09実測図……………	69	第 77 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-05土坑・竈実測図 及び出土遺物実測図……………	92
第 55 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SI-01・02実測図 及び出土遺物実測図……………	70	第 78 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-05竈粘土流出状況 及び出土遺物実測図……………	93
第 56 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SK-01・06実測図……………	71	第 79 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-05出土遺物実測図……………	94
第 57 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SD-07実測図……………	72	第 80 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-06実測図 及び出土遺物実測図……………	95
第 58 図	桑鶴遺跡群Ⅰ区遺構配置図……………	73	第 81 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-07実測図……………	96
第 59 図	桑鶴遺跡群Ⅰ区 SH-01実測図及び竈実測図……………	74	第 82 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-07Pit検出状況 及び出土遺物実測図……………	97
第 60 図	桑鶴遺跡群Ⅰ区 SH-01完掘図 及び出土遺物実測図……………	75	第 83 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-07竈実測図 及び炭化物出土状況……………	98
第 61 図	桑鶴遺跡群Ⅰ区 Pit 1・燃烧土坑実測図……………	76	第 84 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-08実測図 及び竈検出状況……………	99
第 62 図	桑鶴遺跡群Ⅱ区コンタ図 及び遺構配置図(Ⅲ層上面検出)……………	77	第 85 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-08竈遺物出土状況 及び出土遺物実測図……………	100
第 63 図	桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-02実測図……………	78	第 86 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-09実測図 及び竈検出状況……………	101
第 64 図	桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-03実測図……………	79	第 87 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-09竈実測図 及び出土遺物実測図……………	102
第 65 図	桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-04実測図……………	80	第 88 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-10実測図……………	103
第 66 図	桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-04ベルト土層断面図 及び波状掘り込み実測図……………	81	第 89 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-10竈検出・完掘状況 及び出土遺物実測図……………	104
第 67 図	桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-04遺物出土状況・ 骨片散布状況及び出土遺物実測図……………	82	第 90 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-10竈遺物出土状況 及び出土遺物実測図……………	105
第 68 図	桑鶴遺跡群Ⅱ区 ST-01・02実測図……………	83	第 91 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-10竈完掘状況……………	106
第 69 図	桑鶴遺跡群Ⅲ・Ⅵ区遺構配置図 及び遺物出土状況……………	84	第 92 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-11硬化面・粘土範囲 検出・完掘状況及び出土遺物実測図……………	107
第 70 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区燃烧土坑No. 1・ST-01実測図 及び出土遺物実測図……………	85	第 93 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-11竈実測図 及び出土遺物実測図……………	108
第 71 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 ST-04・07実測図 及び出土遺物実測図……………	86	第 94 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-11竈粘土範囲 及び出土遺物実測図……………	109
第 72 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区住居址群概念図……………	87			
第 73 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-01実測図 及び出土遺物実測図……………	88			

第 95 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12使用時完掘・ Pit検出状況及び出土遺物実測図	110
第 96 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12完掘状況	111
第 97 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12竈実測図 及び出土遺物実測図	112
第 98 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12硬化面検出・土器 密集区遺物出土状況及び出土遺物実測図	113
第 99 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12土器密集区 出土遺物実測図 1	114
第 100 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12土器密集区 出土遺物実測図 2	115
第 101 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12出土遺物実測図	116
第 102 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-13実測図	117
第 103 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-13竈実測図 及び出土遺物実測図	118
第 104 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-14硬化面検出 及び竈実測図	119
第 105 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-14竈・土坑遺物出土状況 及び出土遺物実測図	120
第 106 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-15実測図	121
第 107 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-15竈実測図	122
第 108 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-15完掘・竈遺物出土状況 及び出土遺物実測図	123
第 109 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-16竈検出・使用時状況	124
第 110 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-16完掘・竈遺物出土状況 及び出土遺物実測図	125
第 111 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-16P-①・②実測図 及び出土遺物実測図	126
第 112 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-17使用時状況 及び出土遺物実測図	127
第 113 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-17完掘状況・Pit-①・② 実測図及び出土遺物実測図	128
第 114 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-17竈実測図 及び出土遺物実測図	129
第 115 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-18検出・粘土流出状況 及び出土遺物実測図	130

第 116 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-19完掘状況	131
第 117 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-20硬化面検出・ 完掘状況	132
第 118 図	桑鶴遺跡群Ⅵ区 ST-01～03実測図 及び出土遺物実測図	133
第 119 図	桑鶴遺跡群Ⅵ区土師器出土状況	134
第 120 図	桑鶴遺跡群Ⅳ区遺構配置図	135
第 121 図	桑鶴遺跡群Ⅳ区 SH-01実測図 及び出土遺物実測図	136
第 122 図	桑鶴遺跡群Ⅳ区 SH-01竈実測図 及び出土遺物実測図	137

古代～中世

第 123 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区遺構配置図 及びSD-10実測図	138
第 124 図	桑鶴遺跡群Ⅴ区Ⅲa層遺構配置図・鉄滓出土 状況・ST-01実測図及び出土遺物実測図	139
第 125 図	桑鶴遺跡群Ⅴ区Ⅲb層遺構配置図・ ST-02実測図及び出土遺物実測図	140

中世

第 126 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区遺構配置図	141
第 127 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SB-01実測図 及び出土遺物実測図	142
第 128 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SB-02・03実測図	143
第 129 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SB-04実測図	144
第 130 図	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SB-05・06実測図	145
第 131 図	桑鶴遺跡群Ⅴ区遺構配置図	146
第 132 図	桑鶴遺跡群Ⅴ区 SB-01実測図 及び出土遺物実測図	147
第 133 図	桑鶴遺跡群Ⅴ区 SD-01実測図	148
第 134 図	桑鶴遺跡群Ⅴ区 SD-01出土遺物実測図	149

近現代

第 135 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区遺構配置図	150
第 136 図	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SD-01実測図	151

第 137 図	桑鶴遺跡群06-I 区 SD-02・03・05実測図	152
第 138 図	桑鶴遺跡群06-I 区 SD-04・08実測図	153
第 139 図	桑鶴遺跡群06-I a区 SD-06実測図 及び06-I c区 SD-06実測図	154
不明		
第 140 図	桑鶴遺跡群06-I 区遺構配置図 及びSK-04・07～09実測図	155
第 141 図	桑鶴遺跡群06-I 区 SX-01・02・04実測図	156
第 142 図	桑鶴遺跡群06-II 区遺構配置図	157
第 143 図	桑鶴遺跡群06-II 区 SK-10～13・SX-03実測図	158
第 144 図	桑鶴遺跡群06-II 区 SD-11・12実測図	159
第 145 図	桑鶴遺跡群IV区遺構配置図 及びSP-01 (貝殻Pit) 実測図	160
第 146 図	桑鶴遺跡群VIII区IVa層遺構配置図	161
第 147 図	桑鶴遺跡群VIII区 SX-01 (P-01・02・03)・SX-04実測図	162
第 148 図	桑鶴遺跡群VIII区 ST-01～05・07・P-01実測図 及び出土遺物実測図	163
第 149 図	桑鶴遺跡群VIII区IVb層遺構配置図 及びST-08・10・29・P-58実測図	164
第 150 図	桑鶴遺跡群VIII区 SX-02・03実測図 及び出土遺物実測図	165
第 151 図	桑鶴遺跡群VIII区 SX-05・ST-15・16実測図	166
第 152 図	桑鶴遺跡群VIII区 SH-01・P-01(柱穴) 実測図	167
第 153 図	桑鶴遺跡群VIII区V層遺構配置図	168
第 154 図	桑鶴遺跡群VIII区 S0-01実測図 及び出土遺物実測図	169
第 155 図	桑鶴遺跡群VIII区 S0-02～04実測図	170
第 156 図	桑鶴遺跡群VIII区 ST-20～22・25実測図	171
第 157 図	桑鶴遺跡群VIII区 ST-12・18・19・23・24・26～28実測図	172
第 158 図	桑鶴遺跡群VIII区遺構配置図 及びST-30・31実測図	173

第 159 図	五丁中原遺跡 I 区V層遺構配置図 及びST-27実測図	174
第 160 図	五丁中原遺跡 I 区IVa層遺構配置図 及び遺物出土状況	175
第 161 図	五丁中原遺跡 I 区 ST-04・06～08・SX-01実測図	176
第 162 図	五丁中原遺跡 I 区IVb層遺構配置図	177
第 163 図	五丁中原遺跡 I 区 ST-11～15・23～26実測図	178
第 164 図	五丁中原遺跡 I 区 ST-16～22実測図	179
第 165 図	五丁中原遺跡III区遺構配置図	180
第 166 図	五丁中原遺跡III区 SD-01実測図	181
第 167 図	五丁中原遺跡III区 ST-38～45実測図	182
第 168 図	五丁中原遺跡III区 ST-46～51実測図	183
第 169 図	五丁中原遺跡III区 ST-66実測図	184

遺物

第 170 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 7	185
第 171 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 8	186
第 172 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 9	187
第 173 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 10	188
第 174 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 11	189
第 175 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 12	190
第 176 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 13	191
第 177 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 14	192
第 178 図	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 15	193

第 179 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 191 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 16 …………… 194	出土遺物実測図 28 …………… 206
第 180 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 192 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 17 …………… 195	出土遺物実測図 29 …………… 207
第 181 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 193 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 18 …………… 196	出土遺物実測図 30 …………… 208
第 182 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 194 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 19 …………… 197	出土遺物実測図 31 …………… 209
第 183 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 195 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 20 …………… 198	出土遺物実測図 32 …………… 210
第 184 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 196 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 21 …………… 199	出土遺物実測図 33 …………… 211
第 185 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 197 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 22 …………… 200	出土遺物実測図 34 …………… 212
第 186 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 198 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 23 …………… 201	出土遺物実測図 35 …………… 213
第 187 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 199 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡
出土遺物実測図 24 …………… 202	出土遺物実測図 36 …………… 214
第 188 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	第 200 図 遺跡を取り巻く石材環境…………… 266
出土遺物実測図 25 …………… 203	第 201 図 熊本市周辺の地質図と
第 189 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	旧石器時代の遺跡位置図…………… 267
出土遺物実測図 26 …………… 204	
第 190 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
出土遺物実測図 27 …………… 205	

表 目 次

第 1 表	遺跡地名表	2	第 6 表	出土遺物観察表（土器）	242
第 2 表	調査時期	6	第 7 表	出土遺物観察表（金属製品）	261
第 3 表	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土旧石器器種・出土層位点数	24	第 8 表	旧石器時代の地域的編年と 本遺跡との比較表	265
第 4 表	遺構データ表	229	第 9 表	周辺の旧石器遺跡データ一覧表	268
第 5 表	出土遺物観察表（石器）	236			

写真図版目次

Ph. 1	阿蘇4火砕流推積物中の黒曜石確認状況 五丁中原遺跡Ⅱ区西側工事現場土層断面状況 桑鶴遺跡群Ⅷ区 SH-01使用時完掘状況（N→）	273	Ph. 8	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-17竈検出状況（W→） 桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12土馬出土状況（124）（S→） 桑鶴遺跡群Ⅲ区住居密集地検出状況（SE→）	280
Ph. 2	桑鶴遺跡群Ⅷ区土層断面図A-A'（S→） 桑鶴遺跡群Ⅷ区南西壁土層断面 五丁中原遺跡Ⅰ区南壁土層断面B（S→N） 五丁中原遺跡Ⅰ区Ⅵ層石器出土状況（28）	274	Ph. 9	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SB-05完掘状況（E→） 桑鶴遺跡群Ⅳ区 SH-01竈使用時状況（E→）	281
Ph. 3	五丁中原遺跡Ⅰ区東壁土層断面 1（W→E） 五丁中原遺跡Ⅰ区東壁土層断面 2（W→E） 五丁中原遺跡Ⅰ区東壁土層断面 3（W→E）	275	Ph. 10	桑鶴遺跡群Ⅴ区 SD-01完掘状況（N→） 桑鶴遺跡群Ⅳ区貝殻出土状況（S→） 桑鶴遺跡群Ⅵ区土師器出土状況（168・169）（WS→） 五丁中原遺跡Ⅰ区石器出土状況（490）（E→）	282
Ph. 4	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 1号集石検出状況（W→） 桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 3号集石検出状況（W→）	276	Ph. 11	桑鶴遺跡群Ⅷ区 SX-05炭化物出土状況（N→） 五丁中原遺跡Ⅰ区 SX-01完掘状況（W→）	283
Ph. 5	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SI-01検出状況（S→）（64・65） 桑鶴遺跡群06-Ⅱ区 SI-03土坑検出状況（E→）（50）	277	Ph. 12	出土石器 1（表）・（裏）	284
Ph. 6	桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-04検出状況1（N→S） 桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-02（右）SX-04（左）検出状況 2（N→S）	278	Ph. 13	出土石器 2（表）・（裏）	285
Ph. 7	桑鶴遺跡群Ⅰ区石器出土状況（3） 桑鶴遺跡群Ⅱ区石器出土状況（9）（E→） 桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-05土器出土状況（E→）	279	Ph. 14	出土石器 3（表）・（裏）	286
			Ph. 15	出土石器 4（表）・（裏）	287
			Ph. 16	出土石器 5（表）・（裏）	288
			Ph. 17	出土石器 6（表）・（裏）	289
			Ph. 18	出土石器 7（表）・（裏）	290

Ph. 19	…………… 291	Ph. 25	…………… 297
	縄文早期土器 1 楕円文		桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-05出土ヘラ描き「原」
	縄文早期土器 2 条痕文・格子目文・塞ノ神式		桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12出土ヘラ描き「原」「○」
Ph. 20	…………… 292		桑鶴遺跡群「原」墨書ヘラ記号
	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SI-01出土土器	Ph. 26	…………… 298
	桑鶴遺跡群06-Ⅰ区 SI-01底部様相		輸入磁器類
	桑鶴遺跡群Ⅴ区出土埴塼と轆の羽口		桑鶴遺跡群Ⅴ区Ⅲb層出土土器
	桑鶴遺跡群06-Ⅱ区出土土製勾玉		桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-05出土袖石
	桑鶴遺跡群Ⅵ区ガラス滓(左) 桑鶴遺跡群Ⅵ区鉄滓(右)	Ph. 27	…………… 299
	五丁中原遺跡Ⅰ区出土免田式土器片		石器 1 (石鏃)
Ph. 21	…………… 293		石器 2 (石鏃・尖頭器)
	桑鶴遺跡群Ⅰ区 SH-01出土土器	Ph. 28	…………… 300
	桑鶴遺跡群Ⅱ区 SX-05阿高式土器		石器 3 (石匙)
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-03出土墨書土器		石器 4 (打製石斧・磨製石斧・凹石)
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12出土土馬	Ph. 29	…………… 301
	桑鶴遺跡群Ⅵ区 ST-03出土土器		石器 5 (砥石)
Ph. 22	…………… 294		石器 6 (石剣・石包丁・用途不明石器)
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-05出土土器	Ph. 30	…………… 302
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12出土土器		金属製品 1
Ph. 23	…………… 295		金属製品 2
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-12出土土器		
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-07出土土器		
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-10出土土器		
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-11出土土器		
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-14出土土器		
Ph. 24	…………… 296		
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-16出土土器		
	桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-17出土土器		
	桑鶴遺跡群Ⅲ区出土把手部位		
	桑鶴遺跡群Ⅷ区 SH-01 P-1出土土器		
	桑鶴遺跡群Ⅳ区 SH-01出土土器		
	把手貼り合わせ状態		

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査に至る経緯と経過

今回報告する調査地は砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う調査で、この事業は西廻り自動車道と変化し熊本市を環状化する。調査区は未買収地を多く抱え取得地からの調査となり、このため調査区が年度の連続性がないのはこのためである。また調査区（桑鶴 2 次）に欠番（VII 区）があるのは、調査直前で中止になったためである。

この地は熊本食品工業団地（通称フードパル）建設に伴う文化財調査を平成 5 年度～7 年度に熊本市が実施している。この成果は「五丁中原遺跡」として報告されている。これらの遺跡は縄文から中世の複合遺跡であるが、遺跡の中核は弥生期の環濠集落であろう。

桑鶴 2 次・五丁中原は試掘結果を受け調査区が確定し、平成 21 年 6 月 1 日より調査を開始するが、用地買収が平行して行われており調査可能な地区より調査を開始した次第である。本遺跡に於いて調査区に連続性がないのはこのためによる。また平成 24 年 4 月 1 日に熊本市が政令市となり、権限移譲もこれに伴い調査主体も熊本市に移行することになり、平成 24 年熊本市との協議・引き継ぎをおこない、これを持って本調査を終了した。

平成 25 年度より、整理・報告書作成を開始したが、この経費は熊本市の受託事業となった。

第 2 節 調査の組織

桑鶴遺跡群 1 次

発掘調査（H 18 年度 2006）（平成を H で略号化した）

調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 梶野英二（文化課長）
 調査総括 倉岡 博（課長補佐）
 西住欣一郎（文化財調査主幹兼第 2 係長）
 調査事務局 吉田 恵（課長補佐）
 高宮優美（主幹兼総務係長）
 小谷仁志（主任主事）
 調査担当 山中智恵（文化財保護主事）

中尾健照（非常勤職員）

士野雄貴（非常勤職員）

桑鶴遺跡群 2 次・五丁中原遺跡

発掘調査（H 21～23 年度 2009～2011）

調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 米岡正治（文化課長 H 21 年度）
 小田信也（文化課長 H 22～23 年度）
 宗村士郎（教育審議員兼課長補佐 H 21～23 年度）
 調査総括 木崎康弘（課長補佐 H 22 年度）
 西住欣一郎（主幹兼文化財調査第 2 係長 H 23 年度）
 調査事務局 元島 茂（課長補佐 H 22 年度）
 川上勝美（課長補佐 H 23 年度）
 山田京子（参事 H 22 年度）
 松島英樹（主任主事 H 22 年度）
 調査担当 試掘担当 廣田静学（参事）
 山下義満（参事 H 21～23 年度）
 藤本竜一（文化財保護主事 H 21 年度）
 布田智久（文化財保護主事 H 21 年度）
 桑島幸平（非常勤職員 H 21～23 年度）
 宮川香織（非常勤職員 H 21～23 年度）
 牛島晋二（非常勤職員 H 21～22 年度）
 師富成香（非常勤職員 H 21 年度）
 川俣幸次（非常勤職員 H 21 年度）

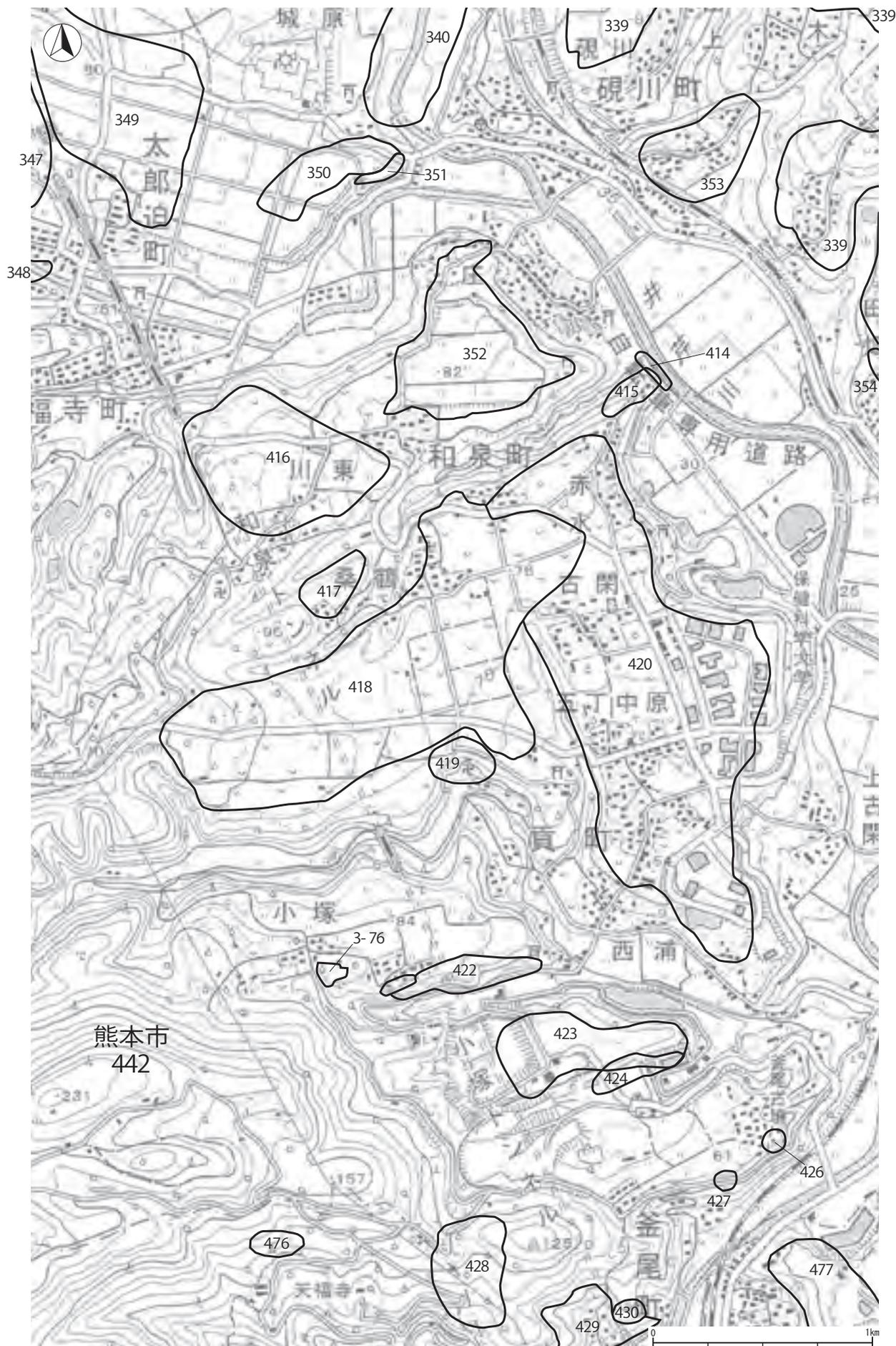
整理・報告書作成（H 25～26 年度）

整理主体 熊本県教育委員会
 整理責任者 小田信也（文化課長 H 25 年度）
 手島伸介（文化課長 H 26 年度）
 整理総括 西住欣一郎（課長補佐 H 25～26 年度）
 岡本真也（主幹兼文化財調査第 2 係長 H 24～25 年度）
 整理事務局 馬場一也（課長補佐 H 25 年度）
 松永隆則（課長補佐 H 26 年度）
 廣石啓哉（主幹兼総務・文化係長 H 25～26 年度）

	有馬綾子（参事 H 25 ～ 26 年度）	調査指導・助言及び協力者
	天草英子（主任主事 H 25 ～ 26 年度）	熊本市教育委員会・野田拓治（熊本県文化財資料室長）・岡本真也・坂田和弘・村崎孝宏・木村
整理担当	山下義満（参事 H 25 ～ 26 年度）	元治・廣田静学・中川 治（熊本県文化課） 池
	春川香子（非常勤職員 H 25 ～ 26 年度）	田朋生（熊本県立装飾古墳館） 金田一精・岩
	出家麻里（非常勤職員 H 25 年度）	谷史記（熊本市教育委員会）・福岡市埋蔵文化財
	今田里枝（非常勤職員 H 26 年度）	センター

遺跡番号	遺 跡 名	所 在 地（熊本市）	時 代	種 別
339	硯川遺跡群	北区硯川町・下硯川町	縄文～平安	包蔵地
340	北迫川底遺跡群	北区北迫町	弥生～中世	包蔵地
347	万楽寺出口遺跡	北区太郎迫町		包蔵地
348	原山遺跡	北区太郎迫町		包蔵地
349	太郎迫遺跡	北区太郎迫町	縄文	包蔵地
350	妙見遺跡群	北区立福寺町	縄文・中世	包蔵地
351	今熊横穴群	北区立福寺町	古墳	古墳
352	川東遺跡群	北区和泉町	縄文・弥生	包蔵地
353	柚ノ木遺跡	北区硯川町	縄文・古墳	包蔵地
354	一丁畑横穴群	北区下硯川町	古墳	古墳
414	崩平横穴群	北区和泉町	古墳	古墳
415	赤水城跡	北区和泉町	中世	城跡
416	皮籠石遺跡	北区和泉町	縄文～中世	包蔵地
417	中尾遺跡	北区和泉町	縄文	包蔵地
418	桑鶴遺跡群	北区和泉町	縄文～中世	包蔵地
419	瑞巖寺跡	北区貢町	中世	寺社
420	五丁中原遺跡群	北区和泉町・貢町	旧石器～弥生	包蔵地
3-76	小塚遺跡	北区貢町		包蔵地
422	原口原横穴群	北区貢町	古墳	古墳
423	扇田遺跡	北区貢町		包蔵地
424	扇田横穴群	北区貢町	古墳	古墳
426	釜尾古墳	北区釜尾町	古墳	古墳
427	橋口古墳	北区釜尾町	古墳	古墳
428	釜尾堂出遺跡群（釜尾遺跡）	北区釜尾町	古墳	包蔵地
429	北島北遺跡	北区釜尾町		包蔵地
430	常福寺古墳	北区釜尾町	古墳	古墳
476	天福寺裏山古墳群	西区花園 7 丁目	古墳	古墳
477	熊本工大遺跡	北区池田 4 丁目	弥生	包蔵地

第 1 表 遺跡地名表



第1図 遺跡範囲図(熊本市遺跡地図に加筆) S=1/25000

第Ⅱ章 遺跡の環境

桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡は、熊本市西部に位置する遺跡で金峰山の裾状台地の先端に位置する。遺跡は弥生時代から中世時代にかけての遺跡であることが判明している。またこれまでの調査結果等から旧石器の存在が指摘されていた。

熊本食品工業団地の建設工事に伴い、平成6・7年に調査が行われている。この結果は「五丁中原遺跡」（1997熊本市教育委員会）として報告されている。調査成果は弥生後期の環濠集落が主たる成果であった。この調査において旧石器の存在が指摘されておりこれが本調査の指針の一つになった。縄文期は本遺跡の北西方面に所在する太郎迫遺跡・北東方面の四方寄遺跡に代表される縄文後晩期の有数な密度・規模を持つ良好な遺跡が所在する。弥生期では熊本市調査の五丁中原遺跡が後期の環濠集落として顕著で、幅4m・深さ2.5mのV字状環濠に囲まれた中には83軒の竪穴住居検出されていることから、この時期に多く存在するムラの存在を窺わせる。

古墳時代になると6世紀に築かれたとされる国指定の装飾古墳 釜尾古墳が近在する。他には大塚古墳・迫畑古墳などにも存在し、また井芹川沿いの台地先端の崖面には多くの横穴墓が分布している。今熊横穴墓・削平横穴墓・一丁畑横穴墓・豆尾横穴墓などである。古代以降は須恵器窯跡の田畑窯跡の存在があるがその詳細は現在ではまだ不明部分が多い。中世は古代に寄進地系荘園が存在し鹿子木氏がこの一帯を中世期まで統治する。妙見城・赤水城などはこの鹿子木氏に関与した山城と考えられている。

この桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡の周囲は旧石器から中世まで遺跡に恵まれている。その一つの理由として台地にも湧水が存在し、河川が存在が挙げられ人々の生活の根源という「水」に恵まれた地域と考える。地名として「和泉町」が近在する。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査区の位置（第2図 参照）

調査区は台地に存在し桑鶴遺跡群 06（1次）と桑鶴遺跡群（2次）には0.8kmの距離があり、遺跡は砂原四方木線予定地である南西-北東に位置する形状である。熊本市西部に位置する金峰山より延びる鋸状台地に所在し、行政区分は熊本市北区貢町・和泉町にまたがる海拔70m級台地に遺跡は所在する。

この台地は急激に落ち込みの様相を呈し、下位には平野部が展開するが近在の台地に挟まれる迫地に近い。この平野部に井芹川が緩やかに蛇行しながら河川を形成し、この迫間状平野に沿うように鹿児島本線と県道31号線（通称 鈴麦線）が南北に縦断している。

第Ⅱ章で述べたように桑鶴遺跡群（2次）の中心地より直線にして0.6kmに「五丁中原遺跡」（1997 熊本市教育委員会）が所在していることからこの台地一帯は埋蔵文化財包蔵地と考えられる。

第2節 調査の概要

今回は、時期としては主に旧石器と古代が中心となった。旧石器は「五丁中原遺跡」（1997 熊本市教育委員会）の調査において旧石器が確認されており、この成果をもとに調査を開始した。その結果、桑鶴遺跡群調査区Ⅱ区に於いて下位黒褐色土よりナイフ型石器の出土を確認した。これを契機にⅧ区でも旧石器の出土があり、これらは熊本市西部方面にての初出土として考えた。また整理時にはAT（始良 Tn 火山灰）下位からの遺物確認もでき、今後この一帯の旧石器調査の参考になろう。

縄文期は鍵層である通称「アカホヤ」（鬼界カルデラ）下位からは早期土器・集石の遺物・遺構が認められたが生活の本拠地である住居の存在は確認出来なかった。上位からは中期の阿高式土器が出土したが単体に近く、この時期の様相は不明である。後晩期の土器などの遺物は出土するがこれに伴う遺構が存在しなかったし、その包含層の堆積も僅かであったことも遠因である。

本遺跡のもう一つの成果は古代の住居地群の検出である。これまでこの周辺の古代期は積極的な調査事例に乏しかったが今回の調査で、出土遺物から9世紀頃と推定され、またヘラ描き土器からの文字資料にも恵まれ、この遺跡の性格を思考する材料になったのである。中世期の掘立柱建物・時期不明であるが堀・古道など各遺構の特質が見られよう。

砂原四方寄線改良工事に伴う埋蔵文化財調査の報告や周辺は、今後、開発工事に伴いさらに調査が進む可能性も高い。開発事業とともに文化財不明瞭地域も多いことから、周辺の埋蔵文化財の分布を再考・検討し、今後活かせる遺跡ともいえる。

第3節 基本土層（第11～16図 参照）

桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡は前述したように同質の遺跡として考えており、その詳細は基本土層の中にも見受けられる。各調査区に示準層の黄褐色のアカホヤ火山層が存在している。これは鹿児島県鬼界を中央火口丘とする鬼界カルデラを形成した際の大爆発により運ばれてきたと考えられている。この層の前後に差異がある。

このアカホヤ層上位には黒褐色土を持ち、これは縄文後晩期の包含層に該当するが、弥生～古墳の包含層にも該当する（桑鶴遺跡群Ⅷ区）。また桑鶴遺跡群 06-Ⅰ・Ⅱ区のようにアカホヤ層上位が近現代の耕作層でありこのことは永年に亘る開墾が行われていたことになる。

アカホヤ層下位は縄文早期の黒褐色土に恵まれた桑鶴遺跡群Ⅷ区に存在した。しかし大半がアカホヤ層下位は苦土である通称ニガ土層が存在する。AT と呼称される始良 Tn 火山灰と呼ばれる鹿児島湾の始良カルデラを起

源とする火山灰であろう。これらのアカホヤ・ニガという呼称は地域土層名で農耕にて使用されてきた。アカホヤは赤味を帯びボコボコした軽い土という意。イモゴともいう。ニガとは苦土と表記され、耕作しても拳大の塊が細かく分離せず農家を困らせたという。

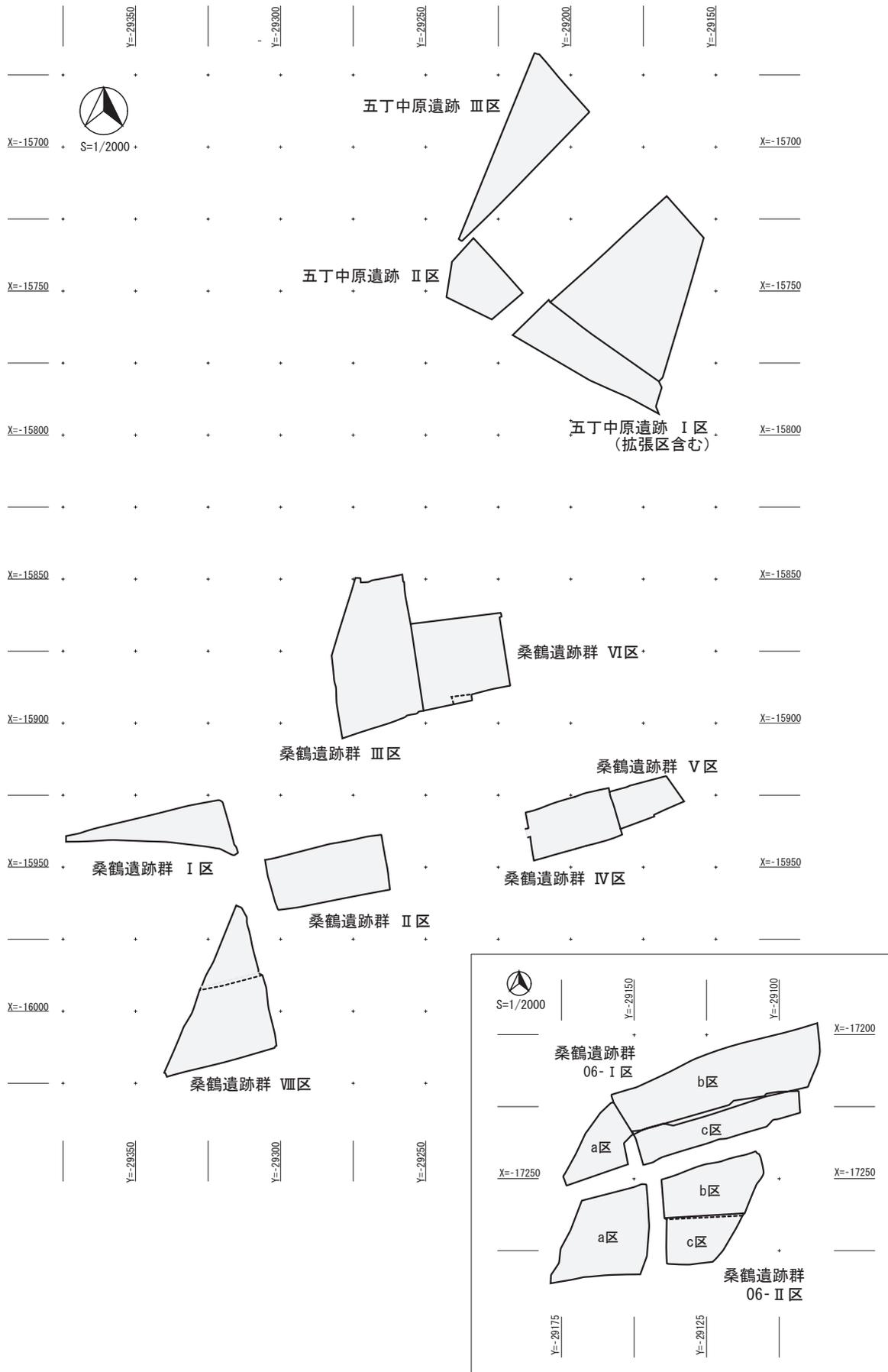
従って基本的には以下のようなになる。

- I層 耕作土
- II層 黒褐色土 (10YR2/2)
- III層 暗褐色土 (7.5YR3/3)
- IV層 暗褐色土 (10YR3/3) 縄文早期
- V層 黒褐色土 (10YR2/3) [ニガ] 旧石器

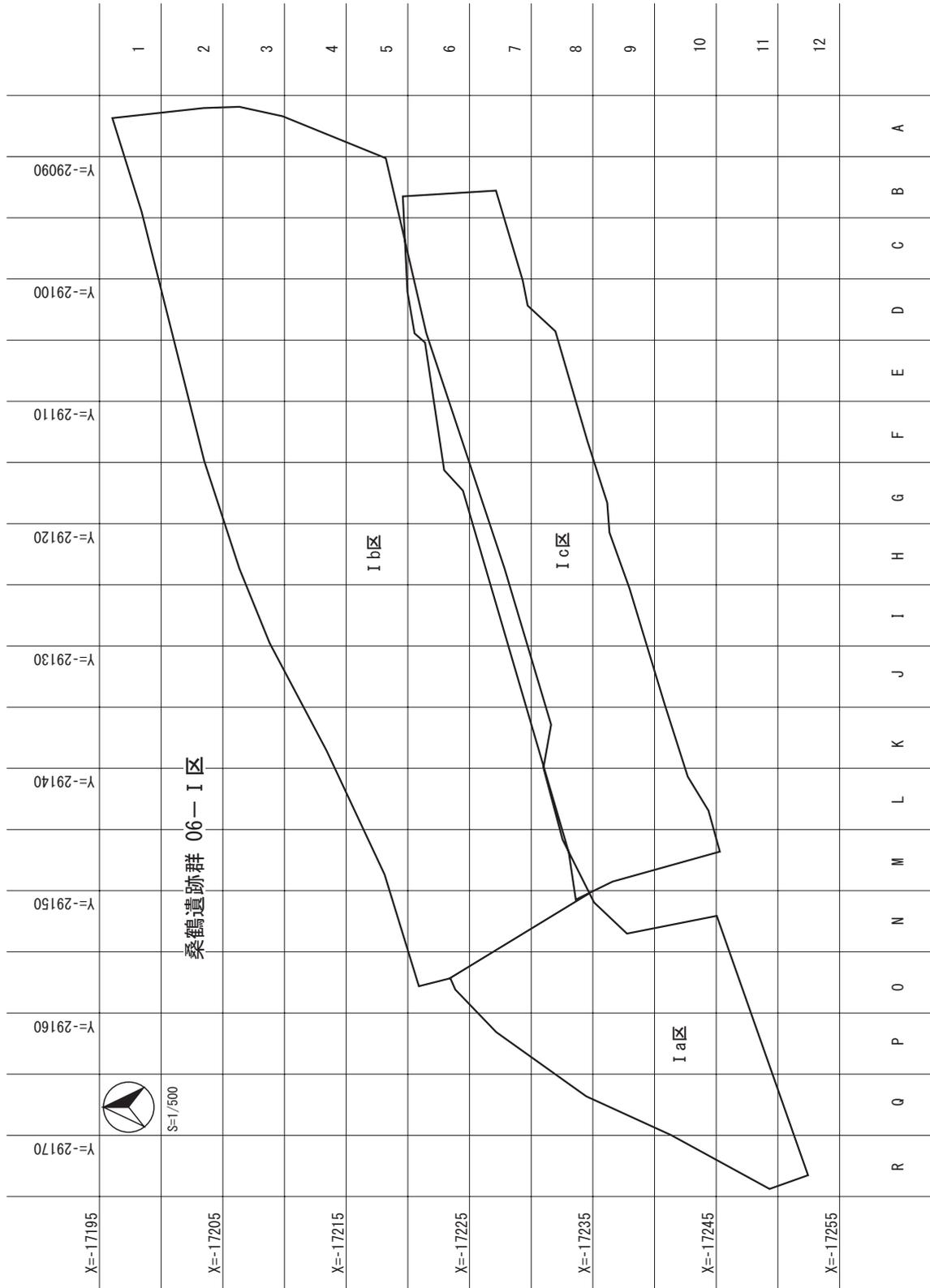
また第V章の自然科学分析での土壌分析箇所は第11図(土層柱状図)に提示した。

調査区		年度					
		平成 18 (2006)	平成 19 (2007)	平成 20 (2008)	平成 21 (2009)	平成 22 (2010)	平成 23 (2011)
1次	桑鶴遺跡群 06-I区	■					
	桑鶴遺跡群 06-II区	■					
2次	桑鶴遺跡群 I区				■	■	
	桑鶴遺跡群 II区				■	■	
	桑鶴遺跡群 III区				■	■	■
	桑鶴遺跡群 IV区				■	■	
	桑鶴遺跡群 V区					■	
	桑鶴遺跡群 VI区					■	■
	桑鶴遺跡群 VII区					■	■
	五丁中原遺跡 I区				■		
	五丁中原遺跡 II区					■	
	五丁中原遺跡 III区					■	

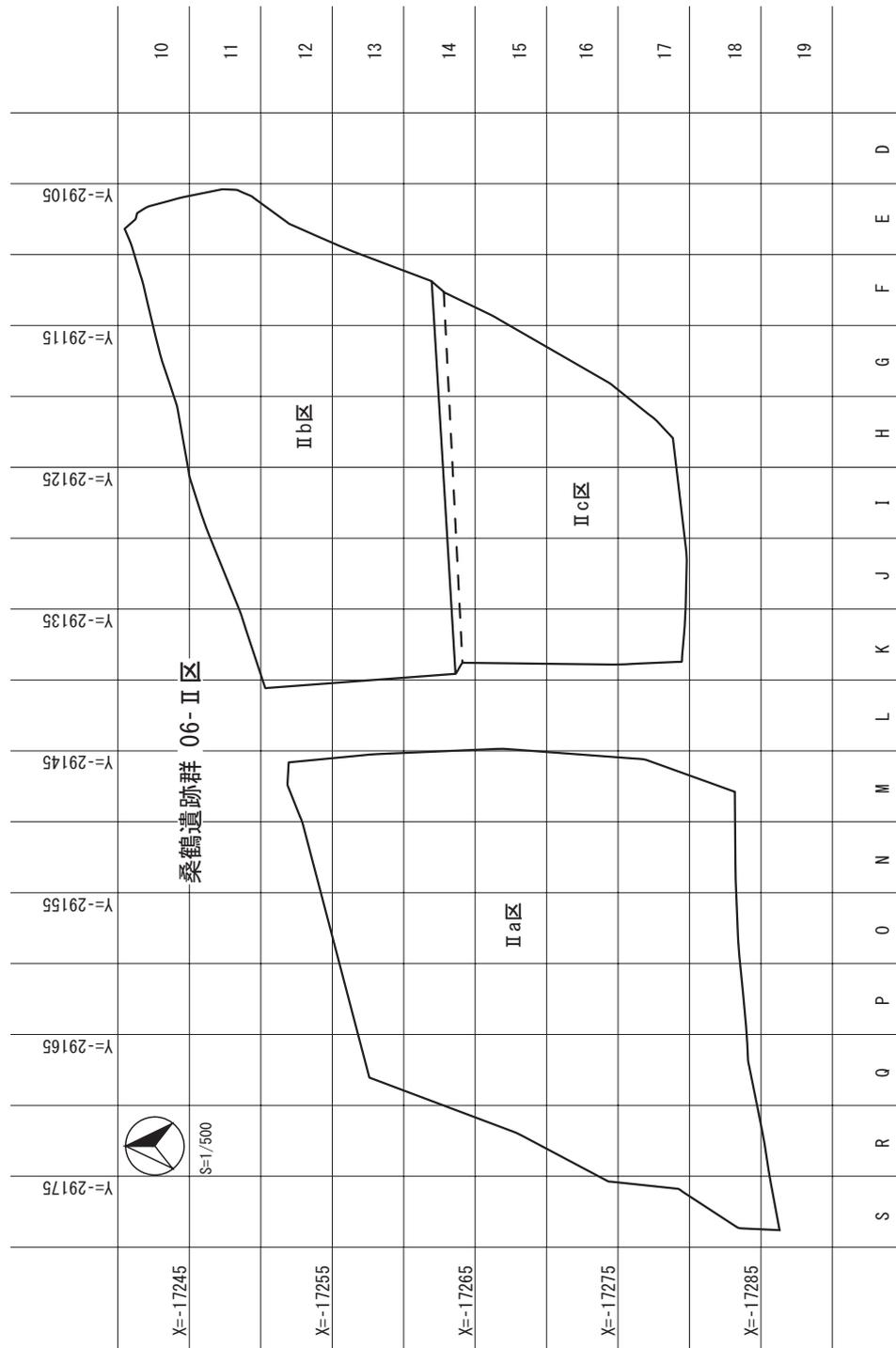
第2表 調査時期



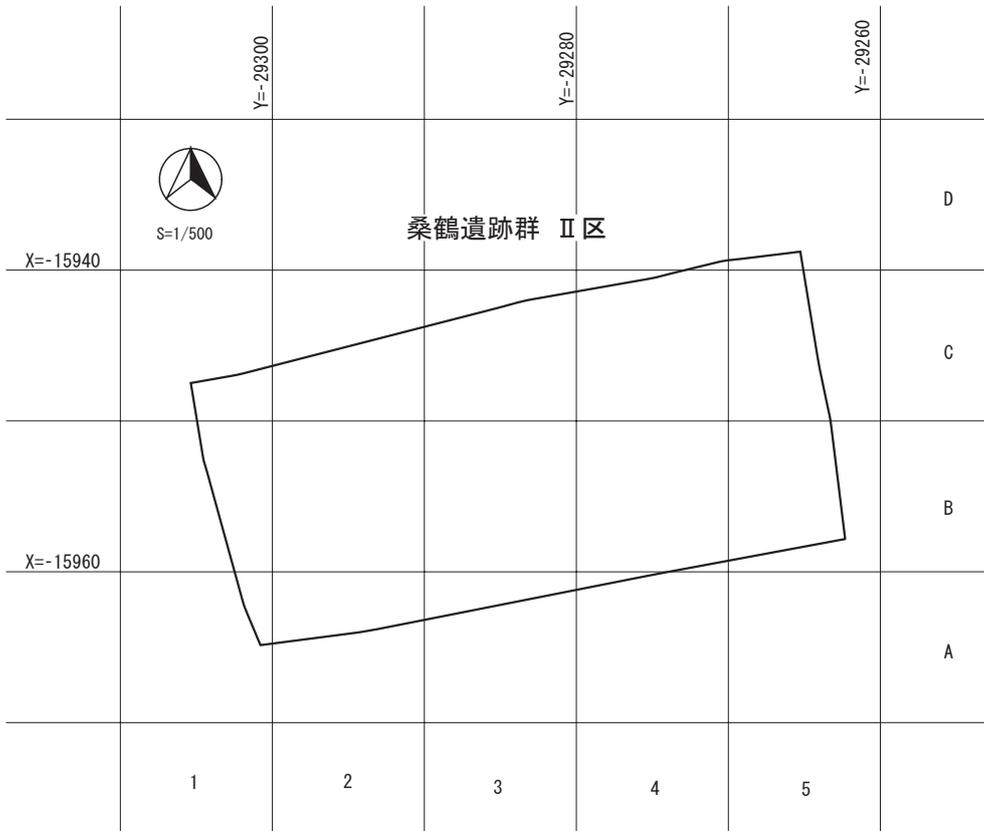
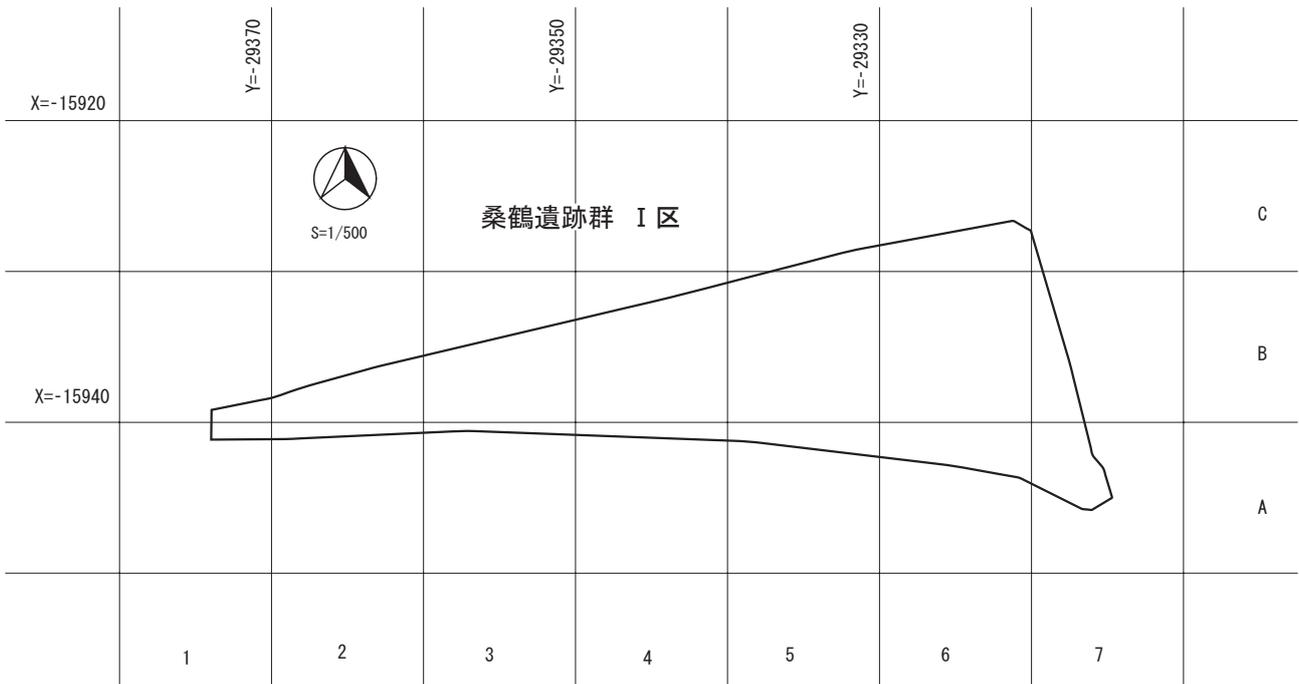
第 2 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 調査区位置図



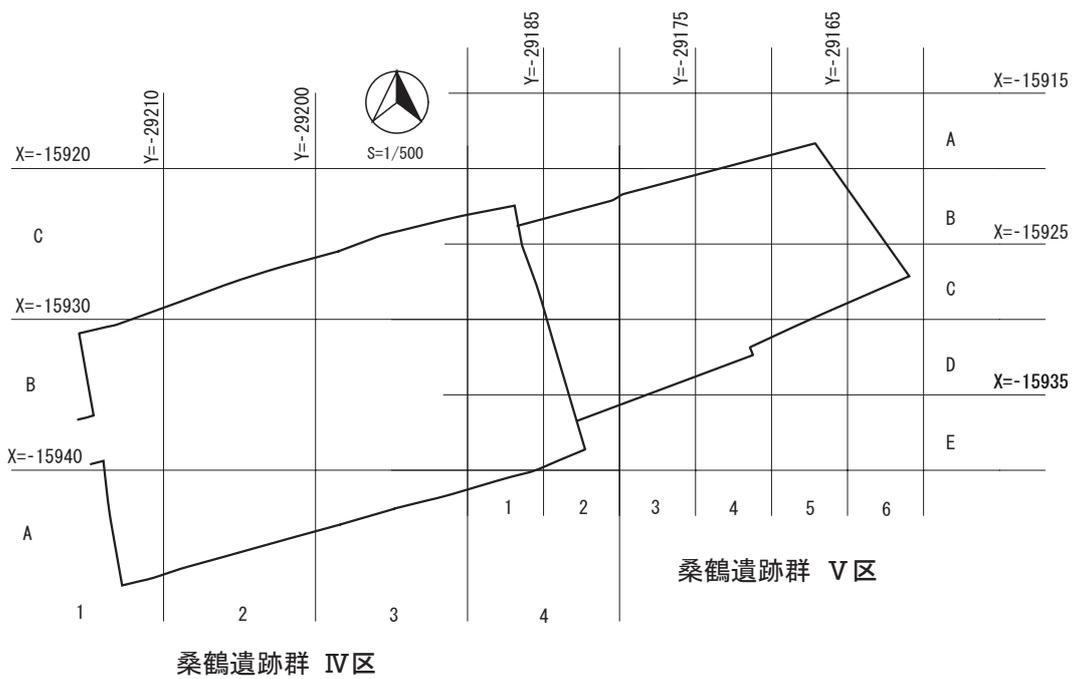
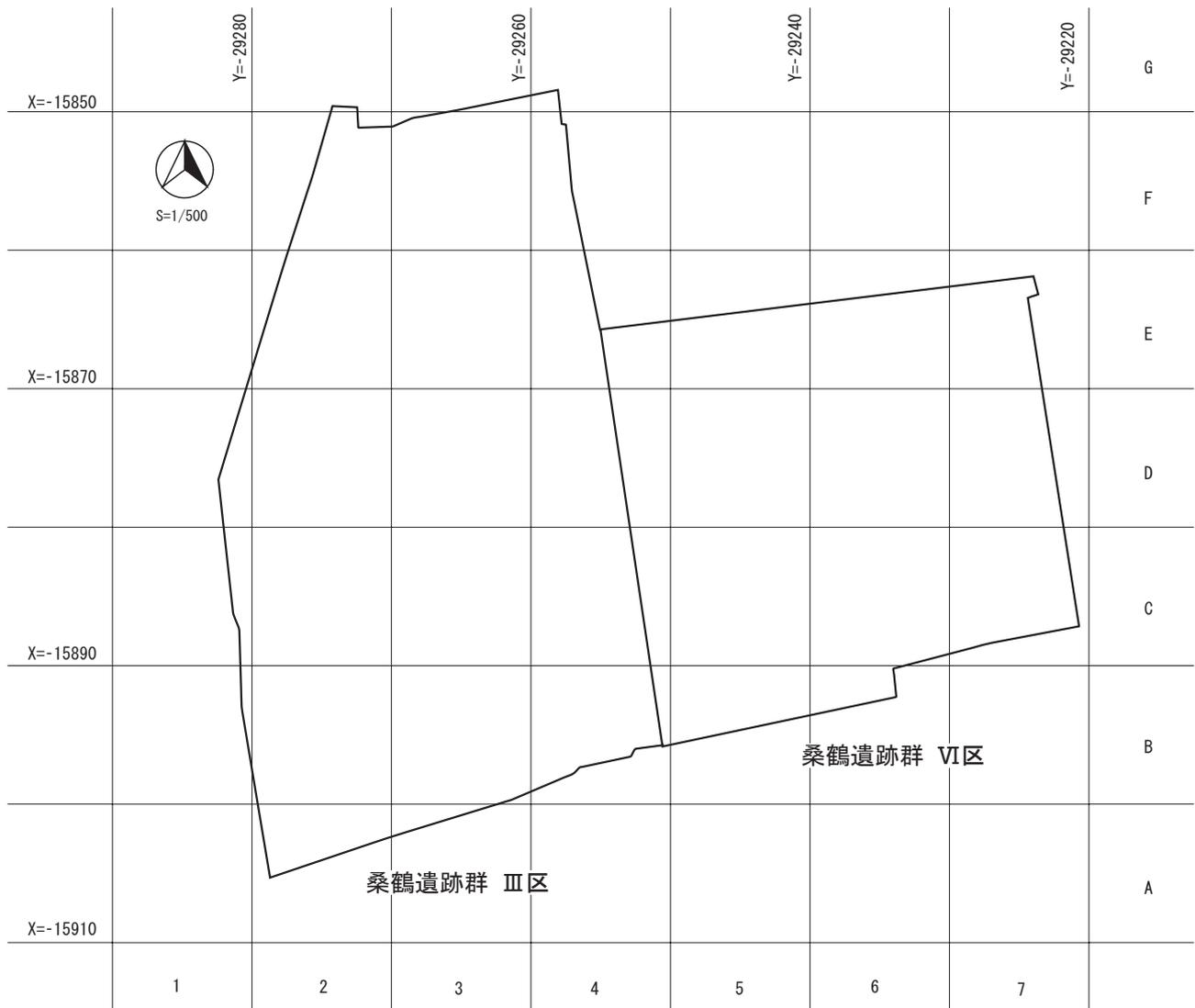
第3図 グリッド図1



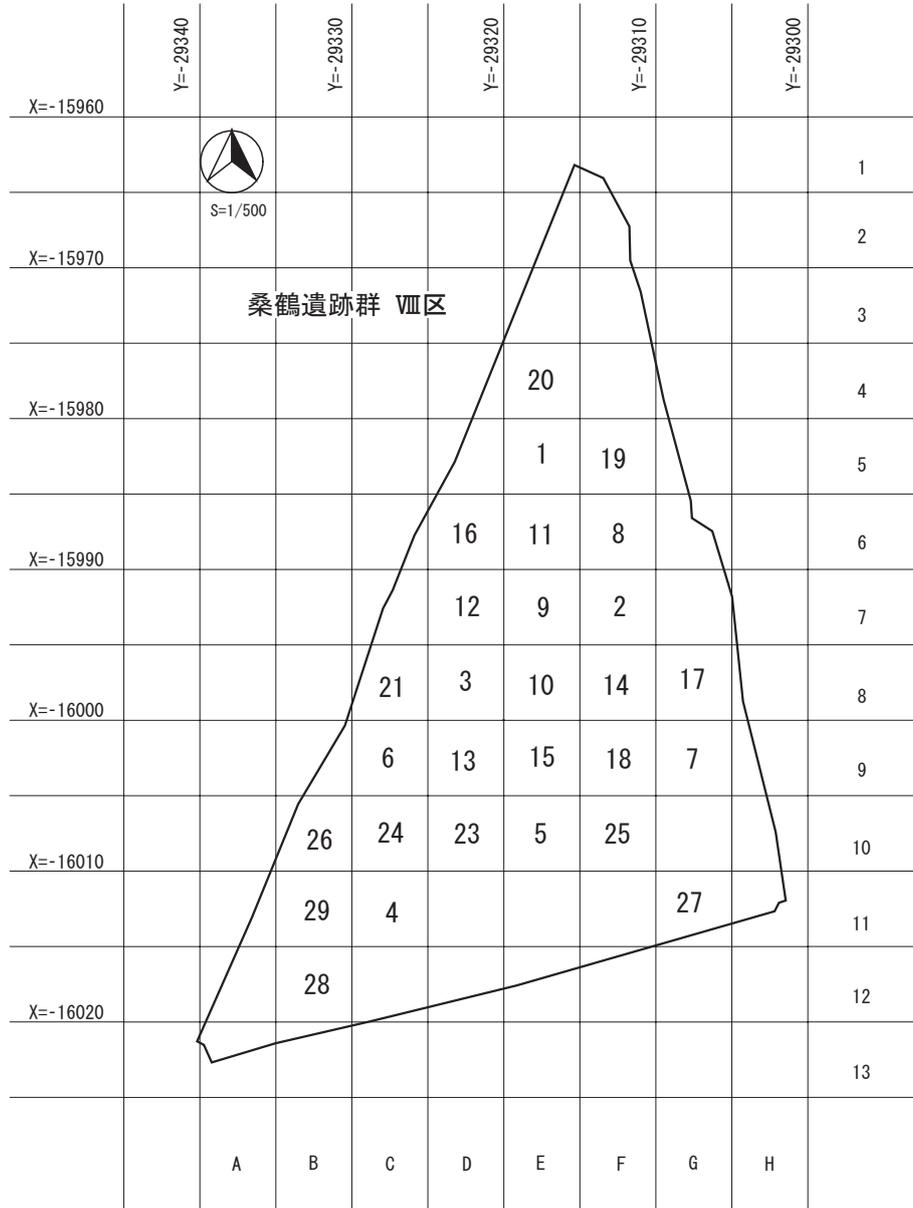
第4図 グリッド図2



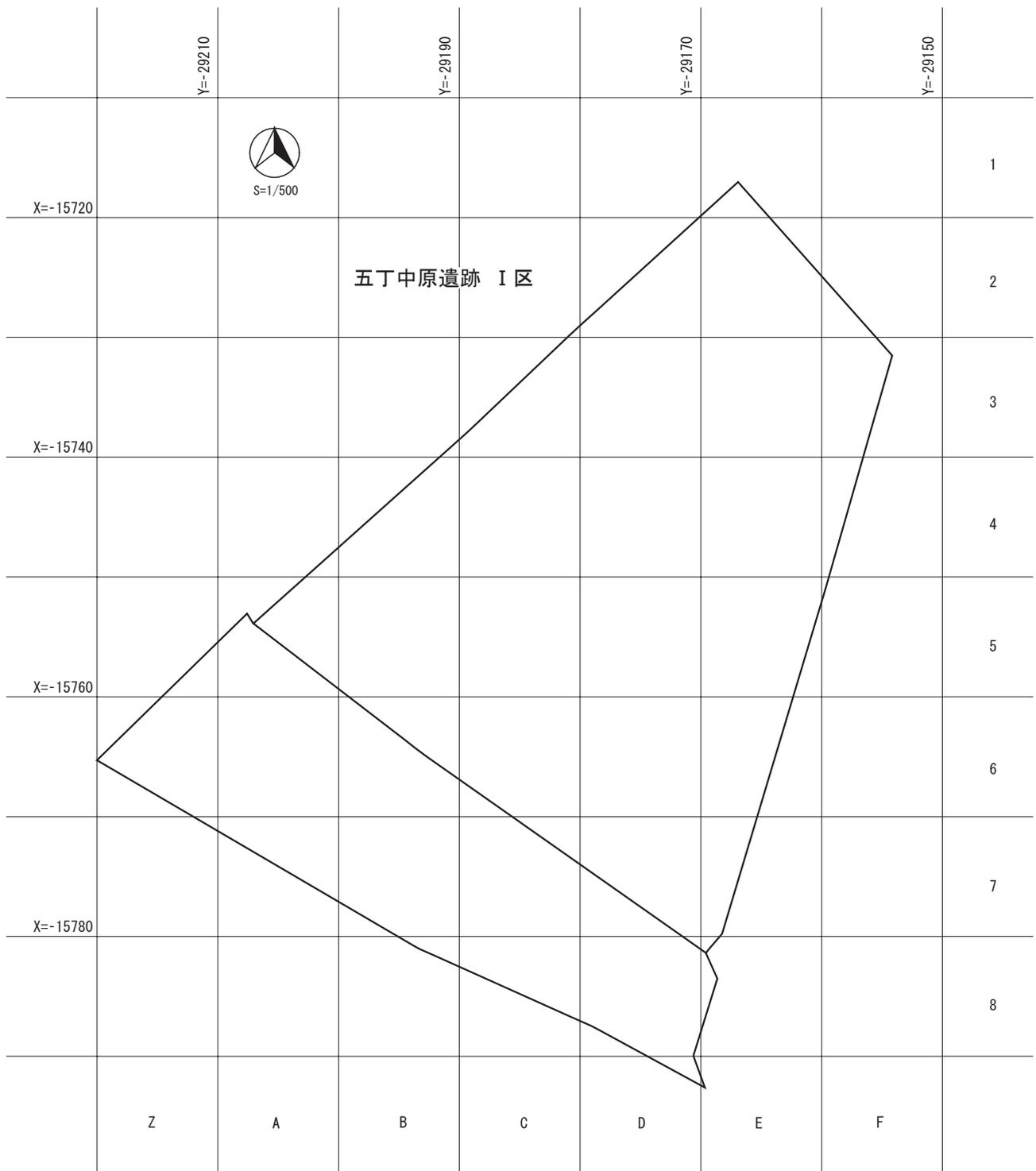
第 5 図 グリッド図 3



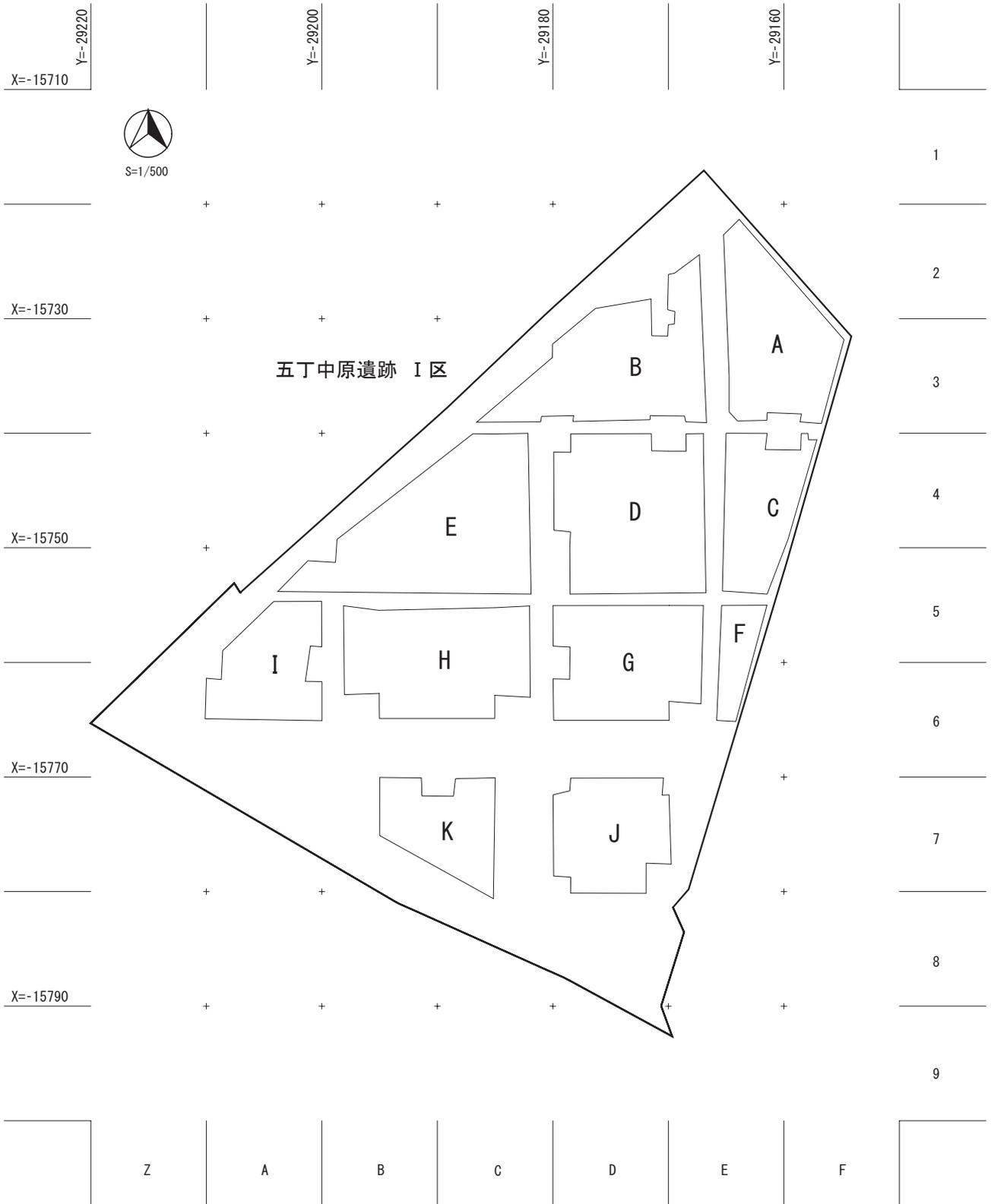
第 6 図 グリッド図 4



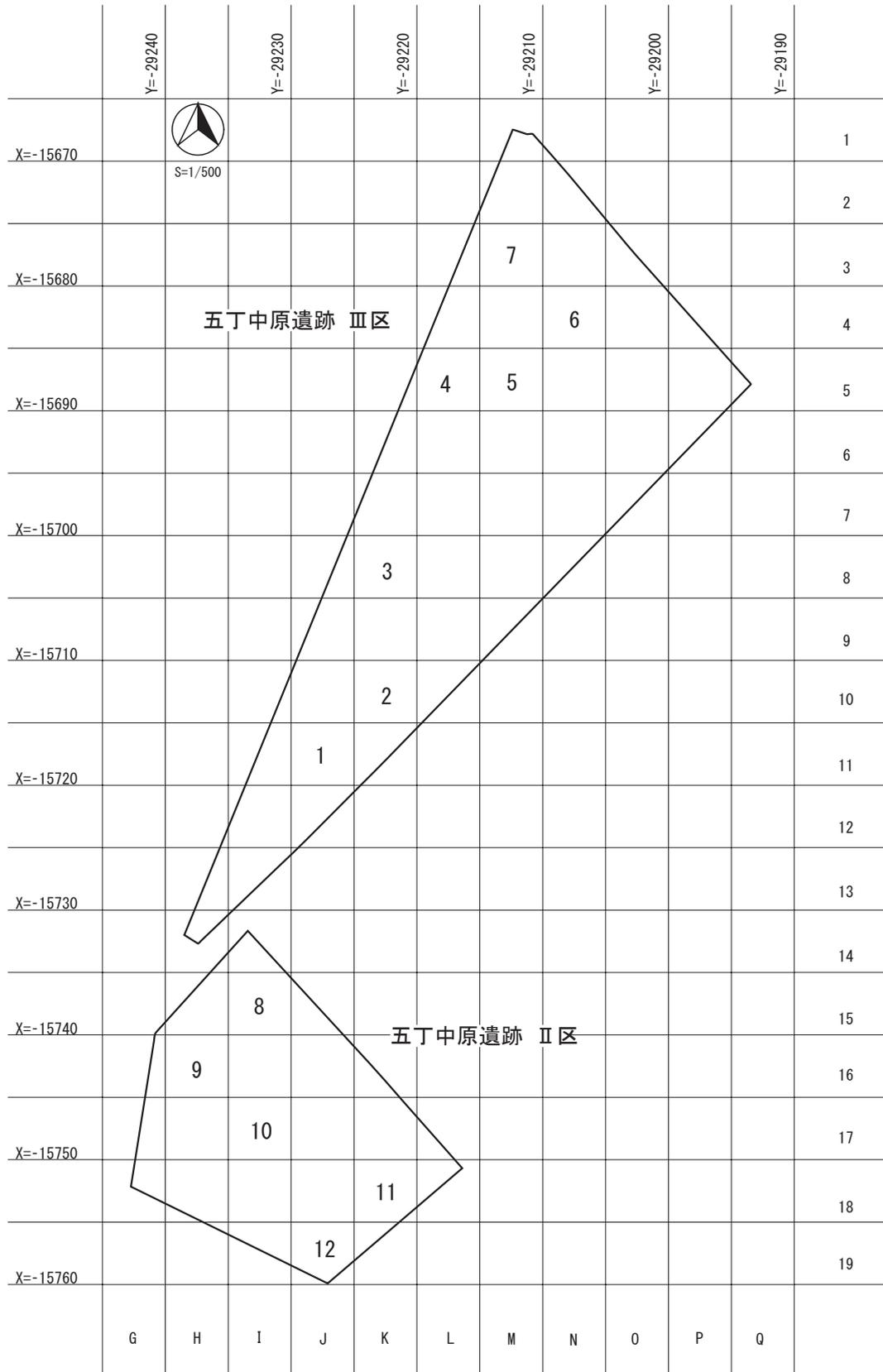
第 7 図 グリッド図 5



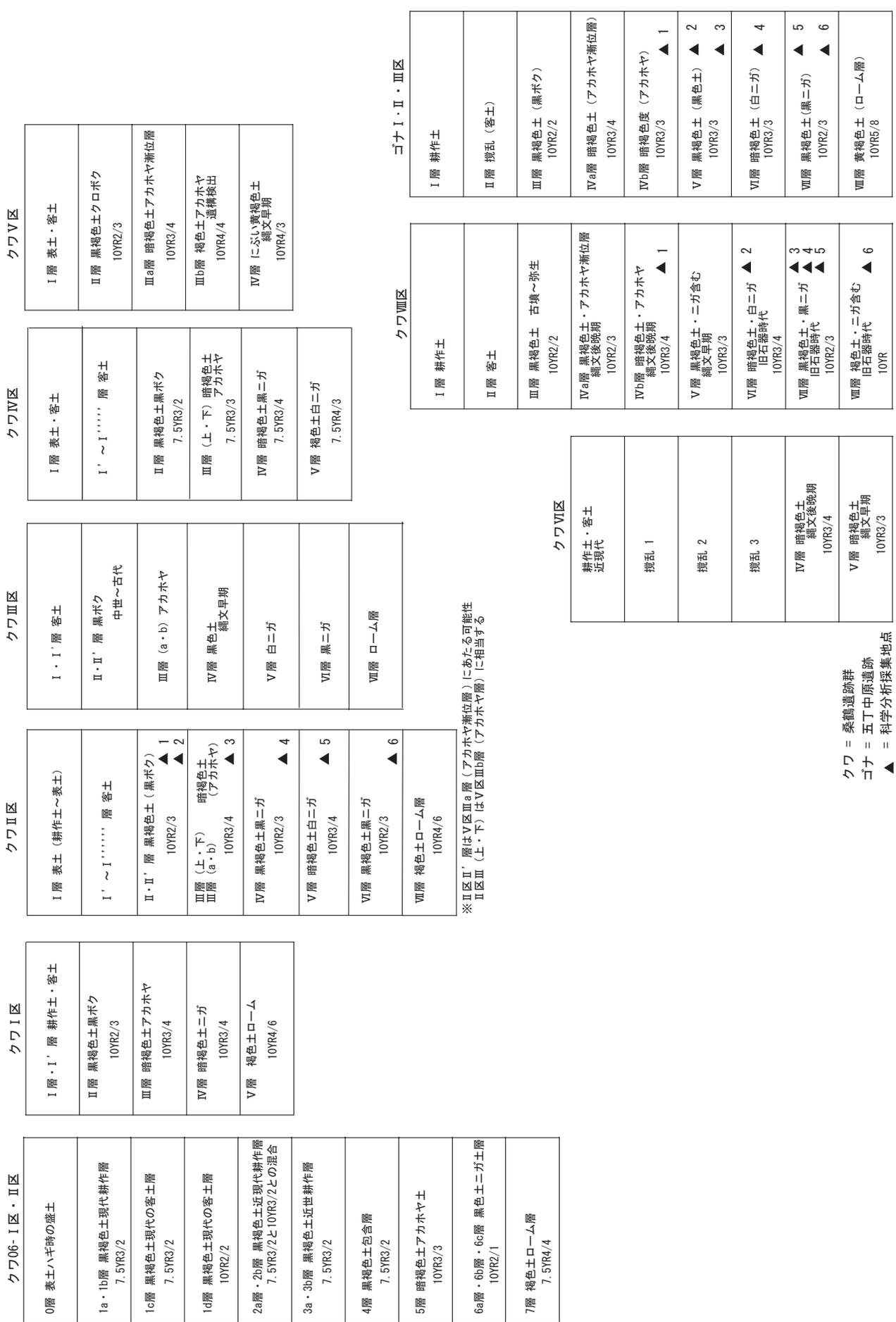
第 8 図 グリッド図 6



第 9 図 グリッド図 7

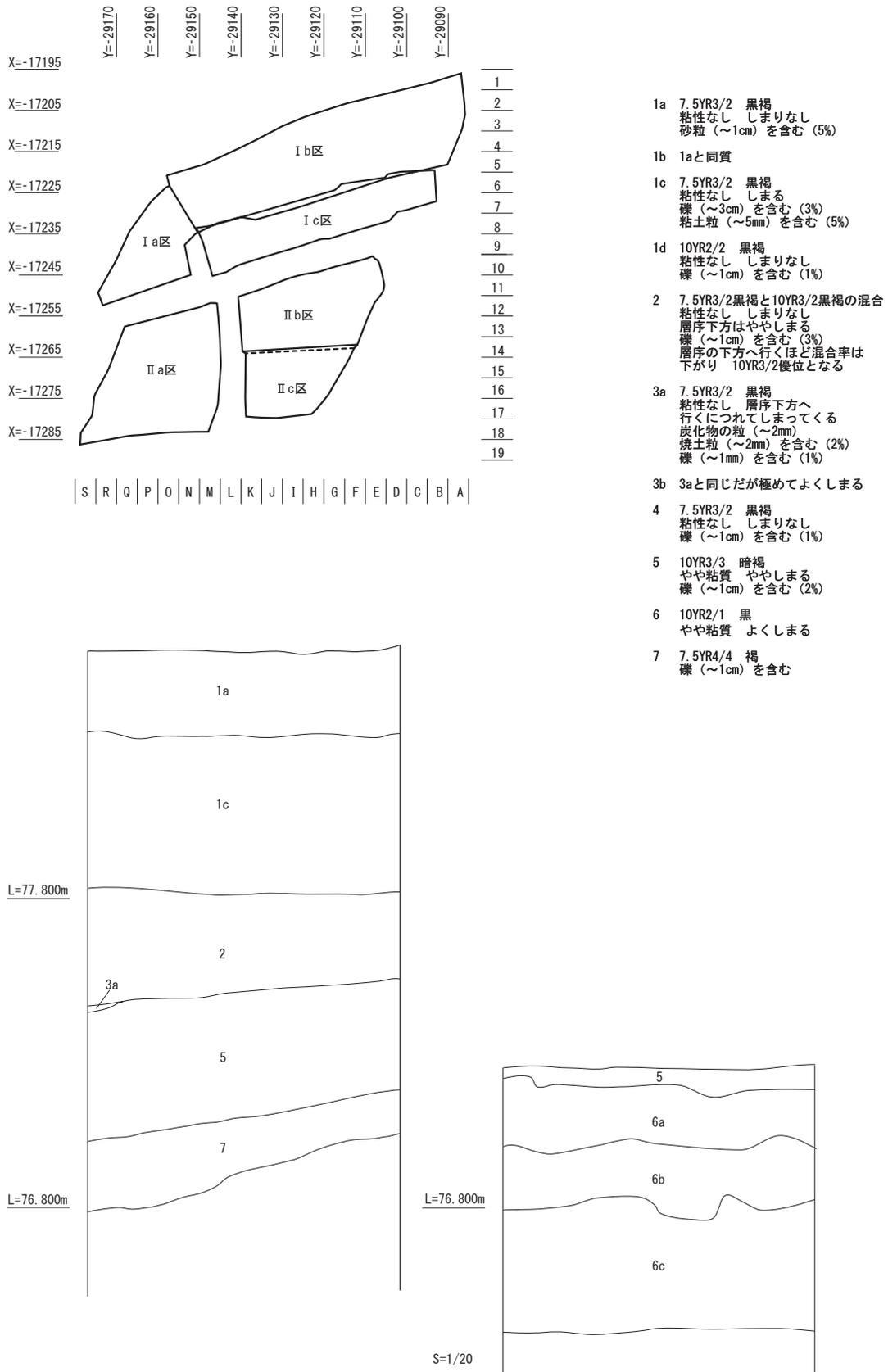


第 10 図 グリッド図 8



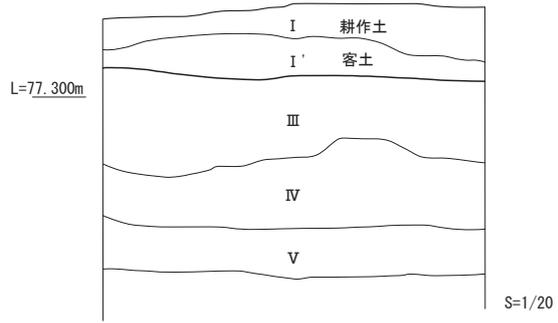
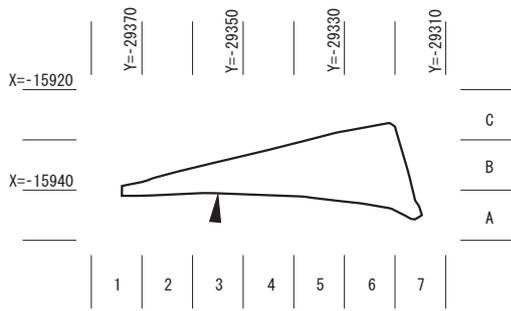
第11図 土層柱状図

桑鶴06-I区・II区



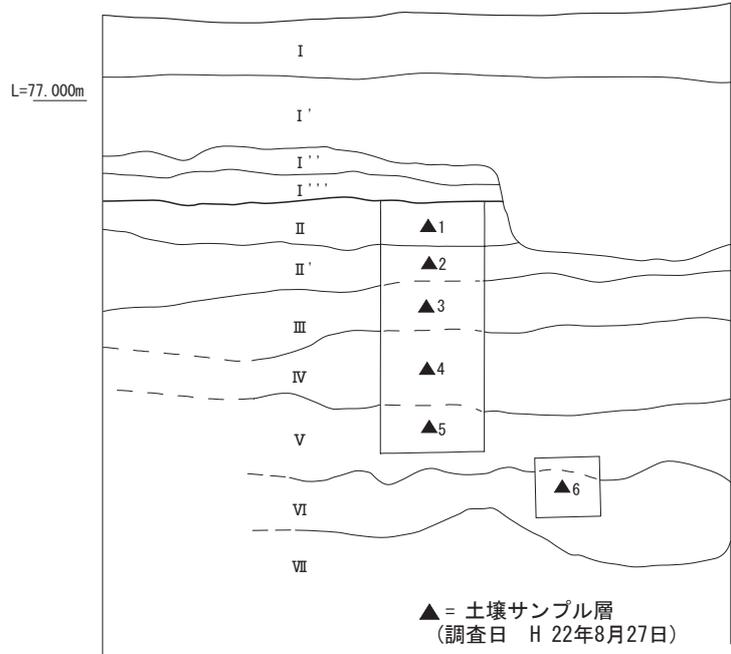
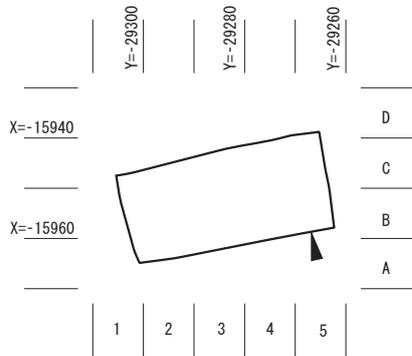
第 12 図 基本土層図 1

桑鶴遺跡群 I 区



I	耕作土		
I'	客土		
II	黒ボク	10YR2/3	黒褐
III	アカホヤ	10YR3/4	暗褐
IV	ニガ	10YR3/4	暗褐
V	ローム	10YR4/6	褐

桑鶴遺跡群 II 区

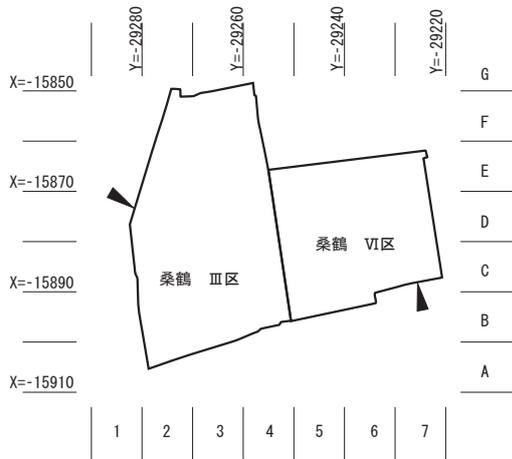


▲ = 土壌サンプル層
(調査日 H 22年8月27日)

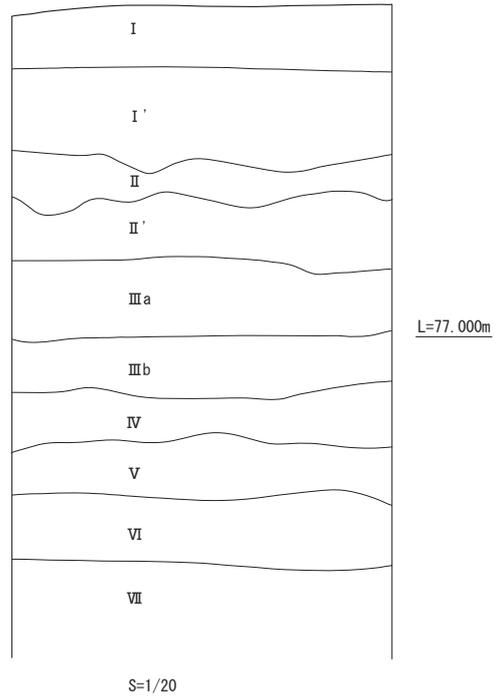
S=1/20

I	表土 (耕作土~床土)	III (上)	10YR3/4 暗褐 アカホヤ
I' ~ I''''	客土	III (下)	10YR3/4 暗褐 アカホヤ
II	10YR2/3 黒褐 黒ボク相当層	IV	10YR2/3 黒褐 黒ニガ相当層
II'	10YR2/3 黒褐	V	10YR3/4 暗褐 白ニガ相当層
		VI	10YR2/3 黒褐 黒ニガ相当層
		VII	10YR4/6 褐 ローム層

第 13 図 基本土層図 2



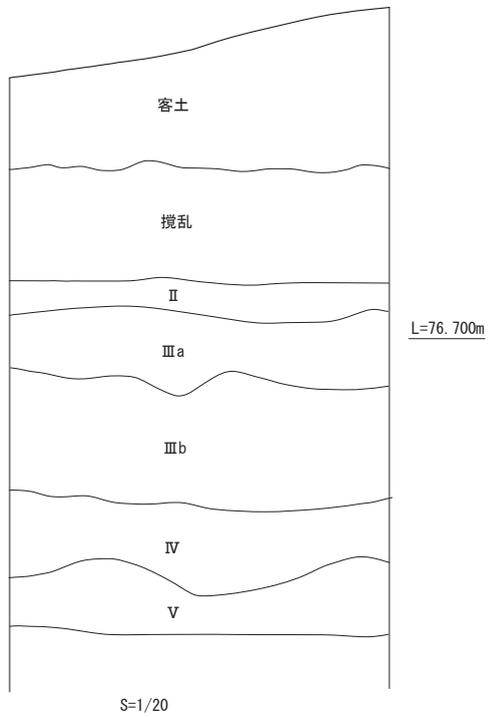
桑鶴遺跡群 III区



桑鶴III区

- | | | | |
|------|-------------|-----|-------|
| I | 客土 | IV | 黒縄文早期 |
| I' | 客土 | V | 白ニガ |
| II | 黒ボク (中世~古代) | VI | 黒ニガ |
| II' | 黒ボク (中世~古代) | VII | ローム |
| IIIa | アカホヤ | | |
| IIIb | アカホヤ | | |

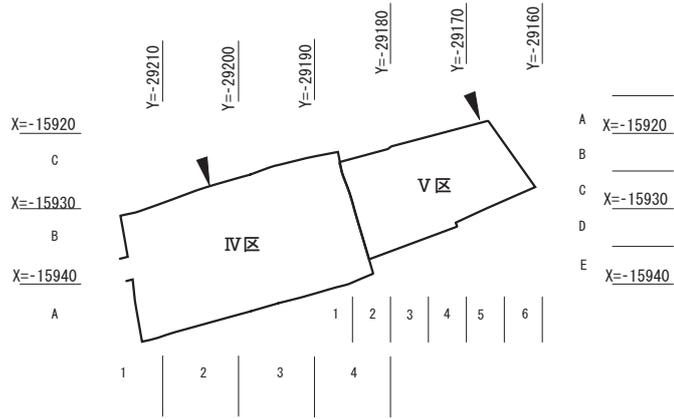
桑鶴遺跡群 VI区



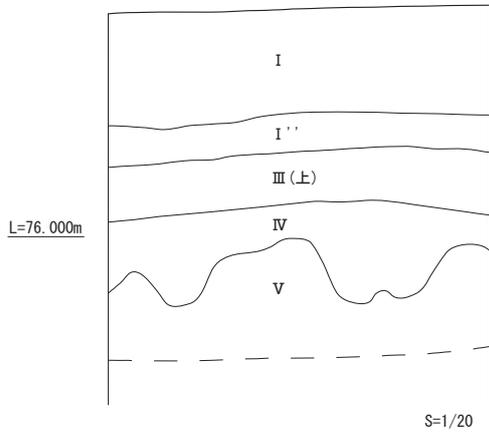
桑鶴VI区

- | | | |
|------|--|--|
| 客土 | 近現代 | |
| 攪乱 | 10YR3/3 暗褐
黒ボクに客土の石
褐色の粒が多くまざった土 | |
| II | 10YR2/2 黒褐
しまりあり 粘質なし
攪乱ほどではないが
褐色の粒 小石を含む
古墳~弥生時代 | |
| IIIa | 10YR3/3 暗褐
しまりあり 粘質なし アカホヤ軟位層
褐色の粒を少し含むやわらかい土
縄文時代~後晩期 | |
| IIIb | 10YR4/4 褐
しまりあり 粘質なし アカホヤ層
黄褐色 にぶい黄褐色の粒を少し含む
縄文時代~後晩期 | |
| IV | 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質あり
ニガを少し含むしまった土
他に黄褐色の粒も含む
縄文時代早期 | |
| V | 10YR にぶい黄褐
しまりあり 粘質あり 白ニガ層
ニガを含むしまった土
旧石器時代 | |

第 14 図 基本土層図 3

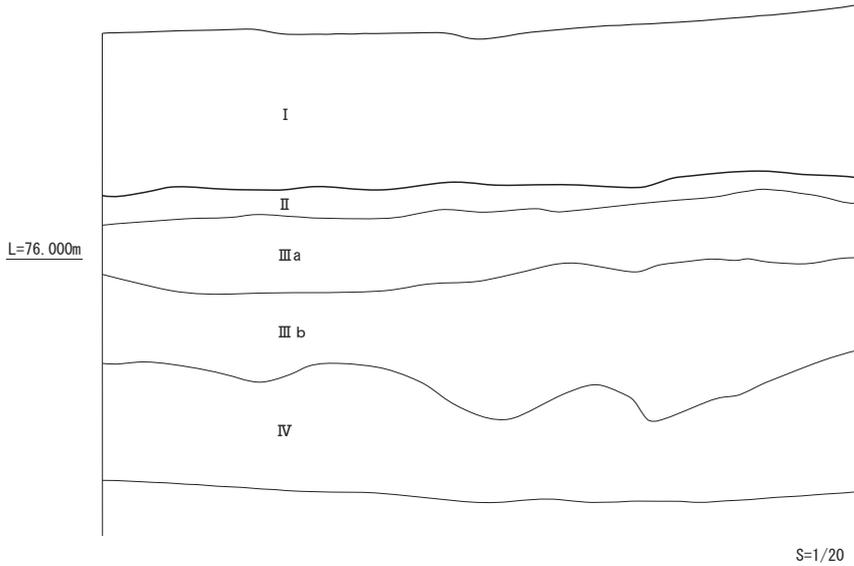


桑鶴遺跡群 IV区



- I 表土 (耕作土~床土)
- I' ~ 客土
- I'' ~ 客土
- II 7.5YR3/2 黒褐
黒ボク相当層
1mm以下の焼土粒 5mm前後の褐色土を若干含む
ややしまりがありきめが細かく粘性もある
- III (上) 7.5YR3/3 暗褐
アカホヤ相当層
1mm以下の焼土粒子 炭粒子を若干含み
硬くしまりきめ細かく粘性がある
Ah二次期積層が
土器片多数混じる
- III (下) 7.5YR3/3 暗褐
アカホヤ相当層
土色はIII (上) に似るがさらに固くしめる
遺物 (土器片) が混じるのでIII (上) 層とIV層との
漸移層かと思われる
- IV 7.5YR3/4 暗褐
黒ニガ相当層
混入物は少なく下へ行くほどニガ化が進む
縄文早期の土器片 (擦糸紋・壺/神) や
石器 (石鏃・スクレイパー) 等を含む
- V 7.5YR4/3 褐
ニガンロ相当層
暗褐色土ベースに褐色土ブロックが混在
硬くしまりバミス (軽石) の混ざる層も確認できる
AT相当層を含むと思われる

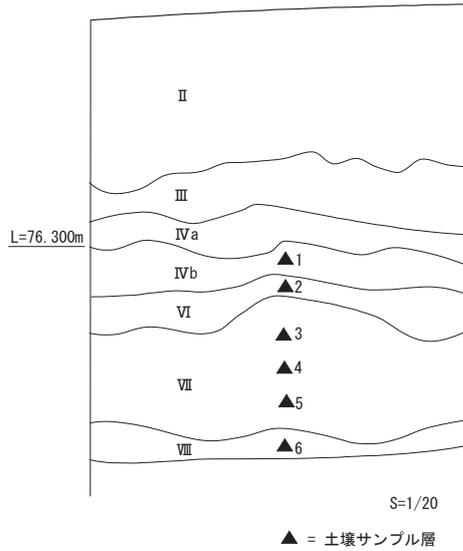
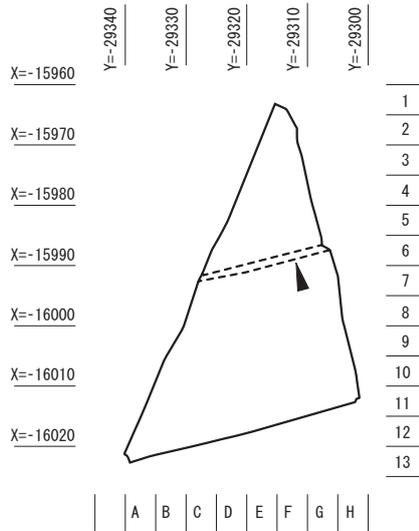
桑鶴遺跡群 V区



- I 表土・客土
 - II 10YR2/3 黒褐
黒ボク
 - III a 10YR3/4 暗褐
アカホヤ漸位
 - III b 10YR4/4 褐
アカホヤ
堀立 その他遺構検出
 - IV 10YR4/3 にぶい黄褐
白色ニガブロックを含む
縄文早期
- 縄文早期層 (IV層) は
下位がニガ土が多く入る

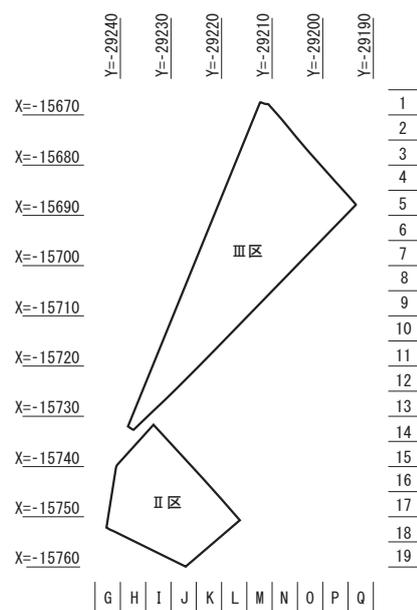
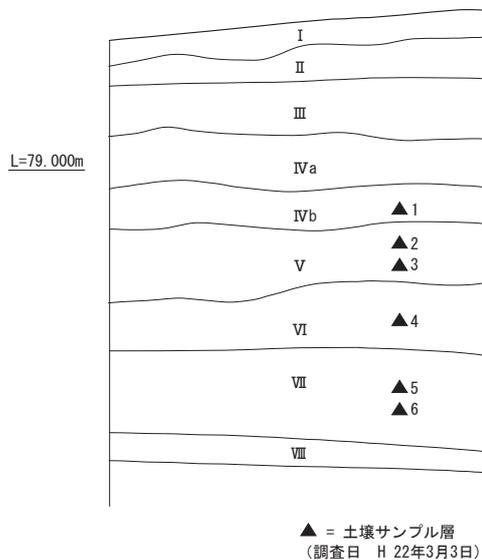
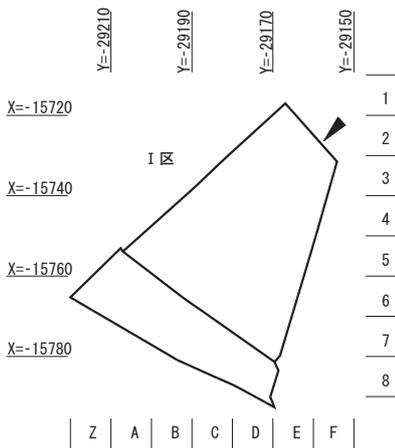
第 15 図 基本土層図 4

桑鶴遺跡群 Ⅷ区



- 土層は五丁中原遺跡の基本層で分層
- I 耕作土なし 現代
 - II 客土 現代
カクランで固くしまった土
 - III 10YR2/2 黒褐
しまりあり 粘質なし
さらさらした土で褐色土と
II層の土が少し混ざる
西側は削平されている
 - IVa 10YR2/3 黒褐
しまりあり 粘質なし
アカホヤ漸位層
西側は削平されている
縄文時代後晩期
 - IVb 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質なし
アカホヤ層
しまった土だが西側はII層の影響で
より固くしまる
褐色の明るい土が混ざる
縄文時代後晩期
 - V 10YR3/3 黒褐
しまりあり 粘質あり
II層カクランの影響が固くしまった土
ニガ土を少し含む
縄文時代早期
 - VI 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質あり
白ニガ層 ニガを含むしまった土
埋土全体の色が薄くぼんやりと見える
旧石器時代
 - VII 10YR2/3 黒褐
旧石器時代
しまりあり 粘質あり
黒ニガ層 ニガを含むしまった土
褐色の粒も混ざる
 - VIII 10YR 褐
旧石器時代
しまりあり 粘質あり
粘りが強いしまった土
ニガも含む
ブロック状の粘土カも含む

五丁中原遺跡Ⅰ～Ⅲ区



- I 耕作土
- II 客土
- III 10YR2/2 黒褐 (黒ボク)
粒子は細かくさらさらした土 粘質は低い
本来なら中世から弥生にかけての包含層
削平され遺物等は少なくない
II層の影響で固くしまっている
- IVa 10YR3/4 暗褐 (アカホヤ漸位)
粒子は細かくさらさらした土 粘質は低い
縄文後晩期の層
- IVb 10YR3/3 暗褐 (アカホヤ)
粒子は細かく粘質は強い
縄文前期と見られる
- V 10YR2/3 黒褐
粒子は細かく粘質は低い
縄文早期の層
- VI 10YR3/3 暗褐 (ニガシロ)
粒子は細かく粘質は強い
ブロック状の固い土があり白っぽく見える
これ以降の層は旧石器
- VII 10YR2/3 黒褐 (黒ニガ)
粒子は細かく粘質は強い
ブロック状の固い土がある
樹痕によるカクランと焼土炭が多くある
- VIII 10YR5/8 黄褐 (ローム)
粘質がとて強い粘土層

第 16 図 基本土層図 5

第IV章 調査の成果

第1節 旧石器

(1) 旧石器時代の遺物

①はじめに

桑鶴遺跡群と五丁中原遺跡から出土した旧石器について、各遺跡の調査区ごとに報告していきたい。報告者が旧石器と判断した石器は以下の条件を満たすものとした。

- ・調査者が、旧石器出土該当層（地層形成の年代が旧石器時代に当たる層）から出土した遺物（一括及び点あげ）として取り上げた遺物。但し、明らかに旧石器ではないと判断した石器や剥離面が新しいと判断した石器等については除外した。
- ・旧石器出土該当層より以降の新しい時代の層（出土層不明、表土、攪乱層、縄文時代・古代・中世の遺構や遺物包含層など）から出土した石器の中に含まれている明らかな旧石器や旧石器と考えられる石器（例えばナイフ形石器などの定形石器、剥離面の風化が激しい石器、縦長剥片剥離の傾向がある石器など）。

②出土層位（第4表参照）

旧石器出土該当層は、調査区により若干異なるが、旧石器が多く出土した桑鶴Ⅷ区や五丁中原Ⅰ区ではⅥ層、Ⅶ層、Ⅷ層上層が該当する。各層は場所により層の厚さが異なり、インボリューションも見られる。噴出年代がBP28,000～27,000年とされる始良Tn火山灰は、テフラ分析は未実施であるが周辺地域の調査事例からⅥ層と考えられる。Ⅵ層、Ⅶ層には通称ニガと呼ばれる始良Tn火山灰を含む硬化層が存在する。

しかし、本遺跡で実施した放射性炭素年代（C14年代）測定結果では、層の年代を裏付ける良好な結果は得られていない。各層から採取したカーボンが自然現象や動植物等の影響で上下層に混入した可能性が高い。よって旧石器出土該当層から出土した石器であっても本来の原位置を保っているとは断定できない。

なお、桑鶴Ⅱ区（第19図）、Ⅷ区（第23、24図）、五丁中原Ⅰ区（第28、29図）の土層断面図には周辺から出土した遺物の投影したレベル位置を表示している。

③各遺跡、各調査区の出土遺物

調査区により、遺物点上げ、あるいは出土層一括で取り上げを実施している。特に桑鶴Ⅱ区、Ⅷ区、五丁中原Ⅰ区では遺物点上げによる遺物が多い。点上げ遺物を中心に接合を試みたが接合遺物はなかった。ここでは調査区ごとに図化した石器を中心に報告したい。

なお、石材は報告者の肉眼観察によるものであることを断っておきたい。

◆桑鶴Ⅰ区（第20図、第7表参照）

4点の石器が出土している。ナイフ形石器2点、細石刃1点、角錐状石器1点であるが、旧石器出土該当層から出土している石器は1の二側辺加工ナイフのみである。

◆桑鶴Ⅱ区（第21図、第7表参照）

確実な旧石器2点と旧石器該当層から出土した石器4点の6点を図化した。9は二側辺加工ナイフ、10は縦長剥片でいずれも出土層位不明である。10の石材は、緑川周辺で産出される輝緑凝灰岩で旧石器の石材に良く利用される。11、13、14は阿蘇4系黒曜石（Aso-4 ob）の石核で、12は剥片である。Ⅴ～Ⅶ層（白ニガ～ローム層）の点上げ遺物ということで図化した。この他にも当該層から12点の点上げ石器がある。

◆桑鶴Ⅲ区、Ⅳ区、Ⅵ区（第20図、第7表参照）

Ⅲ区では廃土中から細石刃（6）が1点、Ⅳ区ではⅣ層の黒ニガ（縄文早期相当層）から細石刃（7）が1点、Ⅵ区では同じⅣ層から台形様石器（4）が1点出土している。

◆桑鶴Ⅷ区（第25、26図、第7表参照）

13点の石器を図化した。15は二側辺加工ナイフ形石器、16は切出形ナイフ形石器、17は角錐状石器、21、22は台形様石器、20、25は二次加工剥片、27はサイドスクレイパー、18は細石刃、その他は剥片と碎片である。15～18、21以外は旧石器出土該当層（Ⅵ～Ⅷ層）から出土しており、A T下層のⅦ～Ⅷ層から出土している石器が多い。

◆五丁中原Ⅰ区（第30、31図、第7表参照）

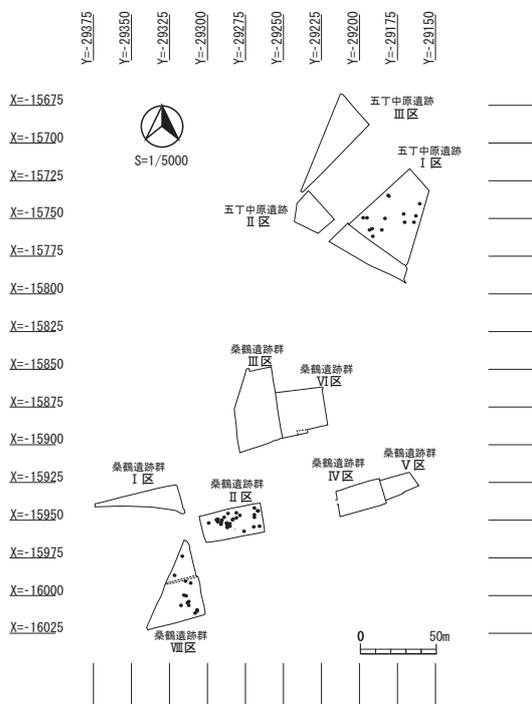
15点の石器を図化した。29、34は二側辺加工ナイフ形石器、33は国府系の横剥ぎ素材のナイフ形石器、32は角錐状石器、36、37、39、40は細石刃、その他は剥片である。31～33、36、37、40以外は旧石器出土該当層（Ⅵ～Ⅷ層）から出土しており、Ⅵ、Ⅶ層から出土している石器が多い。Ⅴ層（縄文早期相当層）出土の細石刃（36、37、40）が3点、Ⅵ層出土の細石刃（39）が1点あった。

◆五丁中原Ⅱ区、Ⅲ区（第31図、第7表参照）

Ⅱ区ではⅥ～Ⅶ層一括取り上げ遺物の中から剥片（43）が1点、Ⅲ区ではⅥ層取り上げ遺物の中から二次加工剥片（42）が1点出土している。

【註】

1) 石の本遺跡群Ⅱの発掘調査報告書（池田朋生1999）で実施されたテフラ分析によると黒色帯上層で縄文時代早期の通称クロニガの下層にある含白斑ローム黒褐色粘質土層中に「始良 Tn 火山灰」が含まれると報告されている。



第17図 調査区位置図

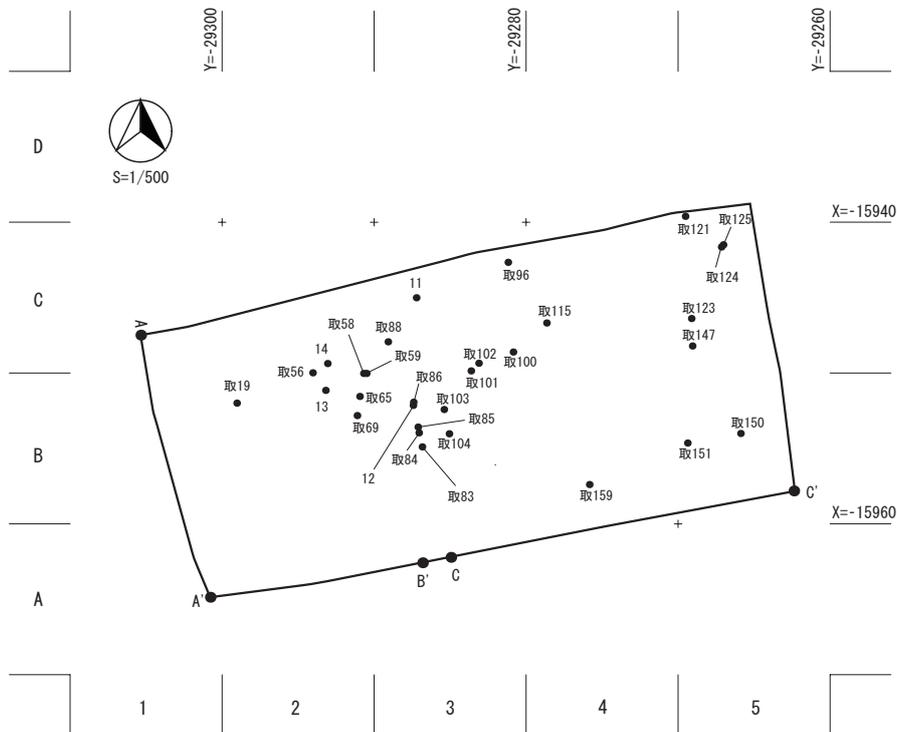
旧石器相当層からの出土点数

- 桑鶴遺跡群Ⅰ区：1点
- 桑鶴遺跡群Ⅱ区：28点
- 桑鶴遺跡群Ⅲ区：0点
- 桑鶴遺跡群Ⅳ区：0点
- 桑鶴遺跡群Ⅴ区：0点
- 桑鶴遺跡群Ⅵ区：0点
- 桑鶴遺跡群Ⅷ区：12点
- 五丁中原遺跡Ⅰ区：15点
- 五丁中原遺跡Ⅱ区：1点
- 五丁中原遺跡Ⅲ区：1点

器種 出土層位	台形様 石器	切り出し 形ナイフ	二側辺 ナイフ	横剥ぎ ナイフ	ナイフ 形石器	角錐状 石器	スクレ イパー	細石刃	石核	二次加 工剥片	剥片	碎片	合計
○ IV層～Ⅷ層 【旧石器出土 相当層】	1	0	3	0	0	0	1	2	9	4	24	14	58
× 攪乱層 I層～V層 層位不明など	2	1	1	1	2	3	0	9	0	0	3	0	22
合計	3	1	4	1	2	3	1	11	9	4	27	14	80

器種 石材	台形様 石器	切り出し 形ナイフ	二側辺 ナイフ	横剥ぎ ナイフ	ナイフ 形石器	角錐状 石器	スクレ イパー	細石刃	石核	二次加 工剥片	剥片	碎片	合計
腰岳産 黒曜石	1		1			1		6	1	2	3	3	18
阿蘇4系 黒曜石								3	8		9	4	24
在地産 安山岩					1					1	7	3	12
良質安山 岩（西北九 州産カ）	1		1	1	1	1				1	3	1	10
象ヶ鼻産 ガラス質 溶結凝灰岩											1		1
チャート	1	1										1	3
流紋岩			1										1
輝緑凝灰岩			1			1	1	1			2		6
不明								1			2	2	5
合計	3	1	4	1	2	3	1	11	9	4	27	14	80

第3表 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡出土 旧石器器種・出土層位点数（写真のみ遺物とドットのみ遺物も含む）



第18図 桑鶴遺跡群 II区 旧石器(出土相当層)出土平面図

第2節 縄文

早期の遺構と遺物

縄文時代早期は集石が10基検出された。小規模でありまた密集ではなく散乱という感じを受ける。これは集石が蒸焼き調理法ならば上位である石を除いた状態であろうか。押型文を伴う遺構であるため早期遺構とした。押型文は条痕文 (No. 192 ~ 194)・山形文 (No. 196)・楕円文 (No. 198) が認められ、この包含層より塞ノ神式土器 (No. 199) の出土も見られる。

しかし、本来の生活居住地である住居は確認できなかった。またこの包含層の堆積は浅く良好な調査区は桑鶴遺跡群 (2次) III・V・VI区 五丁中原遺跡調査区であった。

中期の遺構と遺物

中期は阿高式土器 (No. 54・55・201) が桑鶴遺跡群 (2次) II区調査区壁際にて出土した。断面に僅かだが掘り込みが観察され本来は土坑に廃棄された遺物になろうか。本遺跡での縄文中期遺物はこれのみである。

後晩期の遺物

後晩期はアカホヤ上位層またはアカホヤ漸移層内にて出土したが良好な出土ではない。近郊にこの時期の大規模遺跡である「太郎迫遺跡」・「妙見遺跡」などが存在するため関連した当時の一集落地であろうが住居等の遺構の検出がなかったためその詳細は不明である。装飾品であろうと推測される (No. 256) はこの時期に想定したが第175図の時期不明の図版に掲載した。

第3節 弥生

この時期は明確な遺構の検出ができず、遺物としても数点であるが、No. 257は免田式土器の破片である。重弧文が確認され彩色が施されているため祭祀に用いられていたと思われるが、破片でありまたローリングも激しく出土地点は使用地点とは異なるのであろう。祭祀の性格を持つため、本遺跡では近在に集落の存在を示唆する遺物である。他には同じく彩色の袋状口縁破片 (No. 258) がある。他に黒髪式 (No. 259・260・261)・城ノ越式 (No. 263) など数点出土したことにより中期後半から後期にかけて密度は高くないが弥生期が存在し、1点だけであるが石包丁 (No. 485) により稲作を生業としたことが窺え、その生産地は台地下位の井芹川周囲であろう。現在も田園地帯として稲穂を実らせている。

第4節 古代

本遺跡のもう一つの成果はこの時期の良好な住居地の検出である。桑鶴遺跡群 (2次) III・VI区にて切り合いも多く存在したが、竈付住居の検出は集落の存在を意味し、また住居地に伴う遺物にはへら描きの土器も存在し、このことから地名の存在を想定できる資料となった。また桑鶴2次II区にて検出された道路状遺構については時期特定ができなかったが、「道」・「集落」という関連を想定することもできる。この台地に8世紀頃の集落の存在が確認され、それは交通を伴う集落と考えられる。

第5節 中世

中世は掘立柱建物が検出され、それは複雑な切り合いではなく単独の存在である。これは中世期に集落として短期的な要素が強く、また掘立柱建物も小規模である。12～13世紀の輸入磁器も出土しており伝世の性格を持つがこの時期が本遺跡の中世期のピークであろう。

また堀の検出があり時期特定に至らなかったが、この遺構は中世期に館の存在を示唆した。

第6節 不明

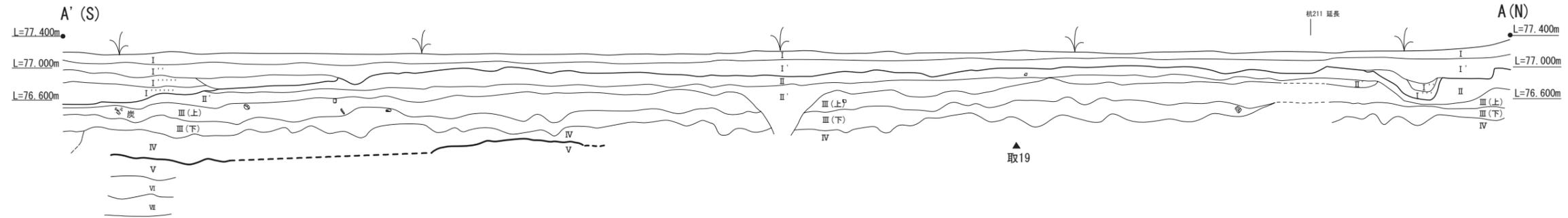
本遺跡は後世の開墾を受けた調査区も多く、検出層・埋土層の観察・出土遺物の確認も行ったが遺構時期について明確ではなく、従って時期不明とした。主に土坑状の掘り込みが多く、またその性格も不明であった。

近現代のイモ穴等とは明らかに性格が異なるため、中世以降の可能性もあるが特定が出来なかった。



調査休息場所設営

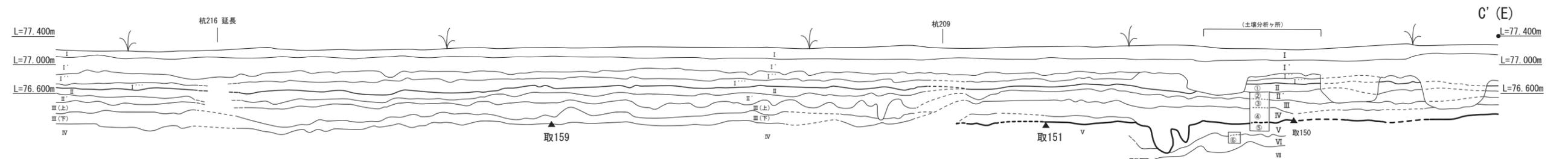
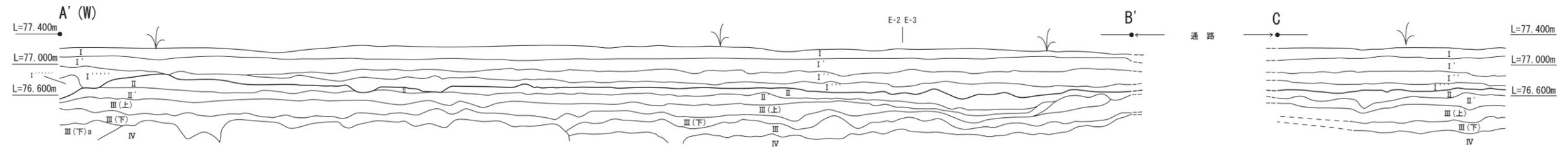
南北壁（西側）A-A'



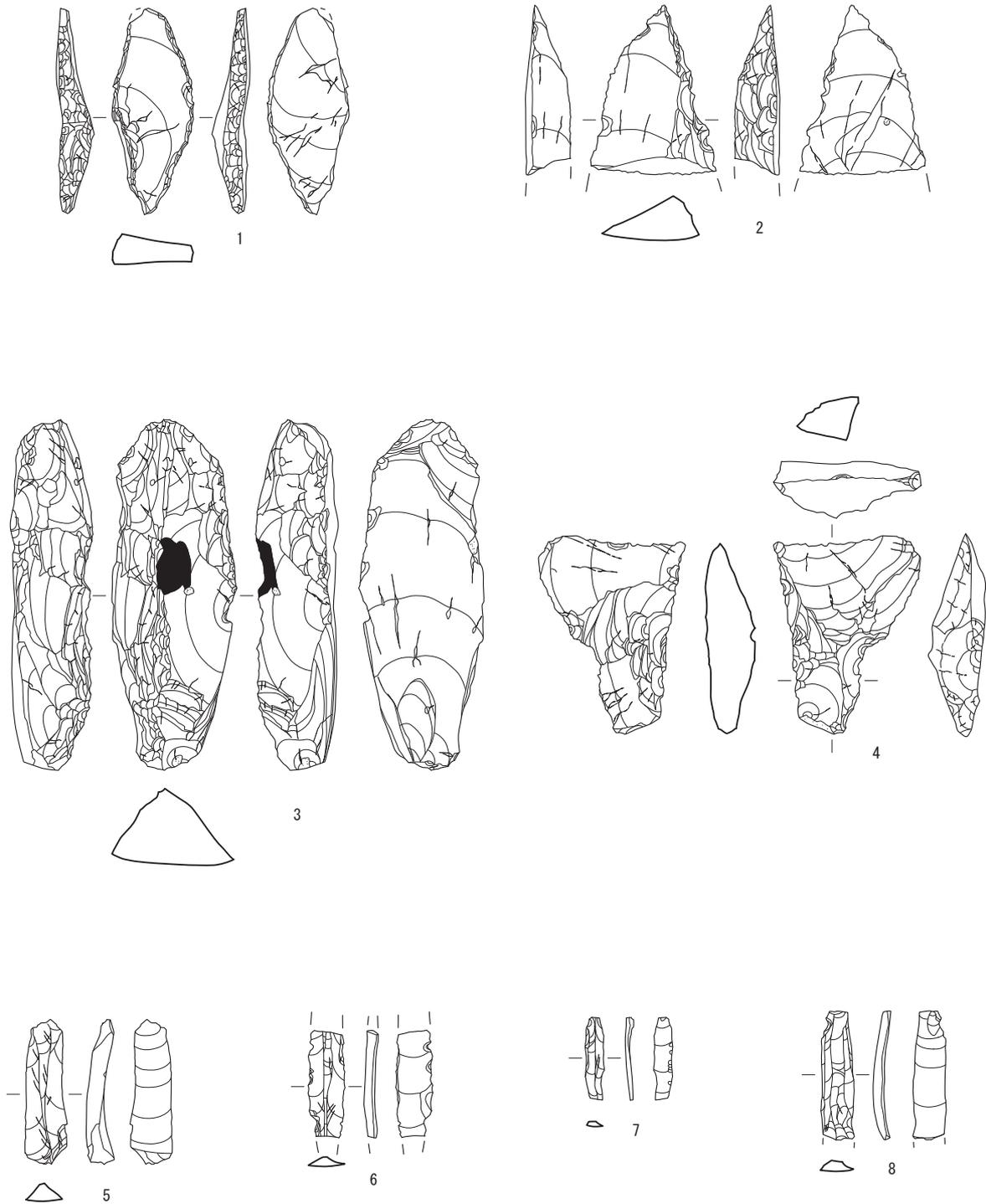
- I 表土（耕作土～床土）
- I'～I'' 客土
- II 10YR2/3 黒褐・・・黒ボク相当
- II' 10YR2/3 黒褐・・・黒ボク層
- III(上) 10YR3/4 暗褐
- III(下) 10YR3/4 暗褐 III(下)a III(下)で焼土粒含む やや締まった土 } III層はアカホヤ
- IV 10YR2/3 黒褐・・・黒ニガ相当層
- V 10YR3/4 暗褐・・・白ニガ相当層
- VI 10YR2/3 黒褐・・・黒ニガ相当層
- VII 10YR4/6 褐・・・ローム層

※太線より下層は、旧石器出土該当層
 ※▲は、出土遺物のレベルを近くの土層断面図に投影したもの

東西壁（南側）A'-B' C-C'



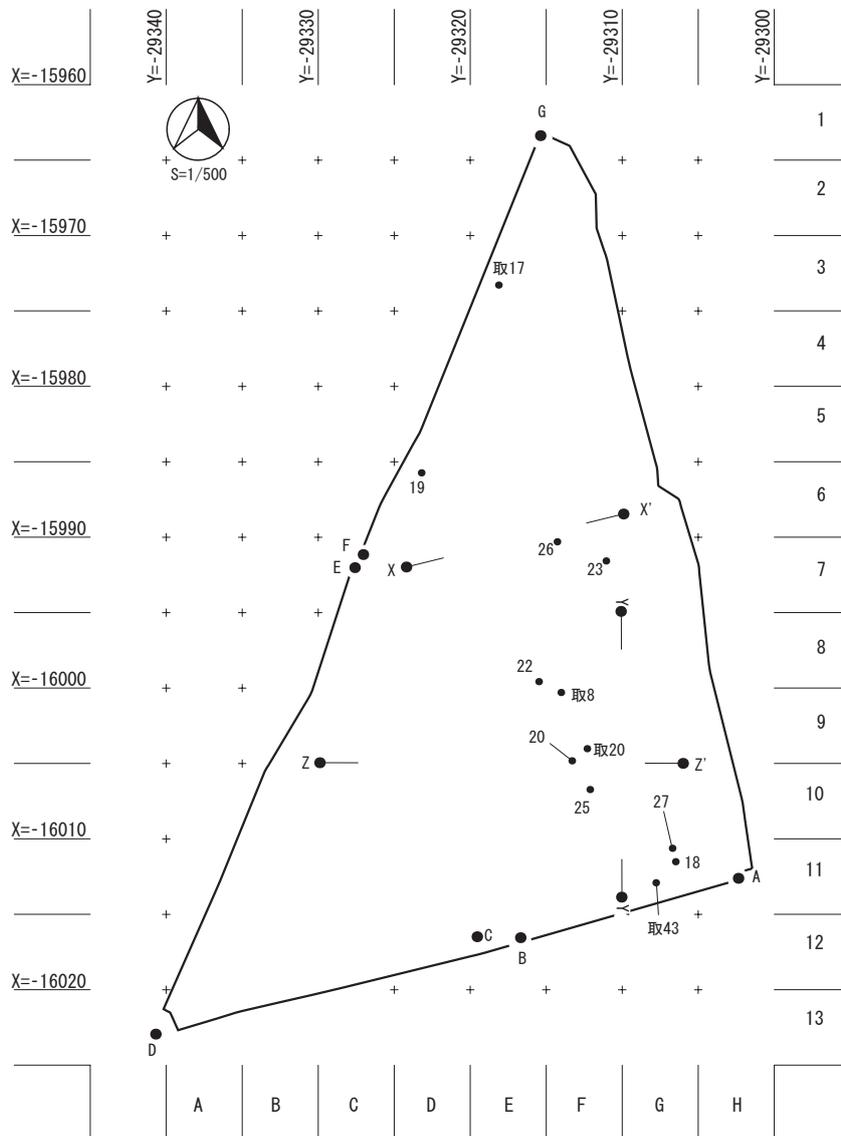
第 19 図 桑鶴遺跡群 II 区 調査区土層断面図



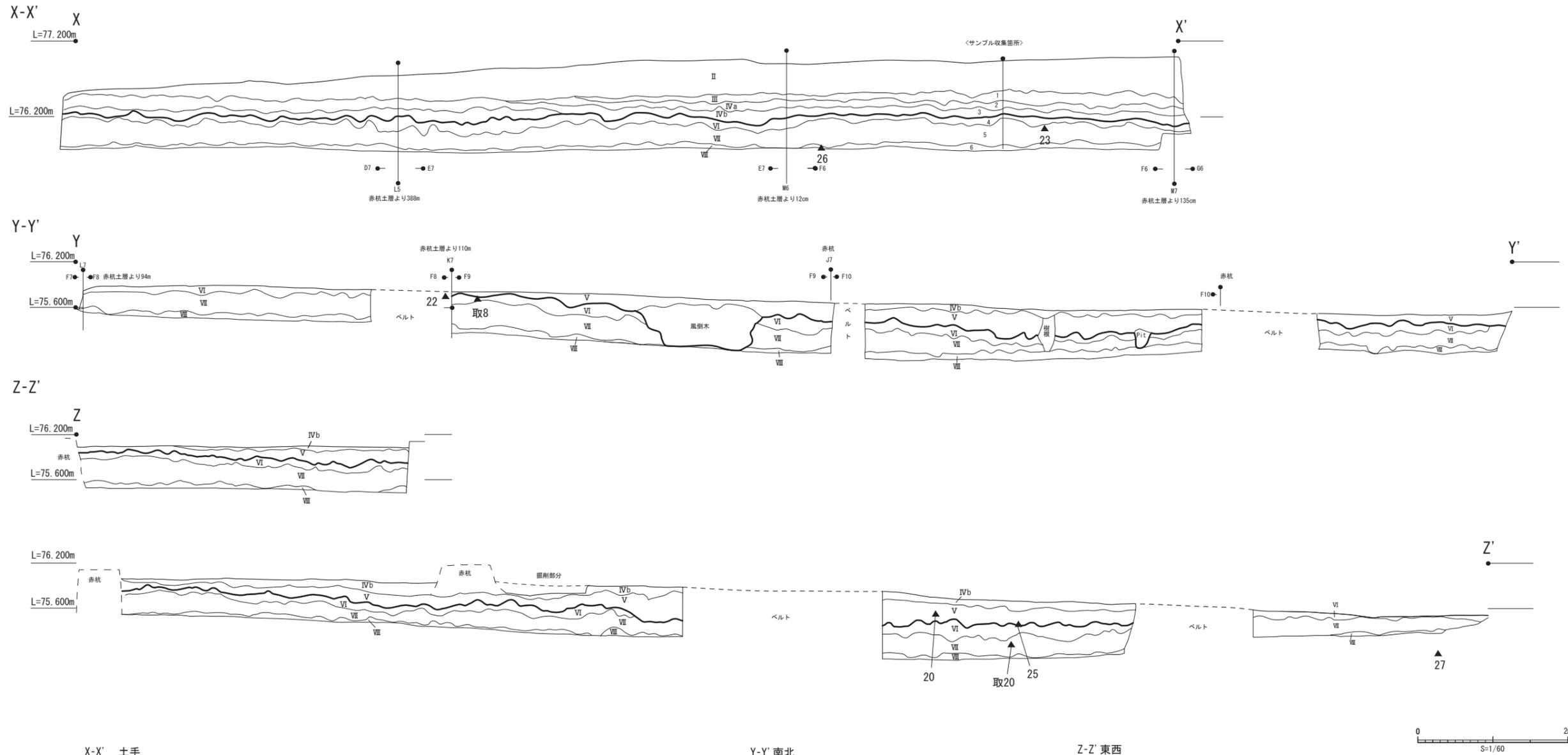
第 20 図 出土遺物実測図 1(桑鶴遺跡群 I・III・IV・VI区・出土地不明)



第 21 図 出土遺物実測図 2(桑鶴遺跡群Ⅱ区)



第 22 図 桑鶴遺跡群 VIII区 旧石器(出土相当層)出土平面図



X-X' 土手
注記

土層は五丁中原遺跡の基本層で分類

I層 耕作土 無し 現代

II層 密土 現代
カクランで堅くしまった土

III層 10YR2/2 黒褐
しまりあり 粘質なし
さらさらした土で褐色土とII層の土が少し混ざる
西側は削平されている 古墳~弥生時代

IVa層 10YR2/3 黒褐
しまりあり 粘質なし
III層の土が混じる
アカホヤ層位層 西側は削平されている
縄文時代後晩期

IVb層 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質なし
アカホヤ層
しまった土だが西側はII層
影響でより硬くしまる 褐色の明るい土が混ざる
縄文時代後晩期

V層 10YR3/3 暗褐
しまりあり 粘質あり
II層カクランの影響か硬くしまった土
ニガ土まじり含む
縄文時代早期

VI層 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質あり
白ニガ層 ニガを含む。しまった土
埋土全体の色が薄くほんやりと見える
旧石器時代

VII層 10YR2/3 黒褐 旧石器時代
しまりあり 粘質あり
黒ニガ層 ニガを含むしまった土
褐色の粗も混ざる

VIII層 10YR 褐 旧石器時代
しまりあり 粘質あり
粘りが強いつまみ土 ニガも含む
ブロック状の粘土カも含む

※太線より下層は、旧石器出土該当層
※▲は、出土遺物のレベルを近くの
土層断面に投影したもの

Y-Y' 南北
注記

土層断面はベルトで4分割され、北からA1, A2, A3, A4
土層のラインは北から南へY-Y'で記入

IVb層 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質なし
アカホヤ層(A3)の図のように一部が残って
いる以外は調査で削平
縄文時代後晩期

V層 10YR2/2 黒褐
しまりあり 粘質あり
ニガを含むしまった土
黒色が強い土だが炭化物等は少量の粒を
含む程度
縄文時代早期

VI層 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質あり
白ニガ層 ニガを多く含む
しまった土 VI層の影響が強い
旧石器時代

VII層 10YR2/3 黒褐
しまりあり 粘質あり
黒ニガ層
ニガを多く含むしまった土で灰褐色のニガが混ざる
旧石器時代

VIII層 10YR 褐
ニガを含む 粘りの強いつまみ土
ブロック状の粘土カも含む
旧石器時代

Z-Z' 東西
注記

土層ラインは東から西へZ-Z'で記入
土層断面はベルトとグリッドで5分割
東からB1, B2, B3, B4, B5)

IVb層 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質なし アカホヤ層
ニガを含むしまった土 大部分は削平
縄文時代後晩期

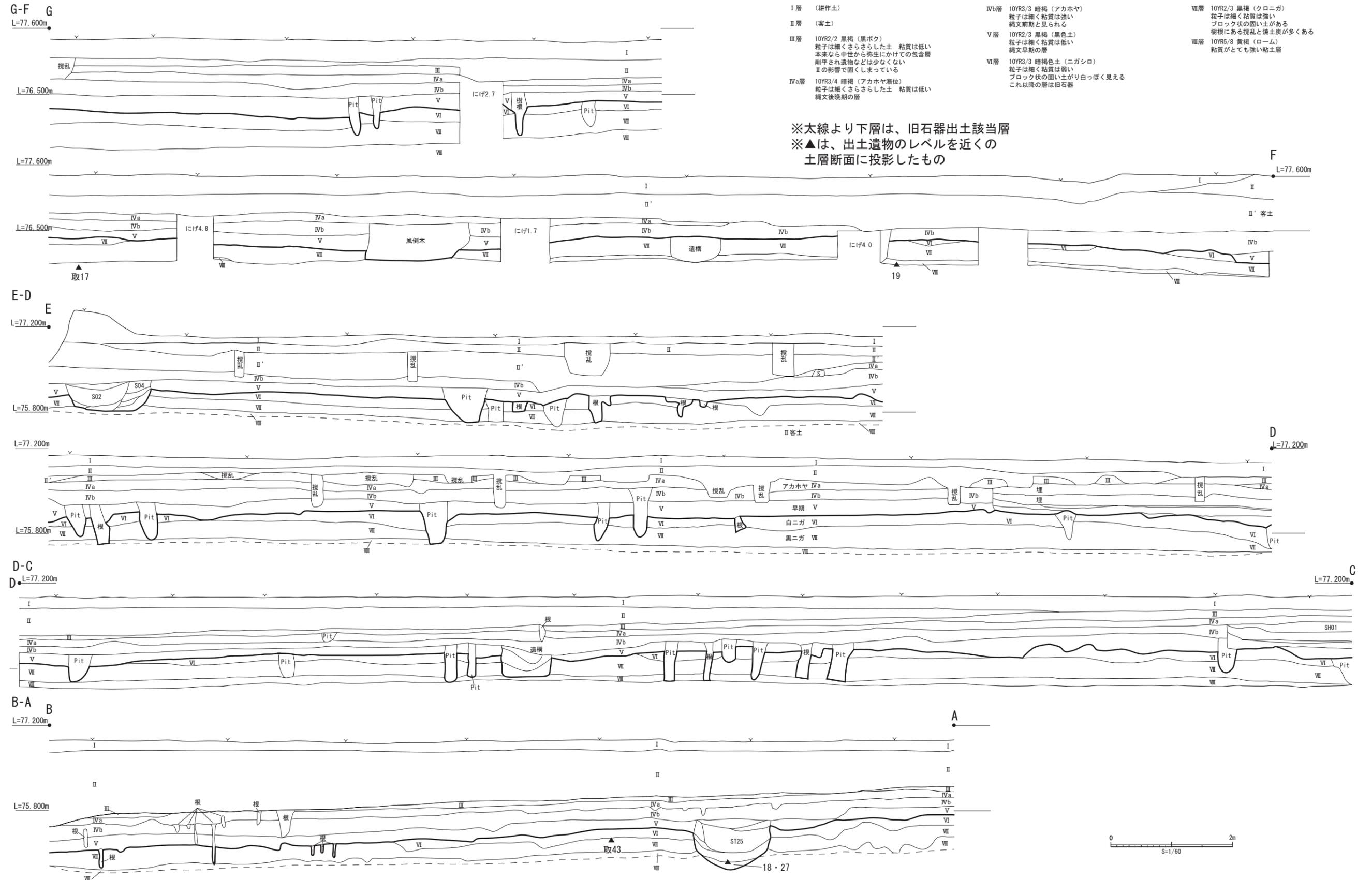
V層 10YR2/2 黒褐
しまりあり 粘質あり
ニガを含むしまった土
全体的に黒が強い土だが東が特に強い
炭化物 褐色土の粒を含む
縄文時代早期

VI層 10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘質あり
白ニガ層 ニガを多く含むしまった土
東側は白が強く西側に進むほど
色が薄く暗くなる
旧石器時代後晩期

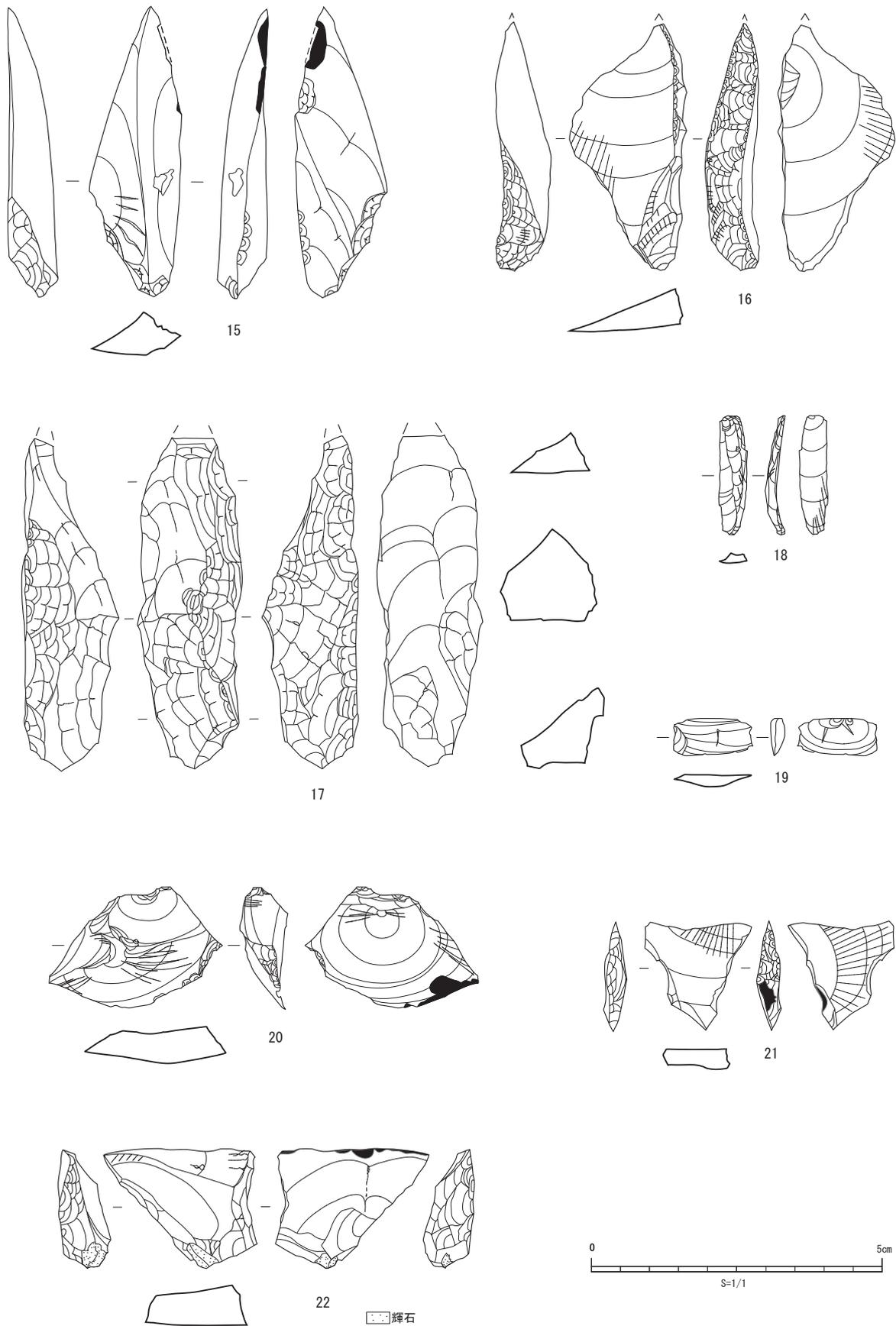
VII層 10YR2/3 黒褐
しまりあり 粘質あり
黒ニガ層 ニガを含むしまった土
全体的にニガの量が多く灰褐色のニガもある
旧石器時代

VIII層 10YR 褐
しまりあり 粘質あり
粘りの強いつまみ土
ニガやブロック状の粘土カを含む
旧石器時代

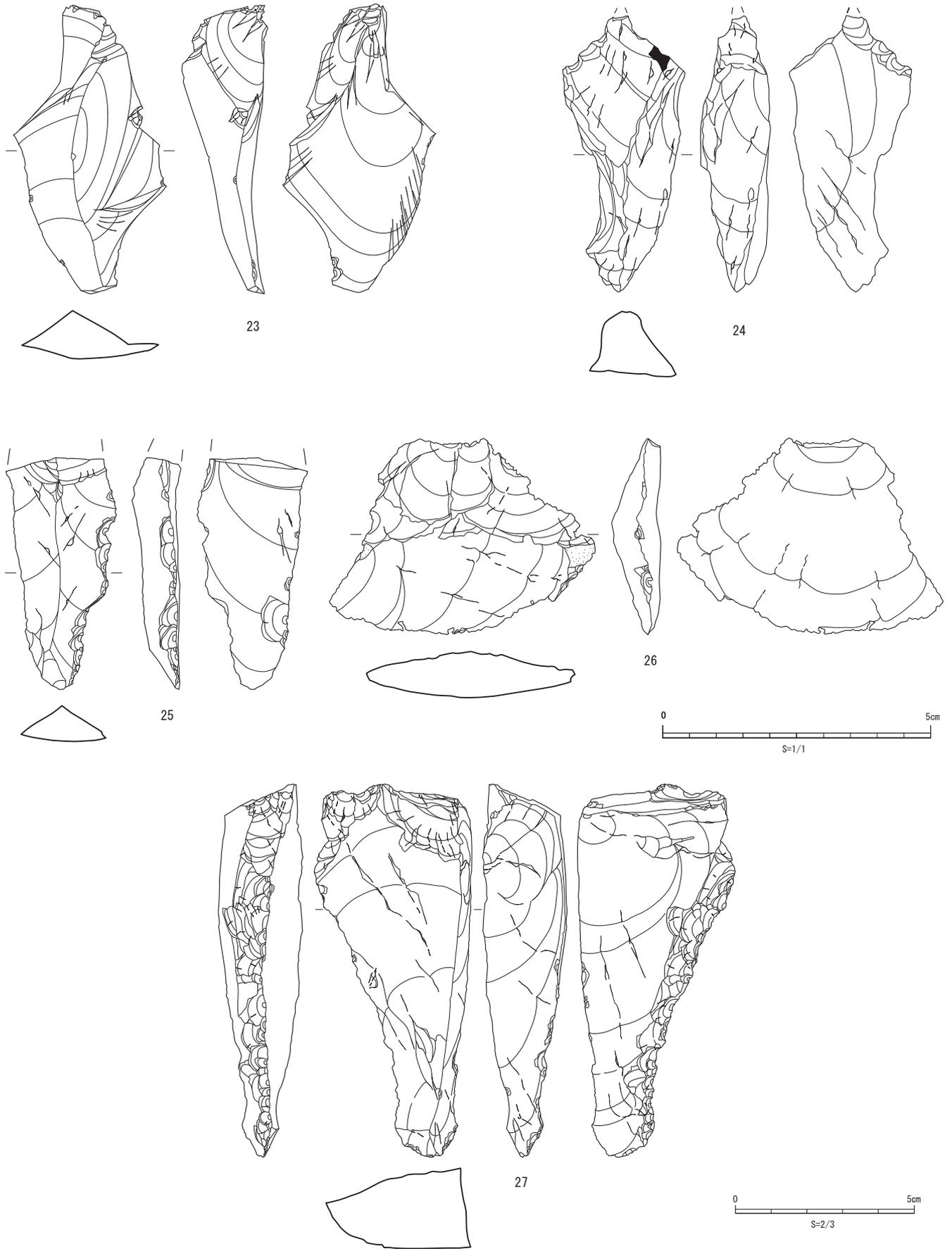
第 23 図 桑鶴遺跡群 VIII区 調査区土層断面図 1



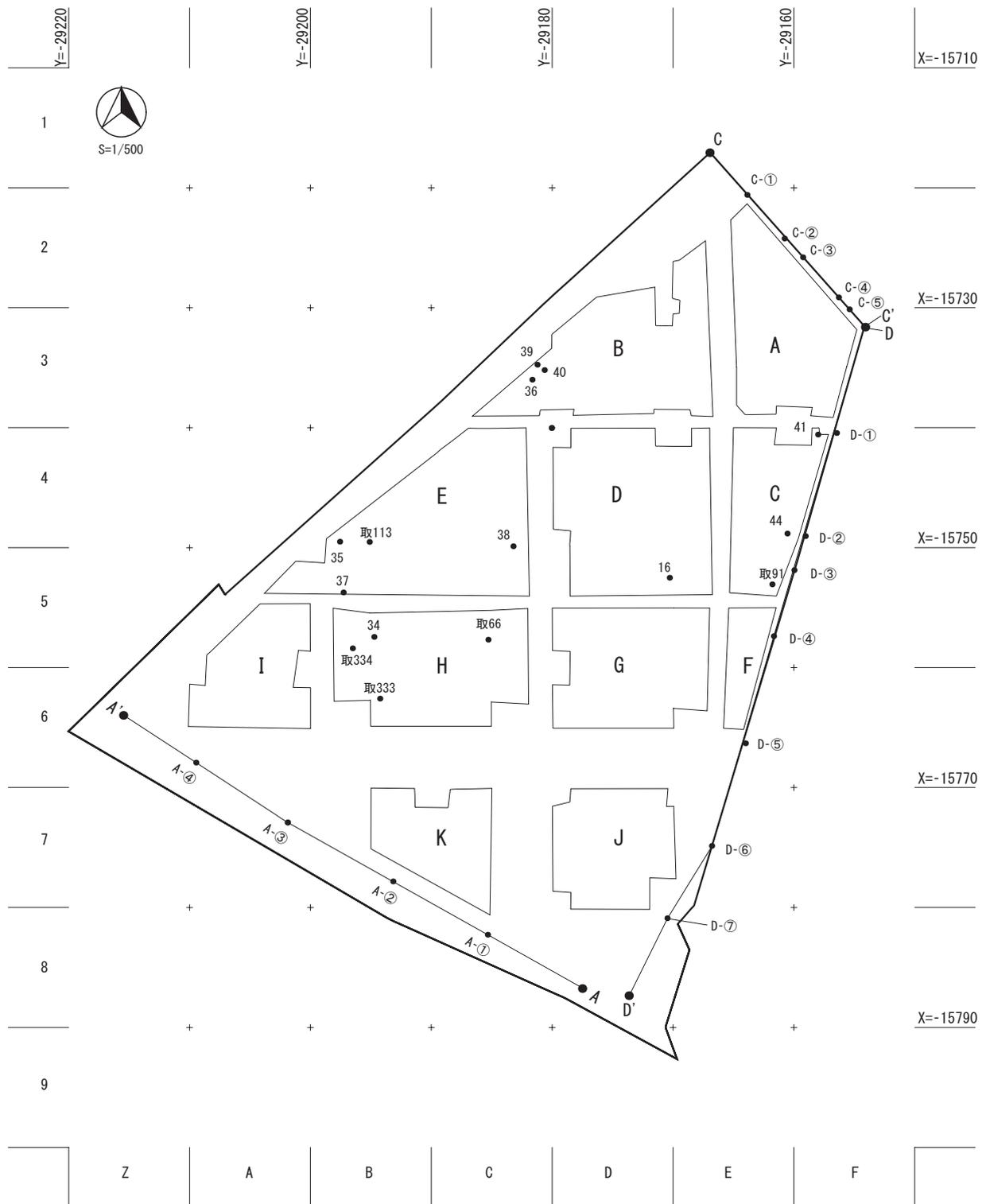
第 24 図 桑鶴遺跡群 VII区 調査区土層断面図 2



第 25 図 出土遺物実測図 3(桑鶴遺跡群Ⅷ区①)

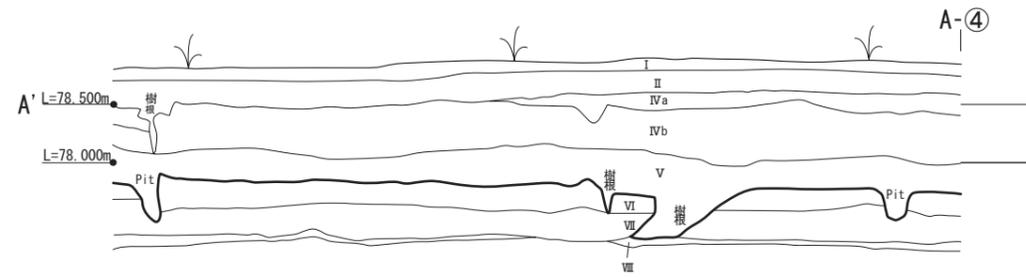


第 26 図 出土遺物実測図 4(桑鶴遺跡群Ⅷ区②)



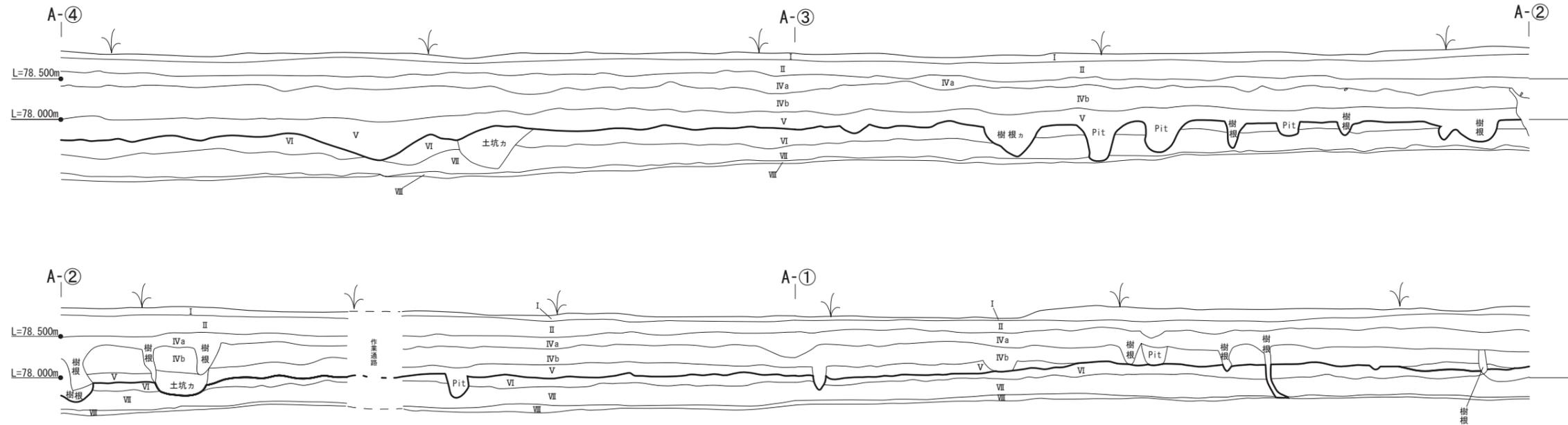
第 27 図 五丁中原遺跡 I 区 VI・VII・VIII層遺物出土状況

南側土層断面図

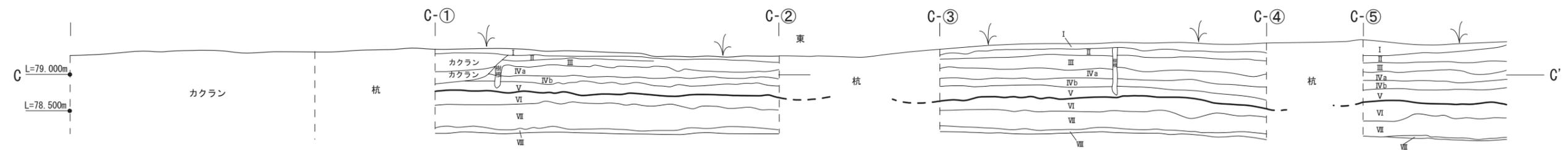


- I層 (耕作土)
- II層 (客土)
- III層 10YR2/2 黒褐(黒ボク)
粒子は細かくさらさらした土
粘質は低い
本来なら中世から弥生に
かけての包含層
崩平され遺物等は少ない
IIの影響で固くしまっている
- IVa層 10YR3/4 暗褐(アカホヤ漸位)
粒子は細かくさらさらした土
粘質は低い
縄文後晩期の層
- IVb層 10YR3/3 暗褐(アカホヤ)
粒子は細かく粘質は強い
縄文前期と見られる
- V層 10YR2/3 黒褐(黒褐色土)
粒子は細かく粘質は低い
縄文早期の層
- VI層 10YR3/3 暗褐(ニガシロ)
粒子は細かく粘質は強い
ブロック状の固い土があり
白っぽく見える
これ以降の層は旧石器
- VII層 10YR2/3 黒褐(クロニガ)
粒子は細かく粘質は強い
ブロック状の固い土がある
樹根によるカクランと焼土炭が
多くある
- VII層 10YR5/8 黄褐(ローム)
粘質がとて強い層

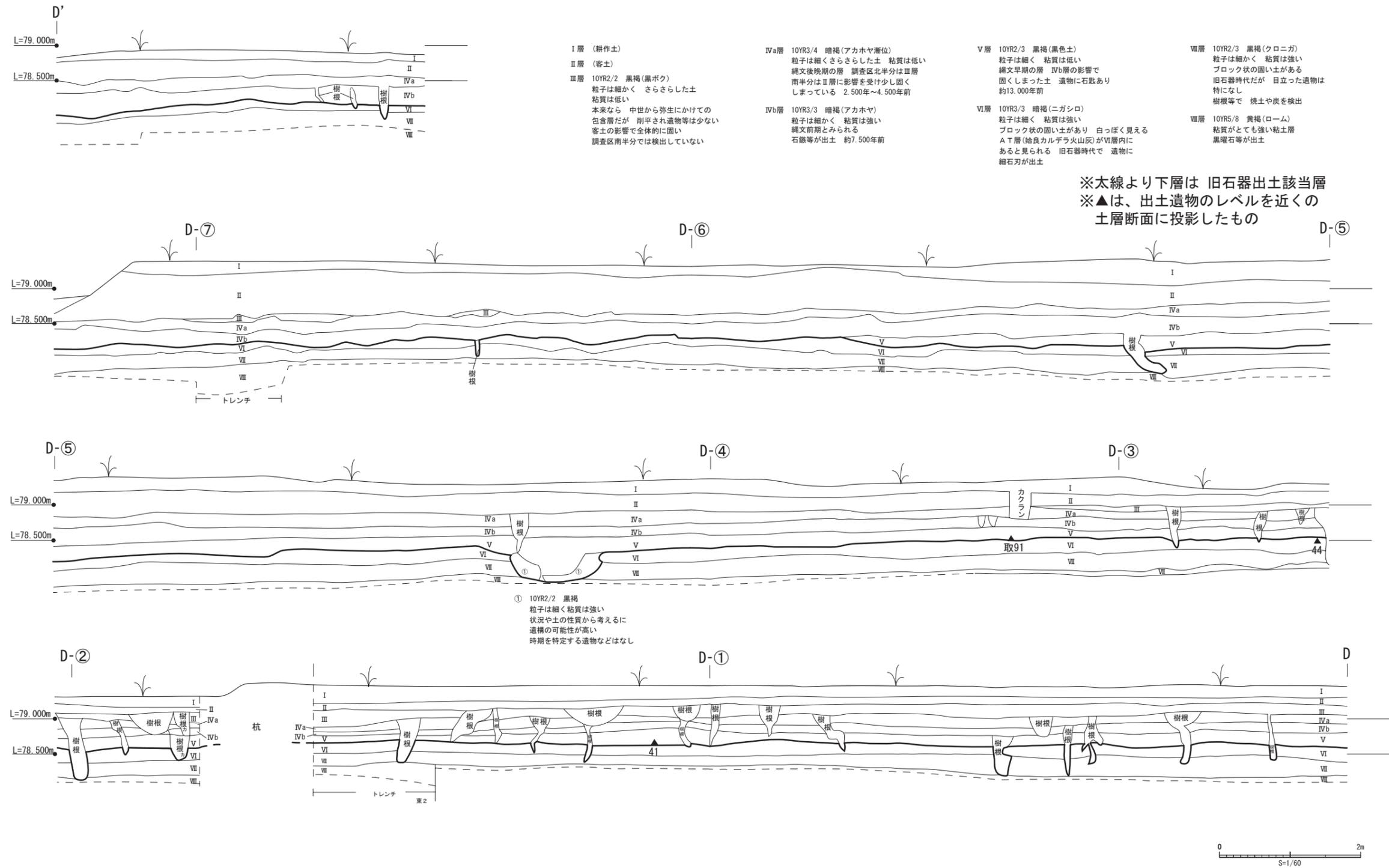
※ 太線より下層は 旧石器出土該当層



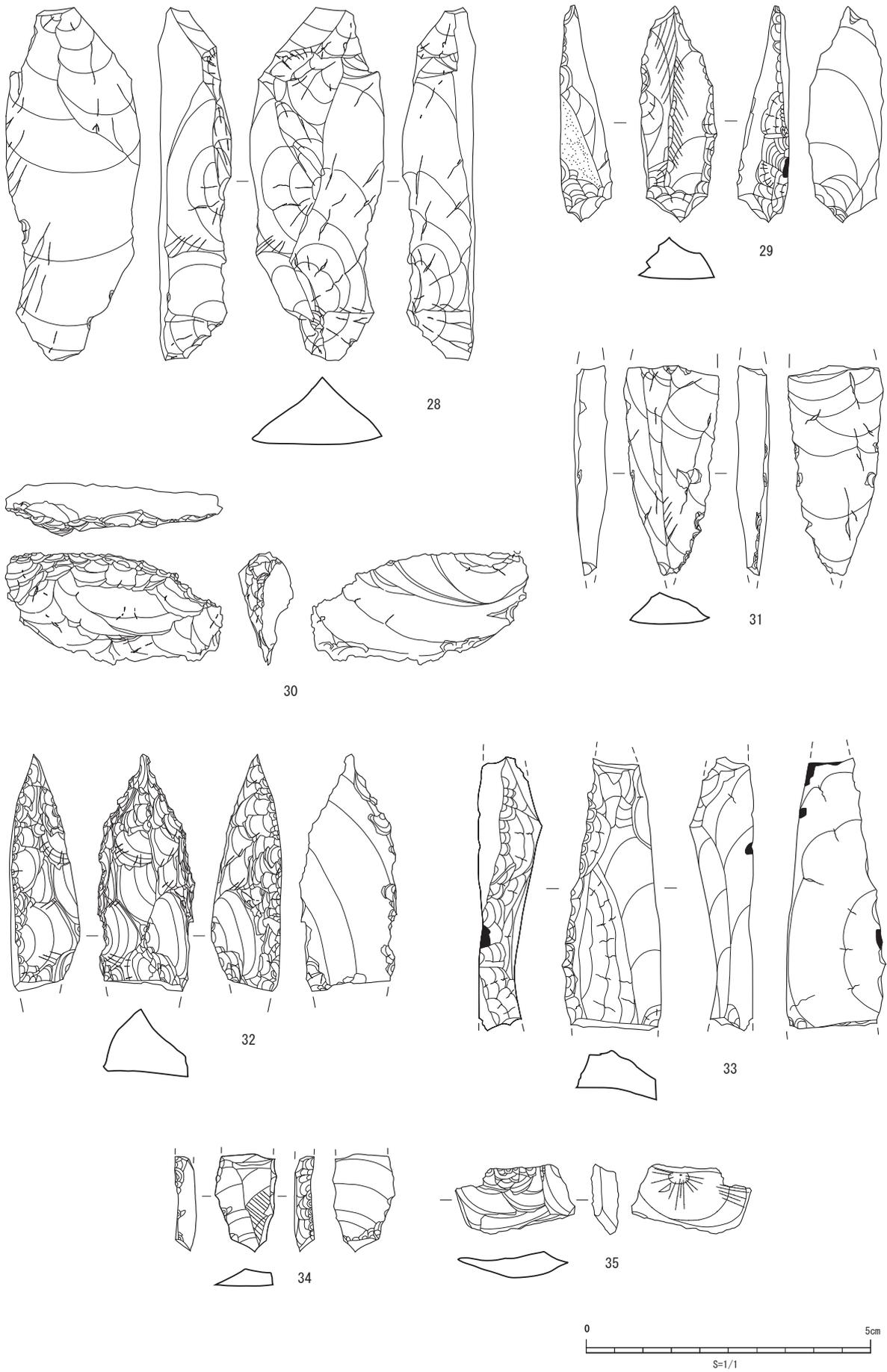
北側壁面土断面図



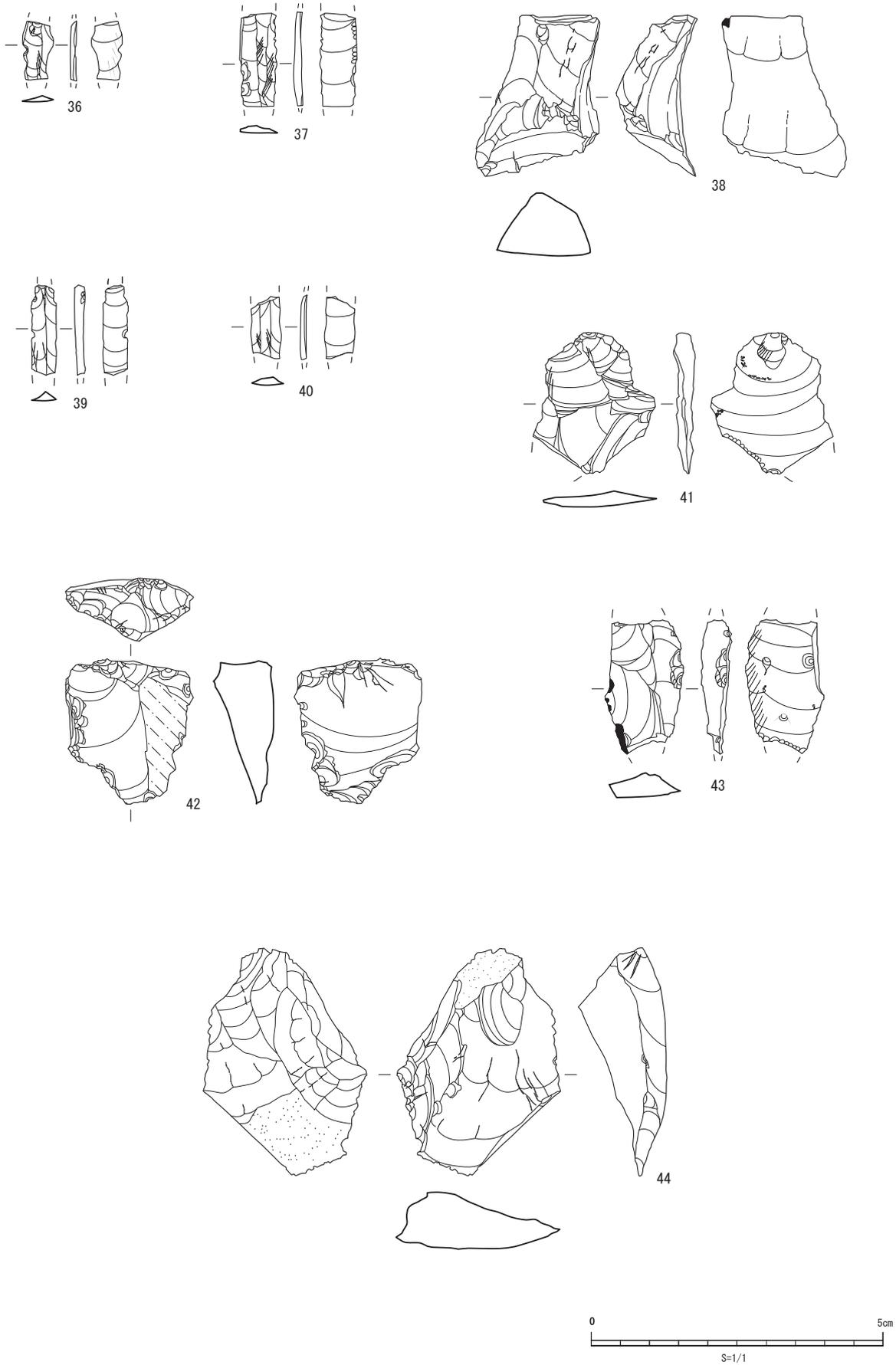
第 28 図 五丁中原遺跡 I 区 調査区土層断面図 1



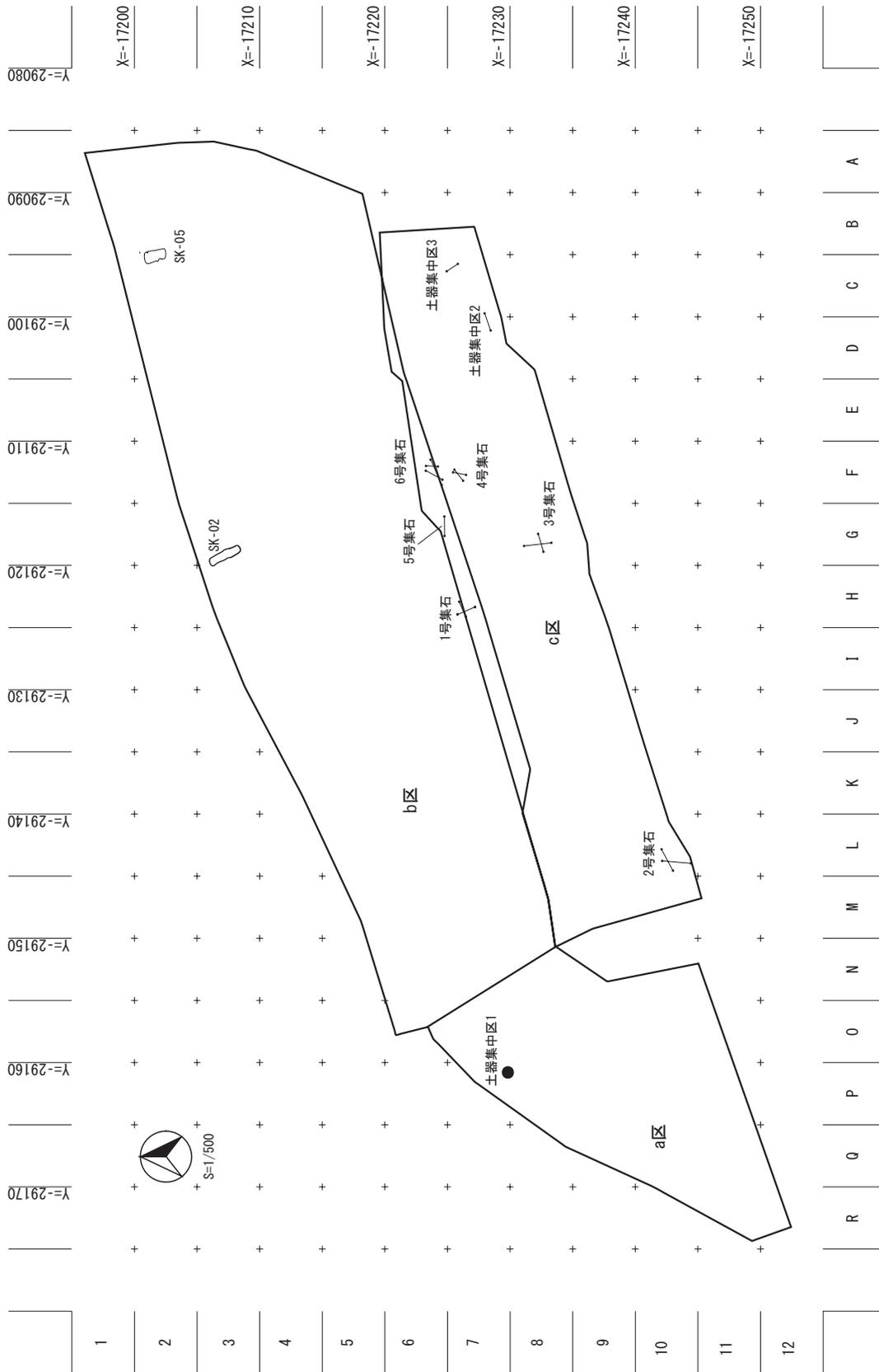
第 29 図 五丁中原遺跡 I 区 調査区土層断面図 2



第 30 図 出土遺物実測図 5 (五丁中原遺跡 I 区)

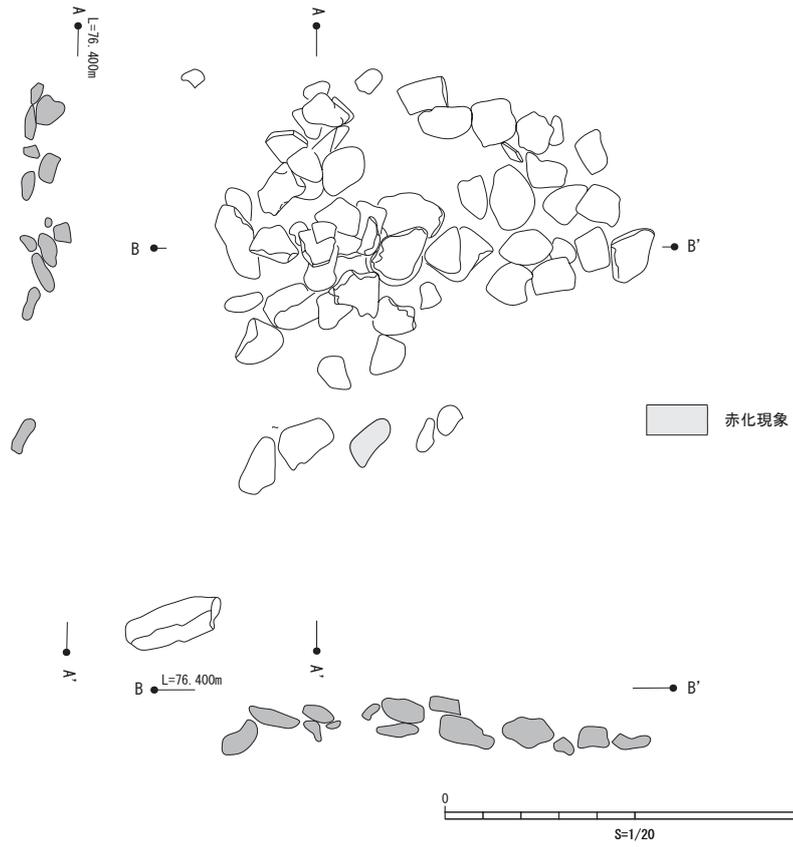


第 31 図 出土遺物実測図 6 (五丁中原遺跡 I・II・III区)

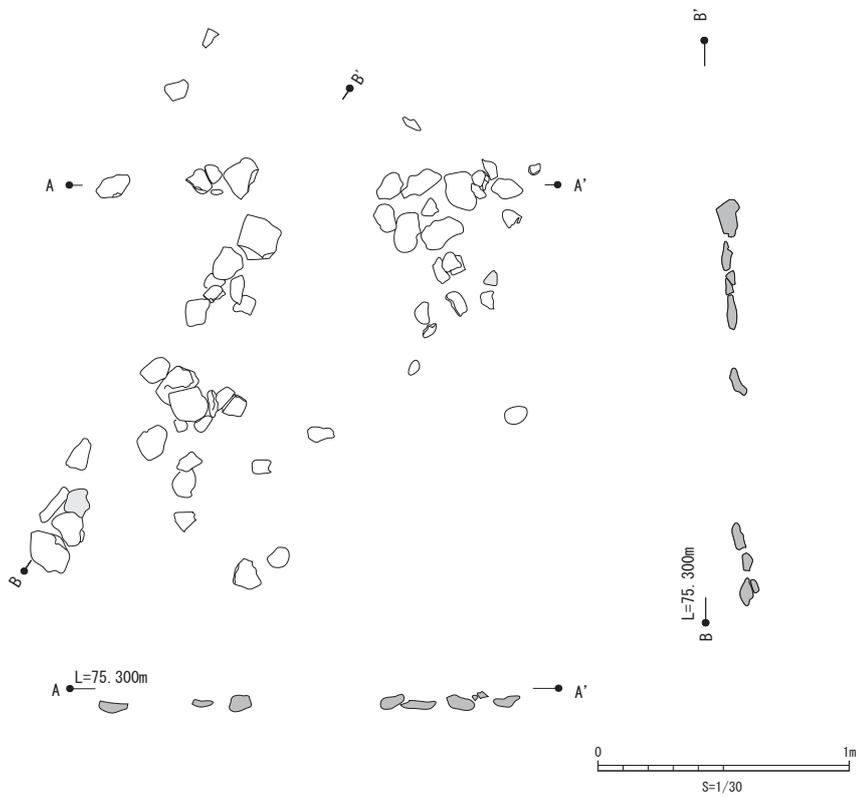


第 32 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 遺構配置図

1号集石



2号集石

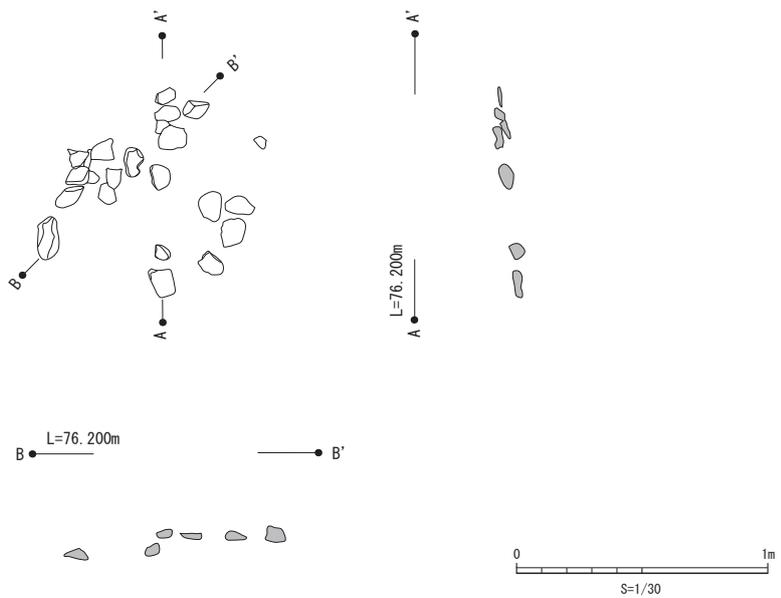


第 33 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 1号・2号集石実測図

3号集石

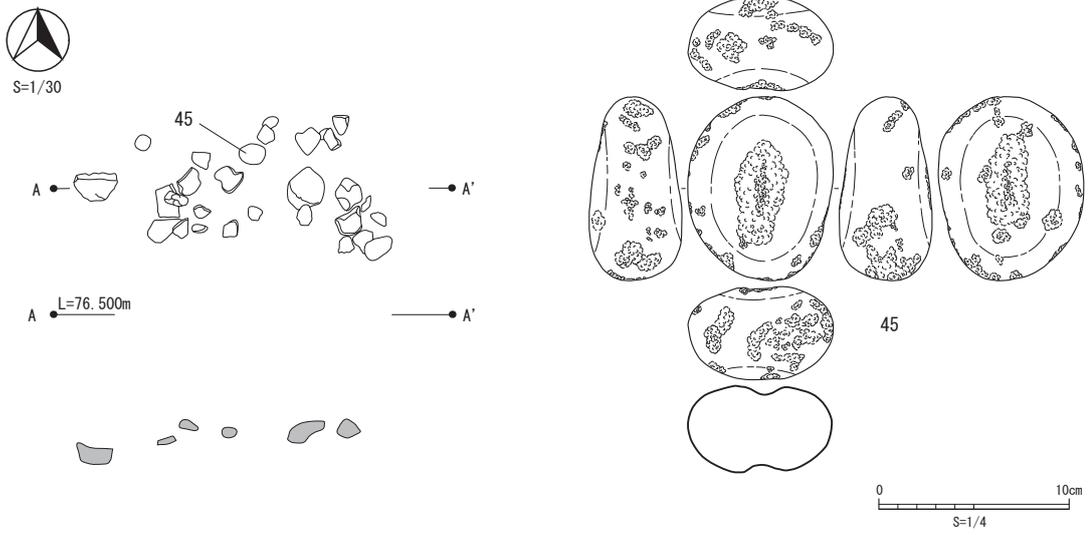


4号集石

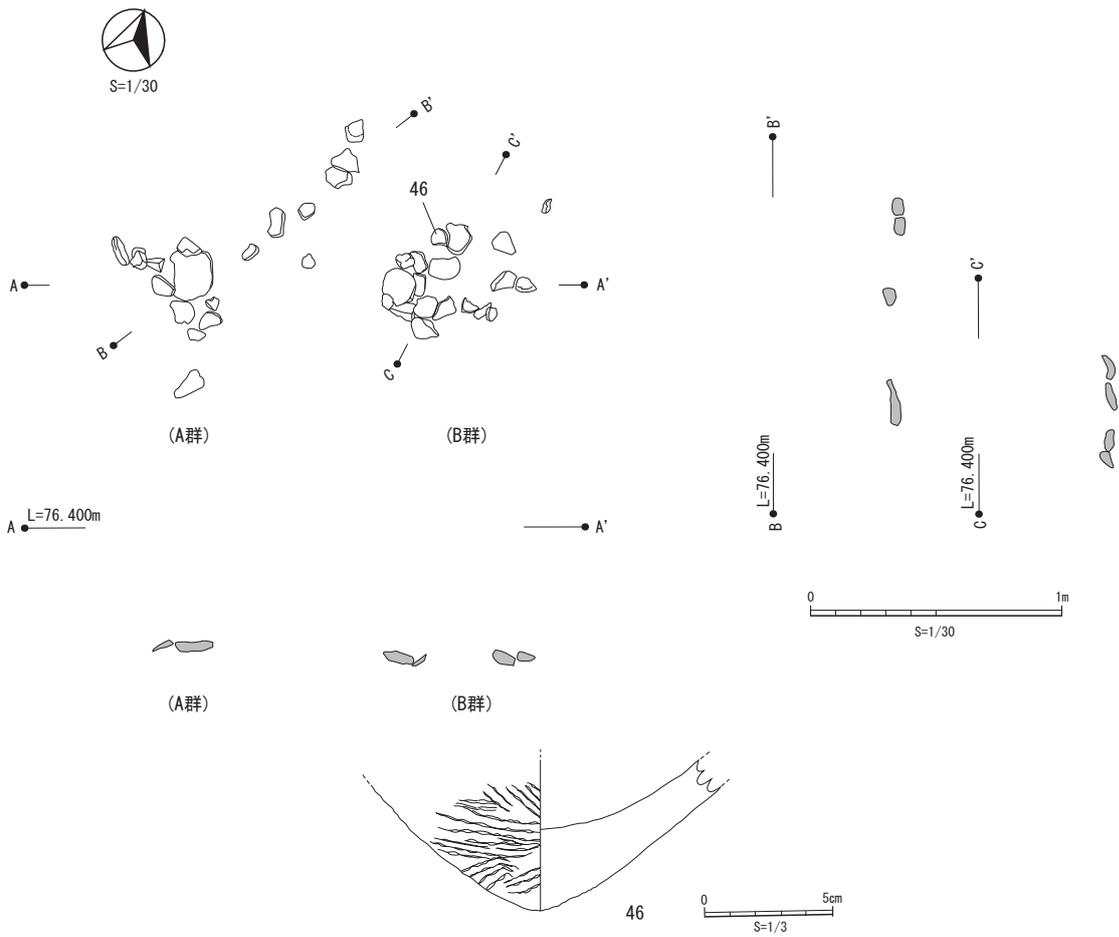


第 34 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 3号・4号集石実測図

5号集石

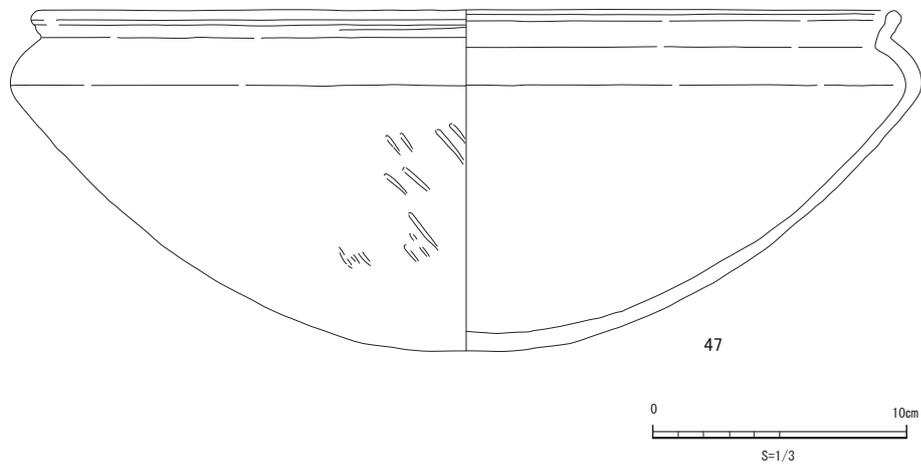
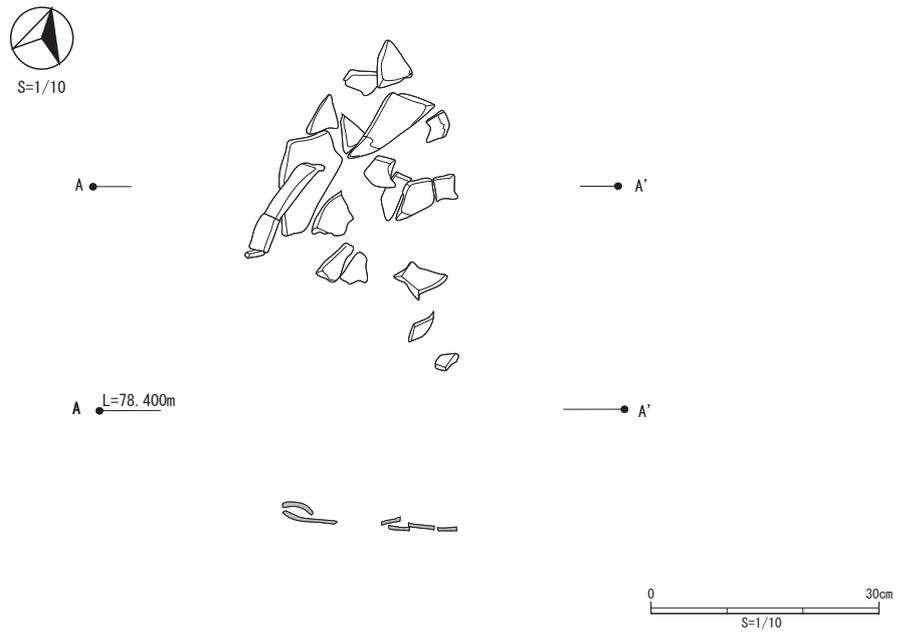


6号集石



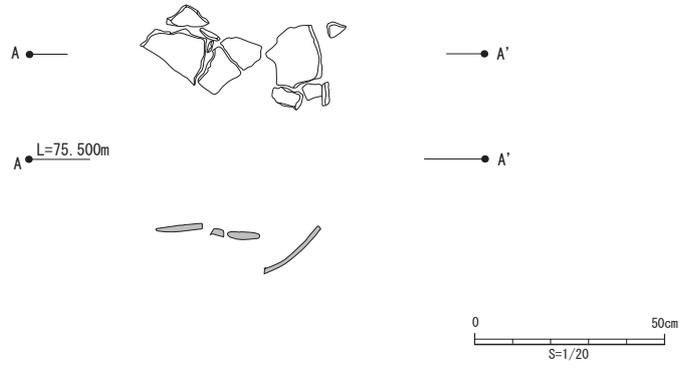
第 35 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 5号・6号集石実測図及び出土遺物実測図

土器集中区1



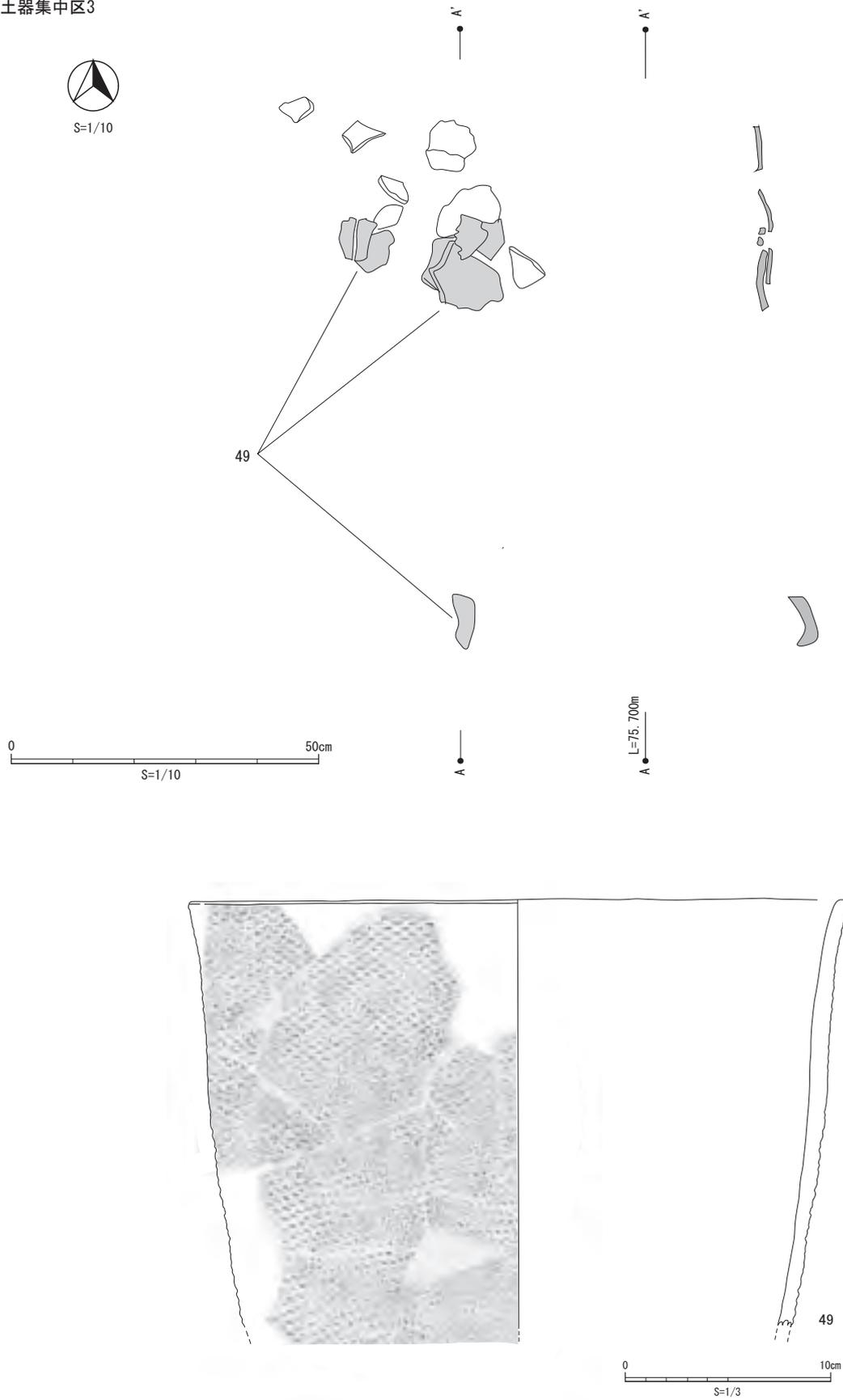
第 36 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 土器集中区1実測図及び出土遺物実測図

土器集中区2



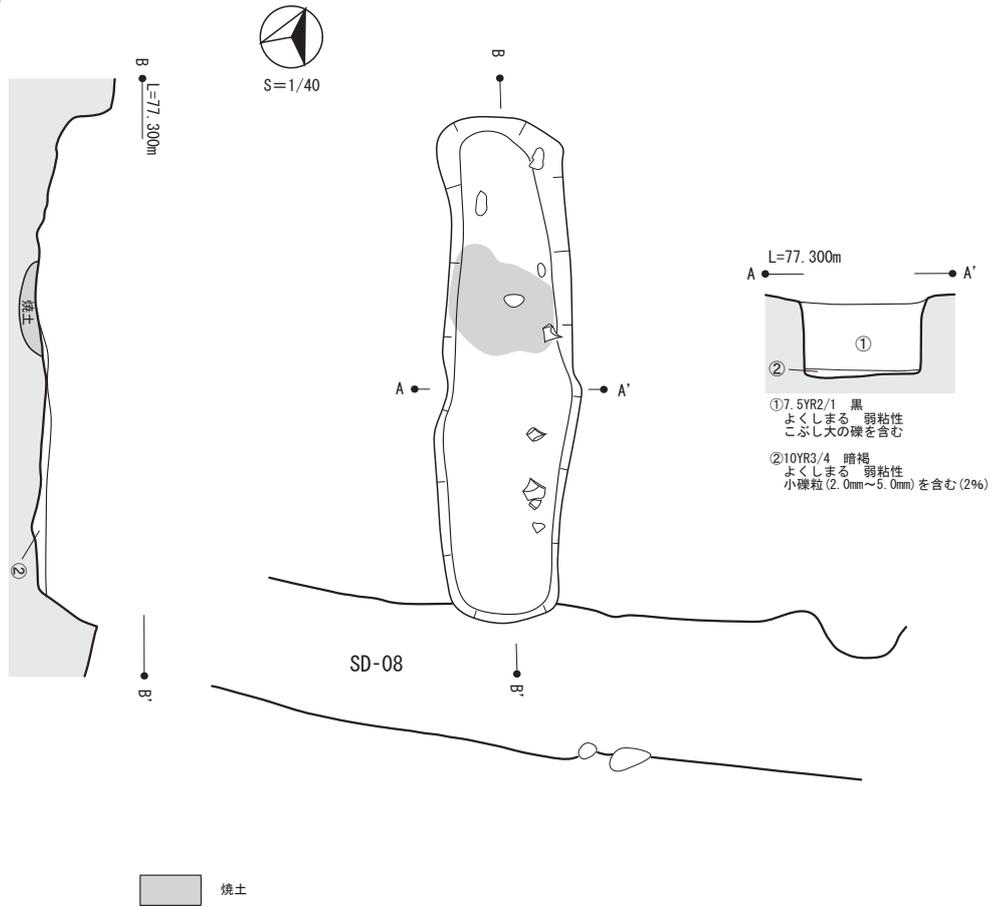
第 37 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 土器集中区2実測図及び出土遺物実測図

土器集中区3

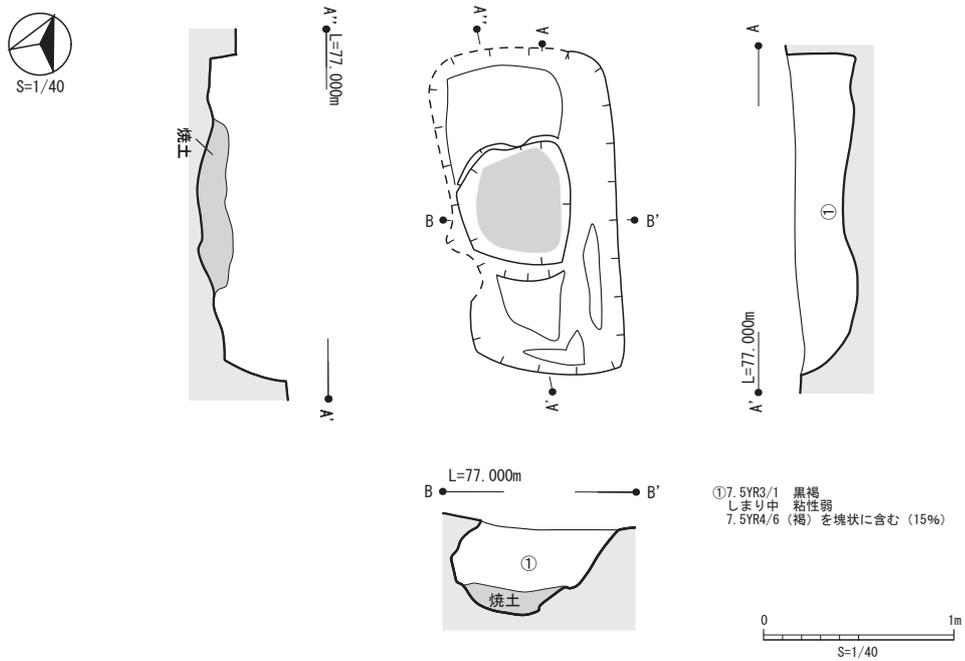


第 38 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 土器集中区3実測図及び出土遺物実測図

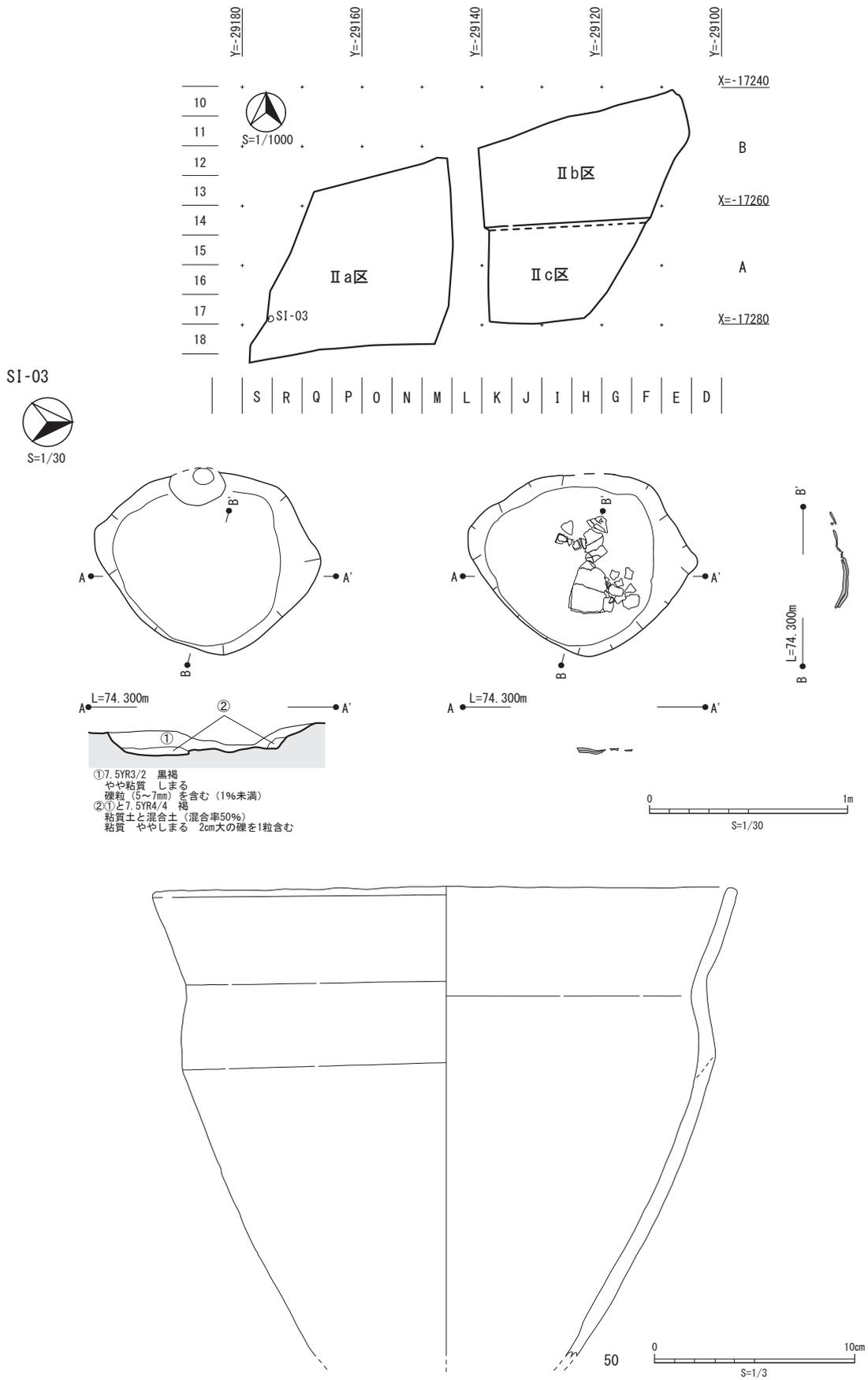
SK-02



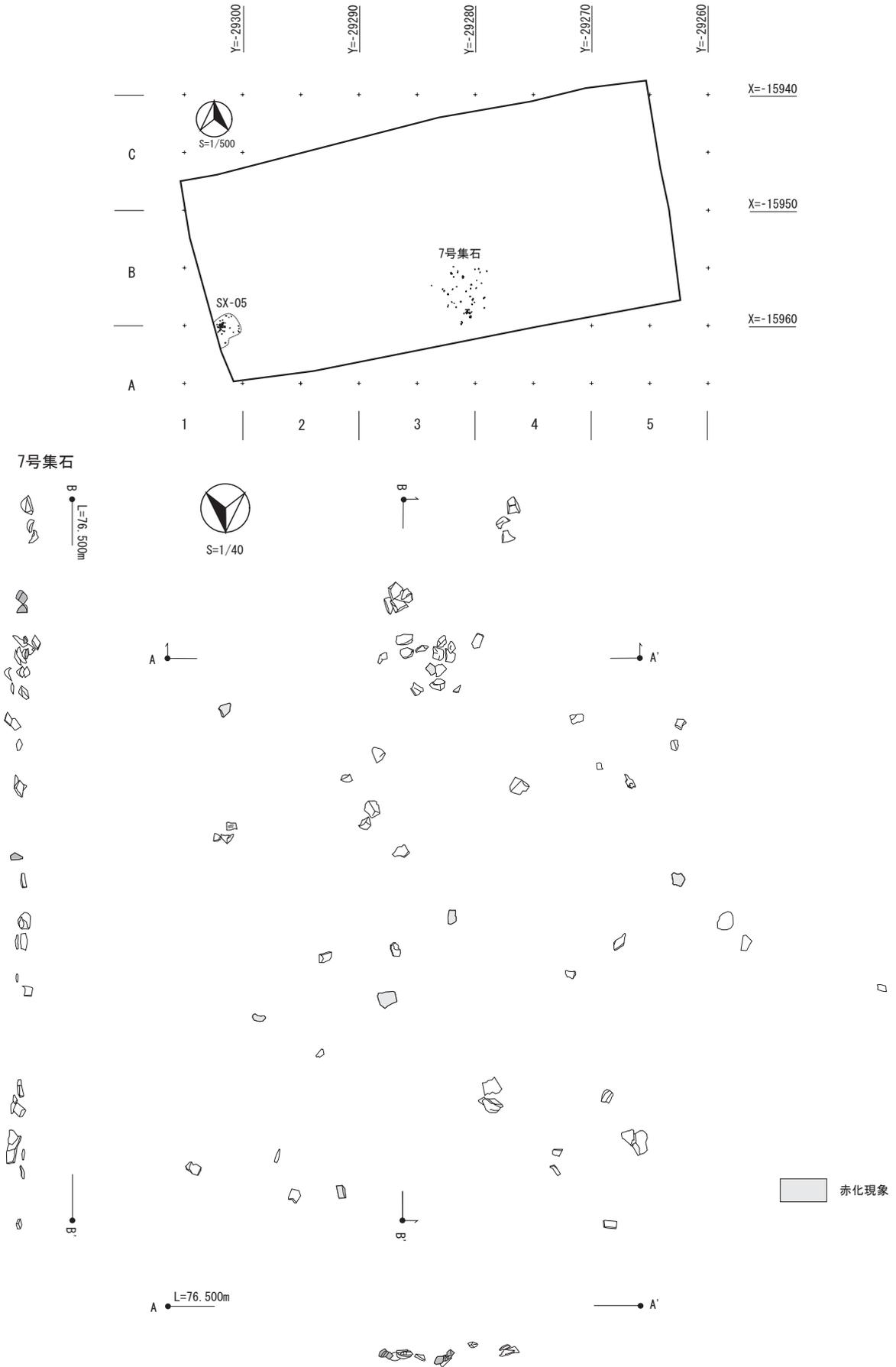
SK-05



第 39 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SK-02・05実測図

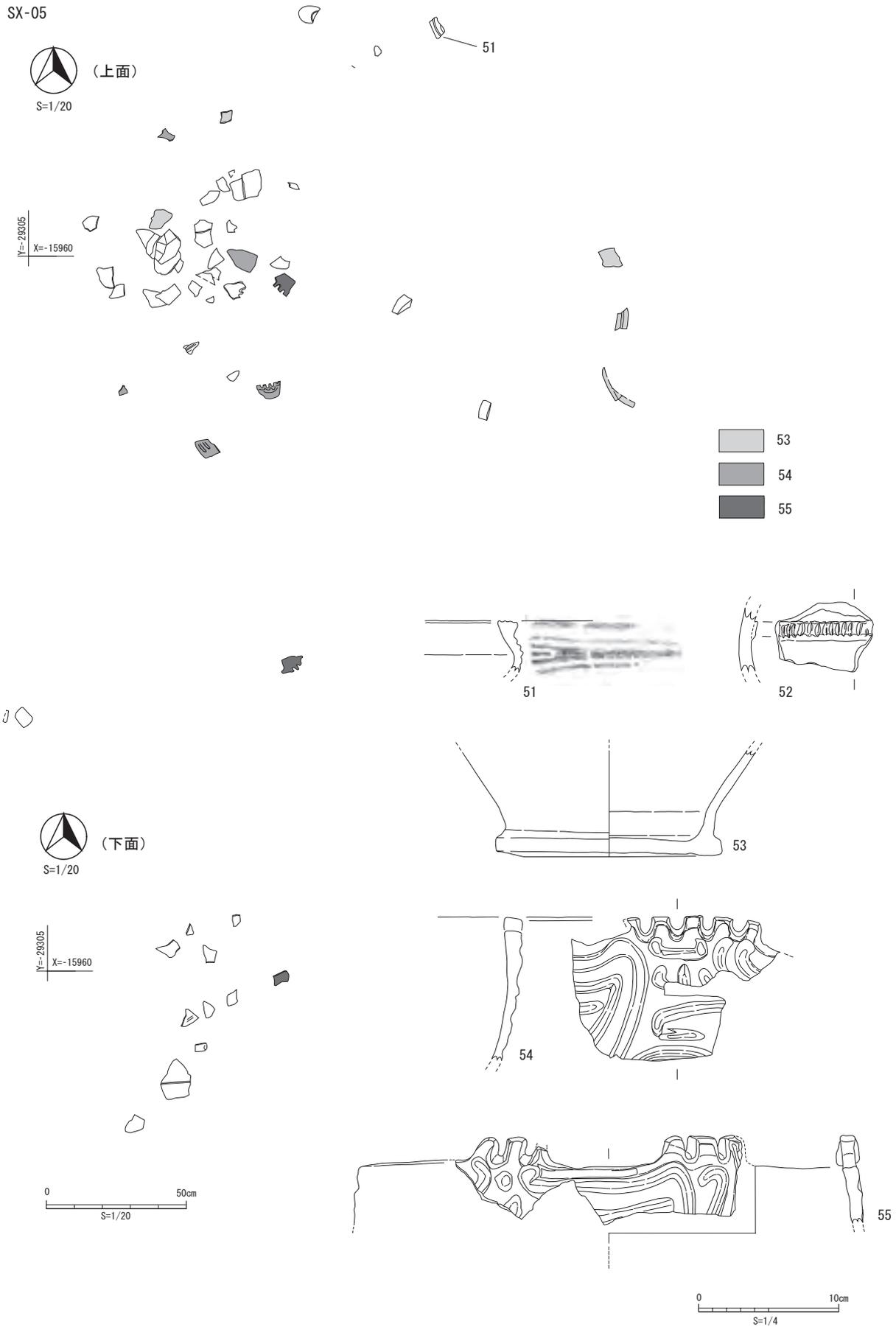


第 40 図 桑鶴遺跡群 06- II 区 遺構配置図・SI-03実測図及び出土遺物実測図



第 41 図 桑鶴遺跡群 II 区 III 層・IV 層上面 遺構配置図及び7号集石実測図

SX-05

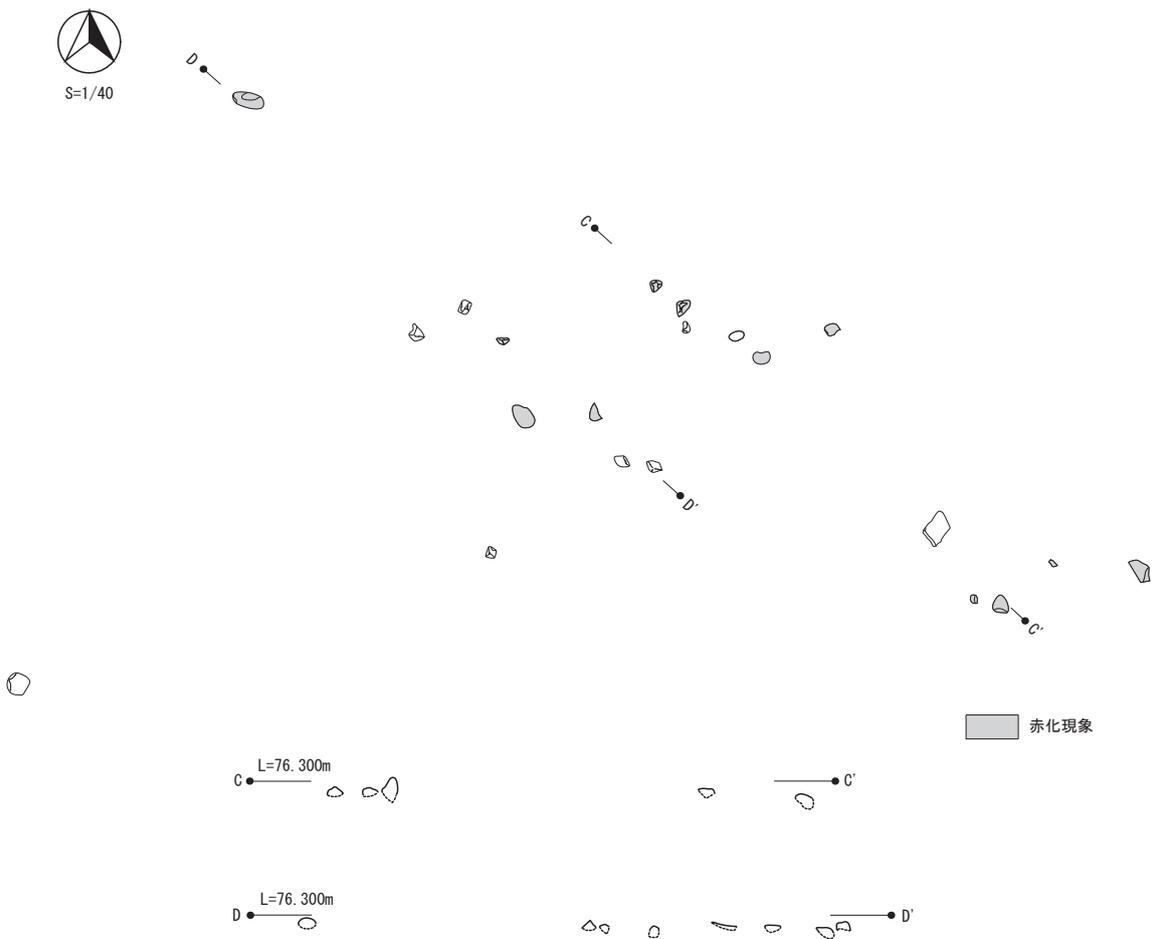


第 42 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-05実測図及び出土遺物実測図

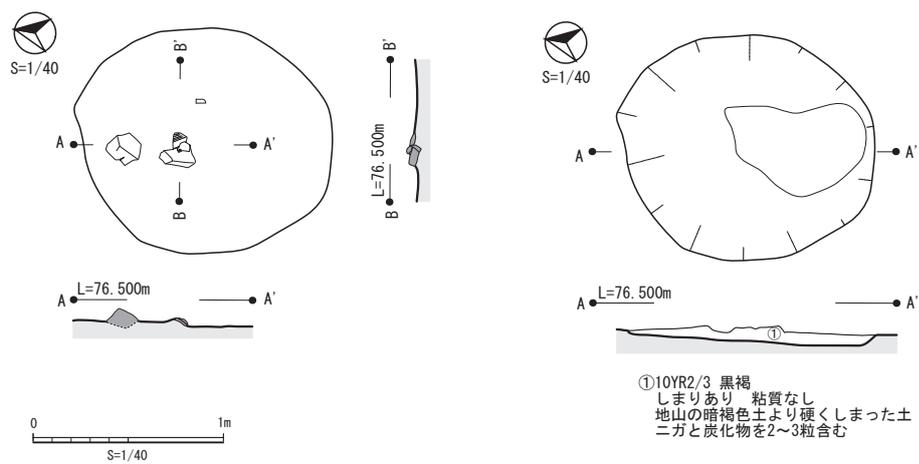


第 43 図 桑鶴遺跡群 VI区 遺構配置図

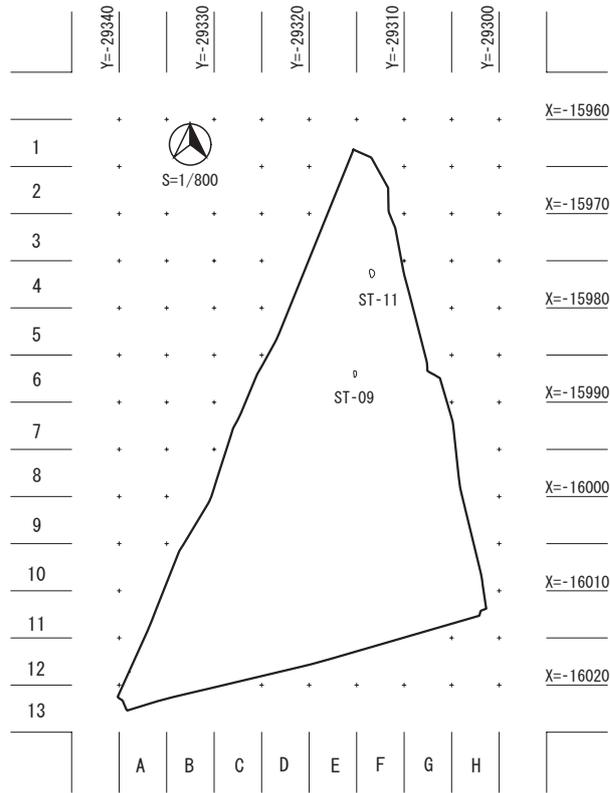
8号集石



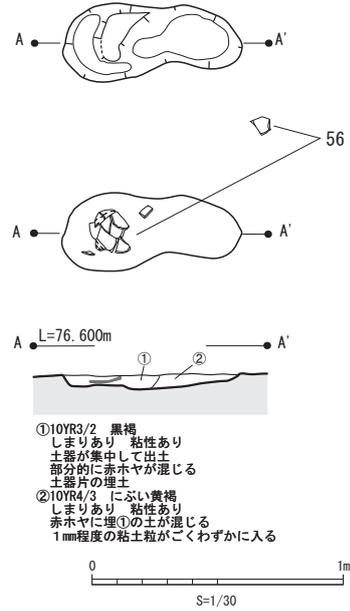
9号集石



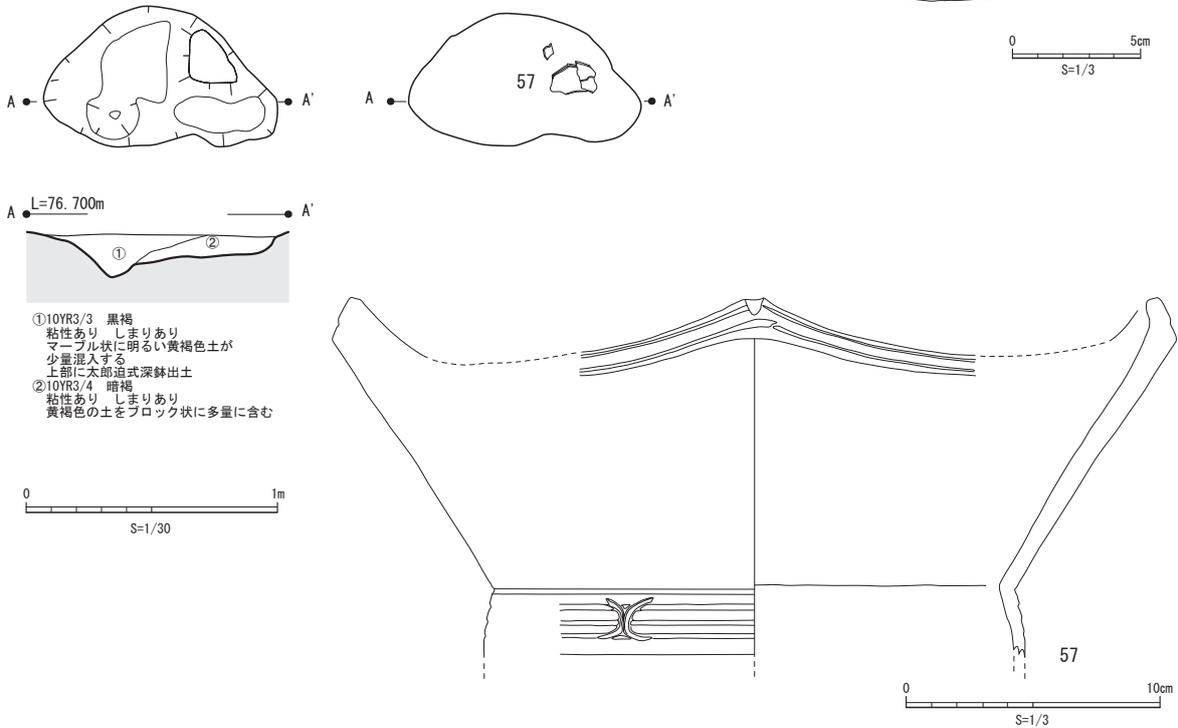
第 44 図 桑鶴遺跡群 VI区 8号・9号集石実測図



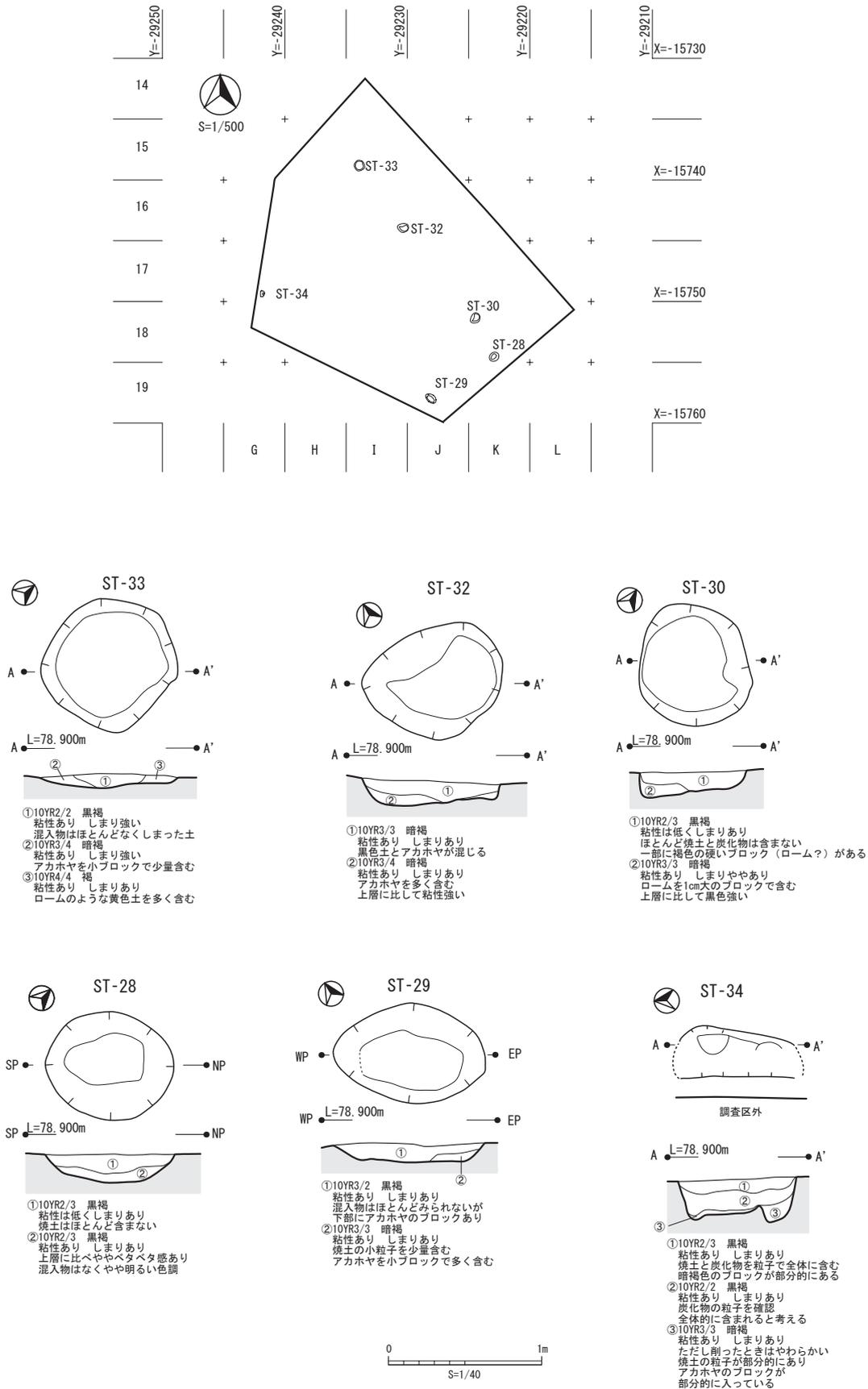
ST-09



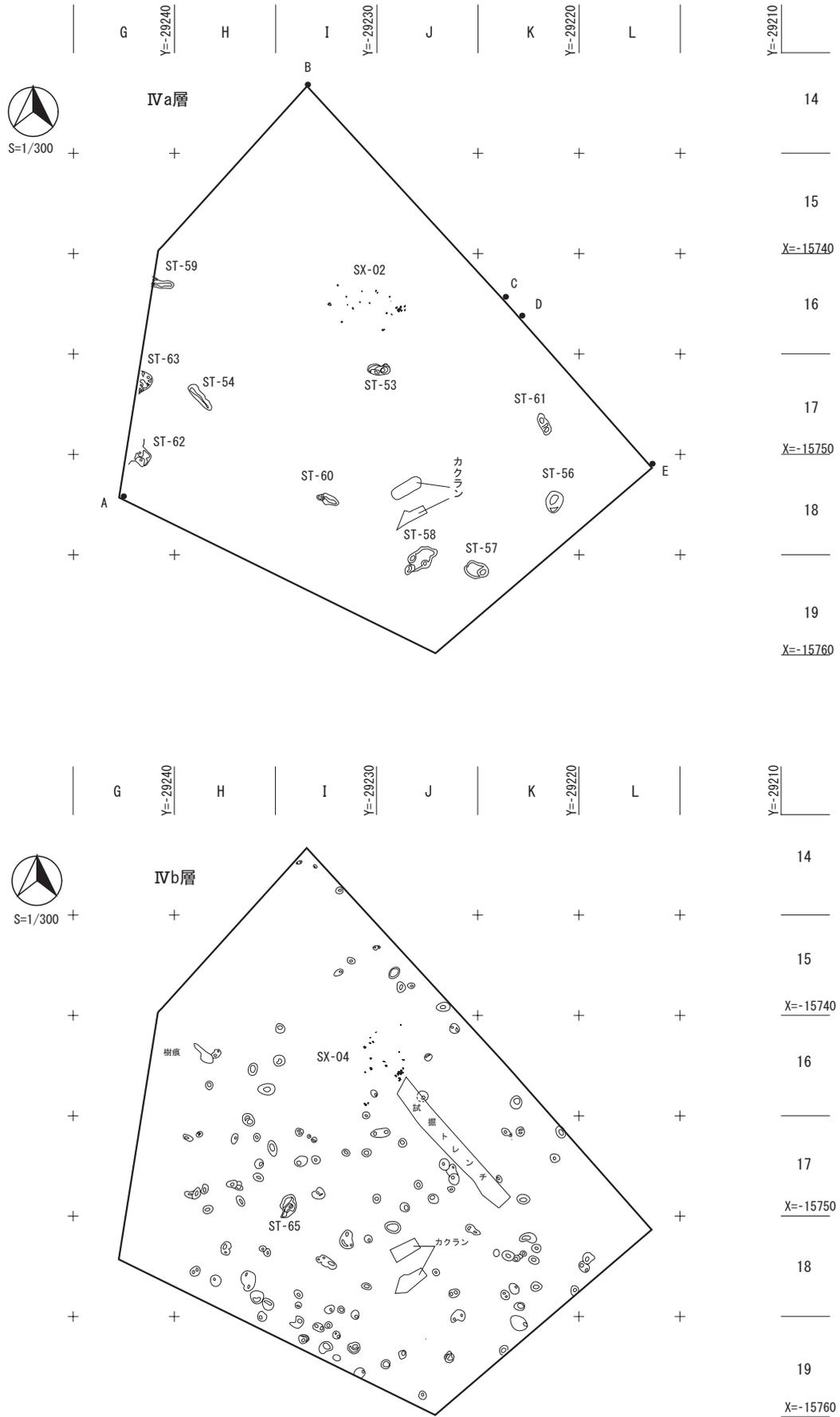
ST-11



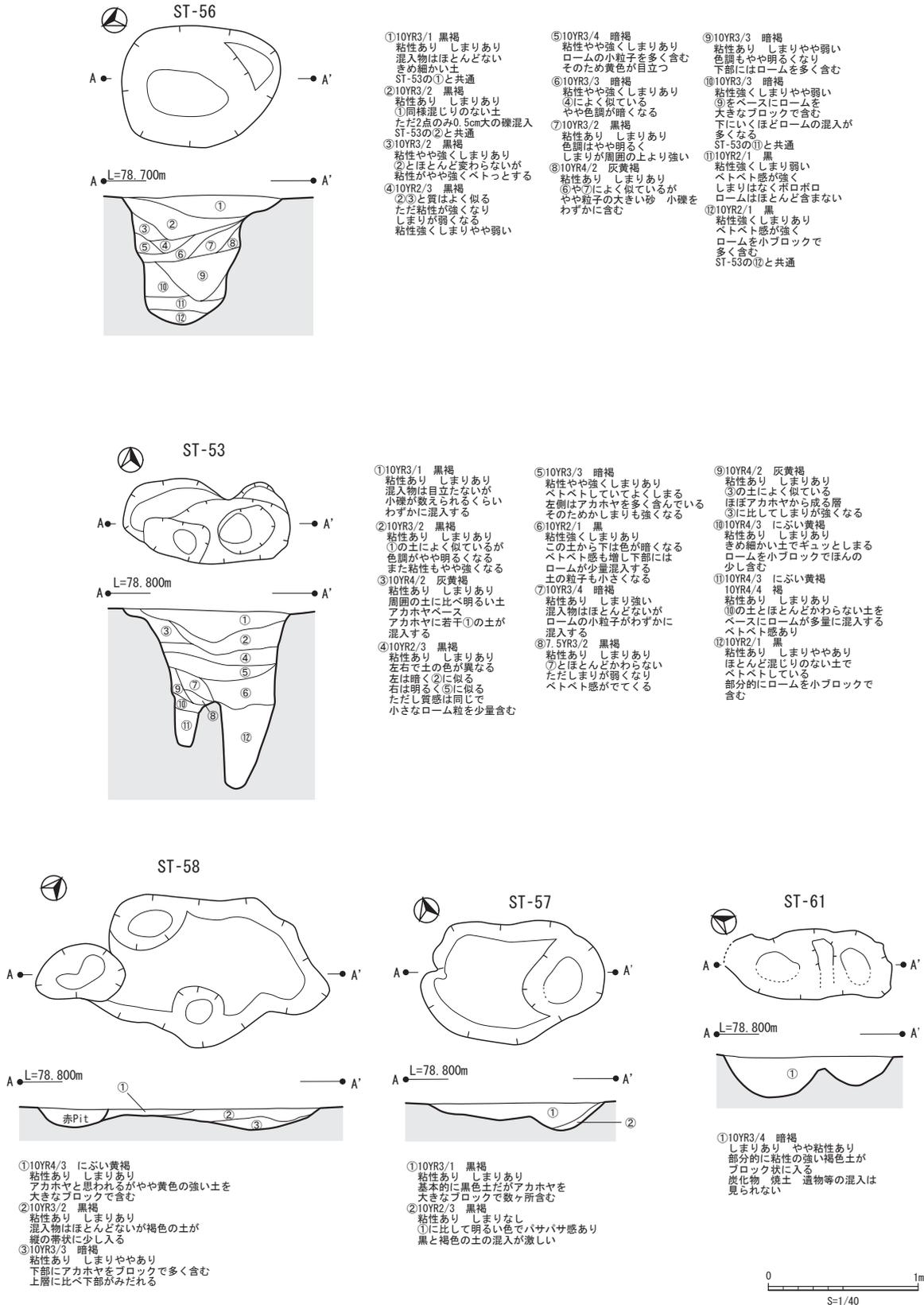
第 45 図 桑鶴遺跡群 VII区 遺構配置図・ST-09・11実測図及び出土遺物実測図



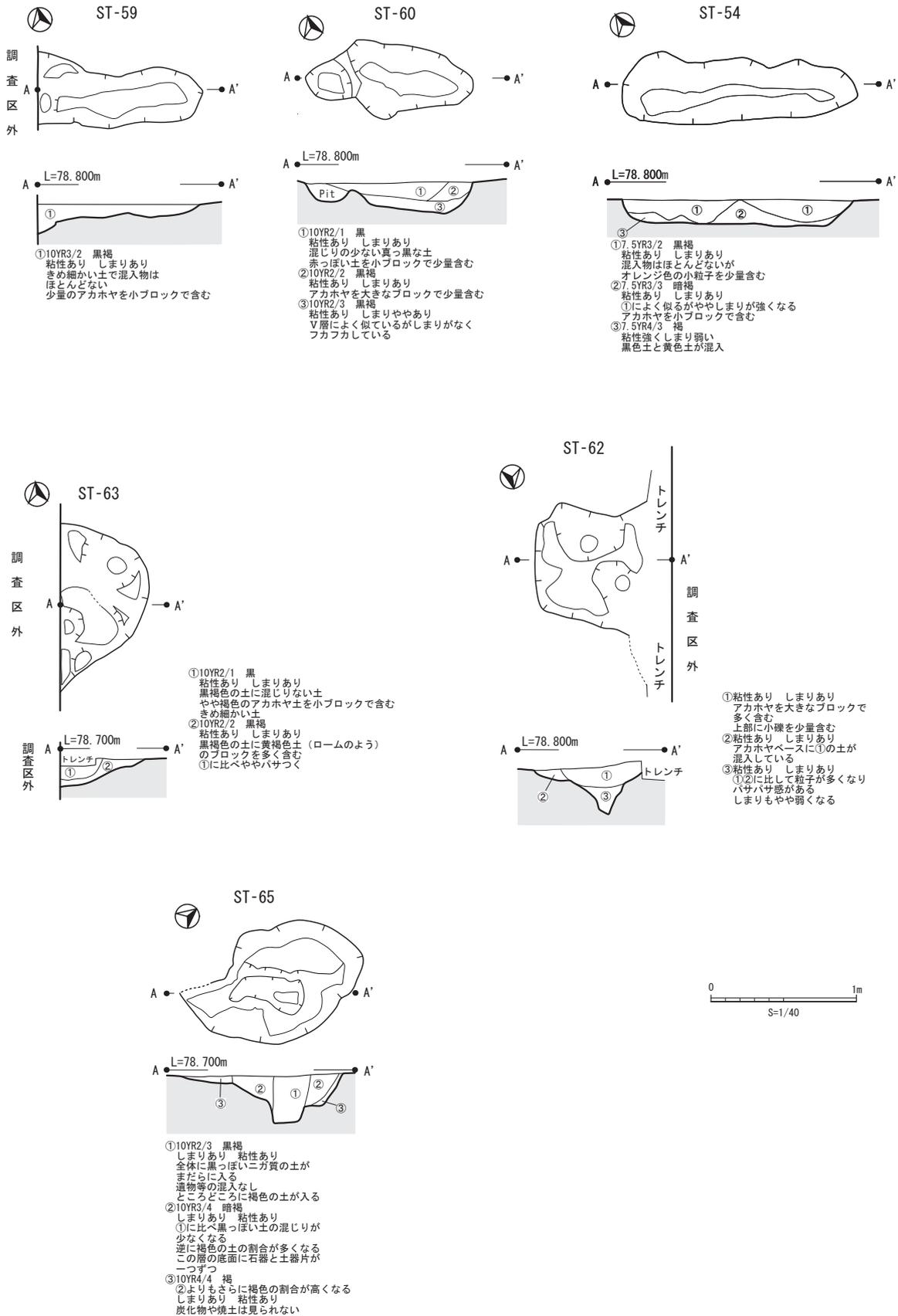
第 46 図 五丁中原遺跡 II 区 III層・IV層 遺構配置図及びST-28～30・32～34実測図



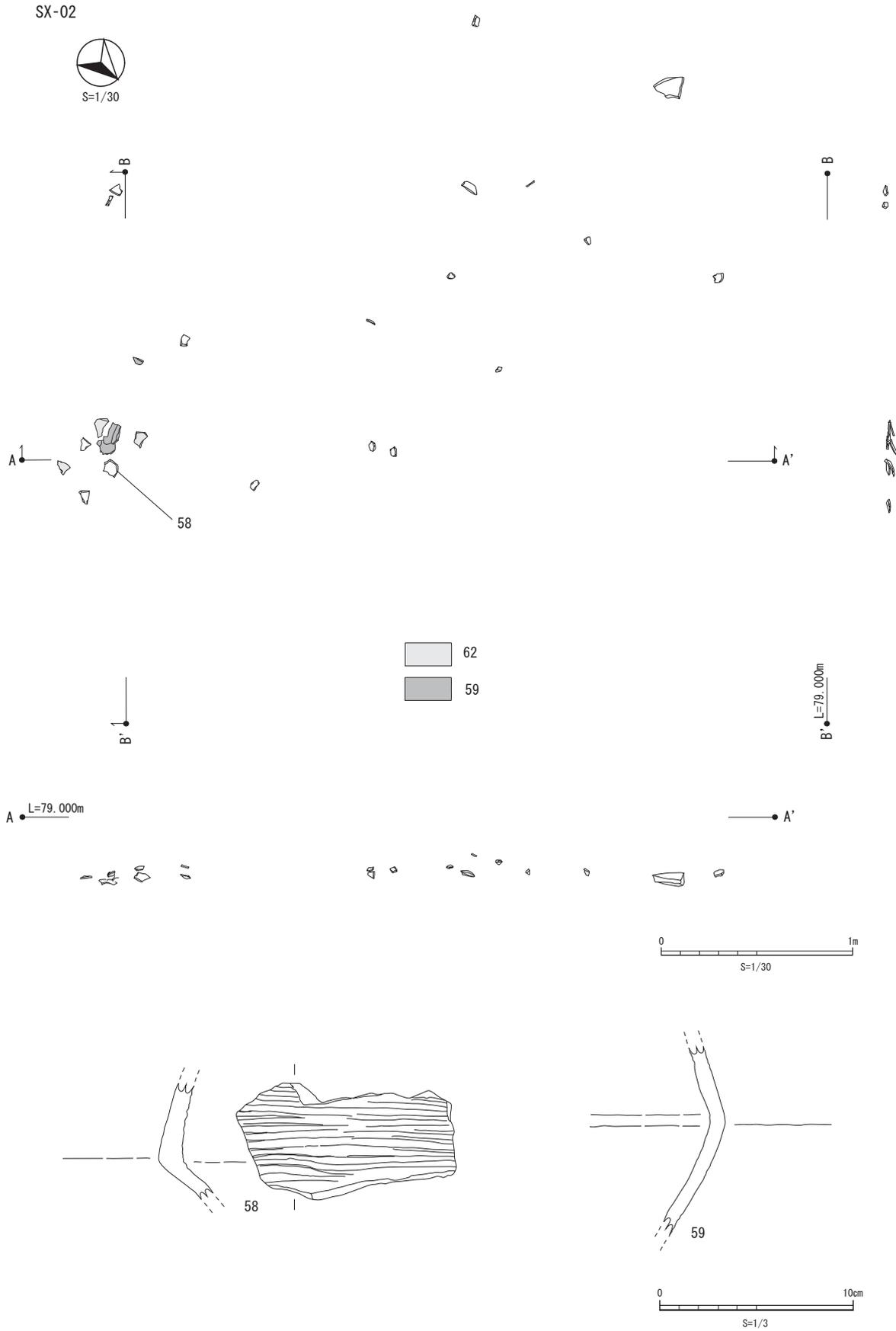
第 47 図 五丁中原遺跡 II 区 IVa層・IVb層 遺構配置図



第 48 図 五丁中原遺跡 II 区 ST-53・56～58・61実測図

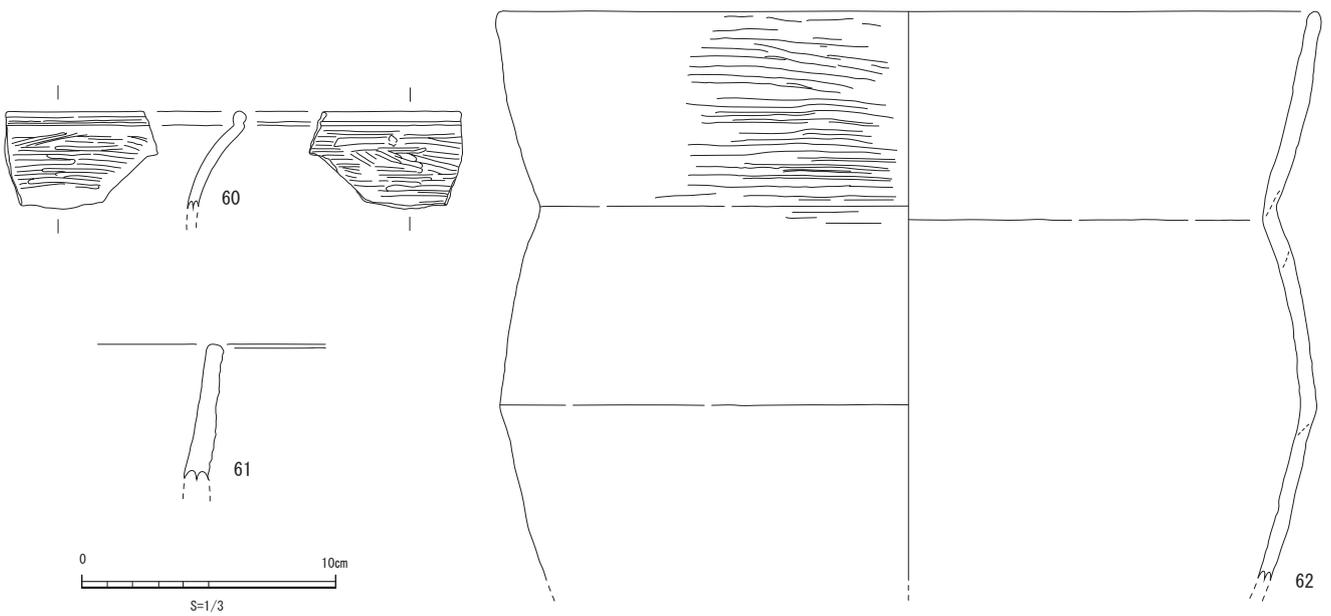


第 49 図 五丁中原遺跡 II 区 ST-54・59・60・62・63・65実測図

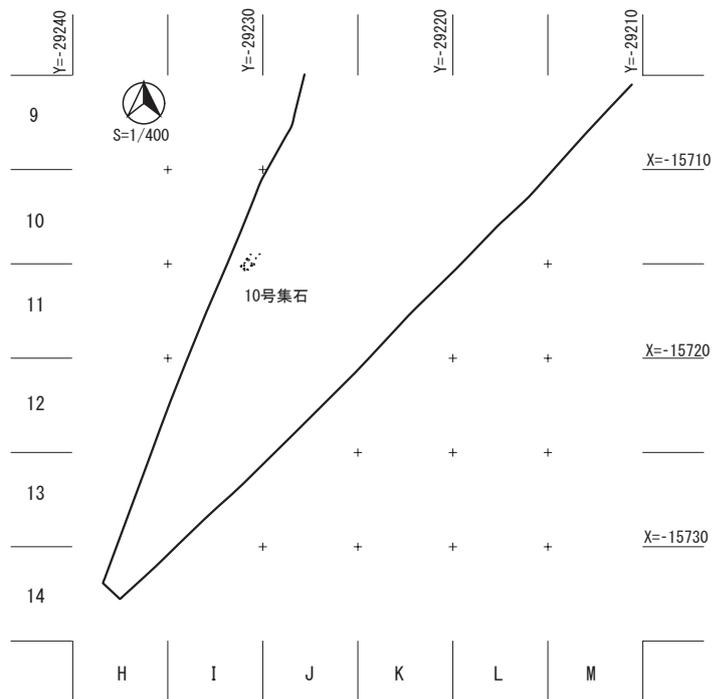


第 50 図 五丁中原遺跡 II 区 SX-02実測図及び出土遺物実測図

SX-04



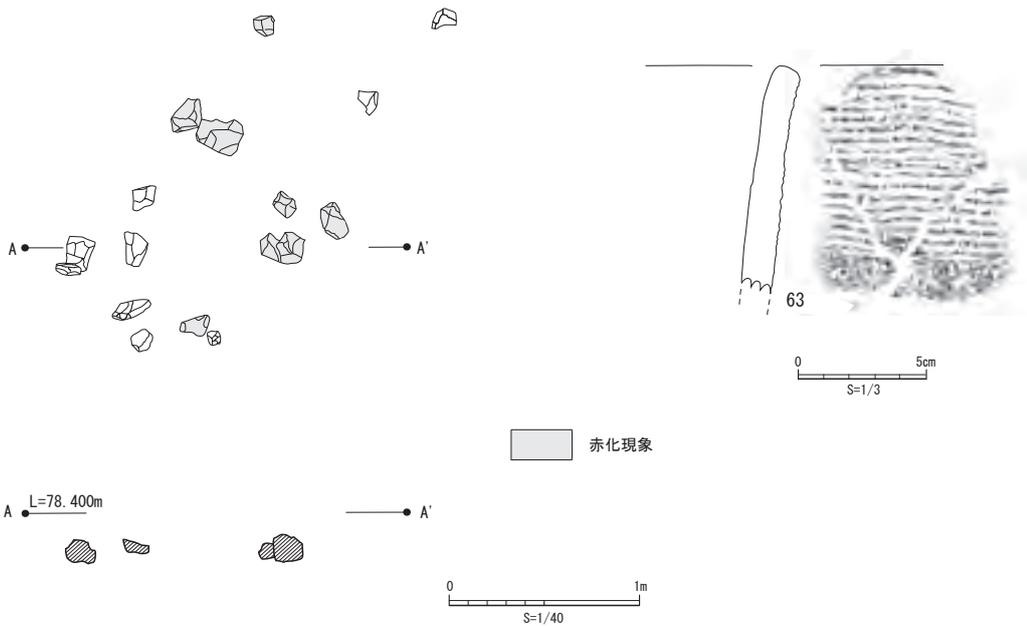
第 51 図 五丁中原遺跡 II 区 SX-04実測図及び出土遺物実測図



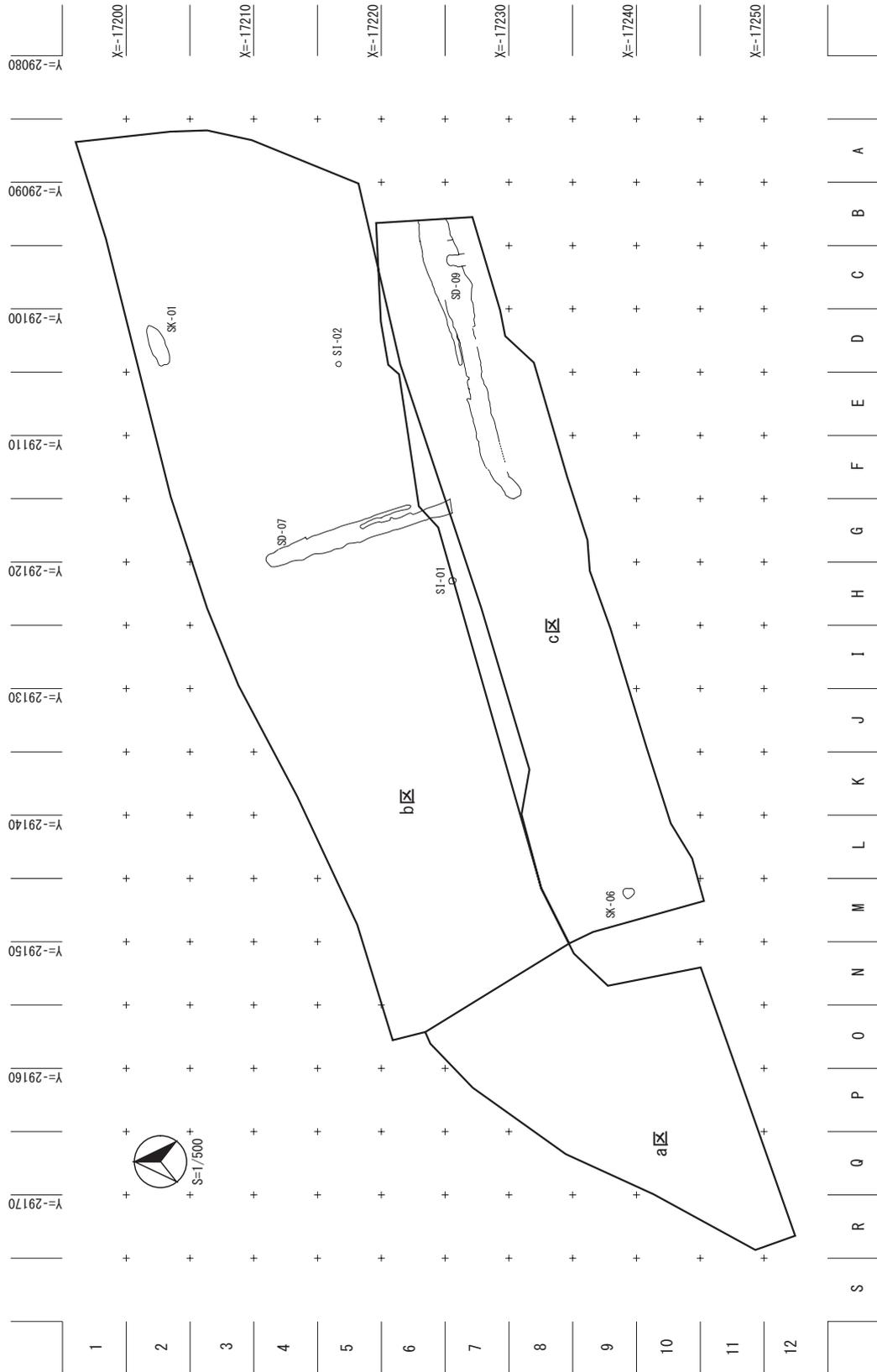
10号集石



63

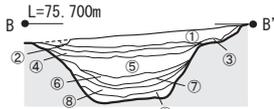


第 52 図 五丁中原遺跡 Ⅲ区
Ⅳ層・Ⅴ層 遺構配置図・10号集石実測図及び出土遺物実測図

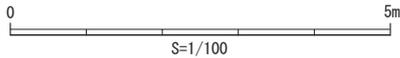


第 53 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 遺構配置図

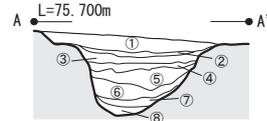
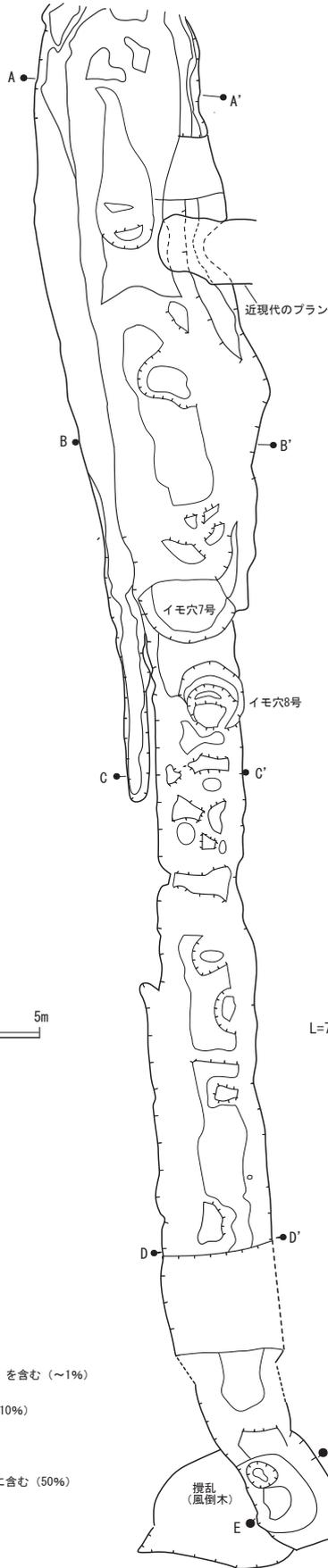
SD-09



- ①10YR2/3 黒褐
粘性なし ややしまる
暗褐色土 (10YR3/4) を含む (3%)
炭化物粒 (~1mm) を含む (~1%)
- ②10YR2/3 黒褐
粘性なし ややしまる
暗褐色土 (10YR3/4) を塊状に含む (5%)
炭化物粒・焼土粒 (~1mm) を含む (~1%)
- ③10YR3/3 暗褐
やや粘質 しまる
焼土粒 (~1mm) を含む (1%)
- ④10YR2/3 黒褐
粘性なし ややしまる
炭化物粒 (~1mm) を含む (1%)
- ⑤10YR3/3 暗褐
粘性なし しまりなし
暗褐色土 (10YR3/4) を塊状に含む (30%)
- ⑥10YR3/2 暗褐
粘性なし しまりなし
礫 (~4mm) を含む (~1%)
- ⑦10YR3/3 暗褐
粘性なし ややしまる
- ⑧10YR2/2 暗褐
粘質 よくしまる
- ⑨10YR2/3 黒褐
やや粘質 よくしまる



- ①10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
焼土粒 (~2mm) 炭化物粒 (3mm) を含む (~1%)
- ②10YR2/3 黒褐
粘性なし ややしまる
暗褐色土 (10YR3/4) を塊状に含む (10%)
- ③10YR3/4 暗褐
粘質 ややしまる
礫 (1cm) を含む (1%)
- ③' 10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
褐色土 (10YR4/4) の粘質土を塊状に含む (50%)



- ①10YR3/3 暗褐
粘性なし ややしまる
10YR3/4 暗褐を塊状に含む (30%)
礫 (~3mm) を含む (1%未満)
- ②10YR2/3 黒褐
粘性なし よくしまる
10YR3/4 暗褐を塊状に含む (3%)
礫 (~3mm) を含む (1%未満)
- ③10YR2/2 黒褐
粘性なし しまりなし
礫 (~1mm) を含む (1%未満)
- ④10YR2/2 黒褐
粘性なし ややしまる
礫 (~1mm) を含む (1%未満)
- ⑤10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
10YR3/4 黒褐を層状に含む
- ⑥10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
- ⑦10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
- ⑧10YR3/2 黒褐
やや粘質 しまりなし
部分的によくしまる土を塊状に含む (50%)



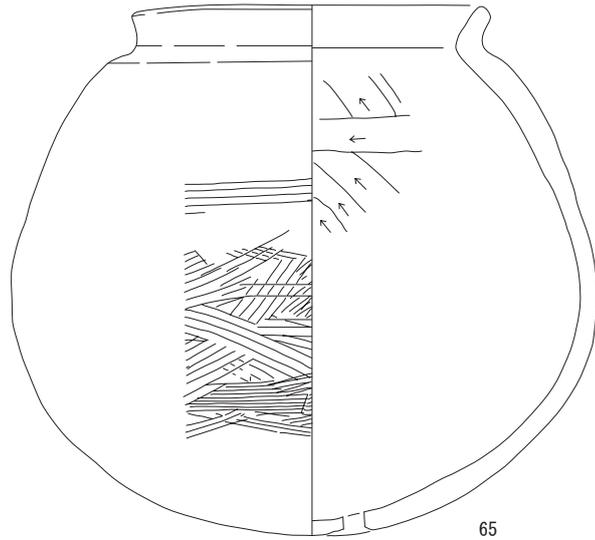
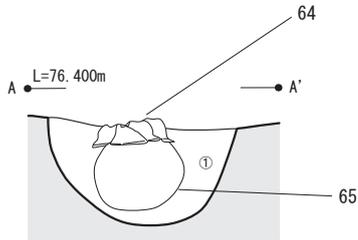
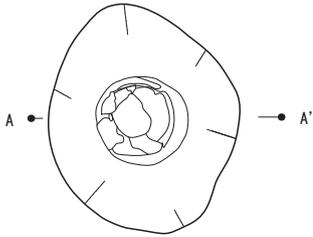
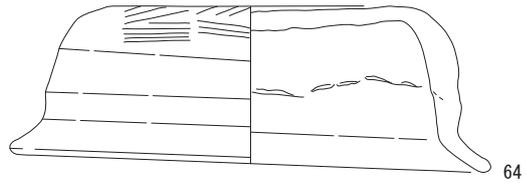
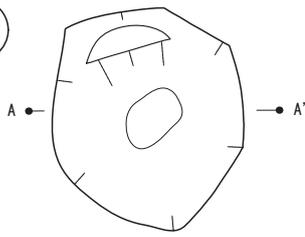
- ①10YR2/2 黒褐
粘性なし しまりなし
砂粒 (~1mm) を含む (~1%)
- ②10YR2/2 黒褐
粘性なし ややしまる
- ③10YR2/2 黒褐
粘性なし しまる
暗褐色 (10YR3/4) の粘質土を塊状に含む (15%)



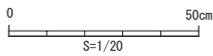
- ①10YR2/2 黒褐
粘性なし しまりなし
礫 (~2mm) を含む (1%)
- ②10YR2/2 黒褐
粘性なし ややしまる
- ③10YR2/2 黒褐
粘性なし しまる
礫 (~1mm) を含む (~1%)
焼土or粘土粒 (~1mm) を含む (~1%)

第 54 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 SD-09実測図

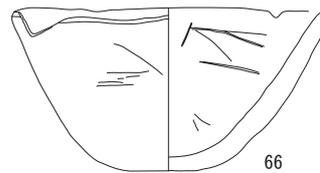
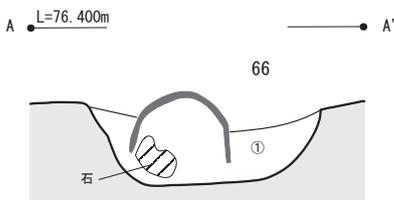
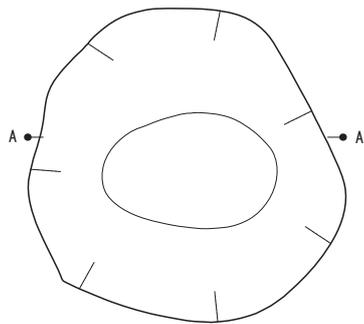
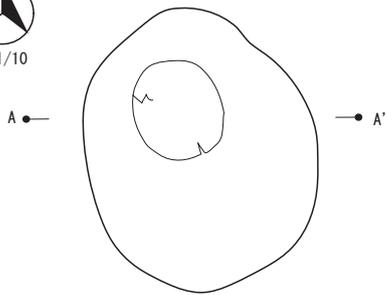
SI-01



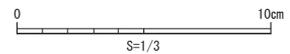
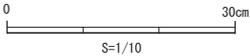
①7.5YR3/3 暗褐
 粘性なし しまりなし
 7.5YR1/2 黒色土を含む(炭化物の影響か)
 炭塊(~3cm)を含む(50%~)
 (炭化物はすべて木炭)
 隩土は特に見られない



SI-02

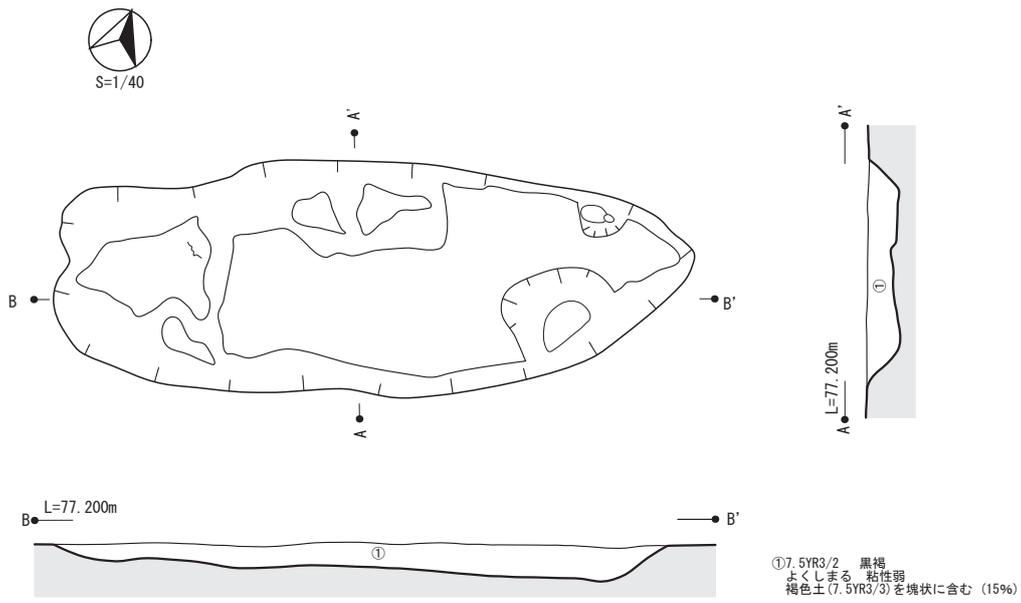


①7.5YR3/4 暗褐
 粘性なし しまりなし

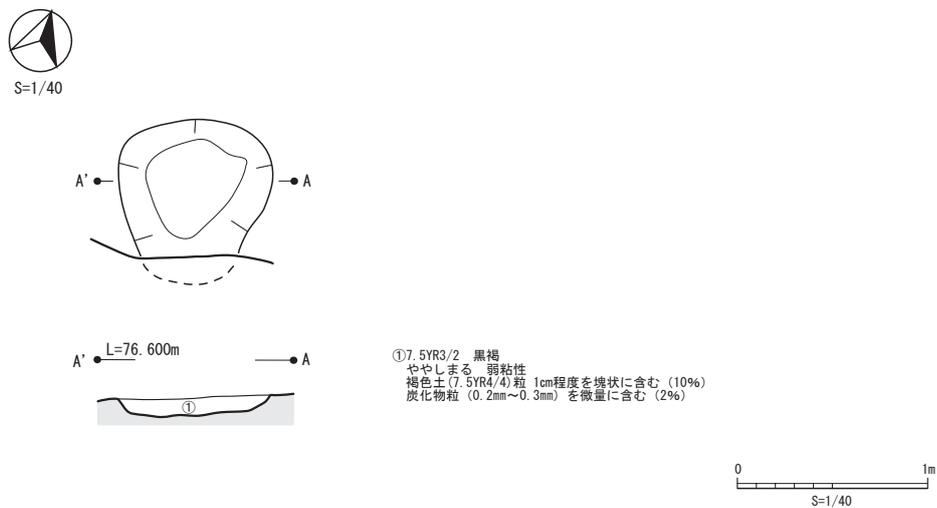


第 55 図 桑鶴遺構群 06- I 区 SI-01・02実測図及び出土遺物実測図

SK-01

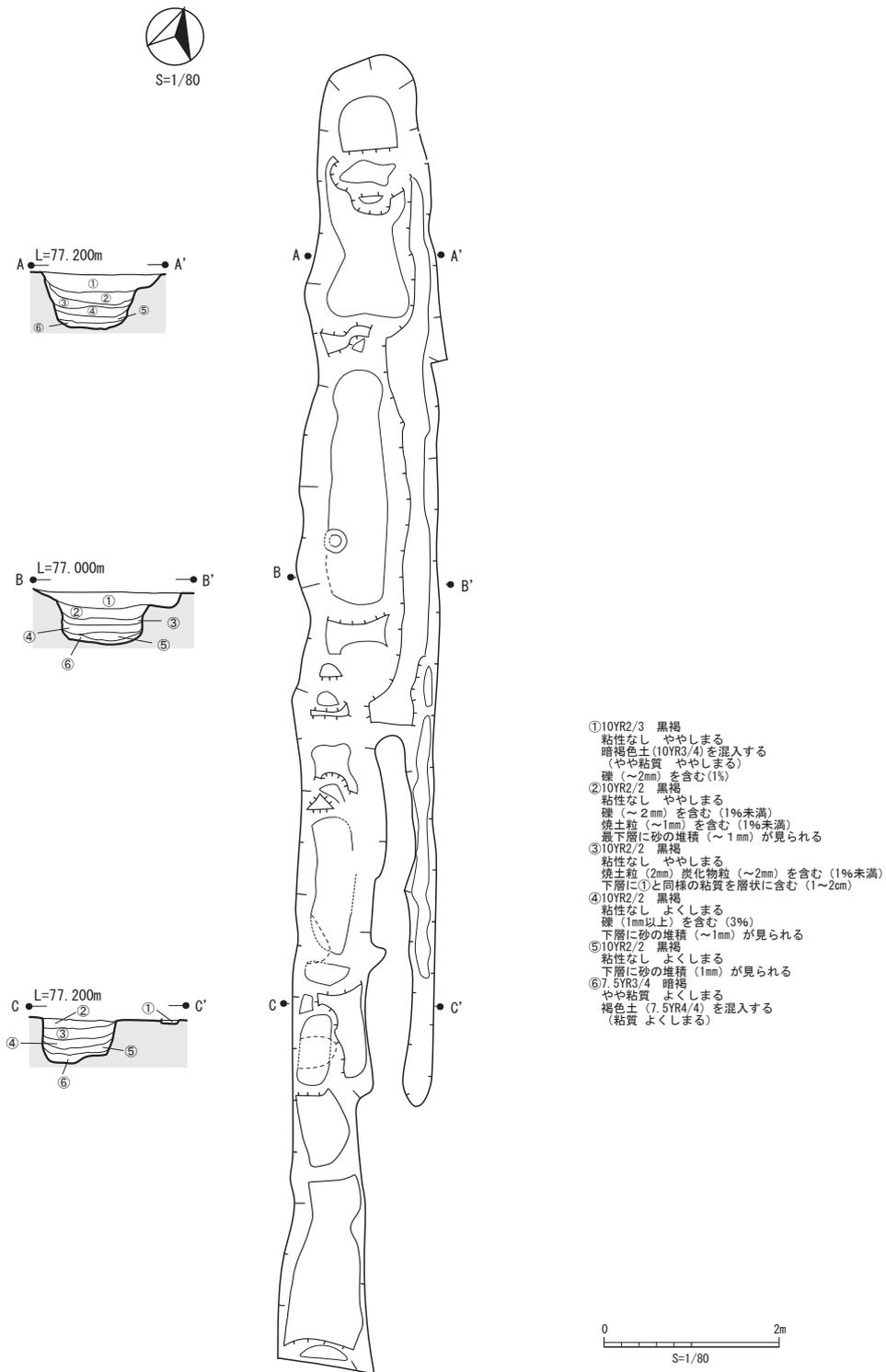


SK-06

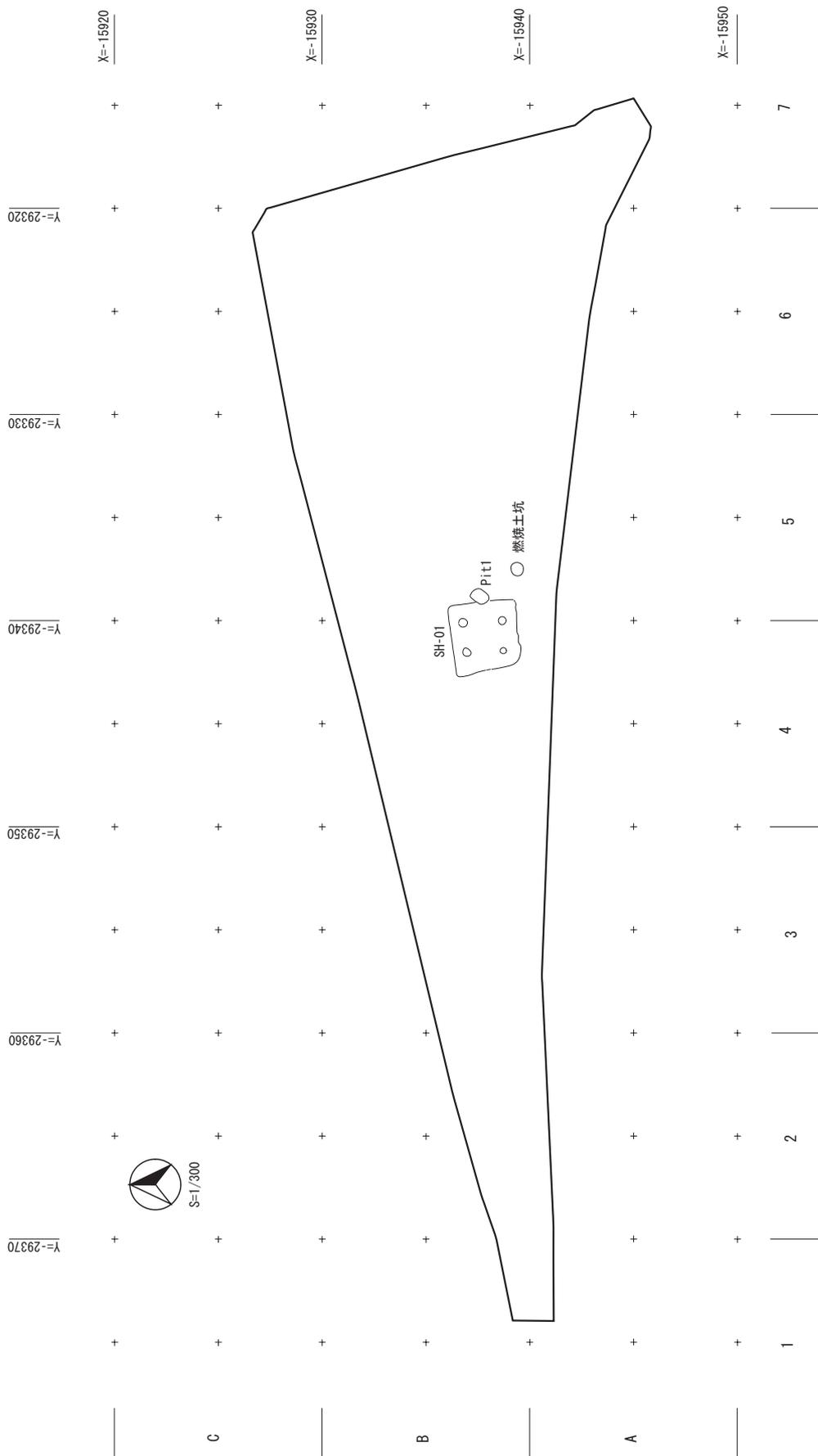


第 56 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 SK-01・06実測図

SD-07

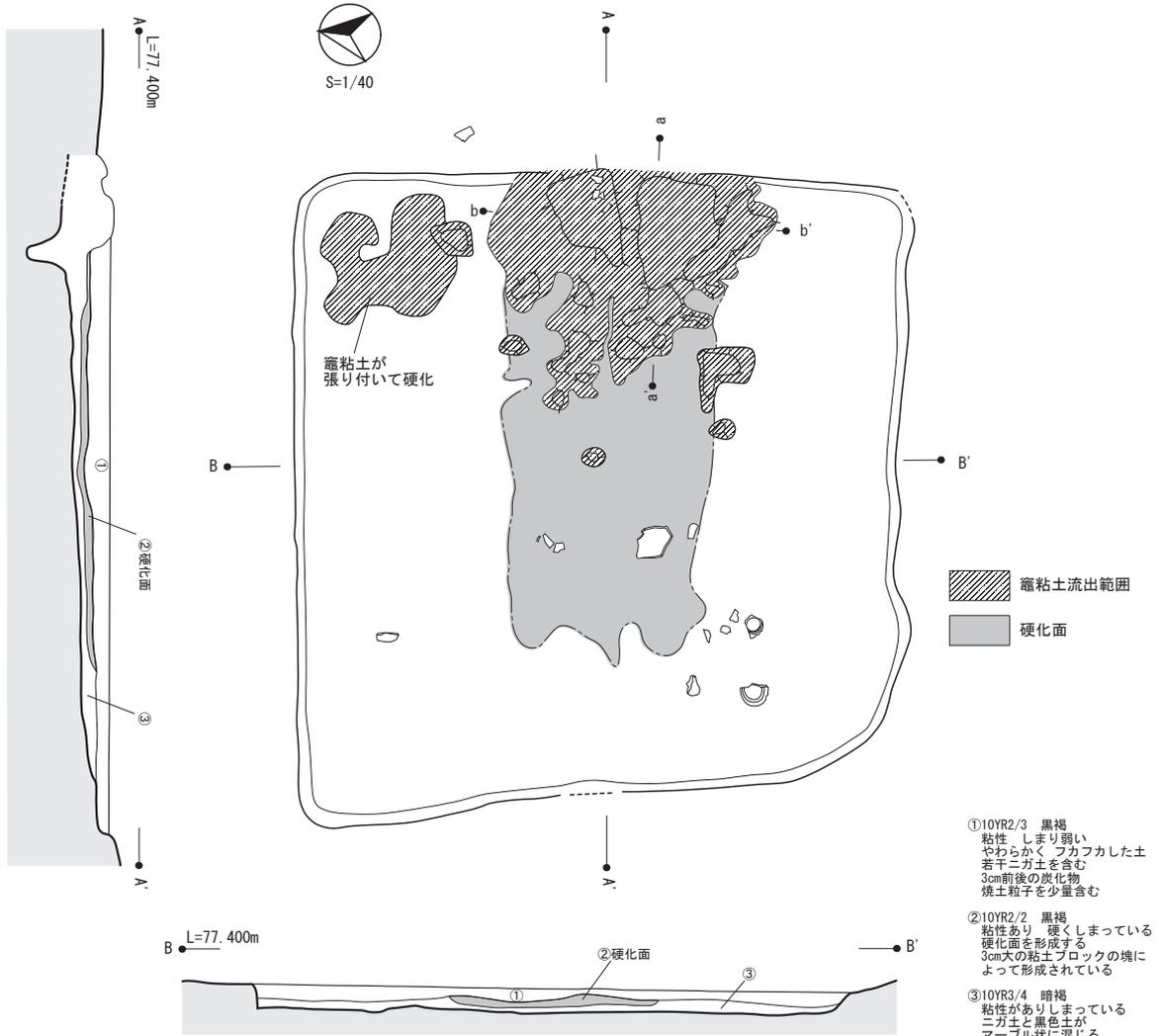


第 57 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 SD-07実測図

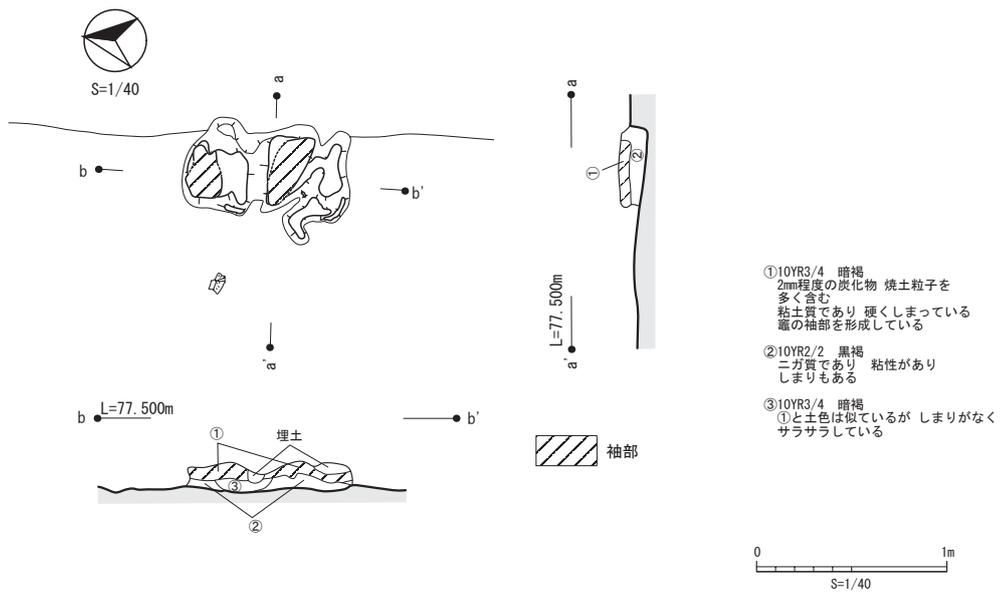


第58図 桑鶴遺跡群 I区 遺構配置図

硬化面・粘土検出状況

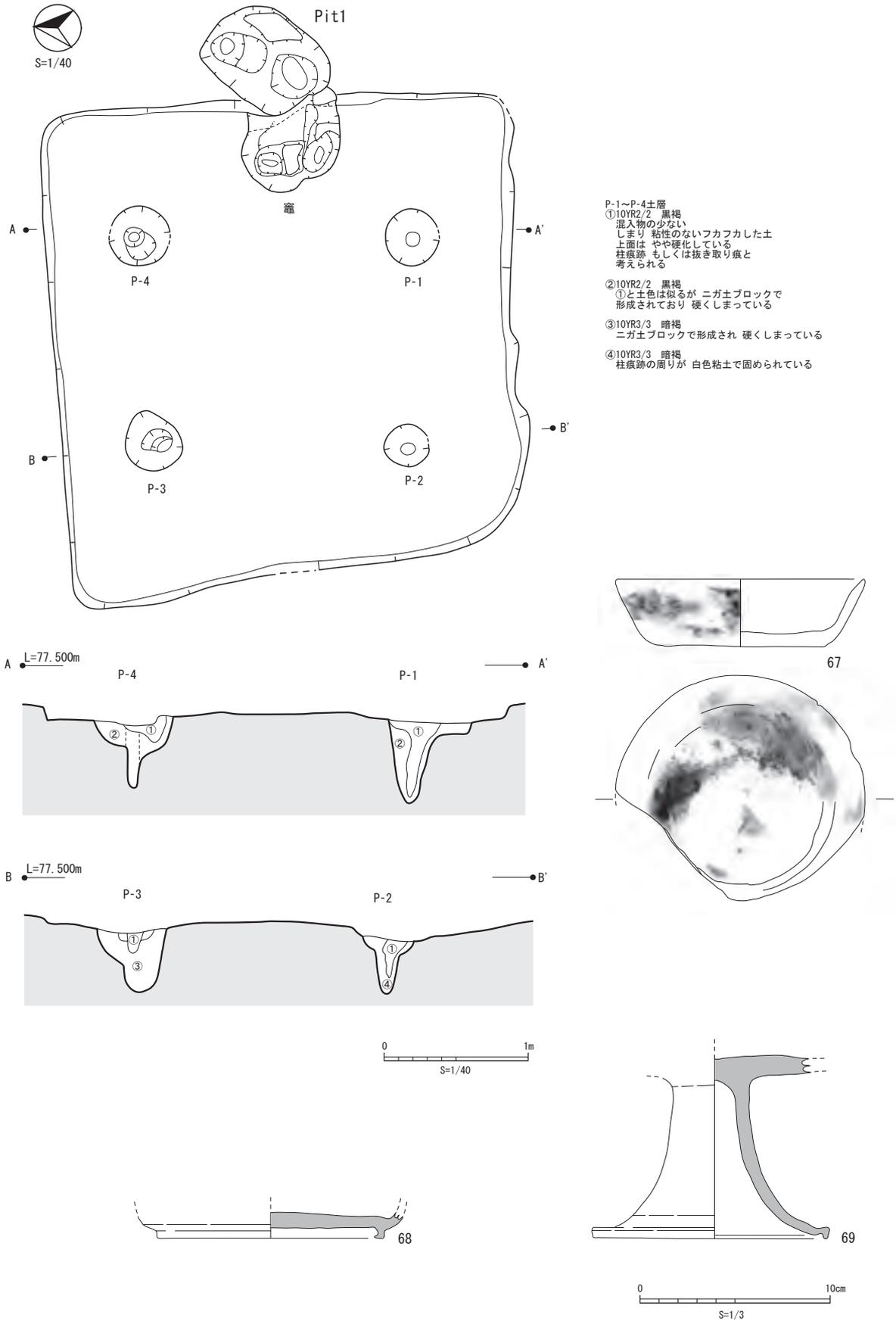


竈検出状況



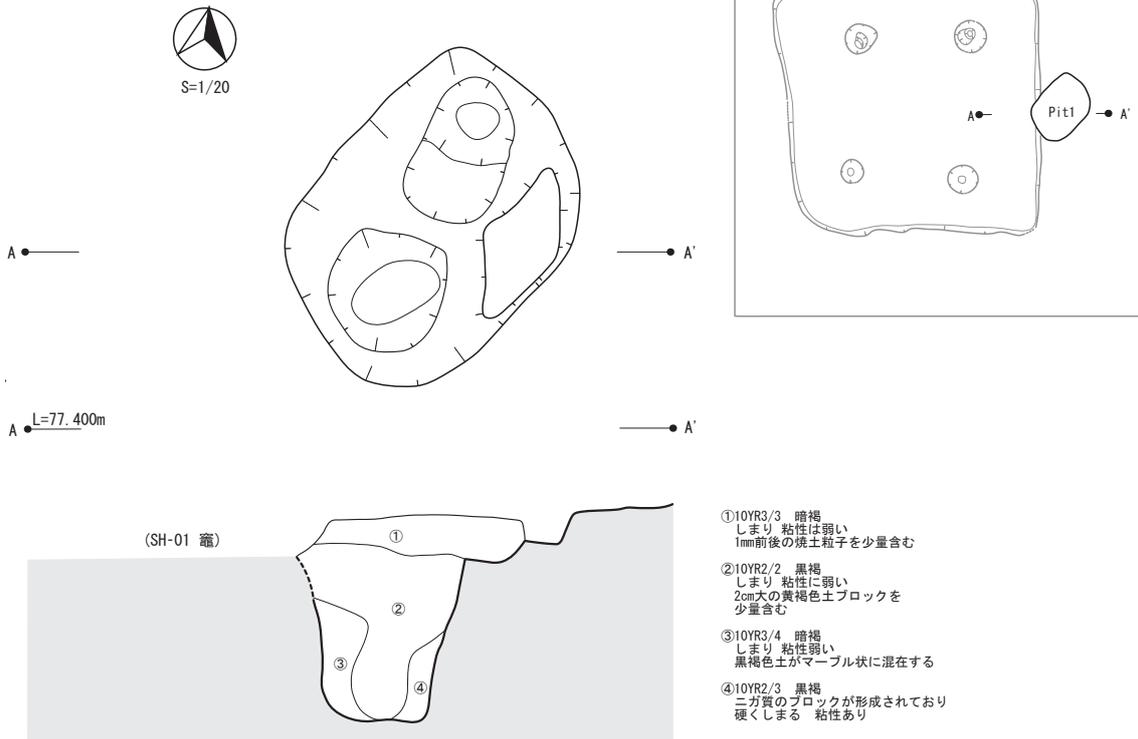
第 59 図 桑鶴遺跡群 I 区 SH-01実測図及び竈実測図

竈完掘・P-1～P-4検出状況

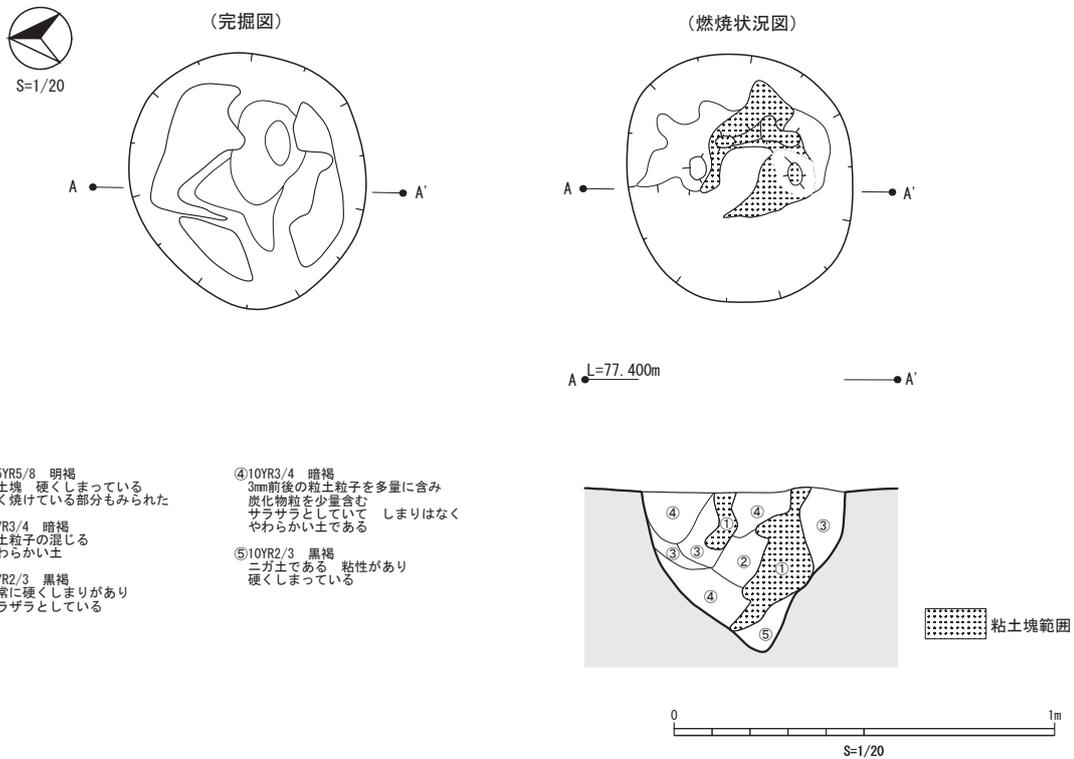


第 60 図 桑鶴遺跡群 I 区 SH-01完掘図及び出土遺物実測図

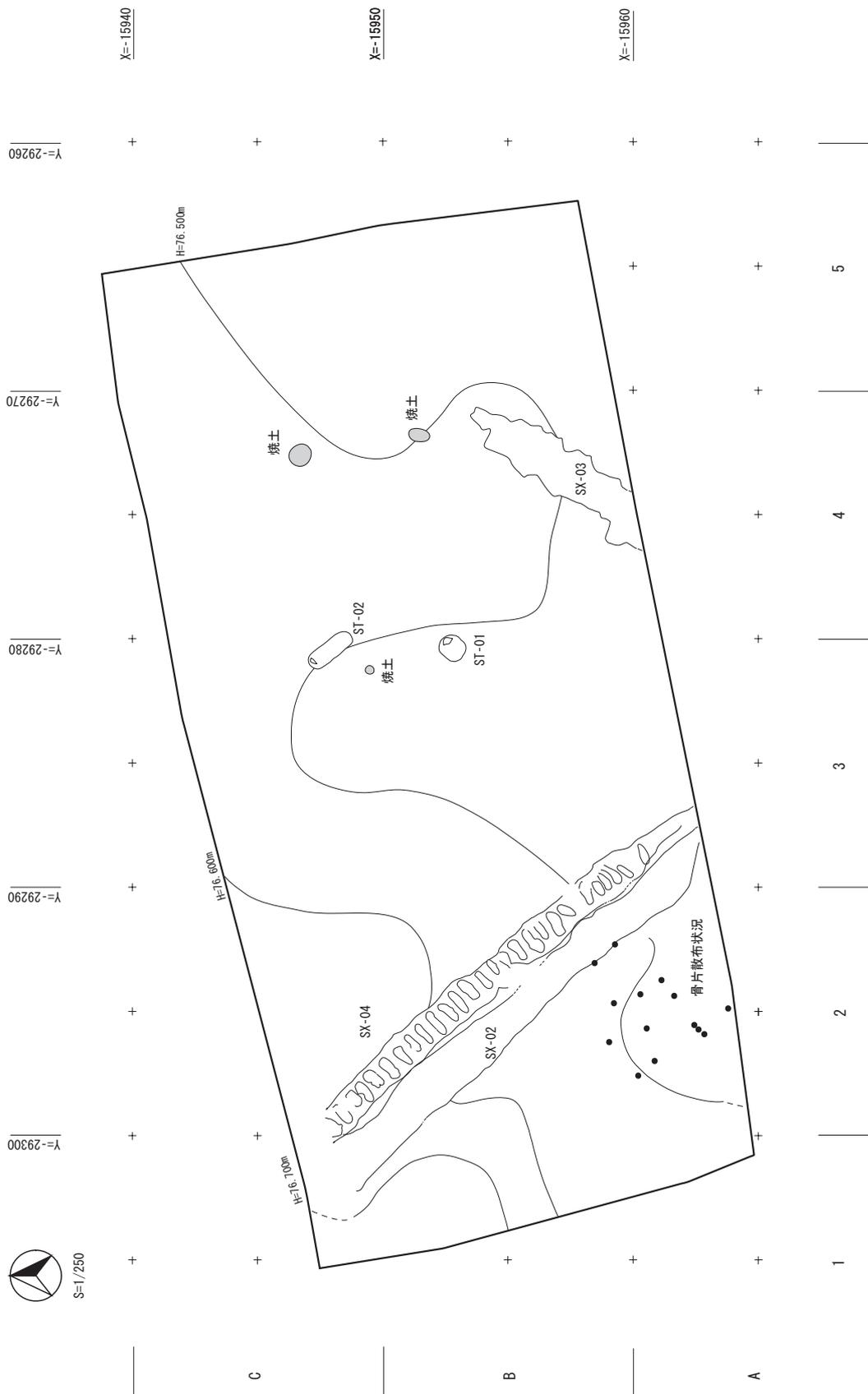
Pit 1



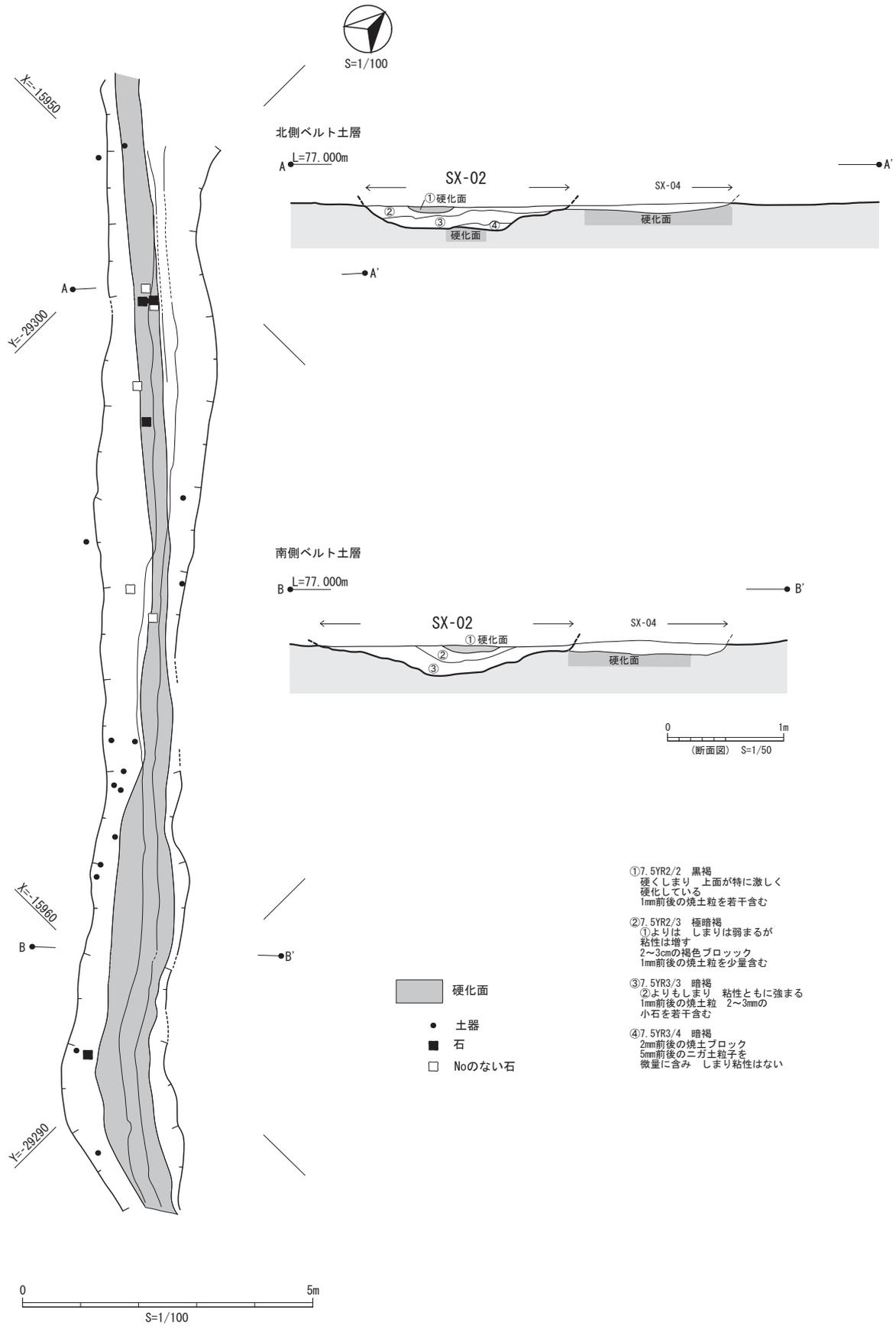
燃烧土坑



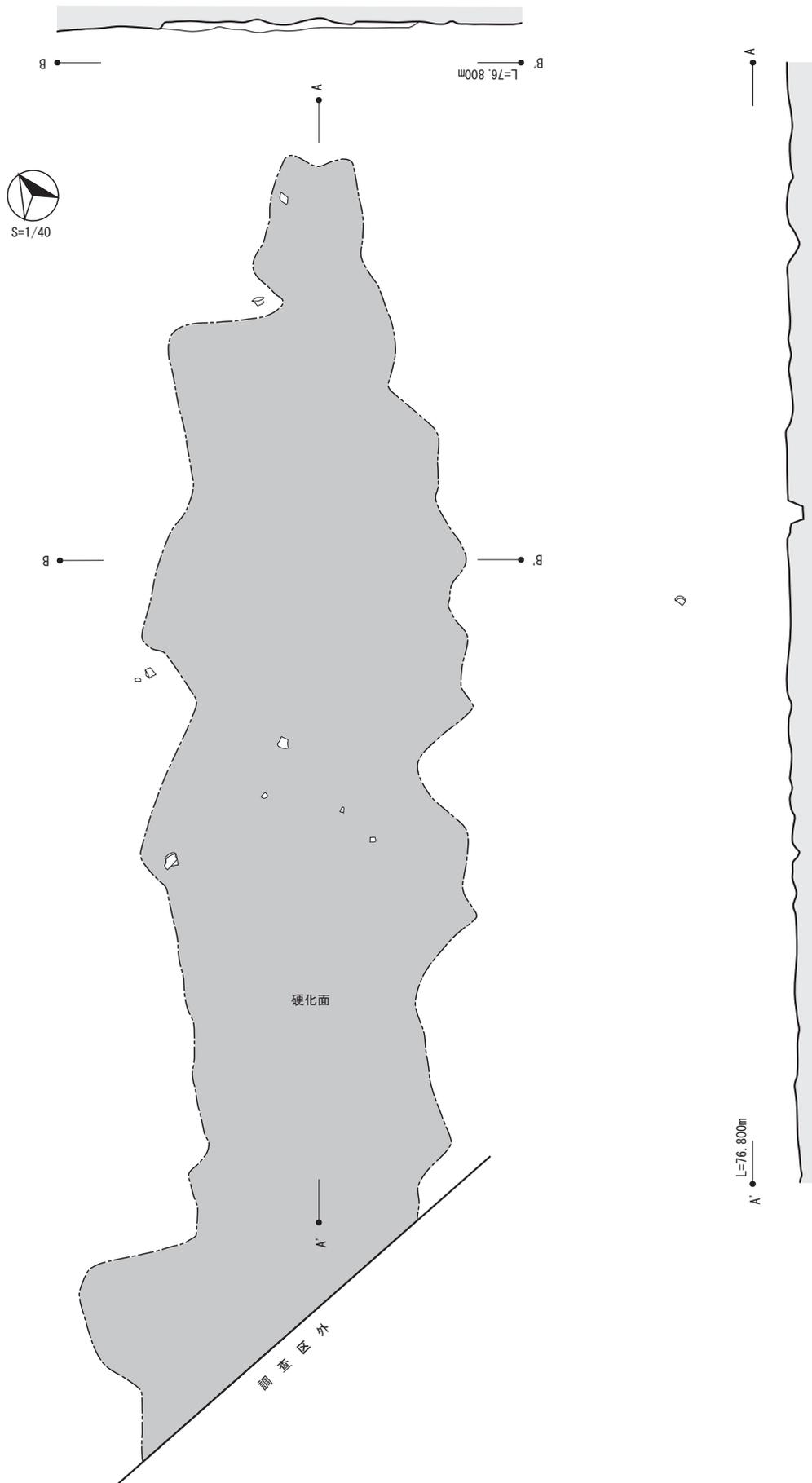
第 61 図 桑鶴遺跡群 I 区 Pit1・燃烧土坑実測図



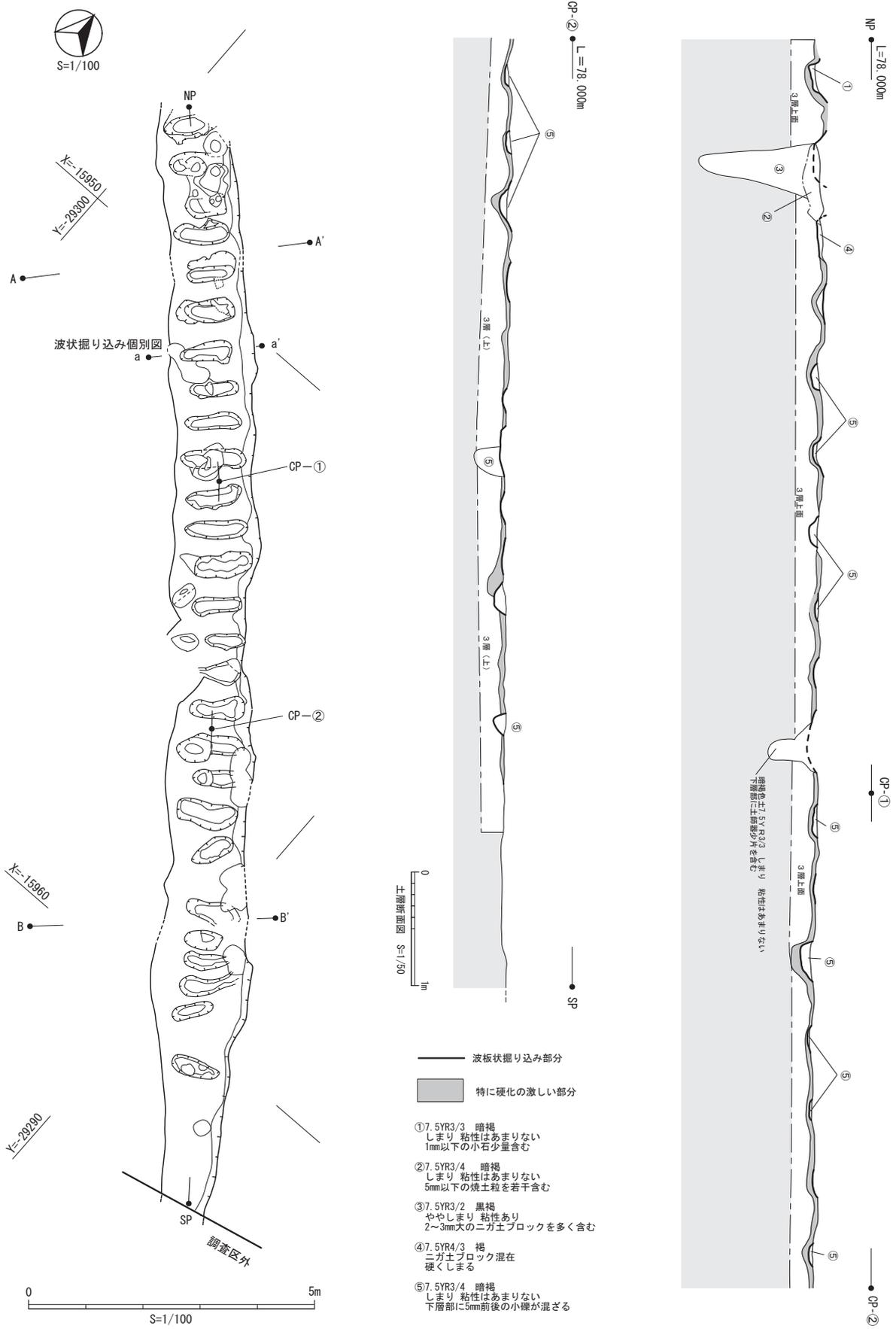
第 62 図 桑鶴遺跡群 II 区 コンタ図及び遺構配置図 (Ⅲ層上面検出)



第 63 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-02実測図

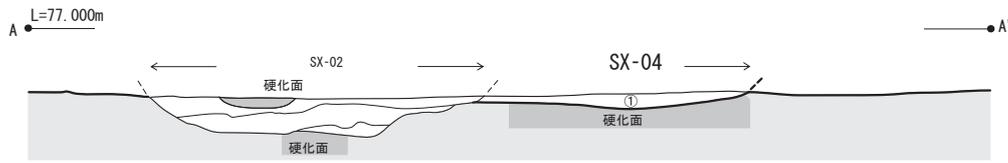


第 64 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-03実測図

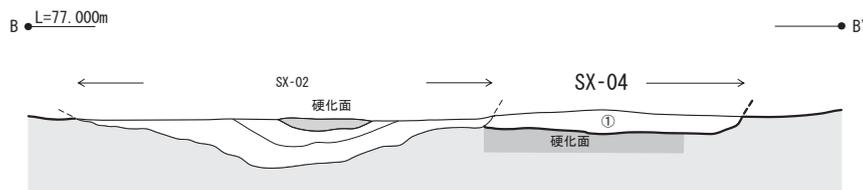


第 65 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-04実測図

北側ベルト土層



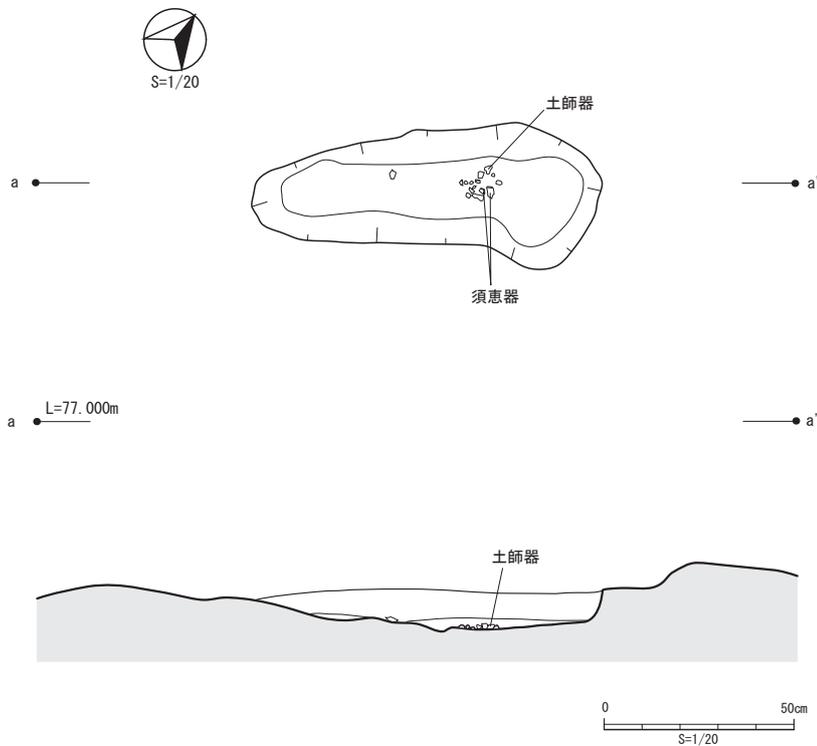
南側ベルト土層



SX-04
① 7.5YR3/3 暗褐
しまり 粘性はあまりない
1cm以下の小石 土器細片を
少量含む

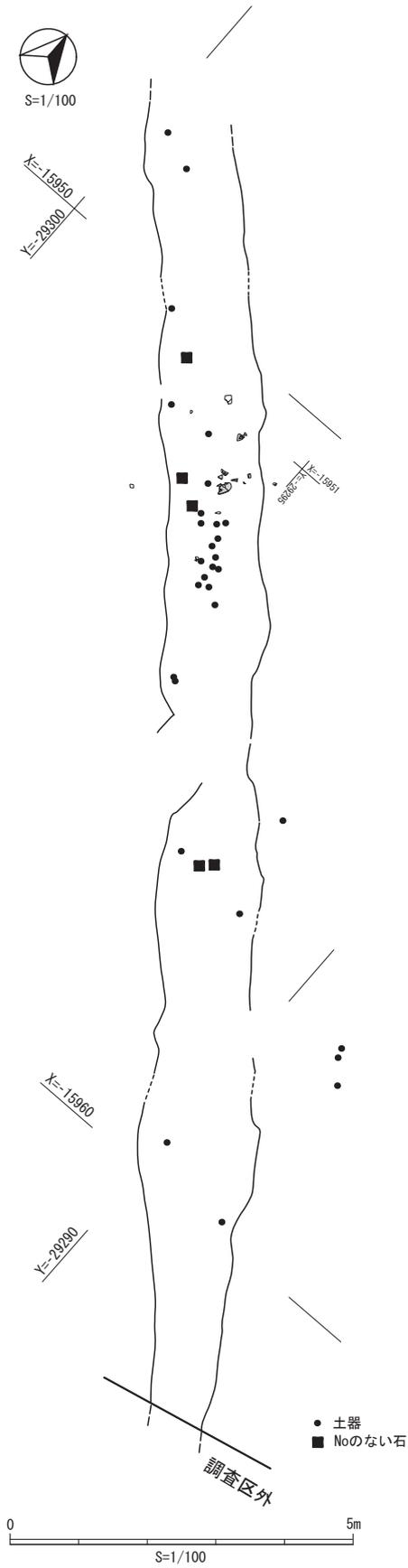


波状掘り込み状況

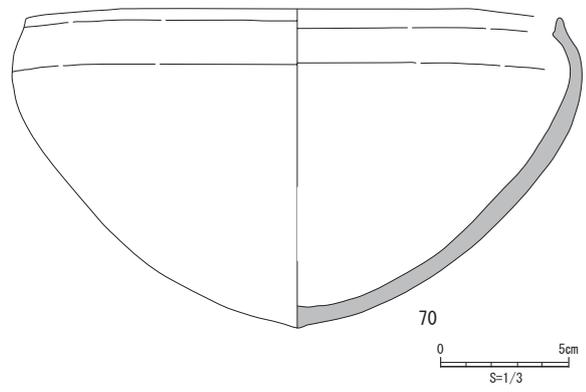
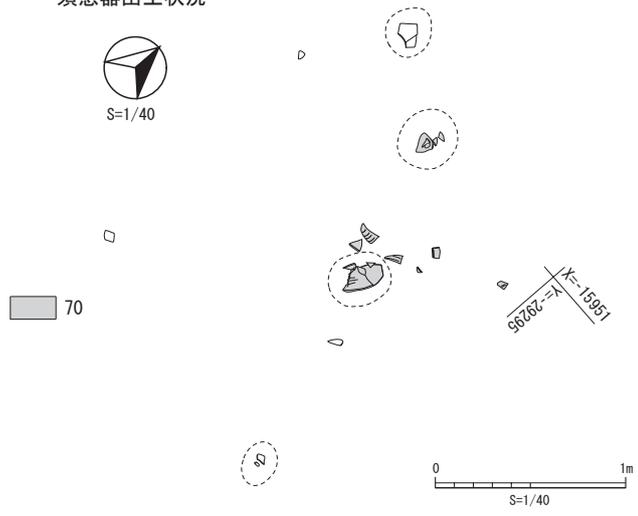


第 66 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-04ベルト土層断面図及び波状掘り込み実測図

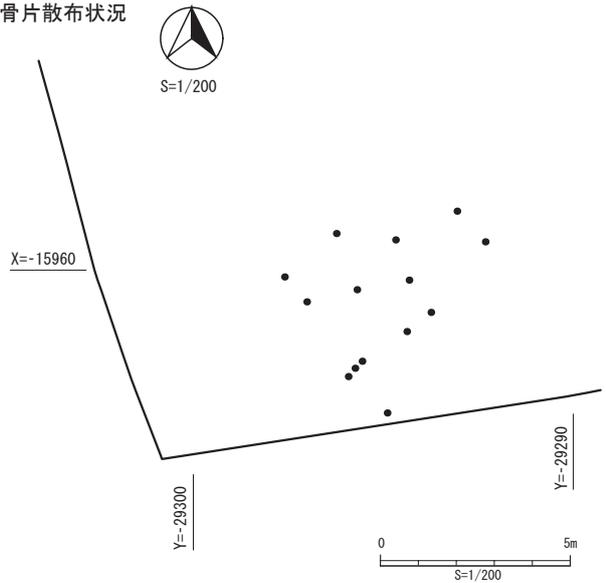
遺物散布状況



須恵器出土状況

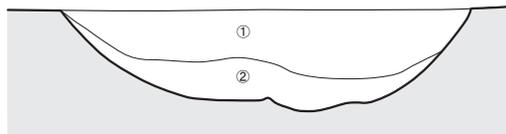
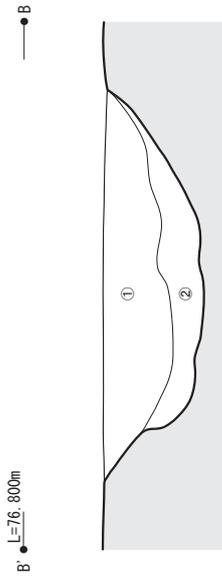
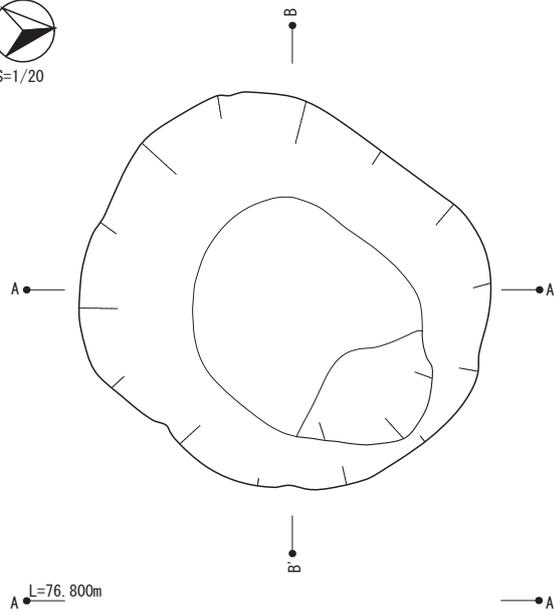


骨片散布状況

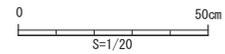


第 67 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-04遺物出土状況・骨片散布状況及び出土遺物実測図

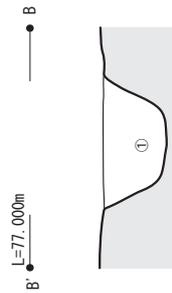
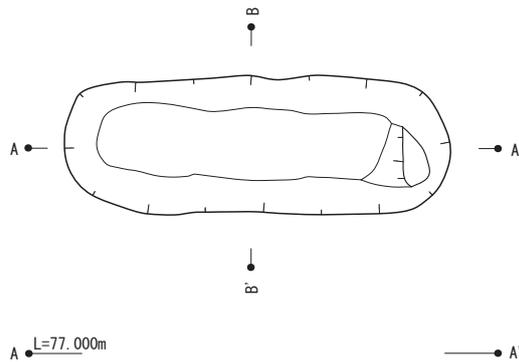
ST-01



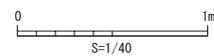
- ①7. 5YR2/2 黒褐
しまり弱く やや粘性がある
混入物 炭化物を少量含む
- ②7. 5YR2/1 黒
ややしまりがあり やや粘性がある
混入物 炭化物を多量に含む



ST-02



- ①7. 5YR3/4 暗褐
ややしまりと粘性がある
混入物 炭化物を少量含む

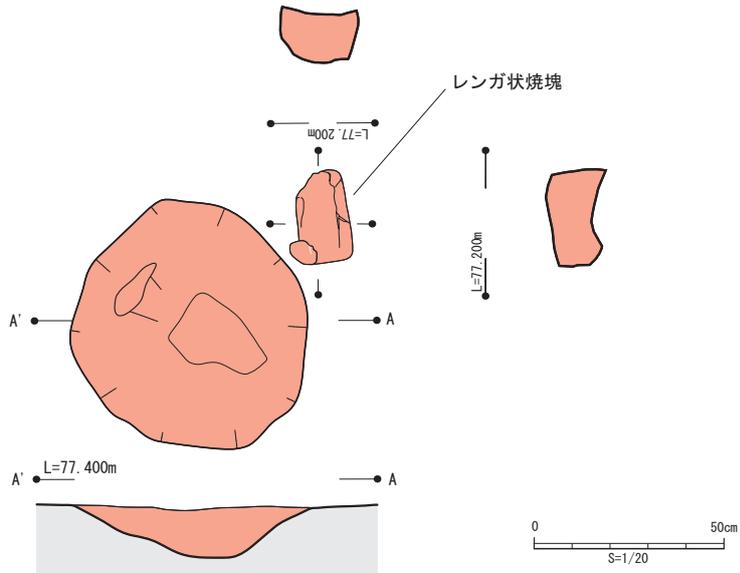


第 68 図 桑鶴遺跡群 II 区 ST-01・02実測図

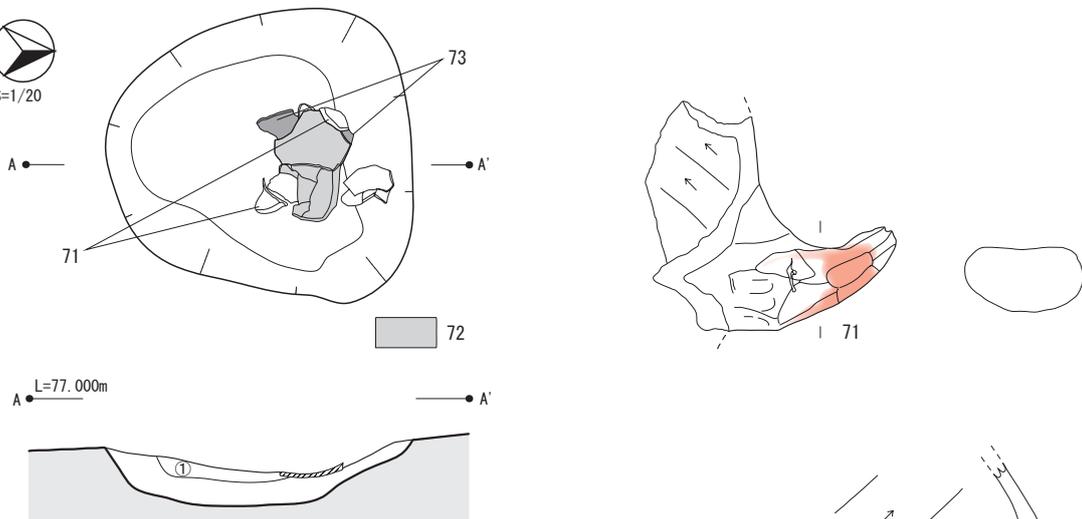


第 69 図 桑鶴遺跡群 III・VI区 遺構配置図及び遺物出土状況

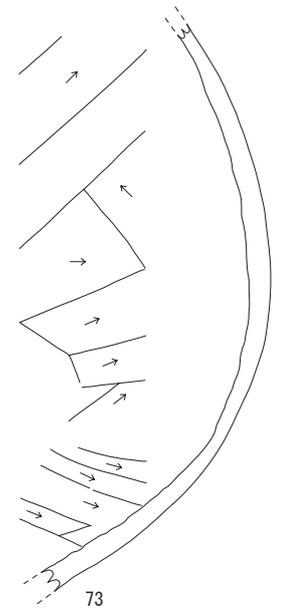
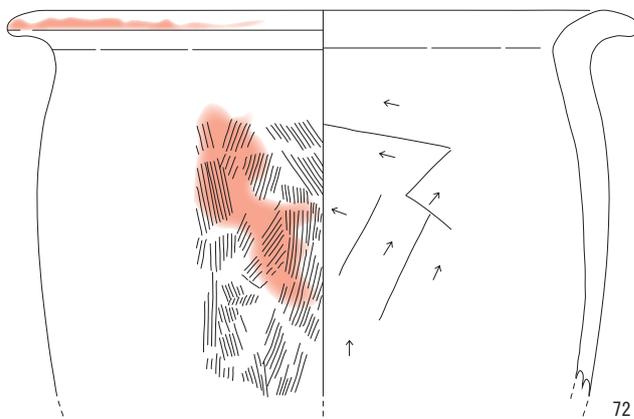
燃烧土坑 No. 1



ST-01

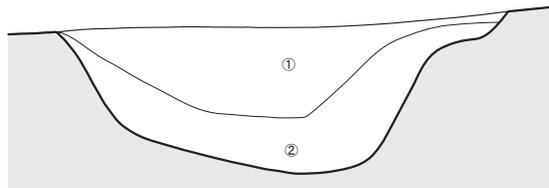
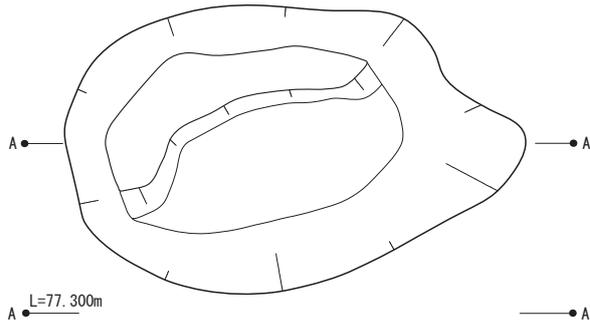


① 黒褐色シルト
シルト状でしまりあまりなく
フカフカ感あり



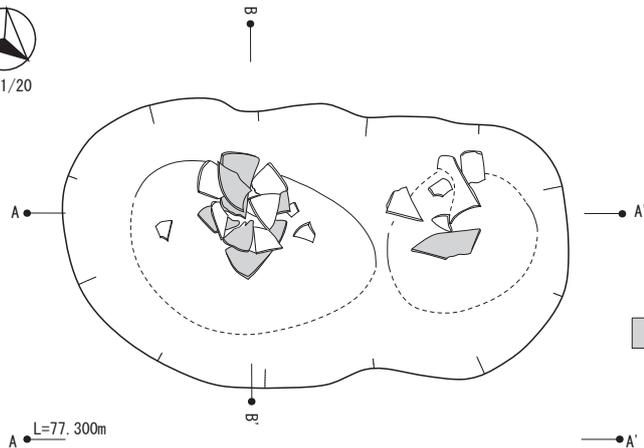
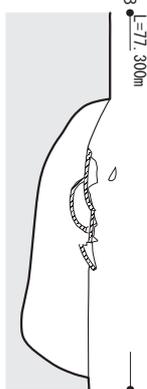
第 70 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 燃烧土坑No. 1・ST-01実測図及び出土遺物実測図

ST-04



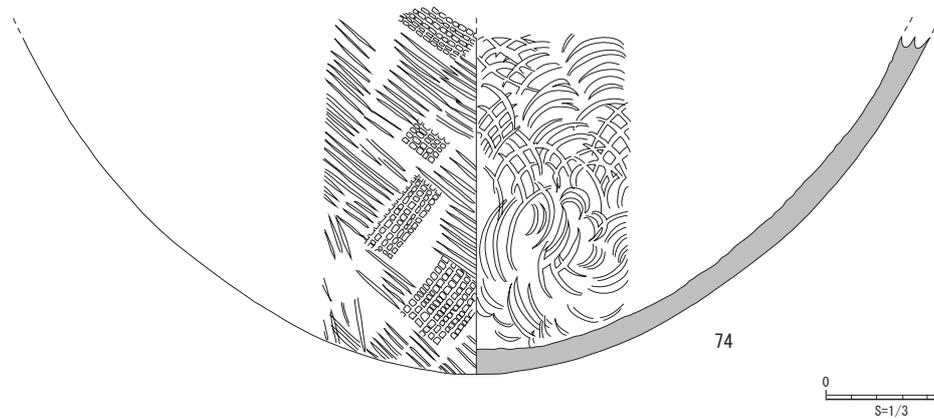
- ①10YR2/3 黒褐
粘性としまり
あまりなくやわらかい土
- ②10YR2/3 黒褐
粘性としまりがあり 硬い土
部分的に褐色土が混じる

ST-07



74

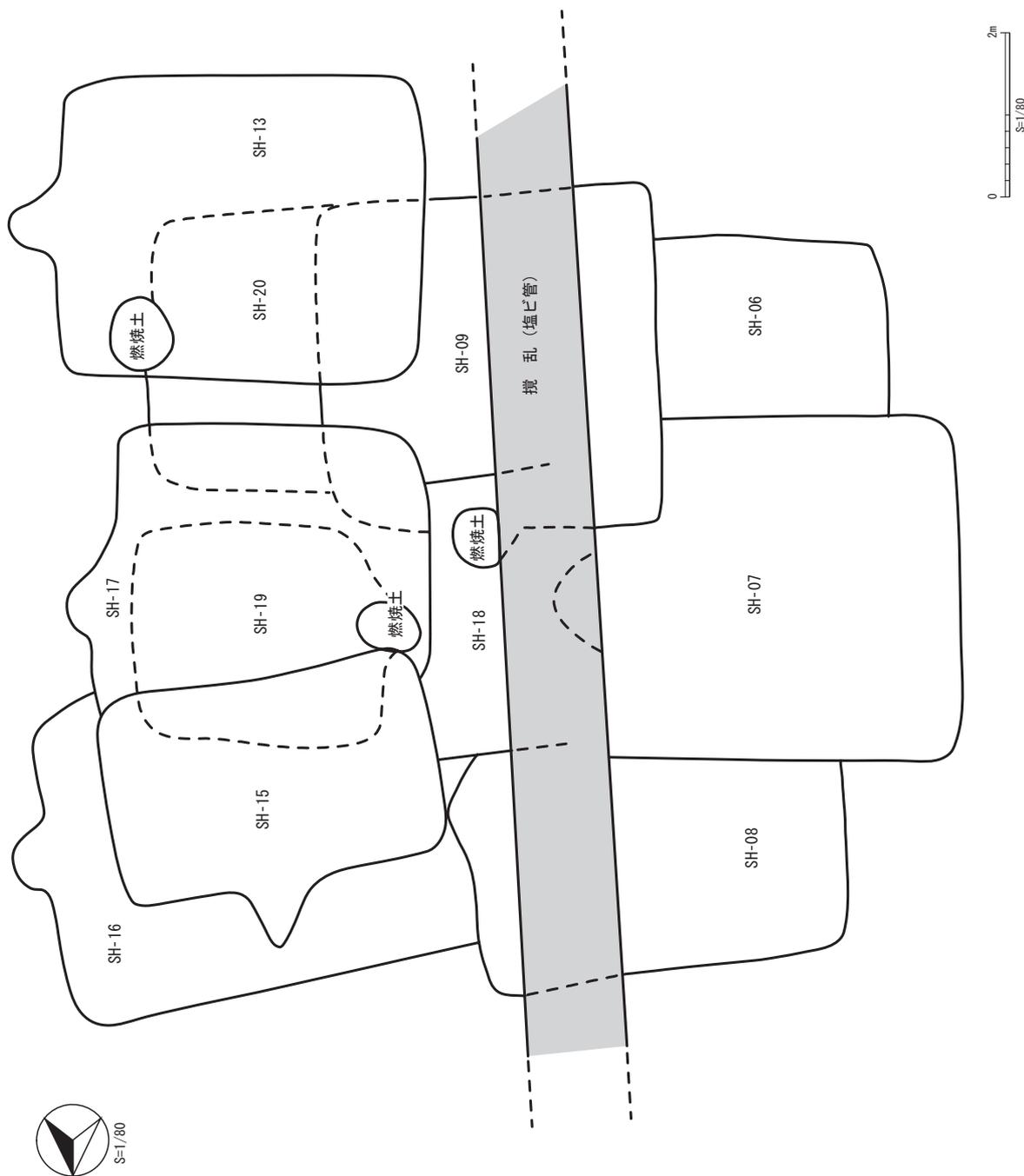
ST-07土層
10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
やわらかい土である
単一層



74

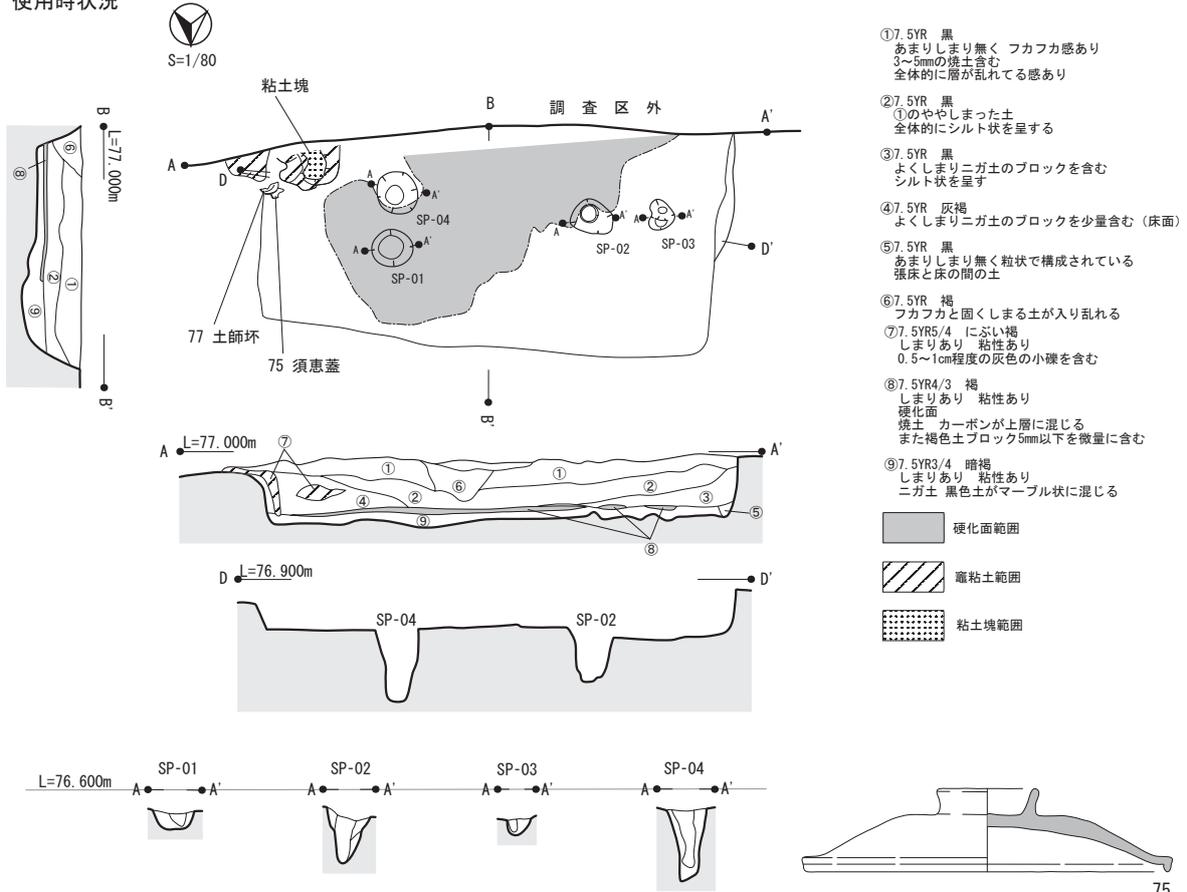


第 71 図 桑鶴遺跡群 III区 ST-04・07実測図及び出土遺物実測図

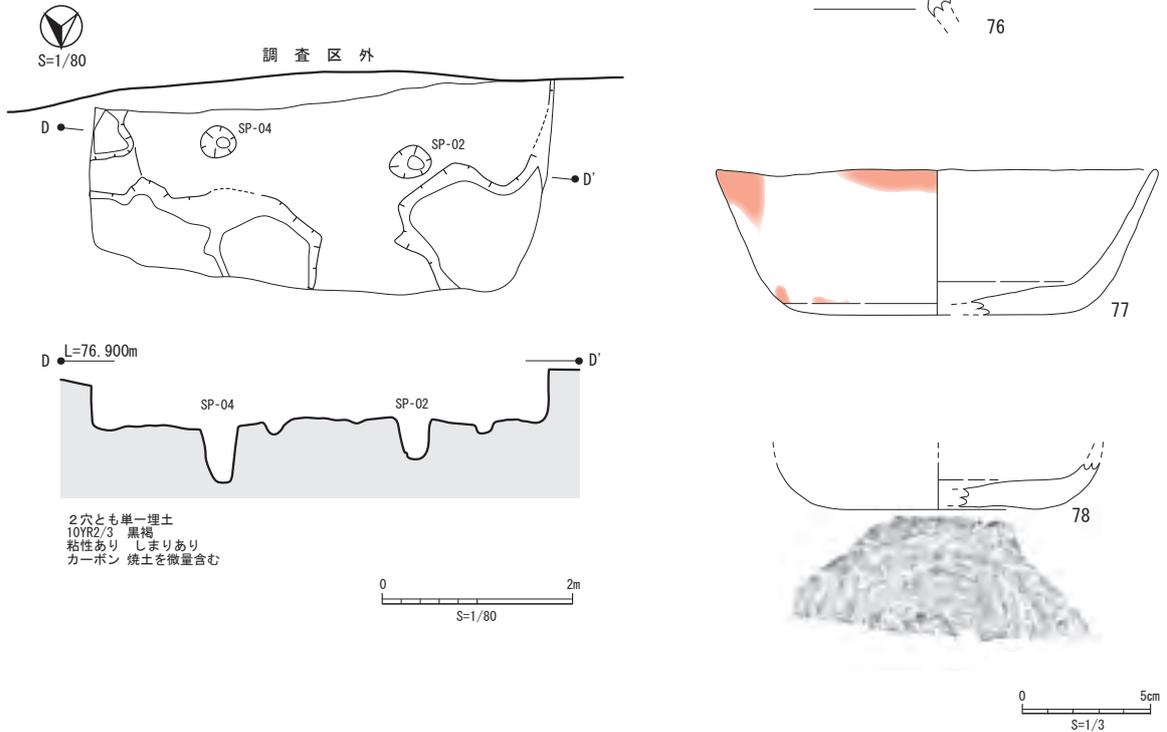


第 72 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 住居址群概念図

使用時状況

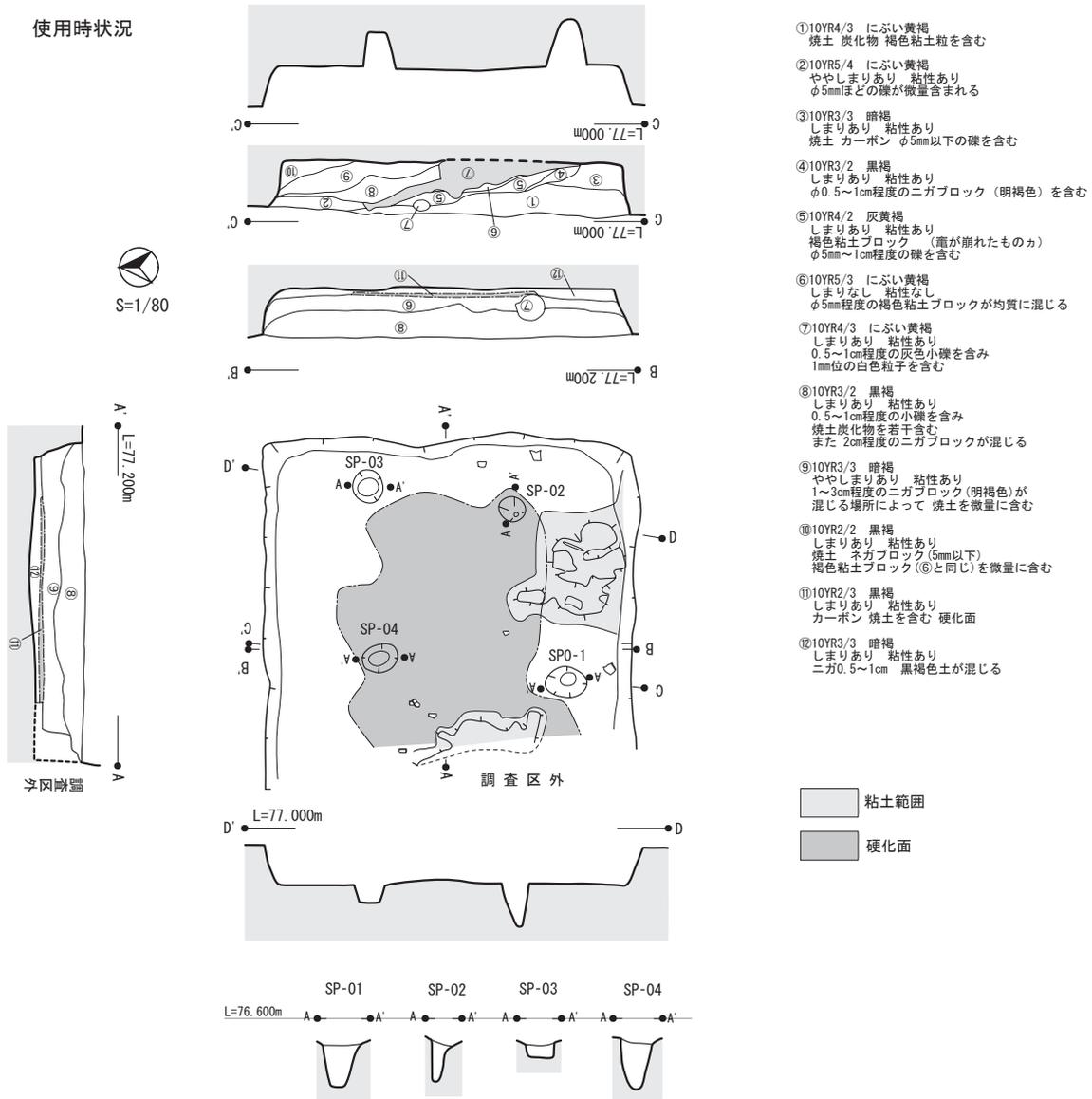


完掘状況

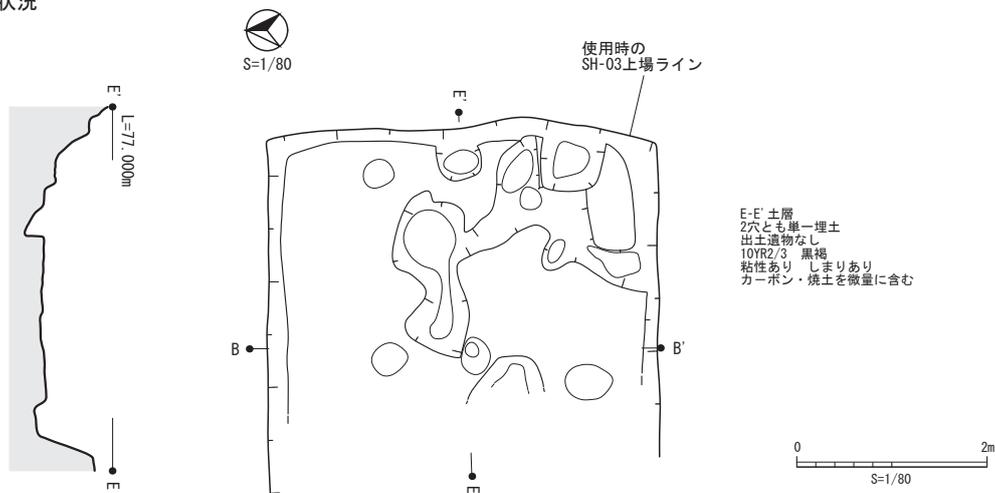


第 73 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-01実測図及び出土遺物実測図

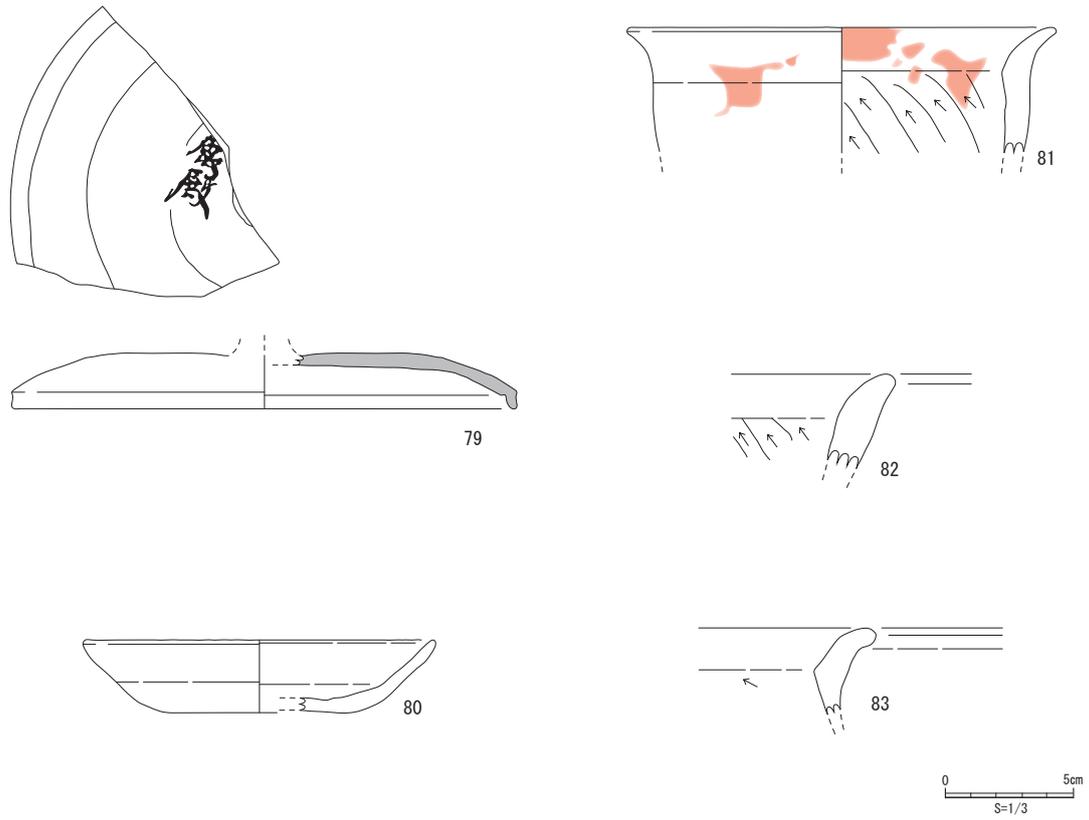
使用時状況



完掘状況



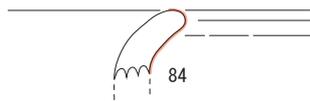
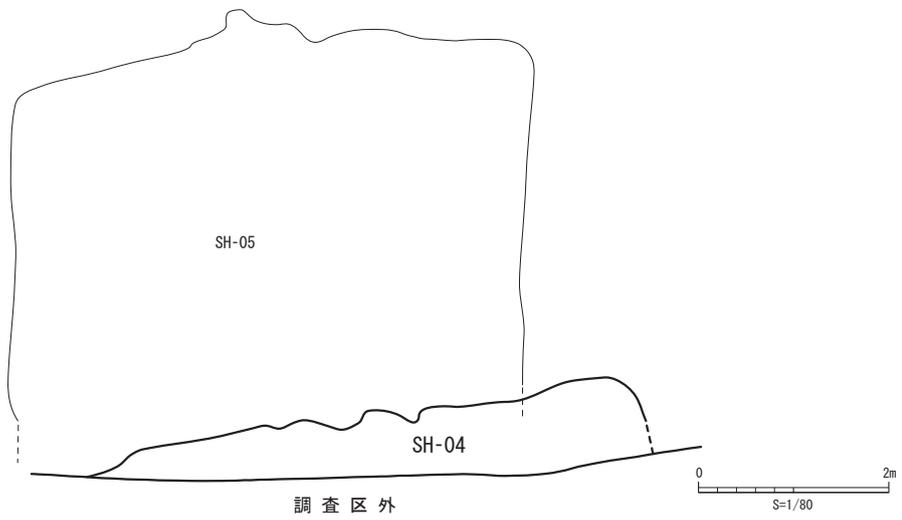
第 74 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-03実測図



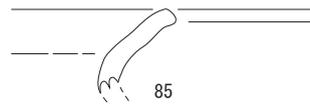
SH-05<SH-04プラン検出



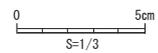
S=1/80



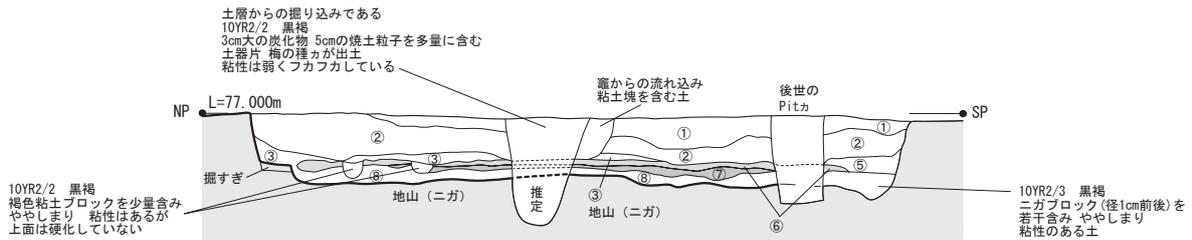
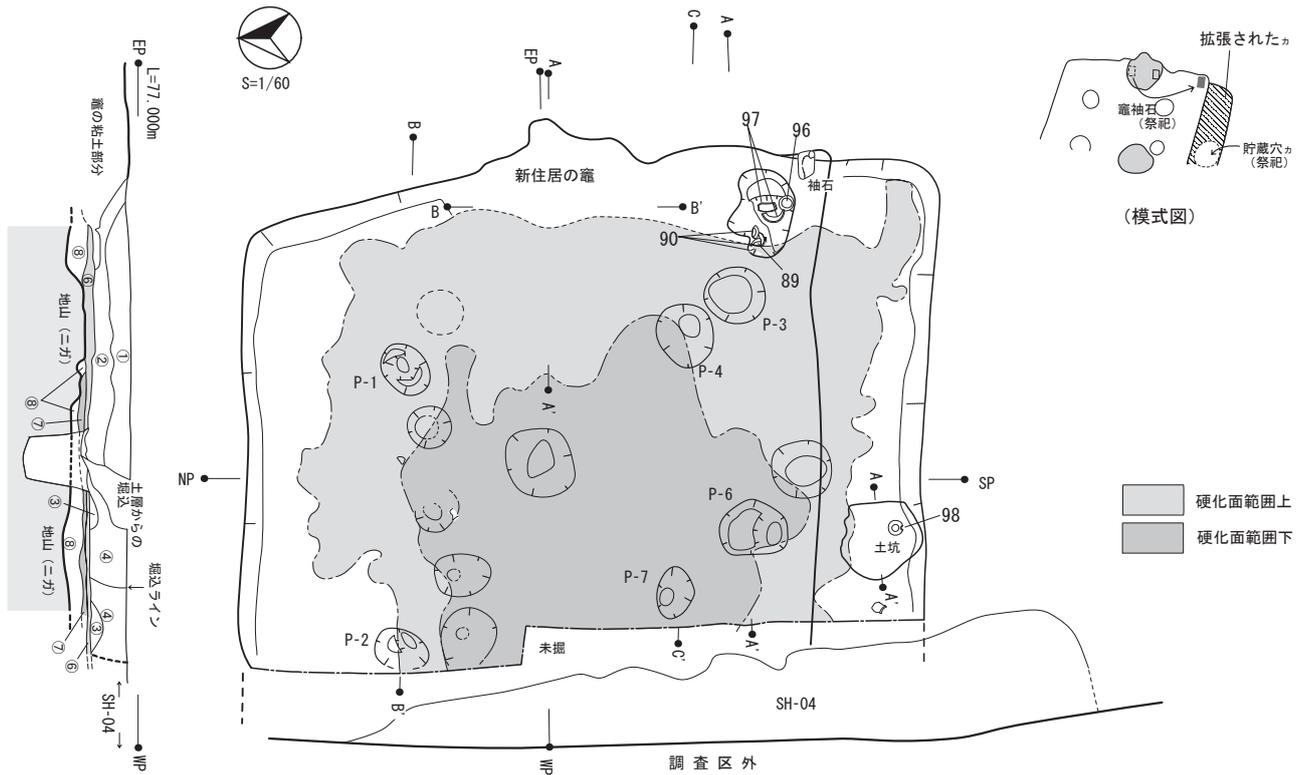
84



85



第 75 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-03出土遺物実測図・SH-04実測図及び出土遺物実測図



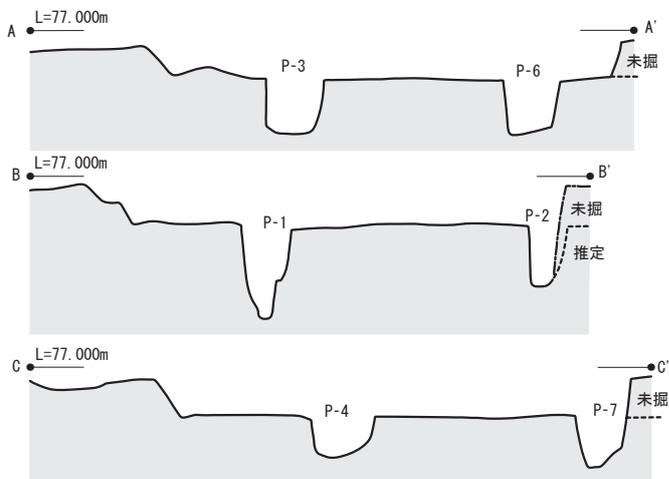
<新住居の土層>

- ①10YR3/3 暗褐
3mm前後の炭 焼土 黄色土 白色土粒子を若干含む
ややしまり 粘性がある
- ②10YR2/3 黒褐
1cm以下の炭 焼土 黄色土 白色土粒子を多量に含む
1cm前後の小石を少量 ニガ土ブロックを若干含む
1よりもしまりと粘性がある
- ③10YR2/3 黒褐
ニガ土ブロックを多量に含む
硬く粘性がある

- ④10YR2/3 黒褐
②とほぼ同じ土色である
焼土などの混入物が少なくなり
ニガ土の塊が多量に含まれる
- ⑤10YR2/3 黒褐
③に似る
- ⑥10YR2/3 黒褐
黒褐色土ベースに径2~3cm大の
上面が特に硬くしまり 粘性も強い
(新)住居の貼り床硬化面

<旧住居の土層>

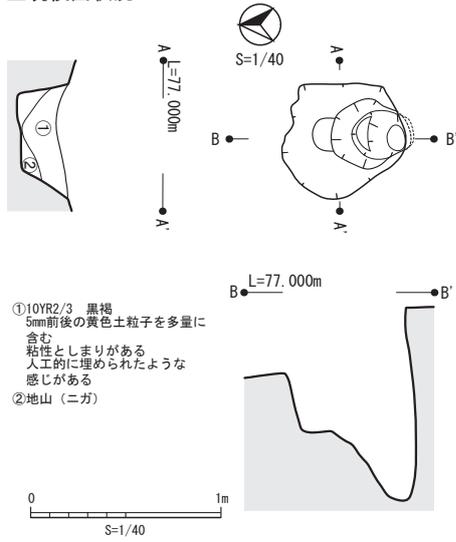
- ⑦10YR2/2 黒褐
土色 質感は⑥とほとんど同じ
しかし、⑥との境(⑦上面)に
硬化のピークがもう一つあり
あきらかに前時代に使用された
(旧住居の)張床硬化面が存在する
- ⑧10YR2/3 黒褐
ニガ土ブロック(径1cm前後)を若干含む
ややしまり 粘性がある
旧住居掘り方埋土



- P-1 10YR2/3 黒褐
ニガ土を多く含む
- P-2 10YR2/3 黒褐
ニガ土を多く含む
黄色土粒子を若干含む
粘性があり硬い
- P-3 10YR2/3 黒褐
1cm以下の焼土粒子 炭化物を多量に含む
土器片を少量含む
- P-4 10YR2/3 黒褐
焼土塊を多量に含む
硬化面下に入っている
- P-6 10YR2/3 黒褐
3mm前後の焼土粒子 炭化物粒子を若干含む
土器片少量含む
- P-7 10YR2/3 黒褐
3mm前後の焼土粒子 炭化物粒子を若干含む

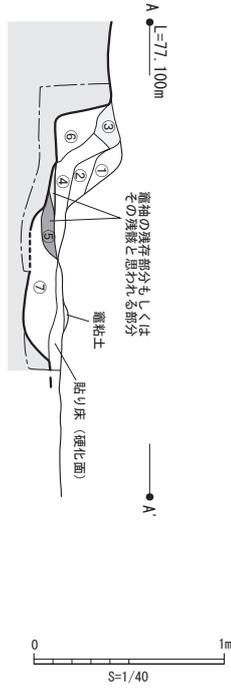
第 76 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-05実測図

土坑検出状況

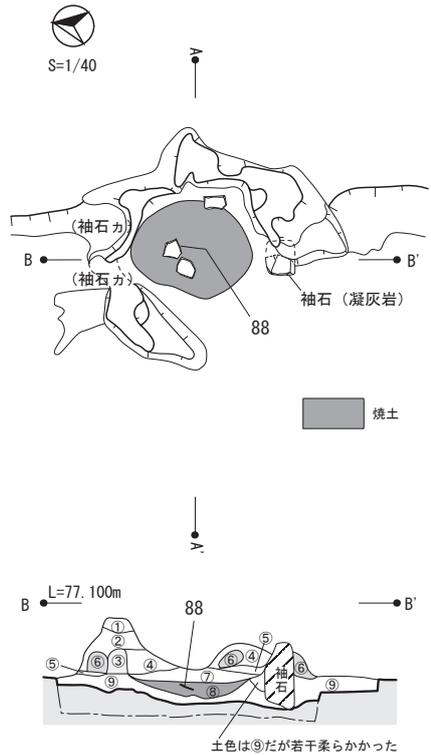


- ①10YR2/3 黒褐
5mm前後の黄色土粒子を多量に含む
粘性としまりがある
人工的に埋められたような
感じがある
- ②地山（ニガ）

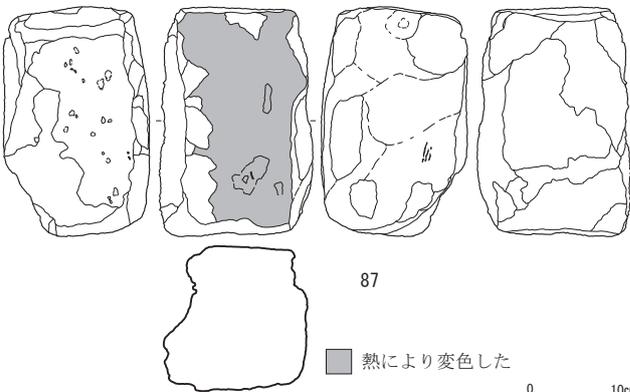
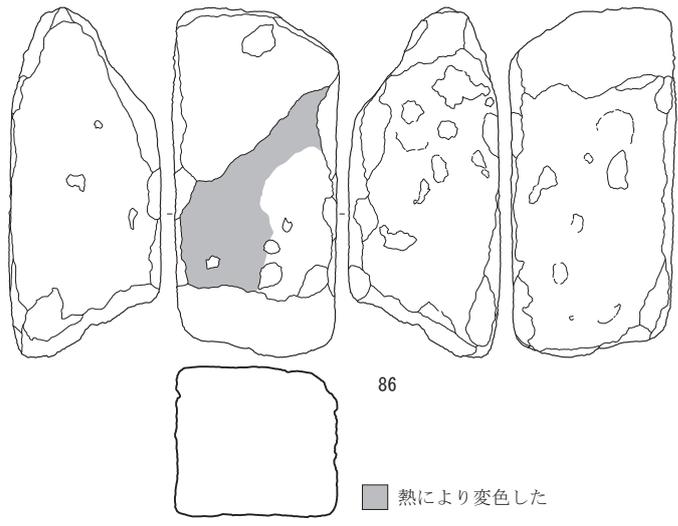
竈検出状況



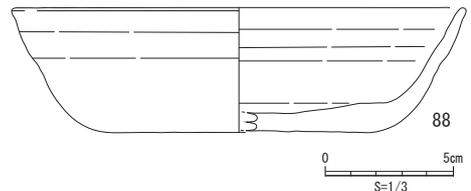
竈の残存部分もしくは
その残骸と思われる部分
竈粘土
掘り床（硬化面）



土色は⑨だが若干柔らかかった

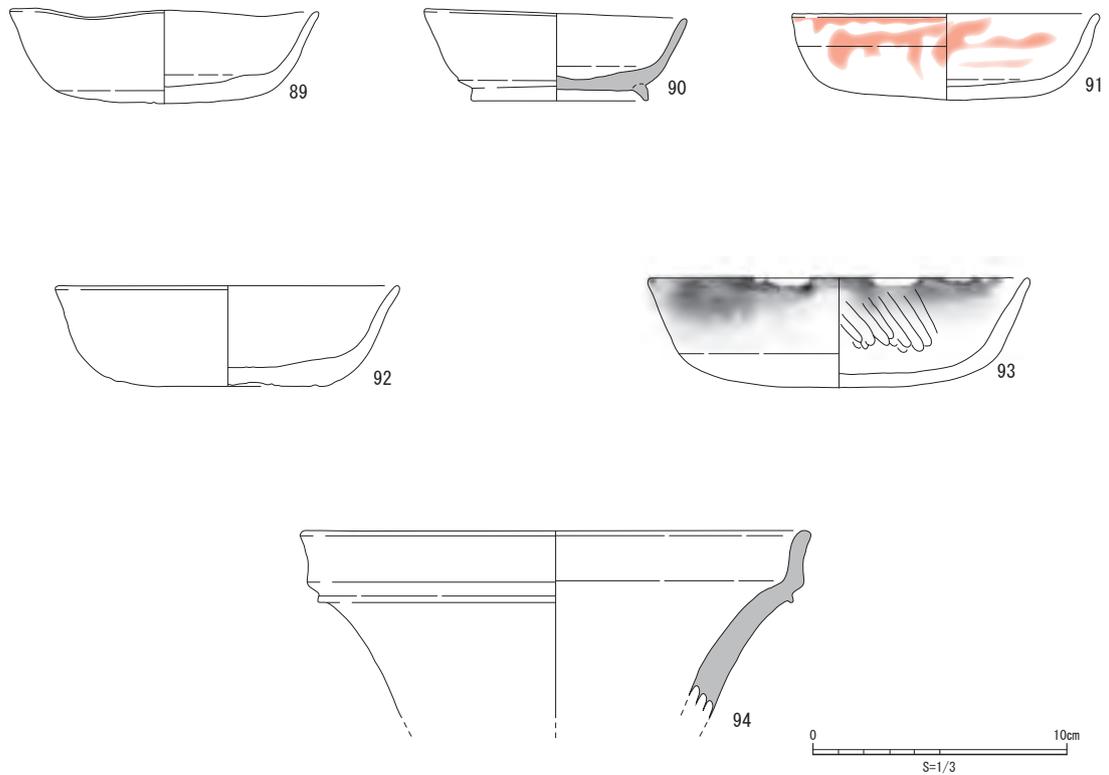
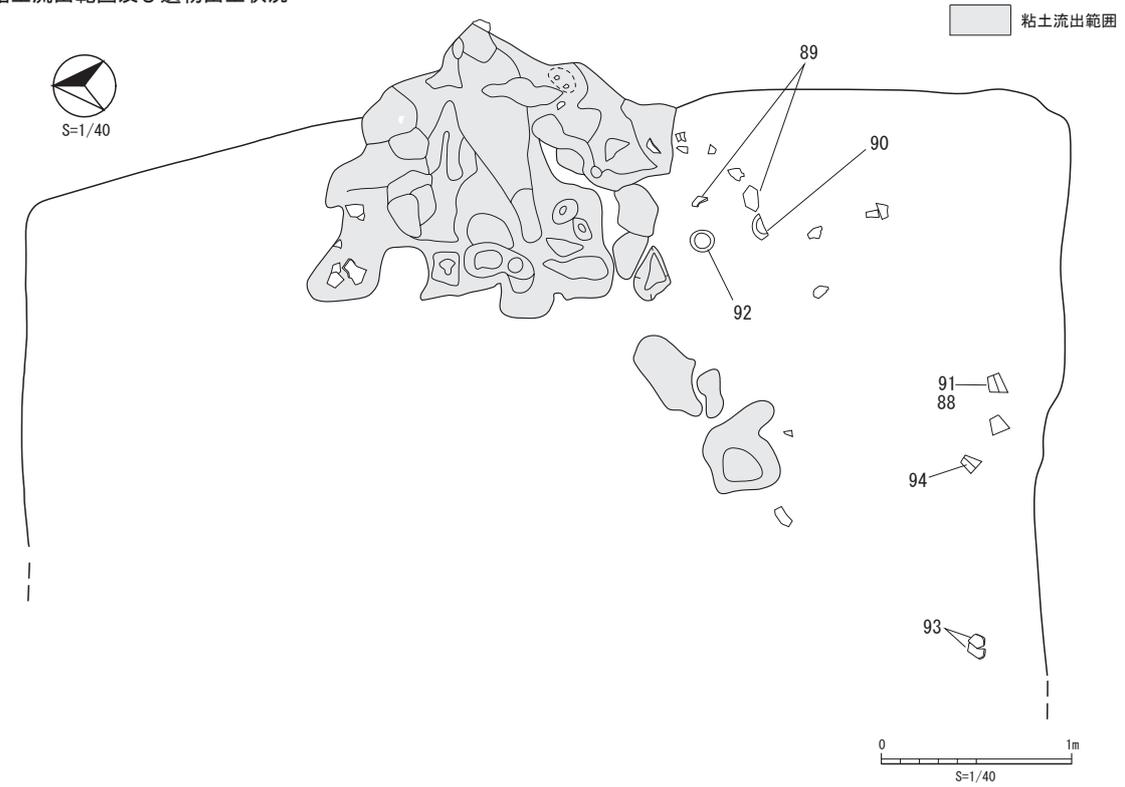


- A-A'
- ①10YR5/4 にぶい黄褐
3mm前後の焼土粒子・白色粒子
5mm以下の小石を若干含む
粘性としまりがある
 - ②10YR2/3 黒褐
5mm~1cm大の焼土粒子を多量に含む
粘性としまりは弱い
 - ③10YR4/4 褐
B-B'断面の③に相当する
 - ④10YR2/3 黒褐
B-B'断面の⑤・⑦層に似る
 - ⑤5YR4/4 にぶい赤褐
焼土堆積層（燃焼部）特に焼土化の
強い所は赤色を濃く表現した
 - ⑥10YR2/2 黒褐
混入物の少ない
しまりの弱いややサラサラした土
竈構築以前にあった堀込みの埋土カ
 - ⑦10YR2/3 黒褐
住居掘方埋土の一部
B-B'断面の⑨層に相当する
- B-B'
- ①10YR5/2 灰黄褐
硬く粘性がある
 - ②10YR4/4 褐
2cm以下の小石を多量に含む
硬くしまり 粘性がある
 - ③10YR4/4 褐
2~3cm大の黄褐色土粘土ブロックを
多く含む 5mm以下の焼土粒子を若干含む
②よりもやや暗い土色である
硬くしまり 粘性がある
 - ④10YR4/3 にぶい黄褐
3mm前後の砂岩粒子を若干含む
硬くしまり 粘性がある
 - ⑤10YR2/3 黒褐
1cm以下の焼土粒子が混在している
しまりと粘性は弱い
 - ⑥10YR5/6 黄褐
黄褐色土粘土ブロックの塊である
非常に硬く 粘性が強い
 - ⑦10YR2/3 黒褐
⑤層に似る
 - ⑧5YR4/4 にぶい赤褐
焼土堆積層（燃焼部）
 - ⑨10YR2/3 黒褐
ニガシロブロック（径1cm前後）を若干含む
ややしまり 粘性がある
旧住居掘方埋土

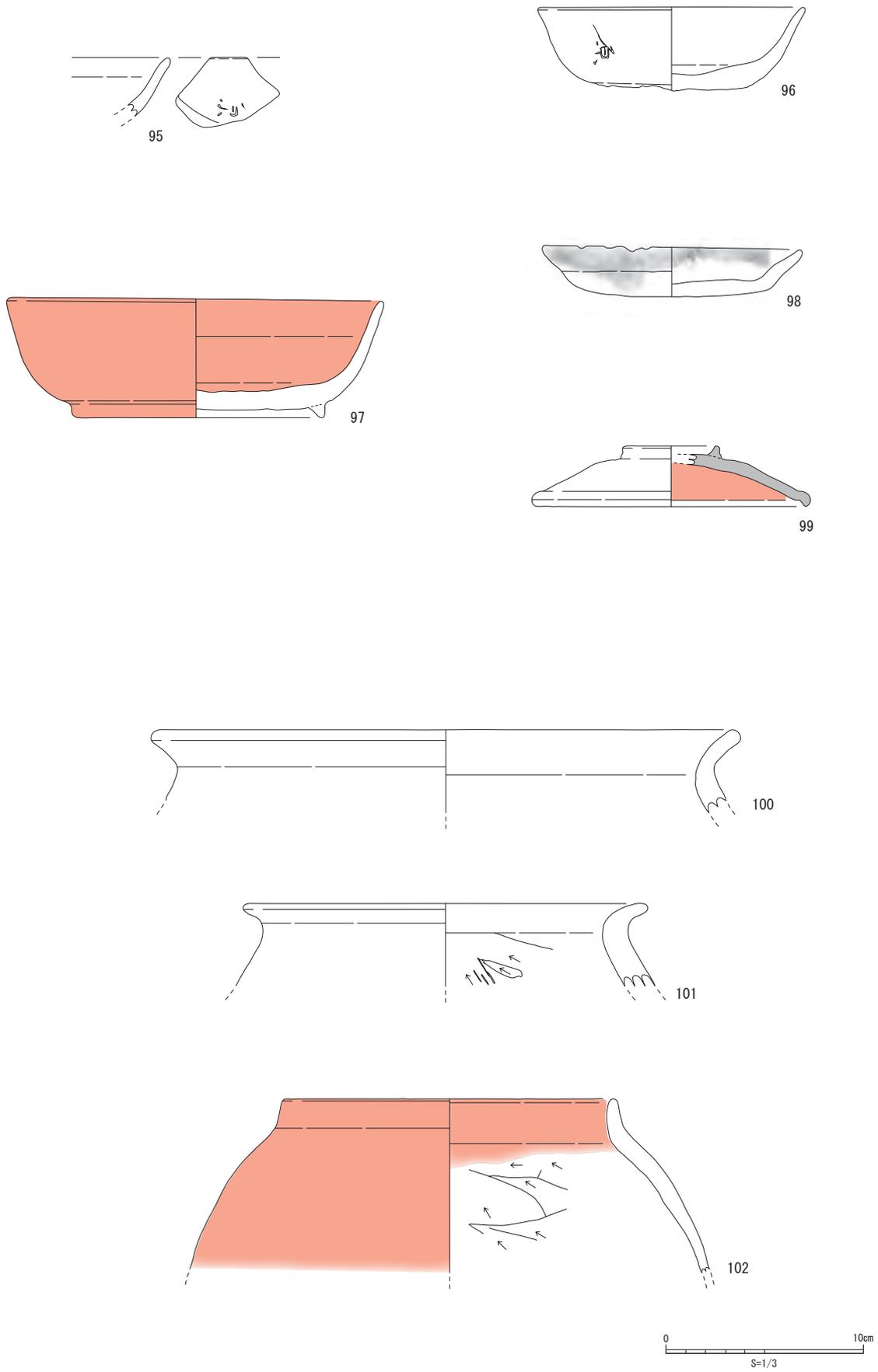


第 77 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-05土坑・竈実測図及び出土遺物実測図

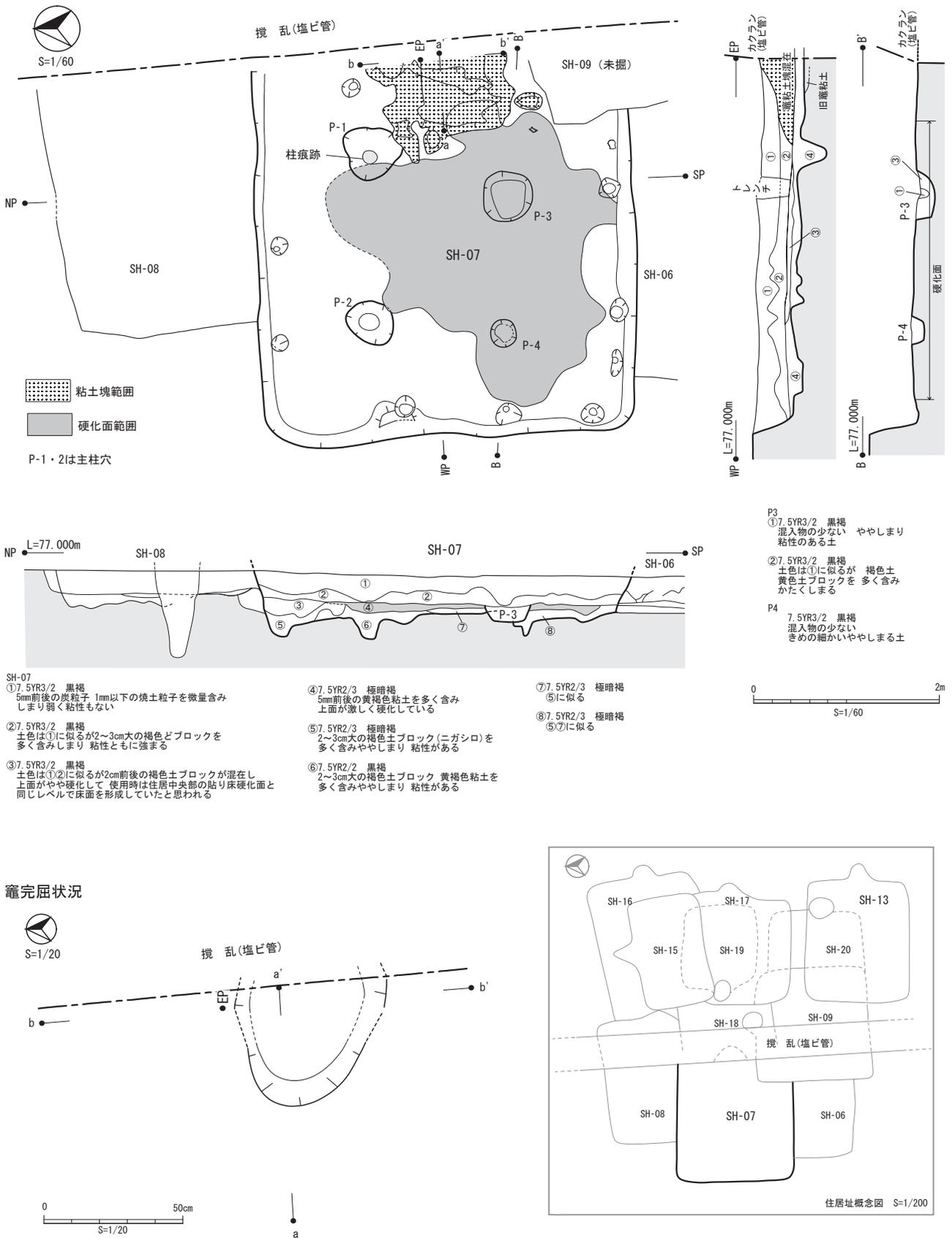
竈粘土流出範囲及び遺物出土状況



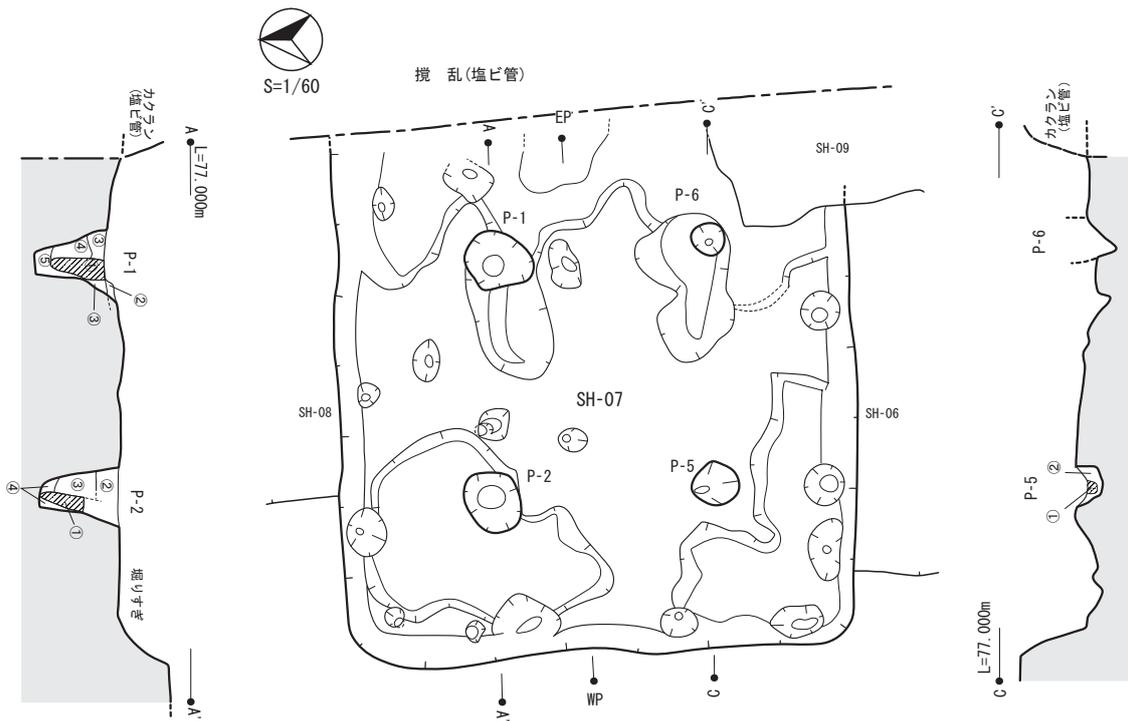
第 78 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-05竈粘土流出状況及び出土遺物実測図



第 79 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-05出土遺物実測図



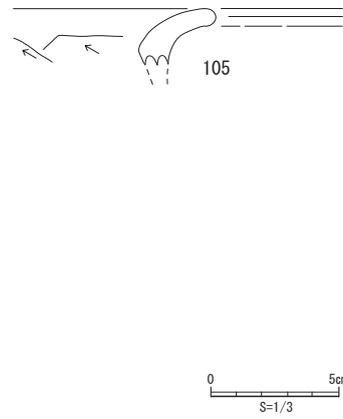
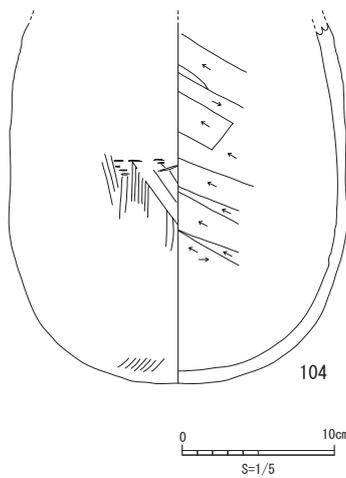
第 81 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-07実測図



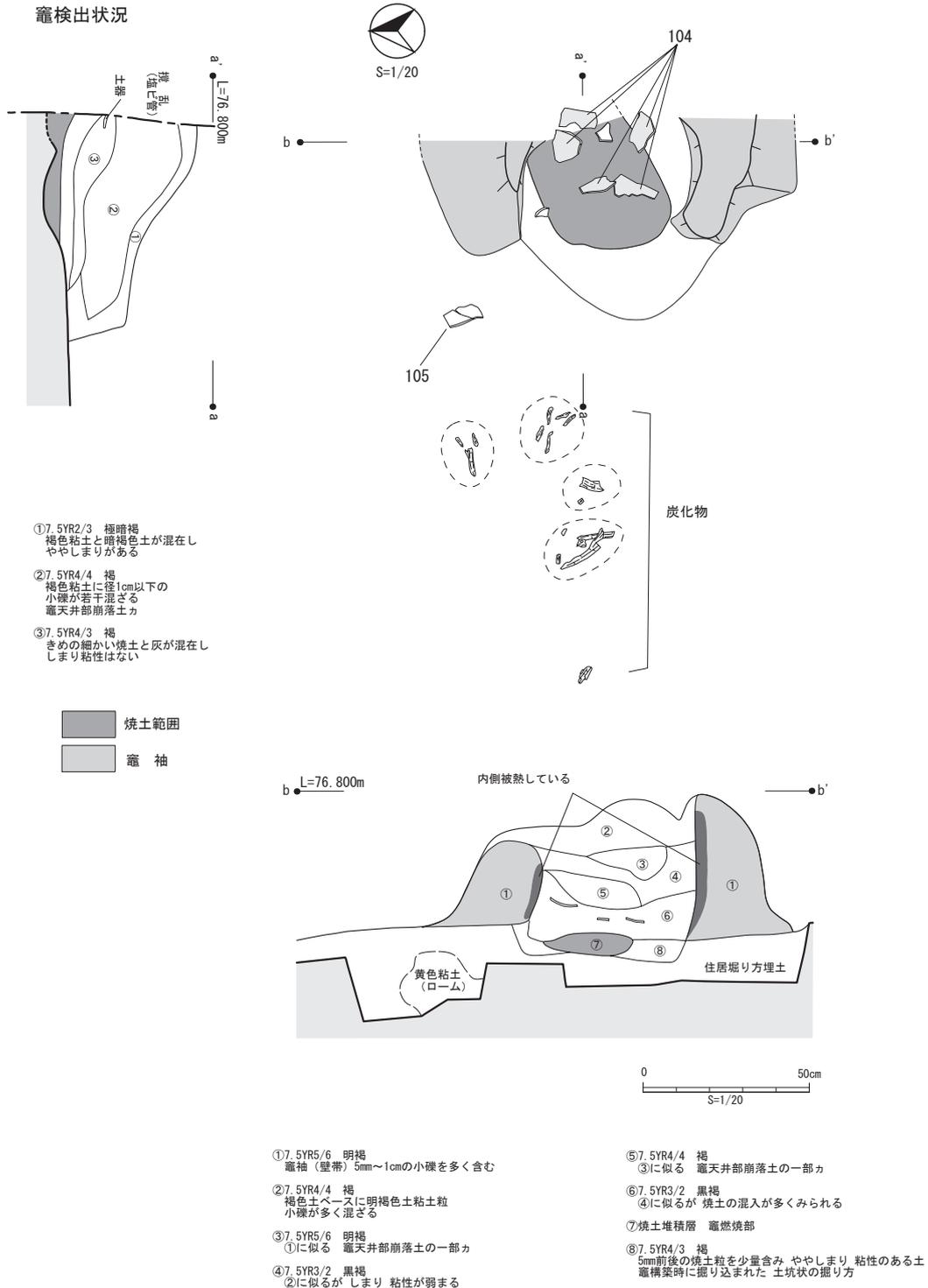
- P-1
- ① 7.5YR2/3 極暗褐
黄褐色土ブロック(1cm前後)を若干含み
しまり粘性のないフカフカした土
柱痕跡もしくは抜き取り痕
 - ② 7.5YR3/2 黒褐
黄褐色土粒が混在し 上面がはげしく
硬化していて住居床面を形成している
 - ③ 7.5YR2/2 黒褐
混入物のすくないややしまり 粘性のある土
 - ④ 7.5YR2/2 黒褐
ベースとなる土色は③と似るが
黄色粘土ブロックが混在し 層土層が
やや硬くしまる
 - ⑤ 7.5YR3/2 黒褐
黄色粘土粒(1cm前後)を若干含み
しまりのないフカフカした土

- P-2
- ① 7.5YR2/3 極暗褐
混入物の少ないしまり 粘性のない
フカフカした土(柱痕跡もしくは抜き取り痕)
 - ② 7.5YR3/2 黒褐
混入物の少ない ややしまり 粘性のある土
 - ③ 7.5YR3/2 黒褐
ベースとなる土色は②と似るが
黄色粘土ブロックが混在する
 - ④ 7.5YR3/2 黒褐
土色は②に似た しまり 粘性のない土

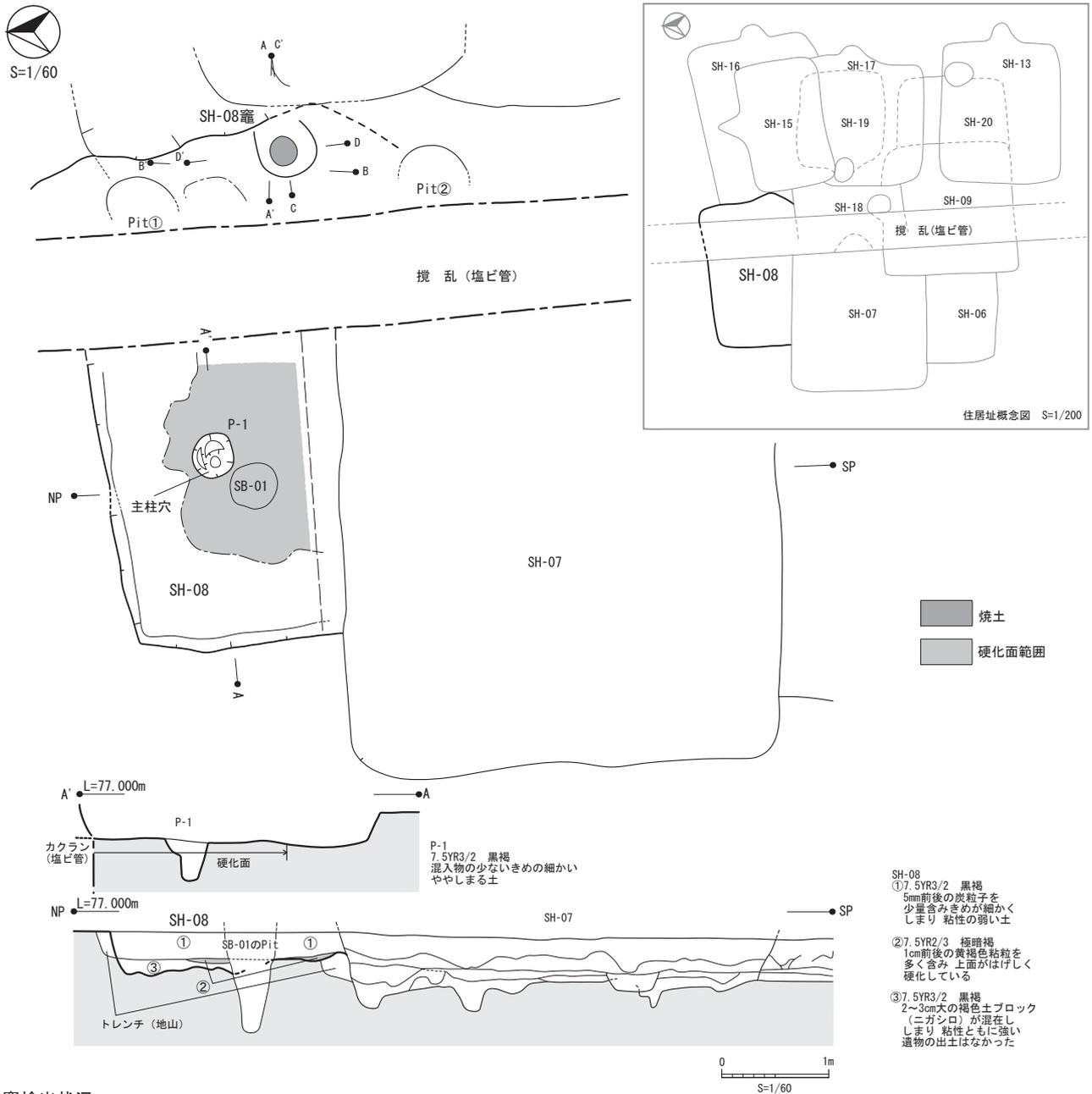
- P-5
- ① 7.5YR2/2 黒褐
混入物の少ない しまりはないが
やや粘性のある土(樹根跡カ)
 - ② 7.5YR2/3 極暗褐
褐色土ブロック(ニガ土)が混在し
硬くしまりやや粘性がある



第 82 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-07 Pit検出状況及び出土遺物実測図

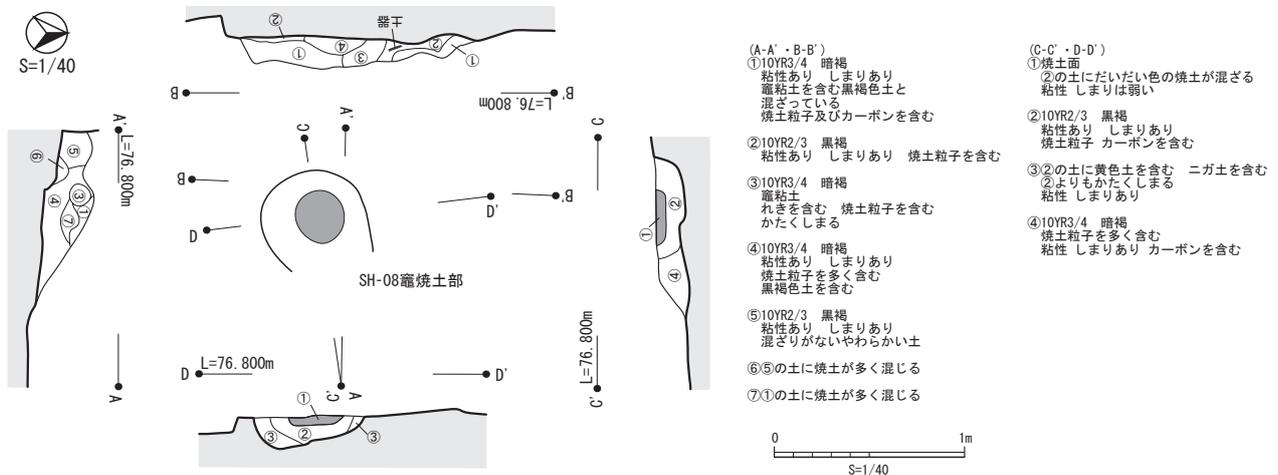


第 83 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-07竈実測図及び炭化物出土状況



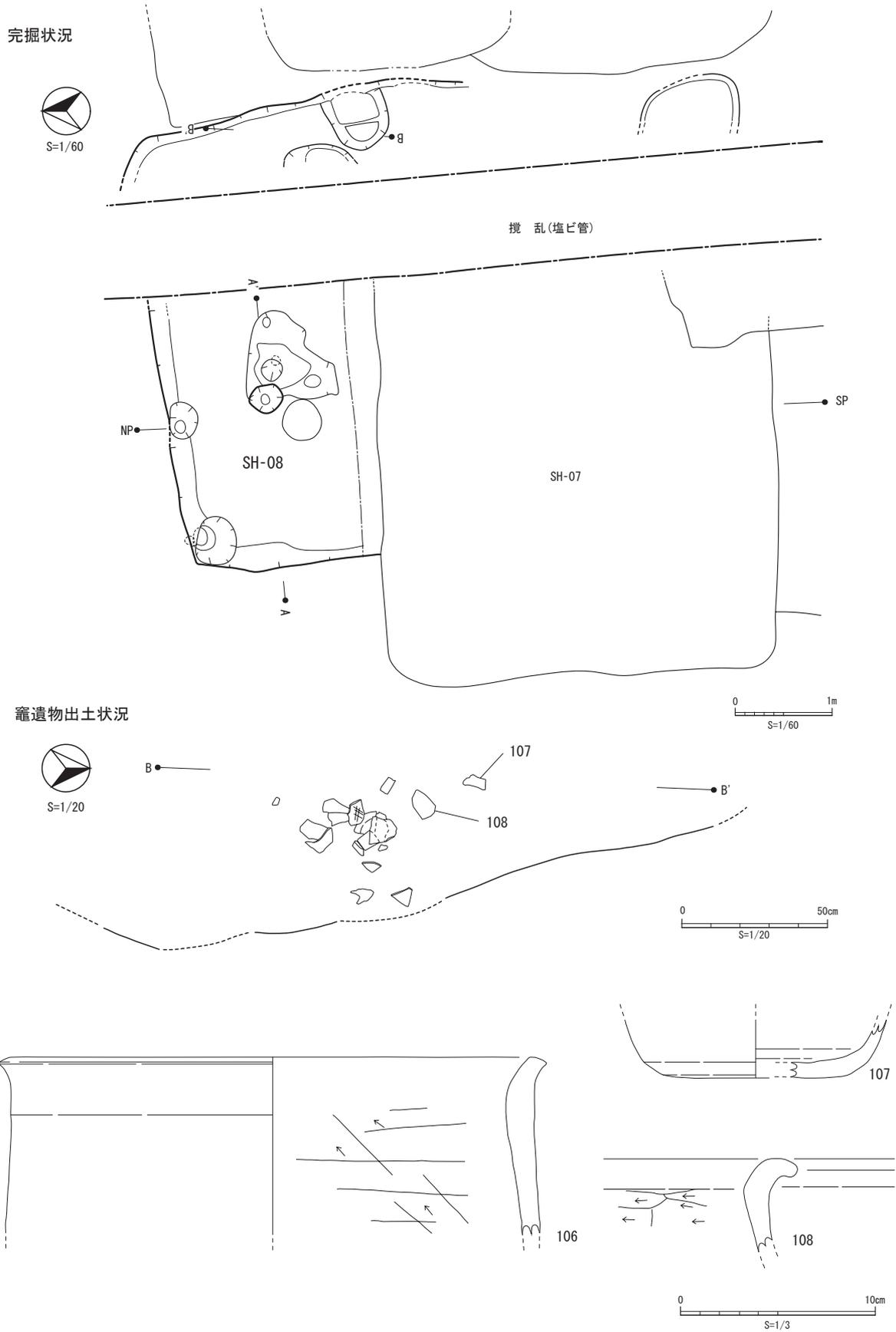
- SH-08
- ① 7.5YR3/2 黒褐
5mm前後の炭粒子を少量含みきめが細かくしまり 粘性の弱い土
 - ② 7.5YR2/3 極暗褐
1cm前後の黄褐色粘粒を多く含み 上面がはげしく硬化している
 - ③ 7.5YR3/2 黒褐
2~3cm次の褐色土ブロック(ニガシロ)が混在ししまり 粘性ともに強い 遺物の出土はなかった

竈検出状況

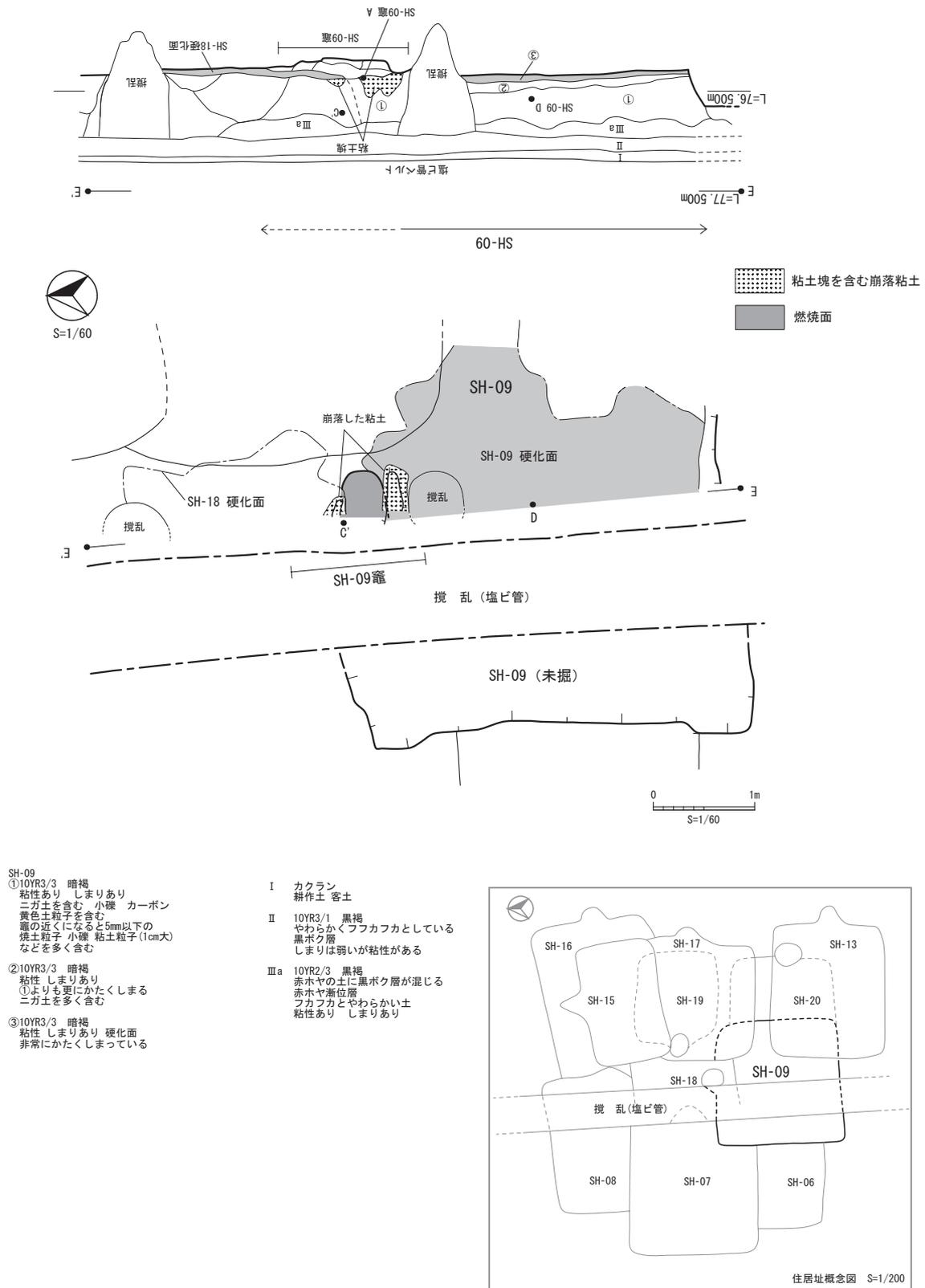


- (A-A'・B-B')
- ① 10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり 竈粘土を含む黒褐色土と混ざっている 焼土粒子及びカーボンを含む
 - ② 10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり 焼土粒子を含む
 - ③ 10YR3/4 暗褐
竈粘土 れきを含む 焼土粒子を含む かつくしまる
 - ④ 10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり 焼土粒子を多く含む 黒褐色土を含む
 - ⑤ 10YR2/3 暗褐
粘性あり しまりあり 混ざりがないやわらかい土
 - ⑥ ⑤の土に焼土が多く混じる
 - ⑦ ①の土に焼土が多く混じる
- (C-C'・D-D')
- ① 焼土面
 - ② の土にだいたい色の焼土が混ざる 粘性 しまりは弱い
 - ② 10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり 焼土粒子 カーボンを含む
 - ③ ②の土に黄色土を含む ニガ土を含む ②よりもかたくしまる 粘性 しまりあり
 - ④ 10YR3/4 暗褐
焼土粒子を多く含む 粘性 しまりあり カーボンを含む

第 84 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-08実測図及び竈検出状況

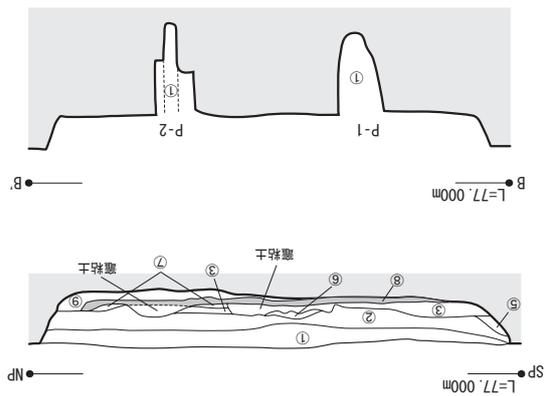


第 85 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-08竈遺物出土状況及び出土遺物実測図

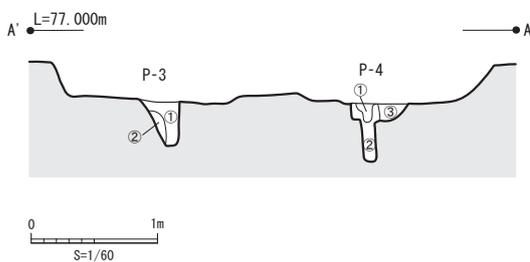
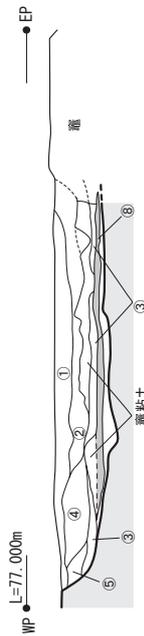
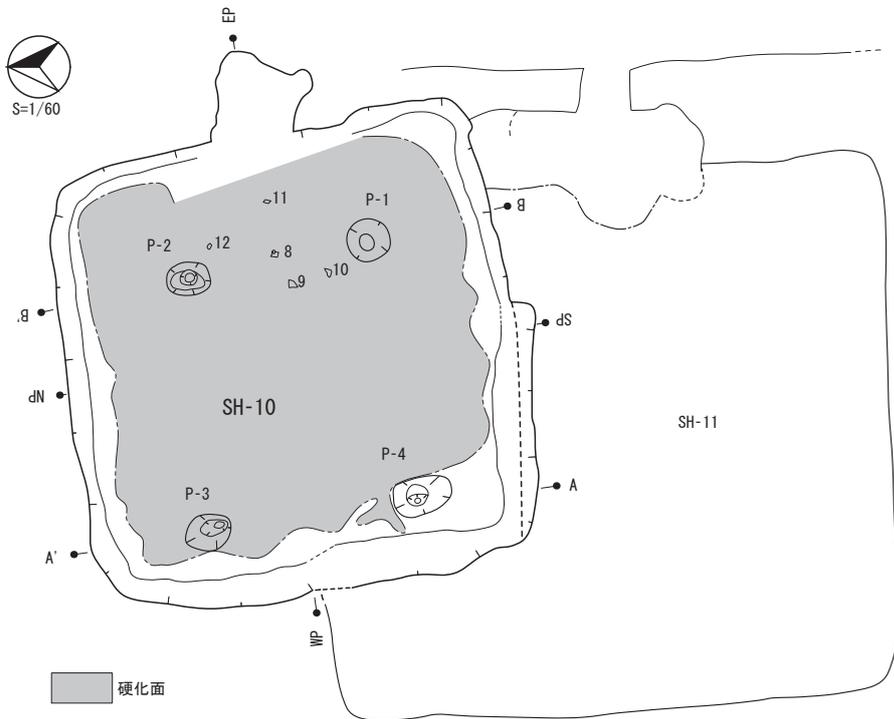


第 86 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-09実測図及び竈検出状況

使用時状況



- P-1・2
①10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
- P-3
①10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
②10YR2/3 黒褐
①と土色は似るが ①よりも
しまりがある
- P-4
①10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
柱痕跡
②10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
③10YR3/4 暗褐
②と土色は似るが
②よりも硬くしまりがある



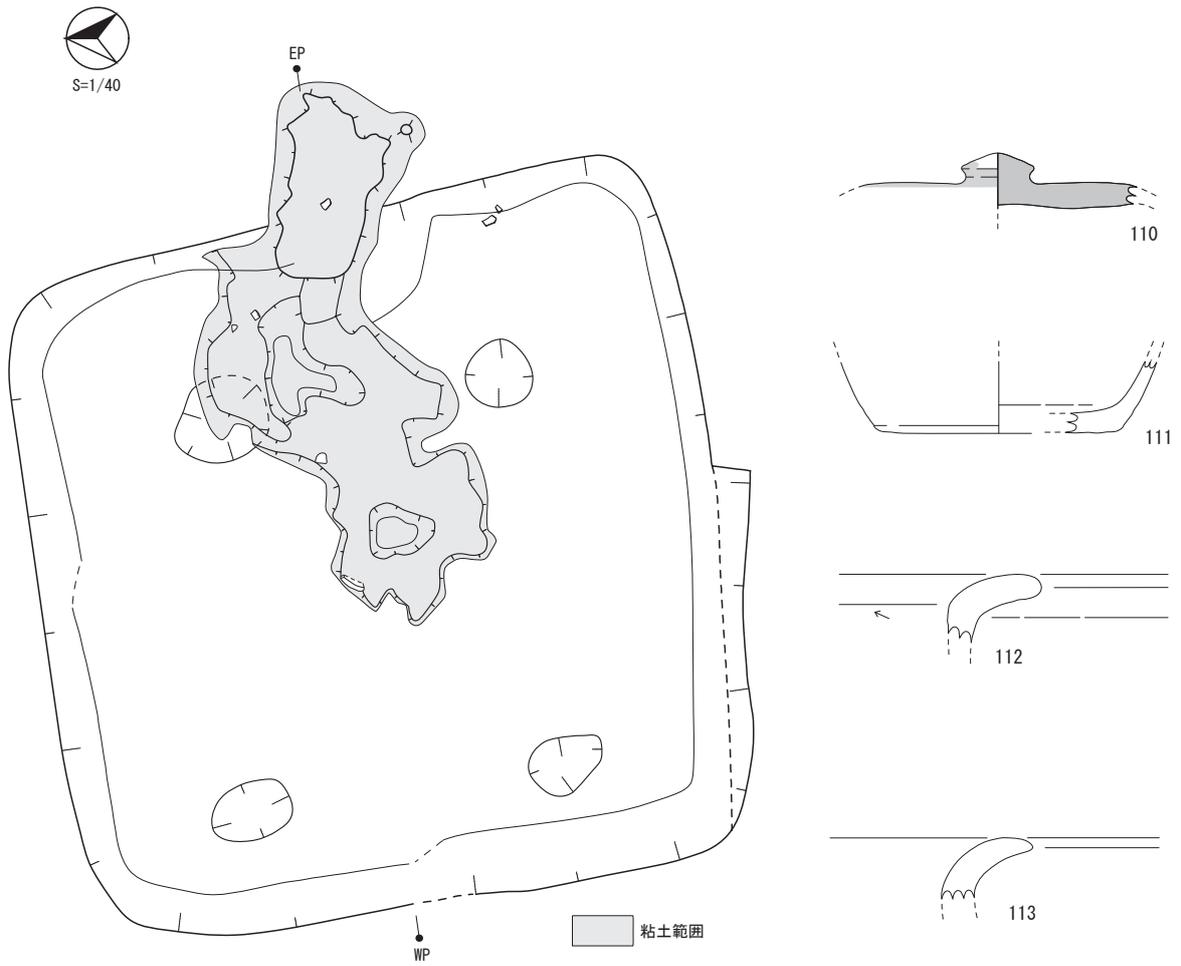
SH-10

- ①10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
ほとんど混入物はないが 0.5mm大の
カーボンが少量混入する
- ②10YR2/2 黒褐
粘性あり しまりあり
①によく似るが アカホヤブロック
焼土が混入しやや明るい
- ③10YR2/2 黒褐
粘性あり しまりあり
① ②に比べややしまる
焼土 カーボンの混入量もやや増える
- ④10YR3/3 暗褐
粘性あり しまりあり
ニガブロックか硬化面ブロックを
多く含む
それ以外は⑤に似ている
- ⑤10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
②の土にアカホヤがブロックで
混入する

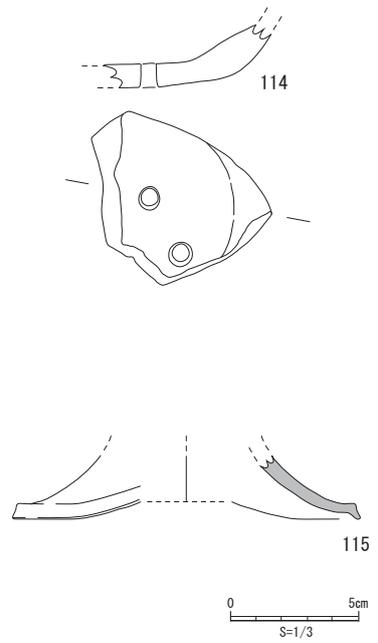
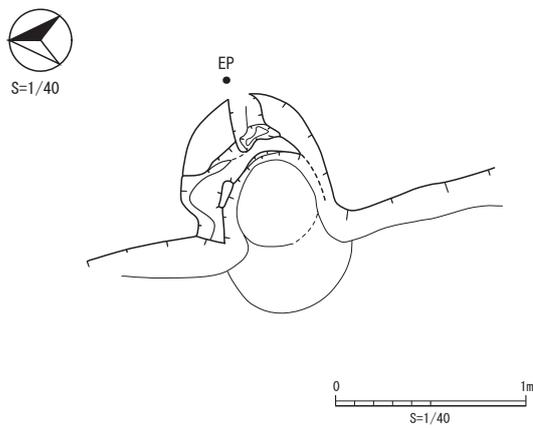
- ⑥10YR4/3 にぶい黄褐
粘性あり しまりあり
②の土に重粘土の壊れた
粒子が少量に混入する
(横の重粘土が壊れたものカ)
- ⑦10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
他の土と異なり 小礫が多く混入する
上層の黒い土に重粘土の
小粘土粒 小礫が入り混じった土
- ⑧10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり 硬化面 焼土
カーボンを含む
- ⑨10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
ニガ土 黒色土がマール状に混じる

第 88 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-10実測図

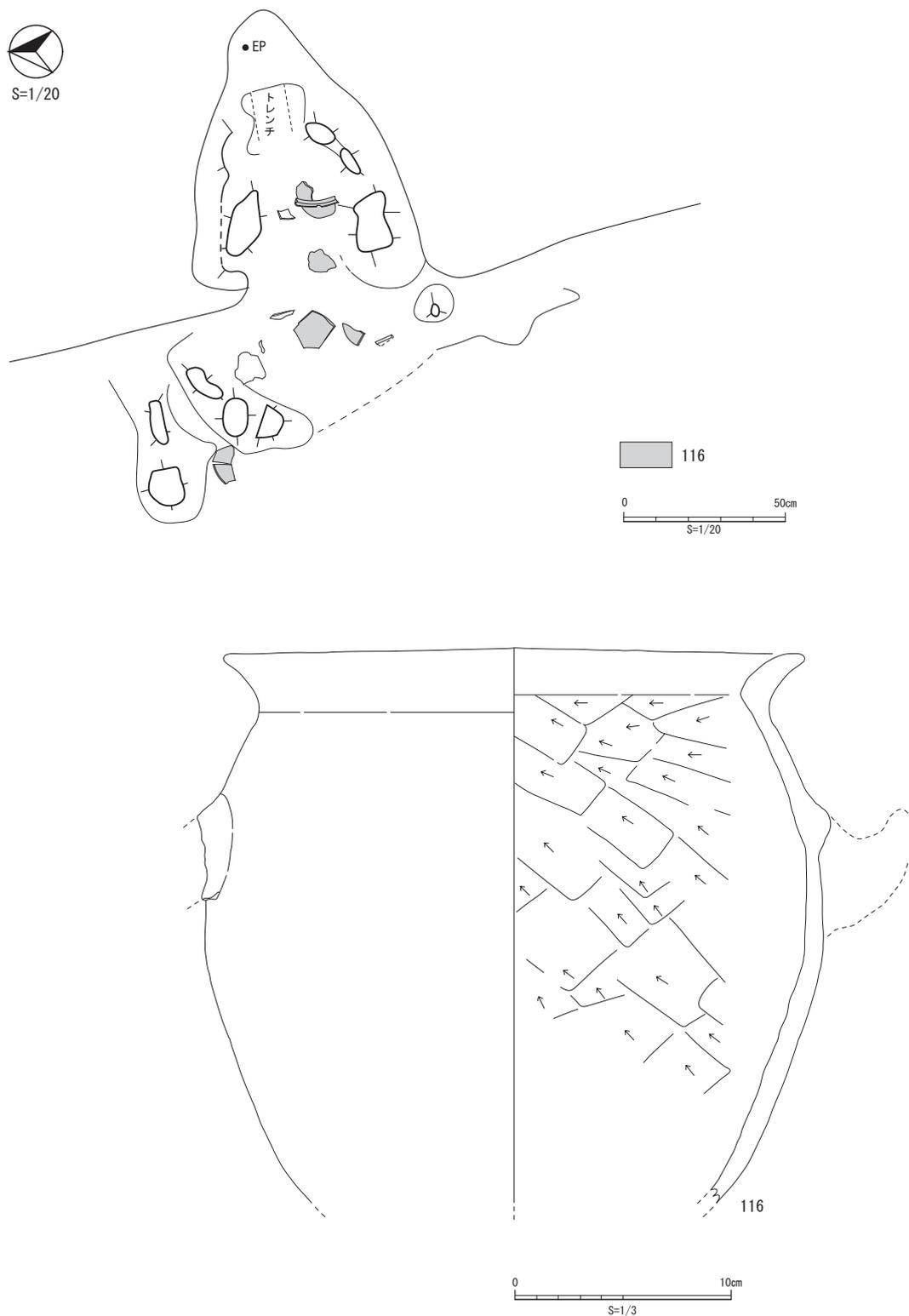
竈検出状況（竈粘土流出）



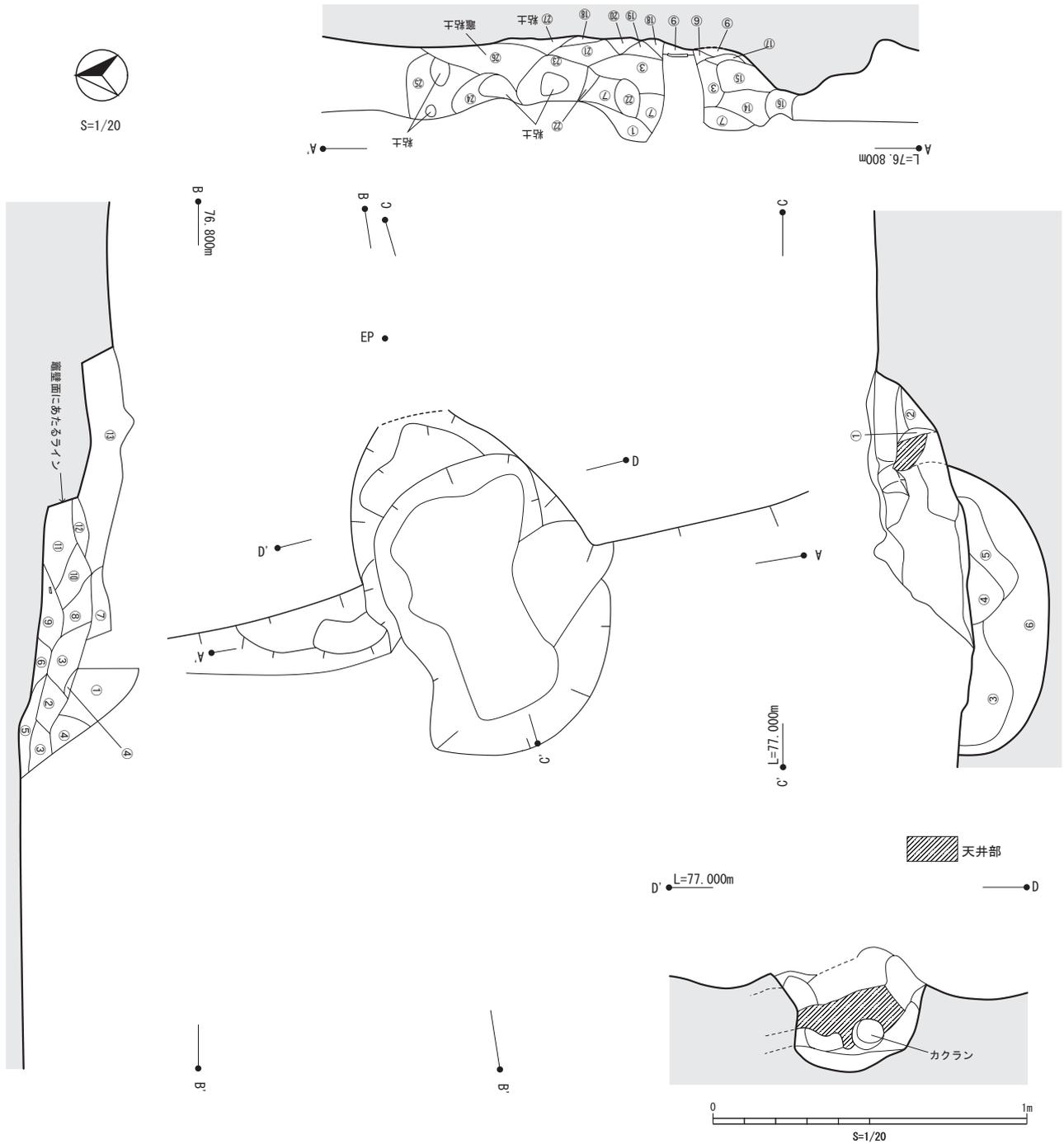
竈使用時完掘状況



第 89 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-10竈検出・完掘状況及び出土遺物実測図



第 90 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-10竈遺物出土状況及び出土遺物実測図



- C-C'
- ①10YR2/3 褐
粘性なし しまりなし
やわらかく フカフカした土
1cm次の焼土を多く含む
竈の煙道部分に相当する
(もぐら穴の可能性)
 - ②10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
二ガ土を含む
 - ③10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
二ガ土を若干含む フカフカした土
特に上面は 3mm次の炭化物や
焼土粒子を多く含む(かき出し口)
 - ④黄褐色土
粘性あり しまりあり やわらかい土
5mm次の焼土粒子を多く含む(焼土面)
 - ⑤10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
二ガ土を若干含む
 - ⑥10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり 二ガ土を含む
硬い土

- A-A'・B-B'
- ①10YR2/3 黒褐
小石を多く含む
焼土粒子を少量含む
 - ②①と土色は似るが
①よりもやわらかい土
 - ③①と土色は似るが
①よりも硬い土
粘性としまりがある
 - ④10YR4/4 褐
粘性としまりがある
黄褐色粘土ブロックを含む
 - ⑤10YR2/3 黒褐
①と土色は似るが
やや黒みが強い
粘性としまりがある
 - ⑥10YR5/6 黄褐
小石 焼土を多く含む
非常に硬くしまり 粘性がある
箱崩落粘土
 - ⑦10YR3/4 暗褐
しまり 粘性がある
黄褐色土をブロック状に含む

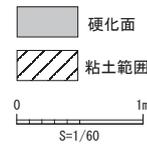
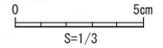
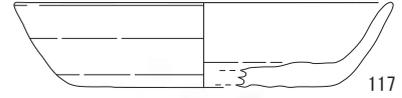
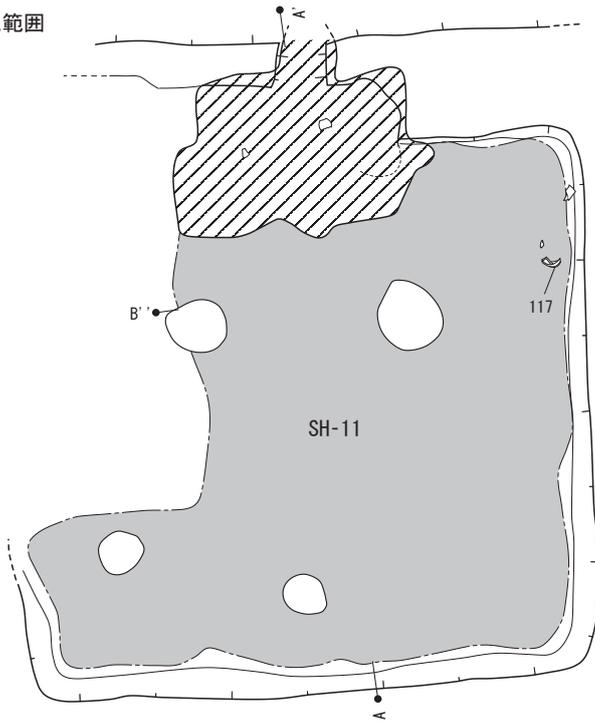
- ⑧10YR2/3 黒褐
やわらかく フカフカした土
粘性 しまりはない
焼土粒子を含む
- ⑨⑧と土色は似るが ⑧よりも
硬くしまりがある
5mm次 焼土粒子を多く含む
- ⑩10YR3/4 暗褐
やわらかい土 粘性としまりはない
焼土粒子を多量に含む
- ⑪10YR2/3 黒褐
非常にやわらかい黒褐色土に2cm次の
焼土がブロック状に多く混じる
- ⑫10YR3/4 暗褐
粘性なし しまりなし
サラサラした土 2cm次の小石
1mm次の焼土粒子を含む
- ⑬10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし やわらかい土
焼土粒子を多く含む

- ⑭10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
小石を含む
- ⑮10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
⑭と似ているが
⑭よりも黒みがあり
しまっていて硬い
- ⑯10YR2/3 黒褐
やわらかく フカフカとした土
粘性なし しまりなし
- ⑰10YR2/3 黒褐
やわらかい土
- ⑱10YR2/3 黒褐
焼土粒子を含む フカフカした土
- ⑲10YR2/3 黒褐
焼土粒子 粘土をふくむ
- ⑳10YR2/3 黒褐
竈粘土塊をふくむ
- ㉑10YR2/3 黒褐
焼土粒子を多く含む

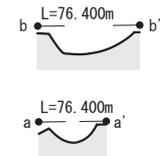
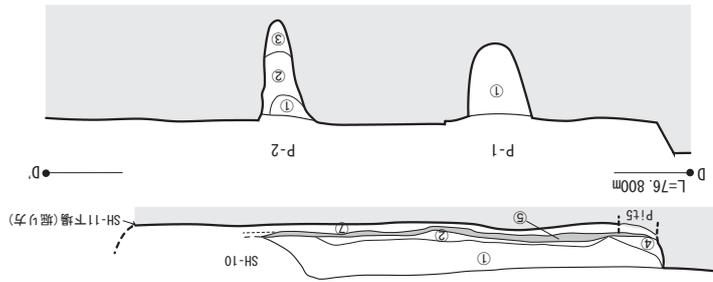
- ㉒10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし フカフカした土
- ㉓10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
硬くしまった土 カマド粘土塊を含む
- ㉔10YR3/4 暗褐
粘性なし しまりなし やわらかい土
竈粘土塊を含む
- ㉕10YR3/4 暗褐
部分的に竈粘土塊を含む
- ㉖10YR5/6 黄褐
粘性あり しまりあり 小石を含む
粘土の流れは 床面にもつづく
非常に硬く ガチガチしている
竈袖部の可能性
- ㉗10YR5/6 黄褐
粘性あり しまりあり
⑳と似ているが ㉖よりもしまりが弱い

第 91 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-10竈完掘状況

硬化面・粘土範囲

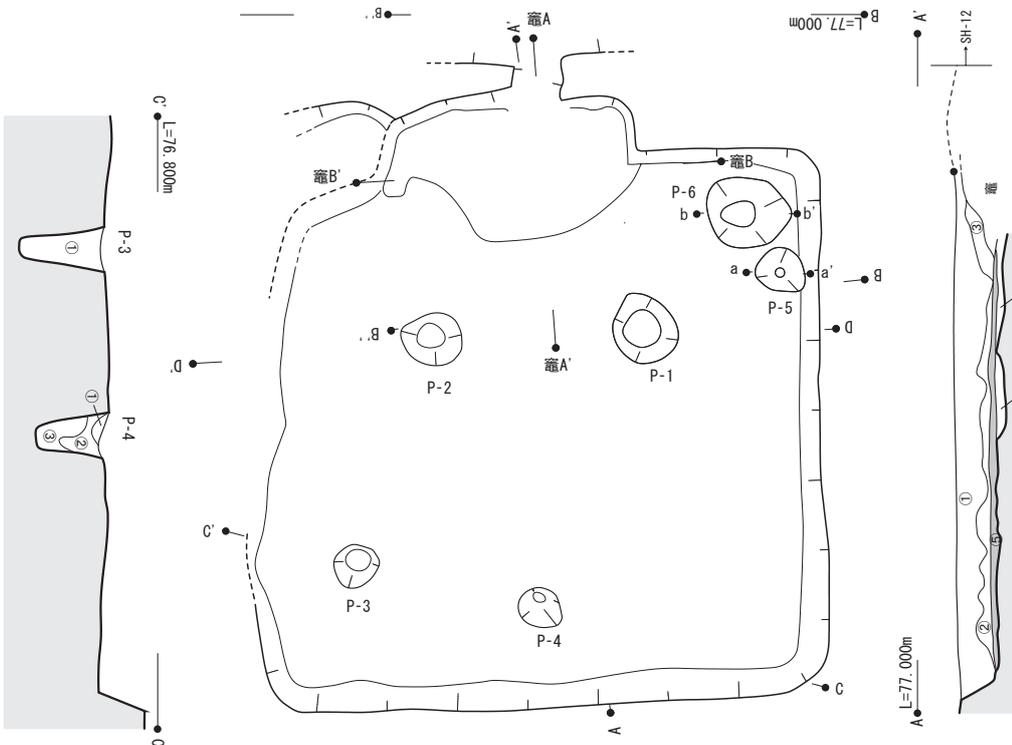


完掘状況



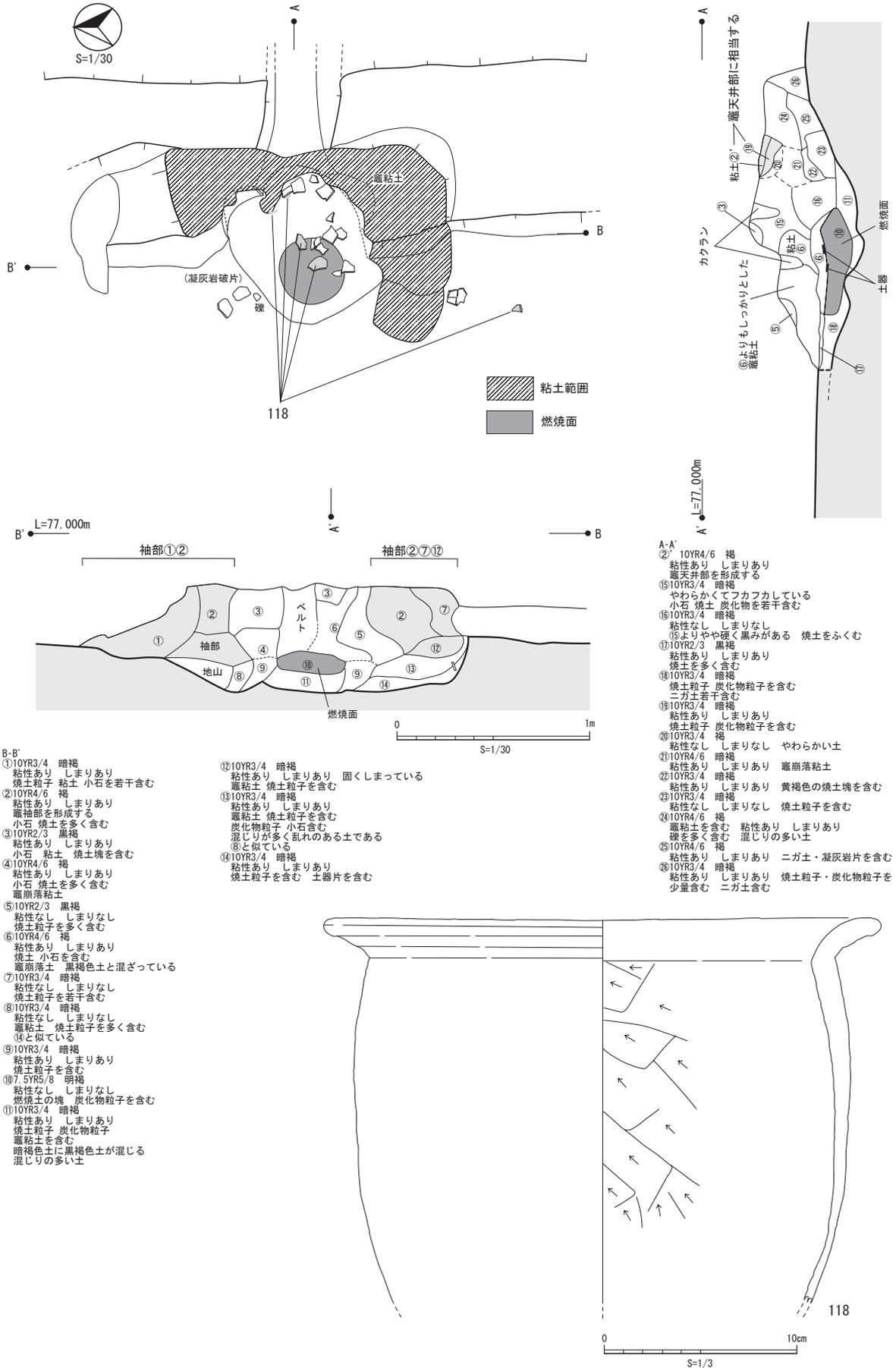
硬化面より検出

- P-5 10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
炭化物粒子
焼土粒子を含む
凝灰岩粒子を含む
土器出土
- P-6 10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
Pit5と土色は似る
凝粘土
二方土をふくむ
土器片を少量含む

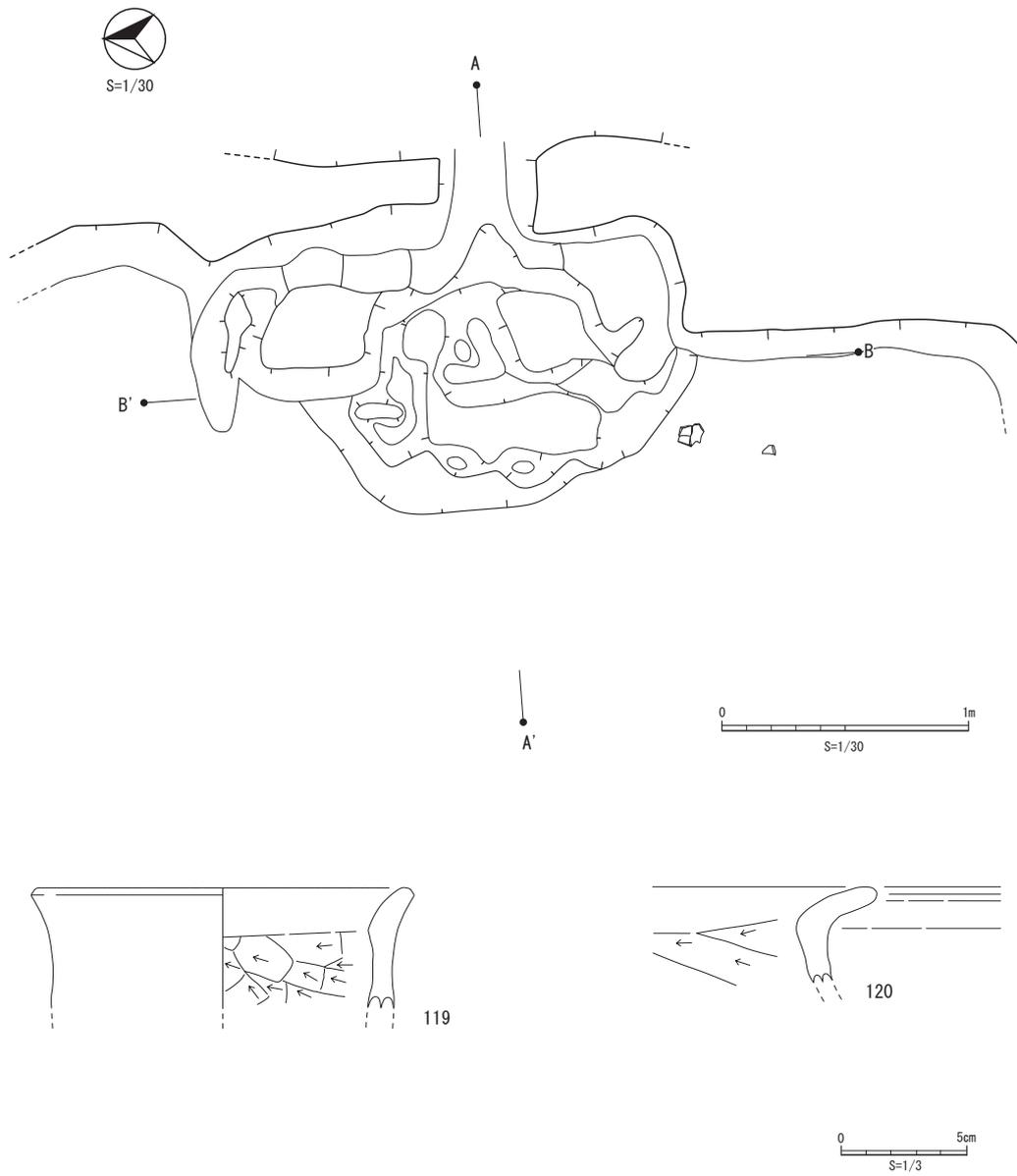


- P-1 ①10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
二方土を含む
土器片を不含む
炭化物・焼土粒子を含む
1cm大の小石を含む
褐色土をブロック状に含む
 - P-2 ①10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
黒色土を含む
二方土を含む
 - ②10YR4/6 褐
粘性あり しまりあり
二方土を多く含む
土器片含む
 - ③10YR5/8 黄褐
粘性あり しまりあり
 - P-3 ①10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
二方土を多く含む
焼土粒子を若干含む
小石(5cm大)を含む
器片を含む
 - P-4 ①10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
二方土を含む
 - ②10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
褐色土をブロック状に
1cm大小石を含む
 - ③10YR4/4 褐
粘性あり しまりあり
二方土を多く含む
- 0 1m
S=1/60

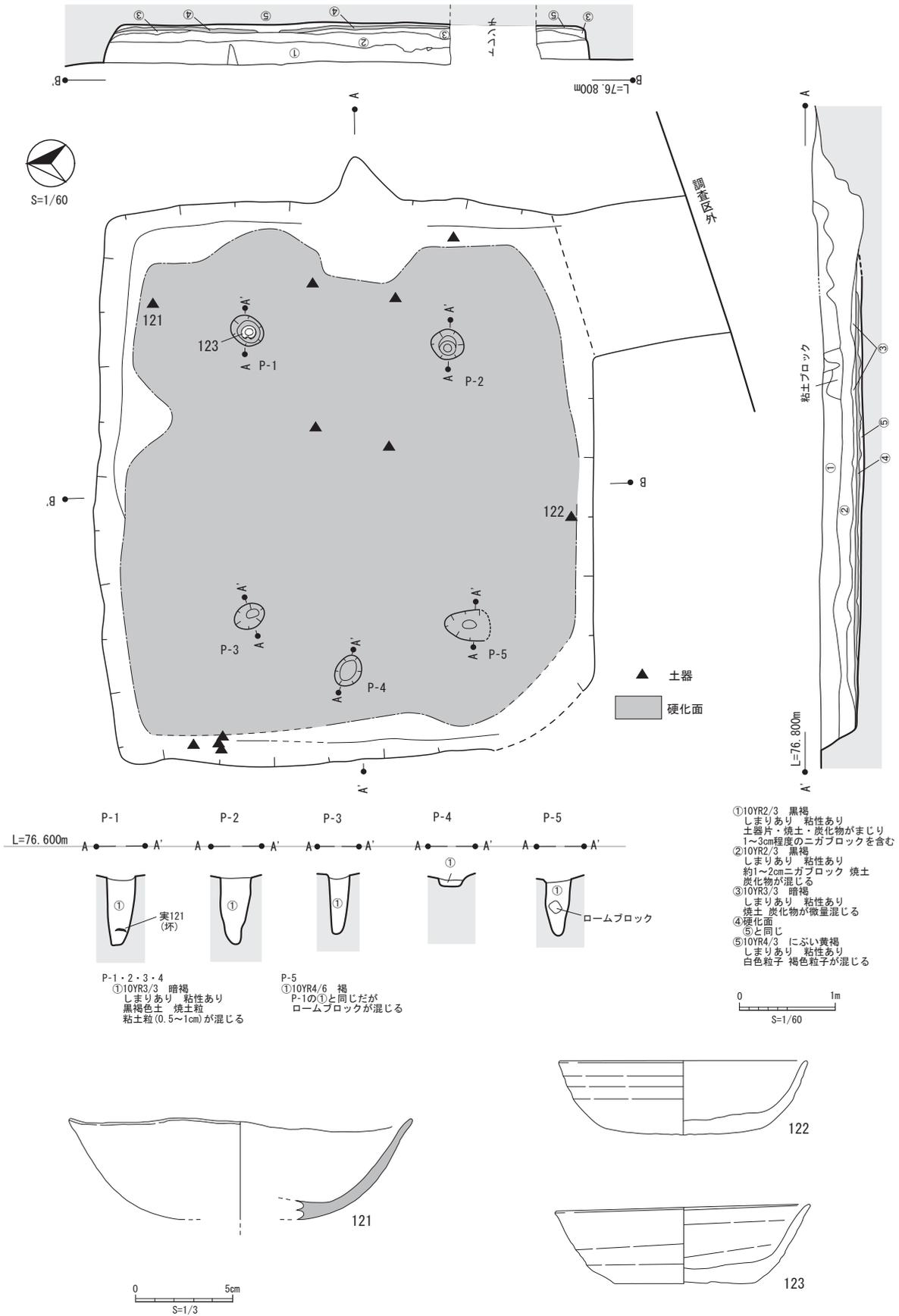
第 92 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-11硬化面・粘土範囲検出・完掘状況及び出土遺物実測図



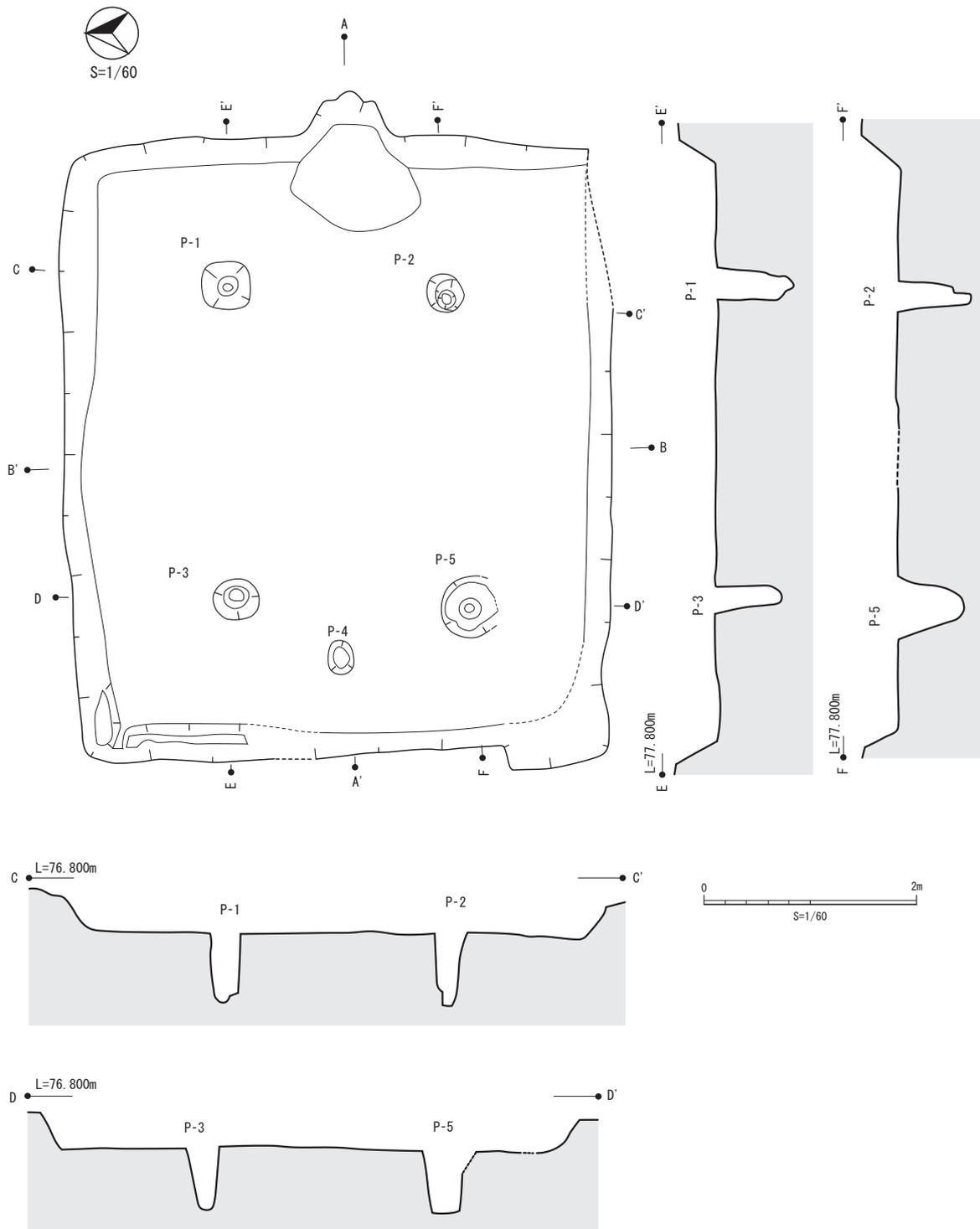
第 93 図 桑鶴遺跡遺跡群 III区 SH-11竈実測図及び出土遺物実測図



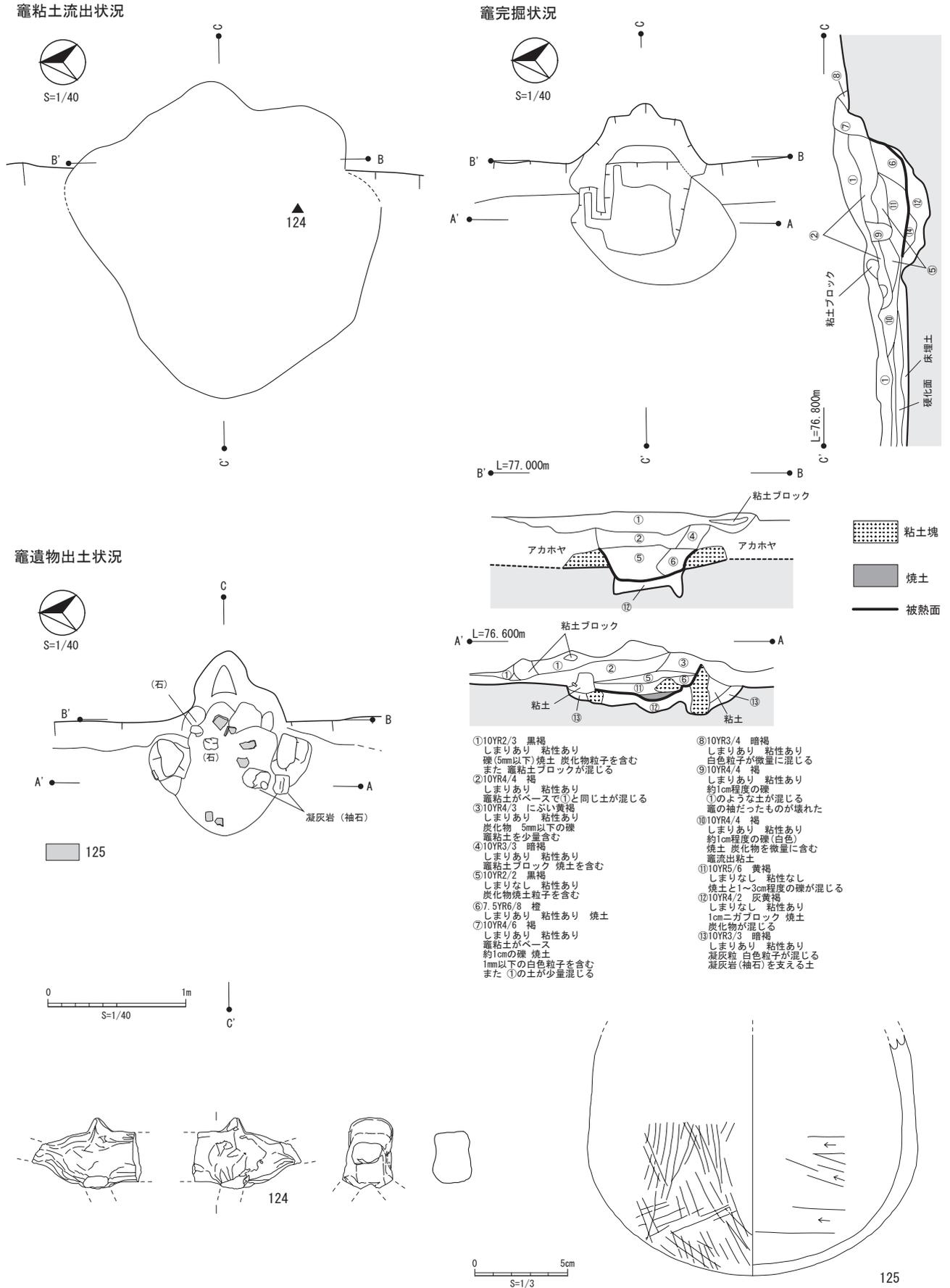
第 94 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-11竈粘土範囲及び出土遺物実測図



第 95 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-12使用時完掘・Pit検出状況及び出土遺物実測図



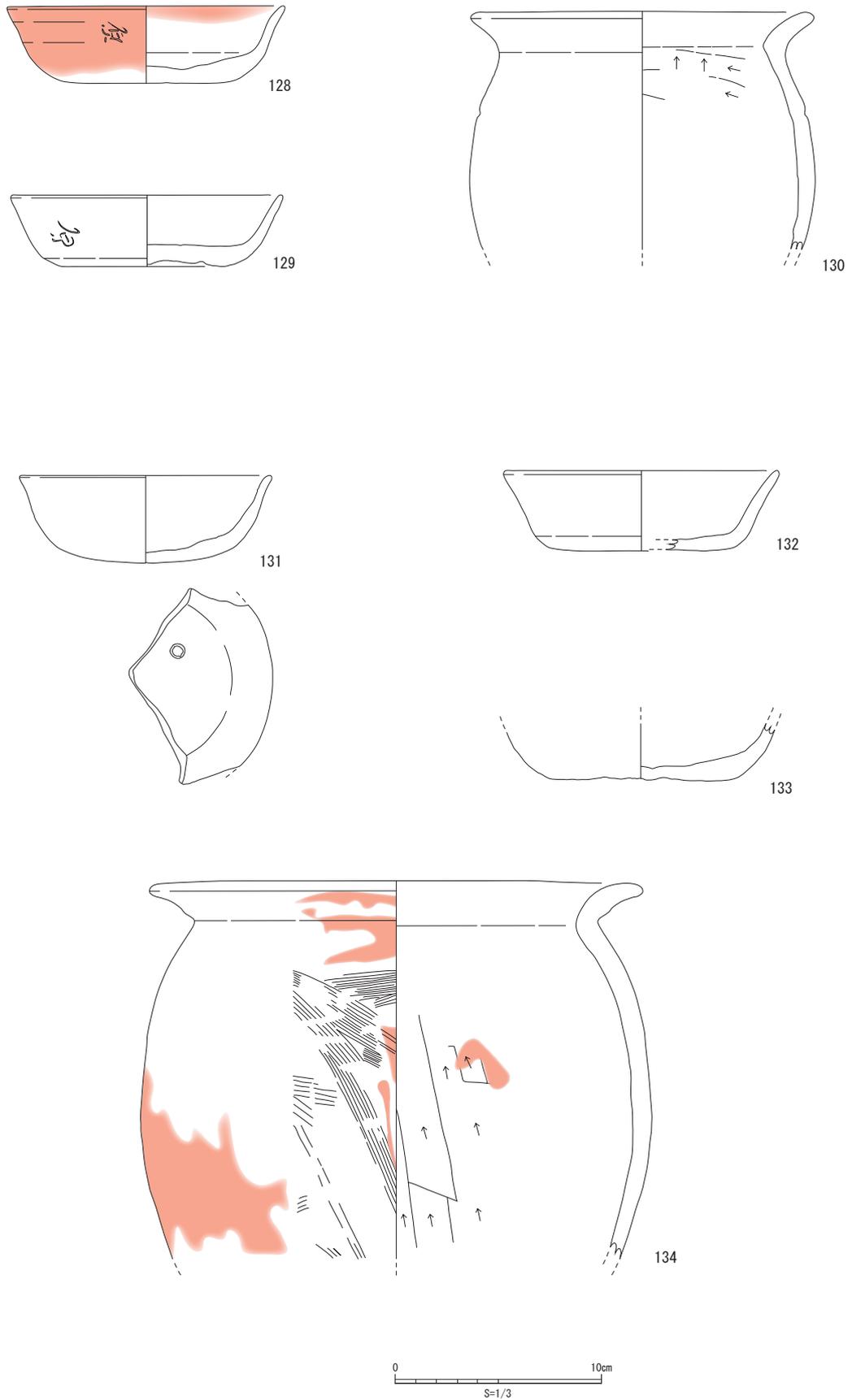
第 96 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12完掘状況



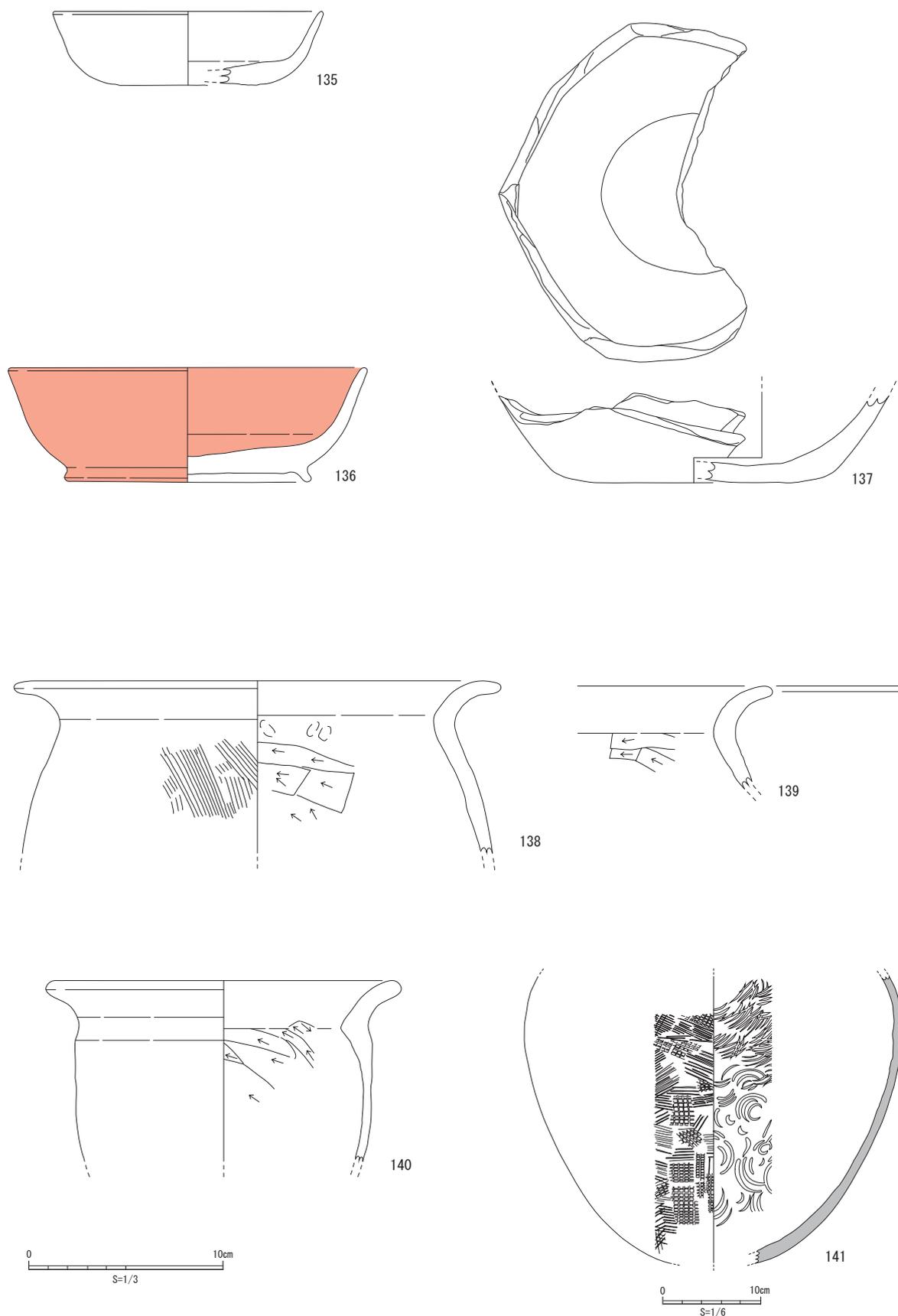
第 97 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-12竈実測図及び出土遺物実測図



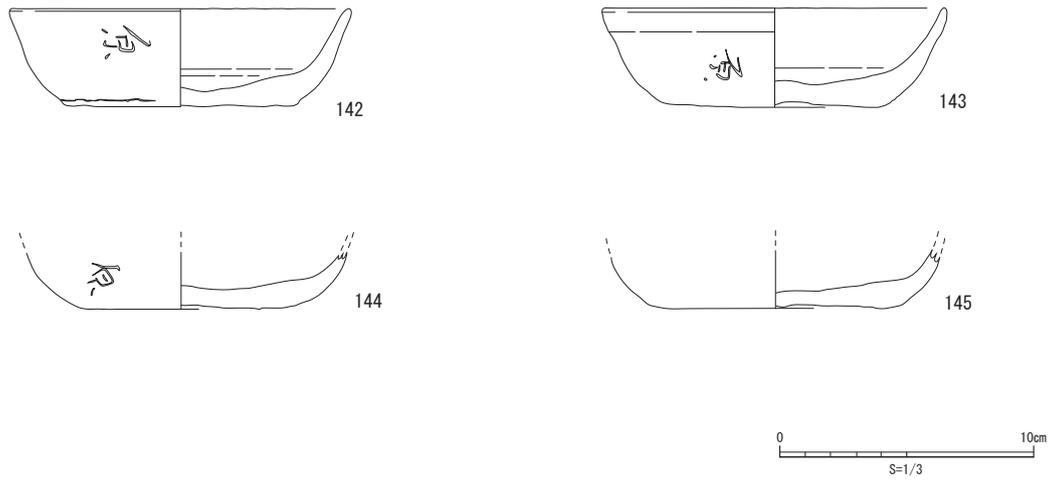
第 98 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区
SH-12硬化面検出・土器密集区遺物出土状況及び出土遺物実測図



第 99 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12土器密集区出土遺物実測図 1



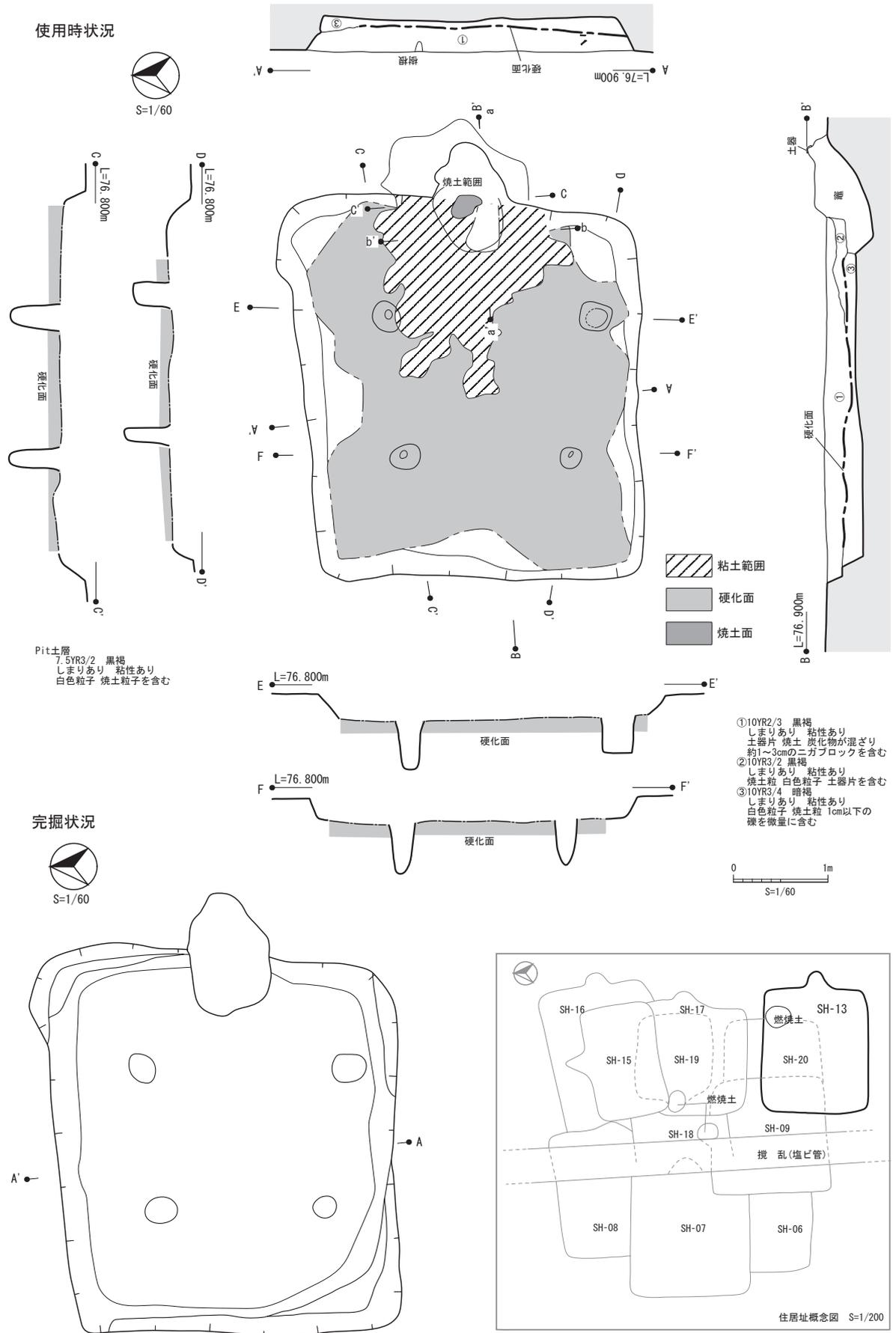
第 100 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-12土器密集区出土遺物実測図 2



第 101 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12出土遺物実測図

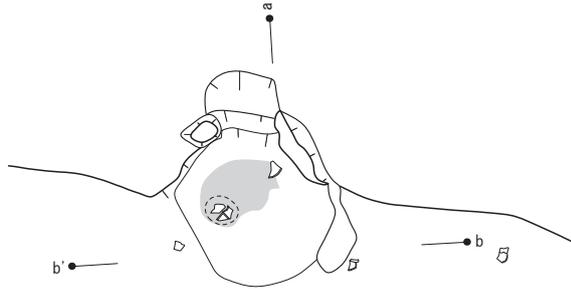


夏休み体験発掘

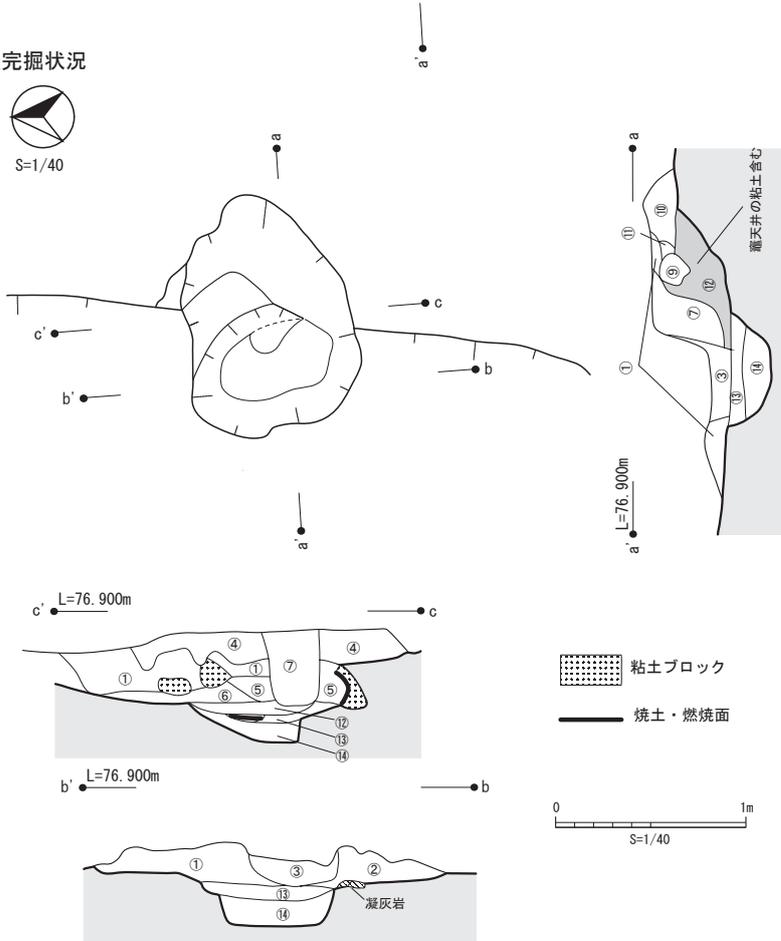


第 102 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-13実測図

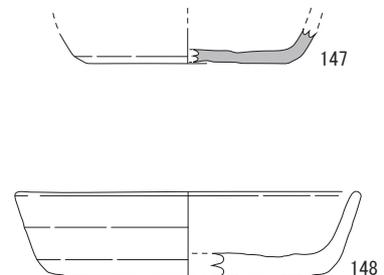
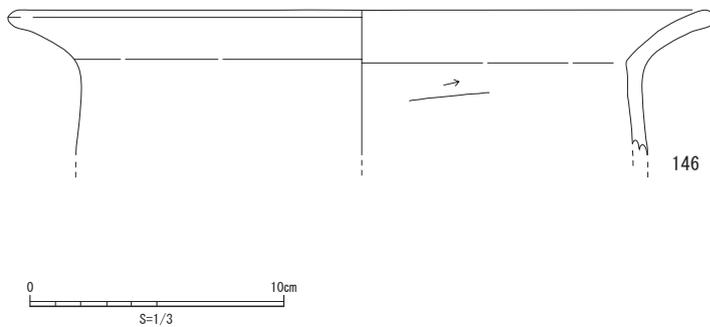
竈使用時状況



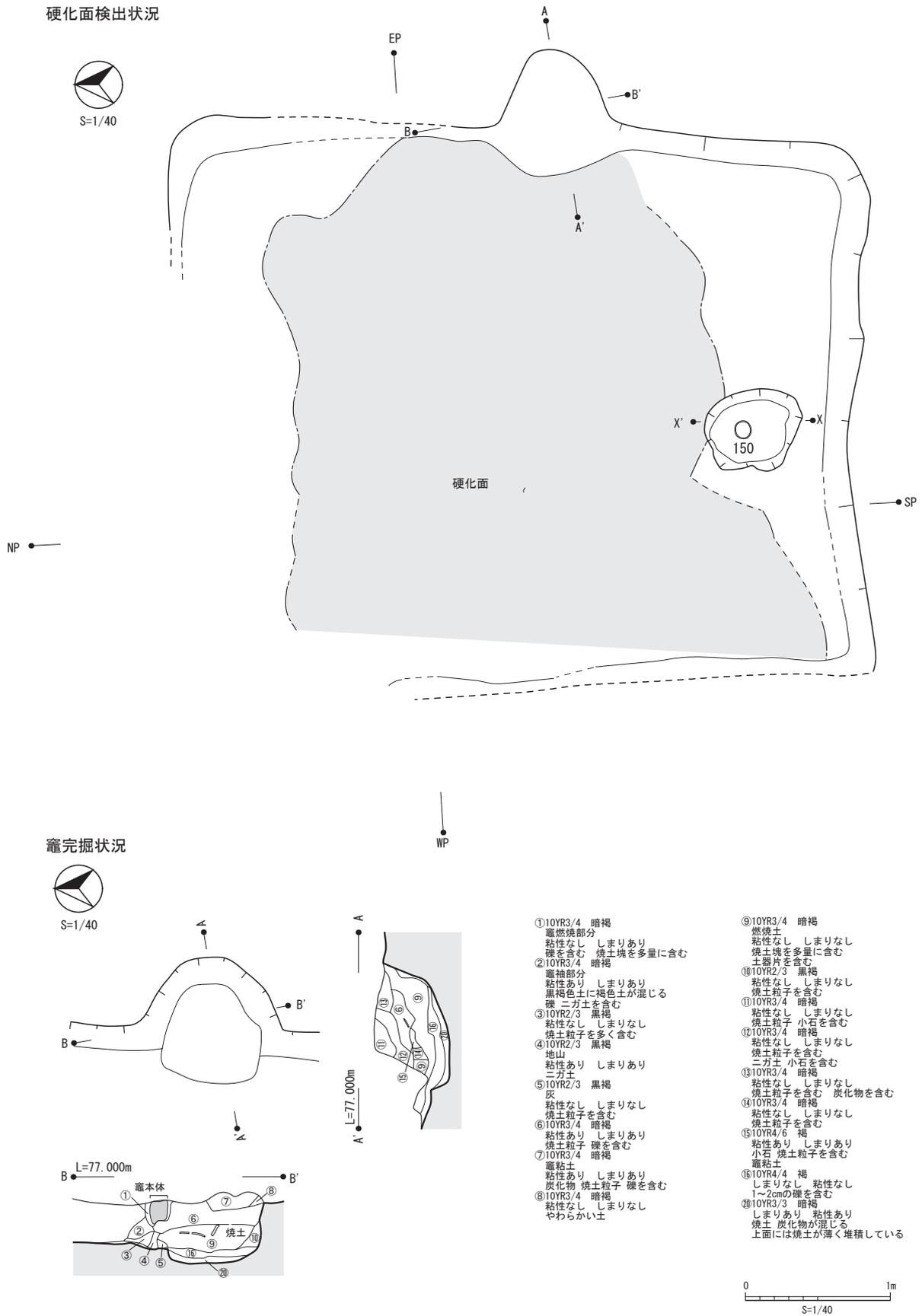
竈完掘状況



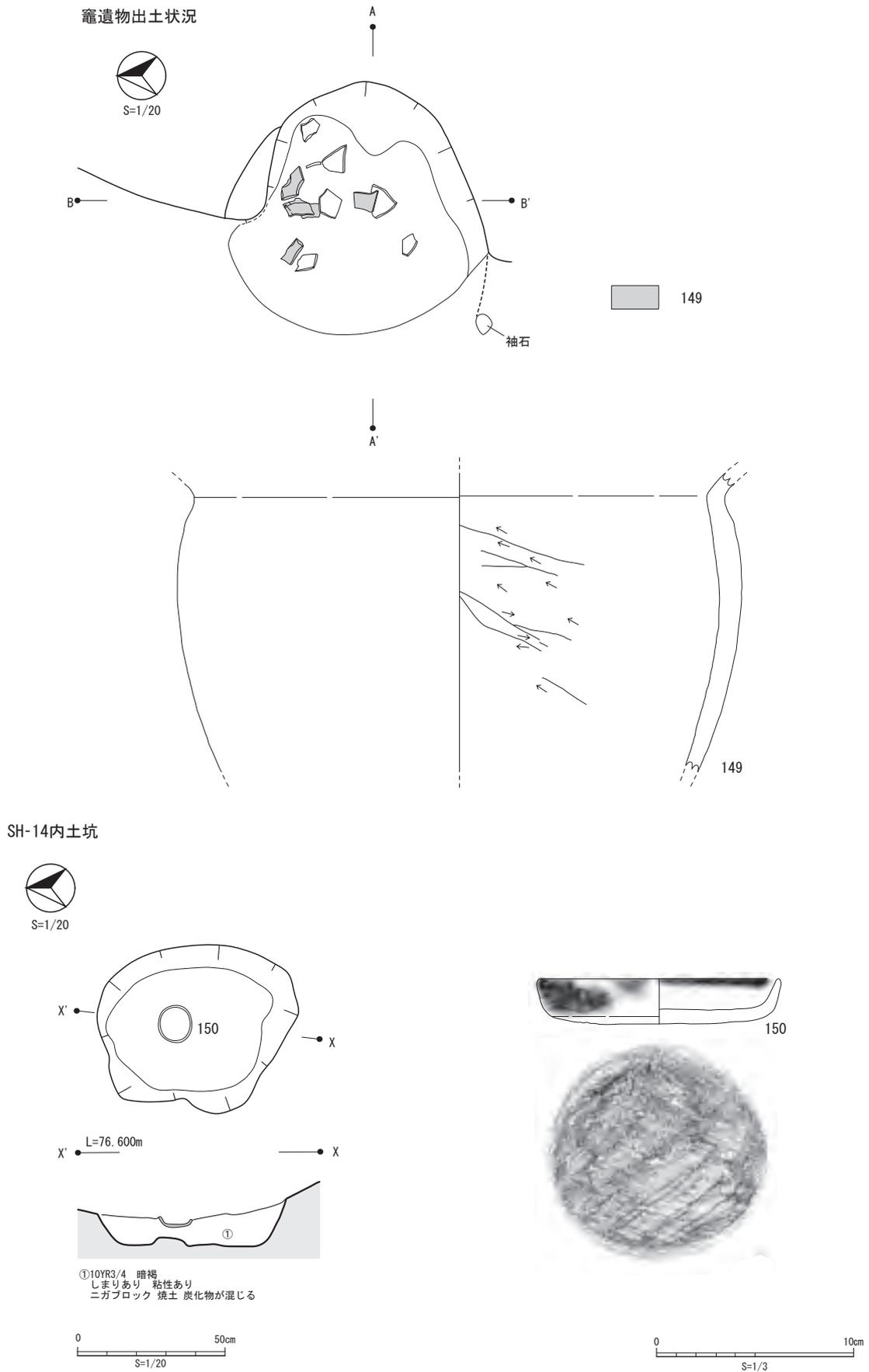
- ①10YR4/4 褐
しまりあり 粘性あり
約1cmの礫 炭化物 焼土が混じる
竈粘土がベース
10YR3/4 暗褐
- ②10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘性あり
竈粘土のブロック 焼土
炭化物が混じる
- ③10YR3/3 暗褐
しまりなし 粘性あり
径約1mmの白色粒子 焼土が微量に混じる
- ④10YR3/3 暗褐
しまりあり 粘性あり
約1cmの竈粘土 焼土 炭化物が混じる
- ⑤10YR4/3 にぶい黄褐
しまりあり 粘性あり
炭化物 焼土が微量に混じる
- ⑥10YR4/2 灰黄褐
しまりあり 粘性あり
焼土 炭化物 竈粘土粒が混じる
- ⑦10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘性あり
径約1mm白色粒子 5mm位の礫が微量に混じる
- ⑧粘土ブロック
- ⑨竈粘土
10YR4/6 褐
しまりあり 粘性あり
凝灰岩礫(1~2cm) 白色粒子(0~2mm)
- ⑩10YR3/3 暗褐
しまりあり 粘性あり
粘土粒(径約3mm) 焼土粒が混じる
- ⑪10YR5/6 黄褐
しまりあり 粘性あり
竈流出粘土がベースで①が混じる
- ⑫10YR4/3 にぶい黄褐
しまりあり 粘性あり
焼土粒 竈粘土 1~2cmの礫を含む
- ⑬10YR3/3 暗褐
しまりあり 粘性あり
白色粒子 約1cmの礫が微量に混じる
- ⑭10YR3/4 暗褐
しまりあり 粘性あり
白色粒子 焼土粒を微量含む
また ニガ土が混じる



第 103 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-13竈実測図及び出土遺物実測図

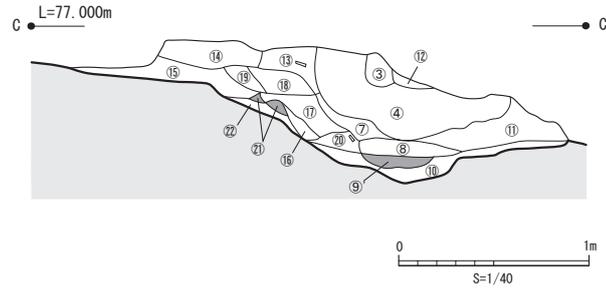
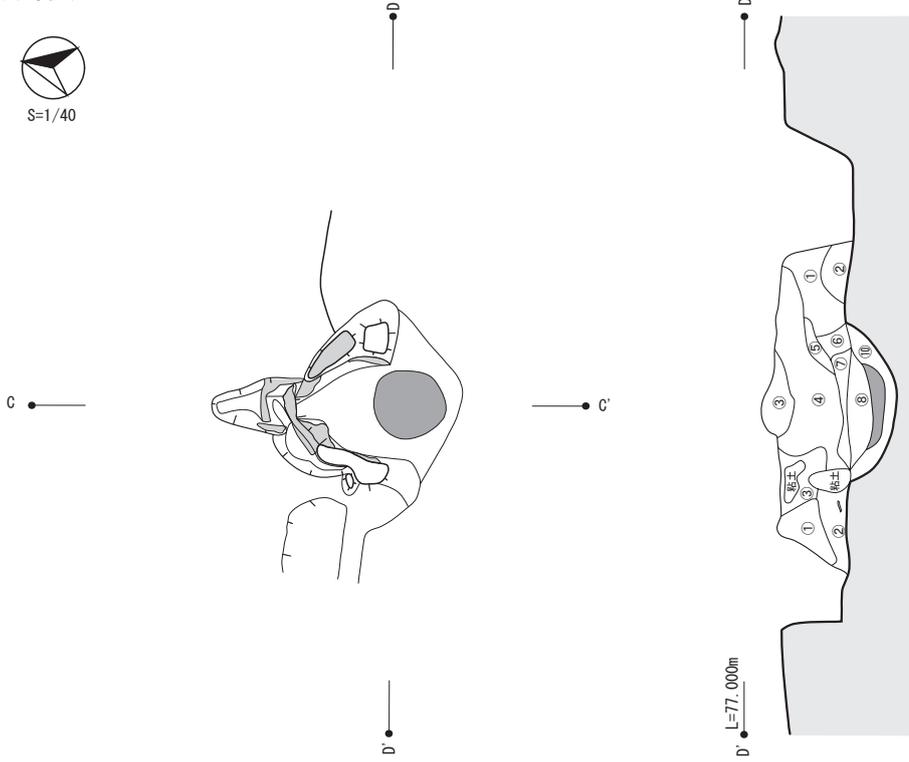


第 104 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-14硬化面検出及び竈実測図



第 105 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-14竈・土坑遺物出土状況及び出土遺物実測図

竈使用時状況

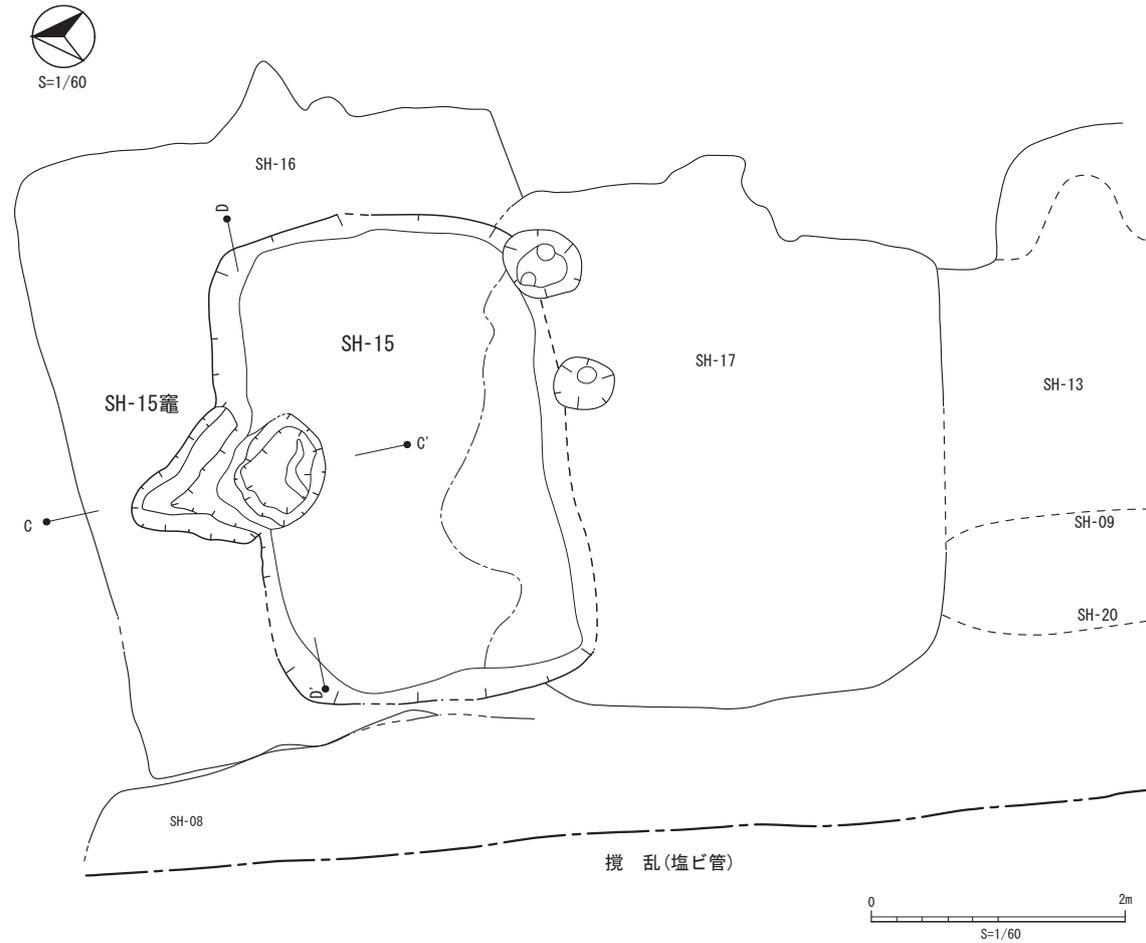


■ 燃烧面
■ 被熱

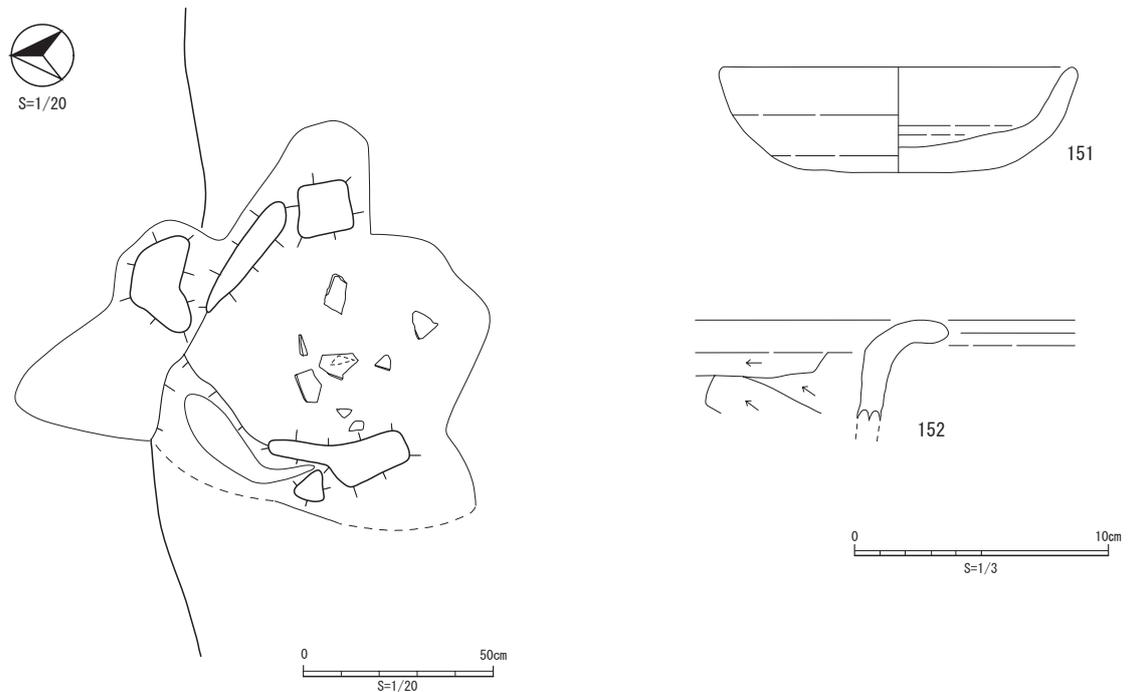
- ①10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
炭化物粒子 焼土粒子 礫 ニガ土を含む
- ②10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
焼土粒子 土器片を含む ニガ土を多く含む
①よりも若干茶色
- ③10YR2/3 黒褐
粘土粒子を含む 1cm大の礫を含む
- ④10YR4/6 褐
粘性あり しまりあり
竈筋薄粘土塊を含む
- ⑤10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
竈粘土粒子 焼土粒子を
含むやわらかい土
- ⑥10YR4/4 褐
粘性あり しまりあり
竈粘土塊 硬くしめる
礫を多く含む(袖部カ)
- ⑦10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
ニガ土 焼土粒子を含む かたい
- ⑧10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱い
焼土を多く含む やわらかい土
- ⑨10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり 焼土を多く含む燃焼土
- ⑩10YR3/3 暗褐
焼土粒子を含むやわらかい土
- ⑪10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり 炭化物・焼土を含む
粘土・ニガ土・礫を含む 住居埋土
*SH-15土層断面B-Bの4層にあたる
- ⑫10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱く やわらかい土
- ⑬10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
土器片を含む 焼土粒子を多く含む
- ⑭10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
竈粘土 焼土を多く含む
- ⑮10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱く サラサラとした土埋土
- ⑯10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
- ⑰10YR4/6 褐
竈焼土塊 1cm大を多量に含む土
ボコボコとしているがガチガチと固まっている
- ⑱10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱い 焼土粒子を含む
- ⑲10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱い ⑱よりも焼土粒子を多く含む
- ⑳10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり 土器片を含む
- ㉑⑮と⑰を足したような層
- ㉒10YR3/4 暗褐
燃焼土塊 ガチガチとしており硬くしめる
竈埋土
- ㉓10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり ニガ土を含む

第 107 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-15竈実測図

完掘状況

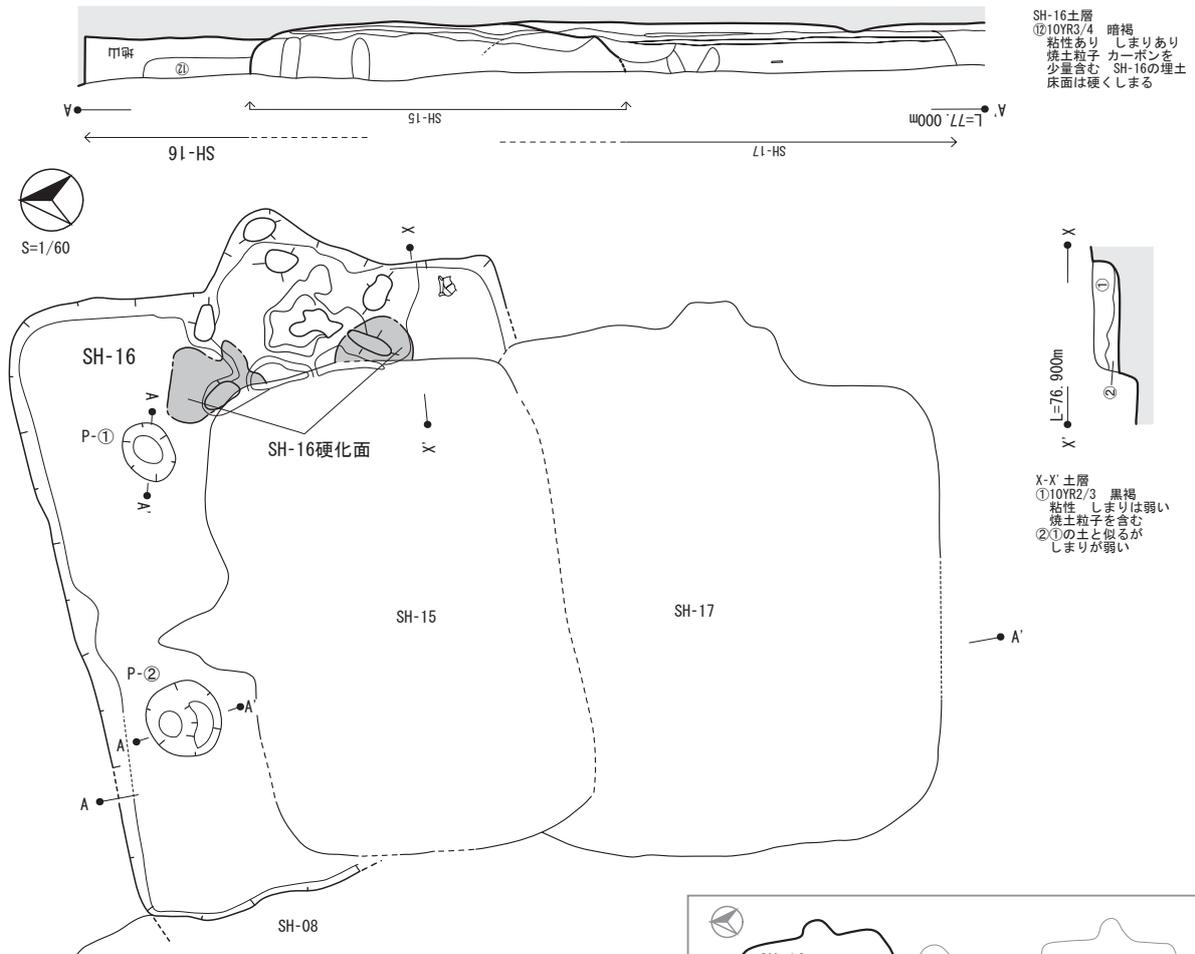


竈遺物出土状況

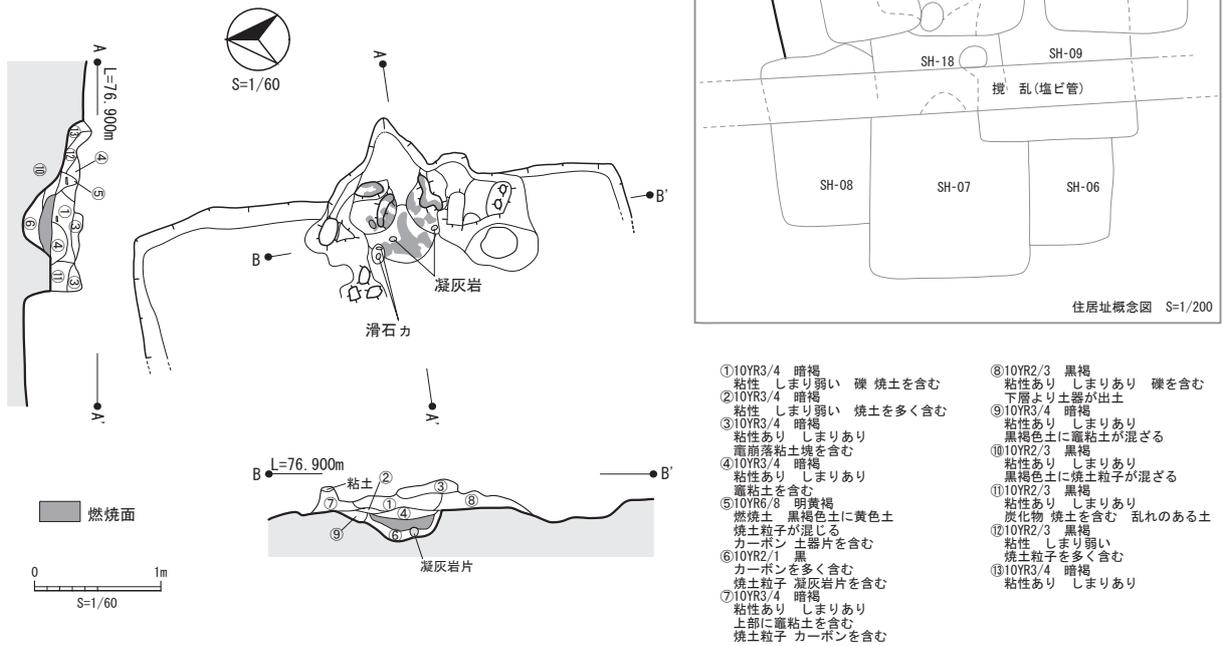


第 108 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-15完掘・竈遺物出土状況及び出土遺物実測図

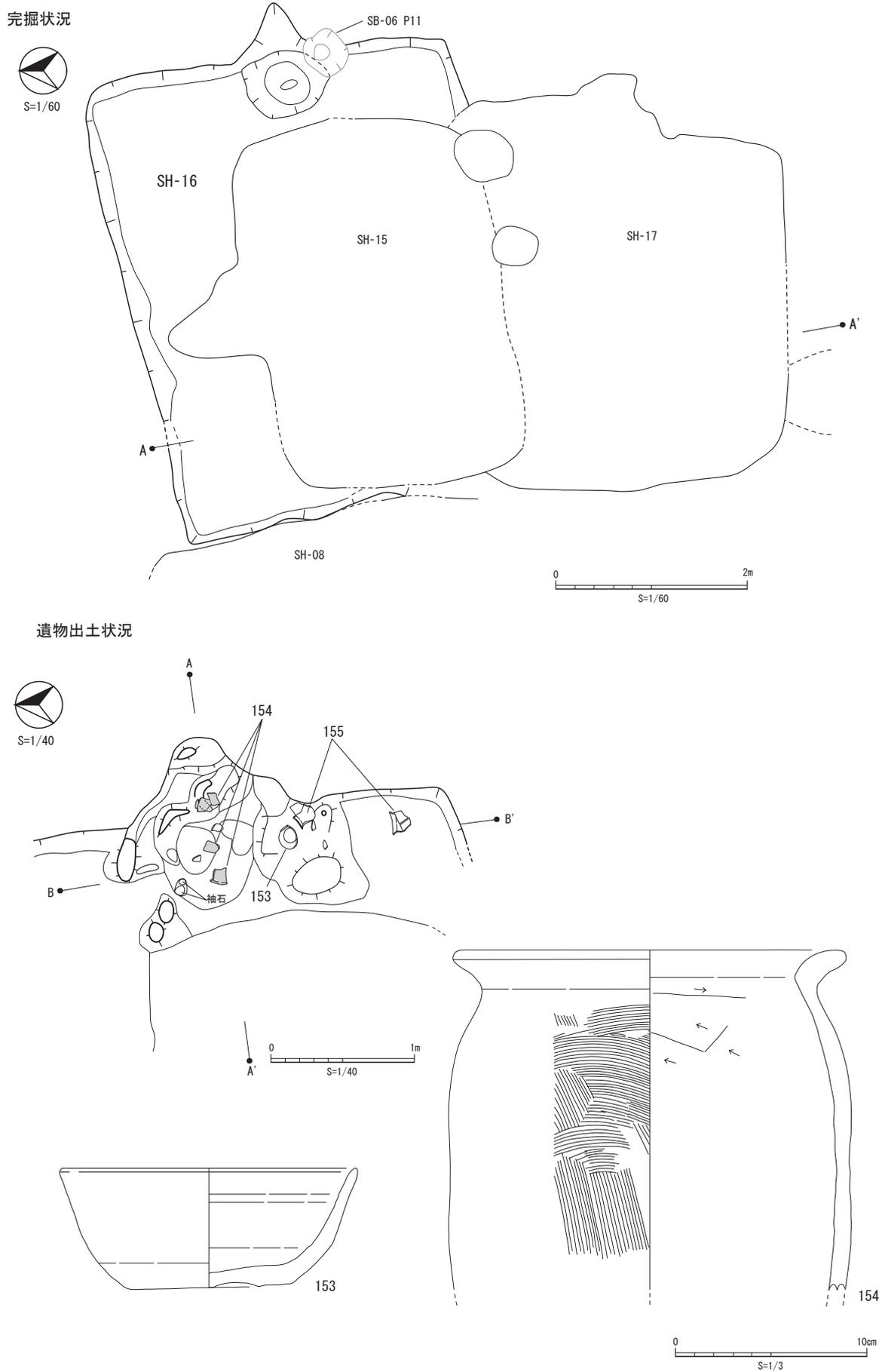
竈検出状況



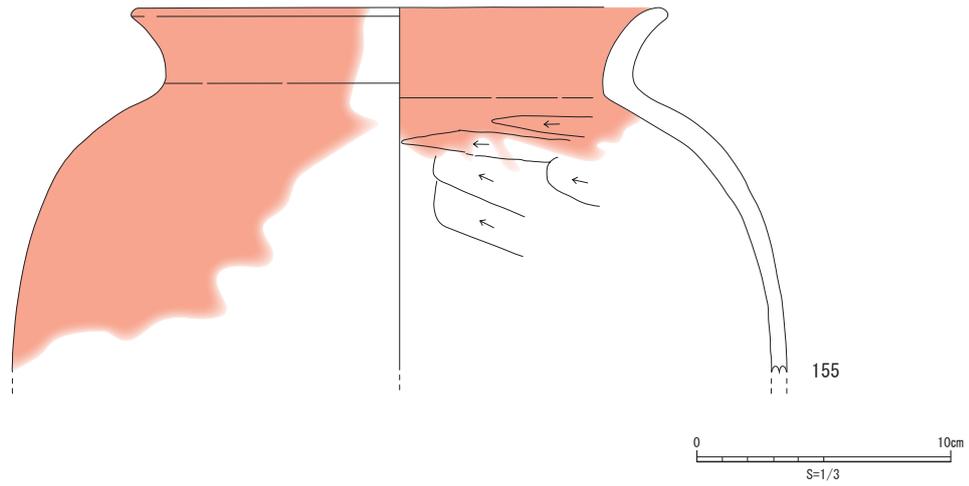
竈使用時状況



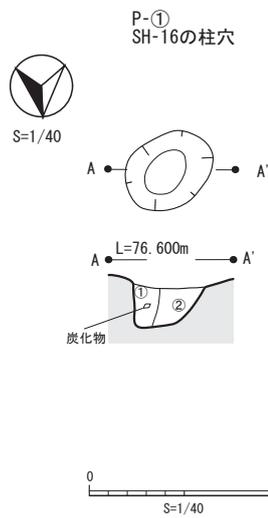
第 109 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-16竈検出・使用時状況



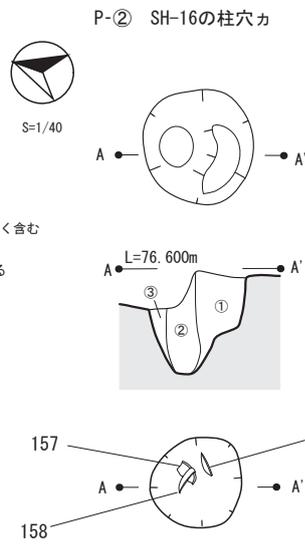
第 110 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-16完掘・竈遺物出土状況及び出土遺物実測図



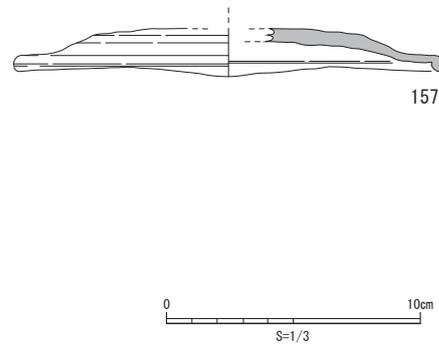
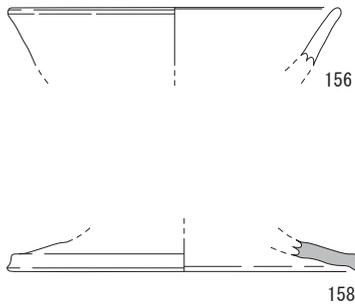
P-①・②



- ①10YR2/3 黒褐
粘性 しまりは弱い
炭化物 (10m²) を多く含む
やわらかい土
- ②10YR2/3 黒褐
①よりもしまりがある
二ガ土を含む
炭化物を含む

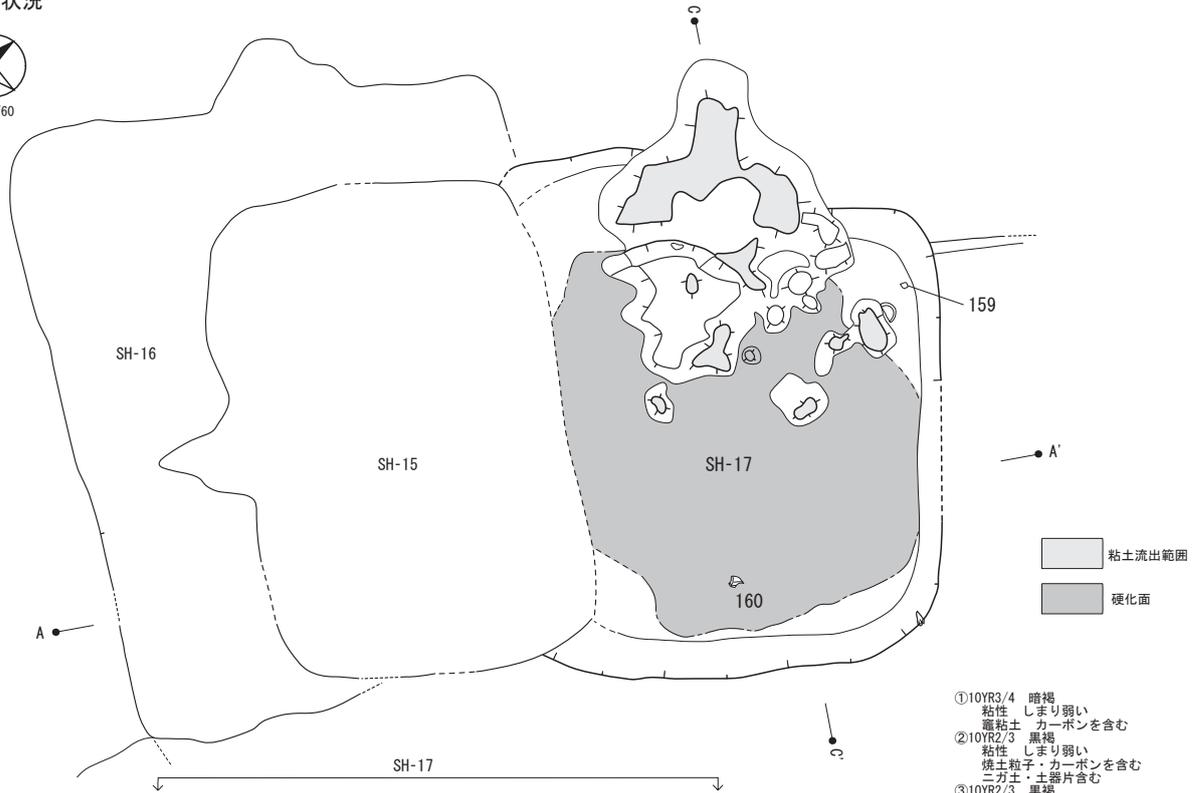


- ①10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
二ガ土を含む
焼土粒子 カarbonを少量含む
- ②10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
①と比べるとやわらかい土
黄褐色土を含む
- ③10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
①よりもやわらかいが
②よりも硬い土
Carbonを少量含む



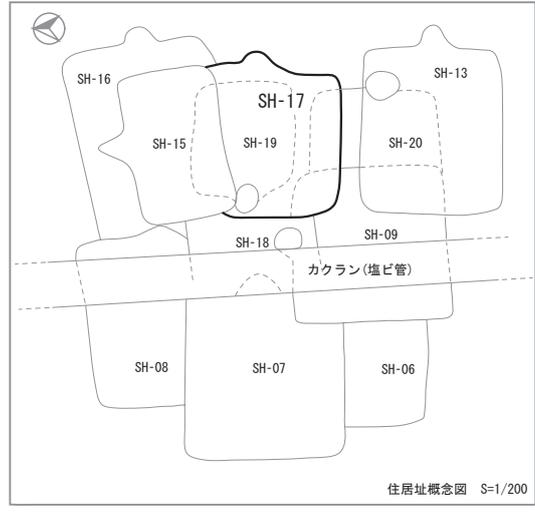
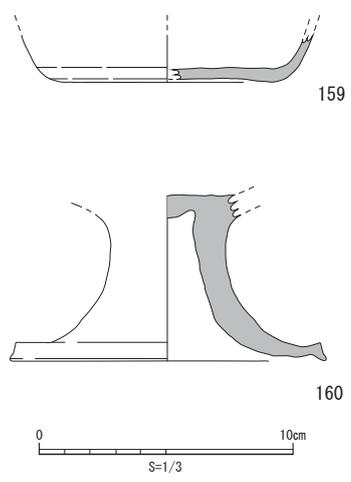
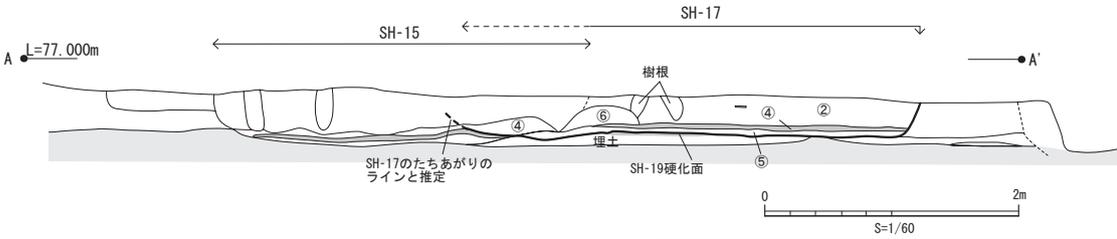
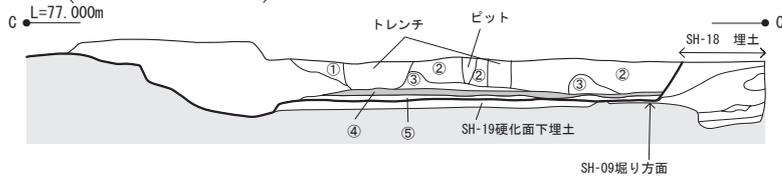
第 111 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-16 P-①・②実測図及び出土遺物実測図

使用時状況



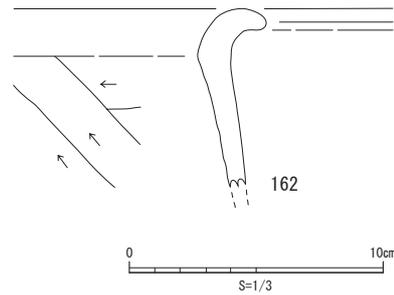
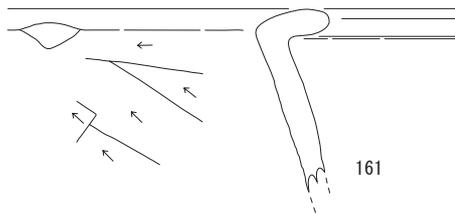
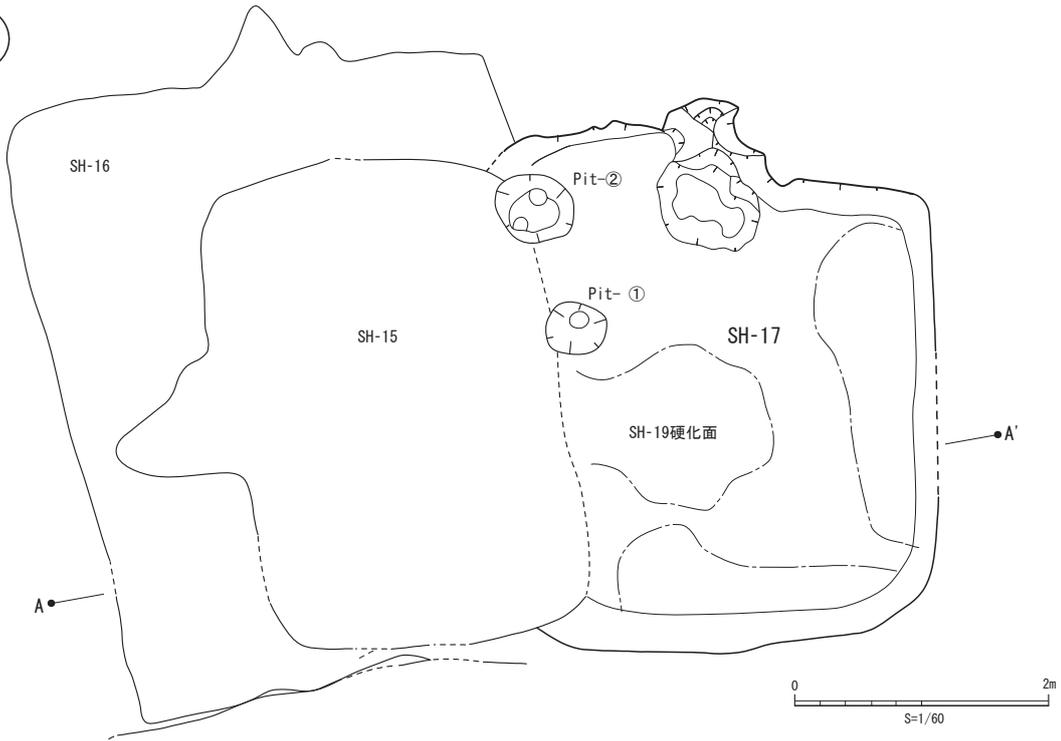
粘土流出範囲
 硬化面

- ①10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱い
竈粘土 カarbonを含む
- ②10YR2/3 黒褐
粘性 しまり弱い
焼土粒子・Carbonを含む
ニガ土 土器片含む
- ③10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
②と似るがニガ土を含む
- ④10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
焼土粒子 竈粘土粒子を含む
SH-17の硬化面
- ⑤10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
⑦と似るやわらかい土
この層の下に別遺構の硬化面や
埋土のプランを検出
- ⑥10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
ニガ土 竈粘土 小礫 焼土粒子
Carbonを含む

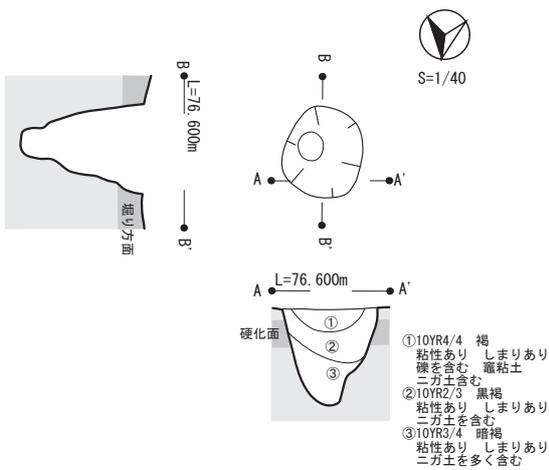


第 112 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-17使用時状況及び出土遺物実測図

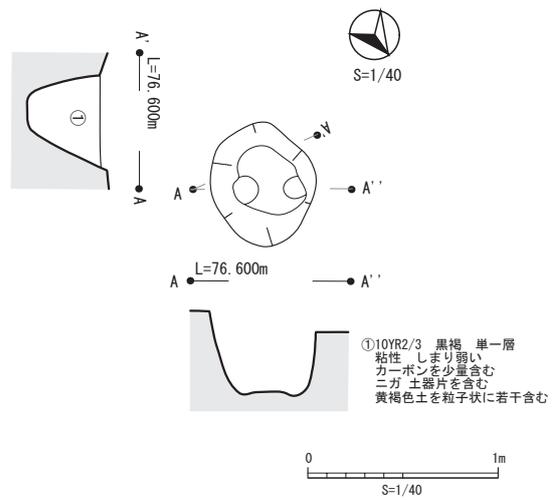
完掘状況



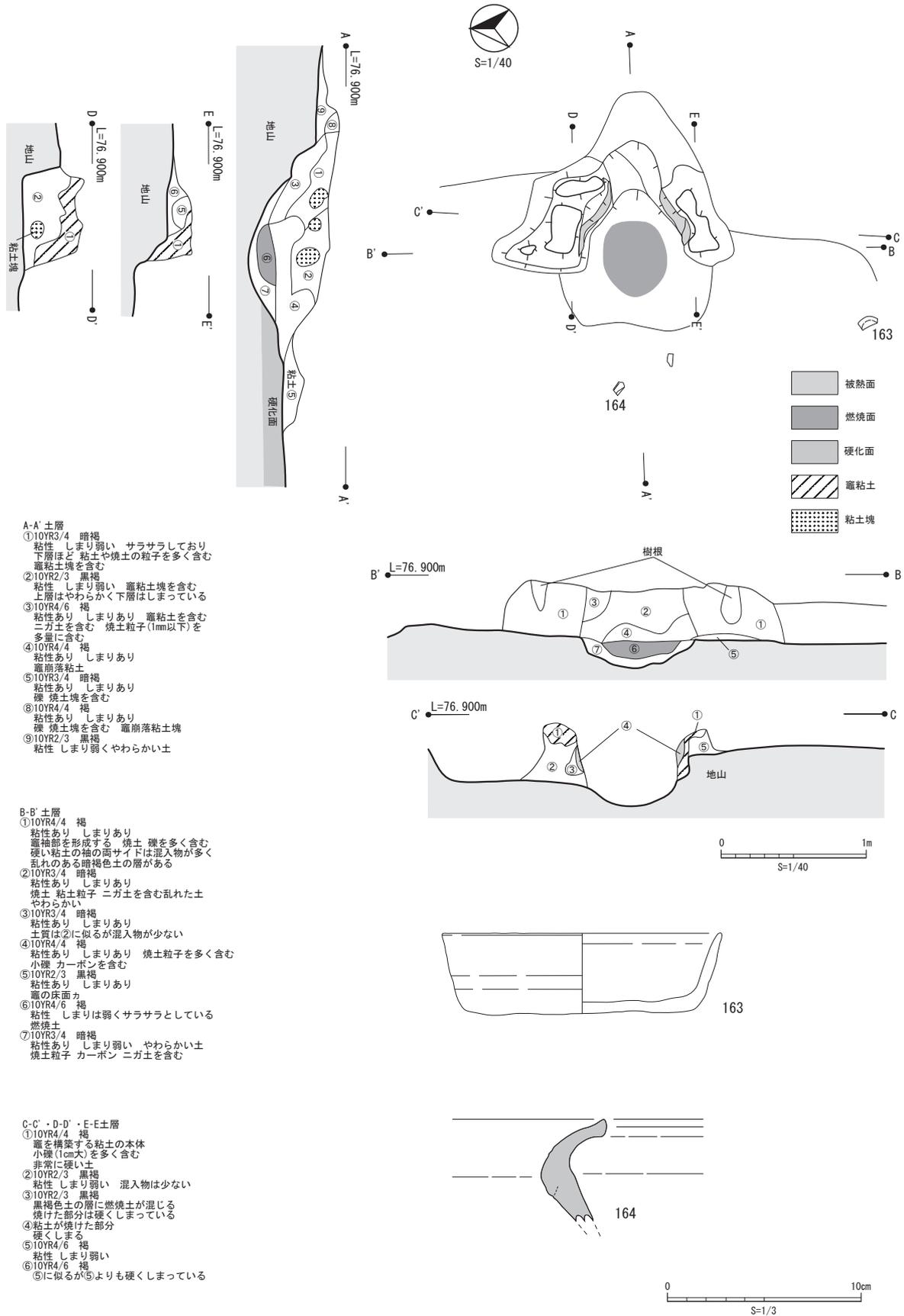
Pit-①



Pit-②

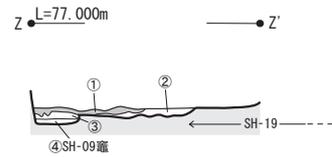
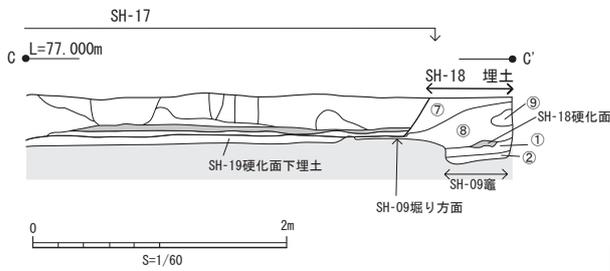
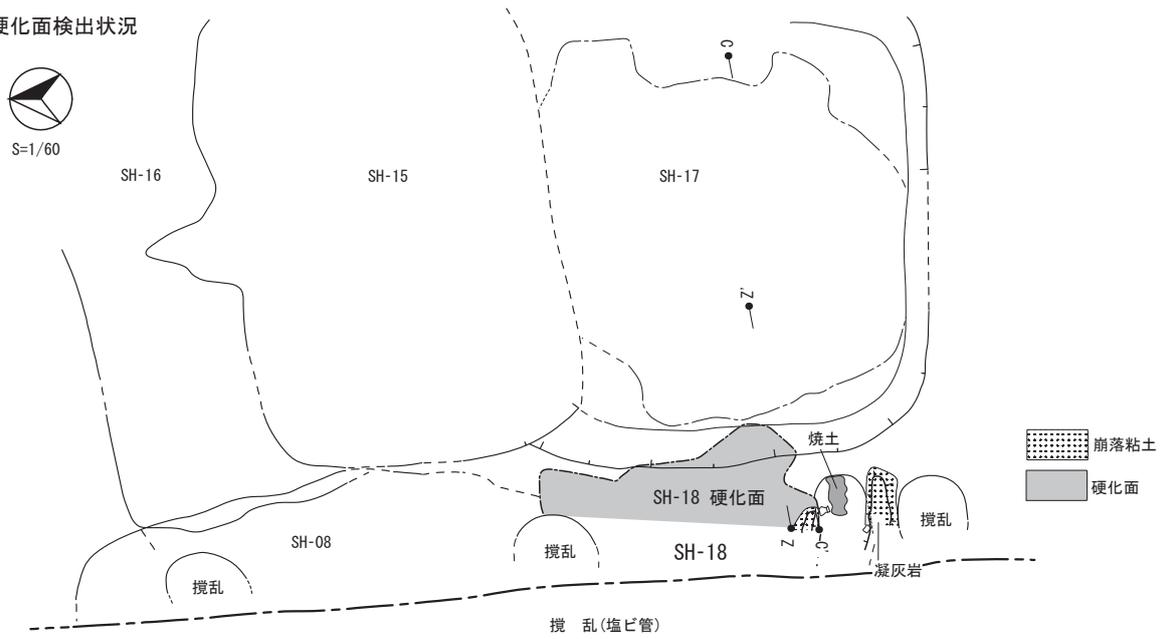


第 113 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-17完掘状況・Pit-①・②実測図及び出土遺物実測図



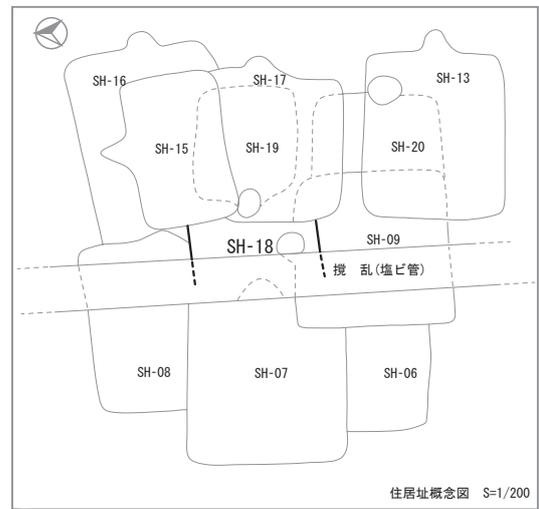
第 114 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-17竈実測図及び出土遺物実測図

硬化面検出状況

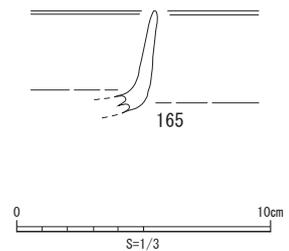
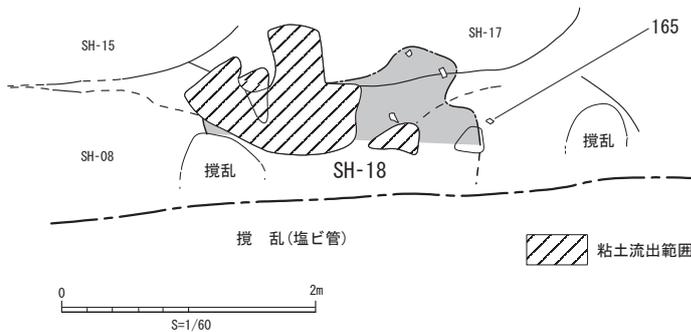


- C-C' 土層
- ⑦10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱い
ニガ土をブロック状に含む
粘土粒子 白色粒子を含む
 - ⑧10Y2/3R 黒褐
粘性あり しまりあり
焼土粒子 カーボン 粘土 ニガ土 小礫を含む
混入物がよく乱れのある土
 - ⑨10YR2/3 黒褐
⑧と似るが非常に硬く粘土がある
ニガ土ブロック
- SH-09竈
- ①10YR3/4 暗褐
焼土粒子 カーボンを多く含む
小礫を含む 混ざりが多い土
 - ②①よりも混ざりの少ない土

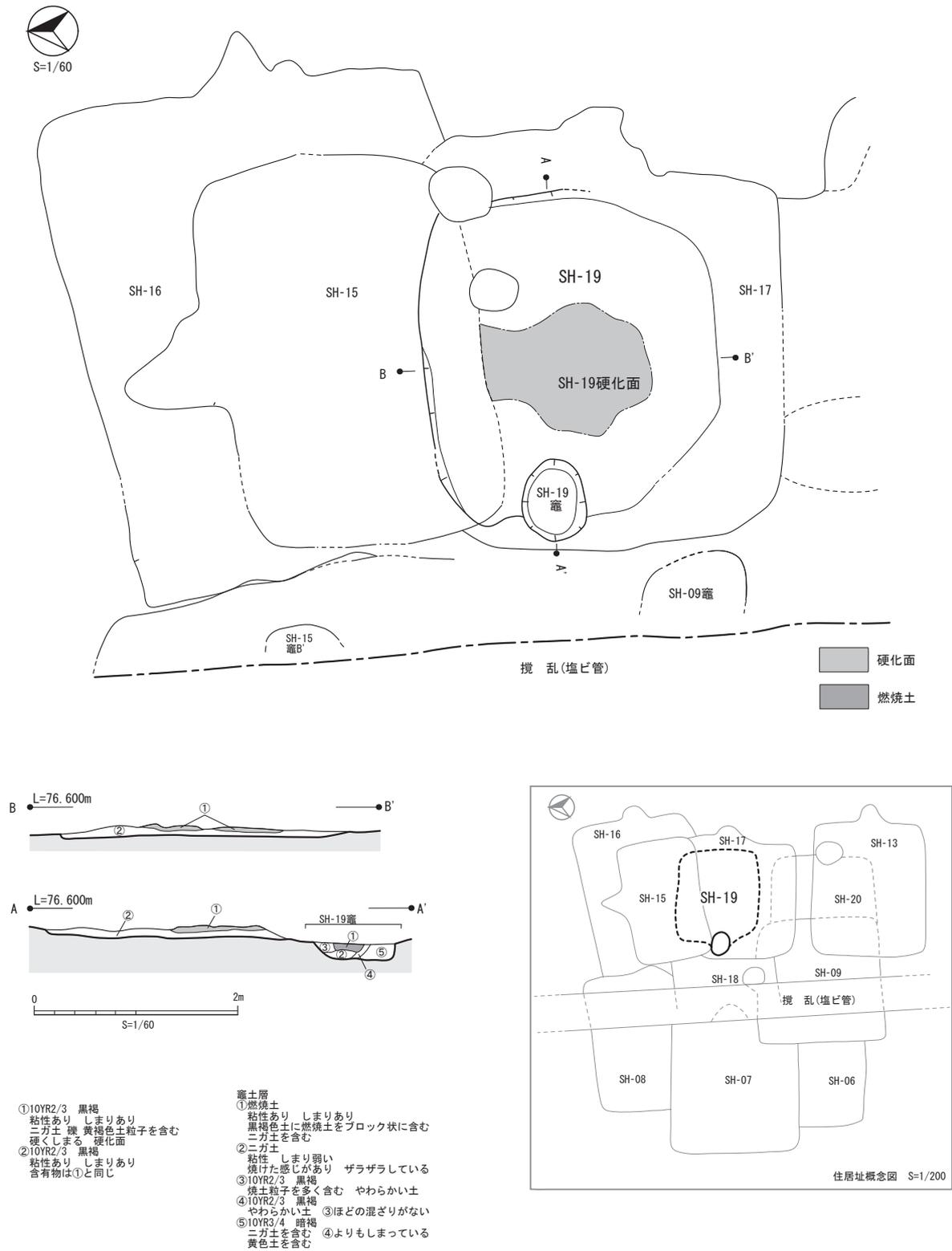
- Z-Z' 土層
- ①10YR3/4 暗褐
硬化面 粘性はないが硬くしまる
焼土 カーボン 小礫 ニガ土を含む
 - ②10YR3/4 暗褐
粘性 しまり弱い
混入物は①と同じ
 - ③10YR3/4 暗褐
竈埋土 焼土粒子
カーボンを多く含む
小礫を含む 混ざりが多い土
 - ④10YR2/3 黒褐
粘性 しまりは弱い
ニガ土を含む



粘土流出状況

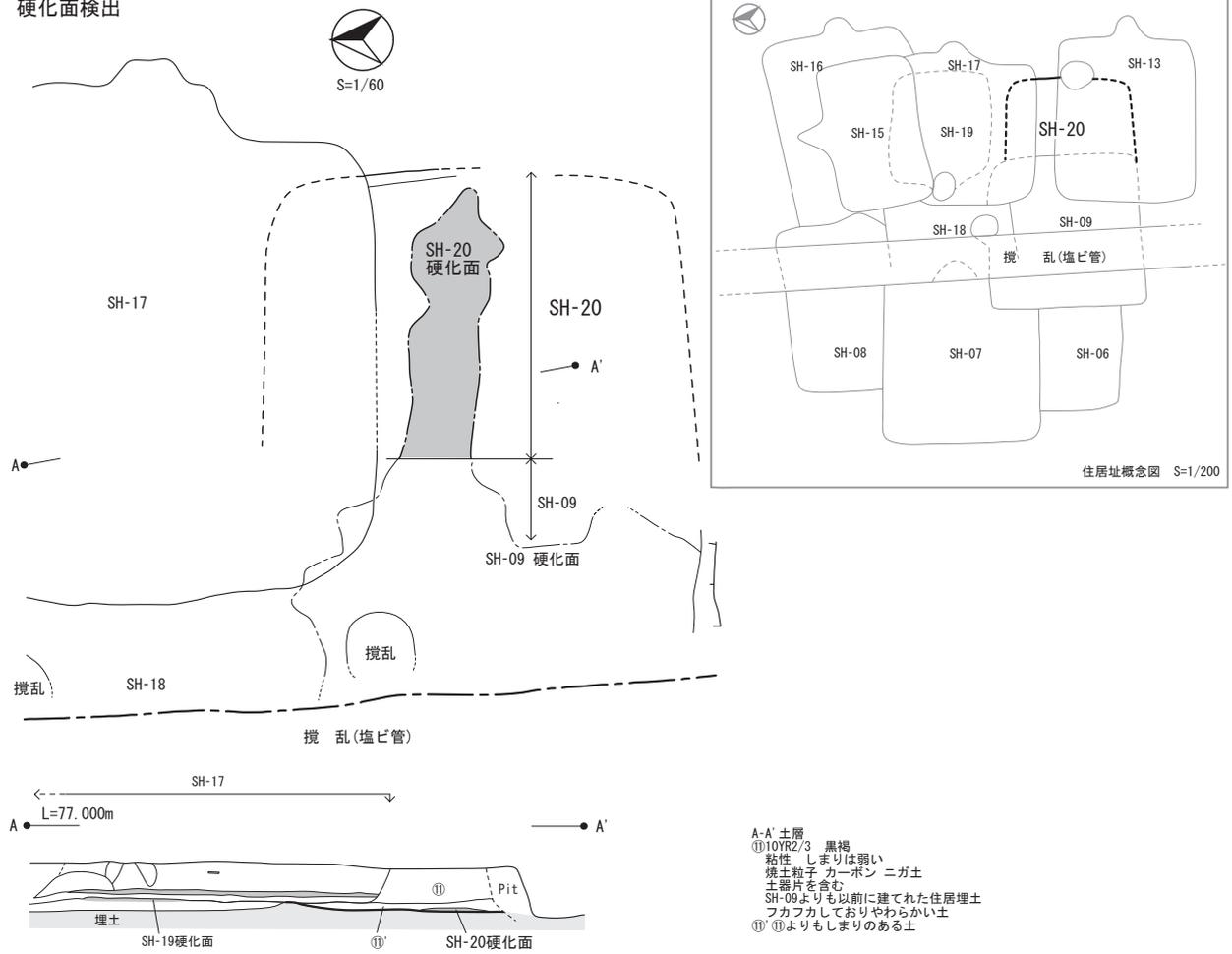


第 115 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-18検出・粘土流出状況及び出土遺物実測図

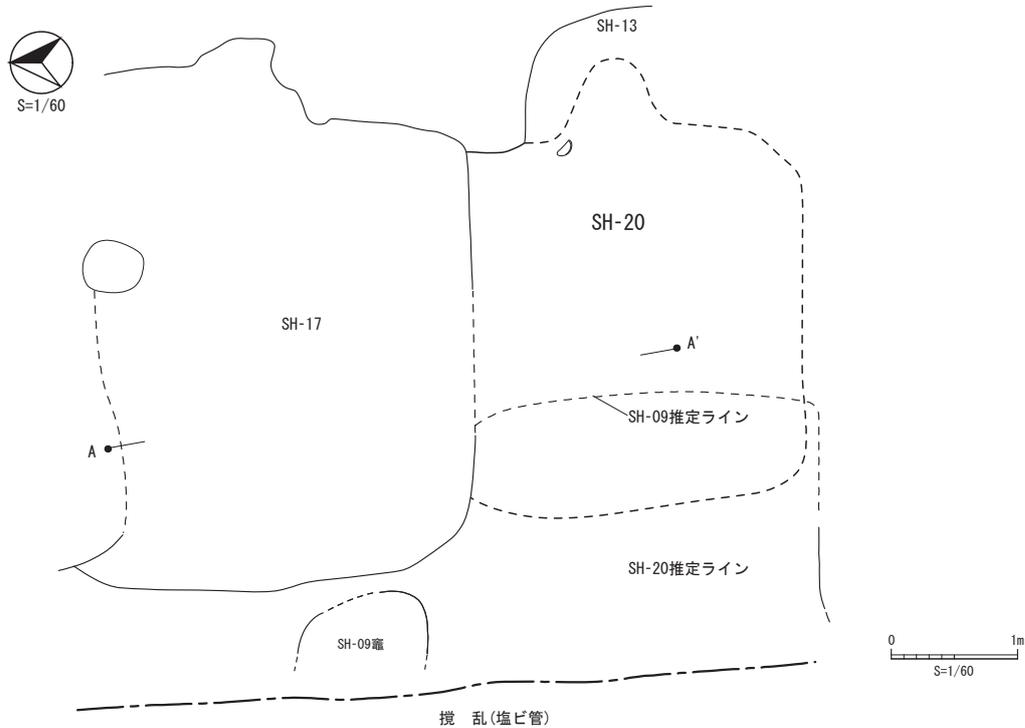


第 116 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-19完掘状況

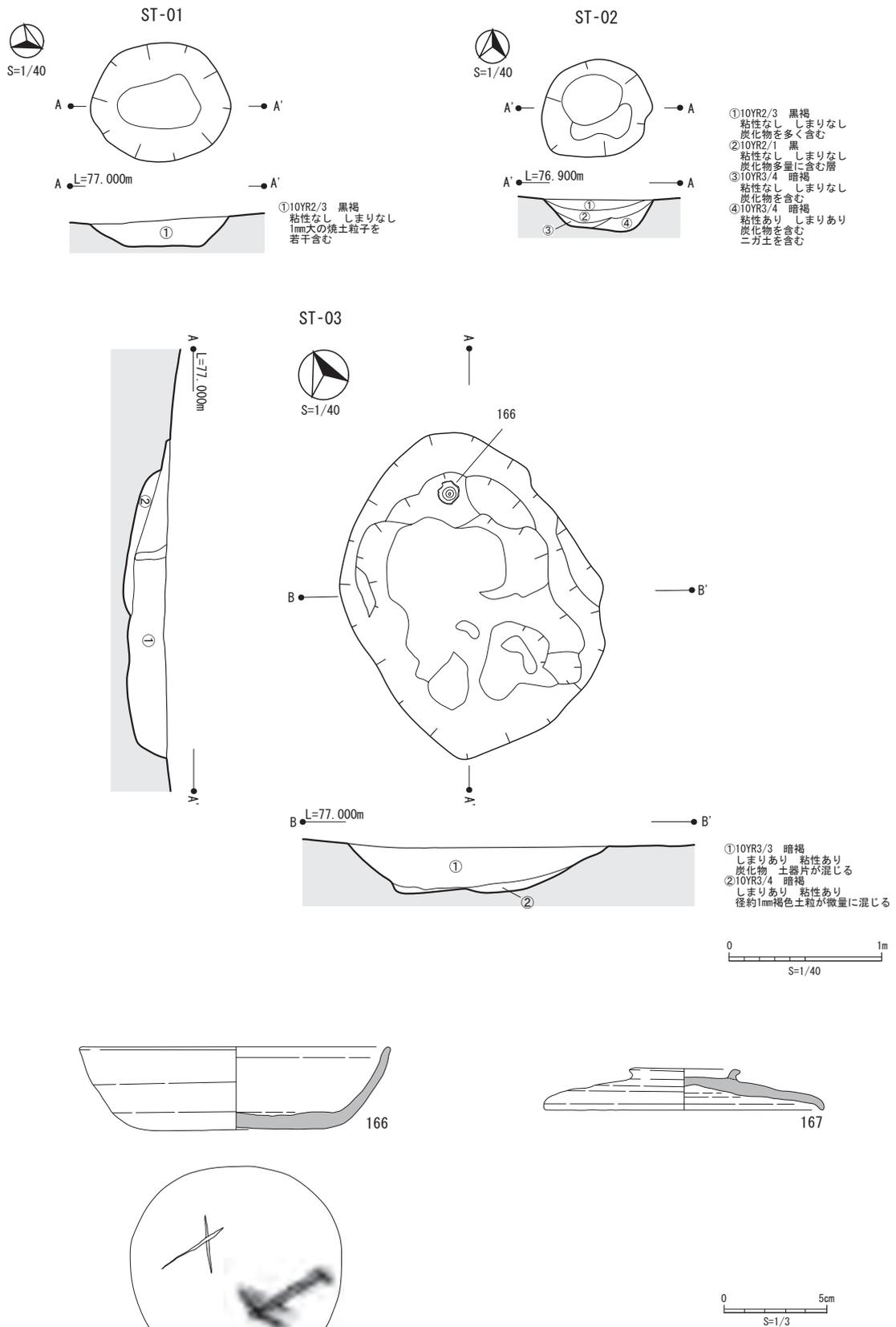
硬化面検出



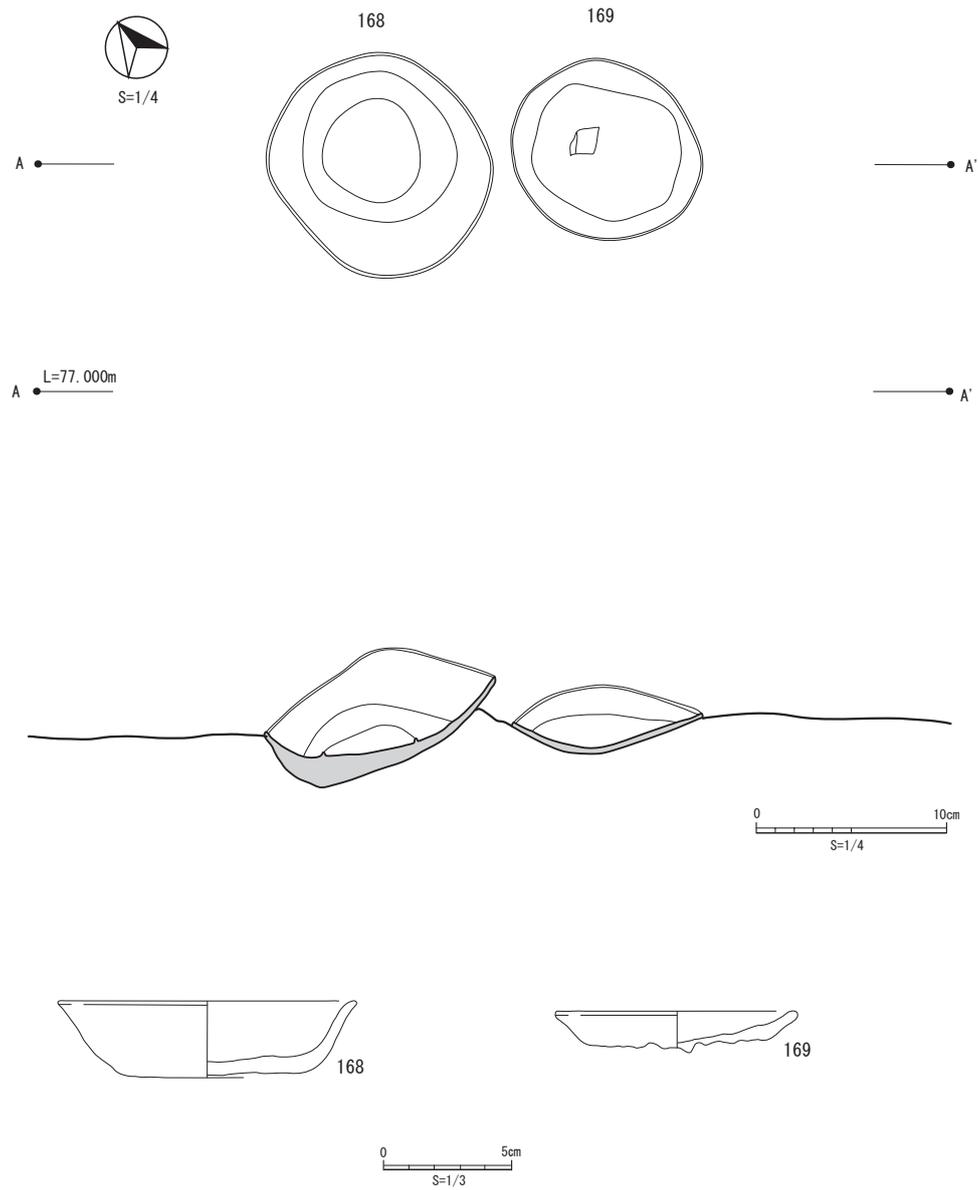
完掘状況



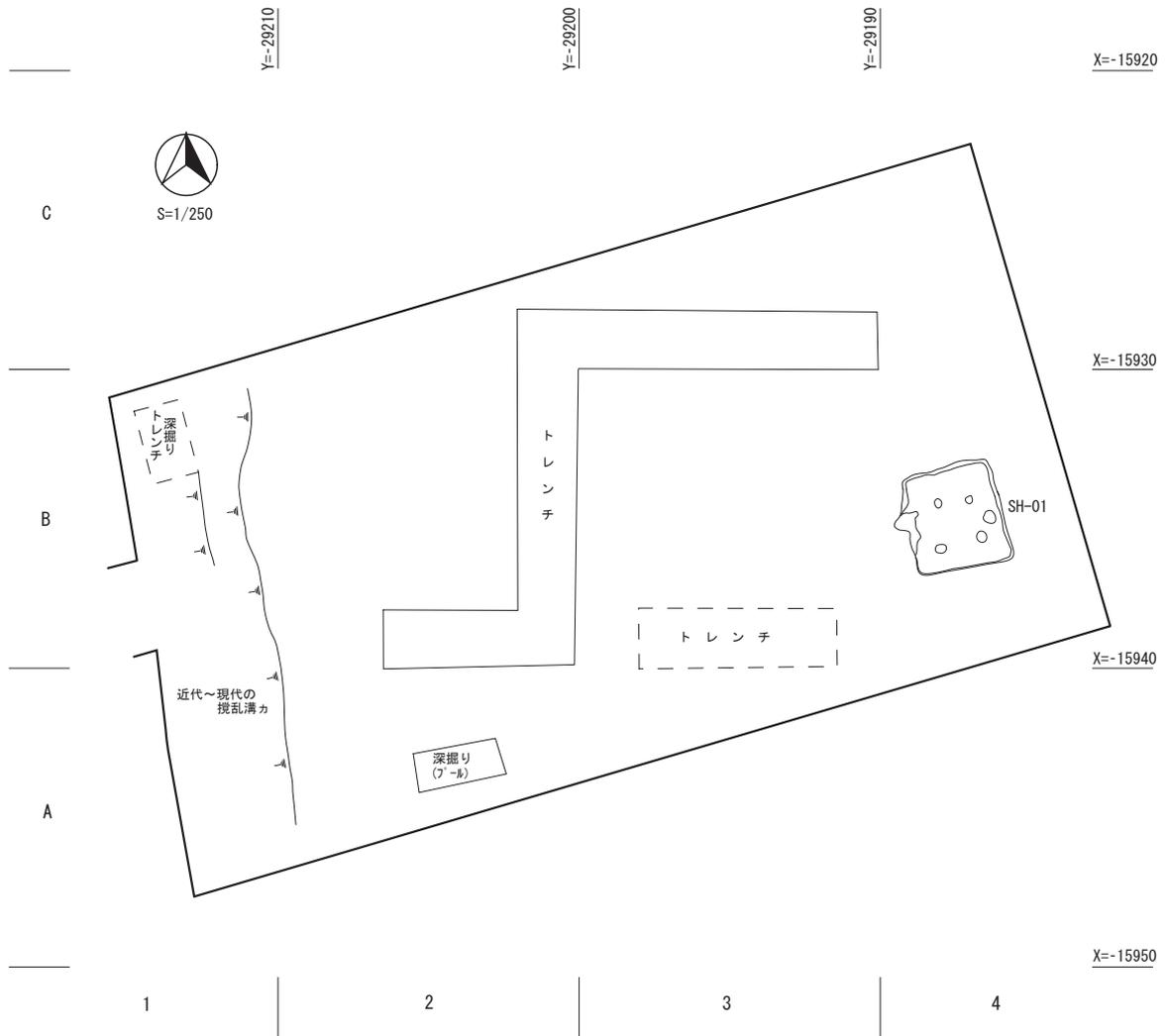
第 117 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-20硬化面検出・完掘状況



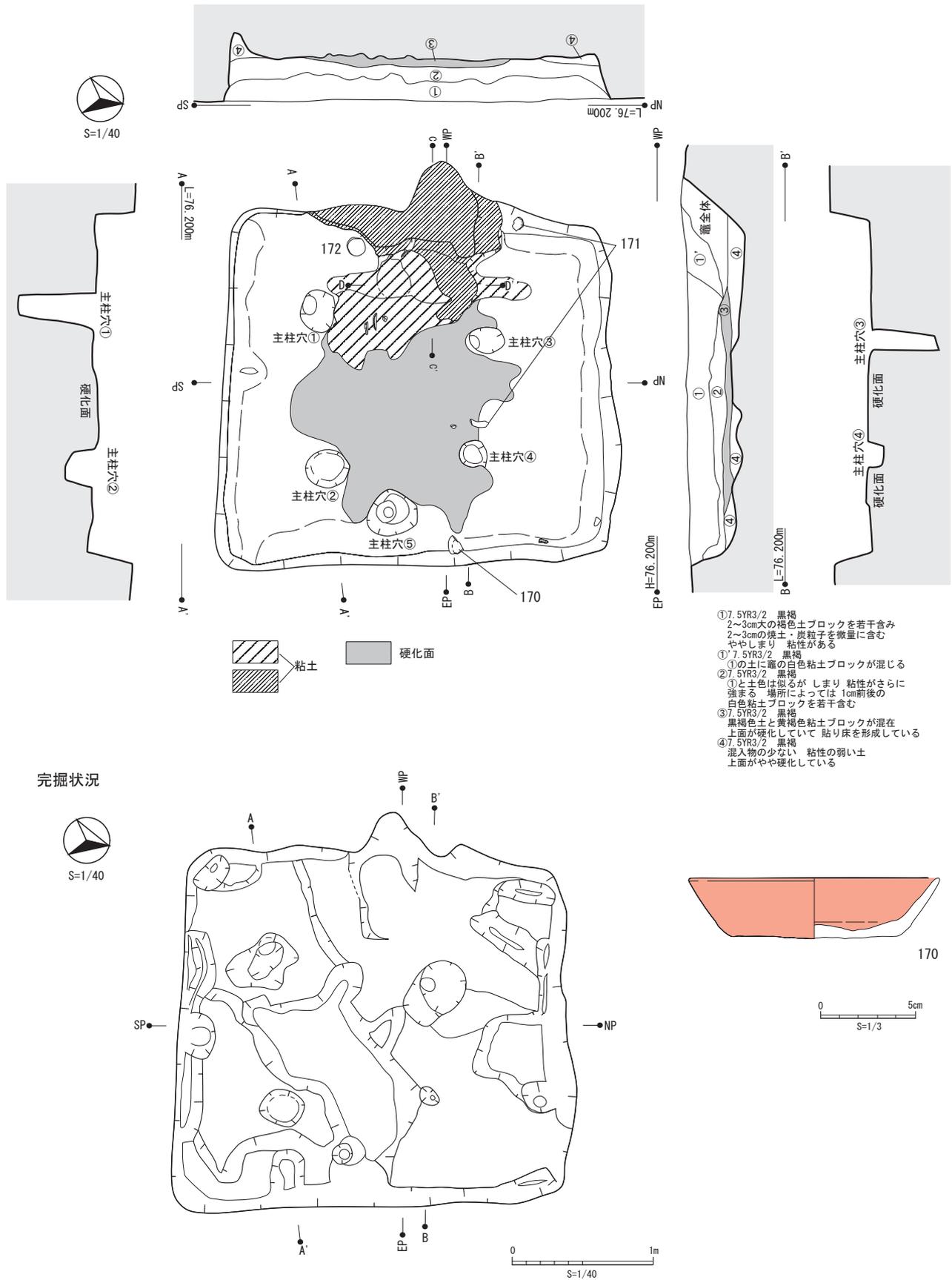
第 118 図 桑鶴遺跡群 VI区 ST-01~03実測図及び出土遺物実測図



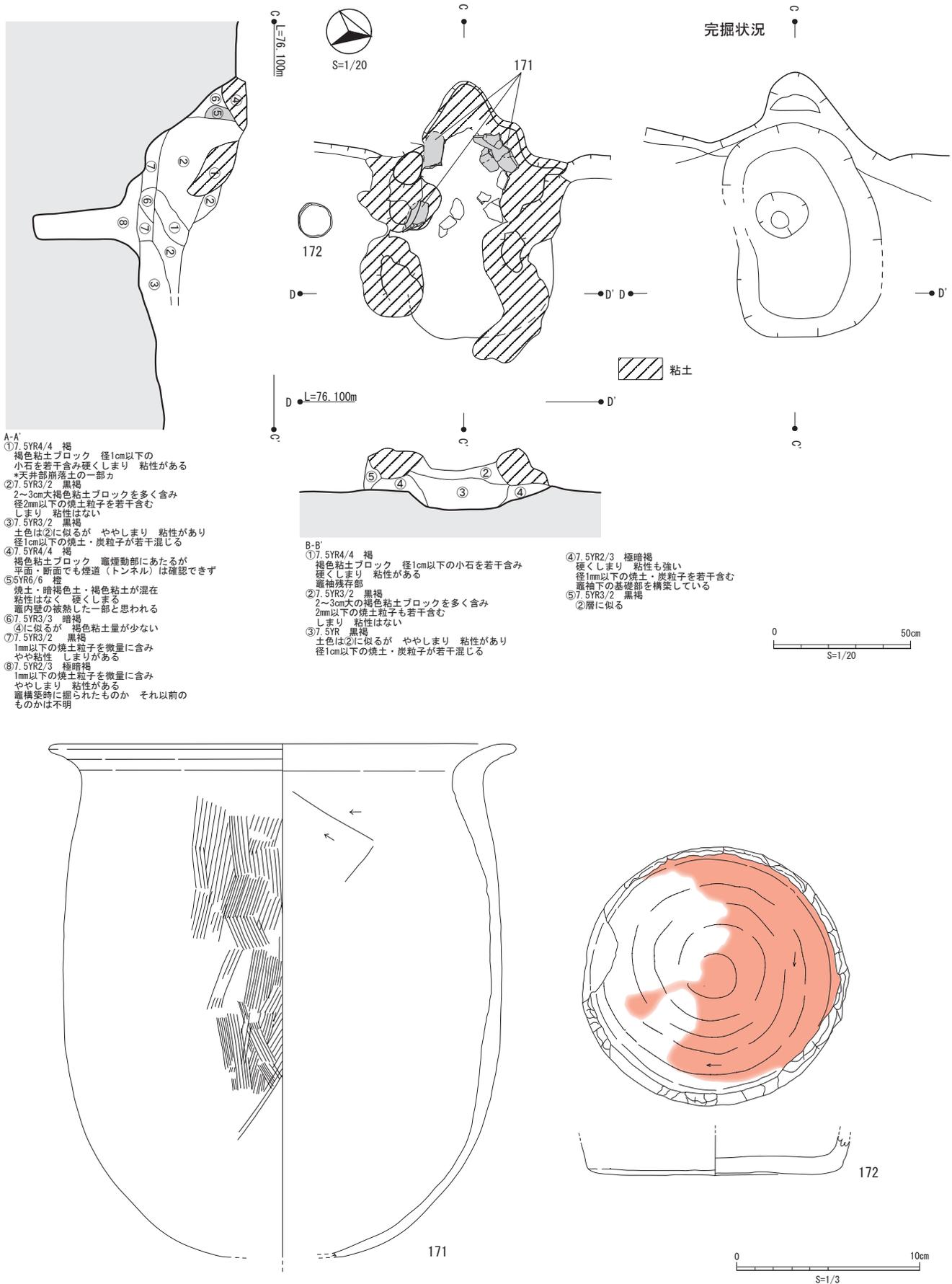
第 119 図 桑鶴遺跡群 VI区 土師器出土状況



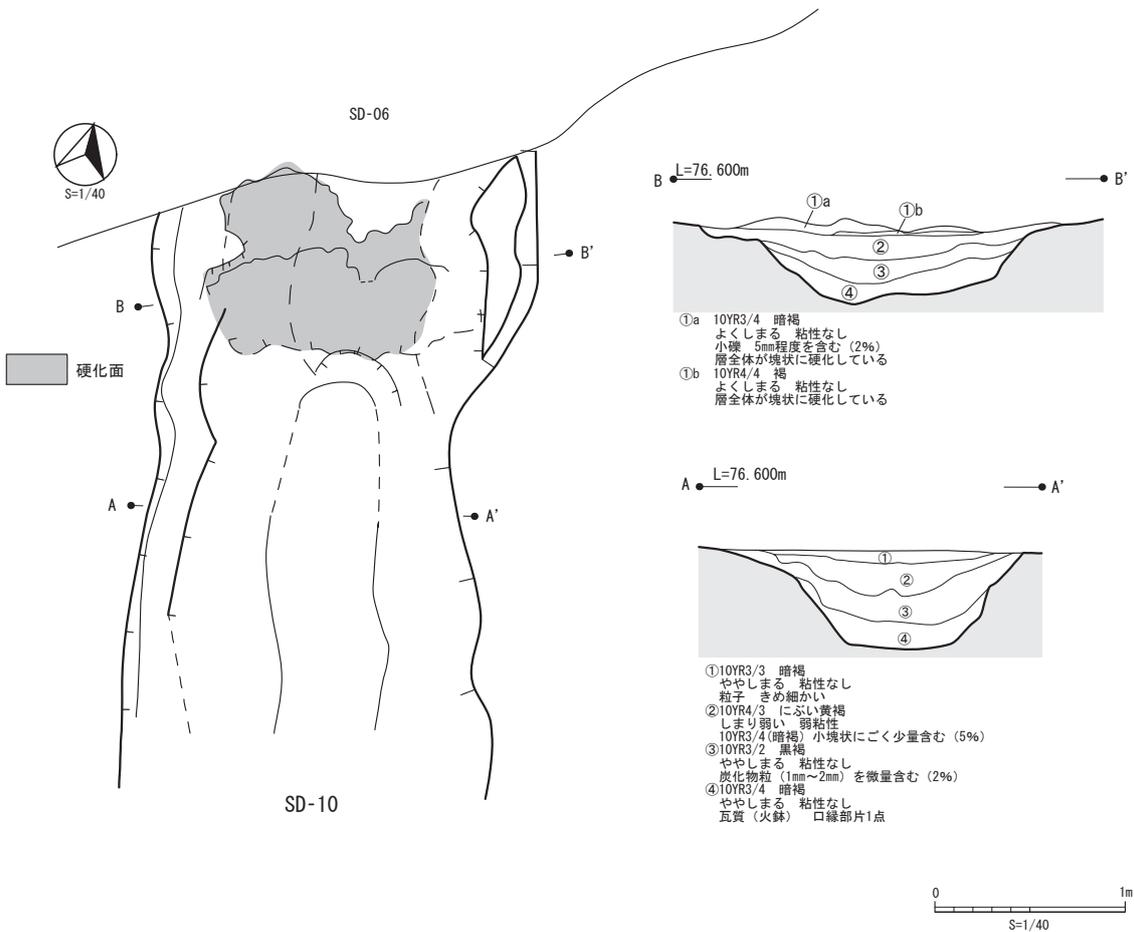
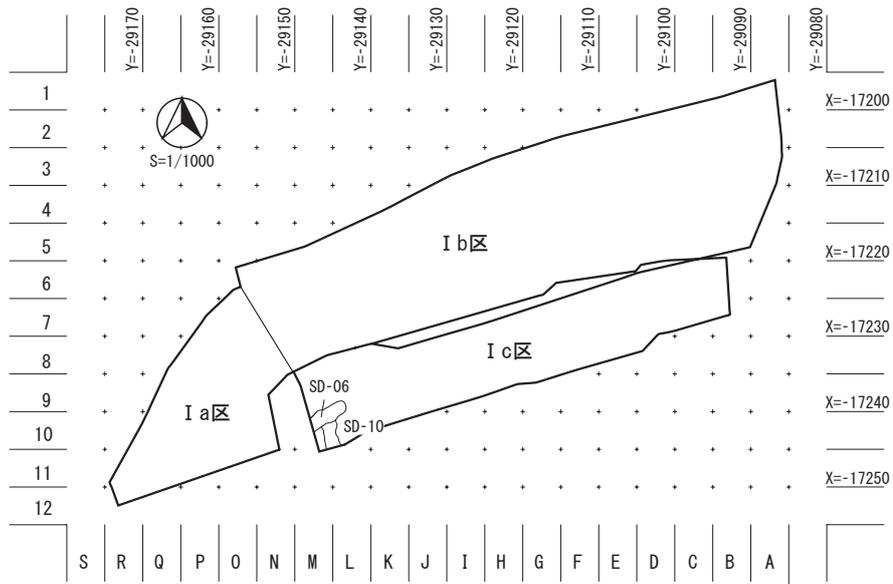
第 120 図 桑鶴遺跡群 IV区 遺構配置図



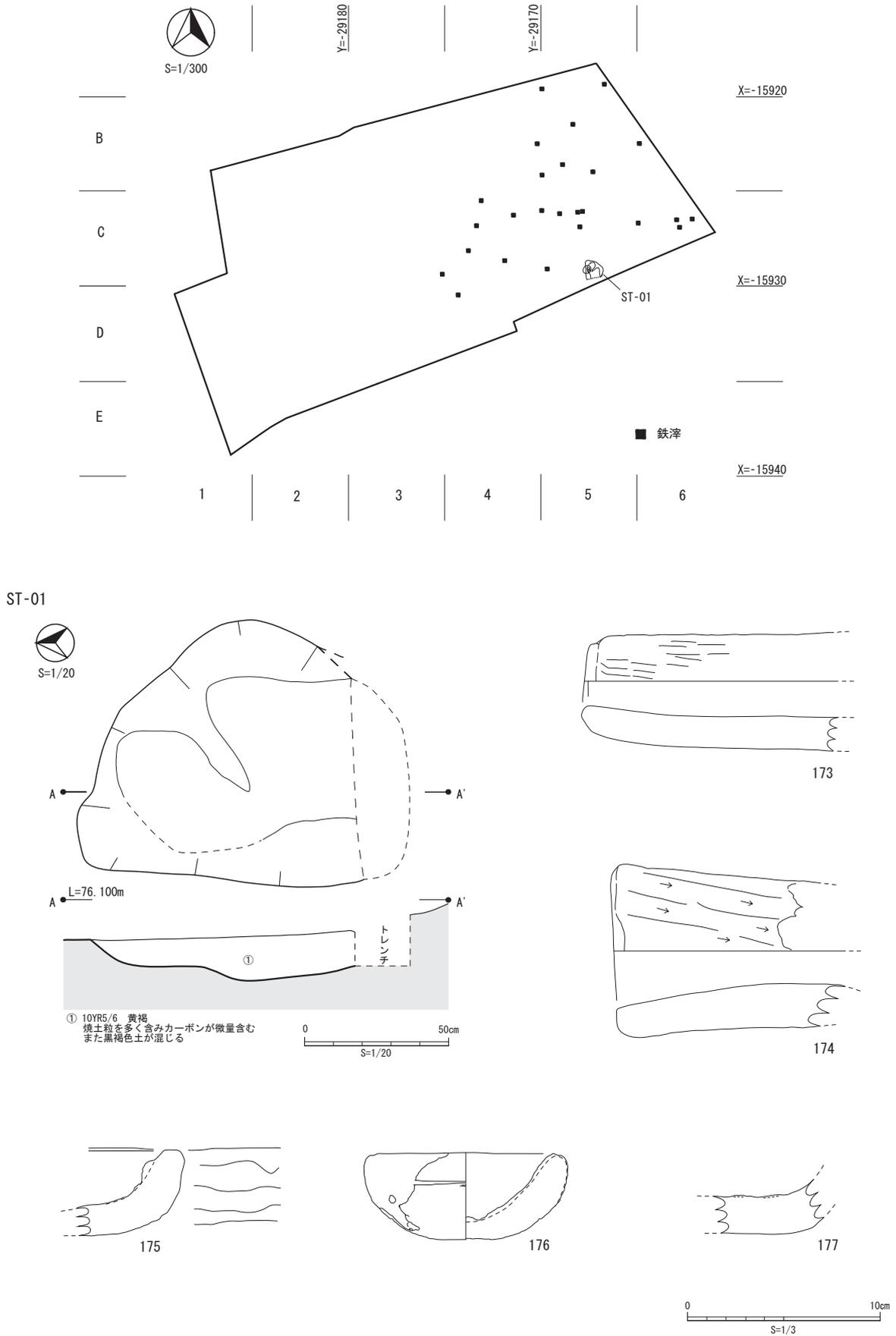
第 121 図 桑鶴遺跡群 IV区 SH-01実測図及び出土遺物実測図



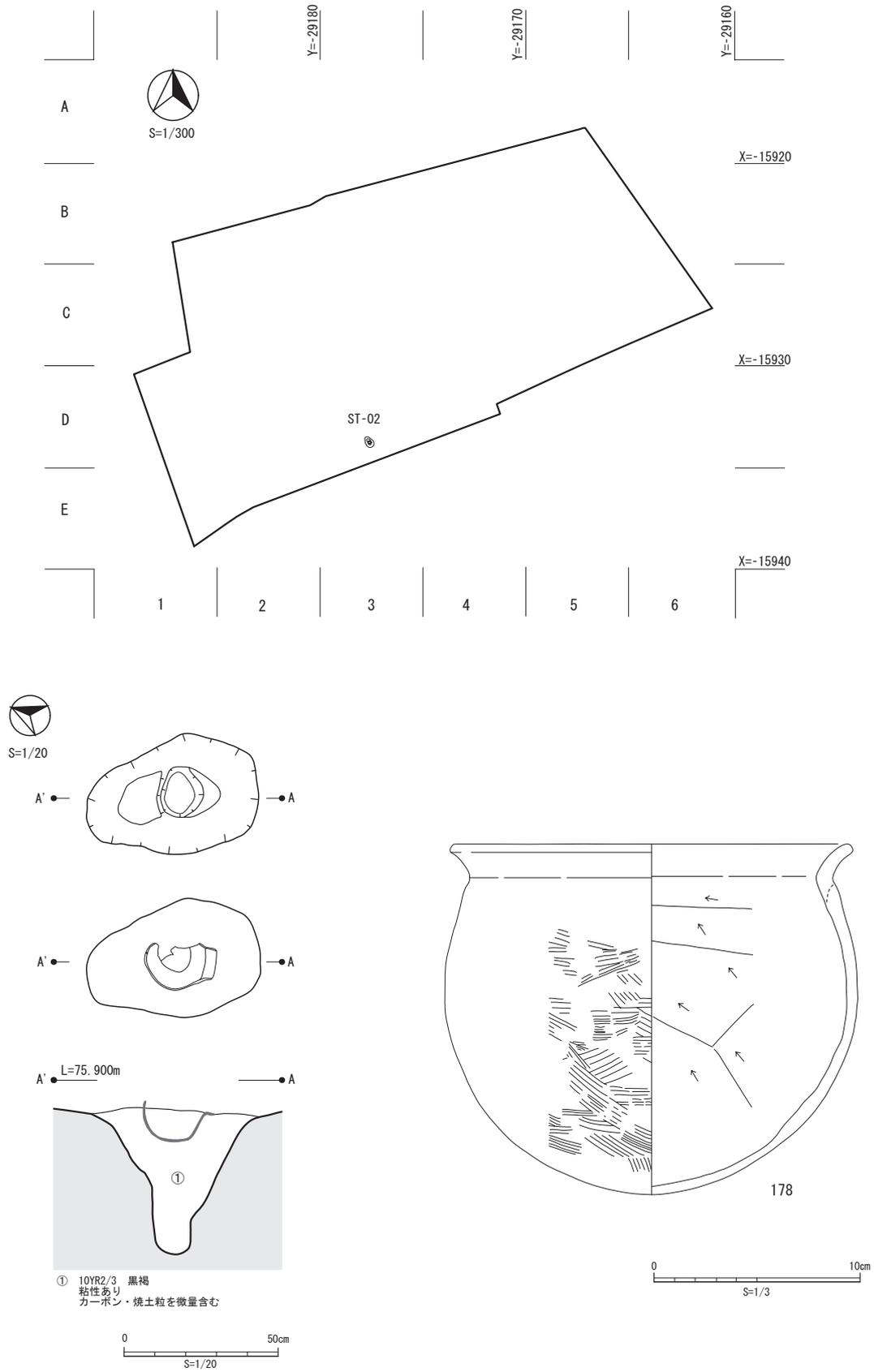
第 122 図 桑鶴遺跡群 IV区 SH-01竈実測図及び出土遺物実測図



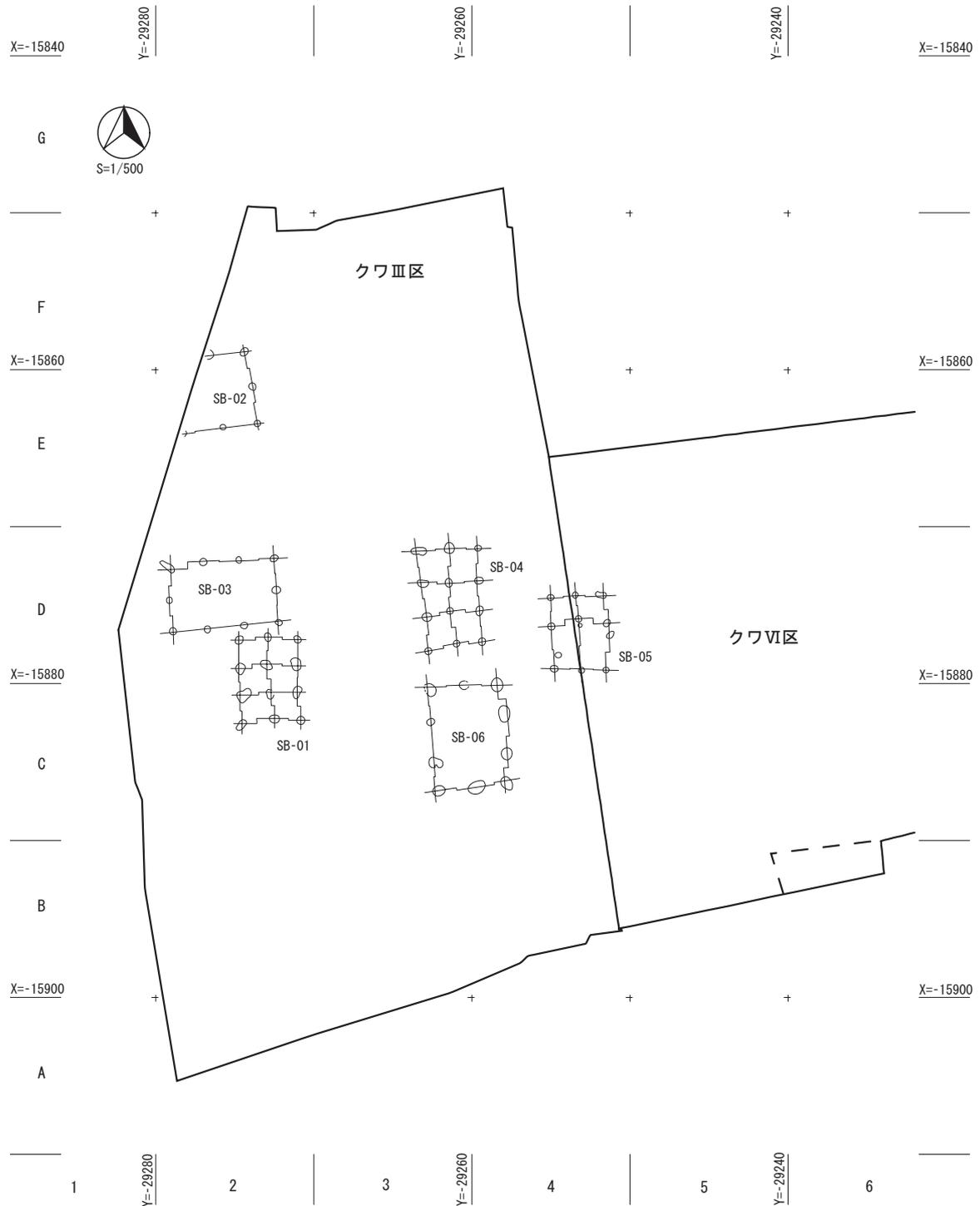
第 123 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 遺構配置図及びSD-10実測図



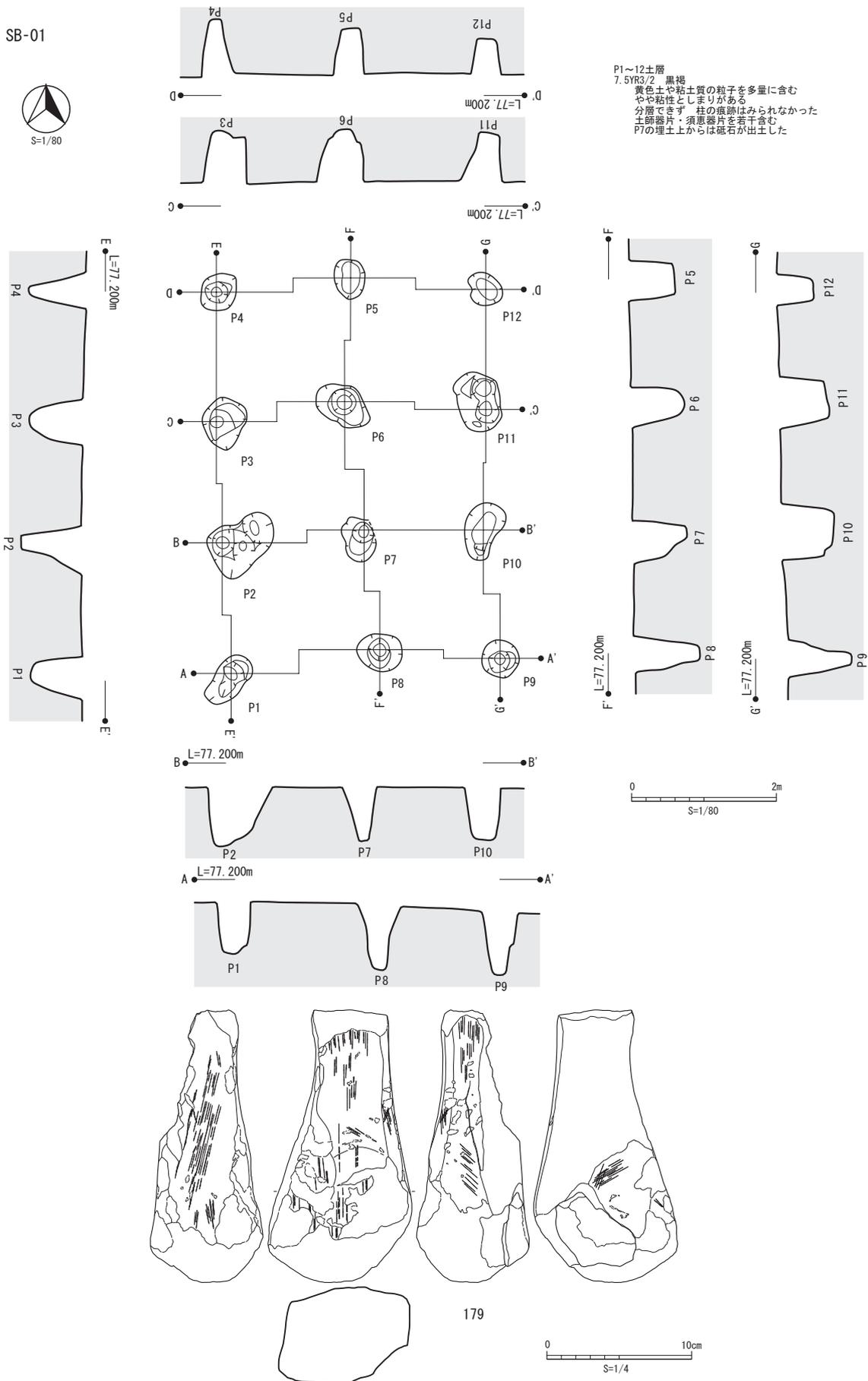
第 124 図 桑鶴遺跡群 V 区 IIIa層 遺構配置図・鉄滓出土状況・ST-01実測図及び出土遺物実測図



第 125 図 桑鶴遺跡群 V区 IIIb層 遺構配置図・ST-02実測図及び出土遺物実測図

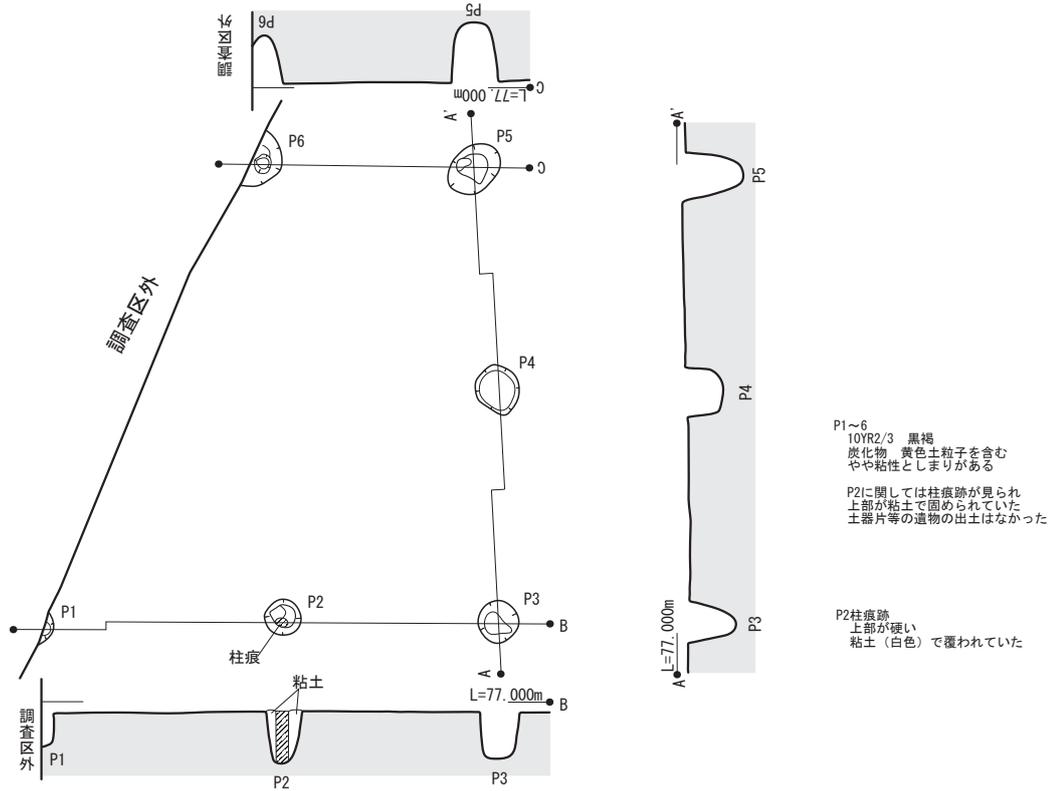


第 126 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 遺構配置図

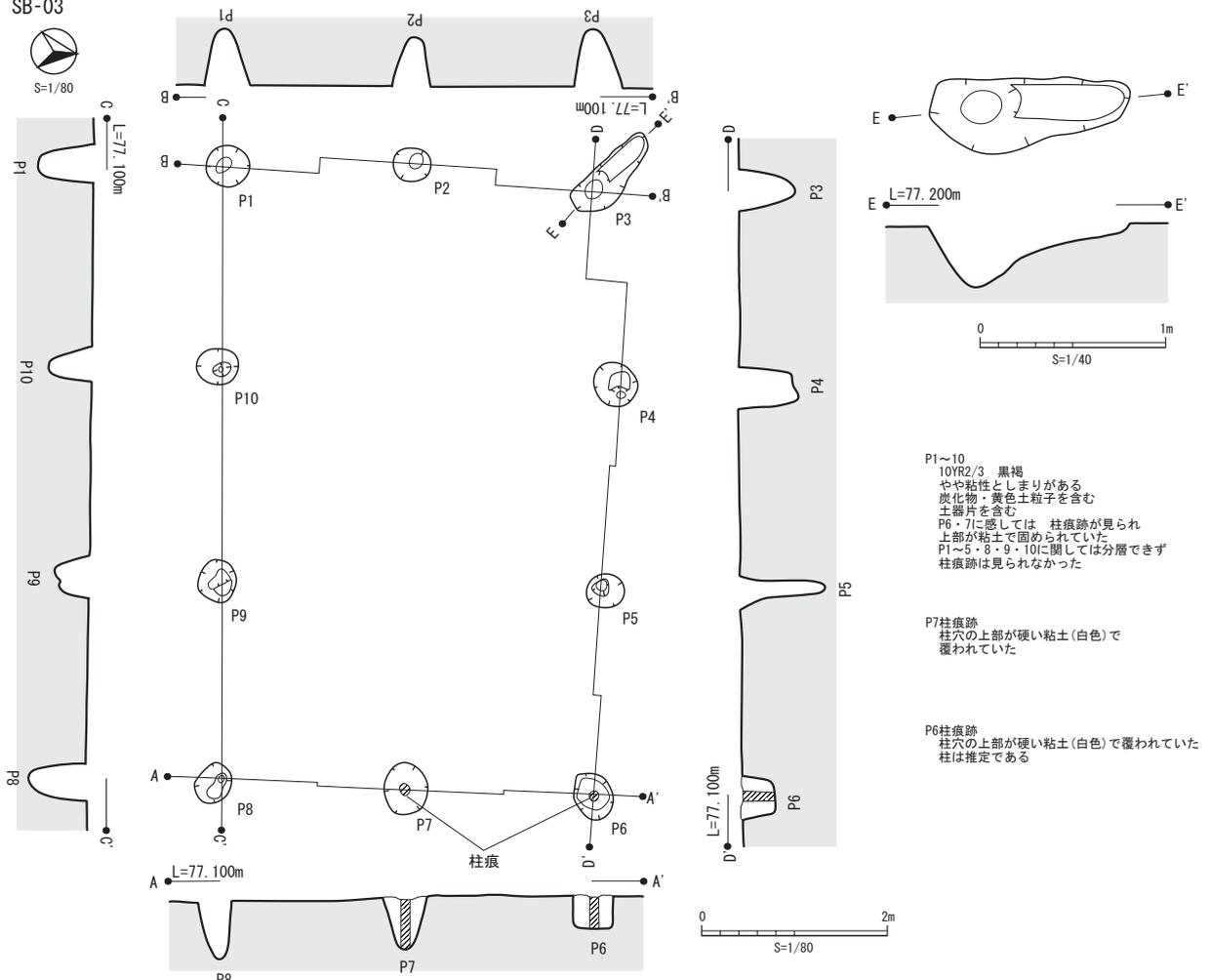


第 127 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SB-01実測図及び出土遺物実測図

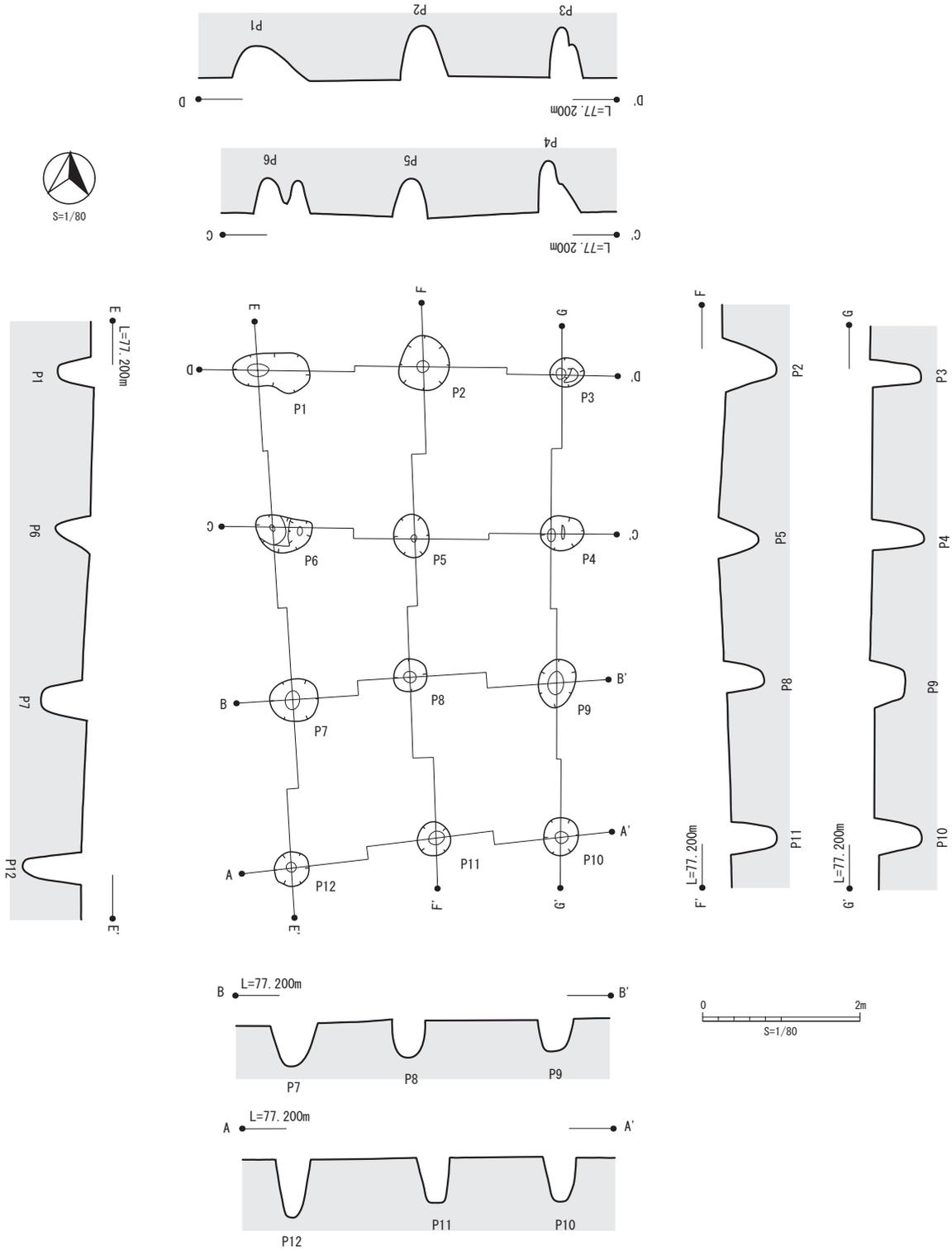
SB-02



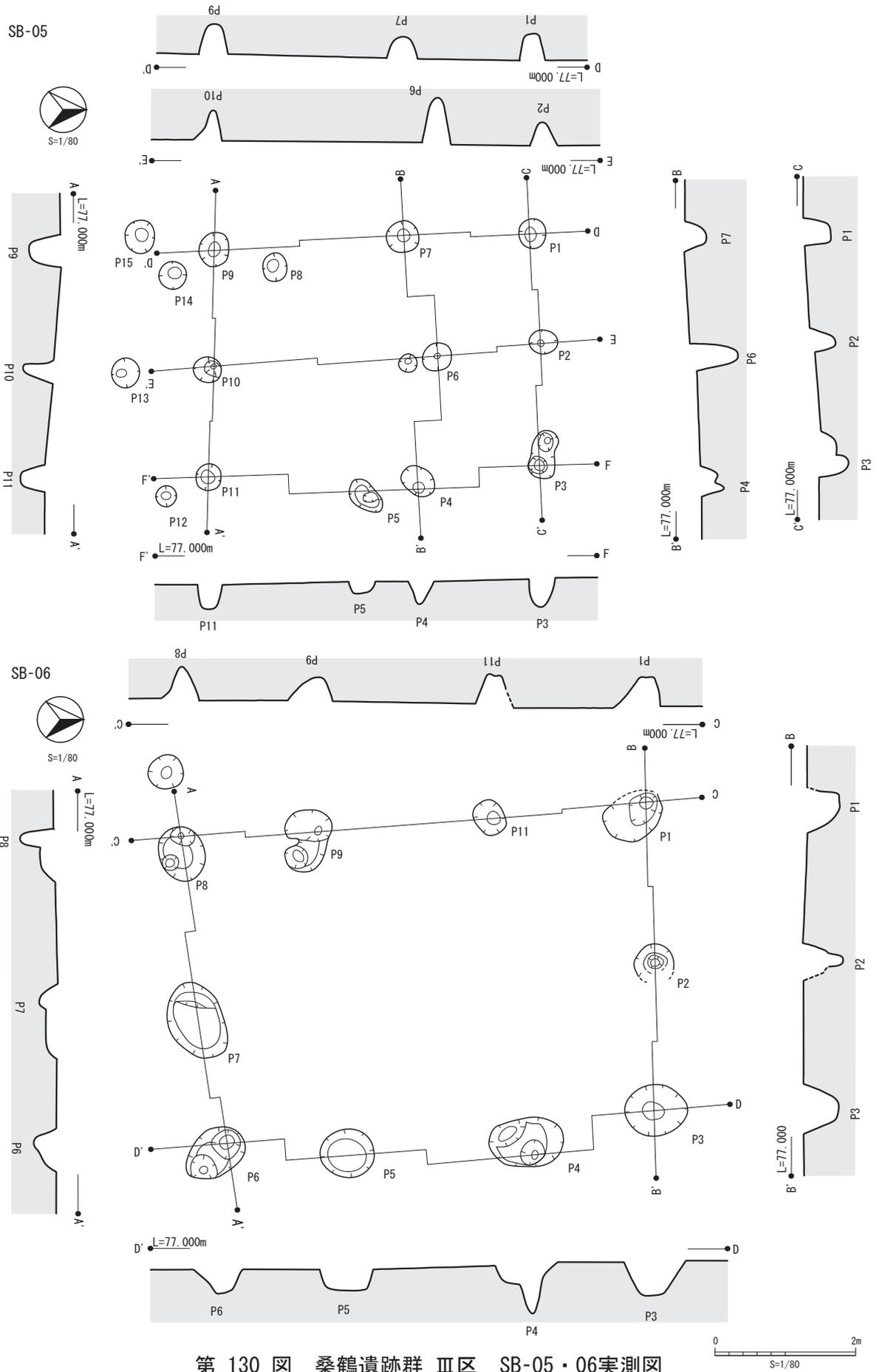
SB-03



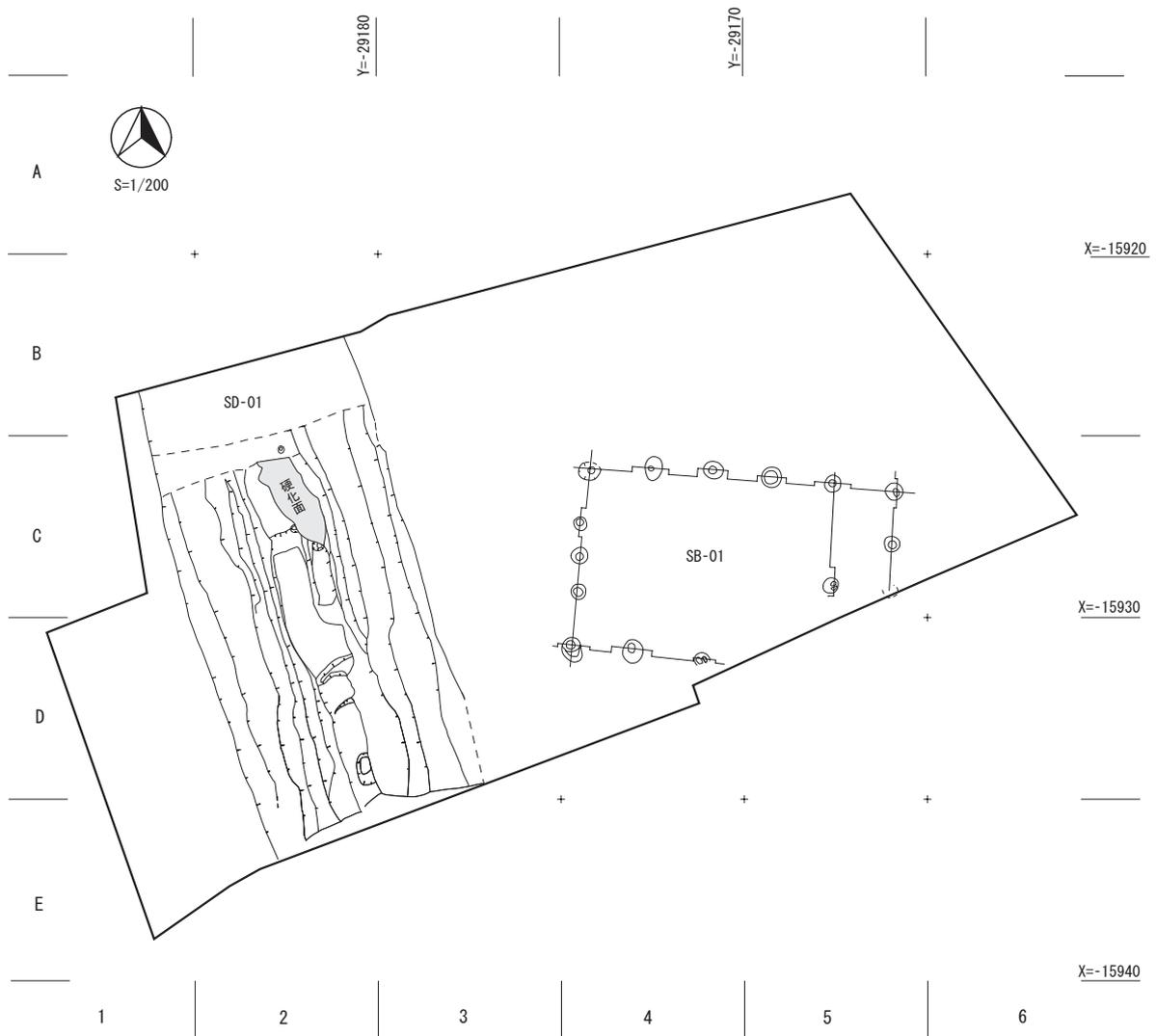
第 128 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SB-02・03実測図



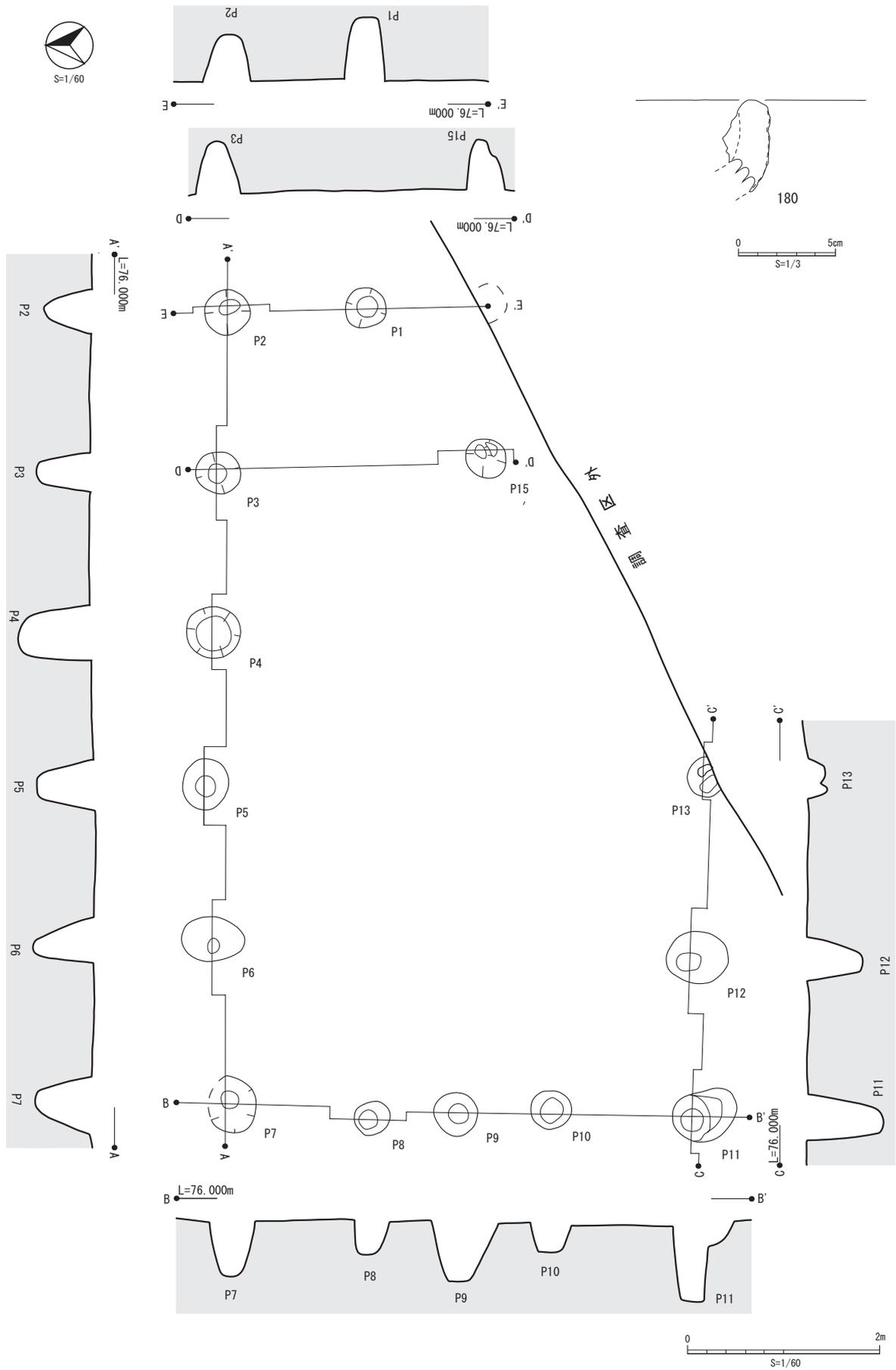
第 129 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SB-04実測図



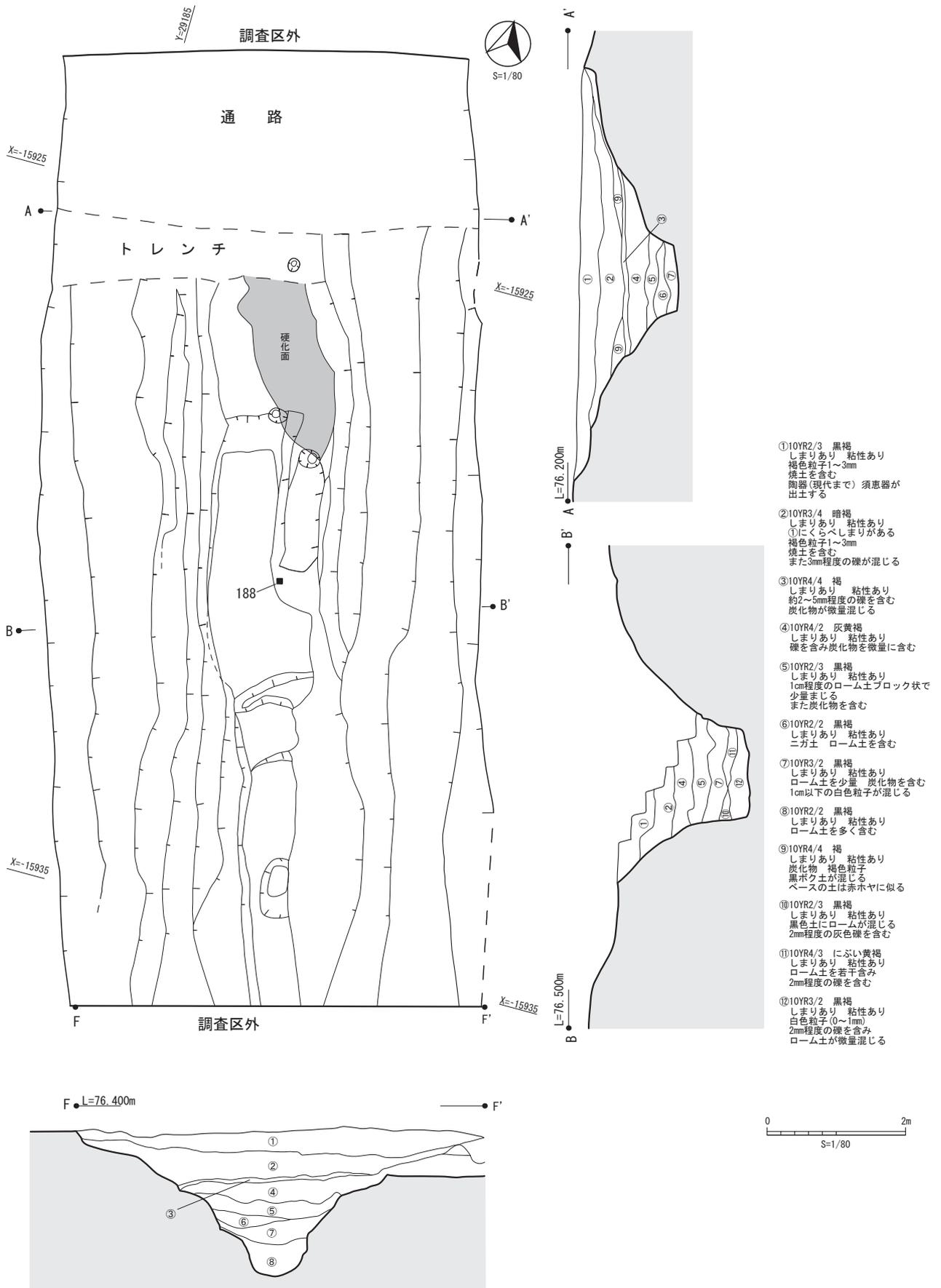
第 130 図 桑鶴遺跡群 III 区 SB-05・06実測図



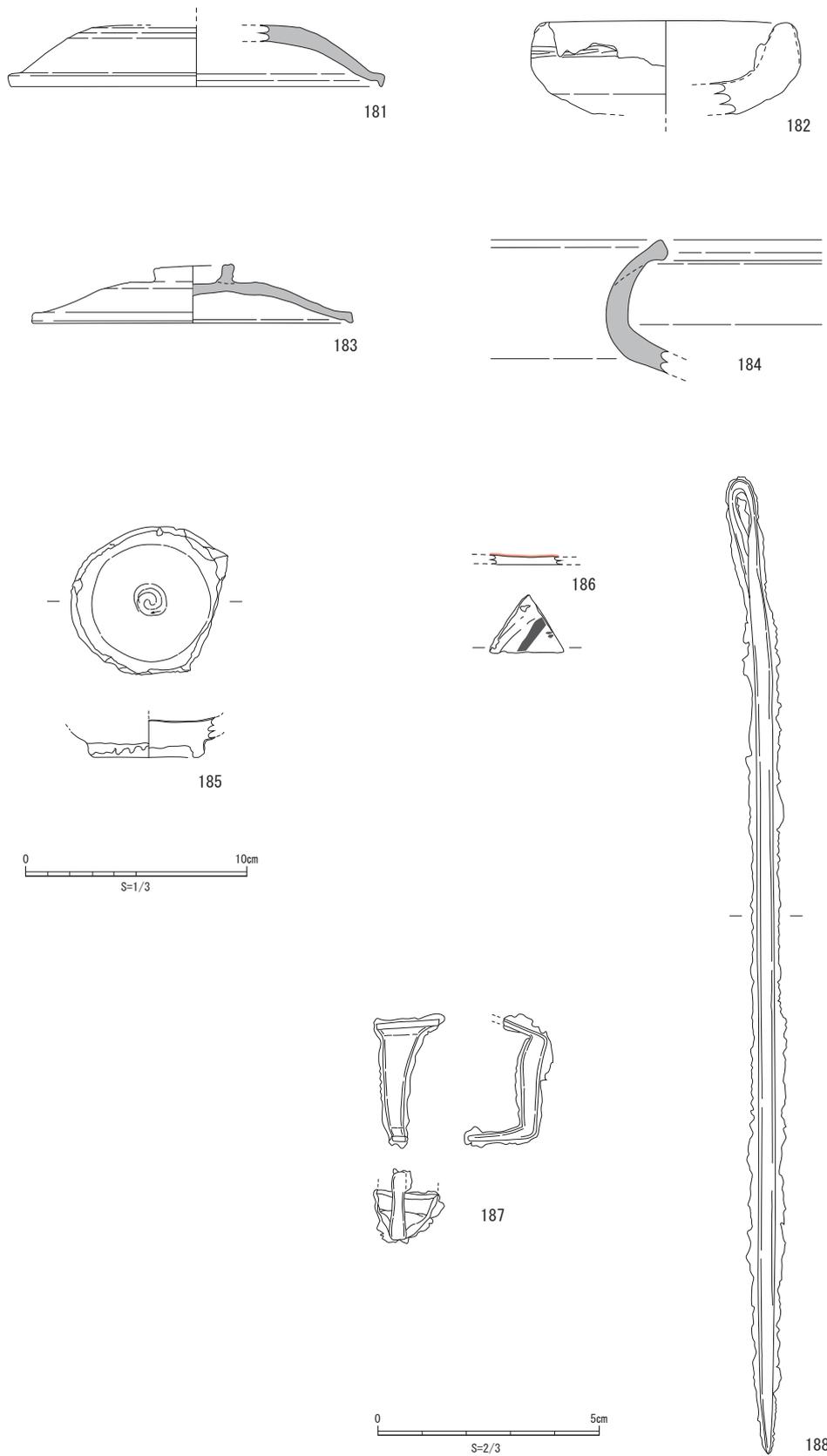
第 131 図 桑鶴遺跡群 V区 遺構配置図



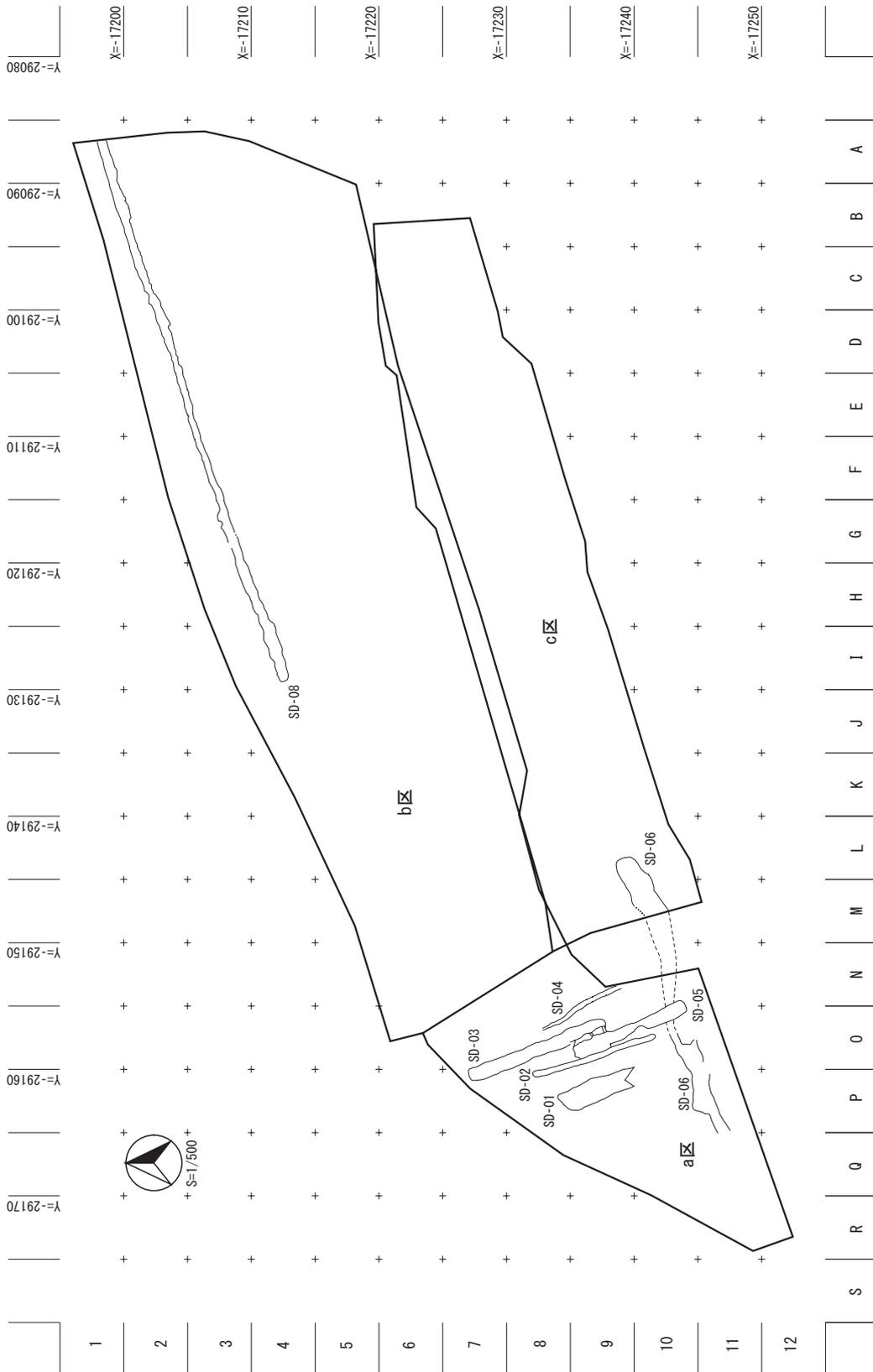
第 132 図 桑鶴遺跡群 V 区 SB-01実測図及び出土遺物実測図



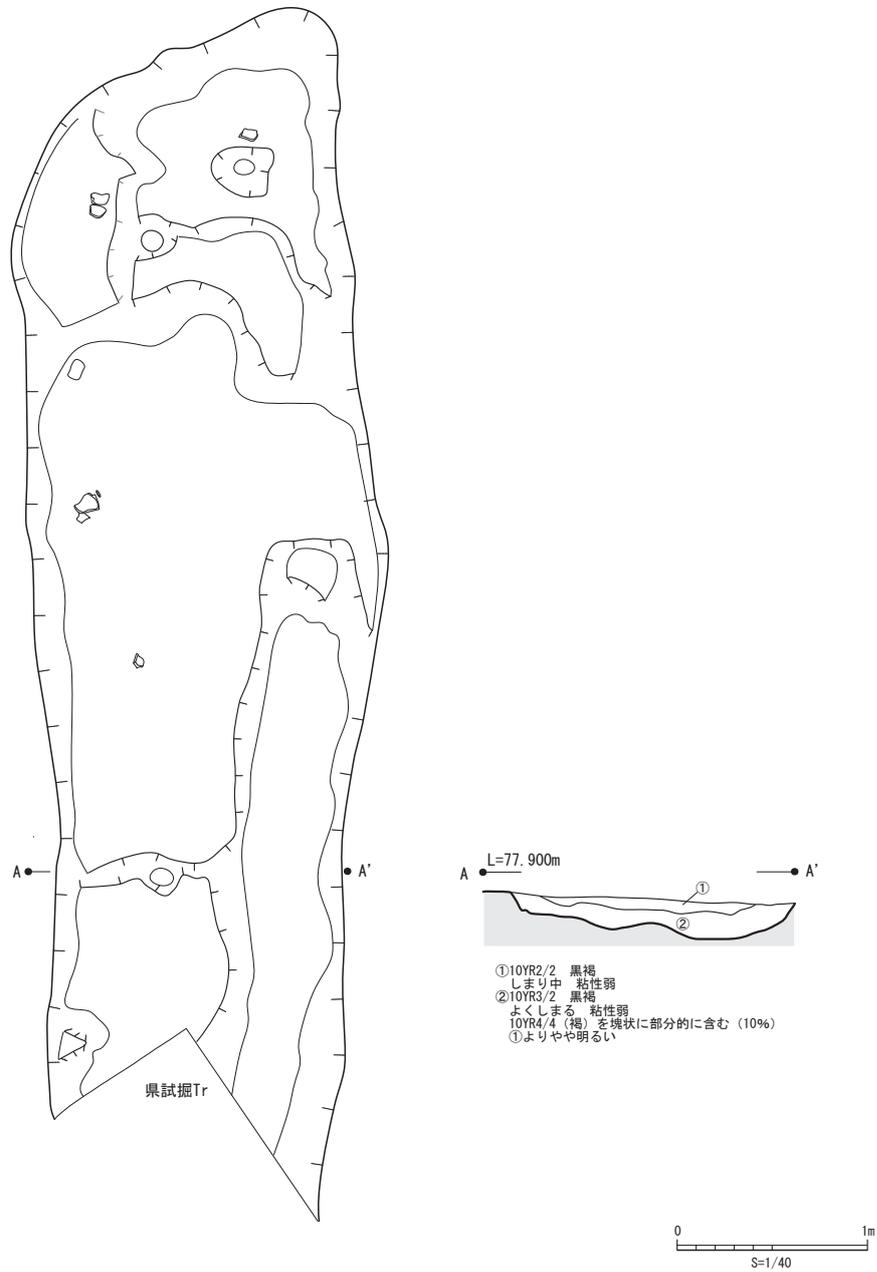
第 133 図 桑鶴遺跡群 V区 SD-01実測図



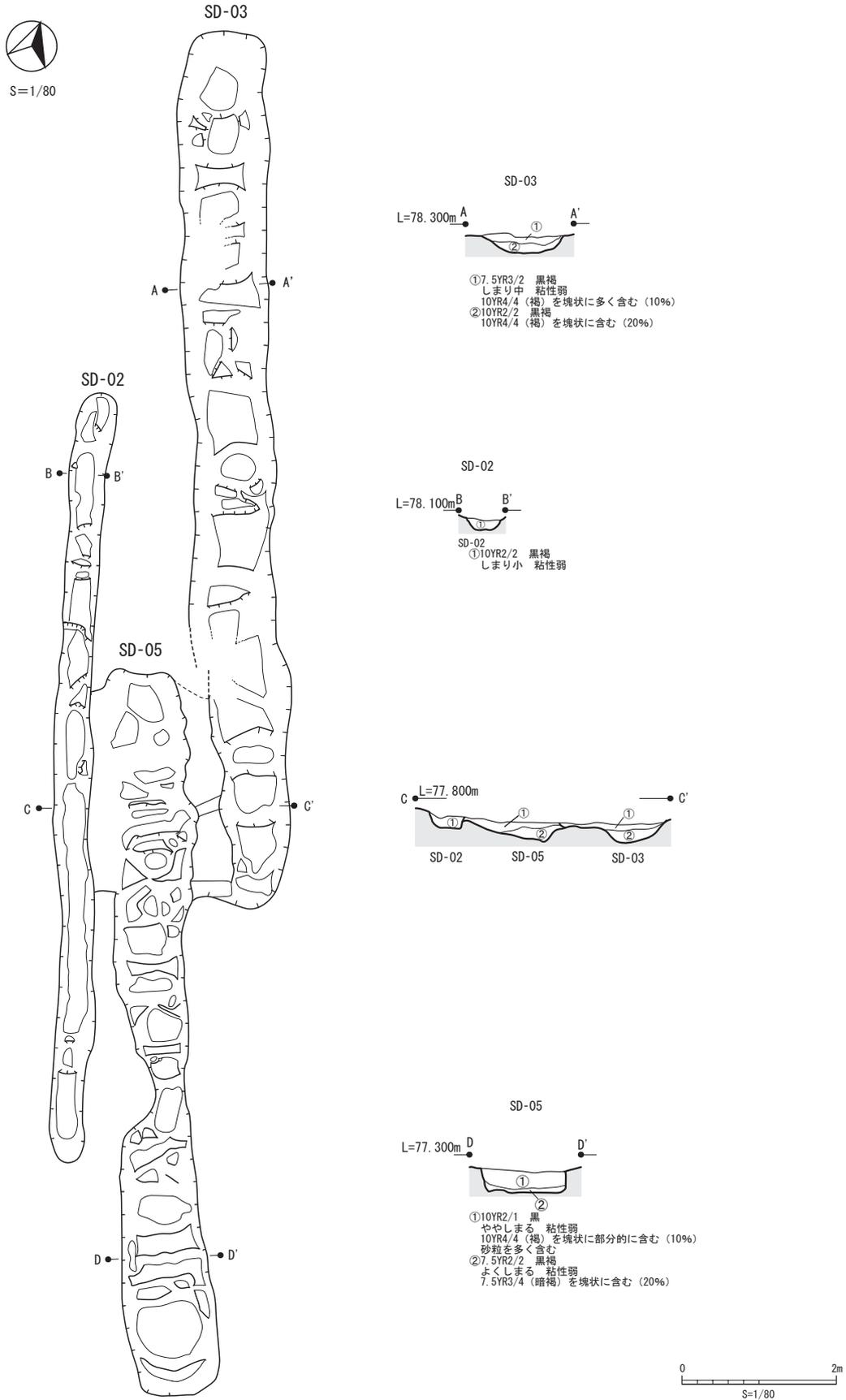
第 134 図 桑鶴遺跡群 V 区 SD-01出土遺物実測図



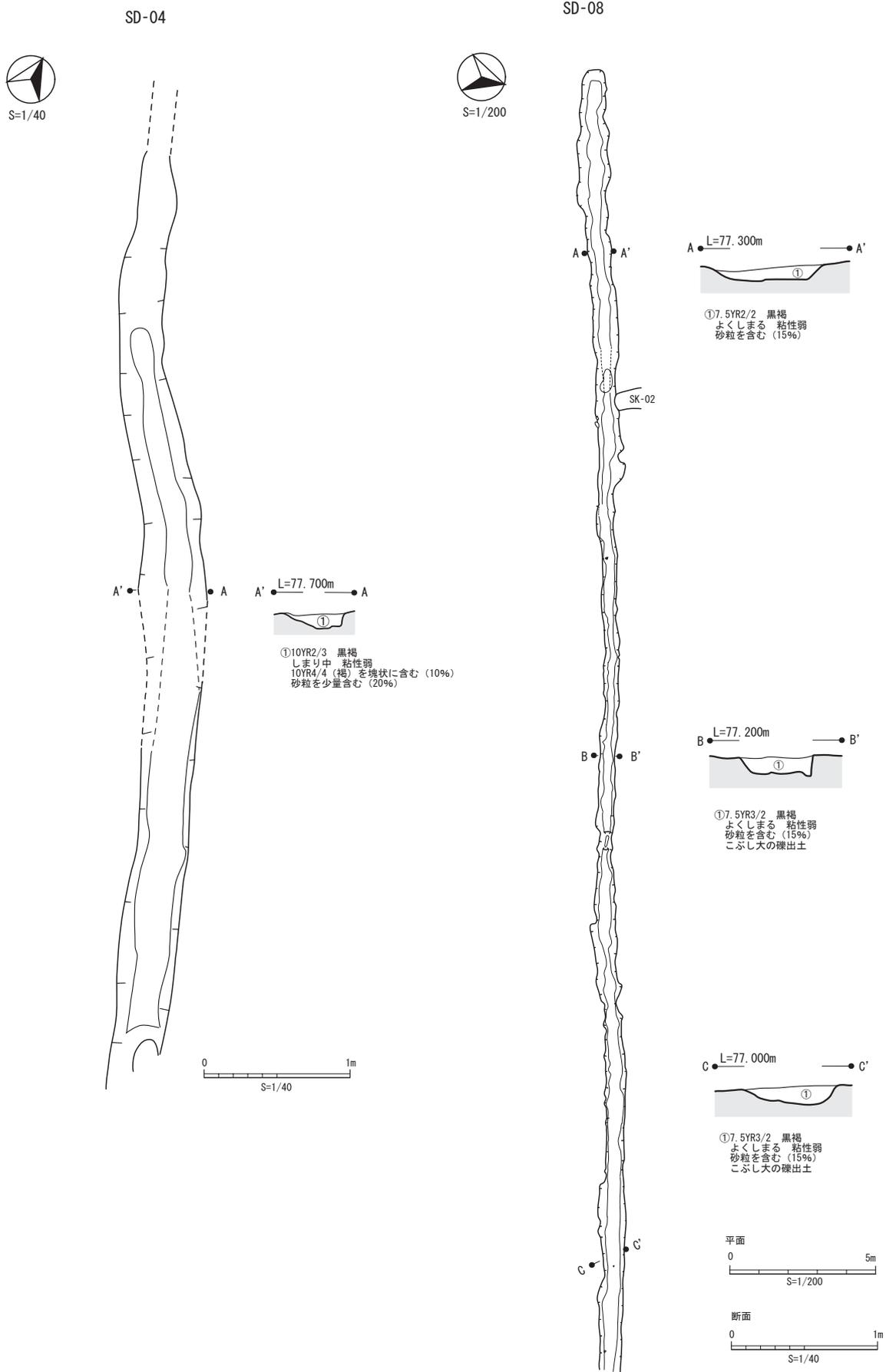
第 135 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 遺構配置図



第 136 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 SD-01実測図

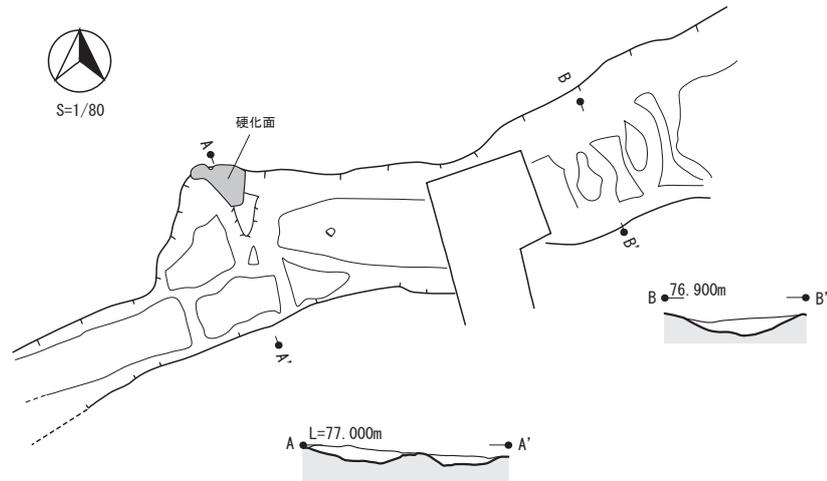


第 137 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 SD-02・03・05実測図

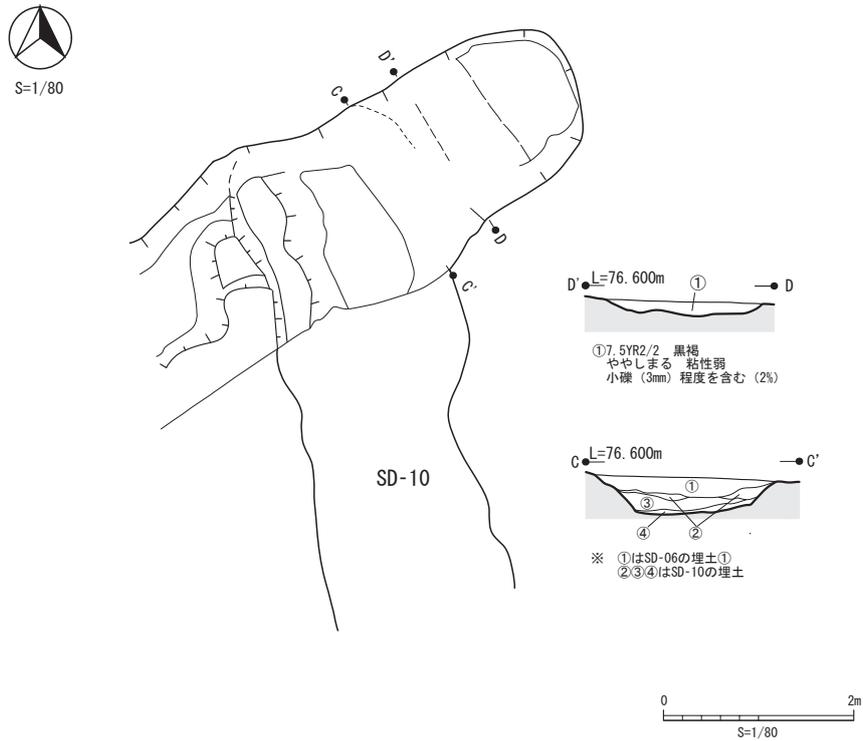


第 138 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 SD-04・08実測図

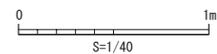
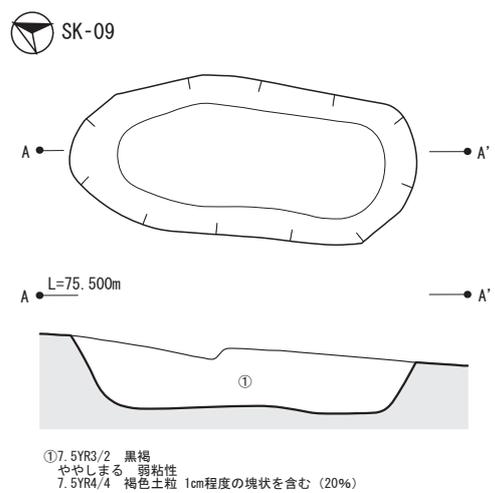
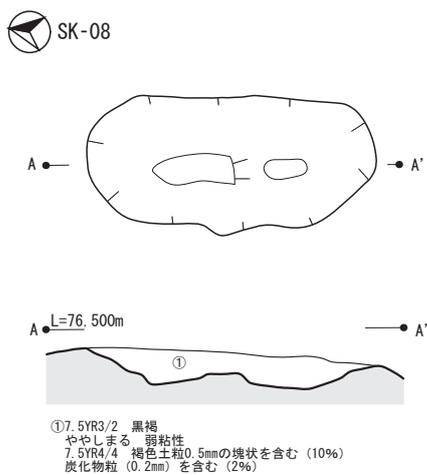
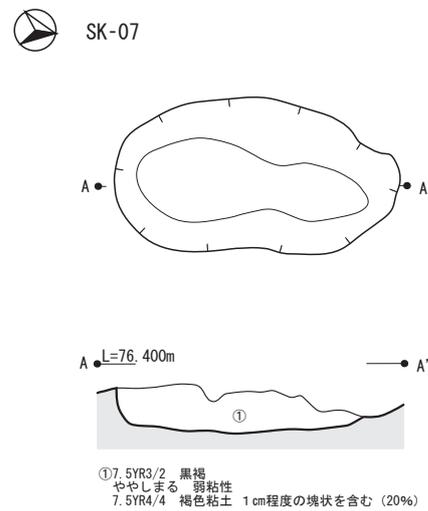
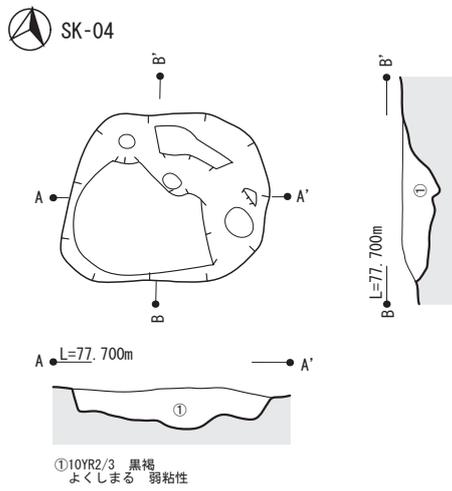
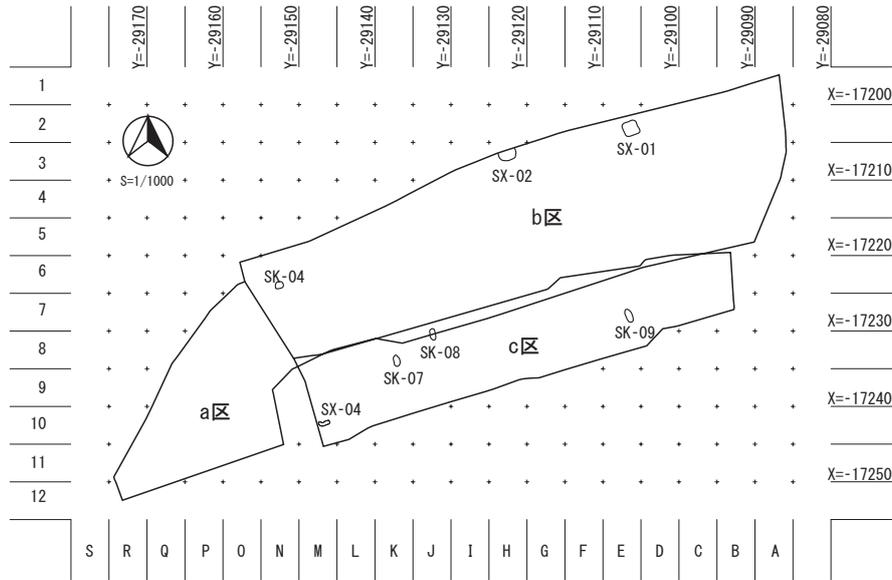
a区SD-06



c区SD-06



第 139 図 桑鶴遺跡群 06- I a区 SD-06実測図及び06- I c区 SD-06実測図

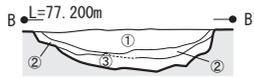
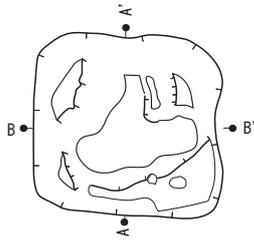


第 140 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 遺構配置図及びSK-04・07～09実測図



SX-01

S=1/80

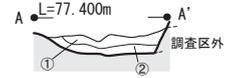
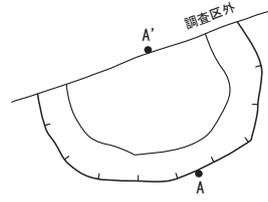


- ①10YR2/2 黒褐
ややしまる 弱粘性
- 10YR3/4 褐色土を塊状に含む (10%)
- ②10YR3/3 暗褐
ややしまる 弱粘性
- ③10YR2/3 黒褐
ややしまる 弱粘性



SX-02

S=1/80

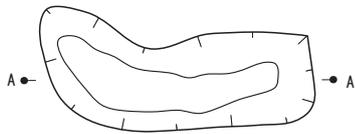


- ①7.5YR2/2 黒褐
ややしまる 弱粘性
- 10YR3/4 褐色土を塊状に含む (10%)
- ②2.5Y3/3 暗オリーブ褐
ややしまる 弱粘性



SX-04

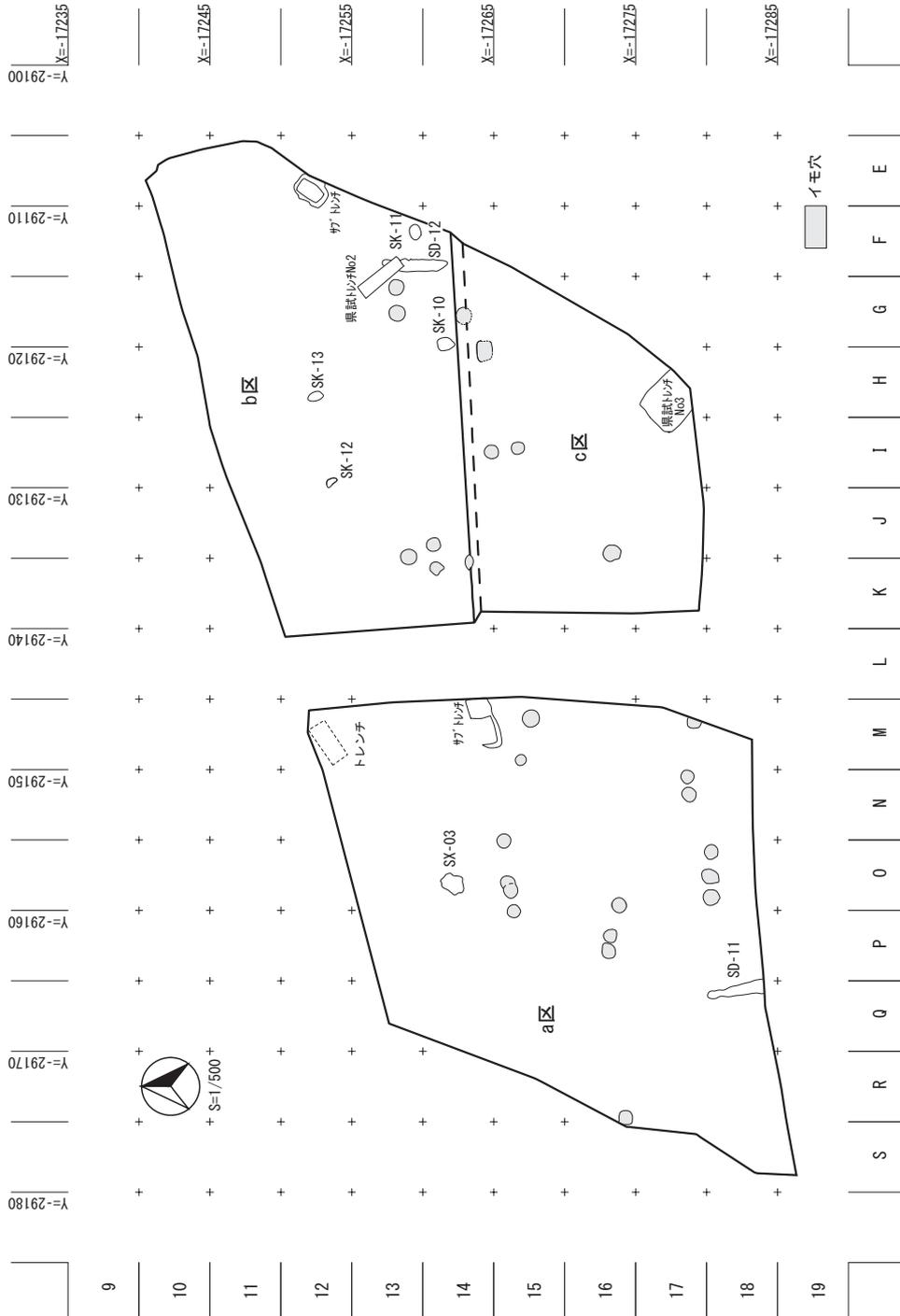
S=1/40



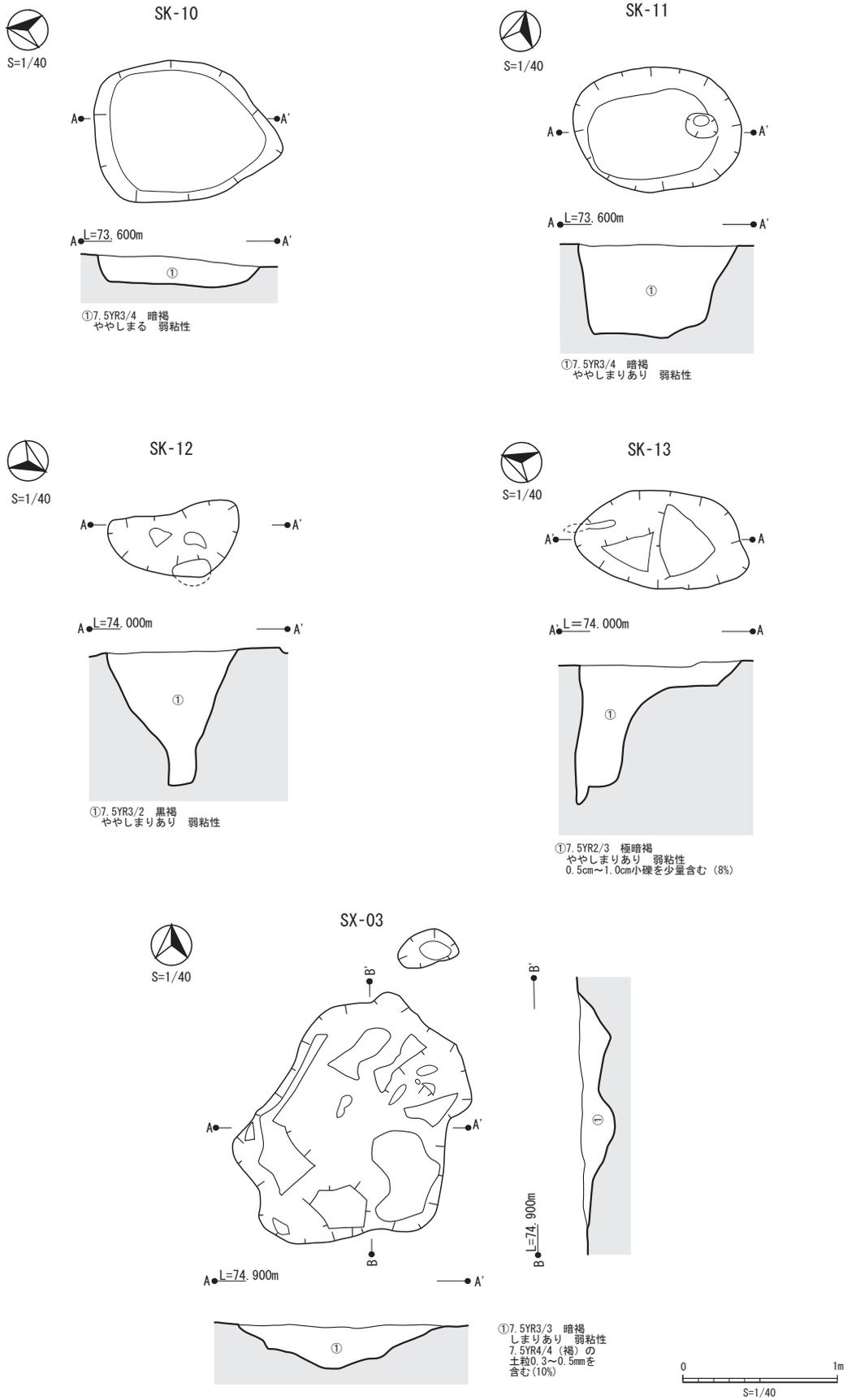
- ①7.5YR3/4 褐
ややしまる 弱粘性
- 7.5YR4/4 褐色の土粒 (0.5mm~0.8mm) を含む (5%)
- 炭化物粒を含む (1%)



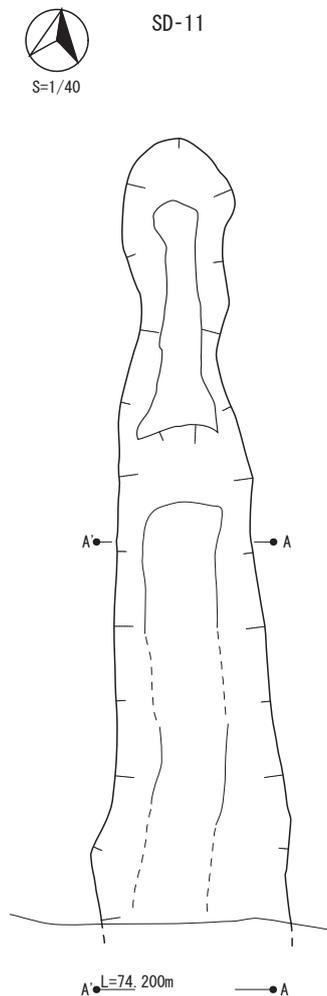
第 141 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SX-01・02・04実測図



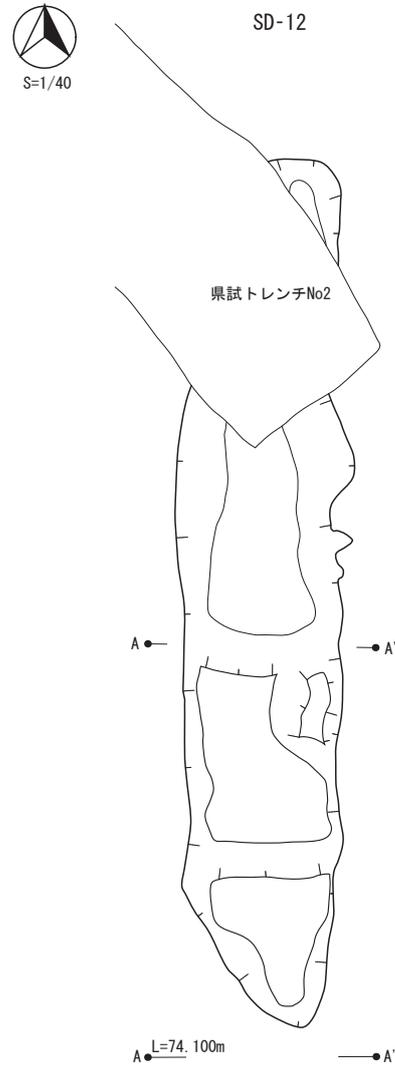
第 142 図 桑鶴遺跡群 06-II 区 遺構配置図



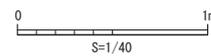
第 143 図 桑鶴遺跡群 06-II区 SK-10~13・SX-03実測図



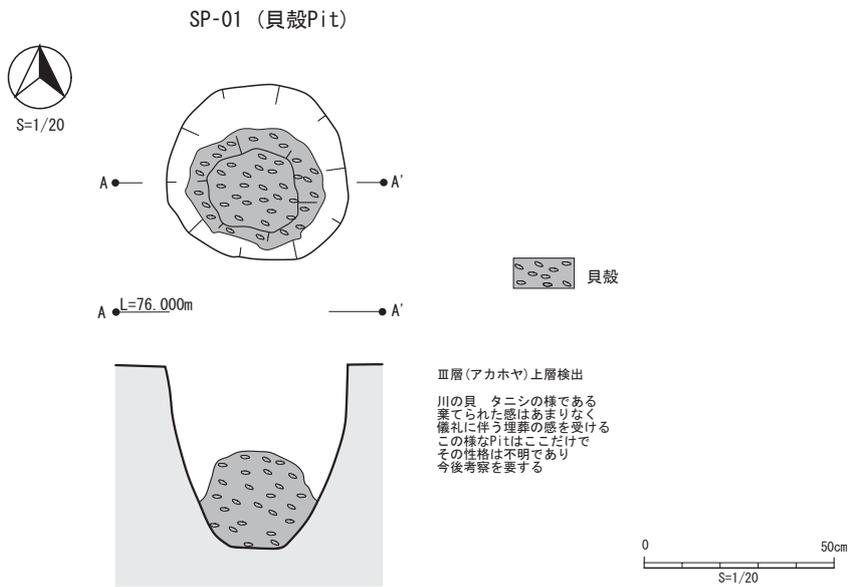
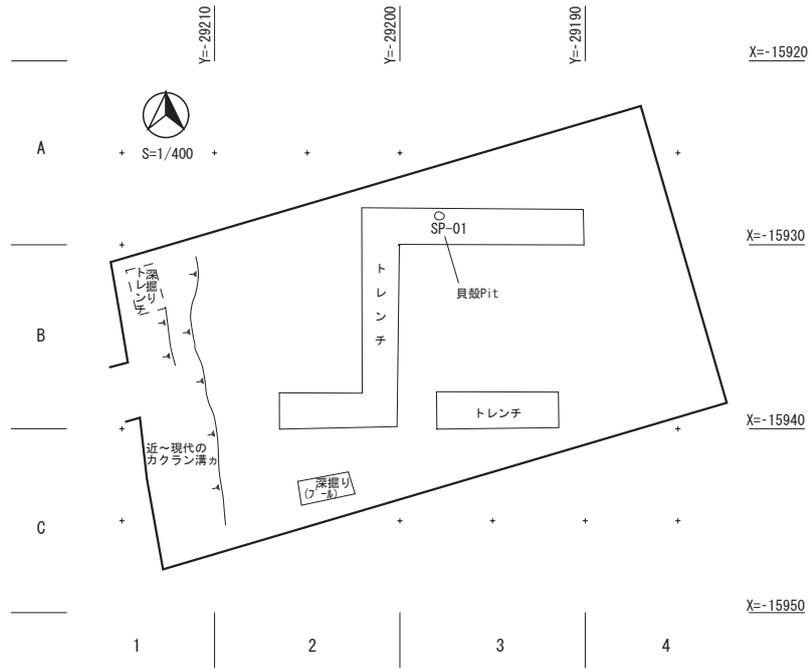
- ① 7.5YR3/2 黒褐
ややしまる 粘性弱
小礫粒0.5mm~2.0mmを少量含む(8%)
- ② 7.5YR2/2 黒褐
ややしまる 粘性弱
7.5YR4/3 褐色土粒 1.0cm~2.0cmの塊状を含む(10%)
小礫粒2.0mm~5.0mmを少量含む(5%)



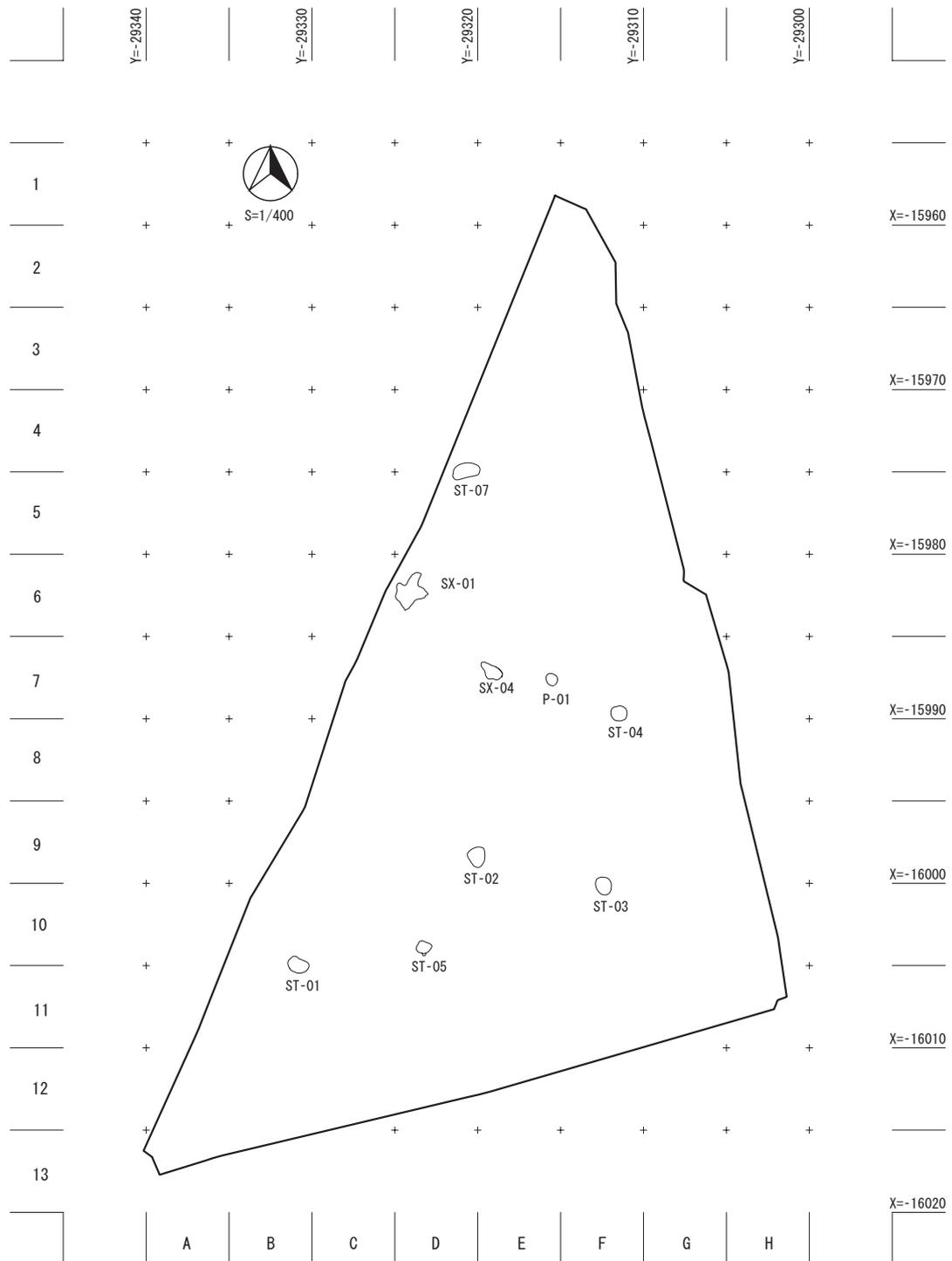
- ① 7.5YR2/2 黒褐
よくしまる 弱粘性
小礫(1.0cm)を含む(3%)



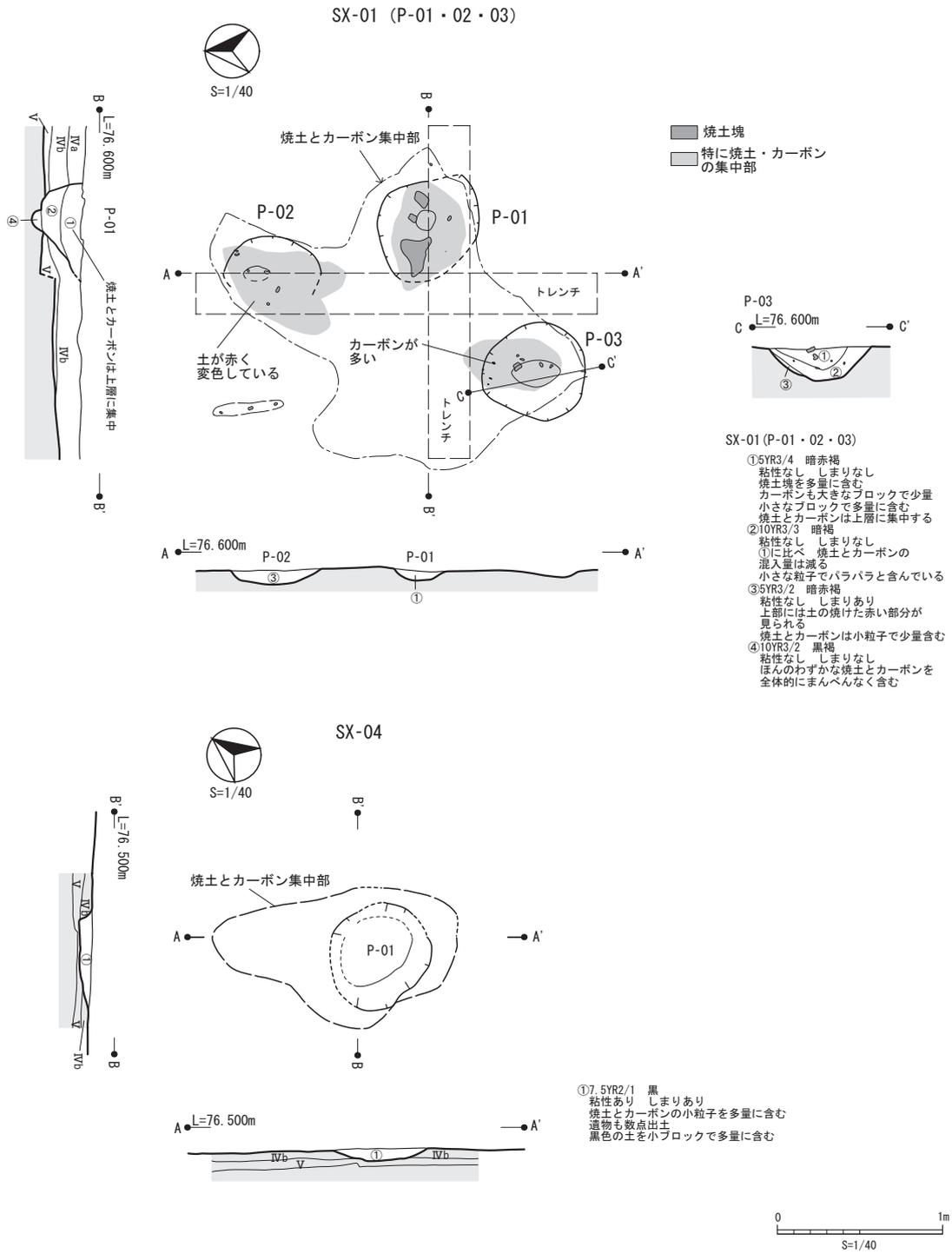
第 144 図 桑鶴遺跡群 06-Ⅱ区 SD-11・12実測図



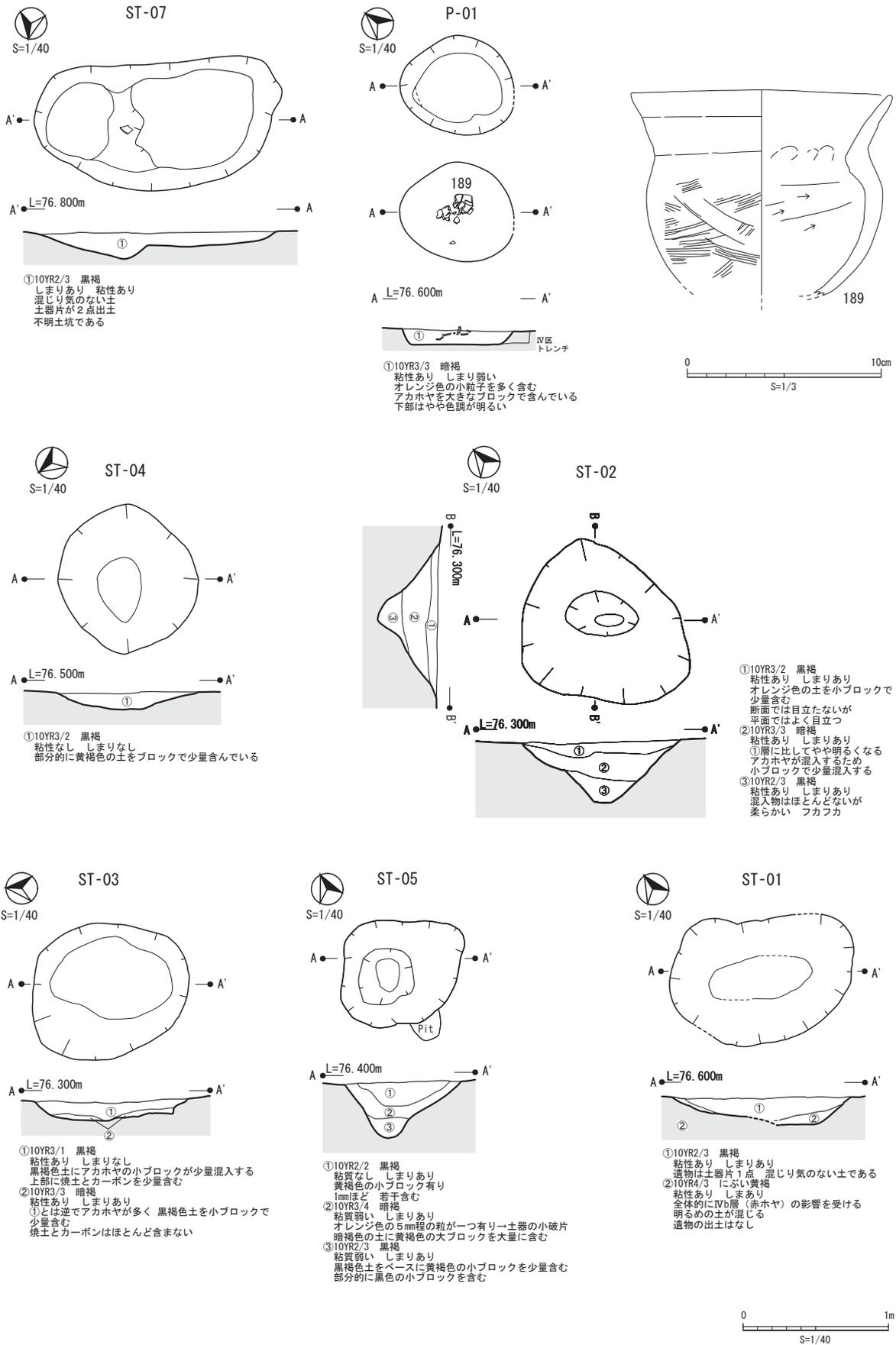
第 145 図 桑鶴遺跡群 IV区 遺構配置図及びSP-01 (貝殻Pit) 実測図



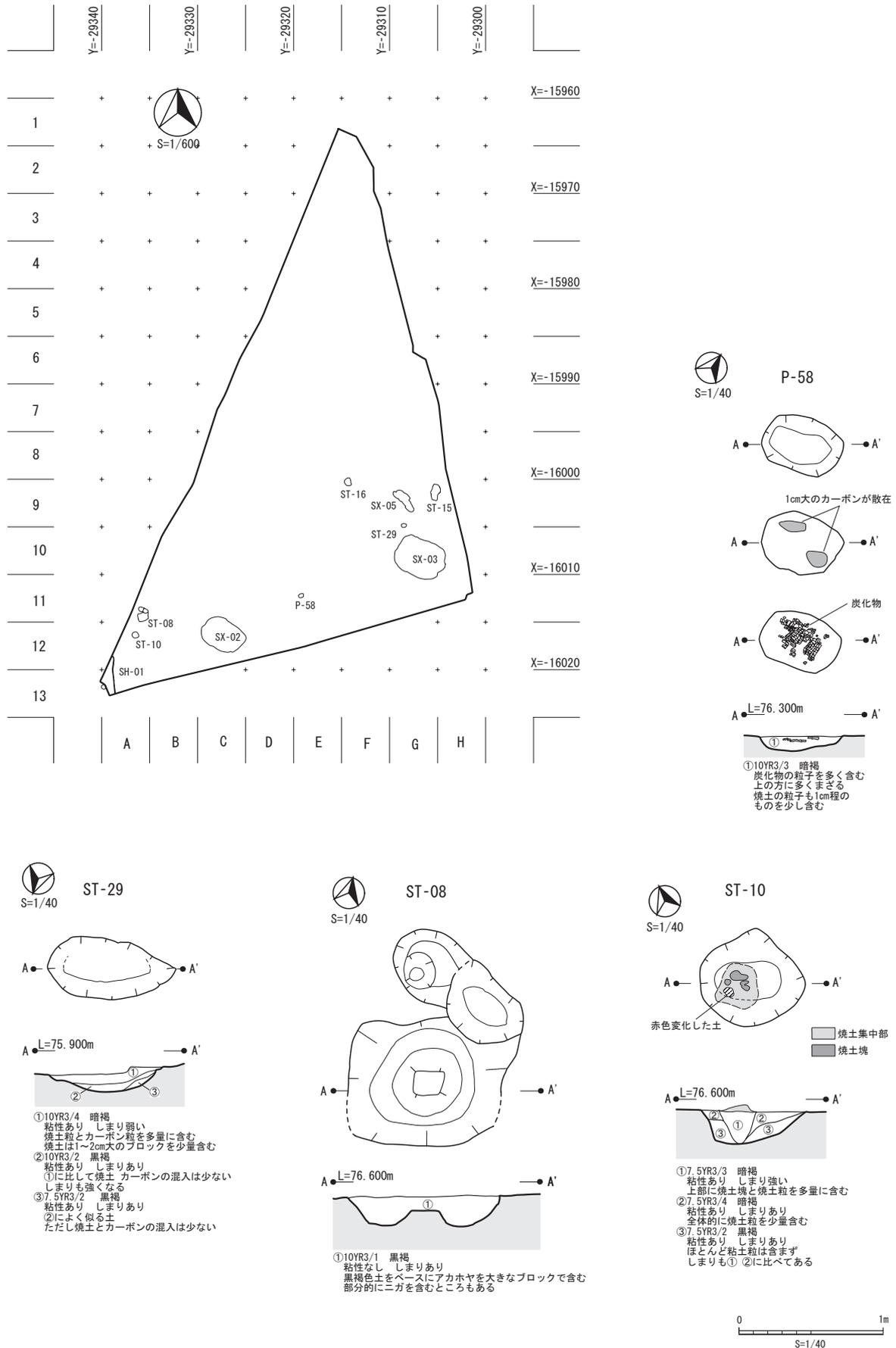
第 146 図 桑鶴遺跡群 VIII区 IVa層遺構配置図



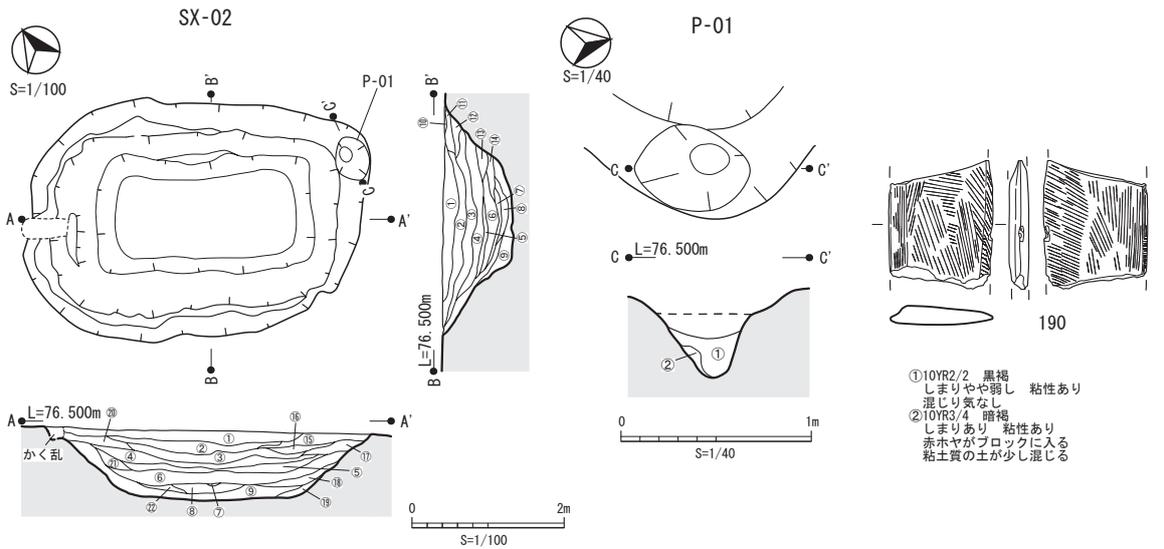
第 147 図 桑鶴遺跡群 VIII区 SX-01 (P-01・02・03)・SX-04実測図



第 148 図 桑鶴遺跡群 VIII区 ST-01~05・07・P-01実測図及び出土遺物実測図



第 149 図 桑鶴遺跡群 VII区 IVb層 遺構配置及びST-08・10・29・P-58実測図



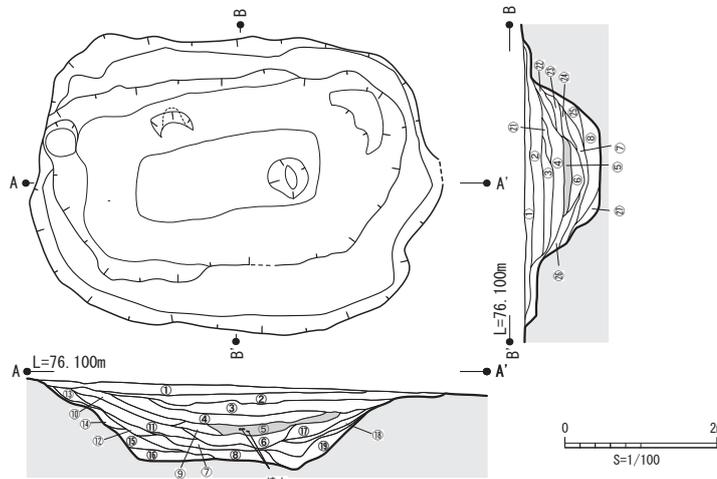
- ①10YR2/3 黒褐
粘性あり やしまりあり
混じり気少ない
- ②10YR4/4 褐
粘性強し しまりあり
5mm~1cm大の板状ブロックが入る
明黄褐色の粒が混じる
- ③10YR3/3 暗褐
粘性あり しまりあり
①と似ている
外側には赤ホヤがブロック状に入る
- ④10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
③と比べてやや赤みがある
- ⑤10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
③と似ているがやや白味がある
部分的に暗褐色の粘土粒が入る
- ⑥10YR2/2 黒褐
粘性あり しまりあり
埋土の中で最も黒味が強い
炭化物粒が混じる
土器片が混じる

- ⑦10YR3/3 暗褐
粘性あり しまりあり
④と似ている
炭化物粒が混じる
- ⑧10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
⑧と似ている
部分的に粘土ブロックが入る
赤褐色の粒子が混じる
炭化物粒(1mm程度)が混じる
- ⑨10YR4/3 にぶい黄褐
粘性あり しまりあり
粘土ブロックが多く 黄褐色の粒子が
全体的に混じる
1mm程度の粒がわずかに混じる
下層のロームが混じる
- ⑩10YR3/3 暗褐
粘性あり やしまりあり
①と似ている
- ⑪10YR4/3 にぶい黄褐
粘性あり やしまりあり
粘土粒がわずかに混じる
アカホヤがブロック状に混じる

- ⑫10YR3/4 暗褐
粘性あり やしまりあり
粘土粒が全体的に混じる
アカホヤがブロック状に混じる
- ⑬10YR3/3 暗褐
粘性あり しまりあり
粘土粒 炭化物粒 焼土粒が混じる
- ⑭10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
粘土粒 炭化物粒が混じる
やや明るい土(黄褐)が
ブロック状に混じる
- ⑮10YR3/3 暗褐
粘性あり やしまりあり
2mm程度の炭化物粒が混じる
にぶい黄褐色の粘土が混じる
- ⑯10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
⑮より暗め
1mm程度の粘土粒がわずかに混じる
アカホヤがブロック状に混じる

- ⑰10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりや弱し 粘性あり
混じり気なし
- ⑱10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり 粘性あり
赤ホヤがブロック状に入る
粘土質の土が少し混じる

SX-03



- ①10YR3/1 黒褐
粘性あり しまりややあり
混入物はほとんどない フカフカした土
- ②7.5YR3/1 黒褐
粘性あり しまりあり
①よりやや明るい色調
- ③10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
下部に炭化物を少量含んでいる
- ④7.5YR2/2 黒褐
粘性あり しまりあり
全体的に炭化物と焼土の粒子を
少量含んでいる
- ⑤10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
焼けたようなオレンジ色の土をブロックで含む
焼土とカーボンの塊を多量に含む
- ⑥10YR2/1 黒
粘性あり しまりややあり
他の層に比して黒い
上部に焼土とカーボンを少量含む

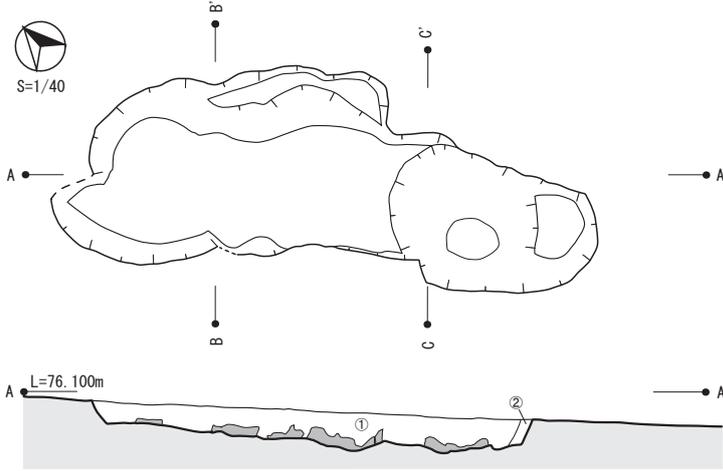
- ⑦10YR4/1 褐灰
粘性あり しまりややあり
ローム粒子と小さな砂粒が混入し
上の層に比してサラザラ感がある
- ⑧7.5YR3/3 暗褐
粘性あり しまりややあり
ロームを大小様々なブロックで多く含む
- ⑨7.5YR4/1 褐灰
粘性あり しまりあり
- ⑩10YR3/1 黒褐
粘性あり しまりややあり
部分的にアカホヤのブロックを少量含む
- ⑪10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりややあり
ロームの小粒子を全体的に含む
黄色っぽい
部分的に焼土粒を多量に含む
- ⑫7.5YR3/1 黒褐
粘性あり しまりあり
④によく似ている
炭化物を若干含む

- ⑬10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
①の土に多量のアカホヤが混入している
- ⑭10YR4/2 灰黄褐
粘性あり しまりあり
ローム粒 アカホヤを多量に含む
ややバサバサ感あり
- ⑮10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりややあり
ロームを小ブロックで少量含む
- ⑯10YR2/1 黒
粘性あり アカホヤを多量に含む
大ブロックでロームを下部に多量に含む
- ⑰10YR3/1 黒褐
粘性あり しまりあり
⑩に対応
- ⑱10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりややあり
⑫に対応

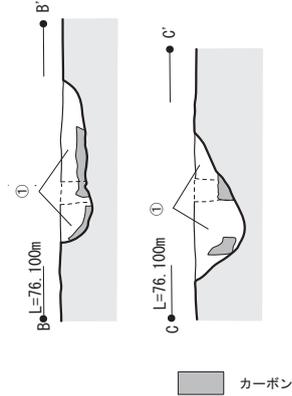
- ⑲10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりややあり
ローム粒を多量に含み 黄色
ロームは下部ほど多い
- ⑳10YR3/1 黒褐
粘性あり しまりあり
⑱に対応
- ㉑10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
⑳によく似るが やや色調が明るい
- ㉒10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
混入物はほとんどない
- ㉓10YR3/1 黒褐
粘性あり しまりあり
⑱に対応
- ㉔10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
⑱に対応
- ㉕㉖に対応

第 150 図 桑鶴遺跡群 VII区 SX-02・03実測図及び出土遺物実測図

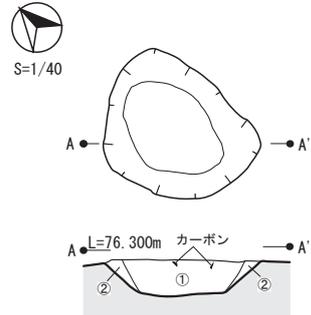
SX-05



- ①10YR3/2 黒褐
粘性あり しまり弱い
この土にカーボンを多量に含む
形のあるものもあればカーボンの小粒子もあり
土の中に多量に含む
ただしカーボンのみで焼土は全くみられない
土質はボロボロしている
この層の下位にカーボンを多量に含む
- ②10YR3/4 暗褐
粘性なし しまりあり
アカボヤに①の土が小さなブロックで混入する

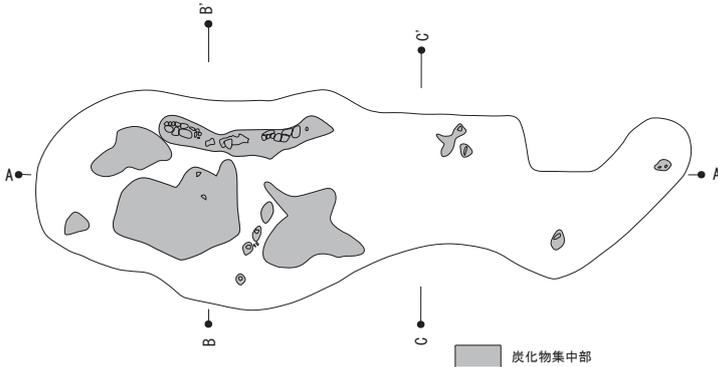


ST-16

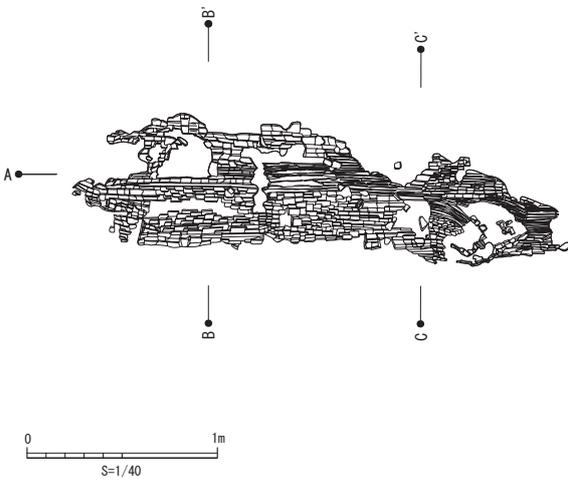


- ①10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
炭化物2cm程度のものがいくつか混じる
他は5cm程度の炭化物が全体的に入る
一部に焼土粒がまばらに混じる
- ②10YR4/6 褐
粘性あり しまりあり
炭化物が部分的に混じる (1~2cm程度)

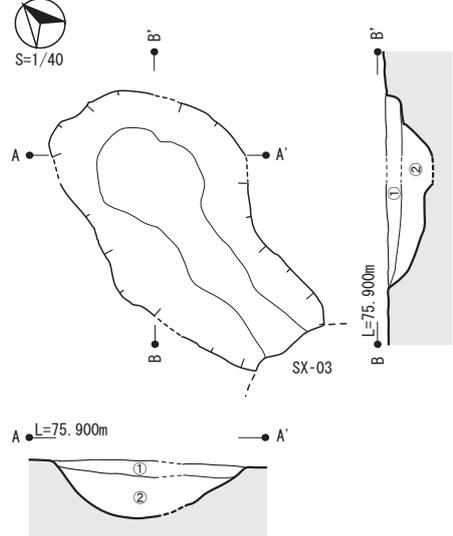
SX-05炭化物出土範囲



SX-05炭化物出土状況

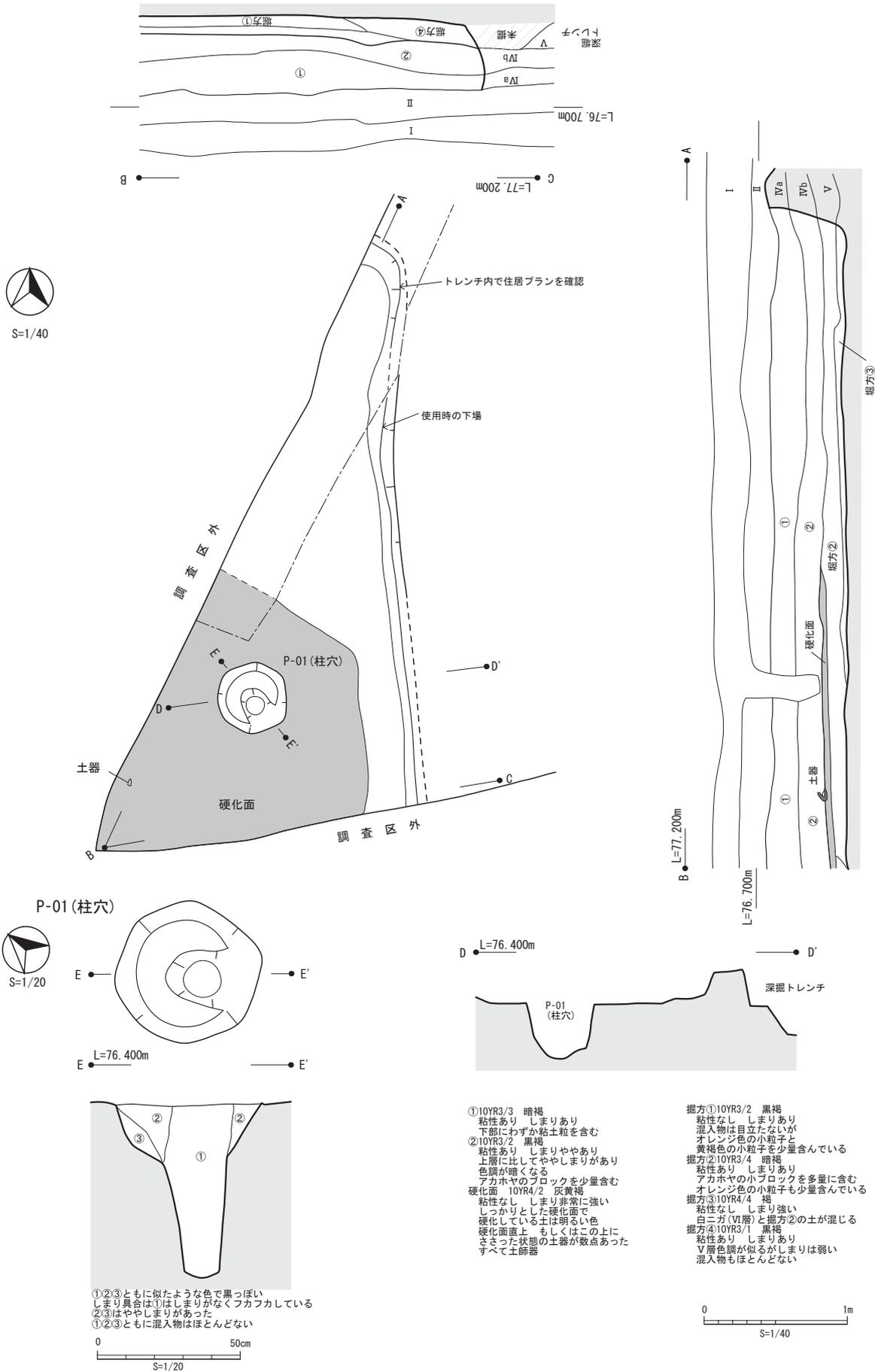


ST-15

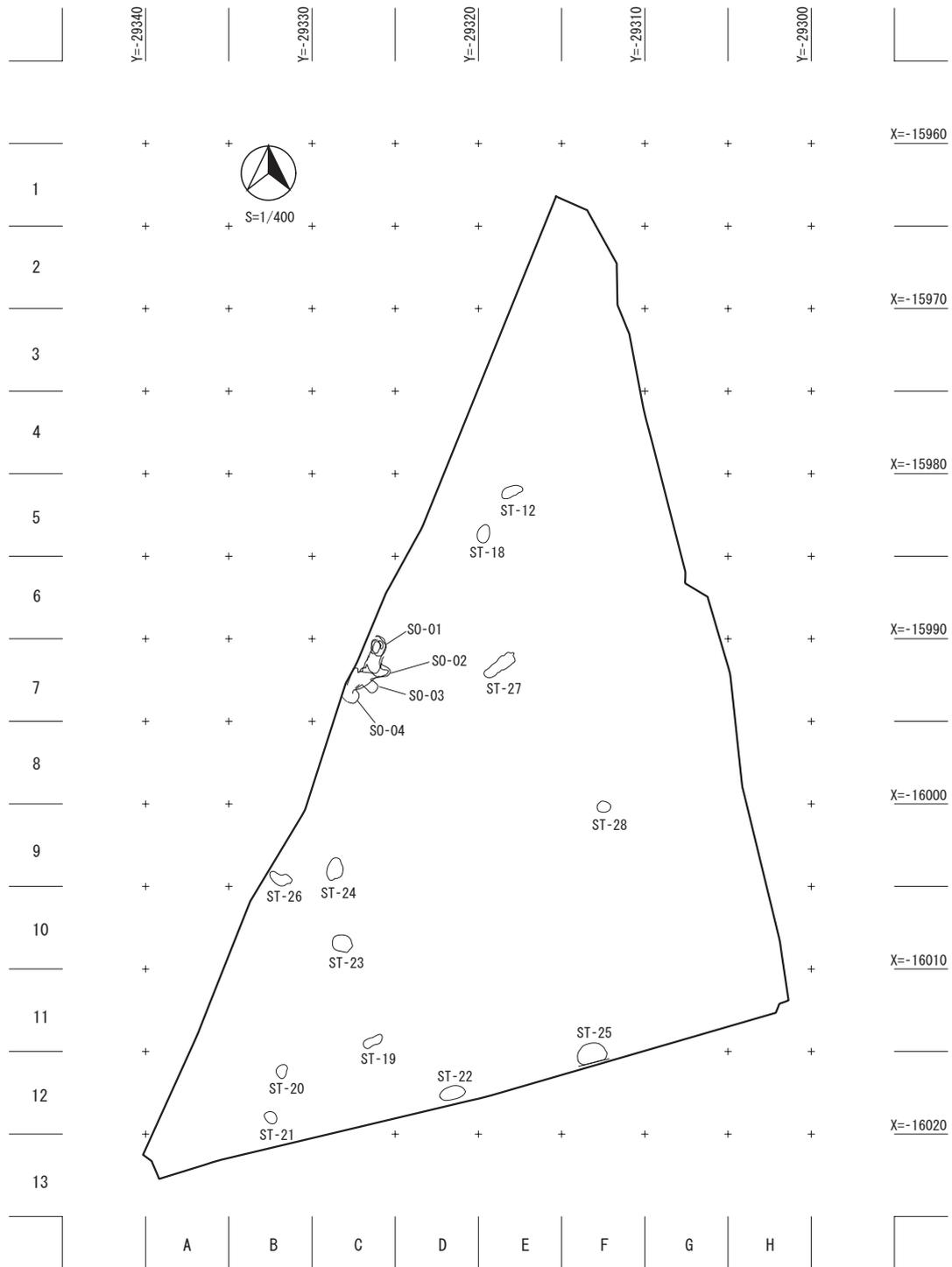


- ①10YR3/4 暗褐
粘性あり しまりあり
少量の焼土粒とカーボン粒を含む
ベースの土は IVb層でその中に黒褐色土が
少量混入する
- ②10YR3/2 黒褐
粘性あり しまり弱い
周囲の土に比してやや暗い色調で
焼土とカーボンを多量に含む
特に焼土粒が多く目立つ

第 151 図 桑鶴遺跡群 VIII区 SX-05・ST-15・16実測図

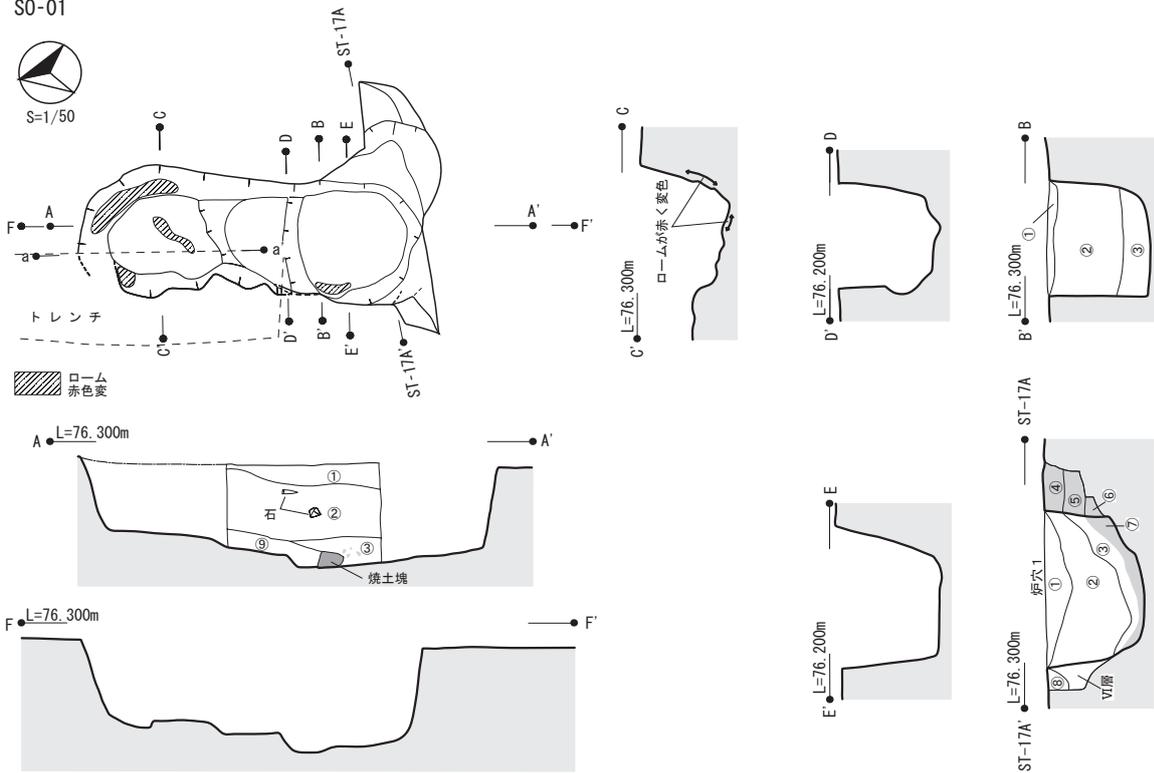


第 152 図 桑鶴遺跡群 VIII区 SH-01・P-01(柱穴)実測図



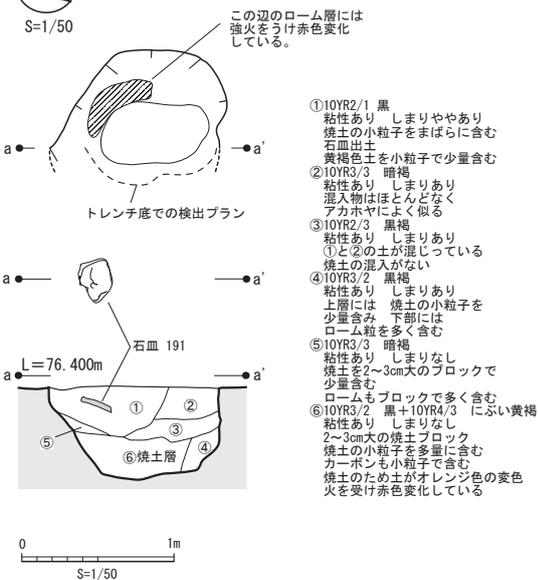
第 153 図 桑鶴遺跡群 VIII区 V層 遺構配置図

S0-01

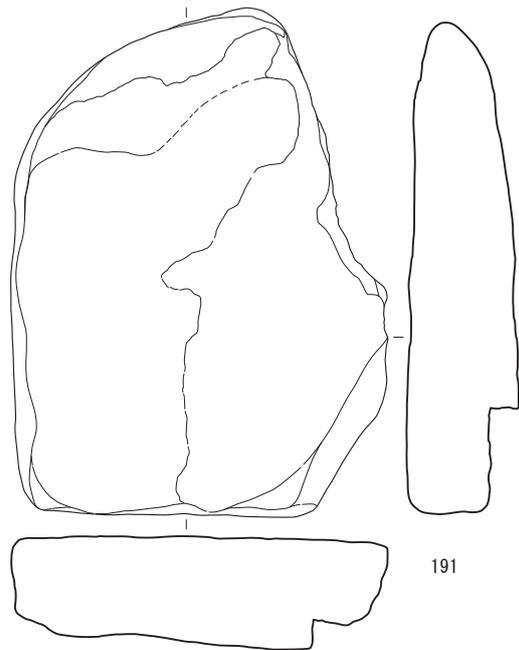


- ①10YR3/3 暗褐
粘性あり しまりあり
焼土と炭化物の小粒子を全体的に少量含む
- ②10YR3/1 黒褐
①に比してしまりがなくなり炭化物
焼土の混入が多くなる
粒子もやや大きくなる
さらに焼土の大きなブロックを少量含む
- ③10YR2/1 黒
粘性あり しまりなし
焼土とカーボンを多量に含む
ロームも小ブロックで混入する
焼土は赤色のものを大ブロックで含む
- ④10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりややあり
カーボンと焼土を多量に含む
特に下層の方に焼土が目立つ
- ⑤10YR4/3 にぶい黄褐
粘性ややあり しまりややあり
ロームが多量に混入し明るい色調
その中に焼土の粒子が多量に混入する
- ⑥10YR3/1 黒褐
粘性あり しまり弱い
上部にはロームを多く含む
下部には黒が強く 焼土の大ブロックを
多量に含む
- ⑦10YR2/1 黒
粘性あり しまりあり
⑥の土にさらにロームが混入する
焼土は大ブロックで数点混入する
炭化物は2~3cm大で木炭の形
- ⑧10YR3/3 暗褐
粘性あり しまりあり
周囲の土にはニガがブロックで入るが
ここだけはそれが無い
黒色の土を小ブロックで少量含む
焼土とカーボンは混入しない
- ⑨10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりなし
焼土を下部に多量に含む
カーボンは全体的に少量含む

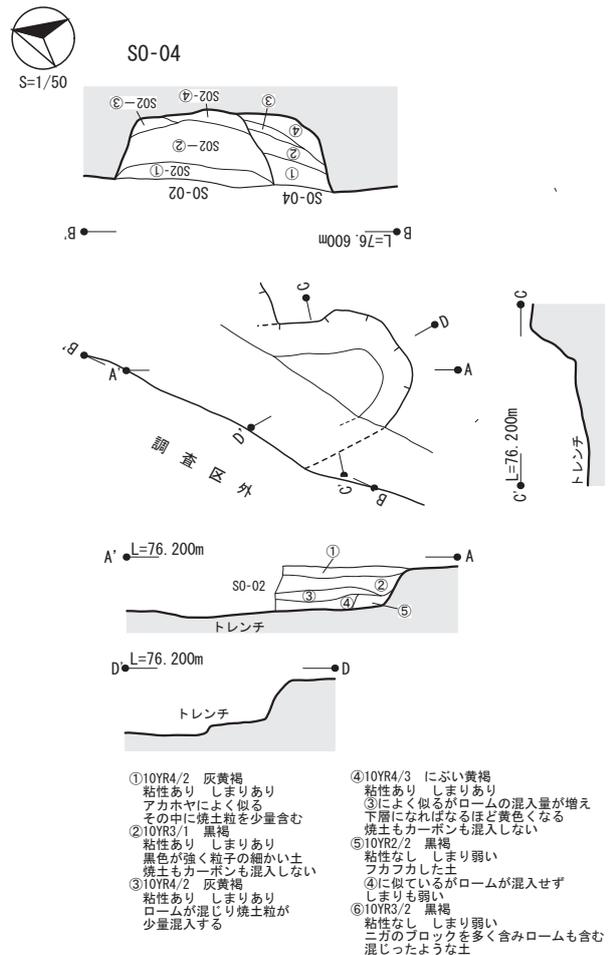
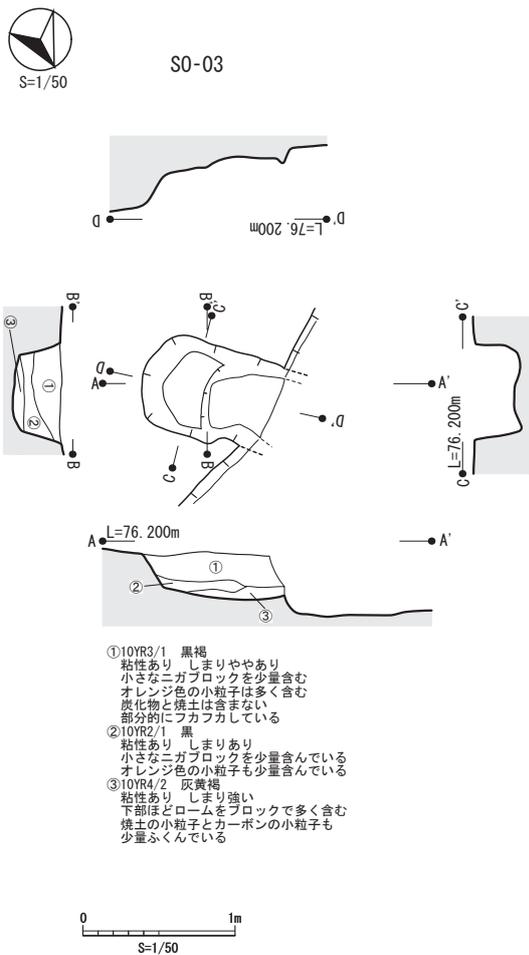
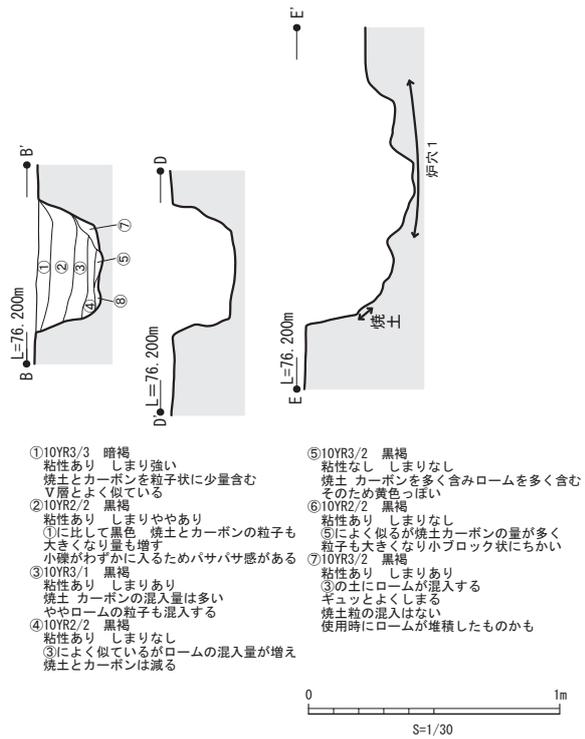
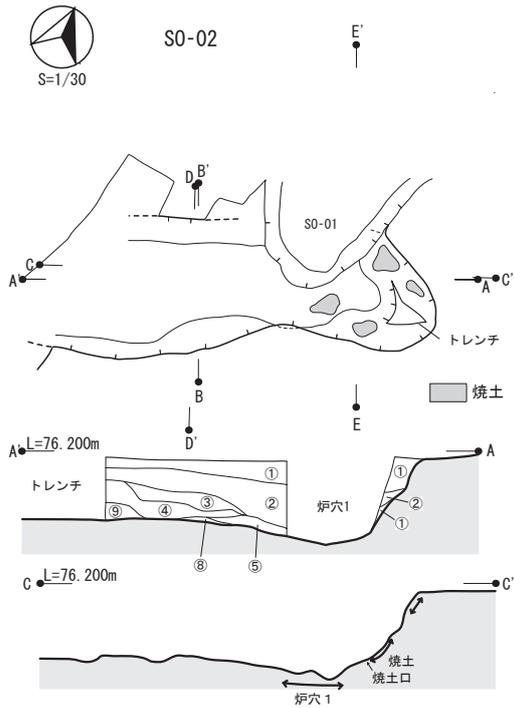
石皿出土状況



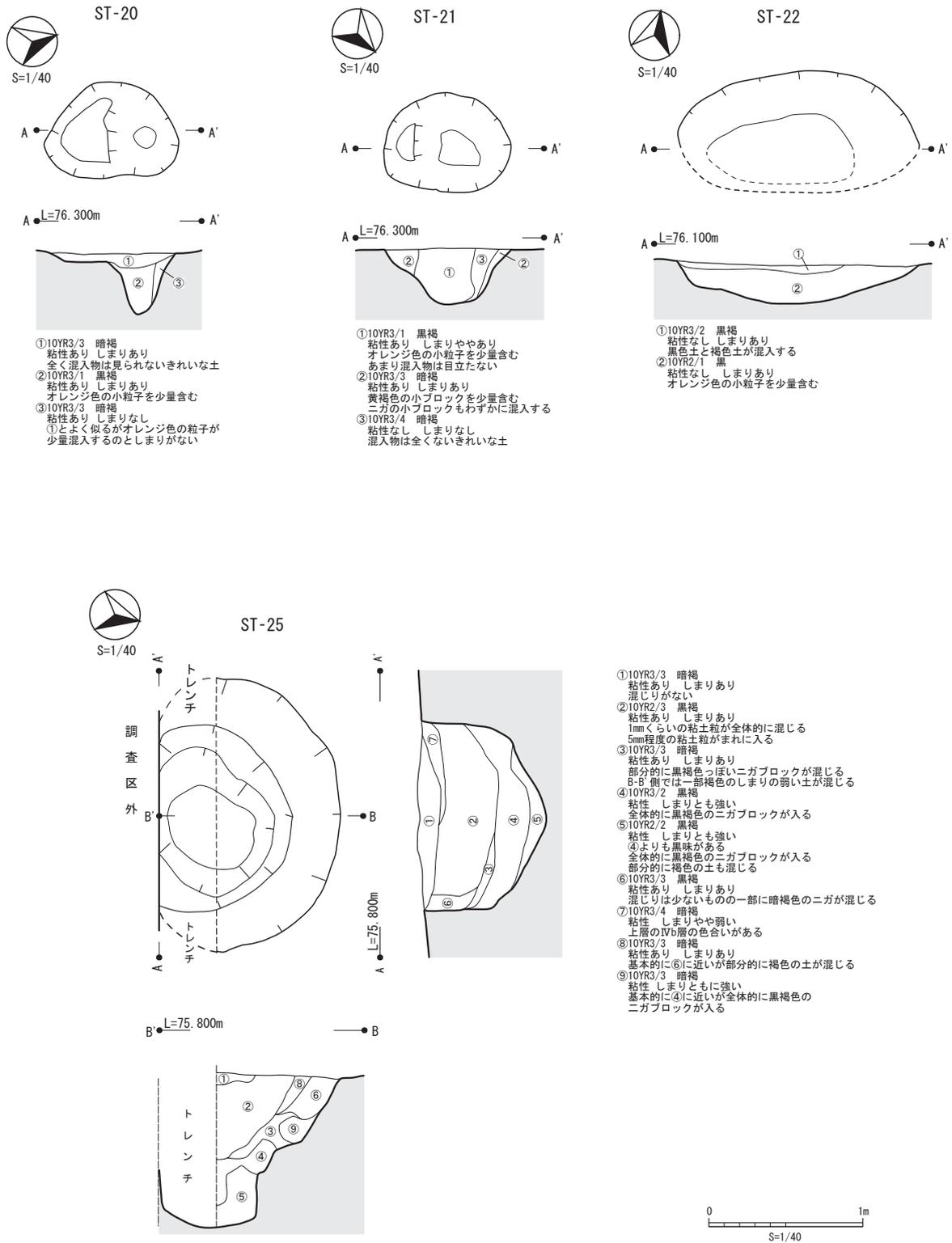
- ①10YR2/1 黒
粘性あり しまりややあり
焼土の小粒子をまばらに含む
石皿出土
黄褐色土を小粒子で少量含む
- ②10YR3/1 黒褐
粘性あり しまりあり
混入物はほとんどなく
アカホヤによく似る
- ③10YR2/3 黒褐
粘性あり しまりあり
①と②の土が混じっている
焼土の混入がない
- ④10YR3/2 黒褐
粘性あり しまりあり
上部には 焼土の小粒子を
少量含む 下部には
ローム粒を多く含む
- ⑤10YR3/3 暗褐
粘性あり しまりなし
焼土を2~3cm大のブロックで
少量含む
ロームもブロックで多く含む
- ⑥10YR3/2 黒+10YR4/3 にぶい黄褐
粘性あり しまりなし
2~3cm大の焼土ブロック
焼土の小粒子を多量に含む
カーボンも小粒子で含む
焼土のため土がオレンジ色の変色
火を受け赤色変化している



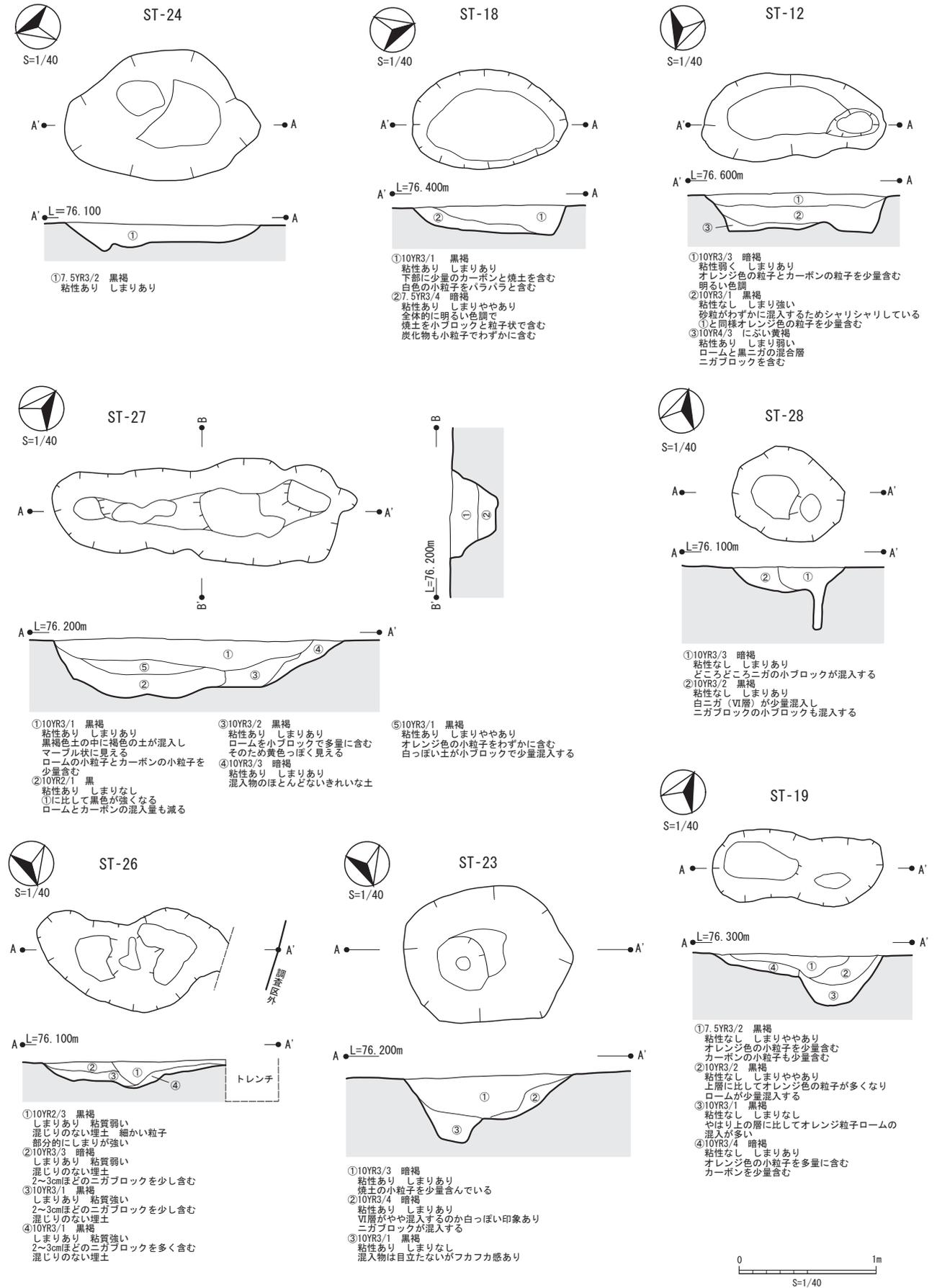
第 154 図 桑鶴遺跡群 VIII区 S0-01実測図及び出土遺物実測図



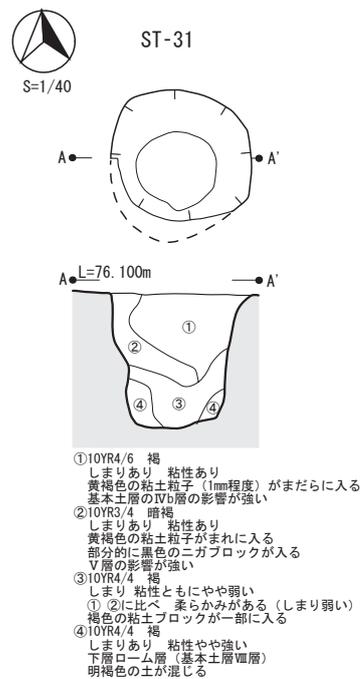
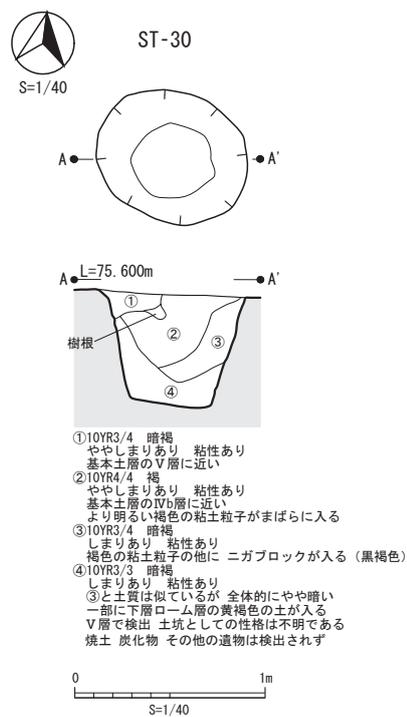
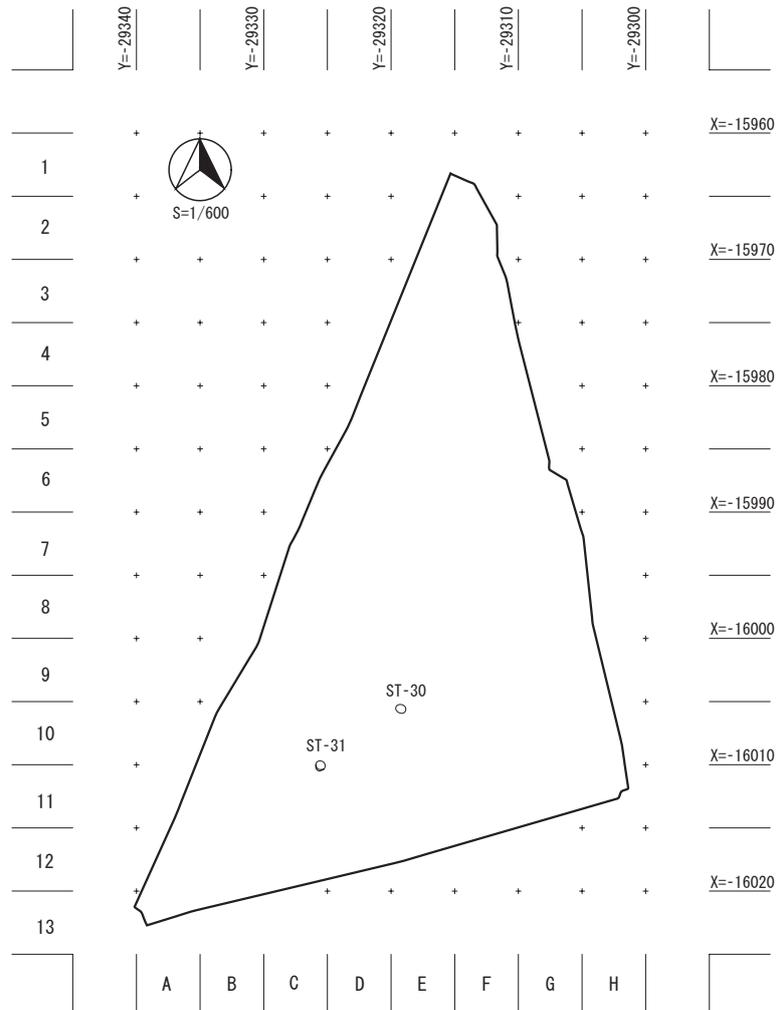
第 155 図 桑鶴遺跡群 VII区 S0-02~04実測図



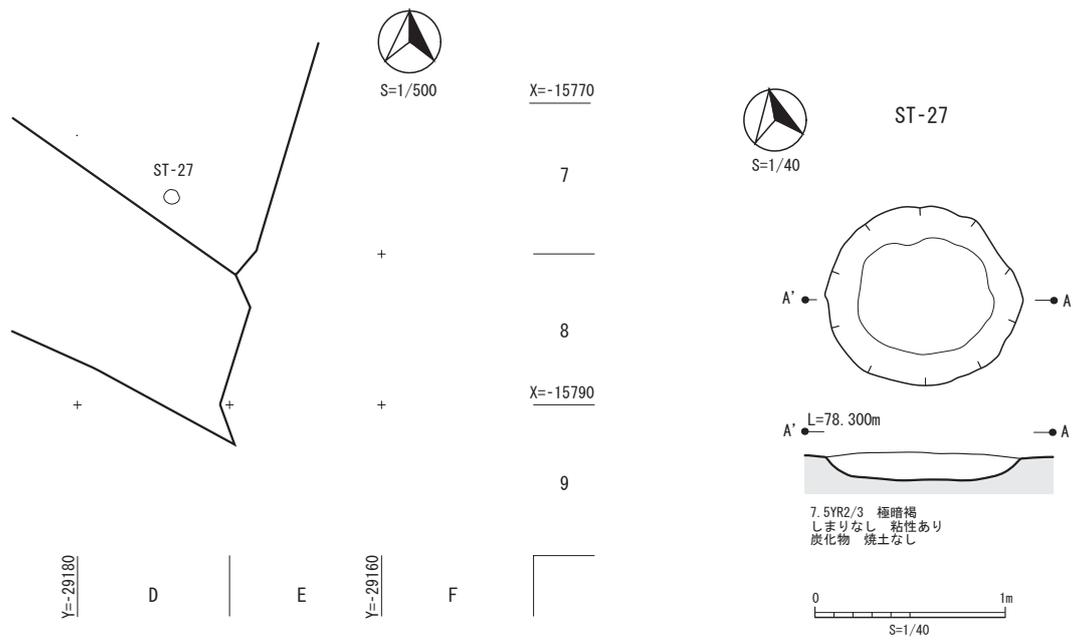
第 156 図 桑鶴遺跡群 VIII区 ST-20~22・25実測図



第 157 図 桑鶴遺跡群 VIII区 ST-12・18・19・23・24・26~28実測図



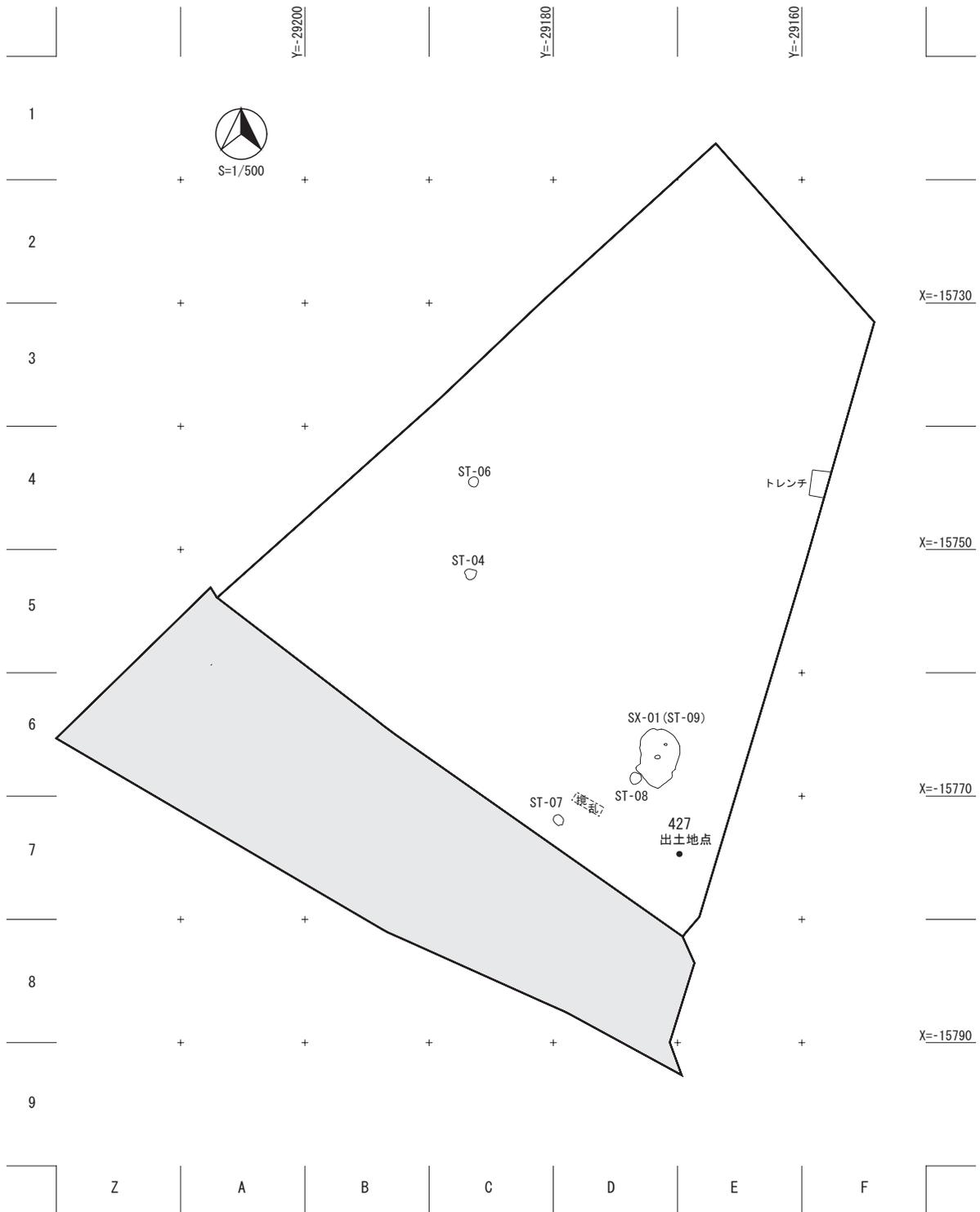
第 158 図 桑鶴遺跡群 VIII区 遺構配置図及びST-30・31実測図



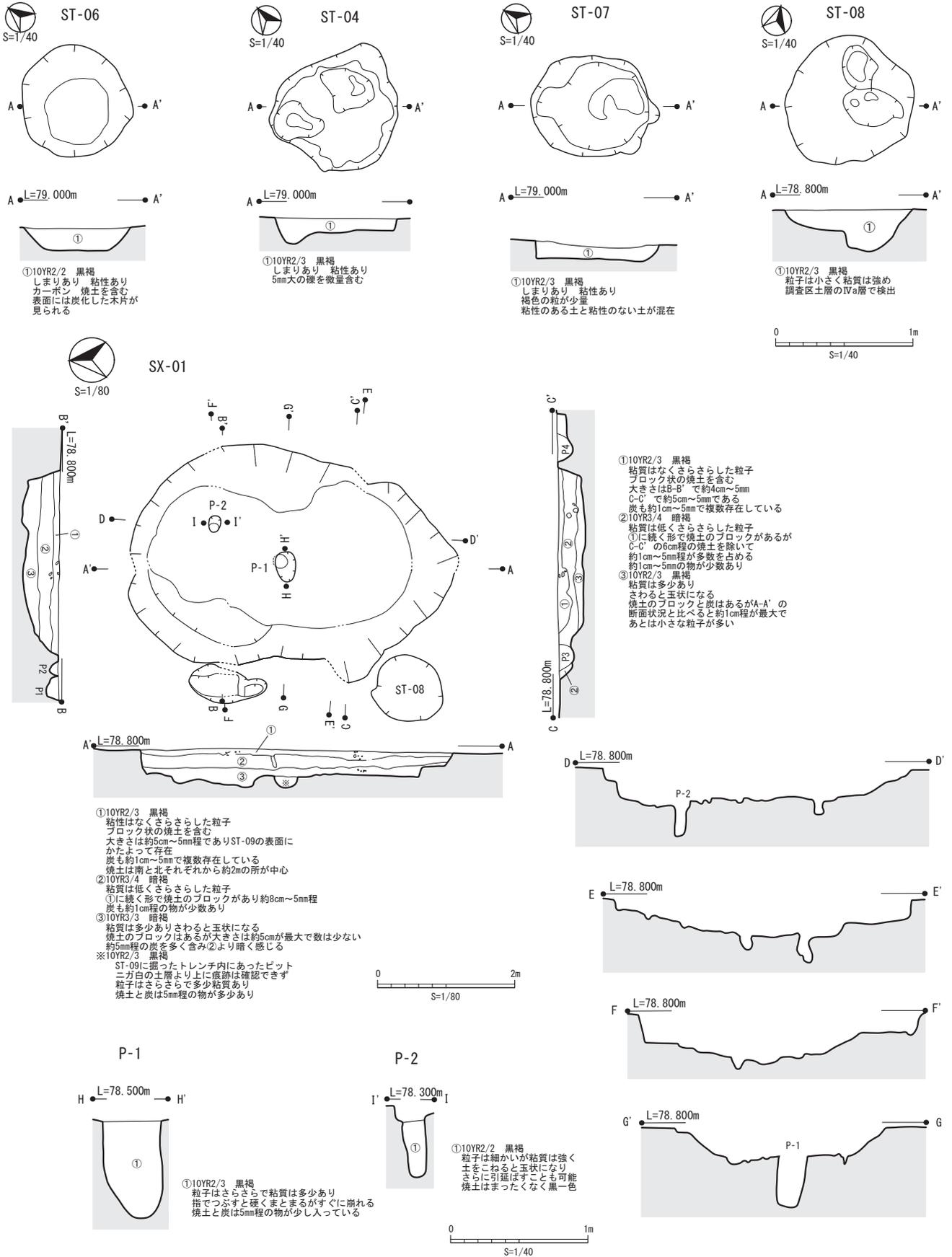
第 159 図 五丁中原遺跡 I 区 V 層 遺構配置図及びST-27実測図



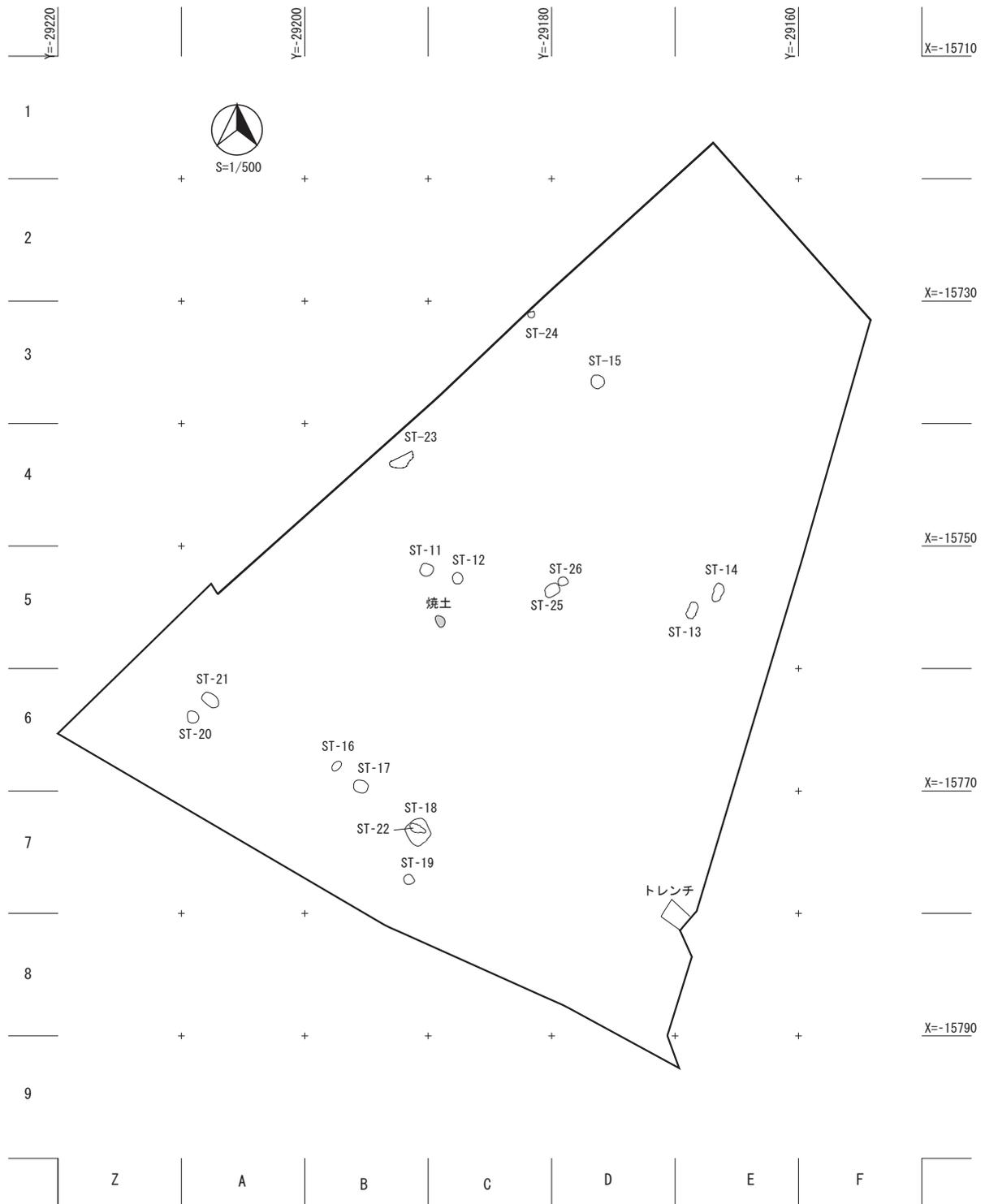
発掘調査状況（桑鶴遺跡群 II 区）



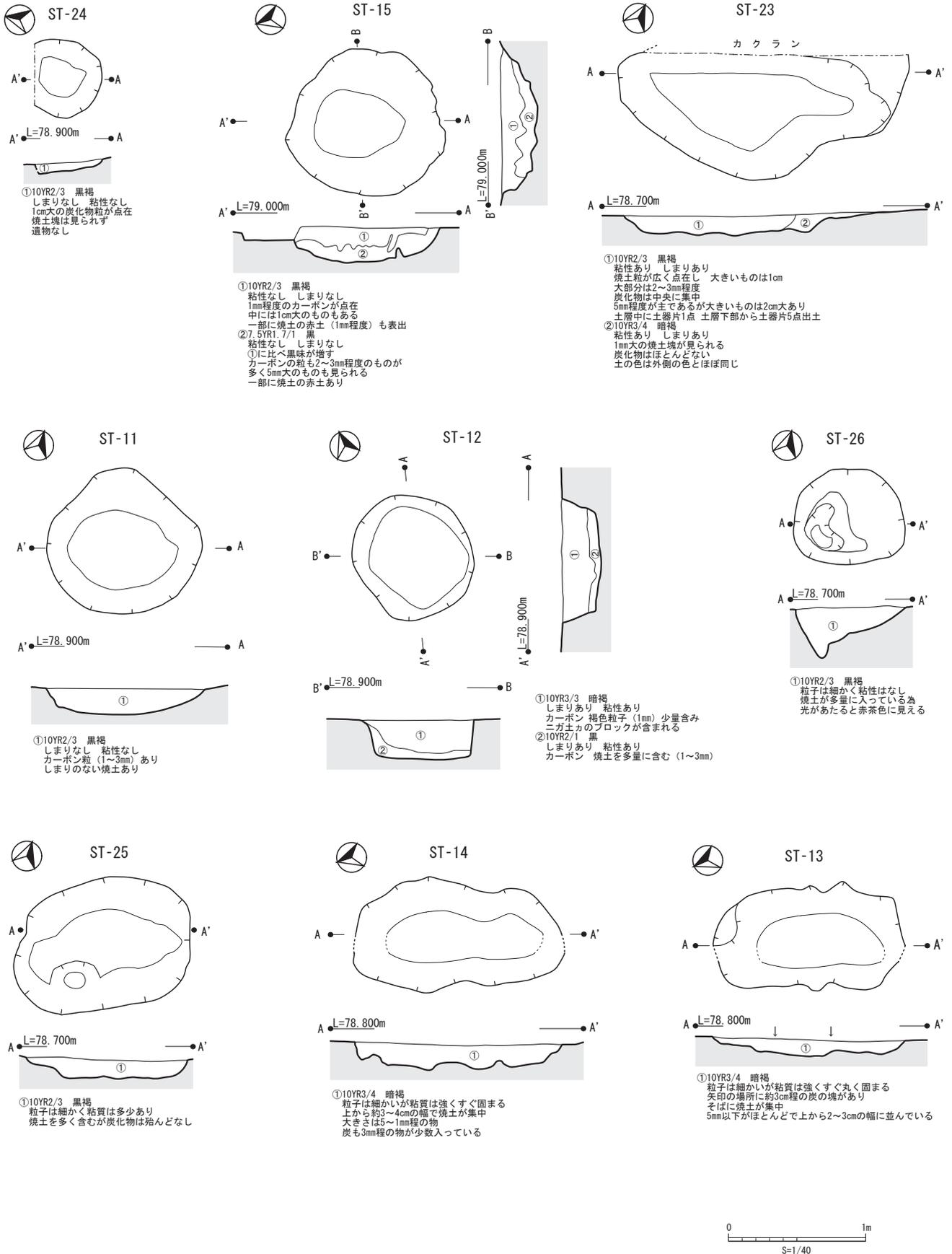
第 160 図 五丁中原遺跡 I 区 IVa層 遺構配置図及び遺物出土状況



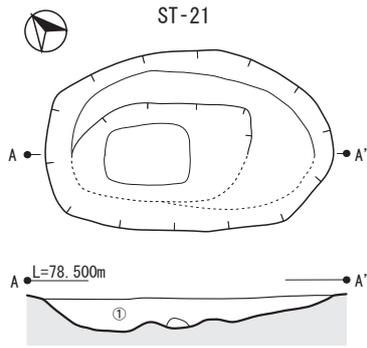
第 161 図 五丁中原遺跡 I 区 ST-04・06~08・SX-01実測図



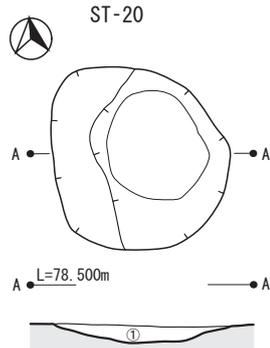
第 162 図 五丁中原遺跡 I 区 IVb層 遺構配置図



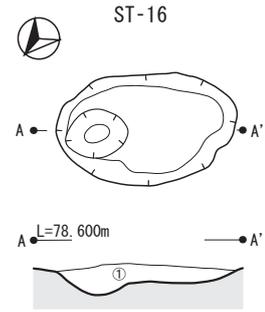
第 163 図 五丁中原遺跡 I 区 ST-11~15・23~26実測図



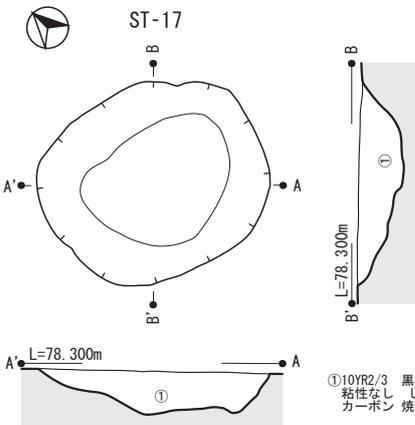
①10YR6/4 にぶい黄褐色
しまりあり 粘性あり
焼土 カーボンを含む
1~3mm位の小炭を微量含む
10YR2/3 黒褐色土（しまりなし 粘性あり）が
ブロック状で混じる



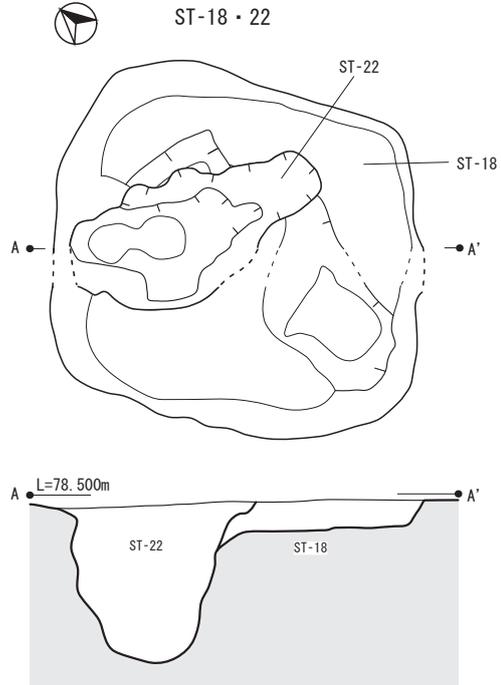
①7.5YR1.7/1 黒
しまりなし 粘性なし
焼土 カーボンを含む



①10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
カーボン 焼土を含む

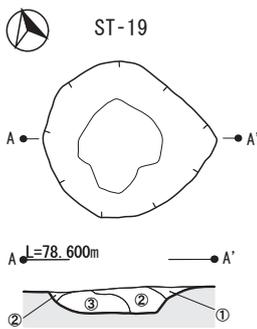


①10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
カーボン 焼土を含む

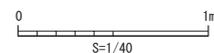


ST-22
10YR2/3 黒褐
粒子は細かくさらさらで粘質は低く
小さく固まる程度
土中に5mm程の炭化物和焼土が
上から30~40cmの幅で多数入っている

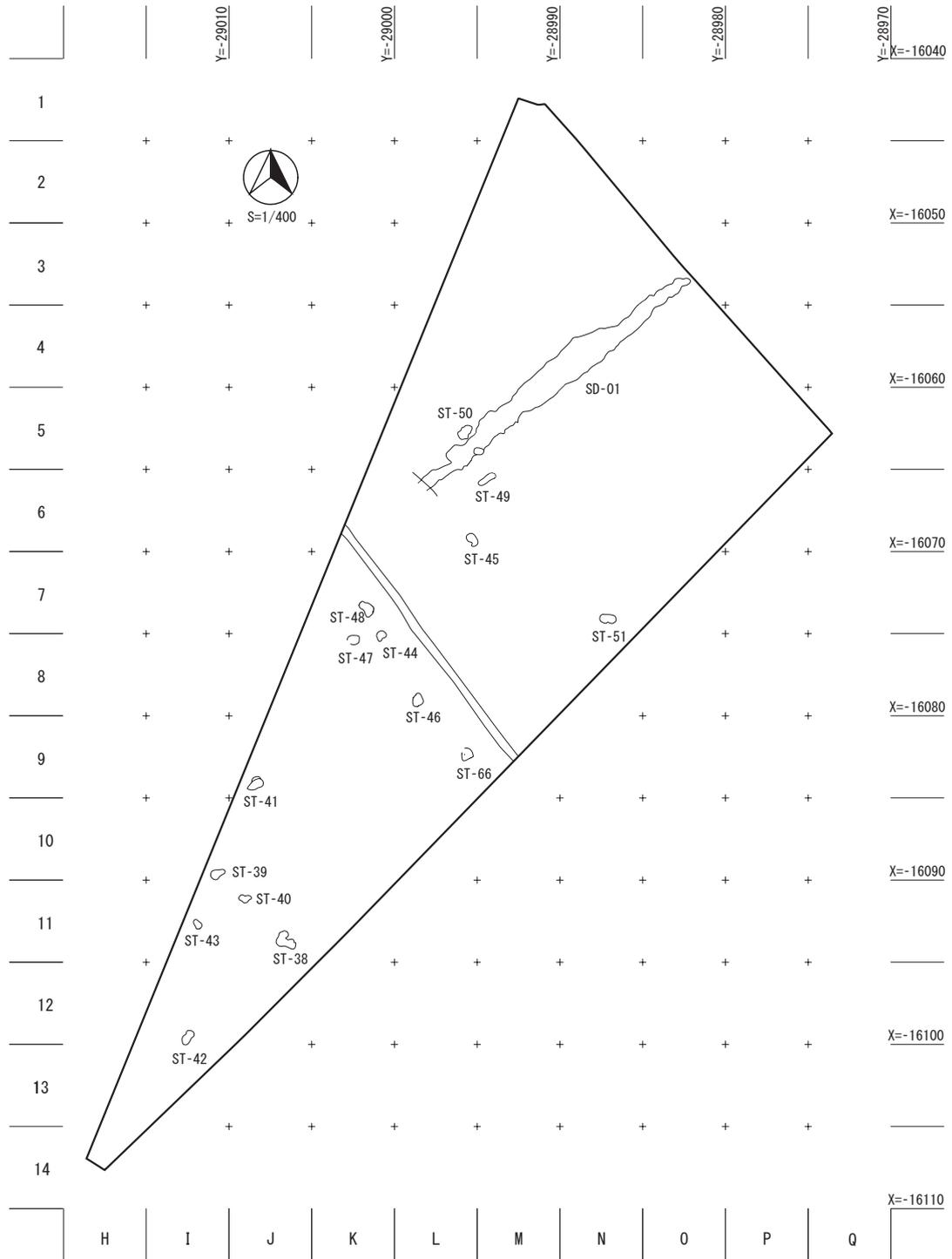
ST-18
10YR3/4 暗褐
粒子は細かくさらさらで粘質はない
1cm~5mm程炭化物和焼土が
多数入っている



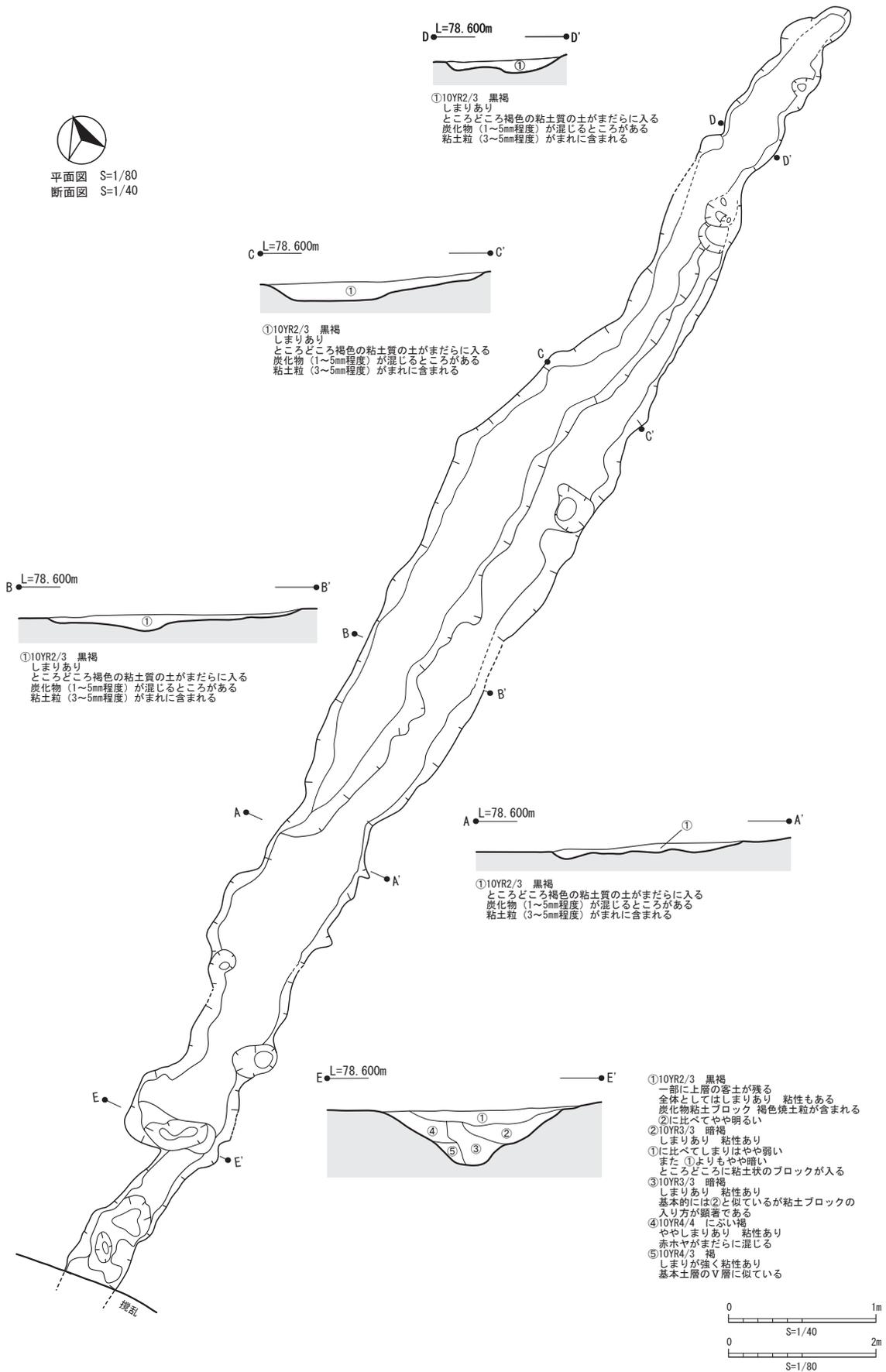
①10YR3/4 暗褐
粘性なし しまりなし
わずかにカーボン粒（1mm程度）が
見られる
②10YR2/3 黒褐
粘性なし しまりなし
カーボン粒（1~5mm）が
全体的に見られる
焼土あり
③7.5YR1.7/1 黒
カーボンの固まりあり
全体的に黒っぽい
焼土あり
鏡餅状に堆積



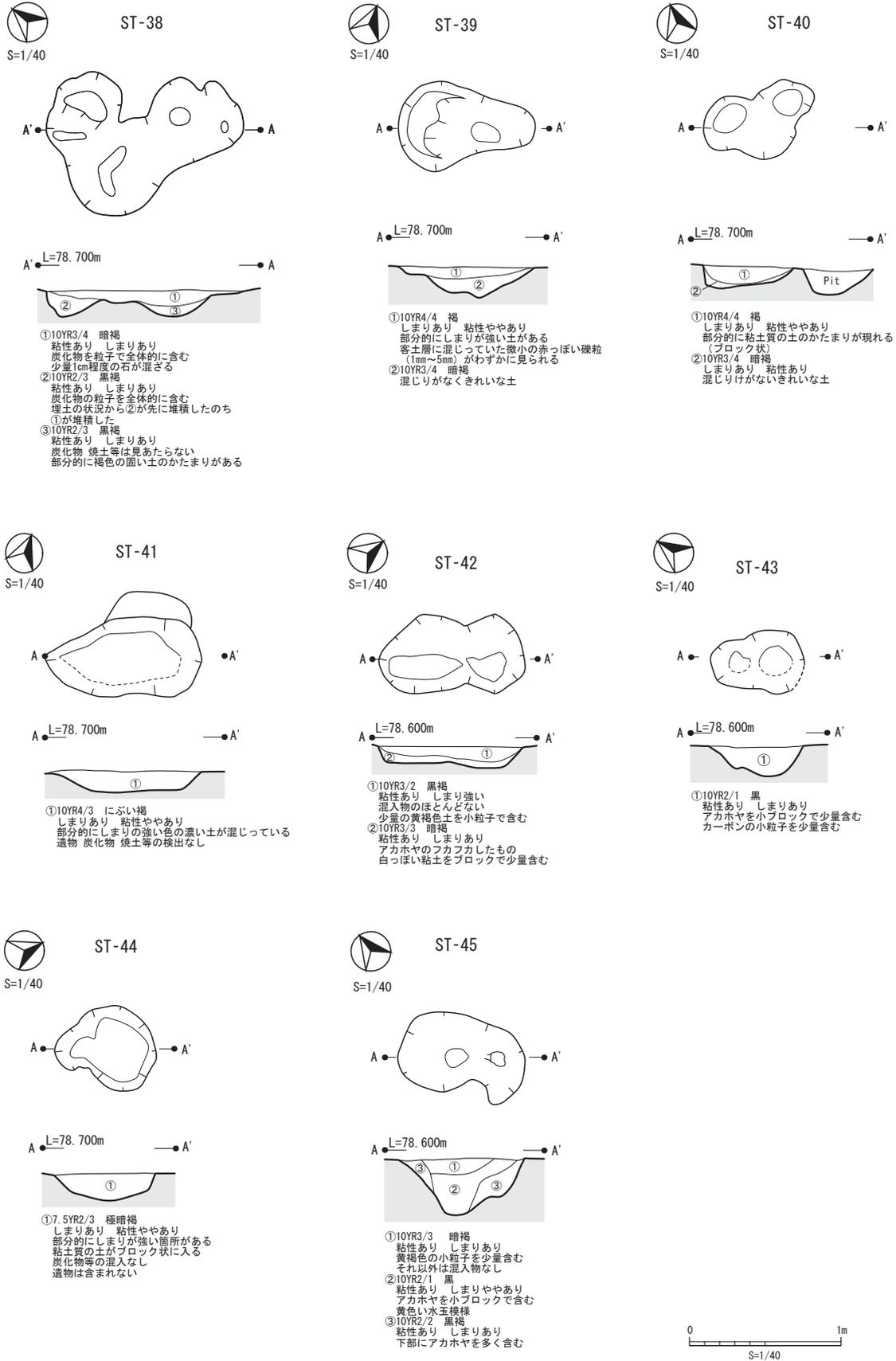
第 164 図 五丁中原遺跡 I 区 ST-16~22実測図



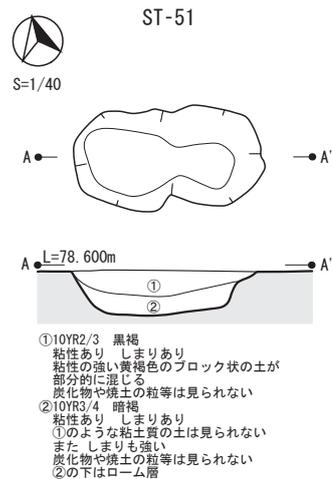
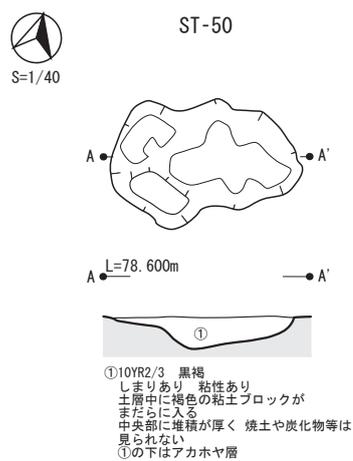
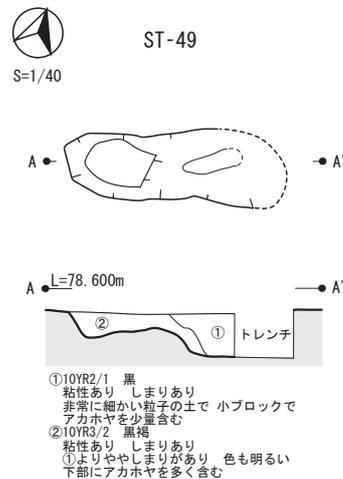
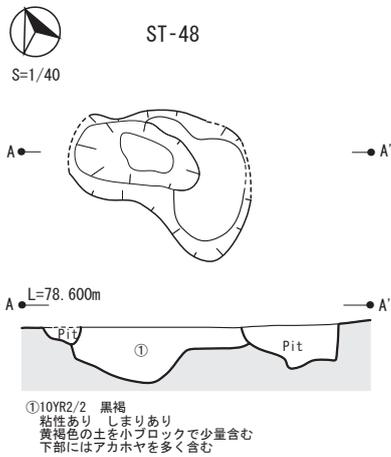
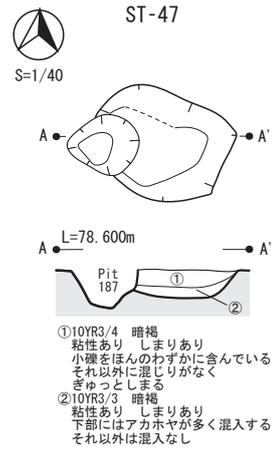
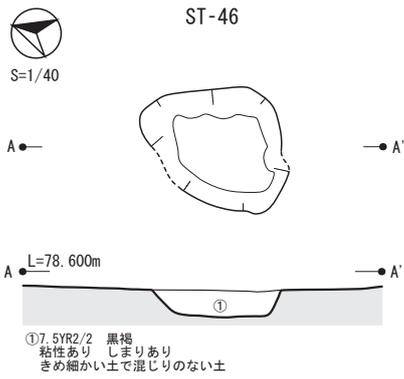
第 165 図 五丁中原遺跡 III区 遺構配置図



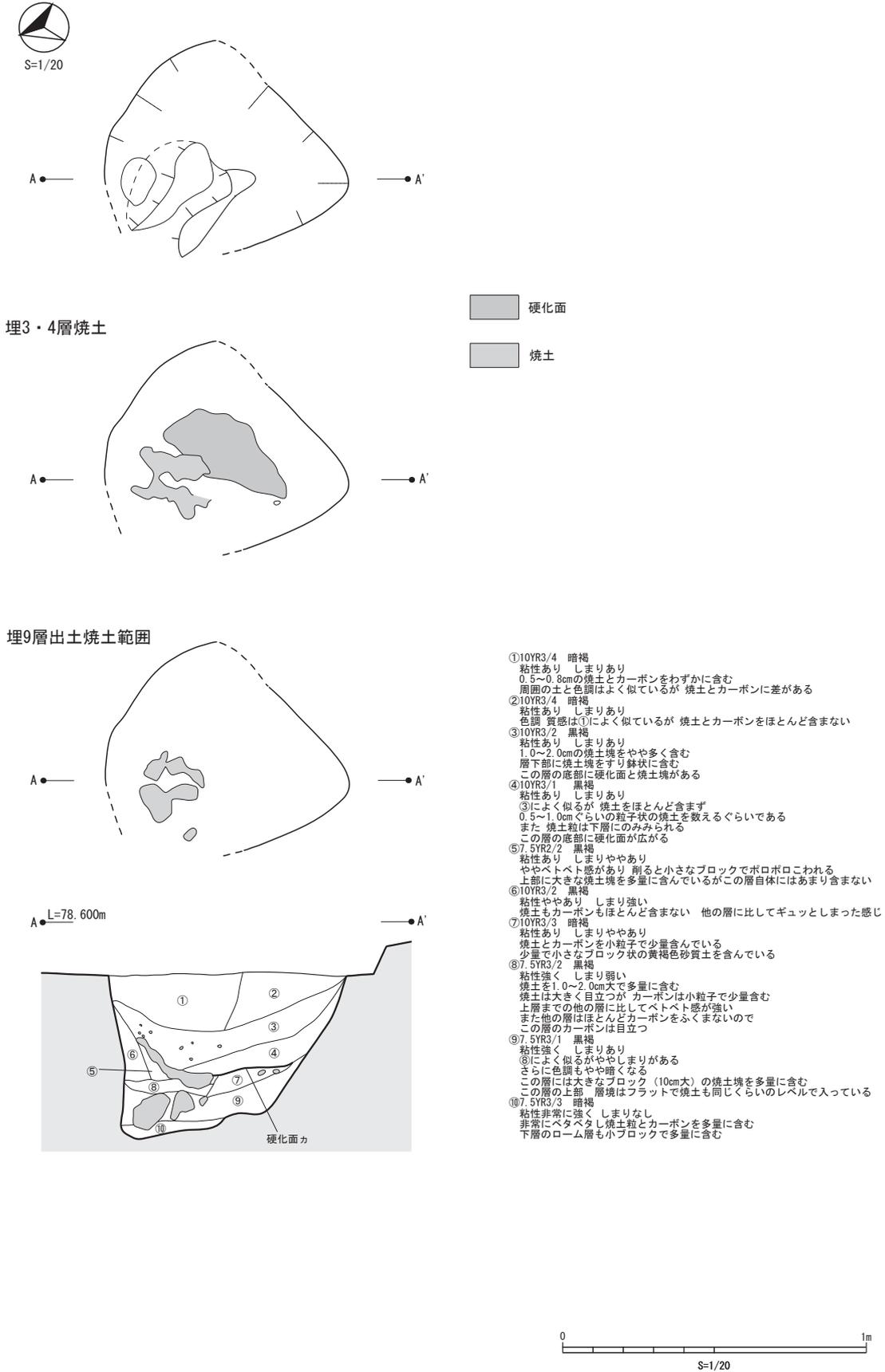
第 166 図 五丁中原遺跡 III区 SD-01実測図



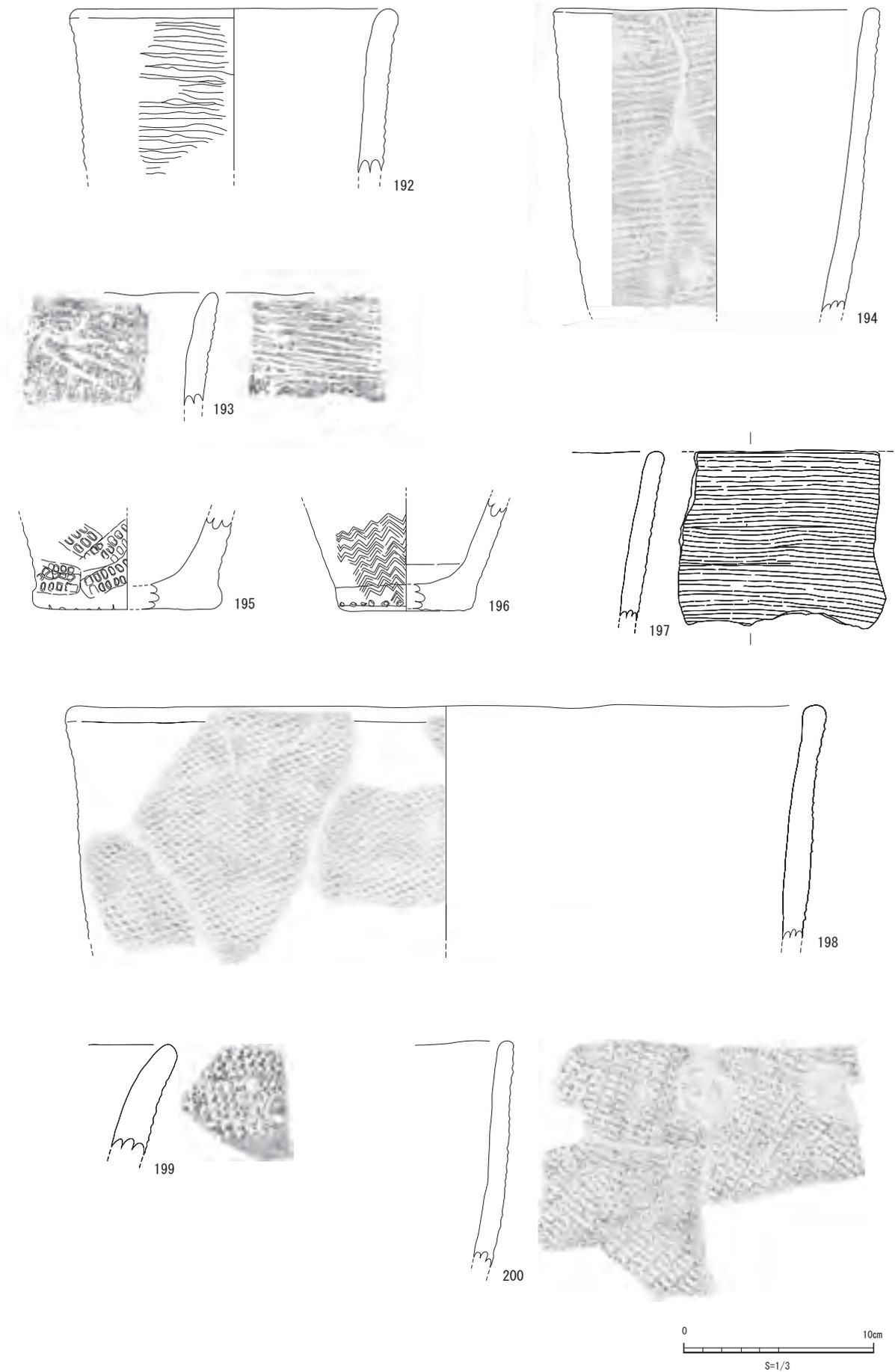
第 167 図 五丁中原遺跡 III区 ST-38~45実測図



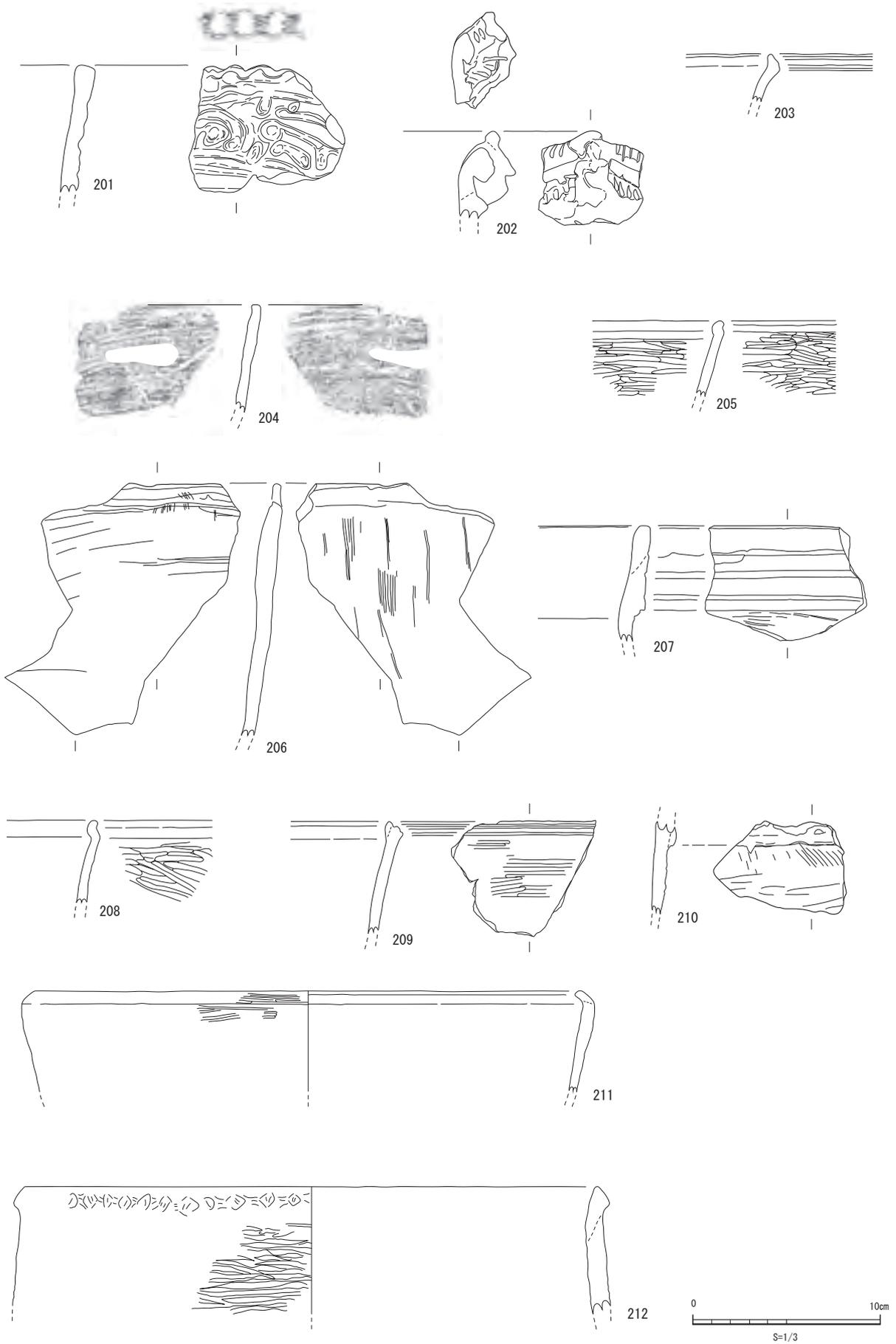
第 168 図 五丁中原遺跡 III区 ST-46~51実測図



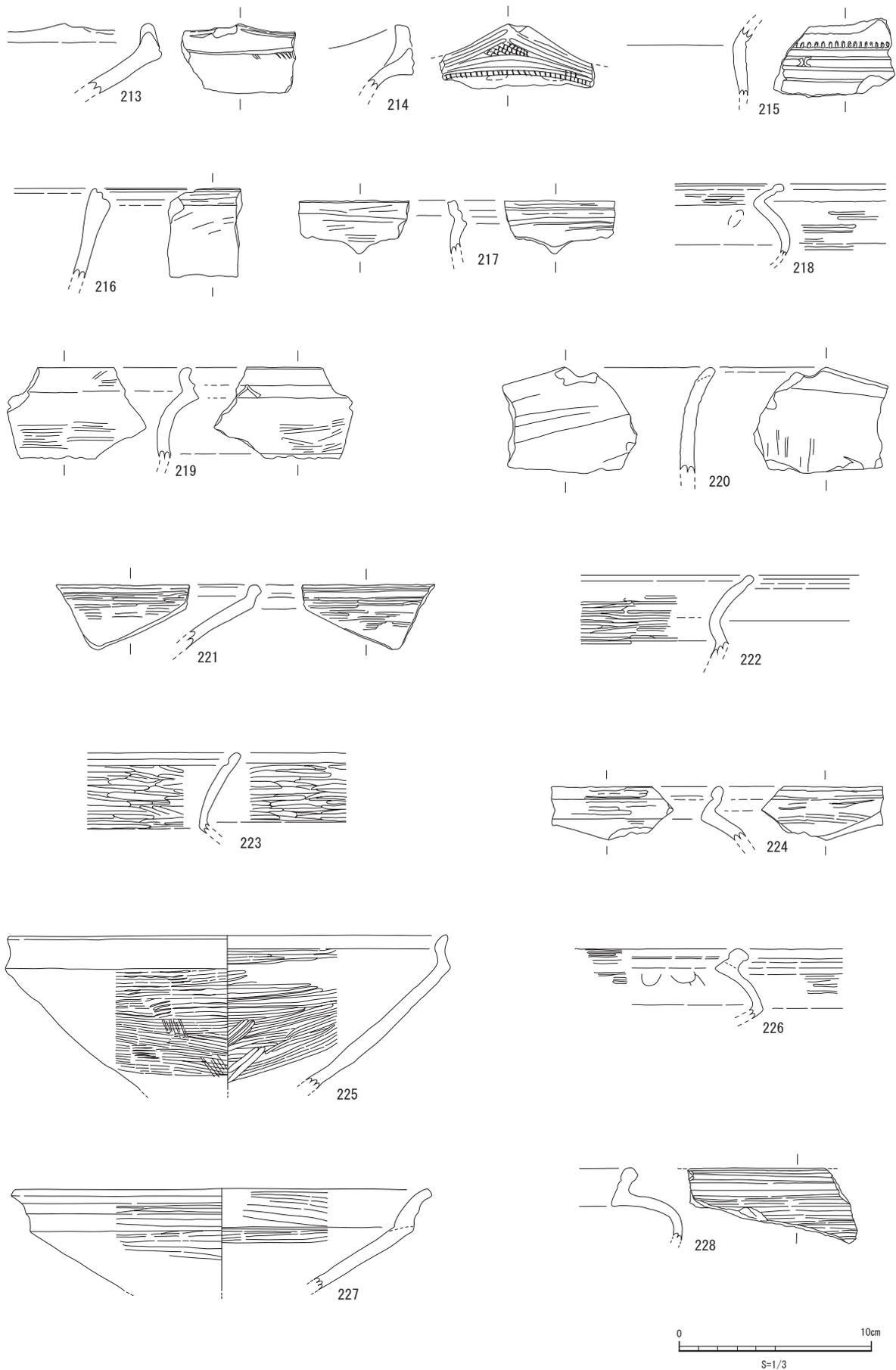
第 169 図 五丁中原遺跡 III区 ST-66実測図



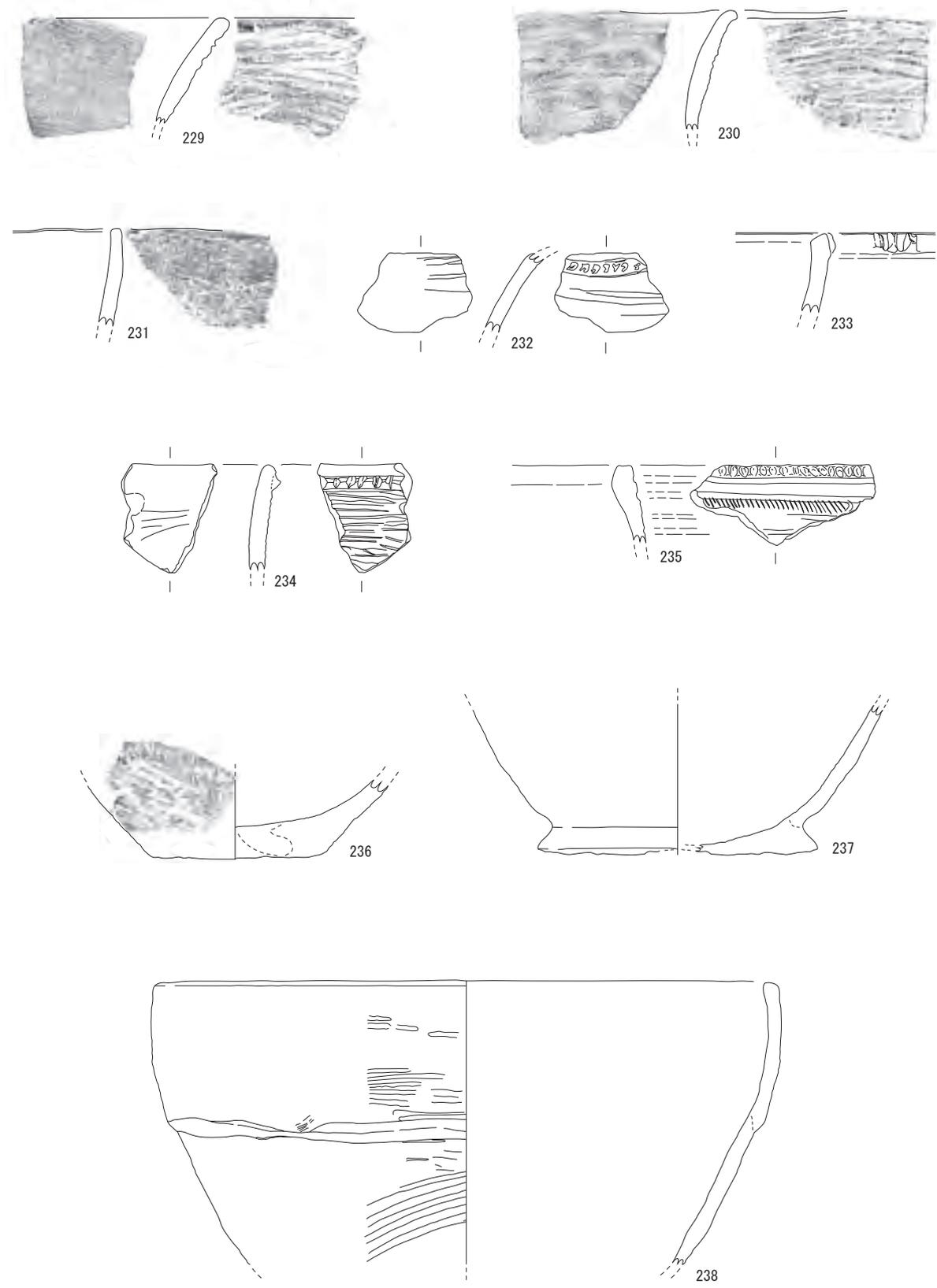
第 170 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 7



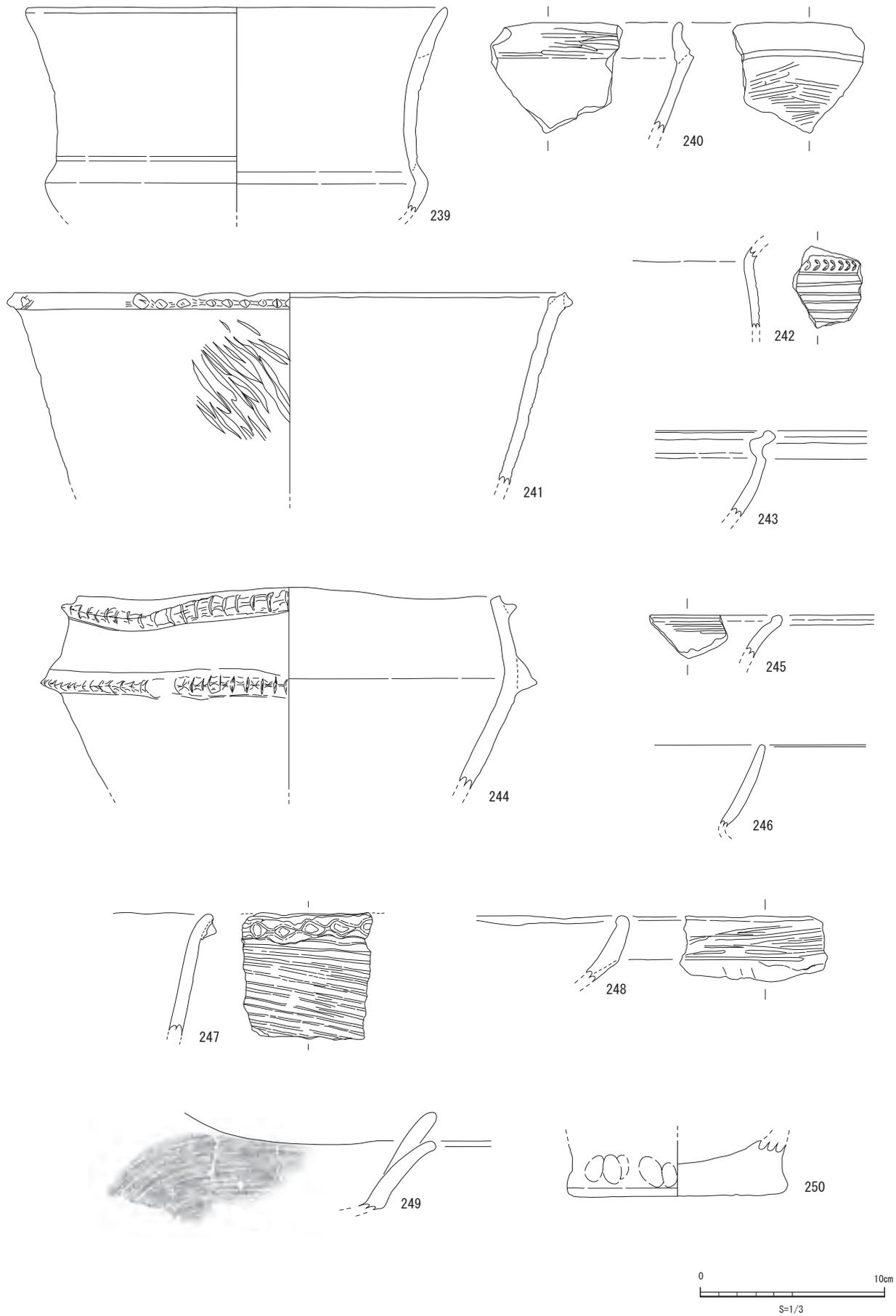
第 171 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 8



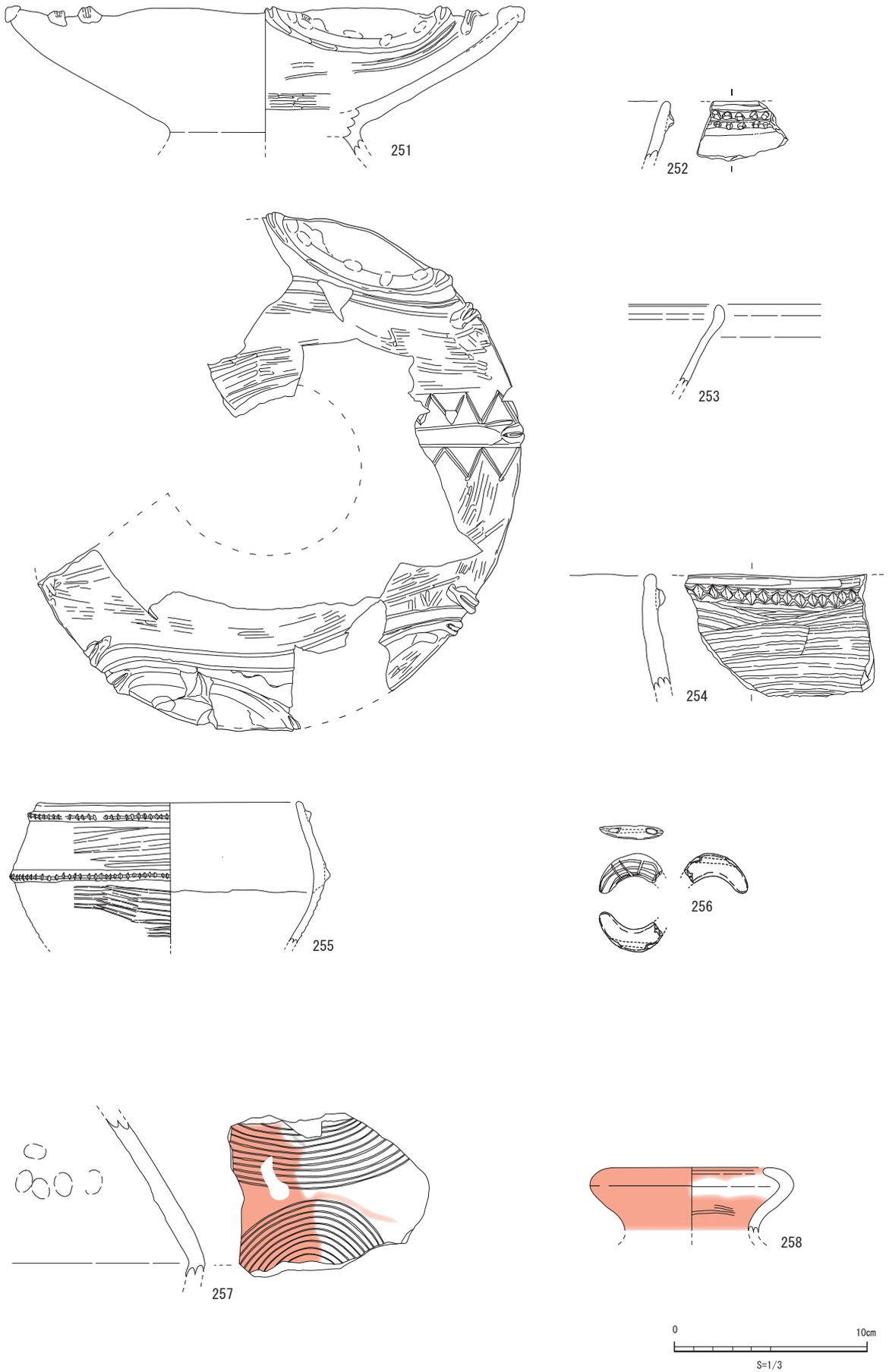
第 172 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 9



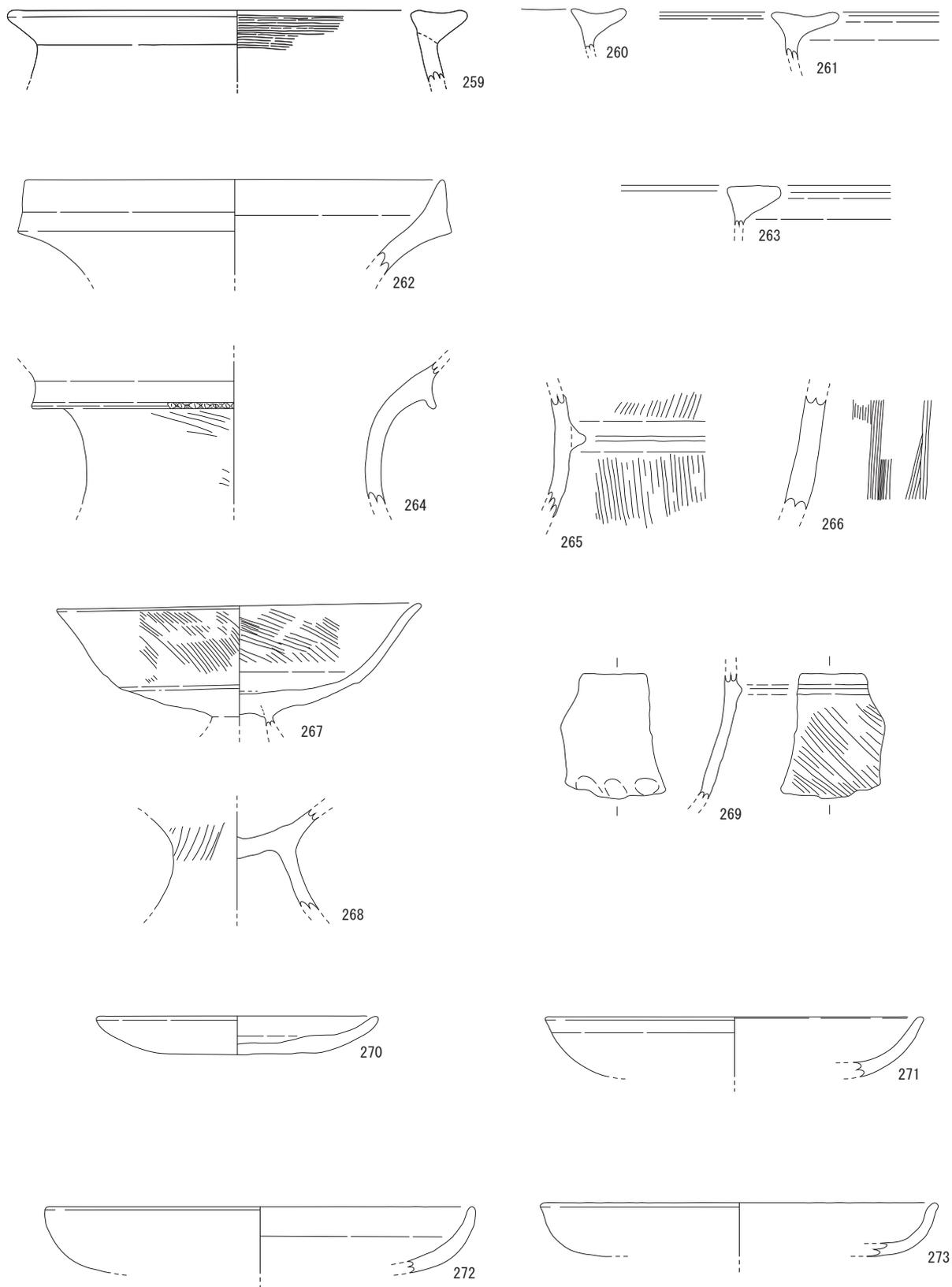
第 173 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 10



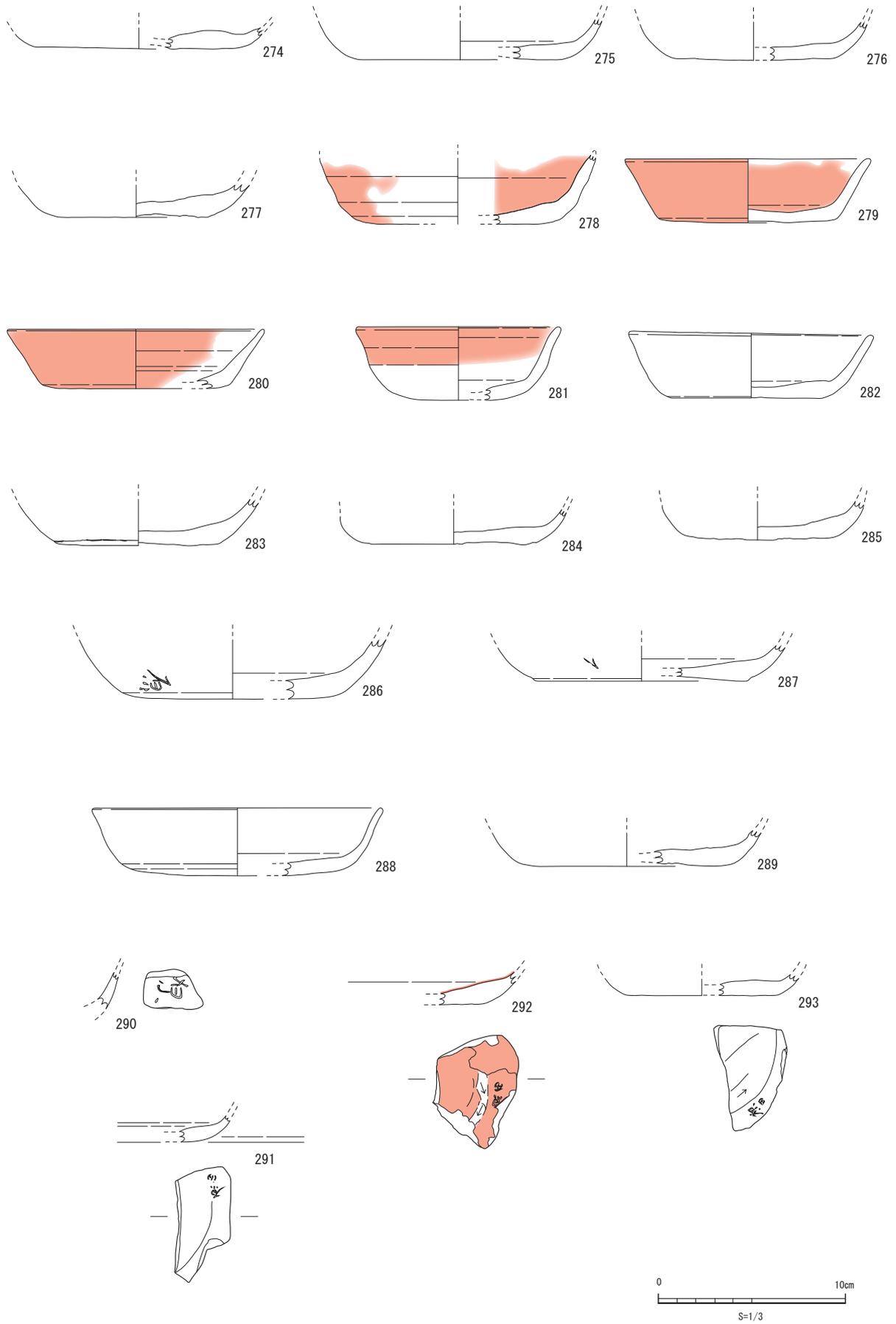
第 174 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 11



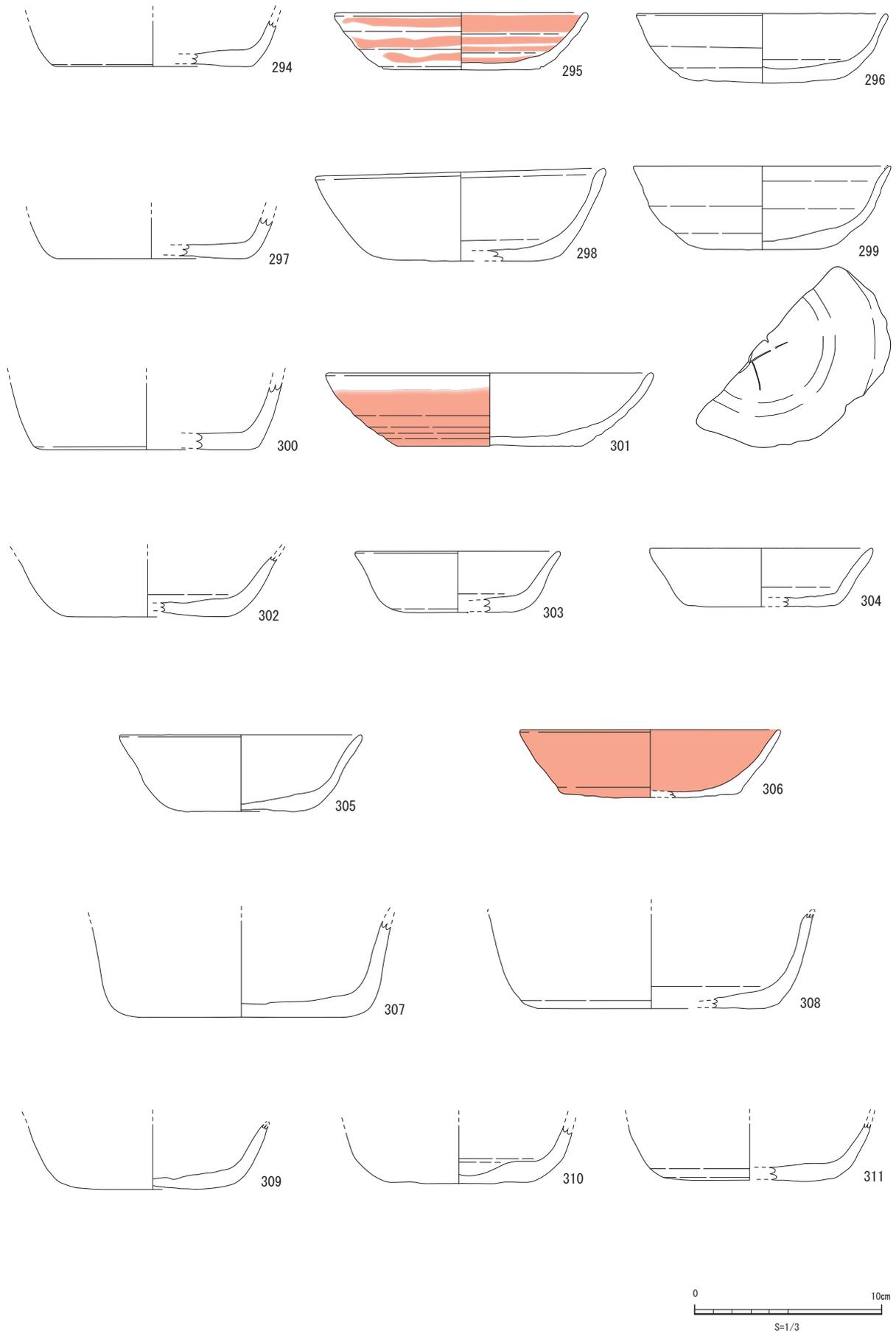
第 175 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 12



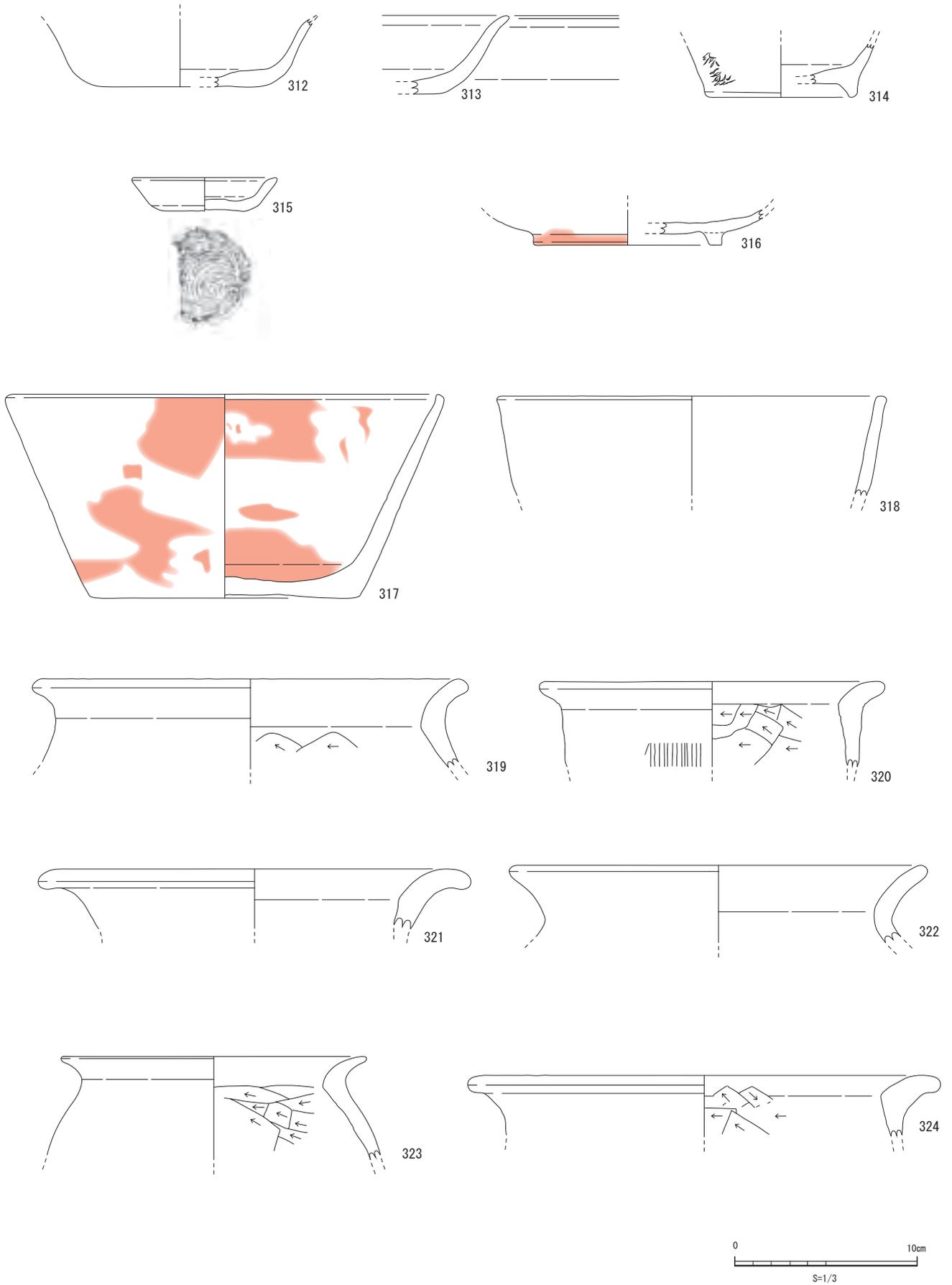
第 176 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 13



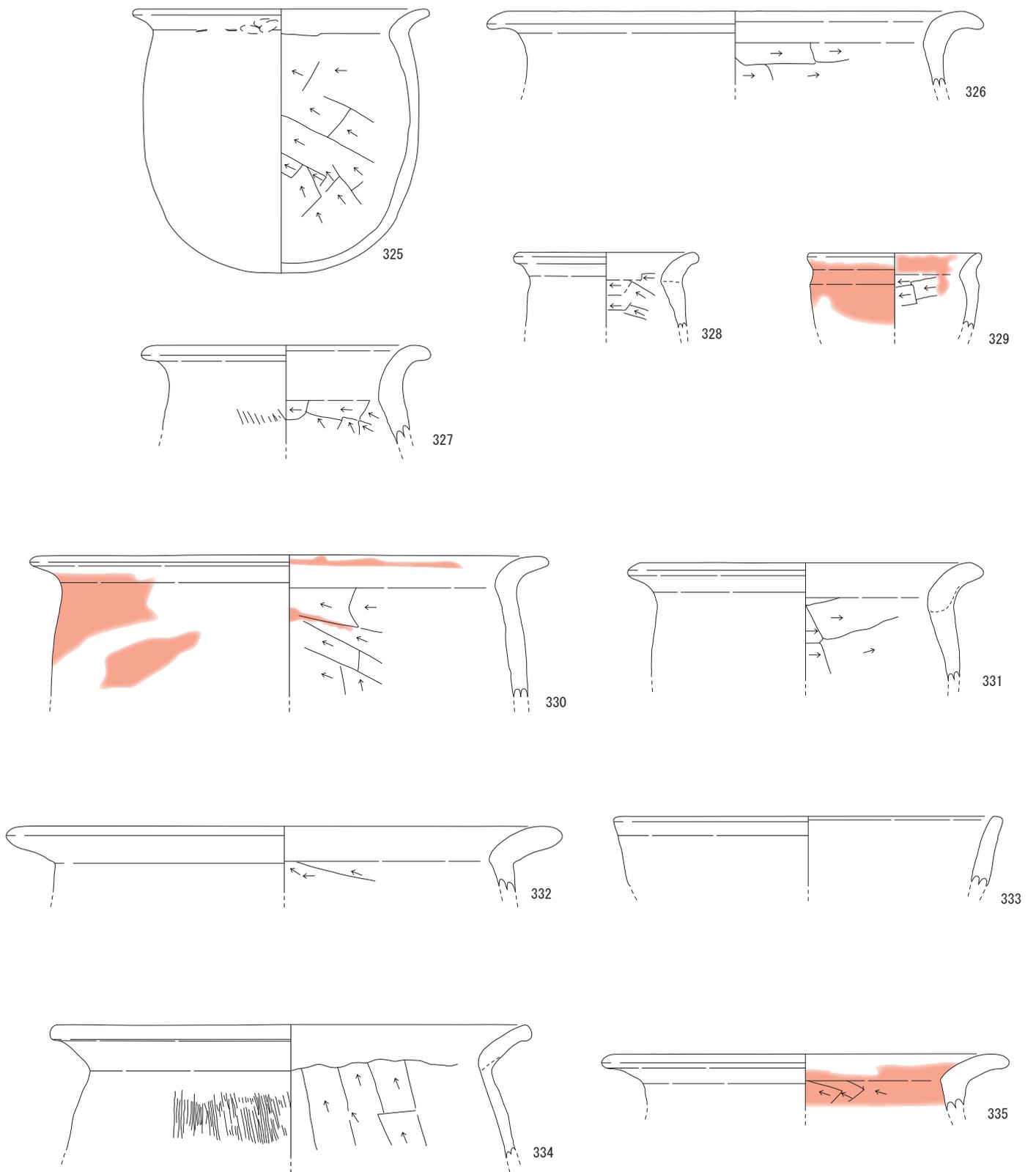
第 177 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 14



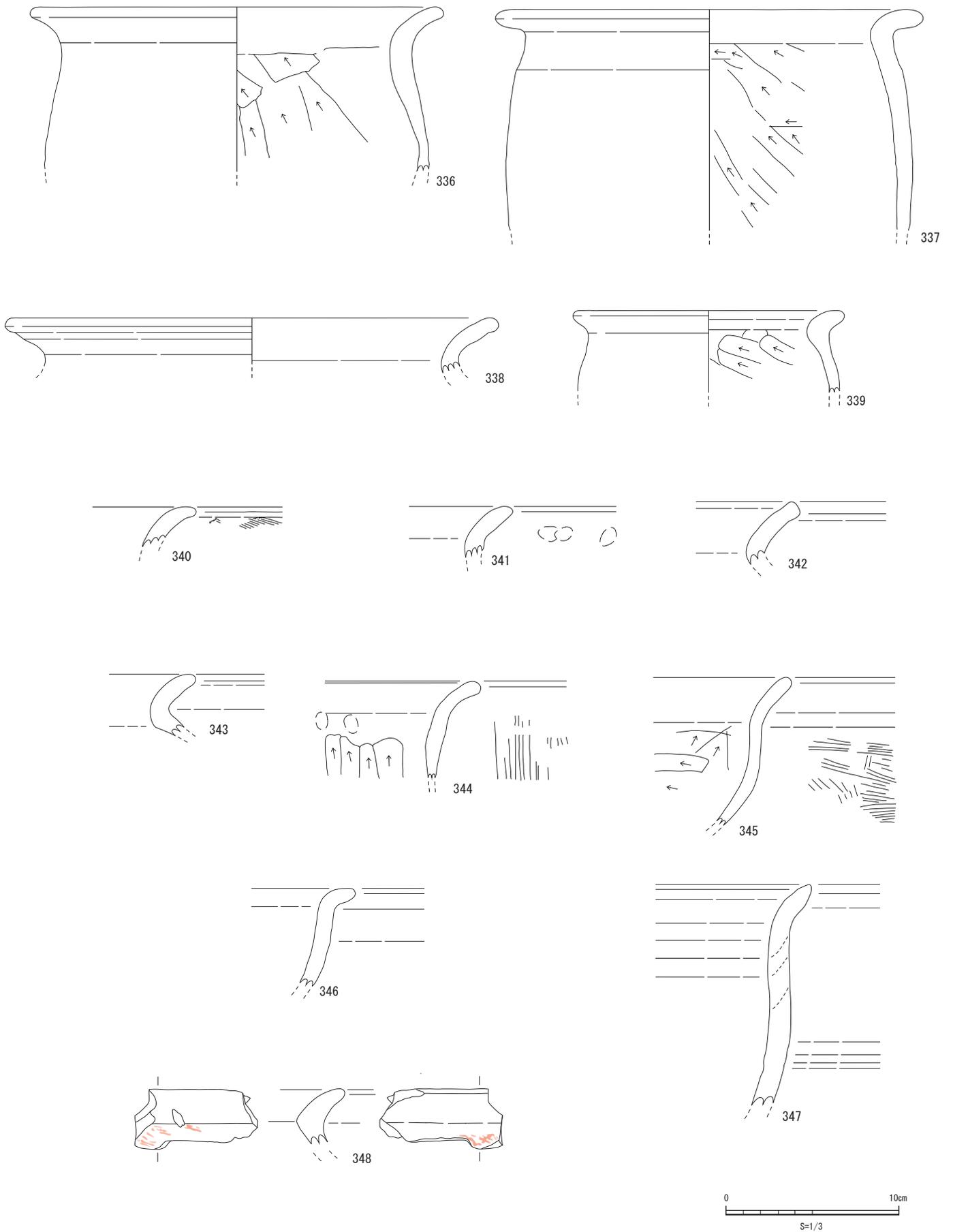
第 178 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 15



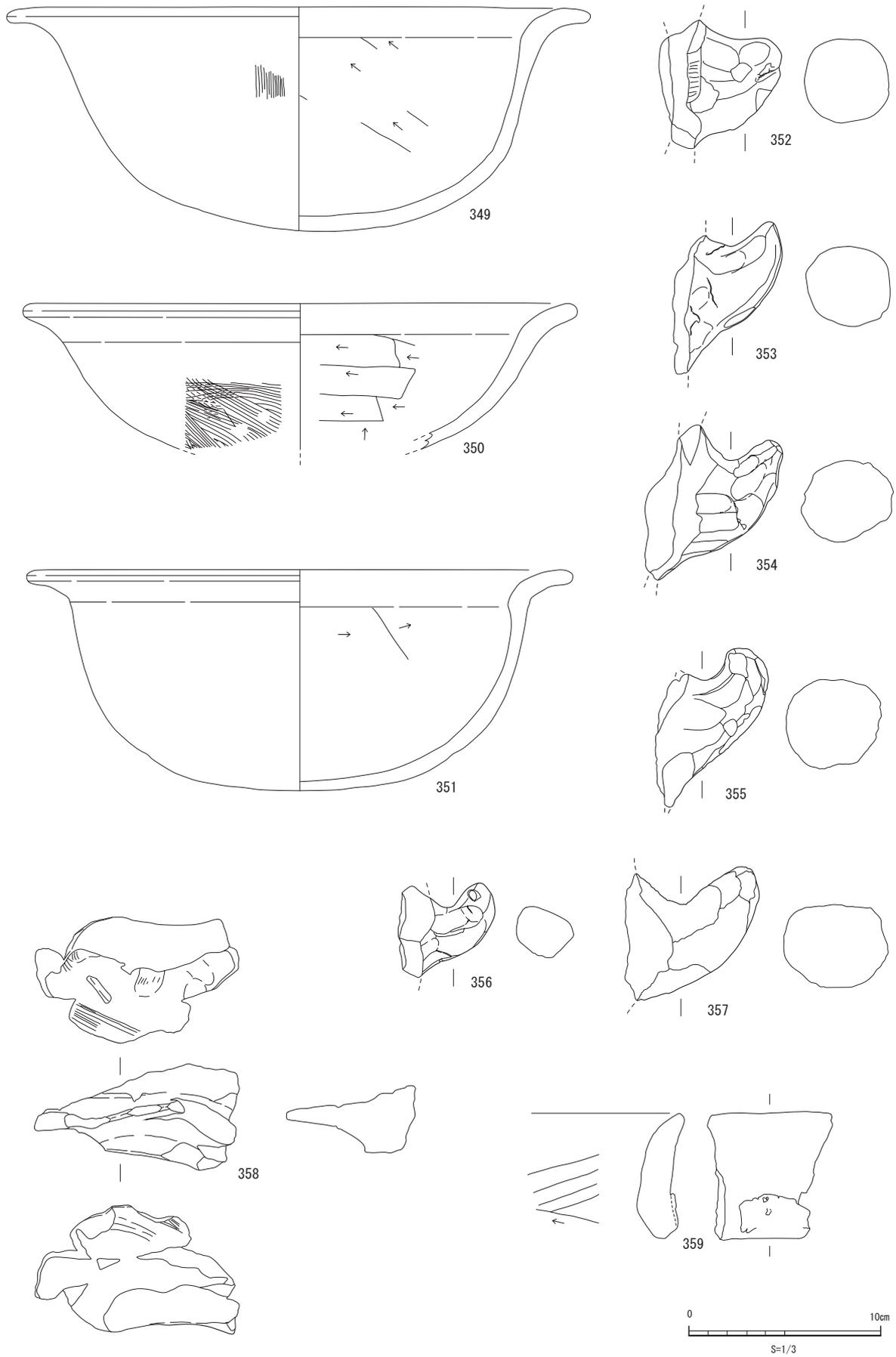
第 179 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 16



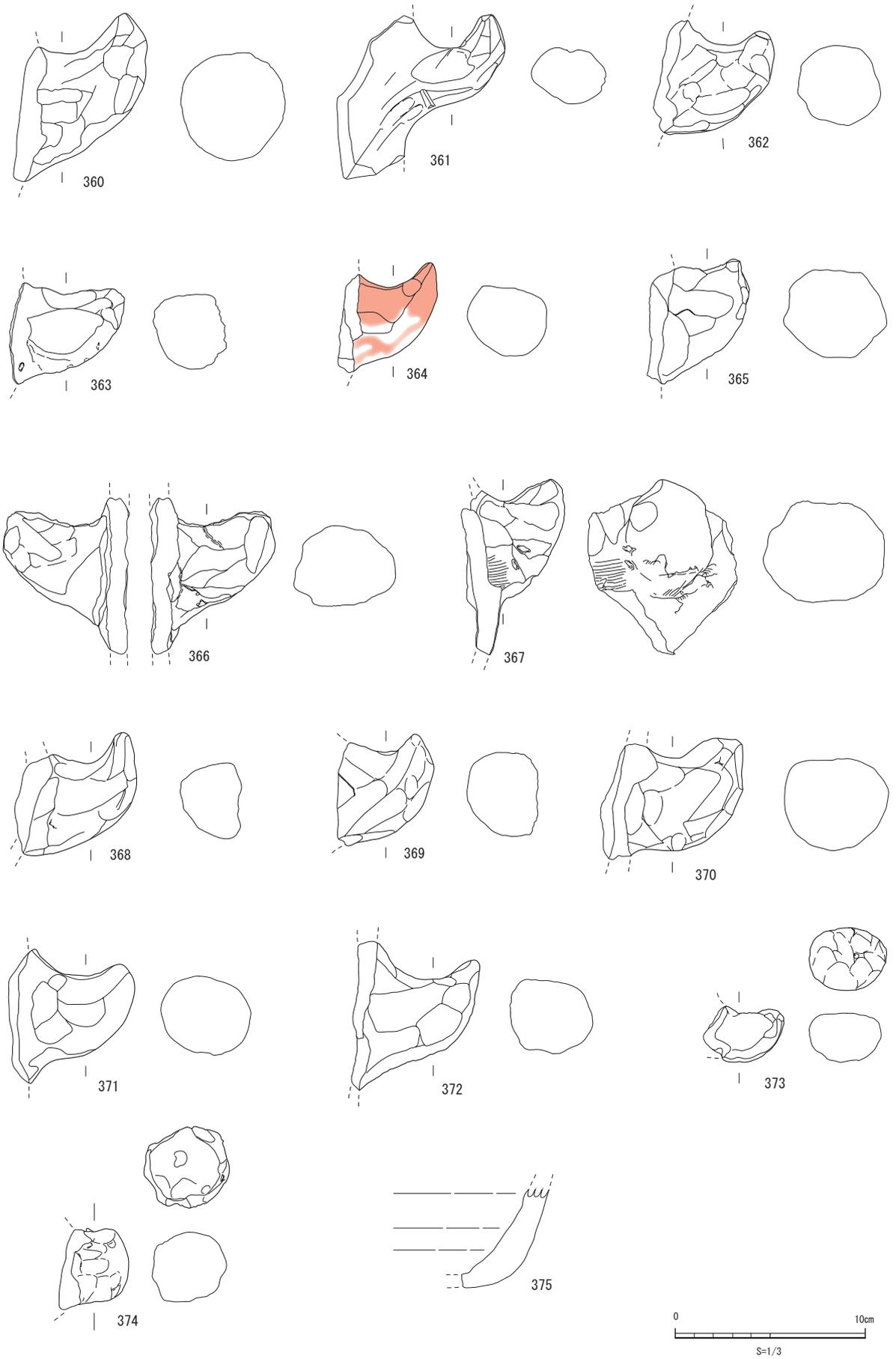
第 180 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 17



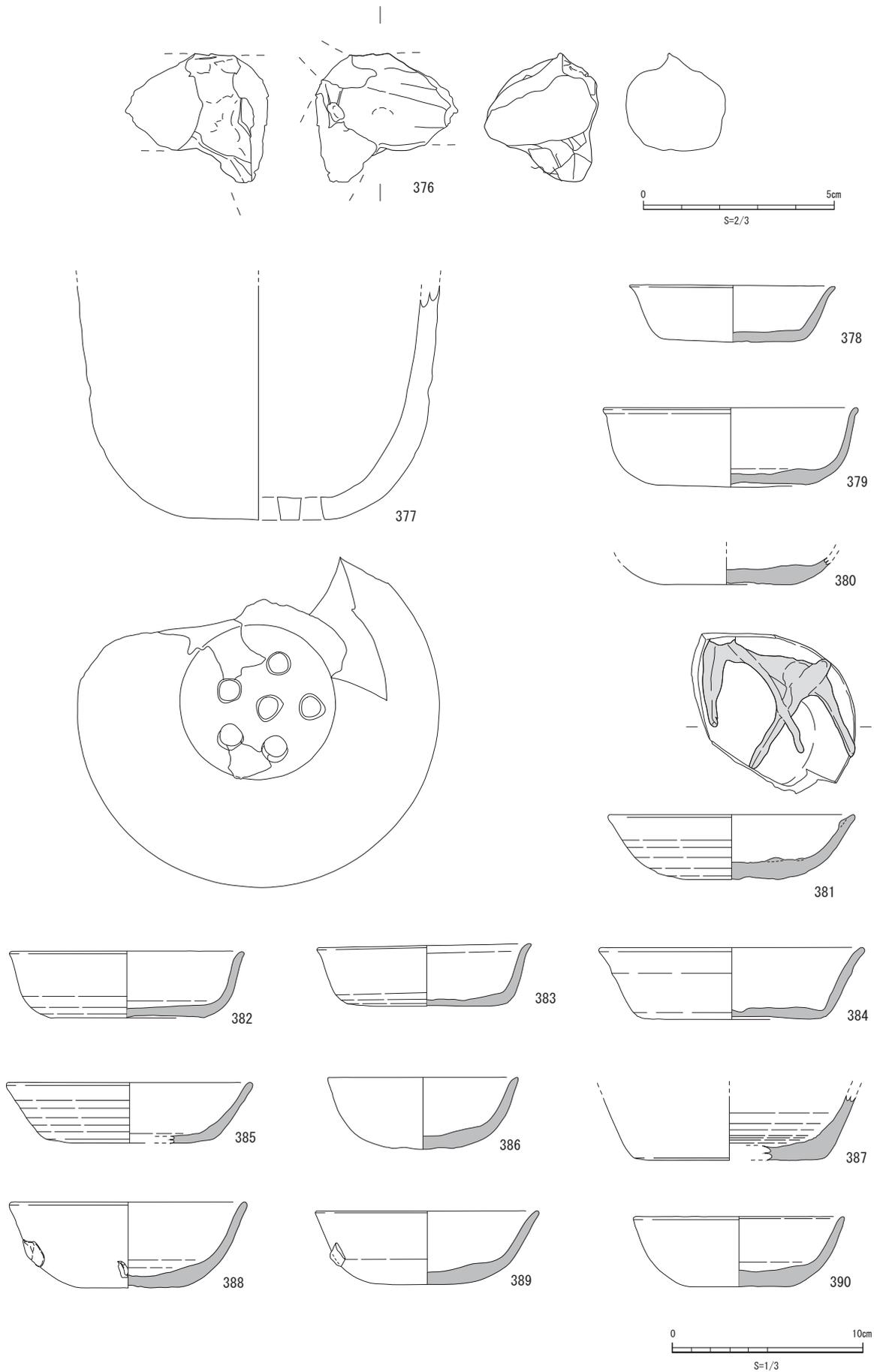
第 181 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 18



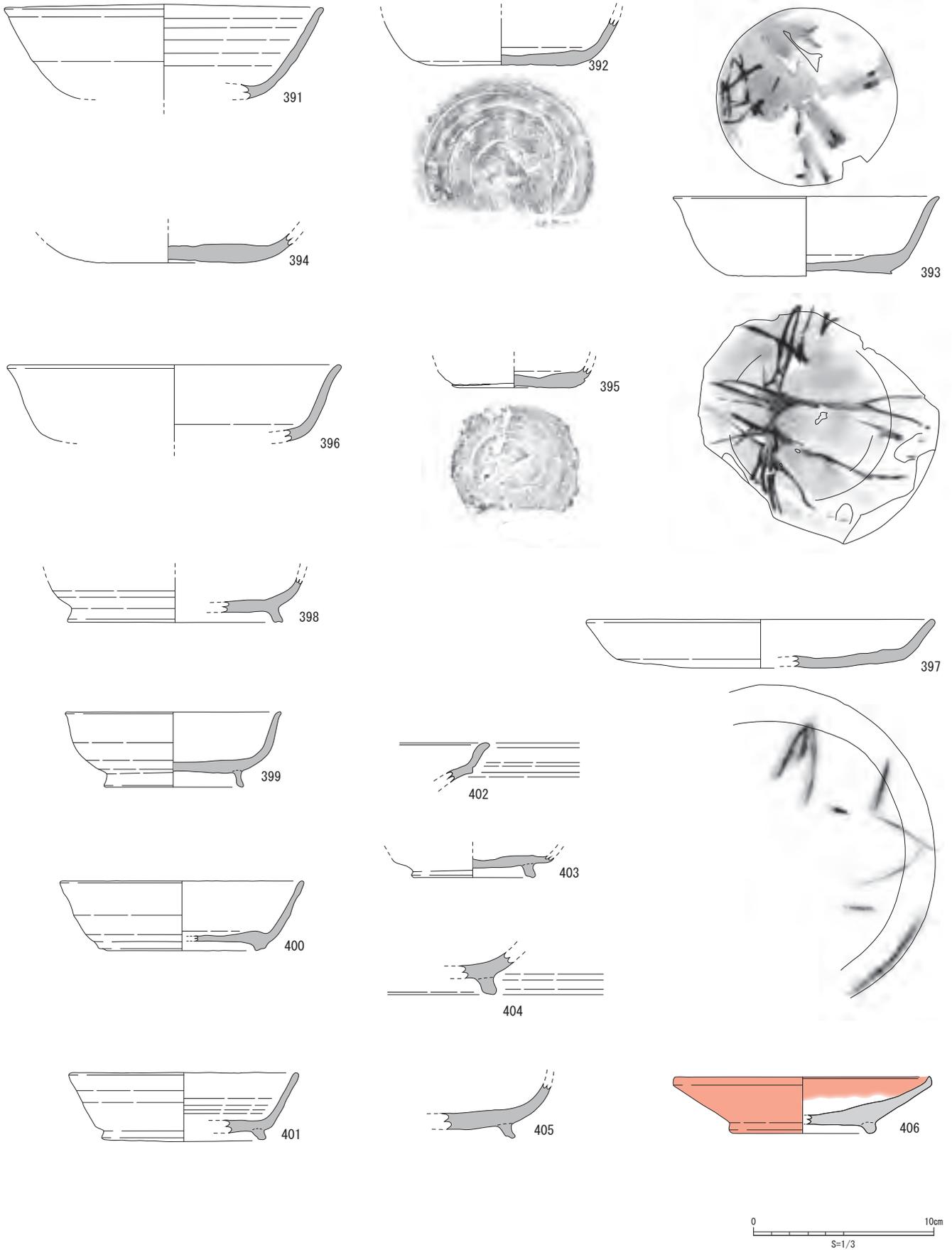
第 182 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 19



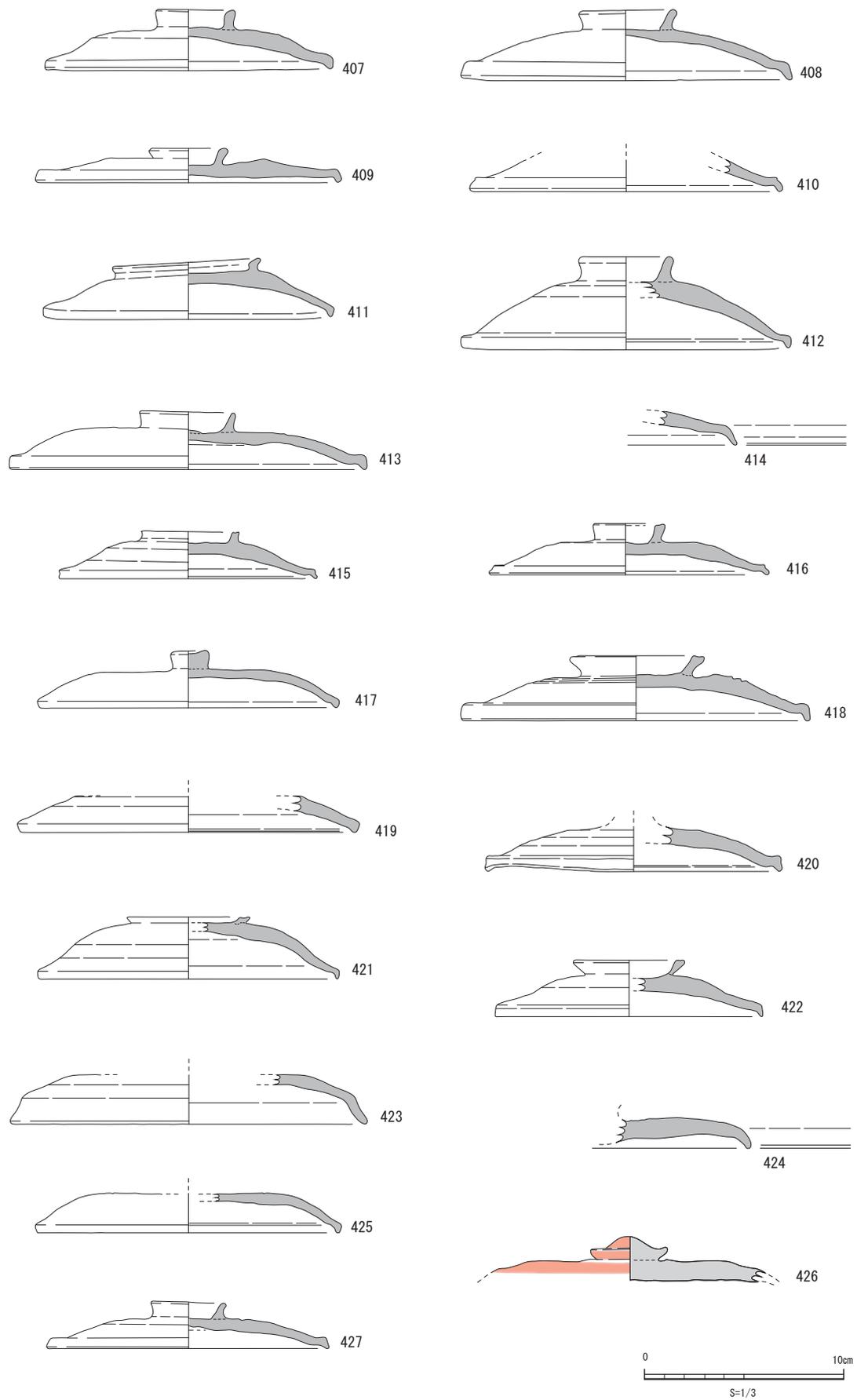
第 183 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 20



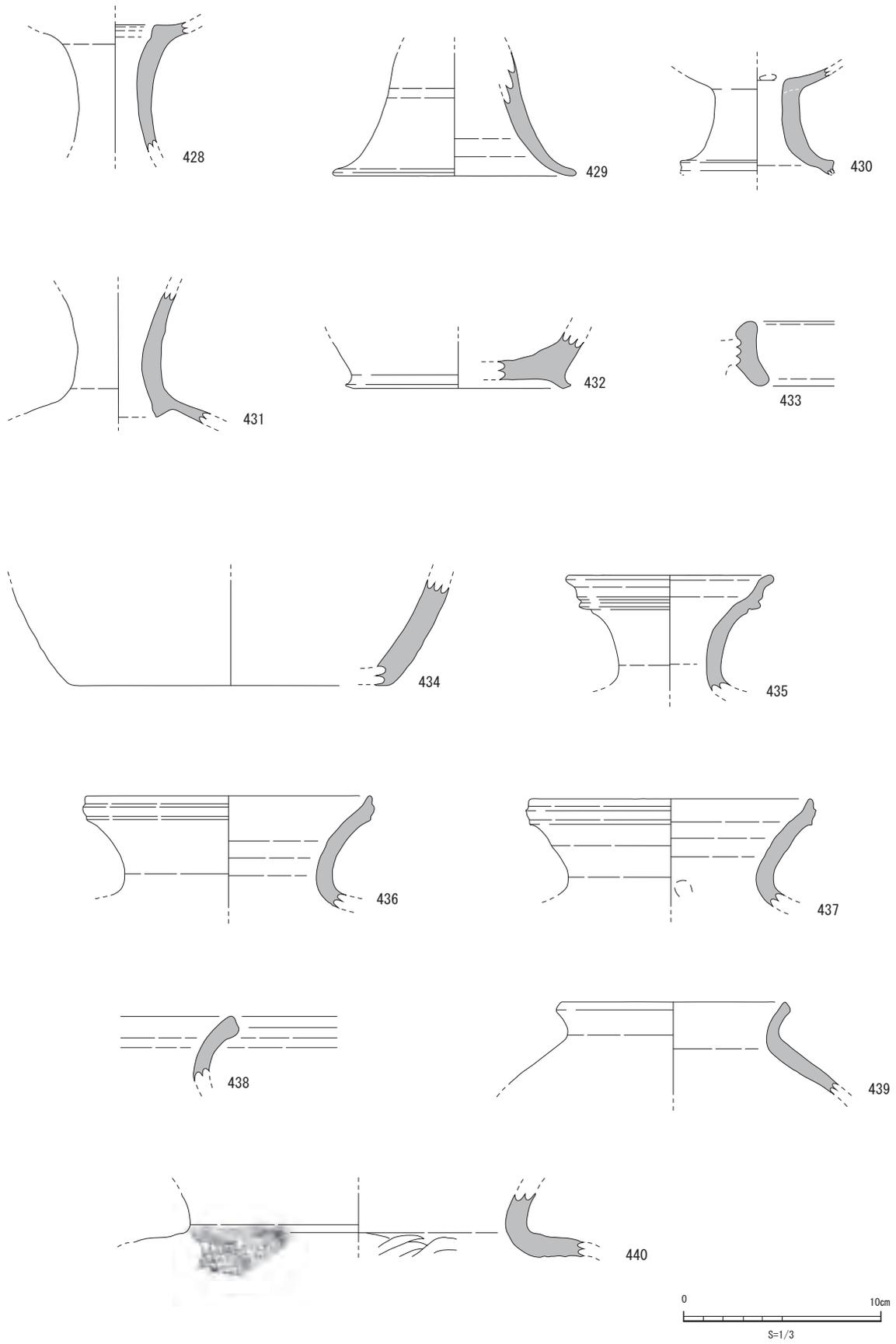
第 184 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 21



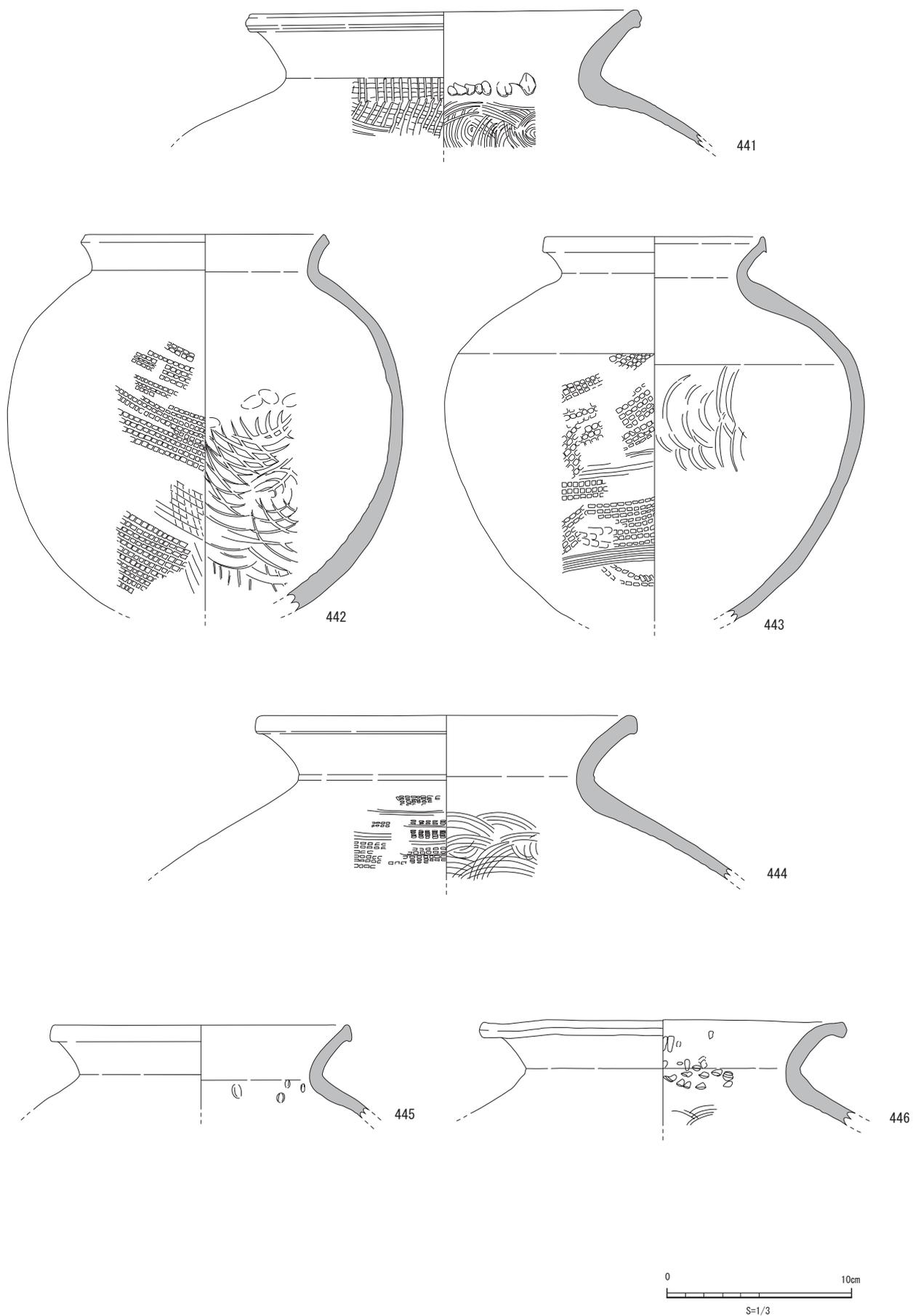
第 185 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 22



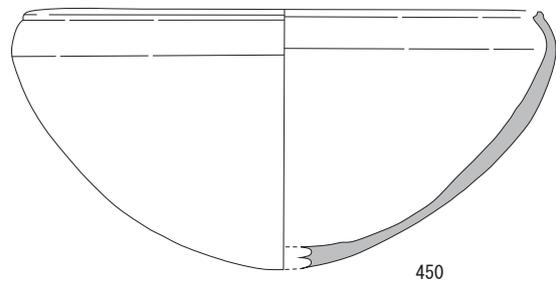
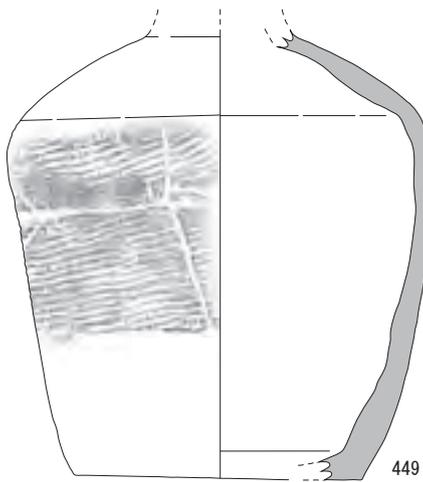
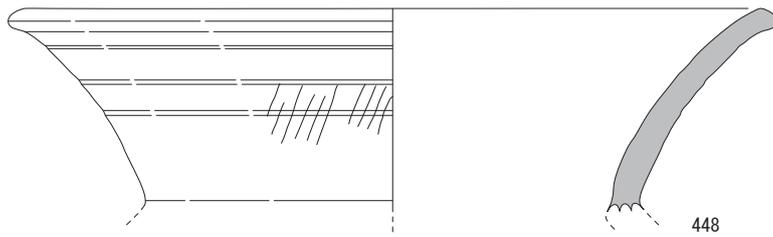
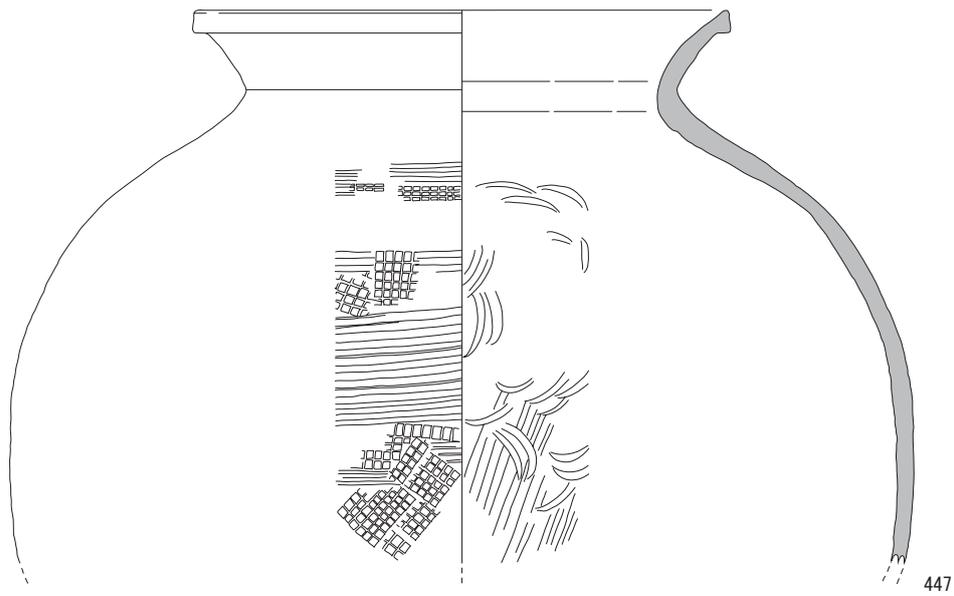
第 186 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 23



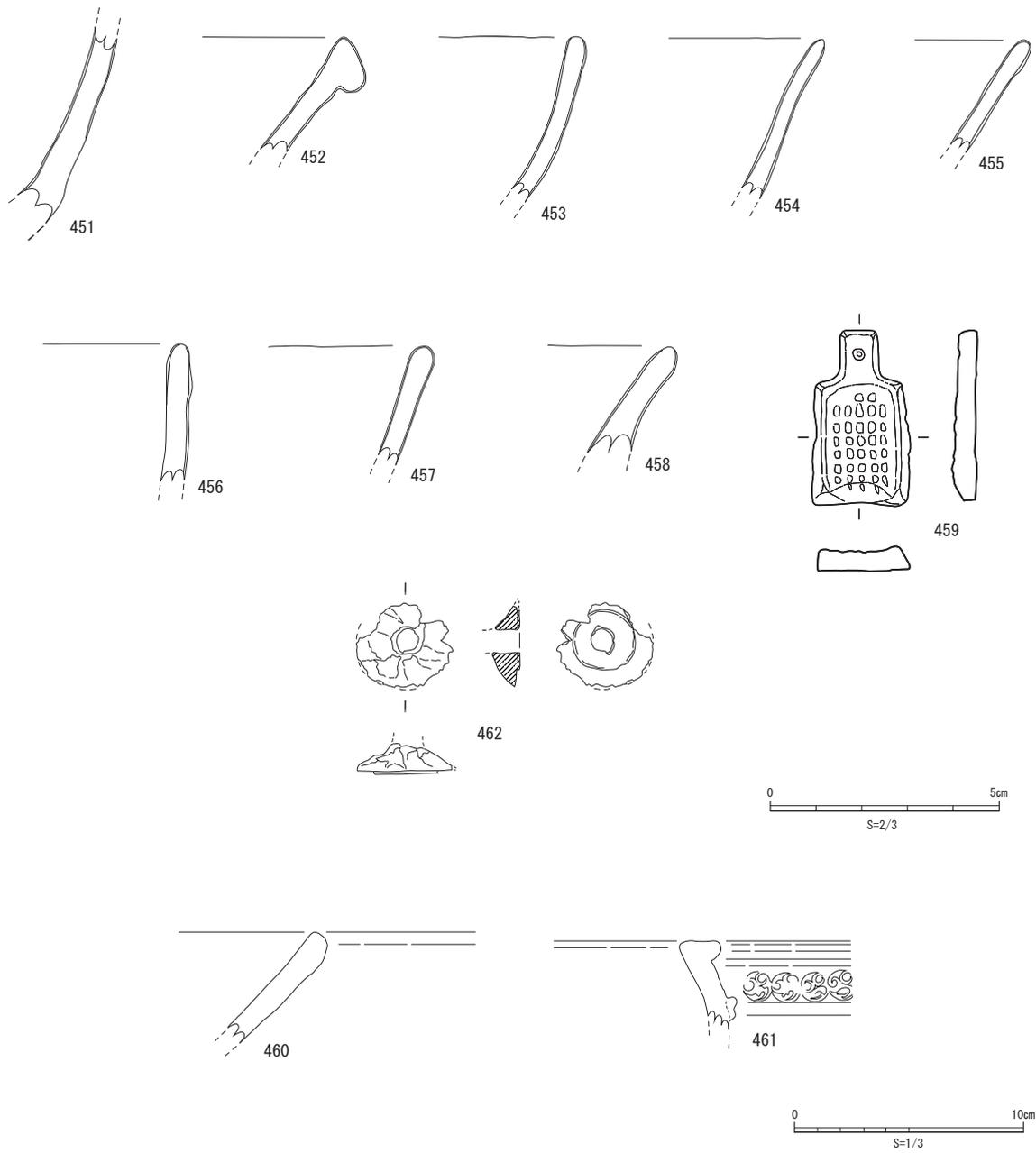
第 187 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 24



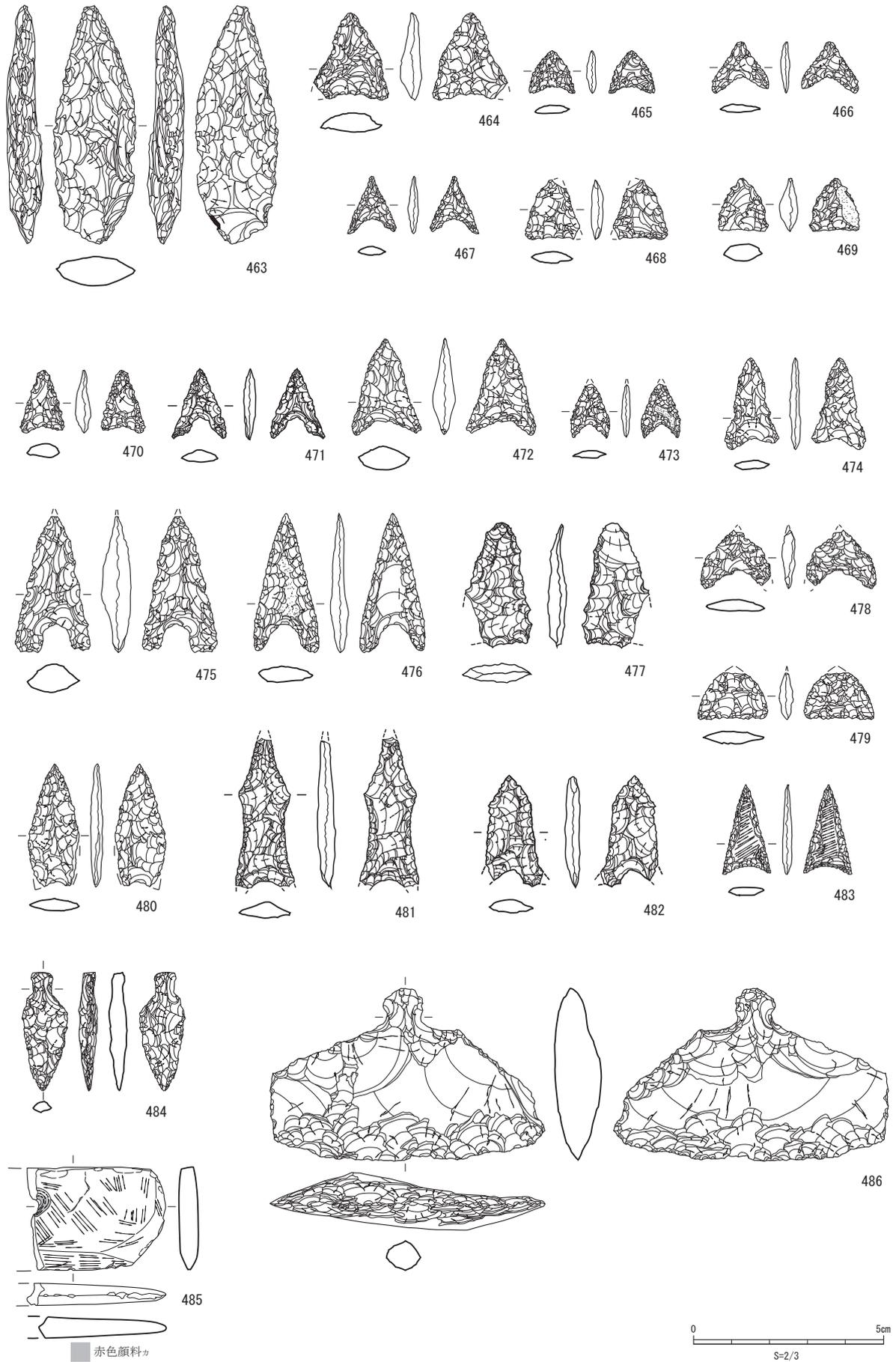
第 188 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 25



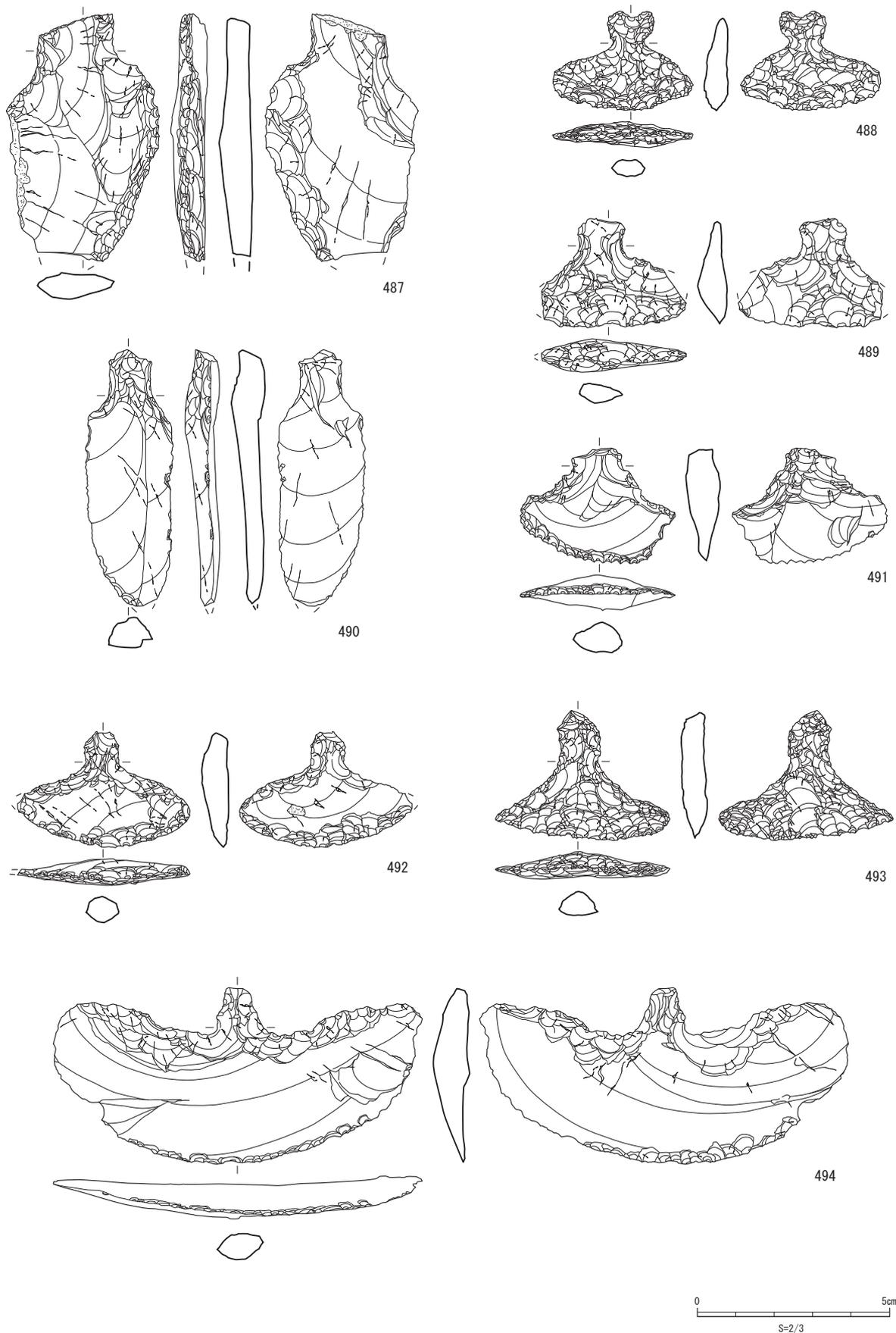
第 189 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 26



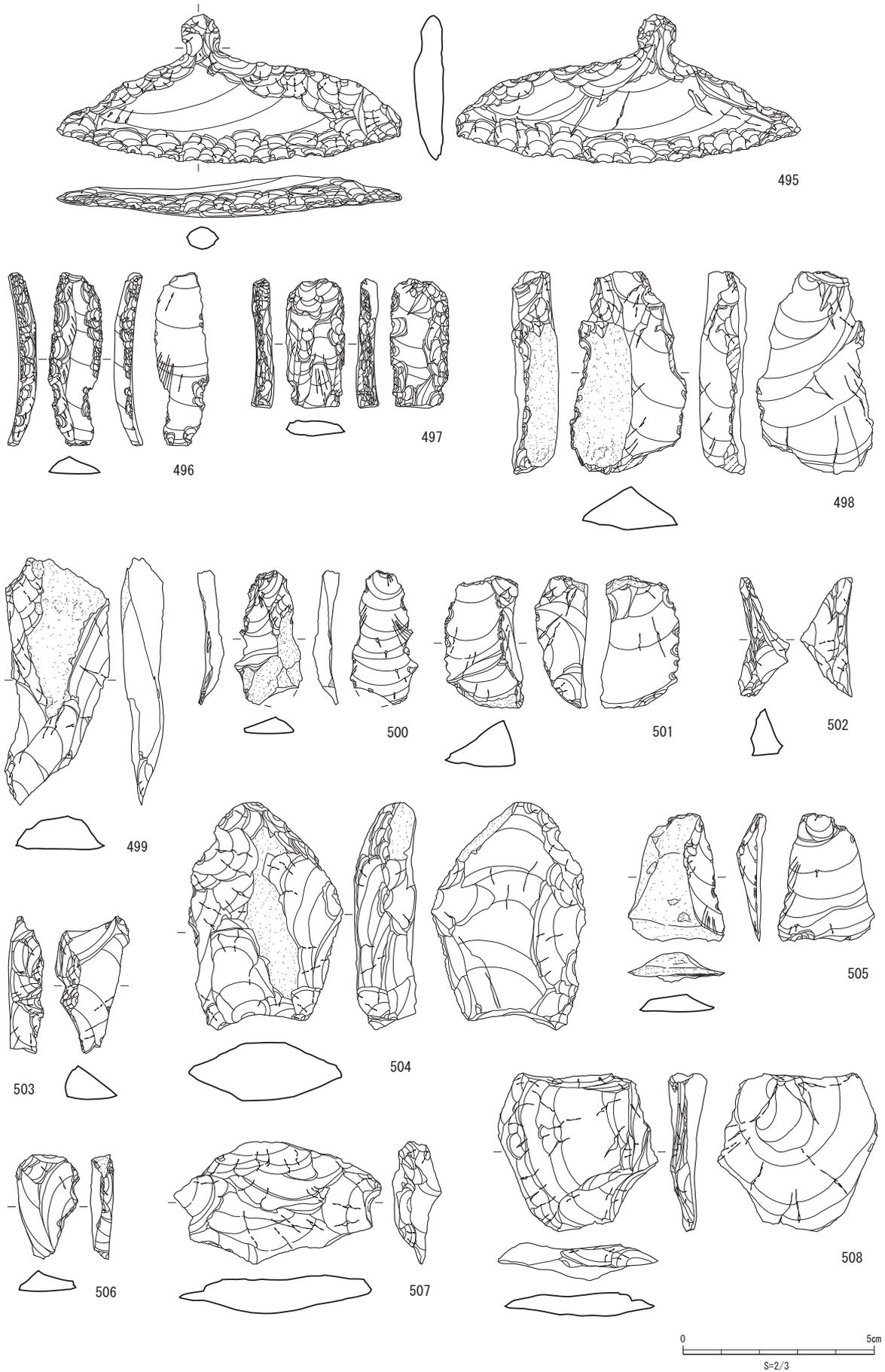
第 190 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 27



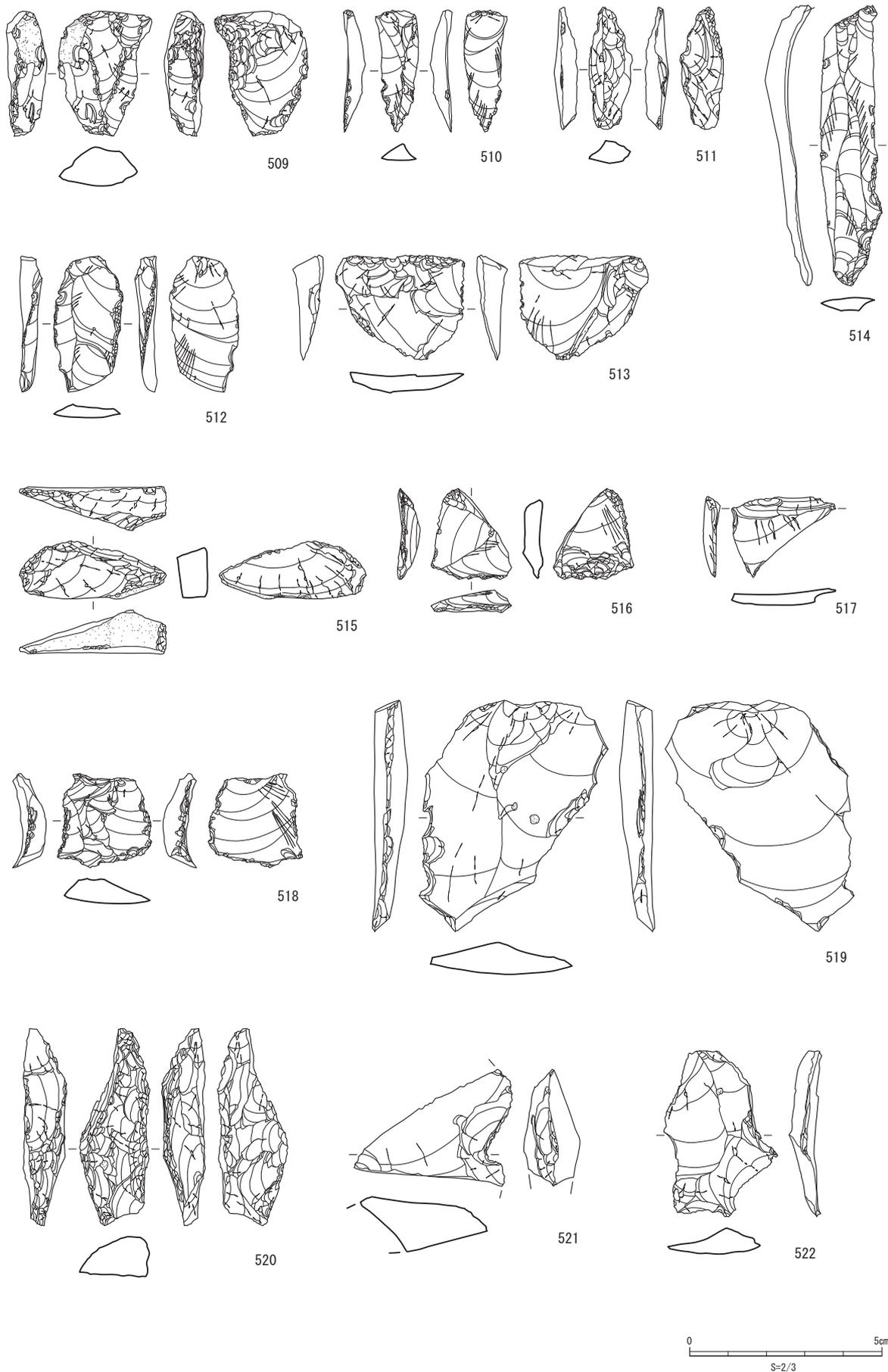
第 191 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 28



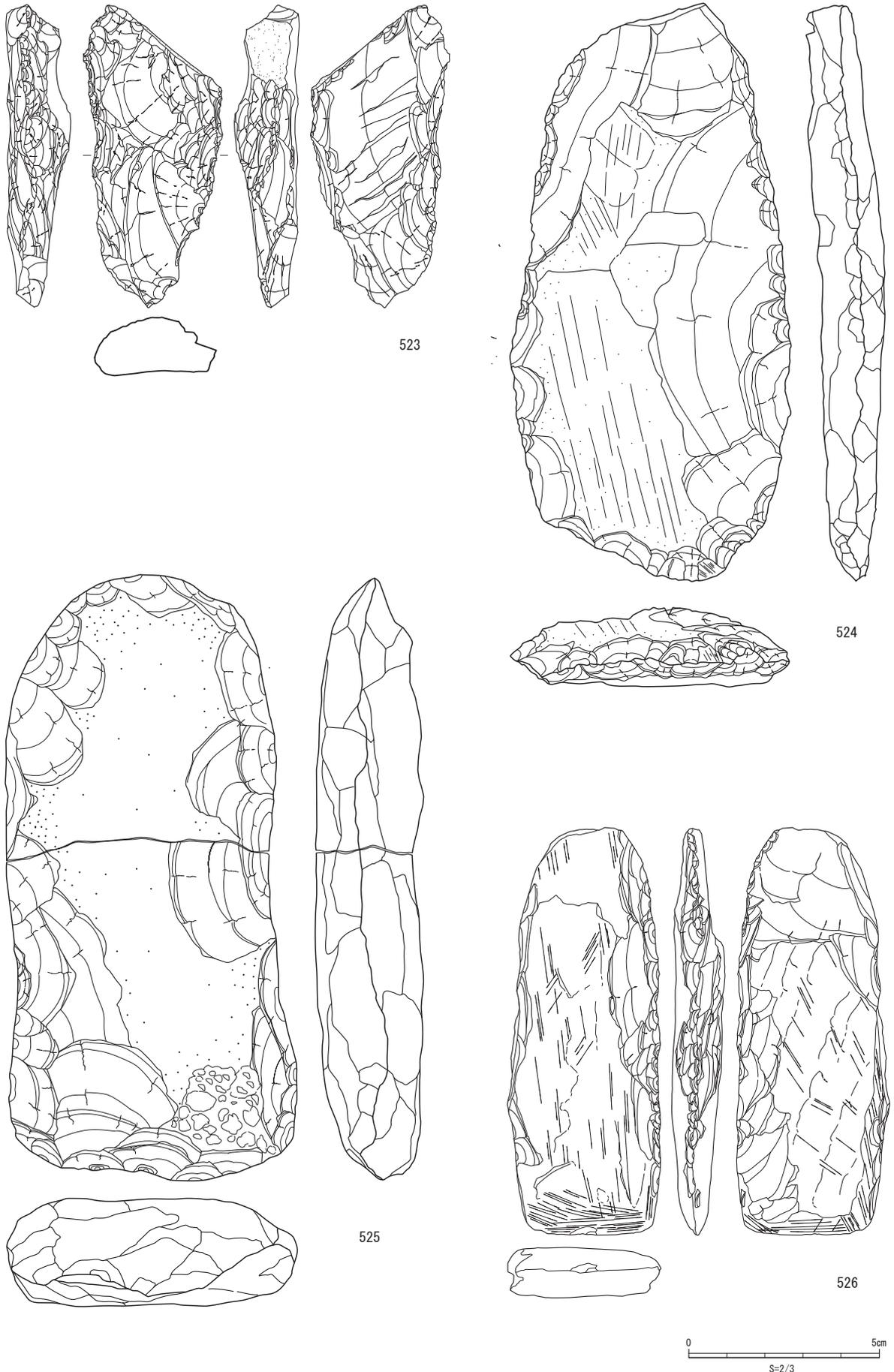
第 192 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 29



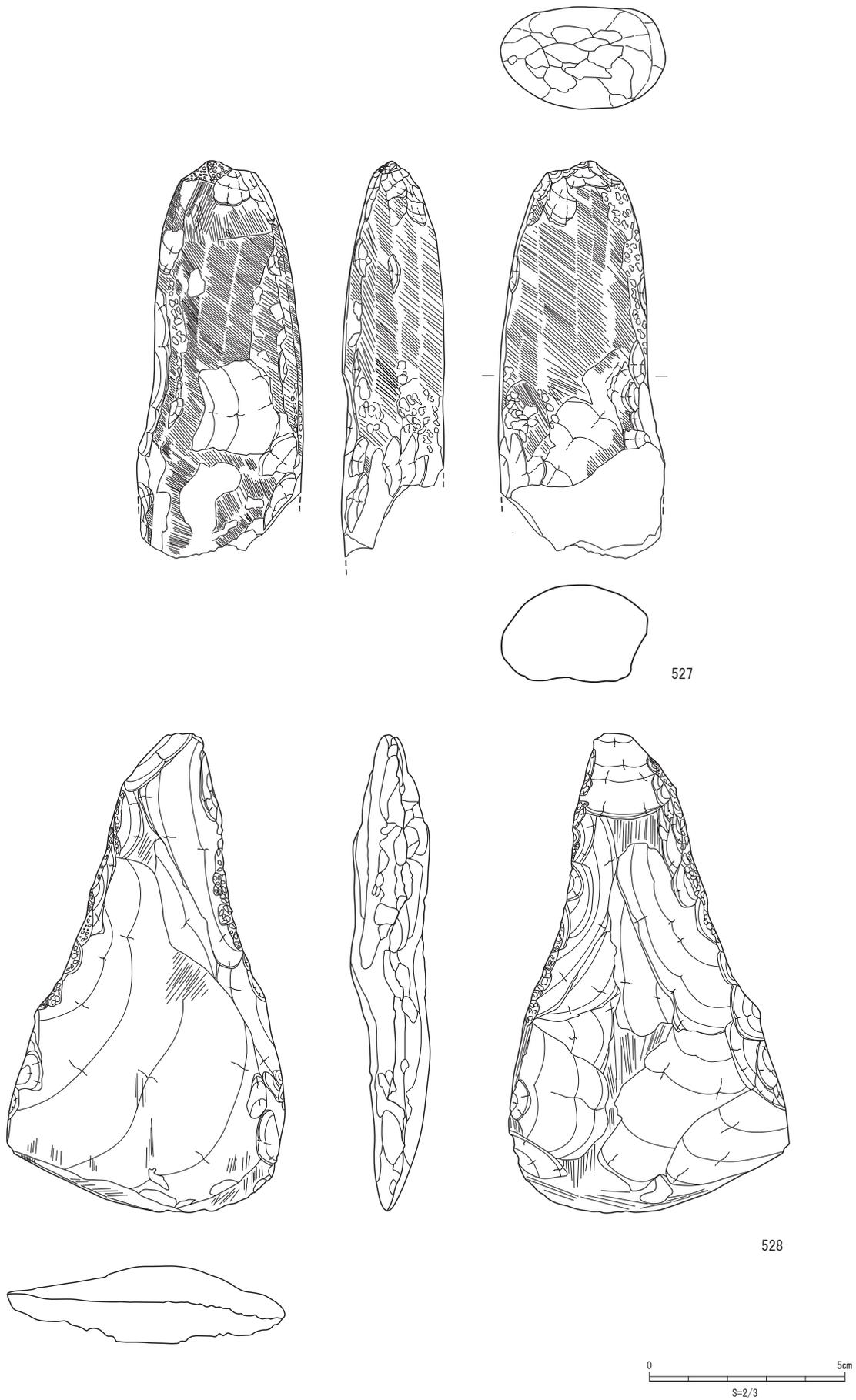
第 193 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 30



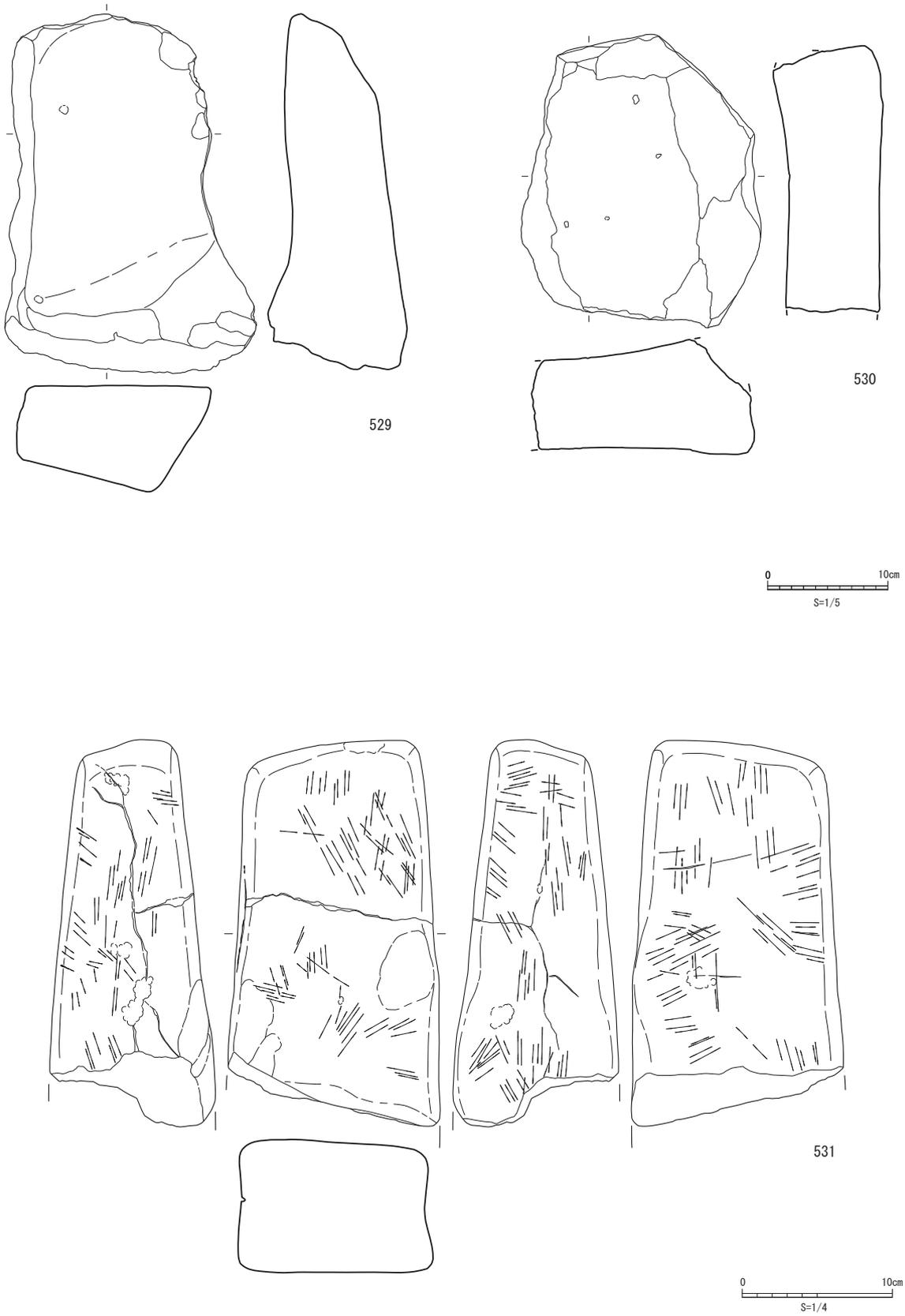
第 194 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 31



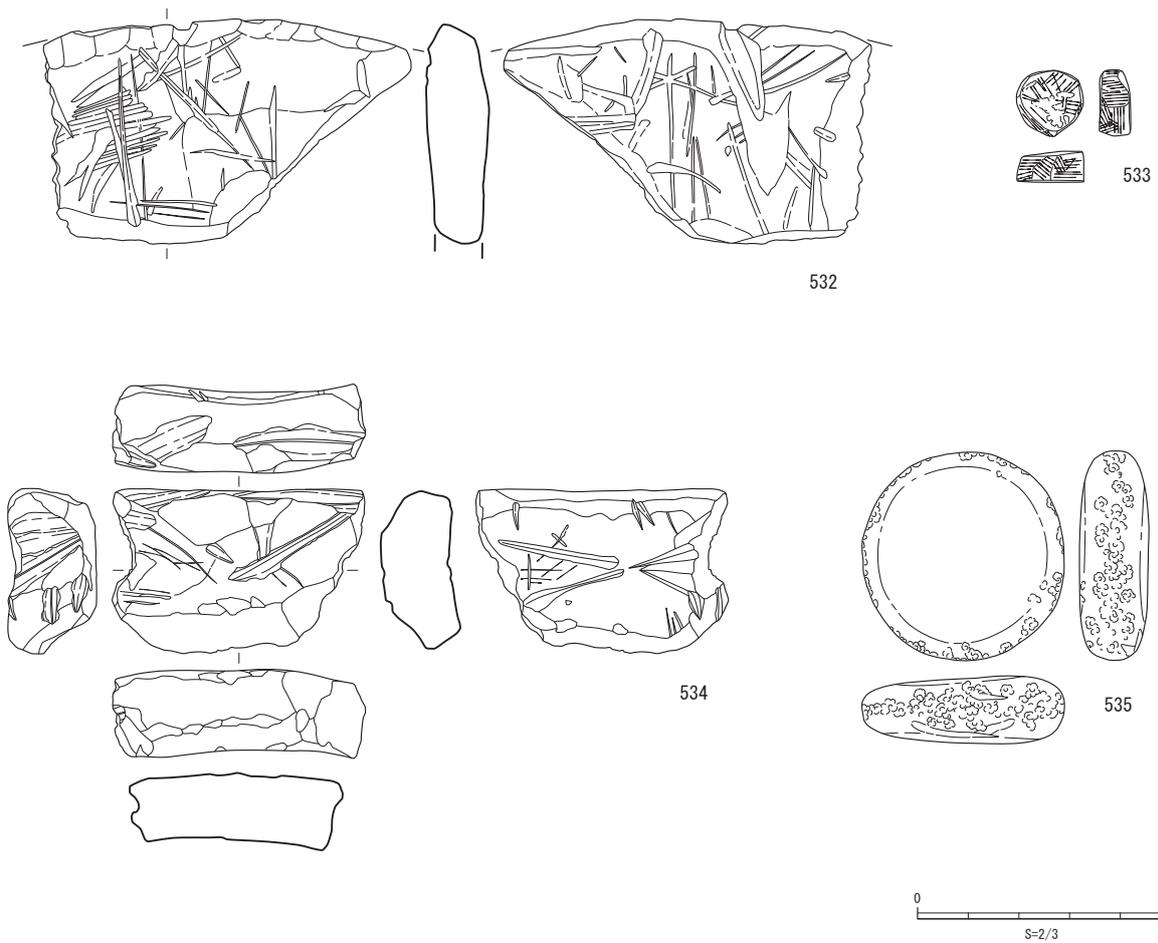
第 195 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 32



第 196 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 33



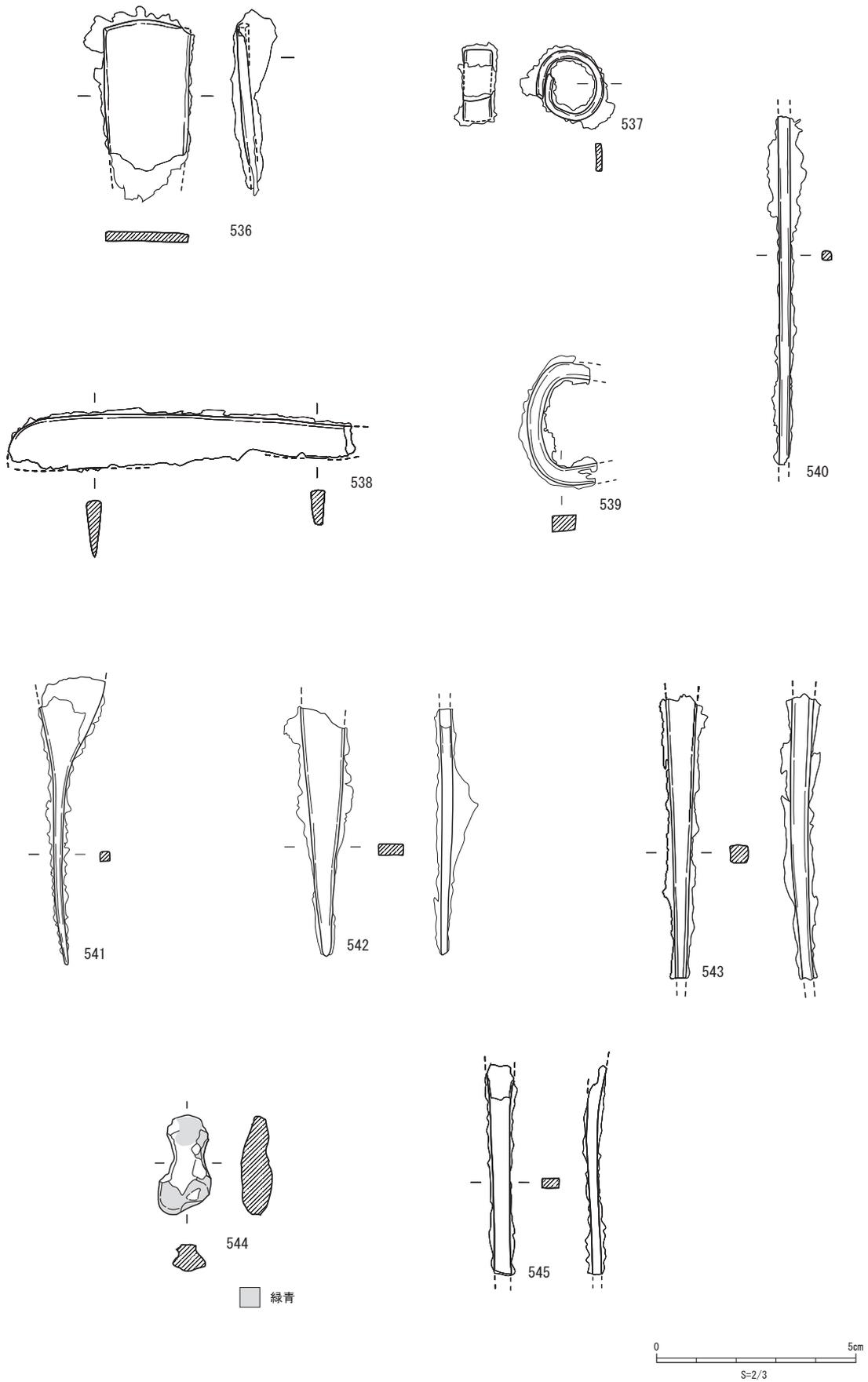
第 197 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 34



第 198 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 35



遺構撮影



第 199 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 36

第V章 自然科学分析

第1節 火葬人骨

熊本市桑鶴遺跡群出土の平安時代火葬骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：熊本県、平安時代人骨、壺棺、火葬骨、女性

はじめに

熊本市北区貢町に所在する桑鶴遺跡群 06-I b 区の発掘調査が県道砂原四方寄線建設工事に伴って 2006(平成 18)年におこなわれ、1基の埋葬遺構(遺構番号:SI-01)から人骨が検出された。本遺跡からは本例の他に熊本市の調査で、2014年2月と6月にもそれぞれ1体ずつ人骨が出土しているが、この2体は中世以降の人骨と思われる、火葬されたものではない。

熊本県内では、古代人骨は二本木遺跡群などから出土しているが、火葬骨の例数は少なく、平安時代の火葬骨としては、大江(学苑)遺跡群(松下、2006)と江津湖遺跡群から出土した2例が存在するにすぎない。前者は、竪穴住居(SB39)の床に倒置された状態で出土した甕から検出された火葬骨である(9世紀)。量は重量にして約790gであった。人骨は3体分が確認され、1体は性別・年齢が不明の火葬骨で、第二頸椎(軸椎)の一部も認められた。その他に男性大腿骨片と女性大腿骨片がそれぞれ1片ずつ認められたが、この大腿骨はいずれも骨になってから火を受けたものである。後者の遺跡からは火葬骨約22gが蔵骨器から検出された(平安時代)。残存量は著しく少なく、性別・年齢を明らかにすることができなかった。

本例は熊本県内での平安時代の火葬骨例としては3例目になる。今回出土した火葬骨は量も少なく、大部分が細片状を呈しており、その形質を詳細には知り得なかったが、解剖学的に精査し、人類学的な観察をおこない、性別などを推測し、被葬者の特徴のごく一部を明らかにできたので、その結果を報告しておきたい。

資料および所見

本人骨は06-I b 区の埋設土坑に埋置された蓋の付いた壺(遺構番号:SI-01)から検出された。この人骨は骨壺の考古学的所見から9世紀の平安時代に属すると推測されている。残存していた人骨片は後述している所見から火葬骨である。残存骨を解剖学的に精査した結果、重複する部分が認められないので、1体分の火葬された人骨の一部と推断した。なお、本火葬骨は表1のとおり、下記の所見から、比較的年齢の若い女性骨と推測される。年齢区分を表2に示した。

表1 出土人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考
06-I b 区 SI-01 人骨	女性	成年～壮年	火葬骨、約 390g

表2 年齢区分 (Table 2. Division of age)

年齢区分	年齢
未成人	乳児 1歳未満
	幼児 1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児 6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年 16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)



図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the area of the 06-I b at the Kuwazuru site, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

成人	壮年	21 歳～ 39 歳 (40 歳未満)
	熟年	40 歳～ 59 歳 (60 歳未満)
	老年	60 歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査報告書 (1996) を参照されたい。

人骨は 2 層に分けて取り上げられていた。上層には泥が堆積しており (埋土)、その泥の中には少量の火葬骨片が混じっていた。下層からは火葬骨が検出されている。頭蓋片約 70g、四肢骨等の骨片約 320g、合計約 390g の火葬骨である。ほとんどが細片状態であることから、壺に入れる際に砕かれ、細片にされた可能性が強い。検出された人骨の色調は白もしくは灰色で、黒変している部分もある。骨表面には火葬骨特有の細かい亀裂が走っており、色調やこの亀裂の存在から本人骨が火葬骨であると容易に判断できる。検出された人骨には亀裂が見られるが、骨が飴のように捻れたものがほとんどみられないことから、ある程度軟部組織の腐敗が進行して、骨に近い状態になって火葬されたか、あるいは火葬の温度がそれほど高くなかったものと思われる。火葬骨はほとんどが細片で、もっとも大きいものでも、頭蓋は 4cm 大、四肢骨では長さが 6cm 程度である。残存していた骨片群を解剖学的に精査したところ、頭蓋骨片、下顎骨片、四肢骨片、椎骨片、歯根を見いだすことができたが、いずれもその量は少ない。

1. 頭蓋

頭蓋の量は少ない。ほとんどが頭頂骨か後頭骨と思われるが、いずれも小片・細片状態で骨壁は薄い。観察できた縫合はいずれも内外両板が明瞭に開離した状態である。下顎骨の中部が残存していた。歯槽の観察もできた。歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。また、歯根が 4 本残存していた。

／	／	／	／	④	③	②	①	①	②	③	／	／	／	／	／	／
／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／

【●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 /：不明 ▽：先天性欠損、番号は歯種】

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

2. 四肢骨

四肢骨はほとんどが大腿骨、脛骨の骨体の一部であるが、左側の上腕骨体の遠位部が長さ 4.5cm にわたって原形を保っていた。その径はかなり細い。

3. 胸の骨

椎弓などの椎骨の一部が数点残存していた。

4. 性別・年齢

残存していた火葬骨片には寛骨など性判別に必要な部位が存在しなかったことから、性別を確定することはできなかったが、上腕骨体がかかなり細かったことだけから推測すれば、女性の可能性が強い。観察できた縫合がいずれも明瞭に開離しており、骨壁も薄いことから、年齢はかなり若いことが推測され、年齢区分で表記すれば、成年 (16～20 歳) もしくは壮年の前半 (20 歳代) の可能性が強い。

要 約

熊本市北区頁町に所在する桑鶴遺跡群 06-I b 区の 2006 年度におこなわれた発掘調査で、1 基の埋葬遺構（壺）から人骨が検出された。人骨は少量の火葬骨であったが、解剖学的に精査し、人類学的観察をおこない、以下の結果を得た。

1. 埋葬遺構は 1 基のみで、土坑内に埋設された蓋付きの壺（遺構番号：SI-01）の中から火葬骨が検出された。
2. この人骨は、蔵骨器の考古学的所見から、9 世紀の平安時代に属する人骨と推定されている。
3. 火葬骨はほとんどが細片で、その量は重量にして、頭蓋片約 70g、四肢骨等の骨片約 320g、合計約 390g である。
4. 本火葬骨は、成年（16～20 歳）もしくは壮年の前半（20 歳代）の比較的若い女性骨と思われる。
5. 残存していたのは、頭蓋骨片、下顎骨片、四肢骨片、椎骨片、歯根であるが、いずれも細片状態であった。ただし、左側の上腕骨体の遠位部は長さ 4.5cm にわたって原形を保っており、その径はかなり細い。
6. 壺に収納されていた火葬骨はヒトひとり分の全身骨ではなく、そのごく一部に過ぎない。壺の容積に比べてその量はあまりにも少ない。このことは、壺に収める量をこの程度にして、その他の大部分の火葬骨を別の場所に遺棄、あるいは埋納、あるいは安置した可能性を示唆している。また、骨が細片状になっているが、これは納骨の際、壺に収めるために砕かれた結果である。今後、火葬という特殊な遺体処理に伴う一連の工程（過程）を考察していく必要がある。

謝辞

《擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育庁文化課の皆様に感謝致します。》

《参考文献》

5. 松下孝幸、1995b：山口県周東町上久宗遺跡出土の火葬骨。山口県埋蔵文化財調査報告第 174 集：25-30.
6. 松下孝幸、2005c：熊本市二本木遺跡群第 18 次調査区出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群 I ー第 18 次調査区発掘調査報告書ー：41-46.
7. 松下孝幸、2006：熊本市大江（学苑）遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群 II（熊本県文化財調査報告第 231 集）：80-84.
8. 松下孝幸、2007a：熊本市古町遺跡第 5 次調査区出土の平安時代人骨。熊本県埋蔵文化財調査年報第 9 号：148-152.
9. 松下孝幸、2007b：熊本市大江遺跡群第 97 次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群 VI（ー第 97 次・第 106 次調査区発掘報告書ー）：114-117.
10. 松下孝幸・他、2008：熊本市二本木遺跡群第 28 次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群 V〔二本木遺跡群第 28 次調査区（E～I・K・L・P 地点）発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（2）〕：178-183.
11. 松下孝幸・他、2011：熊本市二本木遺跡群第 41 次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群 X II ー二本木遺跡群第 41 次調査区発掘調査報告書ー：127-135.
12. 松下孝幸・他、2010：熊本市二本木遺跡群 40 次調査区 F 地点出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群 X I（熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（5））：197-201.
13. 松下孝幸・他、2012a：熊本市二本木遺跡群第 49 次調査区出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群 19 ー二本木遺跡群第 49 次調査区発掘調査報告書ー（熊本市の文化財第 19 集）：77-84.

14. 松下孝幸・他、2012b:熊本市二本木遺跡群(さつま荘跡)出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集):424-435.
15. 松下孝幸、熊本市江津湖遺跡群出土の平安時代火葬骨。(投稿中)
21. 松下真実・他、2012a:熊本市二本木遺跡群(市電敷地)出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集):411-423.
22. 松下真実・他、2012b:熊本市二本木遺跡群(市電敷地)出土の古代人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集):398-410.

* Takayuki MATSUSHITA、** Masami MATSUSHITA



左側上腕骨 (The left humerus)



四肢骨 (The limb bones)
桑鶴遺跡群 06-I b区 SI-01 (女性・年齢不明)
(The skeleton 06-1b, from the Kuwazuru sites No.2 female unknown age)

第2節 放射性炭素年代測定

(1) 五丁中原遺跡I区

熊本県教育庁文化課：五丁中原遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

2. 試料と方法

試料名	地点・層準等	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	F-3 グリッド, IVb 層	土壌	acid washes	AMS
No. 2	F-3 グリッド, V 層上部	土壌	acid washes	AMS
No. 3	F-3 グリッド, V 層下部	土壌	acid washes	AMS
No. 4	F-3 グリッド, VI 層	土壌	acid washes	AMS
No. 5	F-3 グリッド, VII 層上部	土壌	acid washes	AMS
No. 6	F-3 グリッド, VII 層下部	土壌	acid washes	AMS

acid washes : 酸洗浄、AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

3. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 (較正年代) (2σ : 95% 確率, 1σ : 68% 確率)
No. 1	276682	5260 ± 40	-20.4	5340 ± 40	交点 : Cal BC 4230 2σ : Cal BC 4320-4290, 4270-4040 1σ : Cal BC 4250-4160, 4130-4060
No. 2	276683	6630 ± 40	-21.1	6690 ± 40	交点 : Cal BC 5620 2σ : Cal BC 5660-5550 1σ : Cal BC 5640-5610, 5580-5570
No. 3	276684	8660 ± 50	-21.1	8720 ± 50	交点 : Cal BC 7730 2σ : Cal BC 7950-7600 1σ : Cal BC 7790-7610
No. 4	276685	10700 ± 50	-20.0	10780 ± 50	交点 : Cal BC 10870 2σ : Cal BC 10910-10830 1σ : Cal BC 10890-10860
No. 5	276686	17070 ± 70	-18.3	17180 ± 70	交点 : Cal BC 18360 2σ : Cal BC 18480-18210 1σ : Cal BC 18420-18290
No. 6	276687	19570 ± 80	-17.7	19690 ± 80	交点 : Cal BC 21660 2σ : Cal BC 21840-21430 1σ : Cal BC 21760-21530

BP : Before Physics (Present), Cal : Calibrated, BC : 紀元前

(1) 未補正 ^{14}C 年代

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は 5,730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5,568 年を用いている。

(2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することで同位体分別効果を補正する。

(3) ^{14}C 年代

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。

(4) 暦年代 (Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値およびサンゴの U/Th (ウラン / トリウム) 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線 (IntCal104) を使用した。IntCal104 では BC24050 年までの換算が可能である (樹木年輪データは BC10450 年まで)。

暦年代の交点は、 ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、 1σ (68% 確率) と 2σ (95% 確率) は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。

4. 所見

加速器質量分析法 (AMS) による放射性炭素年代測定の結果、No. 1 では 5340 ± 40 年 BP (2σ の暦年代で BC 4320 ~ 4290, 4270 ~ 4040 年)、No. 2 では 6690 ± 40 年 BP (BC 5660 ~ 5550 年)、No. 3 では 8720 ± 50 年 BP (BC 7950 ~ 7600 年)、No. 4 では 10780 ± 50 年 BP (BC 10910 ~ 10830 年)、No. 5 では 17180 ± 70 年 BP (BC 18480 ~ 18210 年)、No. 6 では 19690 ± 80 年 BP (BC 21840 ~ 21430 年) の年代値が得られた。

なお、土壌試料による年代測定結果は、その土壌が生成された当時の年代を示しており、文化層としての年代観とは必ずしも一致しない場合がある。

文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal104 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p. 1-36.

(2) 桑鶴遺跡群Ⅱ区

熊本県教育庁文化課：桑鶴遺跡群における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

2. 試料と方法

試料名	地点・層準等	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	B-5 グリッド, II層	土壌	acid washes	AMS
No. 2	B-5 グリッド, II'層	土壌	acid washes	AMS
No. 3	B-5 グリッド, III層	土壌	acid washes	AMS
No. 4	B-5 グリッド, IV層	土壌	acid washes	AMS
No. 5	B-5 グリッド, V層	土壌	acid washes	AMS
No. 6	B-5 グリッド, VI層	土壌	acid washes	AMS

acid washes : 酸洗浄、AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

3. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 (較正年代) (2σ : 95%確率, 1σ : 68%確率)
No. 1	276688	5860 ± 40	-20.5	5930 ± 40	交点 : Cal BC 4800 2σ : Cal BC 4910-4720 1σ : Cal BC 4840-4770
No. 2	276689	7840 ± 50	-20.6	7910 ± 50	交点 : Cal BC 6750, 6720, 6700 2σ : Cal BC 7040-6640 1σ : Cal BC 6900-6890, 6830-6670
No. 3	276690	8820 ± 50	-20.4	8900 ± 50	交点 : Cal BC 8200, 8040, 8010 2σ : Cal BC 8250-7930, 7890-7840 1σ : Cal BC 8220-7960
No. 4	276691	10800 ± 50	-19.2	10900 ± 50	交点 : Cal BC 10920 2σ : Cal BC 10960-10880 1σ : Cal BC 10940-10900
No. 5	276692	20870 ± 130	-19.4	20960 ± 130	(暦年代較正の範囲外)
No. 6	276693	21900 ± 130	-18.3	22010 ± 130	(暦年代較正の範囲外)

BP : Before Physics (Present), Cal : Calibrated, BC : 紀元前

(1) 未補正 ^{14}C 年代

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は 5,730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5,568 年を用いている。

(2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することで同位体分別効果を補正する。

(3) ^{14}C 年代

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。

(4) 暦年代 (Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値およびサンゴの U/Th (ウラン / トリウム) 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線 (IntCal104) を使用した。IntCal104 では BC24050 年までの換算が可能である (樹木年輪データは BC10450 年まで)。

暦年代の交点は、 ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、 1σ (68% 確率) と 2σ (95% 確率) は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。

4. 所見

加速器質量分析法 (AMS) による放射性炭素年代測定の結果、No. 1 では 5930 ± 40 年 BP (2σ の暦年代で BC 4910 ~ 4720 年)、No. 2 では 7910 ± 50 年 BP (BC 7040 ~ 6640 年)、No. 3 では 8900 ± 50 年 BP (BC 8250 ~ 7930, 7890 ~ 7840 年)、No. 4 では 10900 ± 50 年 BP (BC 10960 ~ 10880 年)、No. 5 では 20960 ± 130 年 BP (暦年代較正の範囲外)、No. 6 では 22010 ± 130 年 BP (暦年代較正の範囲外) の年代値が得られた。

なお、土壌試料による年代測定結果は、その土壌が生成された当時の年代を示しており、文化層としての年代観とは必ずしも一致しない場合がある。

文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal104 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p. 1-36.

(3) 桑鶴遺跡群Ⅷ区

熊本県教育庁文化課：桑鶴遺跡群における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

2. 試料と方法

試料名	地点・層準等	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	Ⅷ区, IVb層	土壌	acid washes	AMS
No. 2	Ⅷ区, VI層	土壌	acid washes	AMS
No. 3	Ⅷ区, VII層上部	土壌	acid washes	AMS
No. 4	Ⅷ区, VII層中部	土壌	acid washes	AMS
No. 5	Ⅷ区, VII層下部	土壌	acid washes	AMS
No. 6	Ⅷ区, VIII層	土壌	acid washes	AMS

acid washes : 酸洗浄、AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

3. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 (較正年代) (2σ : 95%確率, 1σ : 68%確率)
No. 1	308325	5520 ± 30	-19.9	5600 ± 30	交点 : Cal BC 4450 2σ : Cal BC 4490-4360 1σ : Cal BC 4460-4440, 4420-4370
No. 2	308326	12190 ± 50	-19.7	12280 ± 50	交点 : Cal BC 12180 2σ : Cal BC 12270-12080 1σ : Cal BC 12220-12110
No. 3	308327	13800 ± 50	-19.1	13900 ± 50	交点 : Cal BC 14990 2σ : Cal BC 15060-14930 1σ : Cal BC 15020-14960
No. 4	308328	17160 ± 60	-18.2	17270 ± 60	交点 : Cal BC 18470 2σ : Cal BC 18560-18390 1σ : Cal BC 18520-18420
No. 5	308329	19160 ± 70	-18.2	19270 ± 70	交点 : Cal BC 21240, 21200, 21040 2σ : Cal BC 21360-20680 1σ : Cal BC 21310-20980, 20840-20730
No. 6	308330	18090 ± 60	-18.3	18200 ± 60	交点 : Cal BC 19610 2σ : Cal BC 20040-19560 1σ : Cal BC 19720-19580

BP : Before Physics (Present), Cal : Calibrated, BC : 紀元前

(1) 未補正 ^{14}C 年代

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は 5,730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5,568 年を用いている。

(2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することで同位体分別効果を補正する。

(3) ^{14}C 年代

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。

(4) 暦年代 (Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値およびサンゴの U/Th (ウラン / トリウム) 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線 (IntCal09) を使用した。

暦年代の交点は、 ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、 1σ (68% 確率) と 2σ (95% 確率) は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。

4. 所見

加速器質量分析法 (AMS) による放射性炭素年代測定の結果、No. 1 では 5600 ± 30 年 BP (2σ の暦年代で BC 4490 ~ 4360 年)、No. 2 では 12280 ± 50 年 BP (BC 12270 ~ 12080 年)、No. 3 では 13900 ± 50 年 BP (BC 15060 ~ 14930 年)、No. 4 では 17270 ± 60 年 BP (BC 18560 ~ 18390 年)、No. 5 では 19270 ± 70 年 BP (BC 21360 ~ 20680 年)、No. 6 では 18200 ± 60 年 BP (BC 20040 ~ 19560 年) の年代値が得られた。

なお、土壌試料による年代測定結果は、その土壌が生成された当時の年代を示しており、文化層としての年代観とは必ずしも一致しない場合がある。

文献

Paula J Reimer et al., (2009) IntCal 09 and Marine 09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, p.1111-1150.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

第VI章 遺構・遺物データ

第4表 遺構データ表

集石データ

クワ=桑鶴遺跡群 ゴナ=五丁中原遺跡

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			礫の総数	火受率%	堀込みの有無・規模	出土石器・土器
					長軸	短軸	深さ				
33	クワ	06-I b	1号集石	I-7	1.70	1.06		55	0.01	なし	磨石
33	クワ	06-I c	2号集石	L-10	2.80	2.00		58	0.03	なし	土器・磨石
34	クワ	06-I c	3号集石	G-8	2.00	1.50		39		なし	押型文土器 凹石・台石
34	クワ	06-I c	4号集石	F-7	1.00	0.80		23		なし	
35	クワ	06-I c	5号集石	G-6	1.30	0.70		28		なし	凹石 (45)
35	クワ	06-I c	6号集石	F-6	1.90	1.10		35		なし	押型文土器 (46)
41	クワ	II	7号集石	B-3・4				60	11	なし	
44	クワ	VI	8号集石	C-6・7	6.00			21	57	なし	
44	クワ	VI	9号集石	C・D-6				3		1.37×1.2×0.6 円形	条痕文土器
52	ゴナ	III	10号集石	I-10・11	1.23	0.50		17	47		

SH データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			面積 m ² (推定)	平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ				
59	クワ	I	SH-01	B-4・5	3.37	3.18	0.18	10.71	隅丸方形		
73	クワ	III	SH-01	A-2	5.12	2.65~	0.69	13.56~	隅丸方形	凹状	
74	クワ	III	SH-03	B-1・2	3.50~	4.10	0.61	14.35~	長方形	凹状	
75	クワ	III	SH-04	C-1							主要遺構は調査区外
76	クワ	III	SH-05	C・D-1・2	5.40	3.90~	0.46	21.06~	隅丸方形		
77	クワ	III	SH-05内土坑	C-2	0.66	0.57~	0.17		楕円形	凹状	
80	クワ	III	SH-06	C-2・3	3.0~	2.50~	0.41	7.50~	長方形	凹状	
81	クワ	III	SH-07	C-2・3	4.23~	4.14	0.44	17.51~	隅丸方形	凹状	
84	クワ	III	SH-08	C-2・3	2.93~	2.66~	0.37	7.79~	長方形	凹状	
86	クワ	III	SH-09	C-2・3			0.50			凹状	
88	クワ	III	SH-10	B・C-3・4	3.68	3.63	0.45	13.35	隅丸方形	凹状	
92	クワ	III	SH-11	B・C-3・4	4.56	4.44	0.33	20.24	隅丸方形	凹状	
95	クワ	III	SH-12	B・C-4	5.91	5.20	0.42	30.73		凹状	
102	クワ	III	SH-13	B・C-3	4.04	3.50	0.35	14.14	長方形	凹状	
104	クワ	III	SH-14内土坑	C-1・2	0.64	0.57	0.11		不定	凹状	灯明皿(150)
106	クワ	III	SH-15	C-3	3.84	(2.55)	0.48	(9.79)	隅丸方形	凹状	
109	クワ	III	SH-16	C-3	4.90	3.98	0.32	19.50	長方形	凹状	
112	クワ	III	SH-17	C-3	4.18	(3.47)	0.38	(14.50)	隅丸方形	凹状	
115	クワ	III	SH-18	C-3			0.61			凹状	
116	クワ	III	SH-19	C-3	(3.20)	(2.91)	0.12~	(9.31)		凹状	

SH データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			面積	平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ	m ² (推定)			
117	クワ	Ⅲ	SH-20	C-3						個別図なし	
121	クワ	Ⅳ	SH-01	B-4	2.85	2.52	0.33	7.18	隅丸方形	凹状	
152	クワ	Ⅷ	SH-01	A-12・13	3.80~		0.48				
152	クワ	Ⅷ	SH-01 P-01	A-13	0.48	0.48	0.60		円形	U字状	
104	クワ	Ⅲ	SH-14	C-1・2	4.70~	(3.75)					

SB データ

挿図	調査区		遺構	規格 梁×桁	方位	検出レベル m	グリッド	梁		桁	
								m [平均値]		P=ピット番号	
127	クワ	Ⅲ	SB-01	2×3	N-86° -E	76.85	C-D-2	P4-P5-P12 1.86+1.88[1.87] P3-P6-P11 1.76+1.96[1.86] P2-P7-P10 1.94+1.66[1.8] P1-P8-P9 2.06+[1.86]		P1-P4 1.84+1.68+1.82[1.78] P5-P8 1.74+1.80+1.66[1.73] P9-P12 1.80+1.68+1.68[1.72]	
128	クワ	Ⅲ	SB-02			76.92	E-F-2	P3-P5 2.38+2.20[2.29]		P1-P3 2.46+2.18[2.32] P5-P6 2.14	
128	クワ	Ⅲ	SB-03	2×3	E-85° -N	76.30	D-2	P1-P3 2.08+1.96[2.02] P6-P8 2.0+2.0[2.0]		P1-P10-P9-P8 2.20+2.22+2.20[2.20] P3-P6 2.18+2.08+2.26[2.17]	
129	クワ	Ⅲ	SB-04	2×3	N-87° -E	77.04	D-3・4	P1-P3 2.1+1.8[1.95] P4-P6 1.7+1.8[1.75] P7-P9 1.5+1.9[1.7] P10-P12 1.6+1.8[1.7]		P1-P6-P7-P12 2.0+2.2+2.2[2.13] P2-P5-P8-P11 2.2+1.8+2.0[2.0] P3-P4-P9-P10 2.1+1.9+2.0[2.0]	
130	クワ	Ⅲ	SB-05	2×2	N-86° -E	76.50	D-4	P1-P3 1.6+1.7[1.65] P4-P6-P7 1.9+1.7[1.8] P9-P11 1.6+1.6[1.6]		P1-P7-P9 1.8+2.7[2.25] P2-P6-P10 1.5+3.2[2.35] P3-P4-P11 1.7+3.0[2.35]	
130	クワ	Ⅲ	SB-06	2×3	N-87° -E	76.71	C-3・4	P1-P3 2.3+2.1[2.2] P6-P8 2.0+2.3[2.15]		P1-P11-P9-P8 2.2+2.5+2.0[2.23] P3-P6 1.7+2.7+1.7[2.03]	
132	クワ	Ⅴ	SB-01	4×5	N-90° -E	75.80	B-C-4・5	P7-P11 1.45+0.96+0.95+1.53[1.22] P3-P15 2.77 P1-P2 1.4		P2-P7 1.7+1.69+1.60+1.70+1.70[1.67] P11-P13 1.69+2.0[1.84]	

ST データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
68	クワ	Ⅱ	ST-01	B-3・4	1.09	0.90	0.24	円形	凹状	
68	クワ	Ⅱ	ST-02	C-3・4	2.04	0.73	0.30	楕円形	凹状	
70	クワ	Ⅲ	ST-01	C-2	0.83	0.81	0.18	不定形	皿状	
71	クワ	Ⅲ	ST-04	D-E-3	1.21	0.75	0.38	不定形	凹状	
71	クワ	Ⅲ	ST-07	E-4	0.13	0.70		楕円形		場所特定できず
124	クワ	Ⅴ	ST-01	C-5	(0.96)	(0.92)	0.15	不定形	皿状	
125	クワ	Ⅴ	ST-02	D-3	0.55	0.36	0.47	不定形	すり鉢状	
118	クワ	Ⅵ	ST-01	D-6・7	0.92	0.77	0.17	円形	皿状	
118	クワ	Ⅵ	ST-02	D-5	0.72	0.72	0.20	円形	凹状	
118	クワ	Ⅵ	ST-03	D-5	2.08	1.56	0.25	楕円形	皿状	
148	クワ	Ⅷ	ST-01	B-10・11	1.25	0.85	0.19	楕円形	皿状	
148	クワ	Ⅷ	ST-02	D-E-9	1.07	1.10	0.42	三角形	すり鉢状	
148	クワ	Ⅷ	ST-03	F-9・10	1.06	0.92	0.18	円形	皿状	
148	クワ	Ⅷ	ST-04	F-7	1.04	0.95	0.10	円形	皿状	

ST データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
148	クフ	VII	ST-05	D-10	0.80	0.71	0.38	隅丸方形	すり鉢状	
148	クフ	VII	ST-07	D-4・5	1.64	0.86	0.18	楕円形	皿状	
149	クフ	VII	ST-08	A-11	1.87	1.06	0.25	不定形	凹状	
45	クフ	VII	ST-09	E-6	0.70	0.28	0.06	不定形	皿状	
149	クフ	VII	ST-10	A-12	0.73	0.55	0.27	楕円形 ^カ	凹状	
45	クフ	VII	ST-11	F-4	0.93	0.50	0.17	不定形	皿状	
157	クフ	VII	ST-12	E-5	1.32	0.59	0.28	楕円形	凹状	
151	クフ	VII	ST-15	G・H-9	1.67	0.80	0.30	不定形	凹状	
151	クフ	VII	ST-16	F-8	0.83	0.74	0.19	不定形	凹状	
157	クフ	VIII	ST-18	D・E-5	1.13	0.75	0.22	楕円形	凹状	
157	クフ	VII	ST-19	C-11	1.24	0.52	0.36	不定形	皿状・すり鉢状	
156	クフ	VII	ST-20	B-12	0.87	0.60	0.40	不定形	皿状・U字状	
156	クフ	VIII	ST-21	B-12	0.83	0.63	0.37	円形	すり鉢状	
156	クフ	VII	ST-22	D-12	(1.55)	(0.50)	0.23	楕円形	皿状	
157	クフ	VII	ST-23	C-10	1.23	0.99	0.49	円形	凹状	
157	クフ	VIII	ST-24	C-9	1.43	0.92	0.20	不定形	不定	
156	クフ	VII	ST-25	F-11・12	3.60	1.56	1.01	円形	U字状	
157	クフ	VII	ST-26	B-9	(1.38)	(0.72)	0.19	不定形	皿状	
157	クフ	VII	ST-27	E-7	2.23	0.77	0.43	不定形	皿状	
157	クフ	VIII	ST-28	F-8・9	0.82	0.69	0.46	円形	皿状・U字状	
149	クフ	VII	ST-29	G-9	0.88	0.40	0.28	不定形	皿状	
158	クフ	VII	ST-30	E-10	0.80	0.69	0.60	円形	U字状	
158	クフ	VIII	ST-31	C-11	0.75	0.64	0.72	円形	U字状	
161	ゴナ	I	ST-04	C-5	0.96	0.90	0.19	不定形	凹状	
161	ゴナ	I	ST-06	C-4	0.83	0.80	0.16	円形	凹状	
161	ゴナ	I	ST-07	D-7	0.92	0.73	0.12	円形	凹状	
161	ゴナ	I	ST-08	D-6	0.93	0.92	0.30	円形	凹状	
163	ゴナ	I	ST-11	B-5	1.12	0.90	0.18	円形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-12	C-5	0.92	0.83	0.79	円形	凹状	
163	ゴナ	I	ST-13	E-5	1.40	0.70	0.12	不定形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-14	E-5	1.47	0.69	0.19	楕円形	凹状	
163	ゴナ	I	ST-15	D-3	1.08	1.05	0.27	円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-16	B-6	0.94	0.58	0.16	楕円形	皿状	

ST データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
164	ゴナ	I	ST-17	B-6	1.23	1.03	0.23	円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-18	B-7	1.94	1.84	0.84	方形	凹状	
164	ゴナ	I	ST-19	B-7	0.91	0.74	0.14	円形	凹状	
164	ゴナ	I	ST-20	A-6	0.96	0.86	0.08	円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-21	A-6	1.51	0.92	0.17	楕円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-22	B-7	(1.36)	(0.68)	0.84	不定形	U字状	
163	ゴナ	I	ST-23	B-4	(2.10)	(0.92)	0.13	不定形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-24	C-3	0.57	0.49	0.06	円形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-25	C・D-5	1.26	0.96	0.15	楕円	皿状	
163	ゴナ	I	ST-26	C・D-5	0.80	0.70	0.37	円形	V字状	
159	ゴナ	I	ST-27	D-7	2.06	1.88	0.28	円形	皿状	
46	ゴナ	II	ST-28	K-18	0.84	0.70	0.18	円形	皿状	
46	ゴナ	II	ST-29	J-19	0.98	0.65	0.12	楕円形	凹状	
46	ゴナ	II	ST-30	K-18	0.80	0.70	0.16	円形	凹状	
46	ゴナ	II	ST-32	I-16	0.91	0.70	0.16	円形	凹状	
46	ゴナ	II	ST-33	I-15	0.89	0.80	0.09	円形	皿状	
46	ゴナ	II	ST-34	G-17	(0.50)	0.34~	0.27	不明	凹状	
48	ゴナ	II	ST-53	I・J-17	1.10	0.42	1.18 0.91	不定形	不定	
49	ゴナ	II	ST-54	H-17	1.59	0.34	0.16	隅丸長方形	凹状	
48	ゴナ	II	ST-56	K-18	1.04	0.80	0.86	楕円形	U字状	
48	ゴナ	II	ST-57	J・K-19	1.20	0.80	0.18	不定形	皿状	
48	ゴナ	II	ST-58	J-18・19	1.92	0.90	0.13	不定形	皿状	
49	ゴナ	II	ST-59	G・H-16	1.11	0.34	0.20	不定形	皿状 <small>カ</small>	
49	ゴナ	II	ST-60	I-18	1.14	0.40	0.22	不定形	凹状	
48	ゴナ	II	ST-61	K-17	1.10	0.42	0.26	不定形	U字状	
49	ゴナ	II	ST-62	G-17・18	(0.78)	(0.76)	0.32	不定形	すり鉢状 <small>カ</small>	
49	ゴナ	II	ST-63	G-17	(1.16)	(0.57)	0.20	不明	皿状 <small>カ</small>	
49	ゴナ	II	ST-65	I-17	1.15	0.75	0.30	不定形	不定	
167	ゴナ	III	ST-38	J-11	1.30	0.48	0.17	不定形	凹状	
167	ゴナ	III	ST-39	I-10	0.90	0.46	0.20	不定形	皿状	
167	ゴナ	III	ST-40	J-11	0.60	0.37	0.15	不定形	凹状	
167	ゴナ	III	ST-41	J-9	1.03	0.65	0.12	不定形	凹状	
167	ゴナ	III	ST-42	I-12	0.95	0.48	0.14	不定形	凹状	

ST データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
167	ゴナ	Ⅲ	ST-43	I-11	0.61	0.38	0.20	不定形	凹状	
167	ゴナ	Ⅲ	ST-44	K-7・8	0.66	0.56	0.18	不定形	凹状	
167	ゴナ	Ⅲ	ST-45	L-6	0.84	0.48	0.37	不定形	すり鉢状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-46	L-8	0.73	0.60	0.14	不定形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-47	K-8	0.87	0.60	0.20	不定形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-48	K-7	0.93	0.72	0.28	不定形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-49	M・L-5・6	(0.86)	(0.34)	0.22	楕円形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-50	L-5	0.97	0.57	0.16	不定形	皿状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-51	N-7	0.97	0.50	0.23	不定形	凹状	
169	ゴナ	Ⅲ	ST-66	L-9			0.55	不定形	U字状	

SK データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
56	クフ	06-I b	SK-01	D-2	3.35	1.21	0.17	楕円	凹状	
39	クフ	06-I b	SK-02	G-3	2.67	0.71	0.40	隅丸長方形	凹状	燃烧土坑
140	クフ	06-I b	SK-04	N-6	1.15	1.15	0.21	方形	凹状	
39	クフ	06-I b	SK-05	B・C-2	1.72	0.81		長方形	凹状	
56	クフ	06-I c	SK-06	M-9	0.84	0.84	0.07	不定形	皿状	
140	クフ	06-I c	SK-07	K-8	0.95	0.74	0.25	楕円形	凹状	
140	クフ	06-I c	SK-08	J-7・8	1.51	0.73	0.18	楕円形	皿状	
140	クフ	06-I c	SK-09	E-7	1.81	0.85	0.28	楕円形	凹状	
143	クフ	06-II b	SK-10	H・G-14	1.13	0.93	0.08	不定形	凹状	
143	クフ	06-II b	SK-11	F-13	1.07	0.80	0.30	楕円形	U字状	
143	クフ	06-II b	SK-12	I-12	0.86	0.45	0.43	不定形	すり鉢状	
143	クフ	06-II b	SK-13	H-12	1.13	0.65	0.45	不定形	不定	

S0 データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
154	クフ	VII	S01	C-7	2.26	0.83	0.65	不定形	凹状	
155	クフ	VII	S02	C-7	0.70~	(0.75~)	(0.42)	不定形	凹状	
155	クフ	VII	S03	C-7	0.88~	(0.64~)	(0.31)	不定形	凹状	
155	クフ	VII	S04	C-7	0.60~	(0.88)	(0.45)	不定形	凹状	

SDデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ		
133	クワ	V	SD-01	A~D-1~3	10.36	6.28	1.44	U字状	
166	ゴナ	III	SD-01	L~O-3~6	11.32	1.70	0.12~0.37	皿状・すり鉢状	
136	クワ	06-I a	SD-01	P-8・9	4.50	1.80	0.20	凹状	
137	クワ	06-I a	SD-02	O・P-8~10	8.50	0.60	0.14	凹状	
137	クワ	06-I a	SD-03	O・P-7~9	11.30	1.10	0.20	皿状	
138	クワ	06-I a	SD-04	N・O-8・9	5.50	0.40	0.10	皿状	
137	クワ	06-I a	SD-05	N・O-9・10	8.80	1.00	0.27	凹状	
139	クワ	06-I a	SD-06	N~P-10・11	5.10	1.10	0.17	皿状	別々に検出したが連続する可能性
139	クワ	06-I c	SD-06	L・M-9・10	8.60	1.10	1.65	皿状	
57	クワ	06-I b	SD-07	G・H-4~7	15.60	1.70	0.5~0.62	凹状	
138	クワ	06-I b	SD-08	A~I-1~4	45.2~	0.60	0.08	皿状・凹状	
54	クワ	06-I c	SD-09	B~G-6~8	23.5~	1.10	0.25~1.05	すり鉢状・凹状	
123	クワ	06-I c	SD-10	L・M-9~11	5.50	1.30	0.28~0.52	凹状	
144	クワ	06-II a	SD-11	P・Q-18	4.10	0.75	0.20	凹状	
144	クワ	06-II b	SD-12	F-13・14	4.60	0.82	0.20	凹状	

Pitデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
61	クワ	I	Pit1	B-5	0.91	0.63	0.54	隅丸長方形	U字状	SH-01に伴う
61	クワ	I	燃焼土坑	B-5	0.67	0.62	0.42	円形	すり鉢状	
70	クワ	III	燃焼土坑No.1		0.68	0.61	0.13	円形	皿状	
111	クワ	III	P-①		0.49	0.38	0.22	楕円形	U字状	SH-16の柱穴
111	クワ	III	P-②		0.62	0.58	0.55	楕円形	U字状	SH-16の柱穴
145	クワ	IV	SP-01 (貝殻Pit)	A-3	0.46	0.46	0.47	円形	U字状	淡水系の貝
148	クワ	VII	P-01	E-7	0.78	0.50	0.10	円形	凹状	
149	クワ	VII	P-58	E-11	0.58	0.39	0.10	長方形	凹状	

SIデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
55	クワ	06-I b	SI-01	H-7	0.62	0.51	0.28	円形	凹状	古代の火葬墓 土師器(64・65)
55	クワ	06-I c	SI-02	D-5	0.37	0.30	0.06	円形	凹状	土師器(66)
40	クワ	06-II a	SI-03	S-17	1.13	0.86	0.25	楕円形	皿状	縄文土器(50)

土器集中区データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
36	クワ	06-I a	土器集中区1	P-7	0.30	0.45			縄文晩期浅鉢(47)	
37	クワ	06-I c	土器集中区2	C-D-7	0.55	0.24			土器集中区 押型文土器(48)	
38	クワ	06-I c	土器集中区3	C-6	0.45	0.30			押型文土器(49)	

SXデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
63	クワ	II	SX-02	A~C-1~3	19.76	1.20		溝状	皿状	
64	クワ	II	SX-03	A・B-4	7.70	1.42		不定形	皿状	帯状の硬化面
65	クワ	II	SX-04	A~C-1~3	20.0	1.40	0.10			波状の硬化面 土師器・須恵器が出土
42	クワ	II	SX-05	A・B-1	2.50	2.50				土器散布 2.5×2.5
147	クワ	VIII	SX-01	C・D-6	2.41	1.08	0.30	不定形	皿状	焼土とカーボン集中 プランは確認できず
147	クワ	VIII	SX-01 P-01	D-6	0.62	0.59	0.30	不定形	V字状	
147	クワ	VIII	SX-01 P-02	D-6	0.57	0.30~	0.08	不定形	皿状	
147	クワ	VIII	SX-01 P-03	D-6	0.62	0.60	0.19	円形	すり鉢状	
150	クワ	VIII	SX-02	C-11・12	4.32	3.06	0.92	隅丸長方形	凹状	
150	クワ	VIII	SX-02 P-01	C-12	0.60	0.45	0.44	楕円形	すり鉢状	
150	クワ	VIII	SX-03	G・H-10・11	5.30	3.90	1.08	隅丸長方形	凹状	
147	クワ	VIII	SX-04	E-7	1.48	0.85	0.10	不定形	皿状	
151	クワ	VIII	SX-05	G-9	3.44	1.00	0.26	不定形	凹状	
141	クワ	06-I b	SX-01	E-2	1.90	1.98	0.48	方形	凹状	
141	クワ	06-I b	SX-02	H-3	2.30	1.32~	0.23	楕円形	凹状	
141	クワ	06-I c	SX-04	M-10	1.48	0.44	0.07	不定形	皿状	
143	クワ	06-II a	SX-03	O-14	1.69	1.18	0.26	不定形	皿状	
161	ゴナ	I	SX-01	D-6	4.74	3.04	0.55	楕円形	凹状	カーボン集中
50	ゴナ	II	SX-02	I・J-16						土器集中区
51	ゴナ	II	SX-04	I・J-16						土器集中区

第5表 出土遺物観察表(石器) 1 在地産An: 風化のある安山岩 阿蘇火砕流堆積物等に含まれる安山岩 腰岳ob: 腰岳産黒曜石 Aso-4ob: 阿蘇4火砕流堆積物中の黒曜石 良質An: 西九州産安山岩の可能性あり

挿図	報番	実測番号	出土地点				器種	石材	量			備考	
			調査区	出土レベル(m)	グリッド	層位			取上げNo.	包含層	長(cm)		幅(cm)
20	1	469	クワ	I		VI層~V層	ナイフ形石器	輝緑凝灰岩	3.3	1.3	0.6	1.96	二朝辺加工の小型ナイフ
20	2	466	クワ	I	B-5	IV層直上 二カ直上	ナイフ形石器	在地産An	2.7	1.9	0.7	2.47	やや白く風化 基部欠損
20	3	468	クワ	I		畚土中	角錐状石器	良質An	5.5	2.0	1.3	15.19	やや黒色 西九州産 ^カ
20	4	480	クワ	VI	D-7	IV層	台形縁石器	チャート	3.2	2.3	0.9	4.51	
20	5	467	クワ	I		不明	細石刃	Aso-4ob	2.3	0.7	0.3	0.41	やや風化 シマ多く入る 三条全て上から割離だがやや幅広い 打面狭く頭部調整痕
20	6	474	クワ	III		畚土中	細石刃	輝緑凝灰岩	1.7	0.6	0.2	0.19	上下欠損 白く風化
20	7	605	クワ	IV	B-2	IV層	細石刃	腰岳ob	2.3	2.2	0.5	1.8	打面狭く頭部調整痕
20	8	610	クワ	不明		不明	細石刃	Aso-4ob	2.1	0.6	0.2	0.24	打面狭い ガジリ
21	9	471	クワ	II		不明	ナイフ形石器	流紋岩	4.1	1.2	0.6	2.01	二朝辺加工ナイフ 大野川流域
21	10	470	クワ	II	B-3	不明	剥片	輝緑凝灰岩	4.0	2.0	1.0	10.21	やや風化 縦長剥離 先端部欠損
21	11	642	クワ	II		V~IV層	石核	Aso-4ob	1.8	1.9	0.8	1.77	
21	12	644	クワ	II		V~IV層	剥片	Aso-4ob	1.9	2.5	0.7	2.53	
21	13	643	クワ	II		V~IV層	石核	Aso-4ob	2.1	2.3	1.4	6.83	
21	14	641	クワ	II		V~IV層	石核	Aso-4ob	2.0	2.6	1.9	7.22	
25	15	636	クワ	VIII	F-4	攪乱	ナイフ形石器	良質An	5.0	1.6	0.8	4.48	基部加工の小型ナイフ 白色風化 西九州産 ^カ
25	16	639	クワ	VIII	F-4	V層	ナイフ型石器	チャート	4.3	2.0	0.6	5.51	最先端部欠損 切出型ナイフ(狸谷型ナイフ)
25	17	640	クワ	VIII	E-5	V層	角錐状石器	輝緑凝灰岩	5.7	1.8	1.7	16.69	最先端部欠損
25	18	486	クワ	VIII	市松27	IV層	細石刃	腰岳ob	2.1	0.5	0.4	0.19	層的には落ち込み 打面狭い
25	19	489	クワ	VIII	市松16	IV層	剥片	Aso-4ob	0.6	1.3	0.2	0.19	剥離面はそう風化していない
25	20	4	クワ	VIII	市松18	IV層	二次加工のある 剥片	腰岳ob	2.1	3.0	0.8	3.10	ガジリ 風化
25	21	635	クワ	VIII	C-10	V~VI層	台形縁石器	腰岳ob	1.9	1.8	0.4	0.94	ガジリ
25	22	539	クワ	VIII	市松10 E-8	VI層~IV層	台形縁石器	良質An	2.1	2.7	0.9	3.53	西九州産 ^カ
26	23	488	クワ	VIII	市松2	IV層	剥片	不明	5.4	2.8	1.6	10.34	珪質の強い石材 黒曜石 ^カ
26	24	541	クワ	VIII	市松4	IV層~IV層	剥片	在地産An	5.2	2.3	1.3	10.63	風化 トロトロ
26	25	485	クワ	VIII	市松25	VI層	二次加工剥片	良質An	4.3	2.0	0.9	5.89	縦長剥片
26	26	487	クワ	VIII	市松2	IV層	剥片	在地産An	3.7	5.0	0.9	11.43	風化
26	27	519	クワ	VIII	市松27 G-11	IV層	サイドスクレイパー	輝緑凝灰岩	10.5	4.4	2.4	99.65	大素素材
30	28	497	ゴナ	I	B-5	VI層	剥片	輝緑凝灰岩	6.2	2.4	1.3	16.59	角錐状石器の素材 ^カ
30	29	638	ゴナ	I	A-56	IVb層	ナイフ形石器	良質An	3.8	1.4	0.9	3.78	ほぼ二朝辺にブランディング加工 西九州産 ^カ

第5表 出土遺物観察表(石器) 2

挿図	報番号	実測番号	出土地点				器種	石材	法量				備考		
			調査区	出土レベル(m)	グリッド	層位			取上げNo.	包含層	長(cm)	幅(cm)		厚(cm)	重(g)
30	30	16	ゴナ	I				二次加工剥片	在地産An	0.2	3.8	1.0	4.65	横長剥片	
30	31	496	ゴナ	I		IVa層 (アカホヤ層)		剥片	良質An	3.7	16.4	0.5	3.53	旧石器の可能性 やや白く風化 基部欠 縦長剥片	
30	32	495	ゴナ	I	B-5	IVb層 (アカホヤ層)		角錐状石器	腰岳ob	4.2	1.7	1.2	7.96	やや風化 ガジリ 下部欠損	
30	33	637	ゴナ	I	C-6	IVb層 (アカホヤ層)		ナイフ形石器	良質An	4.8	1.7	1.1	7.83	表面は風化によりやや白色 西北九州産 ^ホ 両端部は欠損 国府系の横刺ぎナイフ	
30	34	634	ゴナ	I		VI層	58	ナイフ形石器	腰岳ob	1.7	1.1	0.4	0.73	二側刃加工ナイフ 先端部欠損	
30	35	11	ゴナ	I		VII層	264	剥片	腰岳ob	1.3	2.1	0.5	0.83	小型の横長剥片	
31	36	8	ゴナ	I		V層	87	細石刃	腰岳ob	1.0	0.5	0.1	0.05	上下端欠損	
31	37	9	ゴナ	I		V層	103	細石刃	腰岳ob	1.6	0.6	0.1	0.16	微細片痕 上下端欠損	
31	38	14	ゴナ	I		VI層	96	剥片	在地産An	2.7	2.1	1.4	5.14	上部欠損	
31	39	490	ゴナ	I		VI層	90	細石刃	腰岳ob	1.5	0.4	0.2	0.12	上下端欠損	
31	40	6	ゴナ	I		V層	89	細石刃	腰岳ob	1.1	0.5	0.1	0.08	上下端欠損	
31	41	12	ゴナ	I		VI層	26	剥片	腰岳ob	2.5	2.1	0.4	1.00	下部欠損 微細剥離痕	
31	42	19	ゴナ	III	市松3	VI層		二次加工剥片	腰岳ob	2.1	2.5	1.1	4.01	礫面残る	
31	43	18	ゴナ	II	市松9 (H-16)	VI層~VII層		剥片	Aso-4ob	2.3	1.4	0.5	1.41	漆黒曜石 シマ模様入る	
31	44	13	ゴナ	I		VI層	122-1	剥片	在地産An	3.9	2.8	1.5	9.10	阿蘇産An	
18	取88		クワ	II		V~VII層	No.88	剥片	象ヶ鼻産 溶結凝灰岩	3.2	2.5	1.0	7.07	サビ状の風化面 一部にガジリ	
18	取115		クワ	II		V~VII層	No.115	砕片	腰岳ob	1.7	0.9	0.5	2.20	一部に礫面残す	
18	取151		クワ	II		V~VII層	No.151	砕片	不明ob	1.1	1.4	0.4	2.16	黒曜石 小片で不明	
18	取83		クワ	II		V~VII層	No.83	砕片	在地産An	1.7	1.2		2.15	一部ガジリ 白く風化	
18	取121		クワ	II		V~VII層	No.121	砕片	Aso-4ob	0.8	1.3	0.2	1.92	縞模様入る	
18	取125		クワ	II		V~VII層	No.125	砕片	Aso-4ob	1.6	1.2	0.4	2.24	縞模様入る	
18	取159		クワ	II		V~VII層	No.159	砕片	不明ob	1.5	1.3	0.4	2.10	姫島産obの可能性 色調はスリガラス状の白色系 黒の斑点多く一部礫面を残す	
18	取123		クワ	II		V~VII層	No.123	砕片	Aso-4ob	1.1	1.4	0.2	1.97	石灰っぽい艶を呈す 縞模様入る	
18	取147		クワ	II		V~VII層	No.147	砕片	在地産An	1.2	1.9	0.4	2.33	阿蘇産安山岩 縞模様入る	
18	取56		クワ	II		V~VII層	No.56	砕片	在地産An	1.2	1.2	0.4	2.15	阿蘇産安山岩 やや白く風化しており縞模様入る	
18	取150		クワ	II		V~VII層	No.150	砕片	在地産An	3.1	2.8	1.1	6.81	阿蘇産安山岩 表面に空洞が多く所々に輝石も入る	
18	取19		クワ	II		V~VII層	No.19	砕片	良質An	0.8	1.7	0.4	2.18	色調はやや青っぽい やや良質 西九州産 ^ホ	
18	取103		クワ	II		V~VII層	No.103	剥片	在地産An	4.5	1.8	0.8	7.72	阿蘇産安山岩と考えられる やや白く風化 輝石が所々に入る	

第5表 出土遺物観察表(石器) 3

挿図	報番	実測番号	出土地点				器種	石材	量			備考		
			調査区	グリッド	層位	取上げNo.			包含層	幅(cm)	厚(cm)		重(g)	
														長さ(cm)
18	取104		クワ	II	76.125	V~VII層	No.104	○	2.5	1.7	1.1	6.96	一面のみ剥片剥離 残りは礫面	
18	取69		クワ	II	75.887	V~VII層	No.69	○	1.5	2.0	1.0	4.73	一面のみ剥片剥離 残りは礫面	
18	取101		クワ	II	76.135	V~VII層	No.101	○	2.0	1.8	0.9	4.51	一面のみ剥片剥離 残りは礫面	
18	取65		クワ	II	76.196	V~VII層	No.65	○	1.8	2.3	0.9	5.24	一面のみ剥片剥離 残りは礫面	
18	取58		クワ	II	76.306	V~VII層	No.58	○	1.8	1.6	0.8	3.87	上下より剥片剥離 残りは礫面	
18	取59		クワ	II	76.161	V~VII層	No.59	○	2.1	2.1	0.8	5.20	主要剥離面以外は礫面	
18	取100		クワ	II	76.108	V~VII層	No.100	○	2.8	1.8	1.3	9.50	Aso-4obと同じ大きさの小礫の安山岩 Aso-4中に含まれるものと思われる 主要剥離面以外は礫面	
18	取84		クワ	II	76.156	V~VII層	No.84	○	1.5	2.4	0.9	3.66	一部に厚礫面を残す	
18	取96		クワ	II	76.11	V~VII層	No.96	○	1.8	2.4	0.4	2.74	一部に厚礫面を残す	
18	取86		クワ	II	76.213	V~VII層	No.86	○	2.1	2.1	0.8	4.21	主要剥離面以外は礫面	
18	取102		クワ	II	76.097	V~VII層	No.102	○	2.7	2.3	0.9	6.12	一部に厚礫面を残す	
27	取113		ゴナ	I	78.092	VI層	No.113	○	1.5	2.2	1.4	4.02	石材はいずれにせよ西北九州産ob 良質 小型の石核	
27	取333		ゴナ	I	78.209	VII層	No.333	○	2.7	2.4	0.6	3.60	一部に厚礫面を残す	
27	取66		ゴナ	I	78.309	VI層	No.66	○	0.8	1.0	0.1	1.54	色調は白色	
27	取91		ゴナ	I	78.505	VI層	No.91	○	1.0	1.1	0.2	1.31		
27	取334		ゴナ	I	78.224	VII層	No.334	○	1.1	2.2	0.6	2.37		
22	取17		クワ	VIII	75.895	市松21	11-No.17	○	2.0	2.0	0.5	2.76	一部に厚礫面を残す	
22	取20		クワ	VIII	75.103	市松18 F-9	11-No.20	○	2.2	0.9	0.8	3.09	一部に厚礫面を残す	
22	取8		クワ	VIII	75.746	市松18	11-No.8	○	2.0	2.3	0.3	2.44	一部に厚礫面を残す	
22	取43		クワ	VIII	75.266	市松25	11-No.43	○	2.1	1.6	0.7	2.85	珪質が強い石材 微細剥離痕 上部欠損	
Ph.14	546	写真のみ	クワ	II	-	-	-	○	1.5~	0.6	0.2	0.15	頭部調整 先端部ガジリによる欠損 縦溝様	
Ph.14	547	写真のみ	クワ	II	-	B-3~5 C-3~5	-	○	1.1~	0.7	0.3	0.17	頭部調整 先端部欠損 表面三条上方向よりの剥離痕	
Ph.15	548	写真のみ	クワ	VIII	-	F-7	-	○	8.1	2.8	1.3	19.16	石材は灰白色のob 椎葉川産の 石核は灰白色のob 椎葉川産の 縦長の剥片 上位打面として剥出 IVb層からの出土であるが旧石器 の剥片の可能性 一部ガジリ やや良質	
挿図	報番	実測番号	出土地点				器種	石材	量			備考		
			調査区	遺構	グリッド	層位			取上げNo.	包含層	長さ(cm)		幅(cm)	厚(cm)
35	45	598	クワ	06-Ic	5号集石	G-6	V層	1	9.7	7.7	4.9	418.50	安山岩	
77	86	624	クワ	III	SH-05				37.1	16.0	17.0	7200.00	凝灰岩	
77	87	625	クワ	III	SH-05				24.4	16.2	15.3	3900.00	凝灰岩	
127	179	616	クワ	IV	SB-01 Pit7		埋土上 (皿層上)		18.9	10.0	7.8	1456.40	砂岩	
150	190	611	クワ	VIII	SX-02		埋15	1	2.6	2.1	0.4	2.90	蛇紋岩	
155	191	623	クワ	VIII	ST-04			1	27.0	19.2	5.9	4867.00	安山岩	
191	463	484	クワ	VIII		市松5	VI~VII層	1	6.3	2.2	0.9	12.23	安山岩 尖頭器	

第5表 出土遺物観察表(石器) 4

挿図	報番	実測番号	出土地点				器種	石材	法量			備考		
			調査区	遺構	グリッド	層位			取上げNo.	包含層	長(cm)		幅(cm)	厚(cm)
191	464	520	クワ	Ⅲ	D-3	Ⅱ層下位		石鏃	黒曜石	2.3	2.0	0.6	1.72	
191	465	521	クワ	Ⅵ		調査区一括		石鏃	黒曜石	1.1	1.2	0.3	0.25	
191	466	522	クワ	Ⅵ	C-5	Ⅲb層一括		石鏃	安山岩	1.4	1.5	0.2	0.27	
191	467	524	クワ	Ⅵ	C-5	赤木ヤ下		石鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.28	
191	468	525	クワ	Ⅱ	B-3	Ⅲ層上位		石鏃	安山岩	1.6	1.4	0.3	0.64	
191	469	526	クワ	Ⅱ	G-2	Ⅲ層上位		石鏃	黒曜石	1.4	1.3	0.5	0.68	
191	470	529	クワ	Ⅵ	D-5	Ⅲb層一括		石鏃	チャート	1.6	1.2	0.4	0.53	
191	471	549	クワ	Ⅰ	B-6	Ⅲ層上		石鏃	黒曜石	1.9	1.4	0.3	0.40	姫島産黒曜石
191	472	533	クワ	Ⅵ	D-7	Ⅲb層一括		石鏃	安山岩	2.5	1.8	0.6	1.64	
191	473	534	クワ	Ⅵ	D-5	Ⅲb層		石鏃	黒曜石	1.4	1.0	0.2	0.25	
191	474	527	クワ	Ⅰ	B-6	Ⅲ層上位		石鏃	安山岩	2.4	1.4	0.3	0.58	
191	475	538	クワ	Ⅲ	F-3	Ⅱ層下位		石鏃	安山岩	3.6	1.9	0.8	3.34	
191	476	536	ゴナ		D-5	Ⅳb層		石鏃	安山岩	3.7	1.7	0.5	1.91	
191	477	657	クワ	06-II a	M-17	V層	497	打製石鏃	黒曜石	3.3	1.8	0.5	2.17	基部の一部欠損
191	478	32	ゴナ		市松0 C4	Ⅵ層		石鏃	黒曜石	1.6	1.8	0.3	0.60	
191	479	33	クワ	Ⅵ	D-5	Ⅲb層一括		石鏃	黒曜石	1.2	1.8	0.4	0.67	
191	480	530	クワ	Ⅵ	D-6	Ⅳ層暗褐色土		石鏃	安山岩	3.2	1.4	0.3	1.30	
191	481	550	ゴナ		E-4	Ⅳb層		石鏃	黒曜石 (姫島産)	(4.0)	(1.4)	0.4	2.50	扶部深さ(0.2cm) 基部刃部先端欠損
191	482	548	クワ	Ⅷ	市松19	Ⅷ層	11-No.3	石鏃	黒曜石	(2.9)	(1.5)	0.4	1.60	扶部深さ0.35cm 基部の一部欠損
191	483	528	クワ	Ⅲ	SH-11	埋Ⅱ層中 Ⅱ層 溝掘時一括		石鏃	黒曜石	2.4	1.3	0.3	0.57	
191	484	509	クワ	Ⅰ				石匙 <small>カ</small>	安山岩	3.1	1.2	0.5	1.44	
191	485	596	ゴナ	Ⅰ	F-3		17	石包丁	粘板岩	2.7	3.7	0.6	9.01	
191	486	482	クワ	Ⅷ	E-11	Ⅳb層		石匙	安山岩	4.6	7.2	1.5	33.59	
192	487	516	ゴナ	Ⅰ	C-8	Ⅳb層一括		石匙	安山岩	6.5	5.0	0.9	24.68	
192	488	1	クワ	Ⅷ		Ⅳb層		石匙	チャート	2.6	3.6	0.6	4.06	
192	489	517	ゴナ	Ⅲ	L-6		1	石匙	安山岩	2.9	3.8	0.8	6.48	
192	490	514	ゴナ	Ⅰ	D-3 市松8	V層	1	石匙	安山岩	6.7	2.3	0.9	9.69	
192	491	512	クワ	Ⅵ		調査区一括		石匙	チャート	3.0	4.0	0.9	8.27	
192	492	518	クワ	06-II a	O-15G	V層	579	石匙	安山岩	3.0	4.5	0.7	6.13	
192	493	511	クワ	Ⅱ	A-2	Ⅲ層上位		石匙	チャート	3.4	4.5	0.8	6.03	
192	494	483	クワ	Ⅷ	C-10	Ⅳb層		石匙	安山岩	4.7	9.6	1.1	27.20	
193	495	479	クワ	Ⅳ		Ⅲ層 アカホヤ		石匙	安山岩	3.9	9.0	1.1	21.78	
193	496	473	クワ	Ⅲ	D-2	Ⅲ層上位		サイドスクレイパー	黒曜石	4.5	1.4	0.8	3.17	
193	497	498	ゴナ	Ⅰ		表土ハギ		サイドスクレイパー	黒曜石	3.4	2.5	0.5	3.57	
193	498	502	ゴナ	Ⅱ	H-18	V層		サイドスクレイパー	チャート	5.3	3.0	1.2	19.02	

第5表 出土遺物観察表(石器) 5

挿図	報番	実測番号	出土地点				器種	石材	法量			備考	
			調査区	遺構	グリッド	層位			取上げNo.	包含層	長(cm)		幅(cm)
193	499	505	クワ	06-II a	N-176	V層	縦長剥片	安山岩	6.5	2.7	1.1	15.92	
193	500	491	ゴナ	I	B-4	IVb層	縦長剥片	黒曜石	3.6	1.8	0.7	2.01	
193	501	540	クワ	VIII		カクラン	剥片	チャート	3.5	2.1	1.4	8.68	
193	502	17	ゴナ	I		V層	剥片		3.1	1.3	1.4	2.54	
193	503	515	ゴナ	I		IVa層							
193	504	507	クワ	06-I a			打製石斧	安山岩	6.0	4.0	1.6	42.90	表採
193	505	506	クワ	06-II a	M-17	V層	エンドスクレイパー	黒曜石	3.4	2.5	0.7	3.74	
193	506	543	クワ	III	市松25	V層	剥片	流紋岩	2.8	1.7	0.6	2.45	
193	507	510	クワ	II	B-2	皿層上位	剥片	安山岩	3.2	5.4	1.3	16.38	
193	508	499	ゴナ	I	A-6	V層	剥片	輝緑凝灰岩	4.2	4.2	1.0	11.95	
194	509	493	ゴナ			試掘トレンチ	サイドスクレイパー	黒曜石	3.3	2.4	1.0	7.43	
194	510	477	クワ	IV		表土ハギー拵	二次加工 横長剥片	黒曜石	3.2	1.1	0.6	1.22	
194	511	481	クワ	VIII		北削皿層	剥片	安山岩	3.2	1.1	0.6	1.71	
194	512	500	ゴナ	II	J-17	IVa層	サイドスクレイパー	黒曜石	3.5	1.8	0.6	2.69	
194	513	513	ゴナ	I	C-4	IVb層一拵	剥片	チャート	2.8	3.4	0.8	5.36	
194	514	476	クワ	IV		表土 赤ホヤ	縦長剥片	黒曜石	7.3	1.6	1.3	5.28	
194	515	475	クワ	III	D-3	皿層上	二次加工 横長剥片	安山岩	1.5	3.8	1.1	5.27	
194	516	494	ゴナ	I	C-4	IVb層一拵	エンドスクレイパー	黒曜石	2.0	2.1	0.6	1.96	
194	517	546	ゴナ	I	D-3	V層	剥片	安山岩	2.1	2.7	0.4	1.56	
194	518	492	ゴナ	I	A-5	IVb層一拵	調整痕有剥片	黒曜石	2.4	2.4	0.9	3.77	
194	519	508			F-3	一拵	縦長剥片	安山岩	6.0	4.9	0.9	19.52	
194	520	547	ゴナ	I	E-3 市松A	V層	二次加工のある石器	安山岩	5.1	1.8	1.1	9.50	
194	521	504	ゴナ	III		V層下位一拵	使用痕有る石器	安山岩	3.0	4.1	1.5	11.03	
194	522	544	ゴナ	I	A-5 市松I	V層	剥片	安山岩	4.3	3.0	0.8	5.63	
195	523	478	クワ	V	C-5	V層一拵	サイドスクレイパー	安山岩	8.0	3.6	1.7	44.97	
195	524	627	ゴナ	I	D-8		打製石器	安山岩 (輝石安山岩)	15.2	7.4	2.1	247.10	刃部幅6.2cm 縁刃全体が敲打による顕著な形成痕 表裏面の一部は調整による磨痕残存 刃部は使用痕
195	525	645	ゴナ		D-4	IVb層一拵	打製石斧	安山岩	16.0	7.6	2.8	473.20	刃部幅7.5cm 全体が磨滅気味 縁刃全体に敲打による形成痕 表裏面は磨痕
195	526	5	クワ	VIII	D-12		局部磨製石斧	緑色片岩	10.8	4.0	1.4	89.40	
196	527	628	ゴナ		D-8	IVb層	敲き石 (磨製石斧)		10.2	4.2	3.1	152.70	基部欠損 全面に形成の為の顕著な磨痕 側面部と表裏面、刃部に敲打痕
196	528	592	クワ	II	A-2	皿層上位	局部磨製石器	安山岩	12.3	7.1	1.9	153.60	刃部に顕著な磨痕 ばち型石斧
197	529	621	ゴナ		C-4	IVb層	礫石器	安山岩	30.1	20.9	11.5	8850.00	
197	530	622	ゴナ		B-7	IVb層	石皿	火成岩 安山岩	24.0	20.0	9.5	7200.00	

第5表 出土遺物観察表(石器)6

挿図	報番	実測番号	出土地点				器種	石材	法量				備考
			調査区	遺構	グリッド	層位			取上げNo.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	
197	531	614	クワ	Ⅷ	E-5		砥石	安山岩	9.7	5.3	4.2	332.80	
198	532	609	クワ	Ⅱ			砥石	滑石	4.5	7.3	1.3	63.39	
198	533	597	クワ	06-I b		表土層一括	遊具	滑石	1.3	1.3	0.6	1.82	
198	534	619	クワ	Ⅲ		Ⅲb層 (兼土ハギ)	砥石	滑石	3.3	5.0	1.8	42.92	
198	535	601	クワ	06-II a	0-17	V層	用途不明石器	安山岩	4.2	4.0	1.4	34.63	

第6表 出土遺物観察表（土器）1

植図 番号	報告 番号	実測 番号	調査区			出土地点			種別	器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			調査区	遺構	グリッド	層位	取上げNo.	口径			底径	器高	外面	内面	外面	内面		
35	46	570	クワ 06-I	6号 6号墓石 土器 集中区	F-6 F-6	V層 V層	2	縄文土器	深鉢	燃糸文後ナデ	燃糸文後ナデ	7.5R4/6褐	7.5R5/4にふい楊	長石・石英・角閃石・輝石 大粒の石粒	尖底内面が摩滅			
36	47	459	クワ 06-I			清掃一括 素土一括		縄文土器	浅鉢	工具ナデ	ナデ	10YR7/4にふい黄橙 10YR3/1黒褐	10YR6/3にふい黄橙	長石・石英・角閃石 2mm以内の茶色粒・黒色粒・砂粒	黒斑 スス付着 口縁外面に沈線 内外面共に摩滅			
37	48	480	クワ 06-I		D-7	V層下層		縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	10YR7/4にふい黄橙 10YR4/2灰黄褐	10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石 6mm以内の黒・砂粒・茶色粒 白色粒	外面にスス付着 外面に精円押型文			
38	49	579	クワ 06-I		C-6 C-6	V層	1・2・4・5・ 8・10・11 211	縄文土器	深鉢	横ナデ	横ナデ・工具ナデ	10YR6/4にふい黄橙 10YR4/1褐灰	10YR5/2灰黄褐	長石・石英・角閃石・輝石・石粒 (多い)	外面がやや摩滅している 外面の腹部下部はスス 精円押型文			
40	50	464	クワ 06-II a	S1-03		一括		縄文土器	深鉢	条痕状	ナデ	2.5YR4/6・4/8赤褐 2.5YR3/6暗赤褐 5YR2/3暗赤褐 2.5YR3/1暗赤灰 5YR6/8橙・10YR5/6黄褐 10YR6/6明黄褐 7.5YR4/3褐 7.5YR4/2灰褐	2.5YR5/6・5・8明赤褐	長石・石英・角閃石・全雲母 黒曜石・白色粒・黒色粒・茶色粒 7mm以下の塵	内外面共に黒斑			
42	51	6	クワ II	SX-05	B-1・2	III層上		縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	10YR7/3にふい黄橙 10YR4/4褐	10YR4/2灰黄褐 10YR6/3にふい黄橙	長石・石英・2mm以内の茶色粒 黒色粒	沈線			
42	52	7	クワ II	SX-05				縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	10YR4/4褐	10YR5/6黄褐 10YR3/2黒褐	長石・石英・角閃石・1mm以内の 白色粒・茶色粒	刻目突帯			
42	53	12	クワ II	SX-05	B-1	III層上	1・2・3・9・ 25	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	5YR6/6明赤褐 5YR4/6赤褐	7.5YR5/6明褐	長石・石英・滑石・雲母・白色粒 茶色粒・黒色粒				
2	54	13	クワ II	SX-05	A-1	III層上		縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	7.5YR5/6明褐 7.5YR4/6褐	7.5YR5/4にふい楊 7.5YR4/4褐	長石・石英・角閃石・雲母 3mm以内の茶色粒・白色粒	阿高式			
42	55	576	クワ II	SX-05			29・30-1 30-2	縄文土器	深鉢	横ナデ・工具による横ナデ	横ナデ・ナデ・工具ナデ	10YR5/3にふい黄褐	10YR5/4にふい黄楊	長石・石英・角閃石・輝石	外面に凹線文 阿高式			
56	56	37	クワ VIII	ST-09		IVb層	1・5・6・7・ 8・9・10・ 11・12・ 13・14	縄文土器	浅鉢	ナデ・ミガキ	ナデ	10YR7/4にふい黄橙 10YR3/2黒褐	10YR5/3にふい黄楊 10YR3/1黒褐	長石・石英・角閃石・金雲母 1mm以内の白色粒・茶色粒 3mm以内の塵	外面摩滅			
45	57	33	クワ VIII	ST-11	E-6	IVa層	2	縄文土器	深鉢	ミガキ	ナデ	10YR6/4にふい黄橙 10YR3/1黒褐	10YR7/4にふい黄橙 10YR3/2黒褐	長石・石英・角閃石・金雲母 白色粒・黒色粒	内外面共に摩滅 沈線			
50	58	427	コナ VIII	SX-02	F-4	IVb層	16	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	10YR3/1~3/2黒褐 10YR4/2灰黄褐	10YR6/6明黄褐	石英・黒曜石・1mm以下の白色粒 黒色粒・3mm以下の塵を少量	外面に条痕文			
50	59	448	コナ II	SX-02			11・14・15	縄文土器	深鉢	工具ナデ・工具ナデ後ナデ	工具ナデ後ナデ	10YR5/3~4/1 にふい黄褐~灰黄褐	10YR6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・茶色粒	外面にスス付着			
51	60	428	コナ II	SX-04			19	縄文土器	浅鉢	ミガキ	ミガキ	10YR3/2黒褐	10YR5/3にふい黄楊 10YR2/1黒	長石・石英・角閃石・1mm以内の 白色粒・黒色粒・茶色粒	外面は摩滅 外面に沈線			
51	61	447	コナ II	SX-04			15	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	10YR4/4褐	10YR6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・黒曜石 白色粒・黒色粒・赤色粒・砂粒	外面に条痕文			

第6表 出土遺物観察表(土器) 2

補図 番号	報番 番号	実測 番号	調査区	遺構	出土地点		種別	器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
					グリッド	層位			口径	底径	器高	外面	内面	外面		
51	62	429	コナ	SX-02	取上げNo.	1-16 J-15	縄文土器	深鉢	(32.3)	22.6~	ナデ	10YR3/1黒褐 7.5YR6/6-8橙 7.5YR5/6明褐	7.5YR6/6・6・8橙	長石・石英・角閃石・黒曜石 2mm以下の白色粒・黒色粒 茶色粒・5mm~3mm以下の礫	内面の一部と外面腰部に黒斑(ス ス底の)・外面上部に赤斑文	
				SX-04	2・13・17											
				II	1・2・5・8											
				II	IVa層											
52	63	450	コナ	II	IV層	J-9	深鉢	深鉢	10YR6/4にぶい黄橙	9.1~	ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	2.5Y6/4にぶい黄	長石・石英・角閃石・黒曜石 白色粒・黒色粒	外面に赤斑文	
				II												IV層
				III												IV層
				III												IVb層
55	64	462	クワ	S1-01	一括	I	土師器	蓋	18.4	10.1	ナデ・横ナデ・ハケ目	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR6/4にぶい黄 7.5YR7/3にぶい橙	長石・石英・角閃石 4mm以内の礫・茶色粒 白色粒・砂粒	外面にスス付着 内面に接合痕 臍骨器	
				S1-01												2
				S1-01												2
				S1-02												1
60	67	2	クワ	SH-01	1層	I	土師器	鉢	(12.9)	(8.7)	回転ナデ・回転ヘラ切り	10YR8/3浅黄橙 10YR7/3にぶい黄橙 10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙 10YR7/3にぶい黄橙 10YR8/4浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 5mm以下の礫	外面の側面と底部にスス	
				SH-01												3-6
				SH-01												1
				SH-01												1
68	68	3	クワ	SH-01	2層清掃	I	須臾器	高台付坏	11.7	11~	回転ナデ・工具ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	5Y6/1灰 5Y6/2灰オーブ	5Y7/2灰白	石英・4mm以下の白色粒 黒色粒3mm以下の礫	内外面に墨の痕 転用確か	
				SH-01												1
				SH-01												1
				SH-01												1
67	70	14	クワ	SH-01	2層清掃	II	須臾器	高坏	19.7 ~21.5	12.7	カキメ	10YR7/3にぶい黄橙 2.5Y6/1黄灰	10Y7/1灰白 10YR3/1黒褐 2.5Y6/1黄灰 10YR3/4暗褐	脚部内面に沈積 最大6.4cm~最大6.0cm脚部底部歪 みの為脚部に接熱の差が見られる		
				SH-01											1・2・3・5 6・7・9	
				SH-01											1	
				SH-01											1	
70	71	80	クワ	SX-04	II層下 III層上 III層下 III層下	II	須臾器	鉢	78~	12.7	削り後ナデ	10YR7/4にぶい黄橙 10YR3/1黒褐 5YR5/4にぶい赤褐	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・黒曜石 7mm以内の礫・白色粒・茶色粒 砂粒	外面に黒斑 把手部分に彩色(赤彩)	
				SX-04												1
				SX-04												6
				SX-04												3
70	72	81	クワ	ST-01	2層	III	土師器	甕	(22.0)	15.4~	ナデ・横ナデ・ハケ目	10YR8/4浅黄橙 10YR7/2灰黄褐	10YR7/3にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 3mm以内の礫・黒色粒・茶色粒 砂粒	外面口縁部に工具痕 脚部外面にスス付着 外面に一部彩色(赤彩)	
				ST-01												3
				ST-01												3
				ST-01												3
70	73	82	クワ	ST-01	2層	III	土師器	甕	(14.2)	22.6~	ナデ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR3/2黒褐	10YR7/2にぶい黄橙 10YR3/1黒褐	長石・石英・角閃石 5mm以内の礫・茶色粒・白色粒 砂粒	内外面共にスス付着	
				ST-01												7-8
				ST-01												7-8
				ST-01												7-8
71	74	79	クワ	SH-01	2層	III	須臾器	環蓋	13.4~	13.4~	叩き	5Y6/1灰 10Y4/1灰	5Y6/1灰	長石・石英・5mm以内の礫 白色粒・黒色粒・砂粒	内外面共にスス付着	
				SH-01												1・9・10・ 14・16・ 17・21
				SH-01												2
				SH-01												2
73	76	85	クワ	SH-01	2層	III	土師器	甕	(17.3)	20~	ナデ	7.5YR8/4浅黄橙 7.5YR7/6橙 7.5YR7/8黄橙 5YR6/8橙	7.5YR8/4浅黄橙 7.5YR7/6橙 7.5YR7/8黄橙 5YR6/8橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 3mm以下の礫	つまみ径3.8cm	
				SH-01												2
				SH-01												2
				SH-01												2
73	77	86	クワ	SH-01	2層 床直上	III	土師器	坏	(11.1)	5.8	ナデ・ヘラ削り後ナデ	7.5YR7/8-8黄橙 5YR7/8-6/8橙 2.5Y7/3浅黄	7.5YR7/8-8黄橙 5YR7/8-6/8橙 2.5Y7/3浅黄	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・3mm以内の 茶色粒・4mm以下の礫	口縁部歪み 外面に彩色(赤彩)が一部残存	
				SH-01												1
				SH-01												1
				SH-01												1
73	78	84	クワ	SH-01	2層 床直上	III	土師器	坏	(8.0)	18~	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	10YR7/6橙 10YR7/6明黄褐	7.5YR7/6橙 10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 4mm以下の礫	外面に彩色(赤彩)が一部残存	
				SH-01												1
				SH-01												1
				SH-01												1
75	79	46	クワ	SH-03	2層下	III	須臾器	環蓋	(20.0)	22~	回転ナデ・回転ヘラ削り	2.5Y7/1灰白 2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/2灰	長石・石英・白色粒・黒色粒 3mm以下の砂粒	墨書	
				SH-03												1
				SH-03												1
				SH-03												1

第6表 出土遺物観察表（土器）3

編年 番号	報告 番号	調査区	出土地点			種別	器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			遺構	グリッド	層位			取上げNo.	口径	底径	器高	外面	内面		
75	80	クワ	SH-03		6	土師器	坏	(138)	(68)	29~	回転ナデ	10R8/6黄緑 75R8/6浅黄緑	75R7/6緑 25R7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・4mm以内の 茶色粒・3mm以内の隈	全体糖滅
75	81	クワ	SH-03			土師器	甕	(166)	50~		ナデ	25R7/6橙 10R3/4暗赤 10R8/4浅黄緑	5R7/6橙 10R8/6黄緑	角閃石・雲母・2mm以下の赤白粒 1mm以下の白色粒・黒色粒 3mm以下の隈	内面の一部に彩色(赤彩)残存 内面頸部に黒斑
75	82	クワ	SH-03		5	土師器	甕		33~		ナデ	75R8/3浅黄緑 10R 6/3にふい黄緑	10R8/3浅黄緑 10R5/2灰黄緑	角閃石・1mm以下の白色粒 黒色粒・茶色粒	口縁一部に黒斑
75	83	クワ	SH-03			土師器	甕		33~		横ナデ・工具痕	75R6/4にふい橙 75R2/1黒	75R5/4にふい褐 75R7/4にふい橙	長石・石英・角閃石・雲母・1mm 以内の黒色粒・茶色粒・白色粒	基部に工具痕 スス付着
75	84	クワ	SH-04			土師器	甕		25~		ナデ	5R6/6橙 75R7/4にふい橙	75R7/4にふい褐 75R7/4にふい橙	長石・石英・角閃石・雲母・1mm 以内の黒色粒・茶色粒・白色粒	口縁内面にスス付着 外面に彩色(赤彩)
75	85	クワ	SH-04			土師器	甕		29~		横ナデ	75R 8/2灰白 75R 8/3浅黄緑 75R6/2灰褐 75R6/3にふい褐	75R8/2灰白 75R8/3・8/4・8/6浅黄緑	長石・石英・角閃石・雲母・白色 粒・黒色粒・茶色粒 2mm以内の砂粒	全体に糖滅 外面スス付着
77	88	クワ	SH-05		2	土師器	坏	(177)	(110)	50	回転ナデ	75R6/6橙	75R6/6橙	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒	
78	89	クワ	SH-05 床直		9・11・107	土師器	坏	120	85	38	回転ナデ	10R7/1灰白 10R7/2・7/3・7/4にふい 黄緑 25R4/3にふい赤褐	5R5/3・4・3にふい赤褐 5R6/2灰褐 5R7/6橙 10R7/3にふい黄緑	長石・白色粒・黒色粒・茶色粒 3mm以下の隈	口縁部の歪み大きい
78	90	クワ	SH-05		10・104・ 106・106	須恵器	高台付坏	103	70	33~37	回転ナデ	10R4/1灰 5R3/1オリーブ黒 5R6/1灰・5/1灰	75R5/1灰 10R4/1灰	石英・角閃石・1mm以下の隈 1mm以下の白色粒・黒色粒	半径最小5.05cm~最大5.35cm 歪み
78	91	クワ	SH-05		2	土師器	坏	120	80	35	回転ナデ	25R5/6明赤褐 75R8/8黄緑	5R6/8緑・7/8橙 75R8/4浅黄緑	角閃石・雲母・3mm以下の隈 1mm以下の白色粒 2mm以下の茶色粒	内外面に一部彩色(赤彩)残存
78	92	クワ	SH-05		3	土師器	坏	135	67	40	回転ナデ	10R7/6明黄褐	10R7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・赤色粒	
78	93	クワ	SH-05		25	土師器	坏	(150)	(100)	44	回転ナデ	5R7/6橙 10R8/4浅黄緑 75R3/1黒粒・3/2黒褐	75R5/4にふい褐 75R3/1黒粒・3/2黒褐	石英・黒曜石・雲母 1mm以下の白色粒・赤色粒 2mm以下の隈	内外面の口縁部にスス付着
78	94	クワ	SH-05 床直		4・28	須恵器	壺	(198)	75~		回転ナデ・工具ナデ	5R2/1黒	5R4/1灰	長石・黒曜石・白色粒・黒色粒	表面に自然釉
79	95	クワ	SH-05			土師器	坏		30~		ナデ	75R7/6橙	75R7/6橙	長石・白色粒・茶色粒 2mm以内砂粒含む	外面に刻畫
79	96	クワ	SH-05		101	土師器	坏	134	80	43	回転ナデ	75R7/4にふい橙	75R7/4にふい橙	石英・角閃石・雲母 5mm以内の隈・白色粒・黒色粒	刻畫
79	97	クワ	SH-05		102・103	土師器	高台付坏	189	124	60~62	回転ナデ	25R6/6橙 5R7/8橙	25R6/6橙 5R7/8橙	石英・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・黒色粒 赤色粒・7mm以下の隈	内外の全面に彩色(赤彩)
79	98	クワ	SH-05		30	土師器	灯明皿	130	98	27	回転ナデ	10R7/3にふい黄緑 10R1/2黒	10R8/2灰白 10R1/2黒	長石・石英・4mm以内の茶色粒 砂粒	内外面口縁部にスス付着
79	99	クワ	SH-05 床直			須恵器	坏蓋	(138)	(46)	31~	回転ナデ	25R8/4浅黄	10R8/3・8/4浅黄緑	石英・角閃石・雲母・1mm以下 の白色粒・黒色粒・茶色粒	内面に彩色(赤彩)残存 つまみ径(4.6mm)
79	100	クワ	SH-05 Pit		1	土師器	甕	(292)	36~		横ナデ	10R7/6明黄褐 5R7/6橙 75R8/6浅黄緑 10R8/3浅黄緑	10R7/6明黄褐 5R7/6橙 75R8/6浅黄緑 10R8/3浅黄緑	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 8mm以下の隈含む	全体的に糖滅
79	101	クワ	SH-05			土師器	甕	(200)	42~		横ナデ	5R5/6明赤褐	5R5/6明赤褐	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・赤色粒を含む	

第6表 出土遺物観察表(土器) 4

相国 番号	報番 番号	実測 番号	調査区		出土地点		器種	調整		色調		胎土	備 考	
			調査区	遺構	グリッド	層位		取上げNo.	外側	内側	外側			内側
79	102	74	クワ	Ⅲ	SH-05 SH-14	8層	土師器	口径 (166)	底径 8.7~	器高 8.7~	外側 2.5YR6/6赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR8/6淡黄褐色 10YR4/2灰黄褐色 10YR3/6黄褐色	内側 2.5YR4/6赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR8/6淡黄褐色 10YR7/4にふい黄褐色 10YR5/2-4/2灰黄褐色	長石・石英・角閃石・金雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 3mm以下の礫	外面全体と内面の口縁部に彩色 (赤彩)
80	103	87	クワ	Ⅲ	SH-06		縄文土器		3.6~		7.5YR6/6橙	石英・角閃石・黒曜石 1mm以下の白色粒・茶色粒 1mm以下の礫	内外面の一部に黒斑	
82	104	70	クワ	Ⅲ	SH-07 SH-07	3 5.6・7・8 上層	土師器		23.7~		7.5YR7/6橙 7.5YR4/1褐灰	長石・石英・角閃石・滑石 5mm以下の礫・茶色粒・黒色粒	外面にスス付着	
82	105	94	クワ	Ⅲ	SH-07 床直	1	土師器		22~		10YR3/2黒褐	7mm以下の長石・石英・角閃石 6mm以下の礫・茶色粒・白色粒 砂粒	外面に黒斑	
85	106	92	クワ	Ⅲ	SH-08		土師器	口径 (27.0)	9.1~		7.5YR6/6橙 7.5YR8/6淡黄褐色	石英・角閃石・黒曜石・雲母 1mm以下の白色粒・黒色粒 2mm以下の茶色粒	外面に黒斑	
85	107	93	クワ	Ⅲ	SH-08 床直	1	土師器		3.0~		7.5YR6/6橙 10YR7/4にふい黄褐色	長石・石英・雲母 2mm以下の茶色粒・白色粒・砂粒	外面に黒斑	
85	108	88	クワ	Ⅲ	SH-08 床直 SH-09	2	土師器	口径 (96)	4.2~		7.5YR6/6橙 5YR7/8橙	長石・石英・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 8mm以下の礫を含む	スス付着	
87	109	67	クワ	Ⅲ	SH-09		土師器	口径 (20.0)	2.8~		7.5YR6/6橙 10YR5/3-5/4 10YR2/1黒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	ハケ目摩滅	
89	110	98	クワ	Ⅲ	SH-10 床直	8	須恵器		2.2~		7.5YR7/4にふい黄褐色 2.5YR5/6明赤褐色	長石・石英・雲母 3mm以下の茶色粒・白色粒・砂粒	内・外面共に彩色(赤彩)残存 つまみ径2.9cm	
89	111	100	クワ	Ⅲ	SH-10	2層	土師器	口径 (96)	2.8~		10YR8/3淡黄褐色 10YR7/3にふい黄褐色	長石・角閃石・雲母 2mm以下の茶色粒・黒色粒	底面から立ち上がり部分に沈線 黒斑	
89	112	99	クワ	Ⅲ	SH-10		土師器		2.7~		7.5YR6/4にふい黄褐色 7.5YR2/1黒	長石・石英・角閃石・4mm以下の 礫・黒色粒・茶色粒・砂粒 黒斑	口縁部に工具痕	
89	113	101	クワ	Ⅲ	SH-10		土師器		2.4~		7.5YR6/4にふい黄褐色 7.5YR5/2灰褐	長石・石英・角閃石・雲母 5mm以下の茶色粒・白色粒 黒色粒	口縁部に工具痕	
89	114	103	クワ	Ⅲ VI	SH-10	2層 素土ハギ	土師器		2.1~		7.5YR7/4にふい黄褐色	長石・石英・4mm以下の茶色粒 白色粒・砂粒	内面の底部に指頭痕	
89	115	102	クワ	Ⅲ	SH-10	2層	須恵器	口径 (13.6)	2.5~		7.5YR4/3褐 2.5YR6/1黄灰	長石・1mm以下の黒色粒・茶色粒		
90	116	63	クワ	Ⅲ	SH-10 竈	1・2・4・6・ 7・11・1000	土師器	口径 (26.8)	25.9~		10YR2/1黒 7.5YR6/2-5/2灰褐 7.5YR3/3暗褐 7.5YR2/1黒	長石・角閃石・黒曜石 雲母を少量・2mm以下の白色粒 黒色粒・茶色粒・5mm以下の礫	内外面にスス付着	
92	117	96	クワ	Ⅲ	SH-11 硬化面下 Pt15	4	土師器	口径 (14.9)	3.4		5YR7/6橙	長石・石英・角閃石 4mm以下の礫 茶色粒・白色粒・砂粒		
93	118	65	クワ	Ⅲ	SH-11 硬化面下 Pt15	3	土師器	口径 (28.0)	20.2~		7.5YR6/6-7/6橙 7.5YR2/2黒褐 10YR2/1黒	長石・石英・角閃石・雲母 3mm以下の茶色粒・6mm以下の礫	外面にスス付着	
94	119	66	クワ	Ⅲ	SH-11 竈 SH-11 竈 SH-11 竈 SH-11 硬化面下		土師器	口径 (15.1)	4.9~		7.5YR5/2灰褐 7.5YR6/4にふい黄褐色	石英・角閃石・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 2mm以下の茶色粒 3mm以下の礫	外面の一部に黒斑	

第6表 出土遺物観察表（土器）5

編年 番号	報告 番号	実測 番号	出土地点			器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			調査区	遺構	グリッド		層位	取上げNo.	口径	底径	器高	外面		
94	120	97	クワ	Ⅲ	SH-11 竈	土師器				横ナデ工具痕	75YR7/4にぶい橙 5YR6/6橙	75YR7/4にぶい橙	長石・石英・角閃石・雲母 5mm以下の赤茶色粒・白色粒 黒色粒	外面基部から肩部より工具痕
95	121	122	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	須恵器	(17.7)	53~	回転ナデ	回転ナデ	N7/0灰白 N6/0.5/0灰	N7/0灰白 7.5Y7/3黄	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	口縁部歪み 楕円形を呈す
95	122	124	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(12.9)	3.9	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	微細な雲母・赤色粒・黒色粒	摩滅により不明瞭
95	123	121	クワ	Ⅲ	SH-12 Pt 1	土師器	13.2	7.5	回転ナデ	回転ナデ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	長石・石英・1mm以下の白色粒 黒色粒・3mm以下の砂粒	
97	124	119	クワ	Ⅲ	SH-12 竈	須恵器		3.9~			75YR6/1-4/1褐灰		白色粒・黒色粒	
97	125	71	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器		13.2~		ハケ目	25YR7/8~6/8橙 10YR8/6黄橙	5YR6/6橙 7.5Y3/1黒褐 5YR4/褐灰	石英・角閃石・雲母・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 赤色粒・2mm以下の礫	内外面の一部にスス付着
98	126	120	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器		2.3~		回転ナデ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・1cm以下の 砂粒・1cm以下の茶色粒	
98	127	56	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	須恵器	(13.8)	18.9~		回転ナデ	10YR3/1黒褐	5YR5/4にぶい赤褐 5YR3/1黒褐	長石・石英・6mm以下の礫 1mm以下の白色粒・茶色粒	外面一部に彩色(赤彩)
99	128	43	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	13.5	3.8	回転ナデ	回転ナデ	75YR7/6橙 75YR8/6浅黄橙 5YR5/6明赤褐	10YR8/6黄橙 5YR7/6橙	長石・角閃石・雲母 1mm以下の赤色粒 白色粒・5mm~1mm以下の礫	底部に板状圧痕 胎部に彩色(赤彩) 胎部に刻畫
99	129	111	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(13.5)	3.5	回転ナデ	回転ナデ	75YR7/6橙 75YR5/4にぶい褐	7.5YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	胎部に刻畫
99	130	60	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(16.0)	11.7~		回転ナデ	75YR7/4にぶい橙 25YR7/6橙	7.5YR8/4浅黄橙 10YR4/2灰黄褐	石英・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・黒色粒 2mm以下の赤色粒・2mm以下の礫	内面の頸部から胎部に黒斑
99	131	116	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(12.0)	4.3	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・黒色粒 赤色粒	底部に刻印
99	132	114	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(13.2)	3.9	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・赤色粒	
99	133	117	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器		8.8	回転ナデ	回転ナデ	75YR7/6橙	7.5YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	
99	134	62	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(22.4)	18.5~		ナデ・ハケ目	10YR8/3浅黄橙 5YR5/6明赤褐	10YR8/4浅黄橙	石英・角閃石・雲母 6mm以下の礫 砂粒・茶色粒	外面に彩色(赤彩)
100	135	112	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(13.8)	3.9	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	
100	136	61	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(18.3)	6.0	回転ナデ	回転ナデ	25YR6/6-5/8明赤褐 25YR8/1暗赤灰	2.5YR5/6-5/8明赤褐 2.5YR3/1暗赤灰	角閃石・雲母・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 2mm以下の赤色粒・2mm以下の礫 5mm以下の礫	内外面の全面に彩色(赤彩)
100	137	115	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器		4.5~		ナデ・ハケ目	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒	
100	138	59	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器	(23.4)	9.0~		横ナデ・ハケ目	5YR6/6橙 5YR2/2黒褐	5YR6/6橙	長石・石英・角閃石・褐石 5mm以下の赤茶色粒・砂粒	内面口頸部に指頭圧痕
100	139	123	クワ	Ⅲ	SH-12 床直	土師器		4.9~		横ナデ	75YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	

第6表 出土遺物観察表（土器）7

植図 番号	報告 番号	実測 番号	調査区			出土地点			器種	調整			色調		胎土	備 考		
			クワ	調査区	遺構	グリッド	層位	取上げNo.		器高	口径	底径	外面	内面			外面	内面
111	158	129	クワ	Ⅲ	SH-16 P-2				2	須恵器	坏蓋	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/4浅黄 N6/1灰	10Y2/1黒	N6/0~5/00灰	石英・角閃石・雲母・黒曜石 白色粒	自然釉
112	159	64	クワ	Ⅲ	SH-10				4	須恵器	坏	回転ナデ・回転ヘラ削り 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	25YR6/3にふい黄 25Y6/2灰黄	25YR6/3にふい黄 25Y6/2灰黄	長石・1mm以内の黒色粒 茶色粒・白色粒	外面の一部と内面に自然釉	
112	160	127	クワ	Ⅲ	SH-17 床直				2	須恵器	高坏	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	25YR6/3にふい黄	25YR6/3にふい赤褐	長石・石英・雲母・白色粒 黒色粒		
113	161	136	クワ	Ⅲ	SH-17 硬化面下				8	土師器	甕	ナデ・横ナデ	横ナデ・削り	10YR7/4にふい黄橙	10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・雲母・角閃石 黒曜石・白色粒・黒色粒		
113	162	137	クワ	Ⅲ	SH-17 硬化面下				9	土師器	甕	横ナデ	横ナデ・削り	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・茶色粒・黒色粒		
114	163	49	クワ	Ⅲ	SH-17 床直				1	土師器	坏	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR6/6橙 7.5YR7/6橙	5YR6/6橙 7.5YR7/6橙	石英・雲母・赤色粒・白色粒 砂粒		
114	164	135	クワ	Ⅲ	SH-17 床直				5	須恵器	甕	横ナデ	横ナデ	5YR7/8橙	7.5YR7/8黄橙	長石・雲母・白色粒・茶色粒	摩滅	
115	165	126	クワ	Ⅲ	SH-18 床面				1	土師器	坏	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	石英・角閃石・雲母・1mm以下の 白色粒・1mm以下の茶色粒	外面に黒斑	
118	166	327	クワ	Ⅵ	ST-03				2層	須恵器	坏	回転ナデ・ケズリ後ナデ	回転ナデ	5Y5/1灰	5Y5/1灰	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	底部に線刻（ヘラ記号「X」）	
118	167	283	クワ	Ⅵ	SH-17 床直					須恵器	坏蓋	回転ナデ	回転ナデ	25Y6/1黄灰 5Y6/1灰	25Y6/1黄灰 5Y6/1灰	長石・黒色粒・白色粒・茶色粒 2mm以内の砂粒	つまみ径(5.4)cm	
119	168	317	クワ	Ⅵ	SH-17 床直					土師器	坏	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 茶色粒	板状圧痕	
119	169	314	クワ	Ⅵ	SH-17 床直					土師器	坏	回転ナデ・回転ヘラ切り	ナデ・回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	板状圧痕	
121	170	372	クワ	Ⅳ	SH-01 床面				2	土師器	坏	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	ナデ・回転ナデ	7.5YR7/6橙 25YR5/6明赤褐	7.5YR7/6橙 25YR5/6明赤褐	石英・黒石・雲母・白色粒 黒色粒・赤色粒	彩色（赤彩）	
122	171	382	クワ	Ⅳ	SH-01 床面				7	土師器	甕	横ナデ・ハケ目 ハケ目後ナデ	横ナデ・削り	7.5YR7/4にふい橙 7.5YR4/1褐灰	7.5YR7/4にふい橙 7.5YR4/1褐灰	長石・石英・角閃石 4mm以内の黒・茶色粒 白色粒・砂粒	内外面に黒斑	
122	172	594	クワ	Ⅳ	SH-01 甕				3	土師器	坏	ヘラ切り	ヘラ削り後ナデ	10YR7/4にふい黄橙 7.5YR7/6橙	10YR6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・輝石 白色粒・赤色粒	縁刃部打ち欠き 内外面に彩色（赤彩）残存	
124	173	410	クワ	Ⅴ	SH-01 床面				8		繻の羽口	削り後ナデ	削り後ナデ	10YR6/2灰白 10YR6/4にふい黄橙 25Y6/1黄灰 N3/暗灰	10YR6/4にふい黄橙	石英・角閃石・白色粒・赤色粒 茶色粒	上部に鉄付着 工具抜き取り痕	
124	175	414	クワ	Ⅴ	SH-01 床面						罎埴	削り	削り	N7/灰白 N3/暗灰	N3/暗灰 10R3/6暗赤	雲母・白色粒・赤色粒	内面と口縁部に鉄付着	
124	176	412	クワ	Ⅴ	SH-01 床面						罎埴	ナデ	ナデ	N7/灰白 7.5Y8/1灰白 N3/暗灰 5YR5/8明赤褐 7.5YR3/6暗赤	N4/灰 5YR4/6赤褐	石英・角閃石・雲母・白色粒	内面から口縁部 外面の一部にかけて鉄と銅が付着 福岡市埋蔵文化財センターにて蛍 光X線分析済	
124	177	413	クワ	Ⅴ	SH-01 床面						罎埴	ナデ	ナデ	2.5Y8/3淡黄 N6/灰	5Y8/1灰白 N6/灰	石英・角閃石・雲母・白色粒	内面に鉄と青銅が付着	
125	178	388	クワ	Ⅴ	ST-02				1層	土師器	甕	ナデ・ハケ目	ナデ・削り	7.5YR6/4にふい橙 7.5YR1/1黒	7.5YR6/4にふい橙 7.5YR2/1黒	長石・石英・角閃石 5mm以内の黒・茶色粒・黒色粒	内外面にスス付着 外面が摩滅	
132	180	415	クワ	Ⅴ	SB-01				1層		罎埴	ナデ	ナデ	N7/灰白 7.5Y7/3浅黄 N3/暗灰 5YR4/6赤褐	N7/灰白 5YR4/6赤褐	石英・雲母・白色粒	口縁部内面から外面にかけて鉄付着	

第6表 出土遺物観察表(土器) 8

補図 番号	実測 番号	調査区	出土地点		器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			遺構	グリッド		口径	底径	器高	外面	内面	外面		
134	181	クワ	V	SD-01	須臾器	(169)	28~	ヘラ削り後回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ	5YR5/4にふい 10R6/4にふい黄橙	75YR5/4にふい褐 10R6/4にふい黄橙	石英・黒曜石 1mm以下の白色粒 黒色粒・茶色粒	
134	182	クワ	V	SD-01	埴埴	(110)	42~	ナデ		25Y8/2灰白 25Y7/1灰白 25Y6/1黄灰	N3/暗灰 75R3/1暗赤灰	石英・角閃石・雲母・白色粒	内面と外面口縁部に鉄片着
134	183	クワ	V	SD-01	須臾器	144	27	ナデ・回転ヘラ削り後ナデ	回転ナデ・ナデ	25Y6/2・7/2灰黄 25Y6/3にふい黄	25Y6/3にふい黄 10R4/2灰黄褐	石英・角閃石 1mm以下の白色粒・黒色粒 2mm以下の茶色粒 2mm以下の礫	内面口縁部に鉄片着 つまみ径3.6cm
134	184	クワ	V	SD-01	須臾器		51~	ナデ・横ナデ・タタキ	横ナデ・アテ具痕	75YR5/4にふい褐 25Y7/3浅黄	75YR6/2灰褐 75YR6/3にふい褐	黒色粒	縁辺は故意による打ち欠き
134	185	クワ	V	SD-01	青磁・瓦玉	52		回転ヘラ削り後ナデ・施釉 削り出し		0-135白茶	0-135白茶	石英・角閃石・雲母・白色粒 2mm以内の茶色粒・黒色粒	内面に彩色(赤彩)残存 外面に回転ミガキ
134	186	クワ	V	SD-01	土師器		05~	回転ミガキ	ナデ	10R6/4にふい黄橙	10R6/4にふい黄橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 2mm以内の茶色粒・黒色粒	内面に彩色(赤彩)残存 外面に回転ミガキ
148	189	クワ	VIII		土師器	134	(107)	横ナデ・ハケ目後ナデ	横ナデ・削り	10R8/4浅黄橙	10R8/4浅黄橙	石英・角閃石・雲母・黒曜石 1mm以下の白色粒・茶色粒 黒色粒・5mm以下の礫	内面頸部に指頭圧痕 外面胴部にハケ目 磨滅
170	192	コナ	II		縄文土器	(164)	86~	ナデ	ナデ	10R5/4にふい黄褐	10R6/6明黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 1mm以下の礫	外面に条痕文
170	193	コナ	III		縄文土器		57~	ナデ	ナデ	10R6/6明黄褐	10R7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・黒曜石 白色粒・黒色粒・砂粒	外面に条痕文
170	194	クワ	06-I	1-7	縄文土器	(171)	161~	横ナデ	ナデ・横ナデ	10R5/4にふい黄褐	10R5/8黄褐	長石・石英・角閃石・輝石 石粒多く含む	内器面がやや磨耗 外面に条痕文
170	195	クワ	06-I	G-8	縄文土器	(110)	49~	ナデ	ナデ	75YR6/5橙	10R4/2灰黄褐	長石・石英・角閃石・輝石	内面底部にスス付薄 指頭圧痕 外面に格子目押型文
170	196	クワ	06-I		縄文土器	(72)	60~	横ナデ	ハケ目後ナデ タテ型方向のナデ	75YR6/6明褐	10R5/3にふい黄褐	長石・石英・角閃石・輝石	底面に押点文 外面はややや摩耗 外面に早期山形文
170	197	クワ	06-I	L-7	縄文土器	(212)	90~	横ナデ	ナデ・横ナデ	10R6/4にふい黄橙	10R6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・輝石	口縁の一部に角閃石を多く含む 内器面が磨耗 外面に条痕文
170	198	クワ	06-II	F-13	縄文土器	(310)	59~	横ナデ	横ナデ・工具ナデ	25Y6/4にふい黄	25Y6/4にふい黄	長石・石英・角閃石・輝石	口縁の一部のみ残存 大粒の角閃石を多く含む 外面に貝殻連続刺突文 壺ノ神式
170	199	クワ	06-I	G-8	縄文土器	(157)	120~	横ナデ	ナデ・横ナデ	25Y4/4オリーブ褐	25Y4/4オリーブ褐	長石・石英・角閃石・輝石 石粒多く含む	外面に押型格子目文
171	201	クワ	II	B-2	縄文土器		67~		横ナデ	75YR3/1黒褐 75YR4/3~4/4褐	75YR3/1~3/2黒褐 75YR4/3褐	石英・角閃石・雲母・滑石 1mm以下の白色粒・黒色粒 3mm以下の礫	阿高式
171	202	クワ	I	B-6	縄文土器		47~		ナデ	75YR5/4にふい赤褐 75YR4/3褐	75YR4/3褐	長石・石英・角閃石・2mm以内の 茶色粒・3mm以内の白色粒・礫	
171	203	クワ	I	B-6	縄文土器		26~		ナデ	10R6/6明黄褐	10R6/6明黄褐	長石・石英・1mm以内の白色粒 黒色粒	口縁に2条の沈線
171	204	コナ	III	J-10	縄文土器		58~	条痕後ナデ	条痕後ナデ	10R5/4にふい黄褐	10R5/4にふい黄褐	雲母・白色粒・黒色粒・砂粒	内外面共に条痕
171	205	コナ	II	J-14	縄文土器		41~	横ナデ・ミガキ	横ナデ・ミガキ	10R6/4にふい黄橙	10R6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	内外面の口縁部に沈線
171	206	クワ	V	B-3	縄文土器		13.6~	ナデ・ハケ目・工具ナデ	ナデ・工具横ナデ	10R7/4浅黄橙 10R8/6黄橙 10R4/2灰黄褐 10R5/1-4/1褐灰	10R7/6明黄褐 10R7/4-6/3にふい黄橙 3mm以下の長石 2mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	外面に黒斑 内外面にスス付着
171	207	クワ	VIII	F-8	縄文土器		62~			5YR6/4にふい橙 5YR3/1黒褐	75YR6/4にふい橙	長石・石英・角閃石・1mm以内 の白色粒・茶色粒・黒色粒	

第6表 出土遺物観察表（土器）9

編年 番号	調査区	出土地点			器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備考
		遺構	グリッド	層位		口径	底径	器高	外面	内面	外面		
171	208	442	コナ	II	細文土器	深鉢	44~	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	10R4/2灰黄褐	10R4/2灰黄褐	石英・角閃石・白色粒・黒色粒	
171	209	439	コナ	II	細文土器	深鉢	59~	ミガキ	ミガキ	10R7/3にふい黄橙	10R7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石 1mm以内の黒色粒・茶色粒	口縁部に2条の沈線 内外面共に磨滅
171	210	441	コナ	II	細文土器	深鉢	47~		ナデ	10R6/4にふい黄褐	2.5V4/2暗灰黄	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・1cm以下の礫	外面に条痕文
171	211	443	コナ	II	細文土器	深鉢	54~	ミガキ	横ナデ	10R6/4にふい黄橙	10R6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	黒斑 外面一部にミガキ
171	212	424	コナ	I	細文土器	深鉢	64~		ミガキ	10R7/6明黄褐	10R6/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒	
172	213	269	クワ	III	細文土器	浅鉢	37~	ミガキ	ミガキ	10R6/2灰黄褐 2.5V5/2暗灰黄	10R7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	内外面にスス
172	214	35	クワ	VIII	細文土器	浅鉢	32~	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	10R4/4暗褐 10R3/1黒褐	10R5/4にふい黄橙 10R3/1黒褐	長石・石英・角閃石・雲母・黒色 粒・1mm以内の白色粒・茶色粒	外面に指頭痕
172	215	438	コナ	II	細文土器	深鉢	32~	ミガキ	ミガキ	10R6/4・7/4にふい黄橙 2.5V5/2暗灰黄	10R6/4・7/4にふい黄橙 2.5V5/2暗灰黄	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 2mm以下の砂粒	体部に4条の沈線 外面に刻み目 刺状文 内面は磨滅 西平式カ
172	216	434	コナ	II	細文土器	浅鉢	47~	ミガキ	ミガキ	10R7/4にふい黄橙	2.5V5/2暗灰黄	長石・石英・角閃石・金雲母 黒曜石・白色粒・黒色粒 茶色粒・3mm以下の礫	口縁部に2条の沈線 内外面共に磨滅
172	217	435	コナ	II	細文土器	浅鉢	25~	ミガキ	ミガキ	10R7/4~6/4 にふい黄橙	10R7/4~6/4にふい 黄橙	角閃石・黒曜石・1mm以下の 白色粒・黒色粒・茶色粒	外面口縁部に2条 内面に1条の沈線 内外面共に磨滅
172	218	19	クワ	II	細文土器	浅鉢	37~	ミガキ	ミガキ	2.5V3/1黒褐	2.5V3/3黄褐 2.5V3/1黒褐	石英・角閃石・雲母・1mm以内の 白色粒・茶色粒	内面に指頭痕 口縁部から外面にミガキ(磨滅)
172	219	419	コナ	I	細文土器	浅鉢	48~	ミガキ	ミガキ	10R7/4にふい黄橙	10R7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・黒色粒	内外面共に磨滅
172	220	444	コナ	II	細文土器	深鉢	55~	工具ナデ後ナデ	横ナデ・工具痕	10R7/4にふい黄橙	10R7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・茶色粒	内面が壁面剥落
172	221	316	クワ	VI	細文土器	浅鉢	34~	ミガキ	ミガキ	2.5V3/1黒褐	2.5V3/1黒褐	石英・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒	内外面共に磨滅
172	222	21	クワ	II	細文土器	浅鉢	36~	磨滅	磨滅	10R7/3にふい黄橙 10R2/1黒	10R7/3にふい黄橙 10R2/1黒	長石・角閃石・1mm以内の白色粒 黒色粒	内外面ともミガキ 外面は磨滅の高単位が不明確
172	223	248	クワ	III	細文土器	鉢	38~	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	10R6/4にふい黄橙	10R6/4にふい黄橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒・砂粒	口縁部付近に沈線 外面にミガキ
172	224	433	コナ	II	細文土器	浅鉢	26~	ミガキ	ミガキ	10R4/1褐灰 10R4/2~5/2灰黄褐	2.5V4/1黄灰 5V3/オリーブ黒	石英・角閃石・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒	内面口縁部に沈線 内外面共に磨滅
172	225	575	クワ	06-II a	細文土器	浅鉢	81~	横ナデ・工具による横ナデ	横ナデ・ヘラミガキ	2.5V6/2暗灰黄	10R4/2灰黄褐	長石・石英・角閃石・輝石	外面に荒目の長條条痕
172	226	25	クワ	II	細文土器	浅鉢	36~	ミガキ	ミガキ	5V4/1灰	5V4/1灰	長石・角閃石・2mm以下の白色粒 黒色粒	内外面口縁部にミガキ 内面に指頭圧痕 磨滅
172	227	577	クワ	06-II	細文土器	深鉢	(22.0)	ミガキ・横方向のミガキ	ミガキ・横方向のミガキ	10R6/3にふい黄橙	10R6/3にふい黄橙	長石・石英・角閃石・輝石	口縁部張付け 黒色磨研土器
172	228	554	クワ	06-II	細文土器	浅鉢	(31.5)	ミガキ	ミガキ	2.5V5/2暗灰黄	2.5V5/3黄褐	長石・石英・金雲母	口縁部の一部残存 内外面共に沈線 黒色磨研土器
173	229	379	クワ	IV	細文土器	深鉢	53~	ナデ・条痕	ナデ・ミガキ	10R7/4にふい黄橙	10R7/4にふい黄橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒・赤色粒	
173	230	378	クワ	IV	細文土器	深鉢	60~	ナデ・条痕	ナデ・ミガキ	10R7/4~6/4 にふい黄橙	10R6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	
173	231	373	クワ	IV	細文土器	深鉢	49~	工具ナデ	ナデ	7.5V6/4にふい黄橙 7.5V4/2灰褐	7.5V6/4にふい黄橙 7.5V4/2灰褐	石英・角閃石・白色粒・赤色粒	
173	232	262	クワ	III	細文土器	鉢	40~	切突文・条痕	ミガキ後ナデ	10R6/4にふい黄橙	2.5V6/3にふい黄	長石・石英・角閃石・雲母・白色 粒・黒色粒	西平式の鉢形土器
173	233	368	クワ	VI	細文土器	深鉢	40~	ナデ	ナデ	10R6/4にふい黄褐 2.5V3/1黒褐	10R6/4にふい黄褐 2.5V3/1黒褐	石英・角閃石・雲母・白色粒 赤色粒	
173	234	315	クワ	VI	細文土器	深鉢	52~	ナデ・工具痕	ナデ・工具痕	2.5V6/4にふい黄	2.5V6/4にふい黄	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	外部に刻目突帯 条痕 内面磨滅
173	235	420	コナ	I	細文土器	深鉢	39~	ナデ	ナデ	10R4/2灰黄褐	10R4/2灰黄褐	石英・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒	外面に刻目 沈線
173	236	263	クワ	III	細文土器	深鉢	80	条痕・ナデ	ナデ	10R6/6明黄褐	2.5V7/4~5/2 透黄~暗灰黄	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・砂粒	

第6表 出土遺物観察表(土器) 10

補図 番号	報告 番号	実測 番号	調査区		出土地点		器種	法量 (cm)		調整			色調		胎土	備 考
			調査区	遺構	グリッド	層位		取上げNo.	器高	口径	底径	外面	内面	外面		
173	237	449	コナ	III	K-7	IVb層	深鉢		(140)	ナデ		10YR6/6明黄褐		10YR6/6明黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒	底部に不明圧痕(輪底)
173	238	287	クワ	VI	D-7	III層	深鉢	(30.6)		ナデ		25Y4/3オリーブ褐 5Y2/1黒		25Y4/2暗灰黄 2.5Y2/1黒	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・黒色粒	1/4以上 1/2未満の面に条痕文 外面磨滅
174	239	423	コナ	I	D-4	IVb層	深鉢	(22.7)		横ナデ		10YR6/4にぶい黄褐		10YR7/4にぶい黄	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・茶色粒・赤色粒	黒斑
174	240	421	コナ	I	D-2	V層	深鉢	60~		ミガキ後ナデ		25Y3/1黒褐		2.5Y6/3にぶい黄	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・黒色粒	内外面共に条痕文 口縁部に刻目突帯
174	241	416	コナ	I	E-3	IVb層	深鉢	(30.0)				10YR4/2灰黄褐		2.5Y6/3黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・黒色粒 赤色粒・7mm以下の隙	内外面共に条痕文 口縁部に刻目突帯
174	242	431	コナ	II	K-17	V層	深鉢	39~		ナデ		25Y6/3にぶい黄 25Y5/3黄褐 25Y5/2暗灰黄		25Y6/3にぶい黄 10YR7/4にぶい黄 10YR8/4黄褐	長石・石英・金雲母・白色粒 黒色粒・茶色粒・2mm以下の薄石	体部に6条の沈線 半載竹管文
174	243	432	コナ	II	K-18	IVb層	浅鉢	4.7~		ミガキ		10YR8/6黄褐 10YR6/1褐灰		10YR7/4にぶい黄 10YR8/4黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・茶色粒	内外面共に磨滅
174	244	465	クワ	06-II	N-17	V層	深鉢	(23.0)		ナデ		5YR5/6明赤褐 7.5YR3/1黒褐		5YR5/6明赤褐 10YR5/3にぶい黄褐	石英・角閃石・黒曜石・3mm以下 の白色粒・黒色粒・茶色粒 5mm以下の隙を少量	外面に二条の刻み目突帯 内面一部と外面体部にスス痕 口縁部に窪み
174	245	436	コナ	II	H-18	IVb層 ~V層	浅鉢	24~		ミガキ		10YR5/3にぶい黄褐		10YR5/3にぶい黄褐	長石・石英・金雲母・1mm以内の 白色粒・黒色粒・茶色粒	内外面共に磨滅
174	246	437	コナ	II		III層	鉢	45~		ミガキ		10YR7/4にぶい黄褐 にぶい黄褐		10YR5/3にぶい黄褐 10YR5/2灰黄褐	長石・石英・角閃石・雲母・白色 粒・黒色粒・茶色粒・2mm以下の 砂粒	外面に黒斑 内外面共に磨滅
174	247	593	クワ	06-II	N-17	V層	浅鉢	(36.6)		横ナデ		25Y3/3暗オリーブ褐		10YR5/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・輝石	内外面共に長短条痕 口縁部に貼付突帯
174	248	380	クワ	VI	D-5	IIIa層	深鉢	3.6~		ナデ		25Y7/3浅黄 10Y2/1黒		25Y7/2灰黄 2.5Y3/1黒褐	長石・角閃石・雲母・白色粒	外面に多数の条痕
174	249	22	クワ	II	C-2	III層上	深鉢	3.6~		ナデ		25Y5/2暗灰黄 25Y3/1黒褐		25Y4/1黄灰 2.5Y3/1黒褐	長石・石英・雲母 1mm以内の白色粒・黒色粒 3mm以内の砂粒	
174	250	245	クワ	III	D-2	IV層中	深鉢	11.5		ナデ		10YR6/6明黄褐		10YR6/3にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒	底部付近に指頭圧痕
175	251	394	クワ		D-4	IV層	皿	(27.0)		ナデ・ミガキ		10YR6/3にぶい黄褐 10YR5/2灰黄褐		10YR7/3にぶい黄褐 10YR3/1黒褐	石英・金雲母・長石・角閃石 2mm以内の茶色粒・砂粒	内外面に黒斑 内外面磨滅
175	252	588	クワ	06-II a	N-17	V層	不明	31~		横ナデ・工具による横ナデ		10YR6/4にぶい黄褐		2.5Y6/3にぶい黄	長石・石英・角閃石・輝石	口縁部に刻目突文の張付け突帯
175	253	188	クワ	III	D-4	II層下	土師器	43~		横ナデ・磨滅		7.5YR7/6橙		7.5YR7/6橙	長石・角閃石・白色粒・茶色粒	波状口縁か 外面に条痕文 貝殻 条痕文 刻目突帯
175	254	565	クワ	06-II	N-17	V層	不明	(34.0)		横ナデ		10YR6/4にぶい黄褐		10YR6/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・輝石	外面に長短条痕 貼付け刻目突帯 粘土塊込み 亀の甲文
175	255	580	クワ	06-II	M-17G	V層	甕	(138) (16.7)		ナデ		25Y4/2暗灰黄		2.5Y4/2暗灰黄 10YR6/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・輝石	表面は採挿入り 裏面は紐を通す為の穴が一方向から 横に穿孔
175	256	572	クワ	06-II a	N-17	V層	土製品 ペンダント ヘッド	(縦)3.3 (横)1.2		横ナデ		10YR6/2灰黄褐		10YR4/1褐灰	長石・石英・角閃石・輝石	外面に彩色(赤彩) 重弧文 免刀式壺
175	257	422	コナ	I		IVa層	弥生時代 長頸壺	7.8~		ナデ		10YR7/6にぶい黄褐 7.5YR6/6明褐		2.5Y3/1黒褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・砂粒	外面に彩色(赤彩) 重弧文
175	258	426	コナ	I	F-3	IVb層	弥生土器 壺	(32)		横ナデ		25YR4/6赤褐		2.5YR4/6赤褐	長石・石英・角閃石・雲母・5mm 以下の隙・白色粒・茶色粒・黒色粒	内外面共に彩色(赤彩) 貼付け口縁
176	259	553	クワ	06-I	B-4	V層一拵	弥生土器 甕	(23.0)		横ナデ		10YR7/4にぶい黄褐		10YR7/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・輝石 大瓦の石粒	貼付け口縁 黒変式
176	260	571	クワ	06-II a	O-16	V層	弥生土器 甕	24~		横ナデ		7.5YR6/3にぶい黄褐		10YR6/3にぶい黄褐	長石・石英	口縁部の断面は銅型 黒変式

第6表 出土遺物観察表(土器) 11

編年 番号	報告 番号	調査区				出土地点			器種	口径	法量 (cm)		調整			色調		胎土	備考
		調査区	遺構	グリッド	層位	遺構	グリッド	層位			取上げNo.	器高	底径	外面	内面	横ナデ	縦ナデ		
176	261	クワ	I	A-5	IVa層			弥生土器		24~			横ナデ		10YR7/4にふい黄橙		10YR7/4にふい黄橙	石英・角閃石・黒曜石 白色粒・黒色粒	黒髪式
176	262	クワ	VI	D-6	IIIa層			弥生土器	(20.9)	48~			横ナデ		10YR8/4浅黄橙		7.5YR7/4にふい橙	長石・石英・3mm以内の茶色粒 白色粒	内外面共に磨滅
176	263	クワ	III	F-3	黒色土			弥生土器		20~			横ナデ		10YR7/4にふい黄橙 10YR8/4浅黄橙		10YR7/4にふい黄橙 10YR8/4浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・3mm以内の礫	城ノ越式
176	264	クワ	I	E-4	IVa層			不明		67~			横ナデ		7.5YR6/6橙		10YR6/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・茶色粒・黒色粒	外面に刻目突帯
176	265	クワ	III	F-3	黒色土			弥生土器		62~			ナデ		10YR7/4にふい黄橙		10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・3mm以下の砂粒	
176	266	クワ	III	B-2	II層下			土師器		55~			ナデ		7.5YR3/2黒褐		7.5YR4/3褐	長石・石英・角閃石・7mm以内の 礫・砂粒・茶色粒・白色粒	
176	267	クワ	I		IVa層	1-1-2, 1-3-1-4, 1-5-1-6, 1-7		土師器	18.1	61~			ナデ・ハケ目後ナデ		5YR5/6橙 7.5YR7/6橙 7.5YR1/7黒		5YR6/6橙 7.5YR7/6橙	長石・石英・角閃石・3mm以内の 礫・砂粒・茶色粒・黒色粒	外面一部にスス付着
176	268	クワ	III	D-4	II層下			弥生土器		46~			ナデ		7.5YR7/6橙		10YR7/4にふい黄橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒・茶色粒	見込み指頭圧痕
176	269	クワ	III	C-3	III層下			土師器		63~			ナデ		2.5Y7/3浅黄		10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	内面に指頭圧痕
176	270	クワ	III	E-3	II層下			土師器	(14.0)	20			回転ナデ		7.5YR8/4浅黄橙 5YR7/6橙		7.5YR8/6浅黄橙 5YR7/6橙	長石・雲母・1mm以下の赤白粒 白色粒	
176	271	クワ	III	B-4	II層下			土師器	(18.8)	30~			ナデ		7.5YR7/6橙		7.5YR7/6橙	長石・角閃石・雲母・1mm以内 の茶色粒・2mm以内の砂粒	内外面共に磨滅
176	272	クワ	III	B-4	II層下			土師器	(21.4)	34~			横ナデ		10YR8/4浅黄橙		10YR8/4浅黄橙	角閃石・雲母・白色粒・茶色粒	
176	273	クワ	III	B-3	II層下			土師器	(19.6)	27~			回転ナデ		7.5YR7/6橙		7.5YR7/6橙	長石・石英・雲母・白色粒	磨滅により不明瞭
177	274	クワ	III	F-2	III層上			土師器		(11.5)	08~		ナデ		7.5YR7/6橙		10YR8/6黄橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 赤色粒・黒色粒・茶色粒	
177	275	クワ	II	A-2	III層上			土師器	(10.7)	21~			回転ナデ		7.5YR7/6橙		7.5YR7/6橙	長石・雲母・2mm以下の赤色粒 1mm以下の白色粒・黒色粒 3mm~1mmの礫	
177	276	クワ	II	C-3	III層上			土師器	(9.0)	19~			回転ナデ		7.5YR7/6橙		7.5YR7/6橙	長石・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒・礫・3mm以下の赤色粒	磨滅
177	277	クワ	III	B-3	III層上			土師器	80	17~			ナデ		7.5YR7/6橙		7.5YR8/6浅黄橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒・茶色粒・赤色粒 1cm以下の礫少量	
177	278	クワ	II		III層上			土師器		35~			ナデ・回転ナデ		5YR5/6明赤褐 5YR7/8橙		5YR5/6明赤褐 5YR7/8橙	長石・雲母・白色粒・黒色粒 茶色粒・2mm以内の砂粒	内外面に彩色(赤彩) 全体磨滅
177	279	クワ	V	D-4	IIIb層			土師器	(13.1)	3.5			回転ナデ		2.5YR5/6明赤褐 10YR7/3にふい黄橙		2.5YR5/6明赤褐 10YR7/3にふい黄橙	石英・角閃石・雲母 2mm以内の茶色粒・黒色粒	内外面共に彩色(赤彩)
177	280	クワ	III	B-4	III層上			土師器	(13.8)	3.2			回転ナデ		7.5YR6/6橙		10YR6/6明黄褐 10YR3/7黒褐	雲母・白色粒・黒色粒・茶色粒 内面及び口縁一部にスス付着	内外面に彩色(赤彩) 全体磨滅
177	281	クワ	VI	B-5-22	IIIa層			土師器	(10.8)	40~			回転ナデ		7.5YR7/6橙 10YR7/6明黄褐 5YR6/6橙		7.5YR7/6橙 10YR7/6明黄褐 5YR6/6橙	長石・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒・茶色粒・2mm以下の礫 砂粒	内外面共に彩色(赤彩) 全体磨滅
177	282	クワ	V	C-4	IIIa層			土師器	12.8	3.6			回転ナデ		2.5YR6/8橙 5YR7/8橙 7.5YR7/8黄橙		2.5YR6/8橙 5YR7/8橙 7.5YR7/8黄橙	長石・黒色粒・白色粒 3mm以下の赤色 4mm以下の礫	全体が磨滅 器高最大3.9cm 最々3.1cm
177	283	クワ	III	C-4	II層下			土師器	(9.0)	23~			回転ナデ		7.5YR7/6橙		7.5YR7/6橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 茶色粒	
177	284	クワ	III	E-3	II層下			土師器	90	17~			ナデ		7.5YR7/4にふい橙		7.5YR7/4にふい橙	長石・石英・角閃石・雲母 2mm以内の茶色粒・砂粒	内面中心部に黒斑
177	285	クワ	VI	D-5	IIIa層			土師器	85	19~			回転ナデ		7.5YR7/6橙		7.5YR7/6橙	角閃石・雲母・白色粒・黒色粒	全体的に磨滅
177	286	クワ	VI	D-6	IIIa層			土師器	(10.8)	32~			ナデ		7.5YR7/4にふい橙		10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・4mm以内の礫 茶色粒・黒色粒	胴部外面に刻書
177	287	クワ	VI		II層			土師器	(11.4)	18~			ナデ		10YR7/3にふい黄橙		7.5YR7/6橙	長石・雲母・1mm以下の白色粒 黒色粒・3mm~1mm以下の赤白粒	外面に刻書

第6表 出土遺物観察表(土器) 12

相国 番号	報番 番号	出土地点		器種	調整			色調		胎土	備 考	
		調査区	遺構		グリップ	層位	取上げNo.	口径	底径			器高
177	288	クワ	Ⅲ	A-2	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	外面 回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	内面 回転ナデ	75YR8/6淡黄橙 75YR7/6橙 5YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	
177	289	クワ	Ⅵ		素土ハギ Ⅱ層下	土師器	ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ		75YR6/6橙	石英・雲母・白色粒・茶色粒 赤色粒・黒色粒	内面摩滅
177	290	クワ	Ⅲ	B-2	Ⅲ層上	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR6/4にふい橙	2mm以内の茶色粒・白色粒	摩滅
177	291	クワ	Ⅲ		Ⅱ層	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR7/6橙	石英・2mm以内の茶色粒・砂粒	外面に刻書 摩滅
177	292	クワ	Ⅲ	D-4	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ		75YR7/4にふい橙	2mm以内の茶色粒・白色粒	内外面に彩色(赤彩)残存 外面に刻書 剥離面多い
177	293	クワ	Ⅲ	B-2	Ⅲ層下	土師器	摩滅	摩滅		75YR7/6橙	石英・3mm以内の白色粒 茶色粒	外面に刻書
178	294	クワ	Ⅵ		Ⅱ層下	土師器	ナデ・楕ナデ	ナデ・楕ナデ		75YR7/6明黄褐	長石・石英・雲母・茶色粒	
178	295	クワ	Ⅵ	B-5	トレンチ Ⅱ層	土師器	回転ナデ 回転ナデ後一部ナデ	回転ナデ 回転ナデ後一部ナデ		5YR6/6橙 75YR7/6橙	角閃石・雲母 1mm以下の白色粒 茶色粒	内外面に彩色(赤彩)残存
178	296	クワ	Ⅵ		Ⅱ層	土師器	ナデ・ヘラ切り	ナデ・ヘラ切り		5YR6/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・茶色粒・黒色粒	摩滅
178	297	クワ	Ⅵ		Ⅱ層	土師器	調整不明・回転後ナデ	調整不明・回転後ナデ		5YR7/8橙	石英・雲母・白色粒・茶色粒	全体が摩滅
178	298	クワ	Ⅲ	E-3	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR7/8-8黄橙 75YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	全体が摩滅
178	299	クワ	Ⅲ	E-2	Ⅱ層上	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR6/8橙 75YR7/8黄橙	雲母・4mm以下の茶色粒 黒色粒・白色粒	底部にへろ記号
178	300	クワ	Ⅲ	D-2	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ		25Y3/1黒褐 10YR8/4浅黄橙	石英・角閃石・雲母・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 3mm以下の茶色粒	内外面共に黒斑
178	301	クワ	Ⅴ	B-4	Ⅲa層	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR7/6橙	石英・角閃石・雲母・白色粒	内面胴部一部と外面口縁部から胴 部にかけて彩色(赤彩)
178	302	クワ	Ⅲ	A-3	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ		5YR7/6橙 75YR7/6橙 75YR8/6淡黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・黒色粒・白色粒 茶色粒・3mm以下の黒	スス付着
178	303	クワ	Ⅲ	B-11	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR7/6橙 5Y6/1灰	長石・石英・雲母・黒色粒 白色粒・茶色粒・1mm以下の 砂粒・2mm以下の茶色粒	
178	304	クワ	Ⅲ	B-3-4	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ		5YR7/8橙 75YR7/6橙	雲母・1mm以下の白色粒 黒色粒・2mm以下の茶色粒	全体が摩滅
178	305	クワ	Ⅵ	E-4	Ⅲa層	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR7/6橙 10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	
178	306	クワ	Ⅵ	B-5-18	Ⅲa層	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR6/8明褐	長石・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒	内外面に彩色(赤彩)
179	307	クワ	Ⅵ	C-5-3	Ⅲa層	土師器	ナデ	ナデ		5YR7/6橙 75YR7/4にふい橙	長石・石英・2mm以内の黒色粒 茶色粒・白色粒	外面にスス付着 外面が摩滅
178	308	クワ	Ⅲ	A-2	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ		10YR7/3 7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒 3mm以下の茶色粒	
178	309	クワ	Ⅲ	A-2	Ⅱ層下	土師器	回転ナデ	回転ナデ		10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	摩滅により不明瞭
178	310	クワ	Ⅲ	A-2	Ⅱ層下	土師器	楕ナデ	楕ナデ		75YR6/7褐灰 75YR7/6橙	雲母・3mm以内の茶色粒 白色粒	摩滅
178	311	クワ	Ⅱ		Ⅱ層清掃	土師器	回転ナデ	回転ナデ		75YR6/6橙 10YR6/4にふい黄褐	長石・角閃石・雲母・白色粒 黒色粒・茶色粒・4mm以下の黒	
179	312	クワ	Ⅲ	B-4	Ⅱ層下	土師器	ナデ	ナデ		75YR6/4にふい橙	雲母・2mm以内の砂粒 3mm以内の茶色粒・白色粒	
179	313	クワ	Ⅲ		Ⅱ層下	土師器	楕ナデ	楕ナデ		5YR6/8橙 75YR7/6橙	石英・角閃石・雲母 1cm以内の黒・砂粒・茶色粒	全体的に摩滅
179	314	クワ	Ⅵ	B-5-18	Ⅲa層	土師器	ナデ	ナデ		25Y6/2灰黄	長石・雲母・1cm以内の黒 2mm以内の茶色粒	内外面共に摩滅

第6表 出土遺物観察表（土器）13

編年 番号	報告 番号	調査区	出土地点			器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			遺構	グリッド	層位		取上げNo.	外面	内面	外面	内面	口径		
179 315	31	クワ II			II層	土師器	(78)	(44)	回転ナデ	回転ナデ	25Y5/3黄褐 25Y4/2暗灰黄 5YR5/4にふい赤褐	10YR6/4にふい黄橙 10YR4/2灰黄褐 5YR5/4にふい赤褐	長石・石英・角閃石・雲母 黒色粒・白色粒・茶色粒	内面全体にスス付着 灯明皿
179 316	286	クワ VI			II層下	土師器		(103)	回転ナデ	回転ナデ	75YR6/6橙	75YR6/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	外面底部に彩色(赤彩)残存
179 317	306	クワ VI			II層下	鉢	(235)	(148)	ナデ・回転ナデ	ナデ・回転ナデ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・黒色粒 茶色粒	内外面の一部に彩色(赤彩)
179 318	190	クワ III			II層下	土師器	(209)	55~	横ナデ・摩滅	横ナデ・摩滅	75YR7/6橙	75YR8/6橙	角閃石・雲母・2mm以下の 茶色粒・1mm以下の白色粒 黒色粒・5mm以下の黒	
179 319	175	クワ III			II層下	甕	(230)	46~	横ナデ	横ナデ	75YR8/4~8/3淺黄橙	75YR8/3淺黄橙	石英・角閃石・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 茶色粒・3mm以下の黒	外面が摩滅
179 320	259	クワ III			III層上	甕	(184)	47~	ナデ・横ナデ	ナデ・横ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・3mm以下の砂粒	
179 321	250	クワ III			III層上	甕	(212)	33~	横ナデ	横ナデ	75YR6/6橙	75YR7/8黄褐 10YR3/1黒褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	
179 322	143	クワ III			II層上	甕	(230)	40~	横ナデ	横ナデ	10YR8/3淺黄橙	10YR8/3淺黄橙	石英・角閃石・1mm以内の茶色粒 2mm以内の黒色粒・砂粒	内外面共に摩滅
179 323	408	クワ V			IIIa層	甕	(164)	54~	横ナデ・ハケ目後ナデ	横ナデ・ハケ目後ナデ	10YR5/3にふい黄褐	10YR5/3にふい黄褐	石英・角閃石・白雲母・白色粒 黒色粒・茶色粒	
179 324	387	クワ V			II層下	甕	(240)	33~	ナデ・横ナデ	ナデ・横ナデ	10YR6/4にふい黄橙	75YR6/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以内の茶色粒・白色粒 2mm以内の砂粒	
180 325	149	クワ III			III層上	甕	(160)	143	工具ナデ	工具ナデ	5YR6/4にふい橙 10YR4/6明黄褐	10YR4/2灰黄褐 10YR6/3にふい黄橙	長石・石英・角閃石 1mm以内の白色粒・3mm以内の黒 口頸基部に指頭痕 外面にスス付着	
180 326	254	クワ III			III層上	甕	(247)	39~	横ナデ	横ナデ	10YR4/2灰黄褐	10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・砂粒	
180 327	256	クワ III			III層上	甕	(140)	46~	横ナデ・ハケ目後ナデ	横ナデ・ハケ目後ナデ	5YR7/6橙 75YR6/4にふい橙	10YR7/6明黄褐 10YR2/1黒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・5mm以下の黒を少量	外面一部にハケ目
180 328	189	クワ III			II層下	甕	(95)	40~	ナデ	ナデ	25YR6/6橙 25YR6/3にふい橙	75YR6/4にふい橙 25YR6/3にふい橙	石英・角閃石・滑石・1mm以内の 白色粒・茶色粒・3mm以内の黒	外面摩滅
180 329	146	クワ III			II層下	甕	(94)	41~	ナデ	ナデ			長石・石英・角閃石・金雲母 3mm以内の黒・茶色粒	口縁部より外面に彩色(赤彩)残存
180 330	157	クワ III			II層上	甕	(270)	77~	横ナデ	横ナデ	25YR6/6橙 25YR5/8明赤褐	75YR4/6褐 5YR5/8明赤褐 5YR7/8橙	石英・角閃石・黒曜石・1mm以下 の白色粒・黒色粒・茶色粒 5mm以下の黒を少量 3mm以下の砂	外面全面と内面の口縁一部に 彩色(赤彩)
180 331	255	クワ III			III層上	甕	(175)	62~	ナデ・横ナデ	横ナデ	10YR6/4にふい黄橙	10YR3/1黒褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	裏面全面に黒斑
180 332	158	クワ III			II層下	甕	(280)	36~	横ナデ・工具痕	横ナデ	10YR6/4にふい黄橙	10YR6/4にふい黄橙 10YR7/4にふい黄橙	長石・石英・角閃石 1mm以内の黒色粒・白色粒・砂粒	
180 333	153	クワ III			II層下	甕	(200)	38~	横ナデ	横ナデ	75YR6/6~7/6橙	75YR6/6~7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 4mm以下の黒	スス付着
180 334	388	クワ V			IIIb層Pit	甕	(254)	65~	ナデ・ハケ目	ナデ	10YR8/6黄橙 10YR3/4にふい黄褐 10YR6/6明黄褐	75YR8/2灰白 5YR8/3淺黄橙 75YR6/4にふい橙 75YR5/4にふい黄褐 75YR4/2灰黄褐 75YR5/6明褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒 6mm以下の黒	

第6表 出土遺物観察表（土器）14

相国 番号	実測 番号	調査区	出土地点		器種	調整		色調		胎土	備 考	
			遺構	グリップ		層位	取上げNo.	外面	内面			外面
180	335	クワ V	C-5	II層下	甕	口径 (20.5)	器高 28~	横ナデ	横ナデ・削り	75YR7/6橙	長石・石英・角閃石 1mm以内の茶色粒・黒色粒・砂粒 4mm以内の礫	口縁部に一部彩色(赤彩)残存
181	336	クワ VI	D-5	IIIa層 IIIb層	甕	(23.1)	95~	ナデ・横ナデ	横ナデ・削り	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・赤色粒	1/4以上 1/2未満の面に削り文様
181	337	クワ VI	B-5-18	IIIa層	甕	(22.8)	12.9~	ナデ・横ナデ	横ナデ・削り後ナデ	10YR8/4浅黄橙	石英・角閃石・雲母・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 茶色粒・5mm以下の礫を少量 2mm以下の礫	口縁の一部と胴部の一部に黒斑
181	338	クワ VI	C-7	IIIa層	甕	(27.9)	2.8~	横ナデ	横ナデ・削り	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	
181	339	クワ VI	B-5-18	IIIa層	甕	(15.1)	4.8~	ナデ・横ナデ	横ナデ・削り	5YR6/4~10YR7/4 にぶい橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒	
181	340	クワ III	B-2	II層上	甕	1.8~	1.8~	横ナデ・ハケ目後ヨコナデ	横ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	石英・角閃石・金雲母 1mm以内の茶色粒・黒色粒	外面口縁部にハケ目痕
181	341	クワ III	B-2	III層上	甕	2.6~	2.6~	横ナデ	横ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 粒 赤色粒・5mm以下の礫を少量	外面一部に指頭圧痕
181	342	クワ III	D-2	II層上	甕	3.0~	3.0~	ナデ・横ナデ	横ナデ	7.5YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 2mm以内の茶色粒・黒色粒・砂粒	
181	343	クワ V	C-5	IIIa層	甕	3.1~	3.1~	横ナデ	横ナデ・削り	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・砂粒 白色粒	
181	344	クワ VI		II層	甕	5.6~	5.6~	横ナデ・ハケ目後ナデ	横ナデ・指頭圧後ナデ 削り	10YR6/6明黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒	口縁部に指頭圧痕
181	345	クワ V	C-5	IIIa層	甕	8.7~	8.7~	ナデ・ハクリ	ナデ・削り後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙 5YR6/6橙 2.5YR6/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 黒色粒・白色粒・茶色粒 5mm以下の礫	
181	346	クワ V	C-5	IIIa層	鉢	5.7~	5.7~	横ナデ	ナデ・横ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	石英・雲母・白色粒・黒色粒 茶色粒	
181	347	クワ VI	B-4	IIIa層	不明	12.8 ~13.1		ナデ・タタキ	ナデ・削り後ナデ	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR7/4にぶい橙	長石・石英・雲母 4mm以内の茶色粒・白色粒 黒色粒・4mm以内の礫	全体的に摩滅
181	348	クワ V	B-3	IIIa層	甕	3.1~	3.1~	横ナデ	横ナデ・削り	7.5YR7/6橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 茶色粒	内面と外面の頸部に彩色(赤彩)
182	349	クワ VI	B-5-23	IIIa層	鉢	(27.6)	11.8	ナデ・横ナデ・ハケ後ナデ	横ナデ・削り後ナデ	7.5YR7/6橙 10YR7/4にぶい黄橙 N4/0灰	長石・石英・角閃石・雲母 2mm以内の砂粒・白色粒 黒色粒・茶色粒	内外面共に黒斑
182	350	クワ III	B-2	II層下	鉢	(28.1)	7.7~	ナデ・横ナデ・ハケ目	横ナデ・削り	10YR6/6橙 10YR6/6明黄褐 10YR3/1黒褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・茶色粒	内外面共に黒斑
182	351	クワ VI	B-5-3 B-5-17 B-5-23	IIIa層	鉢	(28.6)	11.6~	横ナデ・ナデ	横ナデ・削り後ナデ	7.5YR6/6橙 7.5YR6/2灰褐	長石・石英・角閃石 1mm以内の茶色粒・白色粒 3mm以内の礫	外面摩滅
182	352	クワ V	D-6	II層下	把手		6.8~	削り後ナデ	削り	7.5YR6/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・2mm以下の白色粒 茶色粒・5mm以下の礫を少量 2mm以下の礫	一部に黒斑
182	353	クワ VI	C-5-24	IIIa層	把手		7.8~	削り後ナデ	削り後ナデ	10YR7/4にぶい黄橙 10YR6/2灰黄褐	石英・角閃石・雲母・白色粒	
182	354	クワ VIII	南削	III層	把手		8.2~	削り後ナデ	削り後ナデ	7.5YR7/6橙 10YR7/4にぶい黄橙	石英・角閃石・雲母・黒曜石 2mm以下の白色粒・茶色粒 黒色粒・5mm以下の礫	被熱痕
182	355	クワ VI	D-5-4	IIIa層	把手		8.4~	削り後ナデ	削り後ナデ	5YR6/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	
182	356	クワ VI	C-5-8	IIIa層	把手		5.0~	削り後ナデ	削り後ナデ	7.5YR7/4にぶい橙	長石・石英・雲母・黒曜石 白色粒・黒色粒・赤色粒	
182	357	クワ VI	B-5-17	IIIa層	把手		7.1~	削りナデ	削りナデ	7.5YR3/1にぶい褐	長石・石英・雲母・白色粒・黒色粒	
182	358	クワ VI	B-5-18	IIIa層 II層	移動式竈		6.7~	ナデ調整一部ハケ後ナデ	ナデ調整一部ハケ後ナデ	7.5YR6/4にぶい褐	長石・石英	
182	359	クワ III	B-2	II層下	不明・壺		6.6	横ナデ・工員ナデ 粘土折り返し痕	横ナデ・削り	10YR4/6褐 10YR2/1黒	長石・石英・角閃石・6mm以内 の礫・砂粒・茶色粒・黒色粒	スス付着

第6表 出土遺物観察表（土器）15

編年 番号	報告 番号	調査区	出土地点			器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			遺構	グリッド	層位		口径	底径	器高	外面	内面	外面		
183	360	クワ II		B-5	II層下	土師器		89~	削り後ナデ		10YR7/4にぶい黄橙 10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 金雲母・黒色粒・白色粒 茶色粒・4mm以下の礫		
183	361	クワ II			溝溝	土師器		75~	ナデ・削り		5YR7/6橙	長石・石英・3mm以内の礫 茶色粒・白色粒	外面に被蝕痕か	
183	362	クワ II			III層	土師器		60~	削り後ナデ		10YR8/3浅黄橙 7.5YR6/3にぶい黄	石英・角閃石・金雲母を含む 雲母・1mm以下の赤白色 白色粒・黒色粒・5mm~2mmの礫		
183	363	クワ III		B-4	III層	土師器		5.3	削り後ナデ		10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・砂粒		
183	364	クワ III		C-2	III層上	土師器		5.7~	削り後ナデ		5YR5/6明赤褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	外面に彩色(赤彩)	
183	365	クワ III		B-3	II層下	土師器		6.7~	削り後ナデ		10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒		
183	366	クワ III		C-4	II層下	土師器		8.3	削り後ナデ	ナデ	10YR6/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・赤色粒		
183	367	クワ III		C-3	II層下	土師器		9.3~	削り後ナデ	ナデ	7.5YR7/4浅黄	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・赤色粒・黒色粒 2mm以下の礫	指頭圧痕	
183	368	クワ III		E-3	II層下	土師器		6.5~	削り後ナデ		7.5YR8/3-8/4浅黄橙	石英・角閃石・雲母・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 茶色粒・5mm以下の礫		
183	369	クワ III		D-3	II層上	土師器		6.0~	削り後ナデ		10YR8/4浅黄橙 10YR5/6黄褐 M4/灰	長石・石英・角閃石・4mm以内 の礫・茶色粒・黒色粒・砂粒		
183	370	クワ III		E-3	II層下	土師器		6.5~	削り後ナデ		7.5YR/4にぶい黄	石英・角閃石・褐色・茶色粒・白色粒 の礫・砂粒・茶色粒・白色粒		
183	371	クワ III		B-3	II層下	土師器		7.2~	ナデ・ケズリ後ナデ		7.5YR7/8黄橙 10YR8/4浅黄橙	長石・角閃石・白雲母 白色粒・黒色粒	指頭圧痕	
183	372	クワ III		B-3	II層下	土師器		7.9~	削り後ナデ		10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒		
183	373	クワ III		D-4	II層下	土師器		3.0	削り後ナデ		2.5Y4/1黄灰 10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・赤色粒		
183	374	クワ VI		B-5-18	IIIa層	土師器		4.3	ナデ・削り		7.5YR5/6明褐	長石・石英・角閃石・5mm以内 の礫・茶色粒・白色粒		
183	375	クワ III		D-3	II層下	土師器		5.2~	ナデ・磨滅	横ナデ	7.5YR7/6橙 7.5YR8/6浅黄橙	石英・角閃石・雲母・1mm以下 の白色粒・黒色粒・2mm以下の 茶色粒・2mm以下の礫を少量	底部穿孔2ヶ所残存	
184	376	クワ VI		E-5	IIIa層	須恵器		厚(2.5)			M5/灰	石英・角閃石・雲母・黒色粒 白色粒		
184	377	クワ VI		B-5-18	IIIa層	土師器		8.2	横ナデ・ヘラ切り後ナデ	ナデ・横ナデ	5YR6/4にぶい黄 2.5YR5/4取褐	長石・石英・滑石 3mm以内の礫 茶色粒・砂粒		
184	378	クワ III	SH-08 付近	B-2	II層下	須恵器		10.8	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y6/3にぶい黄	角閃石・雲母・5mm以下の礫 1mm以下の黒色粒・白色粒	内面の口縁部にスス痕、 内面底部の一部に自然削り付着	
184	379	クワ III		C-2	II層下	須恵器		(80)	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y6/2黄灰	石英・雲母・白色粒・黒色粒		
184	380	クワ VI		E-4	IIIa層	須恵器		6.8	回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5Y6/1灰 M5/0灰	長石・白色粒・黒色粒		
184	381	クワ VI		D-5	II層	須恵器		(56)	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	ナデ・回転ナデ	5Y5/2灰ナデ	雲母・黒色粒・白色粒	内面に自然削り付着・釉溜まり 垂みの 為最小口径(11.2cm)最大器高4.6cm	
184	382	クワ II		C-5	II層下	須恵器		(81)	回転ナデ・回転ヘラ切り	ナデ・回転ナデ	2.5Y5/3-5/4黄褐 2.5Y5/4黄褐	石英・黒色粒・白色粒 茶色粒・3mm以下の礫	一部体部外面に自然削り付着	
184	383	クワ VI		D-5	IIIa層	須恵器		11.2	回転ナデ・ヘラ切り	ナデ・回転ナデ	2.5Y6/3にぶい黄 2.5Y5/2暗灰黄	長石・石英・1mm以内の白色粒 黒色粒・茶色粒		

第6表 出土遺物観察表(土器) 16

補図 番号	実測 番号	調査区	出土地点		器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			遺構	グリッド		口径	底径	器高	外面	内面	外面		
184	384	クワ	II	B-4	須臾器	(140)	95	3.8	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	ナデ・回転ナデ	25Y6/3黄褐	長石・白色粒・黒色粒・茶色粒 5mm以下の礫	
184	385	クワ	II	C-4	須臾器	(127)	(88)	32~	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ 回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	ナデ	25Y7/2灰黄 25Y6/2灰黄	角閃石・雲母・白色粒	
184	386	クワ	II	B-4	須臾器	(99)	(44)	3.7	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ		10Y4/1~3/2灰 25Y6/2灰黄	長石・雲母・角閃石・白色粒 黒色粒	
184	387	クワ	V	C-5	須臾器	(100)		33~	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	10Y6/1灰	雲母・白色粒・黒色粒	
184	388	クワ	III	A-2	須臾器	(123)	60	4.6	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	25Y6/1黄灰 25Y7/1明黄褐 5Y4/2灰オリーブ	滑石・1mm以下の白色粒	自然釉付着 底部に砂の塊が付着
184	389	クワ	III	E-3	須臾器	(116)	62	3.9	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	5Y6/1灰	長石・石英・1mm以内の 白色粒・黒色粒	自然釉付着
184	390	クワ	III	F-3	須臾器	(110)	(60)	3.7	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	25Y6/1黄灰 25Y6/2明灰黄	石英・角閃石 1mm以下の白色粒・黒色粒 3mm以下の礫	黒色礫多い
185	391	クワ	III	D-3	須臾器	(177)		5.3~	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y6/1灰 5Y6/2灰オリーブ	長石・2mm以下の黒色粒 1mm以下の白色粒・茶色粒 3mm以下の礫を少量	
185	392	クワ	VI	D-4	須臾器	(94)	(94)	2.5~	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	回転ナデ・回転ナデ後ナデ	25Y6/1 25Y4/1黄灰 10YR5/3にふい黄褐	石英・1mm以下の白色粒 黒色粒	内面に少々と外面底部一部に自然釉 付着
185	393	クワ	VI	B-5-23	須臾器	(146)	9.1	4.5	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	10YR6/3にふい黄褐 25Y6/2暗灰黄 5Y6/1・4/1灰 10YR3/2・2/3黒褐	石英・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・黒色粒 茶色粒	内外両面に火燒 重なる様により外面上部は灰色還元
185	394	クワ	VI	D-5	須臾器		7.1	1.1~	回転ナデ	回転ナデ	25Y6/1黄灰	長石・石英・雲母・白色粒 黒色粒	
185	395	クワ	V	D-5	須臾器		70	10~	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ 回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	ナデ	5Y6/1灰	石英・1mm以下の白色粒 黒色粒	
185	396	クワ	V	D-3	須臾器	(183)		4.3~	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	5YR4/3赤褐・5Y6/1灰 25Y7/6明黄褐	雲母・白色粒・黒色粒	自然釉付着
185	397	クワ	VI	B-5-18	須臾器	(192)	(160)	2.8	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	5Y6/2灰オリーブ	雲母・白色粒・砂粒	底部に火燒
185	398	クワ	III	B-4	須臾器		(119)	2.3~	回転ナデ	ナデ	25Y6/3にふい黄 25Y4/1黄灰	1mm以下の雲母・白色粒 黒色粒	貼付け高台
185	399	クワ	VI	B-5-18	須臾器		(76)	4.2	ナデ・回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ	25Y6/3にふい黄	黒色粒・白色粒	内・外面の口縁部に施釉 外面の口縁部付近に自然釉付着 壺みの為最小口径1.7cm 最大口径12.0cm
185	400	クワ	III	C-3	須臾器	(134)	(83)	3.9	回転ナデ・工具ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	5Y7/1灰白	石英・雲母・白色粒	貼付け高台
185	401	クワ	III	C-2	須臾器	(126)	(89)	3.9	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ 回転ナデ	ナデ・回転ナデ	7.5Y6/1・6/1灰 25Y7/3浅黄 2.5Y6/2暗灰黄 2.5Y6/8明黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・茶色粒・4mm以下の礫	貼付け高台
185	402	クワ	III	D-3-4	須臾器			2.2~	回転ナデ	回転ナデ	10Y6/1灰 25Y7/6明黄褐	白色粒	自然釉付着
185	403	クワ	III	C-2	須臾器		6.7	1.1~	ナデ・回転ナデ ヘラ削り後ナデ	ナデ	25Y6/2暗灰黄 7.5YR5/4にふい黄	雲母・白色粒・黒色粒	
185	404	クワ	III	C-3	須臾器			1.8~	ナデ	ナデ	25Y6/2灰黄	長石・石英・1mm以内の黒色粒 茶色粒	
185	405	クワ	III	C-3	須臾器			2.9~	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/3にふい黄褐 10YR2/1黒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	
185	406	クワ	VI	C-3	土師器	(14.1)		3.2	回転ナデ	ナデ	7.5YR6/4にふい黄 5YR6/6明赤褐色	長石・雲母・白色粒・茶色粒	ミガキ後彩色(赤彩) つまみ径(7.9)cm・貼り付け高台
186	407	クワ	VI	B-5-18	須臾器	14.1		3.1	ナデ・ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	10YR5/2灰黄褐	長石・石英・雲母・白色粒 黒色粒	つまみ径4.0cm

第6表 出土遺物観察表(土器) 17

編年 番号	報告 番号	調査区	出土地点			種別	器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備 考
			遺構	グリッド	層位			口径	底径	器高	外面	内面	外面		
186	408	クワ	VI	B-5-18	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	164	36	ナデ・回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	5/6/1灰	長石・雲母・白色粒・黒色粒	つまみ径4.9cm	
186	409	クワ	VI	B-5-23	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	152	18	ナデ・回転ナデ 回転ヘラ削り	ナデ	7.5/6/1灰 5/3/1灰 2.5/6/2灰黄 2.5/4/1灰黄	長石・石英・2mm以下の黒色粒 白色粒・茶色粒 長石・石英・1mm以下の白色粒 黒色粒	つまみ径4.0cm	
186	410	クワ	VI	C-3-4	Ⅱ層下	須恵器	坏蓋	(15.5)	16~	ナデ	ナデ	2.5/6/2灰黄 2.5/6/1灰黄	石英・角閃石 1mm以下の白色粒・黒色粒	歪みあり つまみ径7.3cm	
186	411	クワ	VI	B-5-18	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	143	3.1	ナデ・回転ヘラ削り後ナデ	ナデ	5/6/2灰黄 5/6/1灰黄	石英・角閃石 1mm以下の白色粒	自然釉付着 つまみ径4.8cm	
186	412	クワ	VI	D-2	Ⅱ層下	須恵器	坏蓋	(164)	4.7	ナデ・回転ナデ 回転ヘラ削り	回転ナデ	5/6/2灰黄 5/6/1灰黄	石英・1mm以下の白色粒 黒色粒・茶色粒	自然釉付着 つまみ径4.8cm	
186	413	クワ	VI	B-5	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	177	3.0	回転ナデ・ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	7.5/6/1灰	長石・白色粒・黒色粒	つまみ径4.8cm	
186	414	クワ	VI	D-4	Ⅲa層	須恵器	坏蓋		17~	ナデ・回転ヘラ削り	ナデ・回転ナデ	7.5/6/1灰 7.5/7/1灰 10/6/2灰黒・10/4/6赤 10/6/3にふい黄橙 10/6/3にふい黄橙	長石・石英・角閃石・白色粒 黒色粒・2mm以下の砂粒	内面口縁部に16mm幅の自然釉 外面全体に自然釉	
186	415	クワ	VI	D-3	Ⅱ層下	須恵器	坏蓋	129	24	回転ナデ・回転ヘラ削り 工具ナデ	回転ナデ・工具ナデ	2.5/6/2灰黄 2.5/4/2暗灰黄 2.5/6/3にふい黄	長石・1mm以下の白色粒 黒色粒・1mm以下の砂	つまみ径3.6cm	
186	416	クワ	VI	B-5-18	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	(139)	25	回転ナデ 回転ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	7.5/6/6橙	長石・石英・3mm程度の礫 1mm以下の黒色粒	つまみ径3.6cm	
186	417	クワ	V	D-4	Ⅱ層下	須恵器	坏蓋	149	3.0	ナデ・回転ナデ・ヘラ削り	ナデ	10/6/3にふい黄橙 10/6/3にふい黄橙 10/6/3にふい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 2mm以下の茶色粒・黒色粒 砂粒	つまみ径1.6cm	
186	418	クワ	VI	B-5-18	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	(17.3)	3.3	回転ナデ・工具ナデ ヘラ削り後ナデ	ナデ・工具ナデ	2.5/6/1灰黄 10/6/4にふい黄橙	雲母・白色粒・黒色粒	つまみ径6.8cm	
186	419	クワ	VI	C-3	Ⅱ層下	須恵器	坏蓋	(16.8)	18~	回転ナデ	回転ナデ	2.5/6/3にふい黄 2.5/6/1灰	石英・雲母・白色粒	焼成ムラ灰色を呈す つまみ径17.0cm	
186	420	クワ	VI	B-5-18	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	(14.6)	23~	ナデ・回転ナデ	ナデ・回転ナデ	N5/0-4/00灰 N3/0暗灰 5/7/1灰白	長石・石英・白色粒・黒色粒 3mm以下の礫	外面に自然釉付着	
186	421	クワ	VI	B-3	Ⅱ層下	須恵器	坏蓋	(15.0)	60	回転ナデ	回転ナデ	2.5/6/3黄褐 2.5/7/2灰黄	黒色粒・白色粒	外面に自然釉付着 つまみ径6.0cm	
186	422	クワ	VI	E-5	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	(13.4)	29	ナデ・回転ナデ 回転ヘラ削り	回転ナデ	2.5/6/1灰黄		転用硯	
186	423	クワ	VI	B-5-18	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	(17.9)	25~	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	2.5/6/1灰黄 2.5/7/3黄	長石・白色粒・黒色粒 2mm以下の砂粒	つまみ径5.6cm	
186	424	クワ	VI	B-5-25	Ⅲa層	須恵器	坏蓋		15~	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	2.5/6/1~4/1黄灰 10/6/3にふい黄	石英・雲母・1mm以下の白色粒 黒色粒・3mm以下の礫を少量	内面口縁部に施釉	
186	425	クワ	V	E-2	Ⅱ層下	須恵器	坏蓋	(15.2)	20~	回転ナデ	回転ナデ後ナデ・ナデ	7.5/6/4にふい黄 10/6/6褐灰	石英・角閃石・雲母・黒曜石 2mm以下の白色粒・1mm以下の 黒色粒・茶色粒・5mm以下の 礫・1cm以下の礫を少量	内面の一部に彩色(赤彩) つまみの上部に黒斑	
186	426	クワ	VI	C-5	Ⅲa層	須恵器	坏蓋		2.3	ナデ・工具ナデ・回転ナデ	ナデ	7.5/6/7橙 2.5/4/1灰黄	長石・石英・雲母・白色粒・黒色 粒・砂粒・赤色粒	つまみ径3.7cm	
186	427	クワ	VI	B-5-18	Ⅲa層	須恵器	坏蓋	14.1	24	ナデ・工具ナデ・回転ナデ 回転ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	5/6/1灰	長石・角閃石・白色粒・黒色粒	つまみ径3.7cm	

第6表 出土遺物観察表(土器) 18

相国 番号	実測 報告 番号	調査区		出土地点		器種	口径	法量 (cm)	調整		色調		胎土	備 考
		調査区	遺構	グリッド	層位				取上げNo.	外面	内面	外面		
187	428	クワ	Ⅲ	D-2	Ⅱ層上	須臾器		56~	横ナデ	ナデ・ヘラ削り	5Y5/1灰 5Y3/1オリーブ黒	5Y7/2灰白 5Y4/1灰	長石・石英・1mm以内の砂粒 黒色粒	
187	429	クワ	Ⅱ	B-1	Ⅲ層上	須臾器	(119)	63~	回転ナデ	回転ナデ	10R5/2~4/2灰黄褐	10R5/2~4/2灰黄褐	長石・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・黒色粒 茶色粒・5mm以下の礫	外面にスス付着
187	430	クワ	V	B-4	Ⅱ層下	須臾器		51~	ナデ・横ナデ	ナデ・横ナデ	25Y6/2灰黄 25Y6/3にふい黄 25Y2/1黒	25Y7/2灰黄 25Y6/3にふい黄 25Y2/1黒	長石・石英・1mm以内の黒色粒 白色粒	外面にスス付着
187	431	クワ	Ⅲ	B-3	Ⅲ層上	須臾器		61~	回転ナデ	ナデ・ナデ (工具を回転)	5Y4/1灰	5Y7/2灰白	雲母・黒曜石を少量含む 白色粒・黒色粒	
187	432	クワ	Ⅲ	C-3	Ⅱ層下	須臾器	(114)	24~	回転ナデ	回転ナデ	N3.0暗灰	7.5Y5/1灰	長石・白色粒・黒色粒・茶色粒 白色粒・黒色粒	二次破砕、外面に自然釉付着
187	433	コナ	Ⅲ		Ⅱ~Ⅳ層	不明		33~	横ナデ	横ナデ	10R6/4にふい黄橙	10R6/4にふい黄	長石・石英・4mm以内の礫 茶色粒・黒色粒	
187	434	コナ	Ⅱ		Ⅲ層	不明	(164)	50~	ナデ・工具ナデ洗線	ナデ	25Y8/3浅黄	25Y8/3浅黄	長石・石英・4mm以内の礫 茶色粒・黒色粒	
187	435	クワ	Ⅲ	F-3-4	Ⅱ層上	須臾器	(103)	56~	ナデ・横ナデ	ナデ	25Y6/2灰黄 25Y5/1黄灰	25Y6/2灰黄 25Y5/1黄灰	長石・雲母・2mm以内の茶色粒 黒色粒	
187	436	クワ	Ⅲ	D-3	Ⅱ層下	須臾器	(144)	51~	ナデ・横ナデ	同心円文	25Y7/2灰黄 10YR3/4暗褐	25Y7/2灰黄 10YR3/4暗褐	長石・石英・雲母・1mm以内の 茶色粒・白色粒・黒色粒	
187	437	クワ	Ⅲ	E-3	Ⅲ層上	須臾器	(143)	49~	ナデ・横ナデ	同心円文	25Y7/2灰黄 25Y4/1黄灰	25Y7/2暗灰黄 25Y2/1黒	長石・石英・雲母・1mm以内の 茶色粒・白色粒・黒色粒	
187	438	クワ	Ⅲ	B-3	Ⅱ層下	須臾器		(28)	横ナデ	横ナデ	5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・茶色粒	
187	439	クワ	Ⅵ	B-5-18	Ⅲa層	須臾器	(114)	42~			25YR7/3淡赤橙	25YR7/3淡赤橙 2.5Y6/2灰白	長石・石英・角閃石・黒色粒	全体的に磨滅し調整は不明 器壁が淡赤橙に着色しているため 被熱を受けた
187	440	クワ	Ⅱ		Ⅱ層清掃	須臾器		33	ナデ・タタキ	ナデ・タタキ	5Y6/2灰オリーブ 5Y6/1灰	7.5Y7/1灰白 2.5Y7/3浅黄	長石・角閃石・雲母・黒色粒 白色粒・3mm以下の礫	
188	441	クワ	Ⅲ	C-3	Ⅱ層下	須臾器		75~	ナデ・タタキ	同心円文	5YR7/2灰白	5YR7/2灰白	長石・石英・角閃石・黒色粒 白色粒	
188	442	クワ	Ⅵ	D-5-3 E-4	Ⅲa層 Ⅱa層	須臾器	210		回転ナデ・タタキ後ナデ	同心円文	5YR5/3にふい赤褐 5YR3/3暗赤褐	5YR5/3にふい赤褐 5YR3/3暗赤褐	長石・石英・1mm以内の白色粒 茶色粒	胴部内面に指頭圧痕 内面に青海波状文 外面に格子目文
188	443	クワ	Ⅵ	B-5-17	Ⅲa層	須臾器	(117)	210~	横ナデ	同心円文	N7/灰白・N6/1灰 5Y6/2灰オリーブ 2.5Y4/3オリーブ褐	5YR7/1灰白 5YR6/1灰 5YR3/4暗赤褐 2.5YR2/1赤黒	1mm以下の白色粒・黒色粒	外面胴部に格子目文と一部カキ目 内面胴部に青海波状文
188	444	クワ	Ⅵ	B-4 C-4	Ⅱ層下 Ⅲ層	須臾器	196	85~	ナデ・タタキ後ナデ	同心円文	25Y7/2灰黄 25Y6/2灰黄 25Y5/1黄灰	25Y7/1灰白 25Y6/2灰黄 25Y4/1黄灰	石英・雲母・褐石・黒色粒 白色粒・4mm以下の礫	自然釉付着 内側胴部に青海波状文 外側胴部に格子目文
188	445	クワ	Ⅱ	C-5 D-5	Ⅲa層上 Ⅲa層 Ⅱ層	須臾器	(160)	46~	ナデ・回転ナデ ナデ後タタキ	回転ナデ	25Y6/2灰黄 25Y5/2暗灰黄 5YR4/4にふい赤褐	25Y4/2暗灰黄 7.5YR5/4にふい褐	角閃石・雲母 1mm以下の白色粒 3mm以下の礫	胴部内面に工鼻痕 内面に青海波状文

第6表 出土遺物観察表(土器) 19

掘削 番号	報告 番号	実測 番号	調査区			出土地点			種別	器種	法量 (cm)			調整		色調		胎土	備 考
			調査区	遺構	グリッド	層位	取上げNo.	口径			底径	器高	外面	内面	外面	内面	外面		
188	446	337	クワ	VI		B-5-23	Ⅲa層		須臾器	甕	(19.5)		51~	ナデ・横ナデ・タタキ	ナデ・工具痕・アテ具痕	25Y6/3にふい黄 25Y6/2黄灰	25Y6/2灰黄 25Y6/1黄灰	長石・石英 1mm以内の黒色粒・茶色粒	口縁部に歪み
189	447	288	クワ	VI		B-5-18	Ⅲa層		須臾器	甕	(20.8)		22.0~	横ナデ・カキ目 タタキ後カキ目	横ナデ・アテ具痕 (青海波状文)	7.5YR4/3褐 5.0Y4/1暗オリーブ灰	5Y5/2灰オリーブ 7.5YR3/3暗褐		外面に格子目文
189	448	275	クワ	VI		B-5-18	Ⅲa層		須臾器	甕	(29.1)		8.0~	横ナデ・ハケ目後ナデ	横ナデ・工具ナデ	2.5Y5/1黄灰 2.5Y3/1黒褐	2.5Y6/2灰黄	長石・石英・1mm以内の黒色粒 茶色粒・白色粒	接合面で剥離
189	449	380	クワ	V		B-3	Ⅱ層下		須臾器	壺	11.4		17.9~	タタキ後ナデ 回転ヘラ削りナデ	横ナデ	5Y7/2灰白 5Y6/1灰 5Y6/1灰	5Y7/2灰白	白色粒	黒斑
189	450	299	クワ	III		C-3-4	Ⅱ層下		須臾器	鉢	10.2		10.3~	ナデ・回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1黄灰 10YR5/2灰黄褐	2.5Y6/1黄灰	長石・2mm以内の黒色粒 5mm以内の茶色粒	
190	451	651	クワ	III		A-3	Ⅱ層上		陶器	天目茶碗			4.3~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-128褐色 C-274消炭の色	C-128褐色 C-274消炭の色	長石	
190	452	646	コナ	I		B-5-18	Ⅲa層		白磁・碗	碗・王緑	(14.2)		2.5~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-143銀灰色	C-143銀灰色		
190	453	652	クワ	III		C-3	2層下		青磁	碗	(14.2)		3.6~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	C-216すずかけの樹の色		蓮花文(蓮弁文)
190	454	650	クワ	III		C-3	Ⅲa層		青磁	碗	(13.6)		4.0~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-134焦茶色	C-134焦茶色		外面に型廻り蓮弁文
190	455	655	クワ	VII		C-3-4	Ⅱ層下		青磁	碗	(15.6)		2.5~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	C-216すずかけの樹の色	長石	蓮花文(蓮弁文)
190	456	648	コナ	II					青磁	壺	(7.6)		3.0~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	C-135白茶	長石	
190	457	649	クワ	II			Ⅱ層		青磁・碗	碗	(12.4)		2.7~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	C-216すずかけの樹の色	長石・輝石	内面・口縁部に施文 内外面に書文 内面に草花文
190	458	654	クワ	VI					青磁	碗	(22.0)		2.3~	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	C-190冬の色	C-190冬の色		施文(書文)
190	459	647	コナ	I			表土ハキ		陶器	遊具 おろし金	(縦)3.9 (幅)2.1		(厚)0.5			C-164珪砂筆の白	C-164珪砂筆の白		6.2g
190	460	458	コナ	III		L-5	Ⅳ層		瓦質土器	埋鉢			4.9~	ナデ・ハケ目	ハケ目	2.5Y4/1黄灰	2.5Y6/2明灰黄	石英・雲母・白色粒・砂粒	
190	461	16	クワ	II			Ⅱ層清掃		瓦質土器	火鉢			3.9	ナデ・押し型文	横ナデ	2.5YR6/6橙 2.5YR5/4にふい赤褐	2.5YR6/4にふい橙 2.5YR5/4にふい赤褐	2mm以内の白色粒・黒色粒 茶色粒	
190	462	595	クワ	VII		E-9	V~VI層		土製品	不明	(縦) 1.9~	(横) 2.1~	(厚) 0.7~			2.5Y4/4オリーブ褐		長石・石英	形状は釘隠し

第7表 出土遺物観察表(金属製品)

挿番	報番	実番	調査区	グリッド	遺構	出土層	取上げ No.	法量 (cm)			種別	備考
								長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)		
134	187	586	クワ	V	SD-01	埋1層		2.8	1.4	0.5	3.9	
134	188	585	クワ	V	SD-01	埋5層	1	22.2	0.6	0.5	234	針状鉄器
199	536	590	ゴナ	II	H-18	IVb~V		4.5~	2.2	0.3	131	鉄鏝 方頭鏝か
199	537	582	クワ	III	E-2	II層下位		1.8	0.8	0.2	3.3	鉄輪
199	538	587	クワ	I		清掃時 一括2層		8.7~	1.4~	0.5	132	刀子
199	539	584	クワ	VI				1.8	3.1	0.6	5.0	鉸具
199	540	591	ゴナ		C-6	IVb		8.8	0.3~	0.3~	7.0	
199	541	589	ゴナ			I~II		7.3	1.6	0.3	10.9	鉄鏝(下位) 刃部欠損
199	542	581	クワ	III	D-2	II層下位		6.3~	1.1~	0.6	5.7	鉄鏝
199	543	588	クワ	VIII		撓乱		7.2~	0.8~	0.5	9.8	釘
199	544	656	クワ	V	B-4	IIIa	24	2.0	1.4	0.8	6.7	銅滓 全体に緑青が付着
199	545	583	クワ	III	D-2	2層上		5.3~	0.8~	0.4	3.1	

第Ⅶ章 総括

第1節 遺構

(1) 集石

本遺跡では10基の集石が出土した。いずれも密集度の高い集石ではなく散乱の様相に近い。これは集石が蒸焼きの調理法としたならばその役目を終え、石を取り除いた痕跡であろうか。本遺跡での集石には掘り込みは確認出来なかった。また平均石数40個程で、集石として小規模類に入る。

(2) 焼土坑(S0)

土坑状の掘り込みの埋土・側壁に焼土が見られる。本遺跡では桑鶴遺跡群Ⅷ区において集中的に検出があった。S0-01・02などが該当し、それは長軸2.3m・短軸0.7m程の規模で、遺構の性格を窺い知るものは出土しなかったため、その性格は不明であるが側壁に焼土が見られることから土坑内で火を用いたことは明白である。そのプランから南九州を中心として検出される縄文期の連結土坑の類か。本県ではこの連結土坑は鶴羽田遺跡(熊本市北区)にて検出されている。

(3) 土坑(ST・SK)

土坑は88基検出されたが、ここでは「焼土坑」とは区別した。何れも浅い掘り込みでそのプランは円形・楕円に大別でき、一部不定形も確認できる。しかしその性格を特定する遺物は殆ど出土せず、これまでの事例から廃棄土坑などの使用目的を特定するに至らなかった。

(4) 火葬墓(第55図)

明確な火葬墓として出土したのは桑鶴遺跡群06-I区にて検出された蓋付甕である。器内には小片火葬骨が出土した。火葬骨についてはNPO法人人類学研究機構に鑑定を依頼し、その内容は第Ⅴ章「自然科学分析」に掲載した。蓋付甕の器型から9C頃と推測され、この時期の火葬骨は希少であるという。火葬骨を納入してあるので「火葬蔵骨器」と呼称してよいか。検出は土坑状の掘り込みに埋納されていた状況で蓋部は土圧であろうか破損しており甕には土が流れ込んでいた。

(5) 竪穴式住居(SB)

桑鶴遺跡群Ⅲ・Ⅵ区を中心として出土した。何れも竈を持ちSH-05からは竈の袖石(No.86・87)が出土している。凝灰岩で火熱を受けたとみられ風化が激しい。

3m×3m程の規模であるがここで注目したいのは、竈位置が住居の東方向に存在していることである。このことは住居内の約束事ではなく、竈機能を考慮した空気循環等の課題を提示し、地域による気象条件に関与しているものであろう。このエリアの住居は切り合いが激しいため、規格に準じるものか特定できなかった。しかし素朴な疑問として思うのは何故、同じ場所に新たに構築するのであろうか。また破壊の要因は何であらうか。これを本遺跡において考古学の調査で理解することは困難であった。少類例であったが竈より彩色土器が出土したため、廃棄に伴う儀礼の一つか。

(6) 掘立柱建物

本遺跡から7軒検出された。3間×2間の建物が主で規模としては大型部類ではない。桑鶴遺跡群Ⅲ区SB-03(第128図)に至っては北西方向のP3のプランは不定形を呈している。位置的に隅柱であり柱の仮置きを行い、

後に調整した痕跡であろう。また桑鶴遺跡群Ⅲ区 SB-05（第 130 図）に至っては長軸 A-B・B-C ラインを見てみると柱間隔に差異がある。短軸 B-C 間は土間・A-B 間は住居空間と想定した。

(7) 堀（第 133 図）

桑鶴遺跡群Ⅴ区にて検出された。幅 6m・深さ 2m を測り、調査区を横断しており調査区外まで存在することは確実である。断面は U 字状を呈し下層に硬化面が検出されたことから堀としての機能を消失した後は道として利用されたことが考えられる。鉄針（No. 188）が中層から出土しているが本遺構には関与しない後世の流れ込み遺物とした。

(8) 道（第 65 図）

桑鶴遺跡群Ⅱ区にて検出された。長さ 20m・幅 1.4m を測る。波板状の硬化面が連続的に確認される。道路状遺構であろう。この遺構から時代を特定できる遺物は出土しなかったが、遺構は N-40°-W 軸である。これまでの類例から古代の遺構であろう。

(9) 不明・他（第 145 図）

SP-01（貝殻 Pit）

桑鶴遺跡群Ⅳ区にて検出された。ピット状の掘り込みにタニシ類の川貝が中層から下層にかけて埋設されていた。その個数は 2,257 個で貝の断面観察では透明部が認められること、掘り込みが掘立柱建物のピットに類似していることから古い様相を呈しないようである。しかし単体での出土であり食用後の廃棄の痕跡でもないようであるためその性格は不明とした。

第 2 節 遺物

(1) 旧石器時代

① 遺跡の立地環境と石器石材利用（第 200・201 図、第 9 表参照）

本遺跡は金峰山の外輪山から延びる台地上に位置し、金峰山から噴出した溶岩の上に約 9 万年前の阿蘇火砕流堆積物が堆積して基盤層となっている。周辺遺跡もほとんどが洪積世に形成された台地上等に立地し、当時の地質的環境を物語っている。

本遺跡の数メートル下には阿蘇 4 火砕流堆積物が見られその中に親指大の黒曜石が多く含まれている（Ph. 1 参照）。旧石器研究者の中ではこれらの黒曜石を「阿蘇 4 系黒曜石（Aso-4 系 ob）」と呼称する者が多い。当時でも周辺の台地の浸食部や河川でこの黒曜石の採集が可能であったと推定される。この石材を使用した石器として、数は少ないが細石刃があげられる。しかし、桑鶴遺跡群Ⅱ区のⅤ～Ⅶ層（白ニガ層～ローム層）において、石核、剥片、碎片が多く出土しており、剥片剥離が行われたことは確実である。その様な意味では、この遺跡は、阿蘇 4 系黒曜石の原産地遺跡と言えるかもしれないが、遺跡全体、かつ各層に亘る普遍的な石材利用状況ではない。時間の制約上、十分な接合作業ができなかった。また、出土した石核や剥片には多くの原礫面が残っており、どの様な石器を目的とした剥片剥離を行ったのかが不明である。また、阿蘇 4 火砕流堆積物中には親指大の安山岩も含まれており、その使用も見られた。

遠隔地石材が多かった使用石材は、腰岳産黒曜石であった。本遺跡から直線距離で約 80 km 離れている。良質な黒曜石であるため、約 3 万年前の周辺遺跡でも使用されている石材である。製品あるいは剥片での持ち込み

が想定される。また、良質な安山岩は西北九州産石材の可能性も考えられるが、最終的な石材の産地同定は蛍光X線分析にゆだねなければならないと考える。

その他の石器使用石材として、緑川流域で産出する輝緑凝灰岩、阿蘇周辺で採集可能な在地産安山岩が多用されており、少量ながら阿蘇市周辺で産出する象ヶ鼻産ガラス質溶結凝灰岩、構造線沿いに産出するチャート、祖母・傾山系で産出する流紋岩などの石材がみられた。

② 石器群の様相とまとめ

本遺跡出土の旧石器の明確な出土層位を把握することは、やや困難で不安な面が残るが、実際に多くの石器が旧石器出土該当層から出土していることは事実である。動植物の影響や凍上現象などに代表される自然現象による石器の浮き沈みや後世の攪乱等で出土した石器以外は、基本的に当時の堆積層から出土していると考えられる。

本遺跡から出土した定形的な旧石器を第8表に照らし合わせてみると、AT降灰以降の石器群が主体である。阿蘇周辺の小畑編年を例にとると、切出形ナイフ形石器（No.16：狸谷型ナイフ形石器）に代表される石器群、角錐状石器（No.3・17・32）に代表される石器群、小型のナイフ形石器（No.1・9・15・29・34）に代表される石器群、細石核は出土していないが細石刃（No.5～8・18・36・37・39・40）に代表される石器群の時期が該当する。特にⅤ期～Ⅷ期の石器群が主体と言えるだろう。

また、桑鶴遺跡群Ⅷ区の出土石器（第25図：No.19・20・22 第26図：No.23・24・26・27）の中には明らかにATより下層であるⅦ層、Ⅷ層からの出土石器も見られる。但し定形的な石器はNo.22の台形様石器のみである。

時代	九州西北部（萩原）		九州南西部（宮田）		阿蘇周辺（小畑）		クワⅧ区 ゴナⅠ～ Ⅲ区	クワⅡ ～Ⅵ区	クワⅠ・Ⅳ区	
	時期区分と特徴		時期区分と特徴		時期区分と特徴					
縄文時代	草創期	土器の出現とほぼ同時に西海技法による細石核が出現し、南九州での地域固有の細石核が認められる。九州には神子柴文化の要素も認められ、複雑な様相を呈している。	Ⅹ期	福井型細石核が特徴的に認められる時期。爪形文土器、無文土器、石鏃、尖頭器などが共存する。			Ⅴ層下部 ～Ⅳ層 上部	Ⅳ層下部 ～Ⅴ層 上部		
後期旧石器時代	5期	ナイフ形石器群の最終末と土器出現前の細石刃石器群。ナイフ形石器群は、定形石器の小型化、形態の統一化、組合せ道具の開発という基本構造が認められ、細石刃石器群の出現と深く関わる。	Ⅸ期	東九州地域に船野型が出現し、南九州全体に拡散する時期。	Ⅷ期 (15,000-12,000BP)	細石刃石器群	Ⅵ層	Ⅴ層	Ⅳ層	
			Ⅷ期	野岳・休場型細石刃核単純期の時期。	Ⅶ期 (18,000-15,000BP)	百花台型台形石器に代表される石器群				
	4期	小さな地域単位で独自の石器製作システムが発達。角錐状石器、槍先形尖頭器、柿崎型ナイフ形石器、今峠型ナイフ形石器、枝去木型台形石器、百花台型台形石器などがある。	Ⅶb期	長さ2～3cm程度の小型ナイフ形石器が主体であり、素材は縦長剥片のほか横長剥片も認められる。	Ⅵ期 (20,000-18,000BP)	小型の縦長ナイフ形石器に代表される石器群				
			Ⅶa期	長さ4～5cmサイズのナイフ形石器や尖頭器が主体となる。基本的に三稜尖頭器が共存する。	Ⅴ期 (23,000-20,000BP)	今峠型ナイフ形石器や三稜尖頭器に代表される石器群				
			Ⅵ期	三稜尖頭器が主体となり盛行する時期。国府型ナイフ形石器も入る。	Ⅳ期 (25,000-23,000BP)	剥片尖頭器や狸谷型ナイフ形石器に代表される石器群				
			Ⅴc期	基部加工のナイフ形石器や今峠型ナイフ形石器、そして台形石器が主体となる石器群を指標とする時期。						
	3期	第2期を特徴づけた石刃・ナイフ形石器類・傾斜細調整サブシステムが解体し、形式の豊富さに対応する複数のサブシステムが発達。剥片尖頭器、角錐状石器、狸谷型ナイフ形石器、原の辻型ナイフ形石器、国府型ナイフ形石器などがある。	Ⅴb期	剥片尖頭器が主体となる時期。						
			Ⅴa期	幅広剥片を使用した厚みのある切出し形のいわゆる狸谷型ナイフ形石器を指標とする時期。						
	2期	初源の要素はAT直前に出現する。良好な層位的検出例はなく、細別編年は困難で、型式学的な方法にたよらざるをえない。比較的大形の二側辺加工ナイフ形石器、打面残置の一側辺加工ナイフ形石器、端部加工ナイフ形石器などがある。	始良Tn火山灰（AT） 25,000BP	Ⅳ期	二側縁加工ナイフ形石器と搔器などが主体となり、剥片尖頭器と三稜尖頭器は含まない。	Ⅲ期 (27,000-25,000BP)				縦長の二側辺加工のナイフ形石器に代表される石器群
				Ⅲ期	縦長剥片を素材とし、打面を截断するように二側縁加工をしたものや一側縁加工のいわゆる茂島型ナイフ形石器が主体であり、ほかに搔器、削器、敲石等が伴う。多くの遺跡で燧群を伴う。	Ⅱ期 (30,000-27,000BP)				フランディングや面加工の発達した台形石器と局部磨製石斧に代表される石器群
Ⅱ期			小型の剥片石器が多いが、九州東南部ではこの時期の遺跡は少ない。台形様石器、部分加工ナイフ形石器、削器などがある。	Ⅰ期 (33,000-30,000BP)	部分加工の台形様石器と粗加工のノッチやピックに代表される石器群					
Ⅰ期			大型の剥片を素材とした鏡面緑石器や斧形の石器が共通していており、磨石・敲石類の燧塊石器が多いことが特徴である。							
前・中期旧石器時代	現段階では、前・中期旧石器時代石器群の内容を明確に示すことは出来ない。	0期	石器認定が困難なものが多いが、大型剥片石器と小型剥片石器の2種類がある。			Ⅷ層	Ⅶ層	Ⅴ層		

△1:Ⅵ層:10780±50年 ●1:Ⅵ層上:20960±130年 クワ=桑鶴遺跡群 ゴナ=五丁中原遺跡
 △2:Ⅶ層上:17180±70年 ●2:Ⅵ層下:22010±130年
 △3:Ⅶ層下:19690±80年

第8表 旧石器時代の地域的編年と本遺跡との比較表



第 200 図 遺跡を取り巻く石材環境 (S=1/1,000,000)



第 201 図 熊本市周辺の地質図と旧石器時代の遺跡位置図 熊本県地質図 (S=1/100,000) 説明書 (2008) より加筆引用

凡例

A4 : 阿蘇-4 火砕流堆積物 Kbo : 金峰火山古期噴出物 A13 : 阿蘇-1~3 火砕流堆積物 t1 : 低位段丘堆積物 t2 : 中位段丘堆積物
 Ki : 金峰火山新期堆積物 Ys : 芳野層 ta : 崖錐堆積物 Kbm : 金峰火山中期噴出物 Kum : 熊本層群 Ai : 赤井火山 (砥川溶岩)
 Mu : 御船層群上部層 FH : 布田層・花房層 MI : 御船層群下部層 vg : 苦鉄質火山岩類 cc : 結晶質チャート um : 超苦鉄質岩類
 Gks : 雁回山層 011 : 大岳古期輝石安山岩溶岩 013 : 大岳新期角閃石安山岩溶岩 014 : 大岳新期輝石安山岩溶岩
 0p1 : 大岳新期角閃石安山岩火砕岩 0p2 : 大岳新期輝石安山岩火砕岩

●は遺跡の位置、○の範囲は自然堤防の範囲を示す。

番号	遺跡名	所在地	標高(m)	遺物・遺構	出土場所・層位等	調査歴	文献
1	桑鶴遺跡群	熊本市北区賈町字馬場・三つ塚	78	ナイフ、台形椀、三稜尖頭器、剥片等	白二ガ層、ローム層、アカホヤ層、客土等	県発掘	本報告
2-①	五丁中原遺跡	熊本市北区賈町字馬場・三つ塚	77	ナイフ、三稜尖頭器、細石刃、剥片	白二ガ層、アカホヤ層、黒二ガ層	県発掘	本報告
2-②	五丁中原遺跡(市調査区)	熊本市北区賈町字馬場・三つ塚	72~73	剥片尖頭器、ナイフ、三稜尖頭器	弥生の包含層、縄文早期の集石	市発掘	1997b 五丁中原遺跡 五丁中原遺跡群第1次調査区発掘調査報告書
3	吉丸前遺跡	五名市吉丸前	43~47	三稜尖頭器	中世の空堀	五名市発掘	2007a 吉丸前遺跡 五名市文化財調査報告第16集
4	ラスギ遺跡	熊本市北区楠木町滝水字ラスギ	90	ナイフ	他の遺物に混入	発掘	2003 ラスギ遺跡 熊本県文化財調査報告第214集
5	山海遺跡	熊本市北区万葉寺町甲笹尾	100~120	剥片尖頭器	工事中の残土	採集	1994 熊本県遺跡地図
6	明川遺跡	熊本市北区西権尾町480番地	90	剥片	始良In火山灰包合層中	市発掘	1999a 熊本県文化財調査報告第2号 平成4年度~平成8年度一
7	扇田遺跡	熊本市北区賈町扇田	60	剥片尖頭器、ナイフ、三稜尖頭器	縄文時代等の包含層	市発掘	2001a 熊本県文化財調査報告第4号 平成11年度一
8	小糸山遺跡群	熊本市北区明徳町字糸屋敷	77~78	剥片尖頭器、三稜尖頭器	始良In火山灰包合層中	市発掘	1999a 熊本県文化財調査報告第2号 平成4年度~平成8年度一
9	庵ノ前遺跡	熊本市北区清水町楠木庵ノ前	80	台形椀、ナイフ、剥片	他の遺物に混入	発掘	1997a 庵ノ前遺跡Ⅲ 熊本県文化財調査報告第160集
10	下石ヶ迫遺跡	菊池郡菊陽町辛川	90	炭化物集中	ローム層	県予備調査	なし
11	天祥山遺跡	熊本市北区清水町楠木	97	楕圓形尖頭器	天祥山斜面	採集	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
12	平山石ノ本遺跡	熊本市東区平山町石ノ本	75~104	ナイフ、台形、局部磨製石斧等、礫群 ブロック、炭化物集中	白二ガ層、ローム層等	発掘	1999d 石の本遺跡群Ⅱ 熊本県文化財調査報告第178集 2001b 石の本遺跡群Ⅳ 熊本県文化財調査報告第195集
13	古閑山遺跡	熊本市北区龍田町上立田	90	台形椀、剥片、細石刃	ローム層直上、清掃中	発掘	1999b 古閑山遺跡 熊本県文化財調査報告第171集
14	谷口遺跡	熊本市北区清水町万石4丁目	25	ナイフ	他の遺物に混入	県発掘	熊本市 1996 新熊本市史 史料編 第1巻 考古資料
15	柿原羽山原遺跡	熊本市西区花園町柿原	50	ナイフ、細石刃	不明	採集	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
16	竜田陳内遺跡	熊本市北区龍田町陳内	34	三稜尖頭器、剥片	弥生時代の遺物包含層	県発掘	1988 竜田陳内遺跡 熊本県文化財調査報告第98集
17	面木遺跡	熊本市西区河内町面木	230	剥片尖頭器など	ミカン園内	採集	熊本市 1996 新熊本市史 史料編 第1巻 考古資料
18	新南部遺跡群	熊本市東区新南部町、上南部町	30	ナイフ、細石刃核	東海大学西側の畑内、弥生時代の包含層	採集、発掘	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
19	葉山遺跡群	熊本市東区戸島町葉山	60	細石刃核	弥生時代の墓棺調査	発掘	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
20	遺跡名未詳	上益城郡益城町(再春館製菓所内)	140~150	剥片	旧石器出土該当層	県予備調査	なし
21	台尾崎遺跡	熊本市西区谷尾崎町谷尾崎	50	細石刃核	不明	採集	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
22	高橋町遺跡群(上高橋遺跡)	熊本市西区高橋町上高橋	50	ナイフ、台形	ミカン園内	採集	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
23	梨木遺跡	上益城郡益城町広崎字梨木	35	ナイフ	縄文時代の遺物包含層	発掘	1999c 古閑北・梨木遺跡 熊本県文化財調査報告第175集
24	健軍神社周辺遺跡群	熊本市東区健軍本町	25	細石刃	縄文時代の遺物包含層	発掘	熊本市 1996 新熊本市史 史料編 第1巻 考古資料
25	健軍藤原遺跡	熊本市東区健軍(自衛隊敷地内)	30	剥片	ローム層	県調査	熊本県教育委員会 2005 健軍藤原遺跡 熊本県文化財調査報告第229集
26	久保(秋只)遺跡	上益城郡御船町大字久保・秋只	45	細石刃、細石刃核、台形椀、石核、剥片	表土攪乱層	発掘	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
27	沈目遺跡群	熊本市南区城崎町沈目	30	台形、壺器、削器など	ローム層	町発掘	城崎町教育委員会 2002 沈目遺跡 城南町文化財調査報告第12集
28	上ノ原遺跡	熊本市南区城崎町塚原字上ノ原	40	ナイフ、台形、角錐状石器	竪穴住居の覆土、表土	県発掘	熊本県教育委員会 1983a 上の原遺跡Ⅰ 熊本県文化財調査報告第58集
29	尾窪遺跡(塚原古墳群)	熊本市南区城崎町尾窪	30	台形、壺器、削器など	中世墳墓の墳丘や土溝の埋土中	県発掘	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
30	遺跡名未詳(後田)	熊本市南区城崎町藤山字後田	30	細石刃	旧豊田中学校敷地の南側崖下付近	採集	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
31	大峯遺跡	上益城郡甲佐町上早川	70	壺器、削器など	中位ローム層	調査団発掘	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
32	上早川遺跡(旧下横田)	上益城郡甲佐町下横田	65	壺器、削器など	畑内	採集	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
33	田平遺跡	宇土市細田町柳原	5	ナイフ	流れ込み	宇土市発掘	1985 肥後考古 第5号 特集:熊本の旧石器文化
34	曲野遺跡	宇城市松崎町曲野字長谷川	22	台形、ナイフ、局部磨製石斧など	ニガシロ、ローム層	県調査	熊本県教育委員会 1983b 曲野遺跡Ⅰ 熊本県文化財調査報告第65集 熊本県教育委員会 1984 曲野遺跡Ⅱ 熊本県文化財調査報告第66集

◆この他にも遺跡地図の中に「旧石器時代」の遺跡として掲載されているものが、岩倉山遺跡、堂ノ前遺跡、古閑前遺跡として存在するが、ここでは調査歴あるいは採集歴のある遺跡を取り上げる。

第9表 周辺の旧石器遺跡データ一覧表

(2) 旧石器以降

① ヘラ描き土器・墨書土器

「原」の文字がヘラ描きで確認できる。「原」はその語源を厂と泉に分けることができる（大漢和辞典）。

厂は平原の意で、小字は和泉町で発音は「イズミ」となる。また「原田」（No. 291～293）も出土した。墨書土器は須恵器の蓋に書かれ「口殿」と読める。ヘラ描き土器は製作時に陶工が傍らに積み上げ、最上部に出荷先をヘラ描きすると云われている。

② 金属器

鏃・刀子・楔などが確認されるが用途不明の遺物も多く、ここではその内容を提示する。No. 188 は大型の針状で、推定の素材として先端は鋭利でその反対端部は輪を形成してある。全体に撚りを掛け強度を増しているようである。輪は何等かを通す穴と考えると紐状のものを使用した金具か。現代でいう畳針に近いものか。

本遺跡では製鉄を行った可能性を示唆する遺物として、鞆の羽口・鉄滓の出土により可能性は高い。また埴埜（No. 175・176 他）には銅片が付着している。出土遺物に銅滓（No. 545）があることから製銅を行っていたことが考えられる。やや厚手で浅い小型の碗状である。併せて多くの鉄滓が本遺跡より出土した。

またNo. 381 は須恵器に溶接していた窯のガラス滓で窯の高温により溶解したケイ素類が付着したものであろう。これらが大量に付着すると器としての機能を失うので廃棄されたものである。

③ 土馬（No. 124・376）

桑鶴遺跡群Ⅲ区・Ⅵ区より出土。妬器状態であり、かなり高温で焼成されている。No. 124 は頭部位の可能性があり全体は破壊されている。祭祀に関与する遺物であろうがその性格を明確にできる関連の遺構・遺物は検出・出土しなかった。近接する調査区 桑鶴遺跡群Ⅱ区から古代の道が検出されているので交通に関与したものか。土馬として提示した。

④ 土製品（No. 256）

桑鶴遺跡群 06-Ⅱ a 区より出土。1 点だけの出土であった。全体に沈線を巡らし装飾であろう。孔が穿っており糸など通す目的であろう。装飾品として考えたいが、これも 1 点の出土のためその性格は不明である。

五丁中原遺跡Ⅲ区 SD-01 の 2 層より泥面子が出土しているが破片で実測に耐えられないが、この近年、注目されている「泥面子」については「肥後郷土玩具想随」（梅原與惣次 1936）記載の文章に

「面子と呼ぶ諸種の泥面が存在していた。清正公・為朝を初め武将の顔を象ったもの、福神を象ったもの、或いは鬼面を現したものなどあって、長さ一寸内外の土面に彩色した甘い感じのするものである。普通、『人形』又は『投げ人形』と呼んでいた。之を地上或る距離のところを円を描いて投げ込み、遊び相手がこれを打ち合う、相手の人形をうまく円外に打ち出せば勝ちで自分の所有となる。（略）」

とある。昭和 11 年の書物であるため古形を色濃く残した遺物である。

⑤ 輸入磁器

数的には多くない。また何れも破片である。龍泉窯の青磁蓮弁文碗が出土している。蓮弁の文様から 13C の産物であろう。外器に雷文を施した青磁もみられるが何れも同時期であろう。他に宗時代の天目碗も出土しているが輸入磁器は伝製品の性格を持つため製品作成年代と所有年代には差異は生じるだろう。しかし所有するには当時の特権階級であるためこの地域の様相を窺い知る材料となる。

また近世陶磁器として本報告書には記載しなかったが近世中期の筒型湯呑碗・油徳利の小片が本遺跡上層で出土している。何れも生活器で農耕に関与した生活地が存在したのであろう。輸入磁器ではないがNo. 459 は磁器製で観察からは卸し金のようなため近現代遊具の中の一つであるか。

⑥ 彩色土器

本遺跡より赤色を施した土器が出土した。遺構に伴う主な土器はNo. 91・97 で何れも住居からの出土であり、それは打ち欠きの感を受けることから住居廃棄儀礼に伴うものか。また肉眼観察ではベンガラ（酸化第二鉄）と赤土（Al・Si を主に Fe）に大別できそうである。

本遺跡では弥生中期の袋状口縁部片（No. 258）・後期の免田式土器（No. 257）があり、以後は古代の土師器にそれを見て取れる。前述したように住居廃棄に伴う彩色土器など、今後、民俗事例との関係も参考として本遺跡での類例を提示した。

第3節 結言

古代については、この地域においての調査事例に乏しくその様相ついて不明部分が多かったが、9世紀の住居地の検出により、この地域の一つの情報提示を行うことが出来そうである。竈付住居で生活地域を提示した。住居集中区が本遺跡に存在するが、この理由については明確にできなかった。しかしこの住居地集中区からヘラ描き土器には「原」の文字が刻まれていた。ヘラ描き土器の出土は、本遺跡ではその数11点であるが、前述したように「原」は厂と泉の意があり厂は平原、泉は現在の地名の和泉に通じるのであろう。この台地は火山灰土壌であるが湧水に恵まれていることが知られ、また現在では平坦な畑地であるが、本調査に関連した確認調査では谷部も存在し生活の水源としては恵まれていたのであろう。

道路状遺構も古代と推定され住居地群と同時期ならば、この台地にて集落を形成し集落の生活・交通に大きく関与したことになりムラの様相を想定することができる。また住居内で出土した土馬も交通の信仰関係と深く関係しているのであろうか。

また前節で述べたようにここに住居が集中している根拠が存在するのであるが、調査・整理ではその理由を明確にできなかった。一度、掘り込んだ箇所を再利用するのは容易なことであろうが、それを結論とすると短絡的すぎる。また第1節で述べたように、住居の廃棄に関しては本遺跡の考古学手法では明確な回答を得ることは困難であったが、この竈とは火に関係する所であり食に暖に照明にと、生活の根底を成すものである。ここには人々の想い・願いが凝縮される。住居地から出土した灯明皿のほんのりした灯りは日々の安堵感を与えたに違いない。

また時期は不明であったが桑鶴遺跡群V区にて検出の堀（SD-01）とその西側には掘立柱建物が検出されたことは関連が想定され、それは中世の居館の存在を窺わせる。これを補足するに少数であるが輸入磁器の出土がある。従って本遺跡は旧石器と古代をピークに持ち、縄文・弥生・中世がこの台地に点在することが、調査結果になる。しかし、この台地は全面調査でなく部分的な調査であるため、点と点を結ぶ作業に近い。本遺跡に限らずほとんどの行政調査がそうであろう。その状況の中で遺跡の成果は、今後の調査への一助として提示するに留めるしかないのかもしれない。



阿蘇 4 火砕流推積物中の
黒曜石 確認状況



五丁中原遺跡 II区 西側
工事現場 土層断面状況



桑鶴遺跡群 VIII区 SH-01 使用時完掘状況
(N →)

Ph. 1



桑鶴遺跡群 VIII区 土層断面図 A-A' (S →)



桑鶴遺跡群 VIII区 南西壁 土層断面



五丁中原遺跡 I区 南壁 土層断面 B (S → N)



五丁中原遺跡 I区 VI層 石器出土狀況 (28)

Ph. 2



五丁中原遺跡 I 区 東壁 土層断面 1 (W → E)



五丁中原遺跡 I 区 東壁 土層断面 2 (W → E)



五丁中原遺跡 I 区 東壁 土層断面 3 (W → E)



桑鶴遺跡群 06-I 区 1 号集石 検出状況 (W →)



桑鶴遺跡群 06-I 区 3 号集石 検出状況 (W →)

Ph. 4



桑鶴遺跡群 06-I区 S1-01 検出状況 (S →) (64・65)



桑鶴遺跡群 06-II区 S1-03 土坑 検出状況 (E →) (50)

Ph. 5



桑鶴遺跡群 II区 SX-04 検出状況 1 (N → S)



桑鶴遺跡群 II区 SX-02 (右) SX-04 (左) 検出状況 2 (N → S)

Ph. 6



桑鶴遺跡群 I 区 石器 出土狀況 (3)



桑鶴遺跡群 II 区 石器 出土狀況 (9) (E →)



桑鶴遺跡群 II 区 SX-05 土器 出土狀況 (E →)



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-17 竈 検出状況 (W →)



桑鶴遺跡群 Ⅲ区
SH-12 土馬 出土状況 (124) (S →)



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 住居密集地 検出状況 (SE →)



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SB-05 完掘狀況 (E →)



桑鶴遺跡群 Ⅳ区 SH-01 竈 使用時狀況 (E →)



桑鶴遺跡群 V区 SD-01 完掘状況 (N →)



Ph. 10 桑鶴遺跡群 IV区 貝殻 出土状況 (S →)



桑鶴遺跡群 VI区 土師器 出土状況 (168・169) (WS →)



五丁中原遺跡 I区 石器 出土状況 (490) (E →)



桑鶴遺跡群 VIII区 SX-05 炭化物 出土状況 (N →)



五丁中原遺跡 I区 SX-01 完掘状況 (W →)



出土石器 1 (表)



出土石器 1 (裏)



出土石器 2 (表)



出土石器 2 (裏)



出土石器 3 (表)



出土石器 3 (裏)



出土石器 4 (表)



出土石器 4 (裏)



出土石器 5 (表)



出土石器 5 (裏)



出土石器 6 (表)



出土石器 6 (裏)



出土石器 7 (表)



出土石器 7 (裏)

Ph. 18



縄文早期土器 1 楕円文



縄文早期土器 2 条痕文・格子目文・塞ノ神式

Ph. 19



桑鶴遺跡群 06-I 区 SI-01 出土土器



桑鶴遺跡群 06-I 区 SI-01 底部様相



桑鶴遺跡群 V 区 出土埴塼と靴の羽口



桑鶴遺跡群 06-II 区 出土 土製勾玉



桑鶴遺跡群 VI 区 ガラス滓 (左)
桑鶴遺跡群 VI 区 鉄滓 (右)



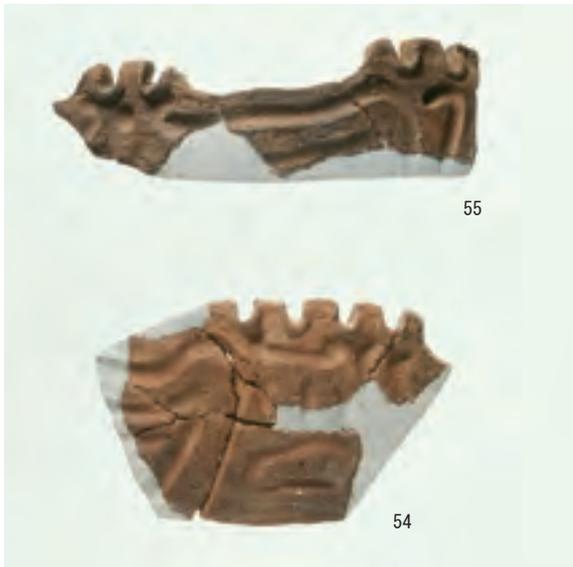
五丁中原遺跡 I 区 出土 免田式土器片



桑鶴遺跡群 I区 SH-01 出土土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-03 出土 墨書土器



桑鶴遺跡群 II区 SX-05 阿高式土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-12 出土土馬



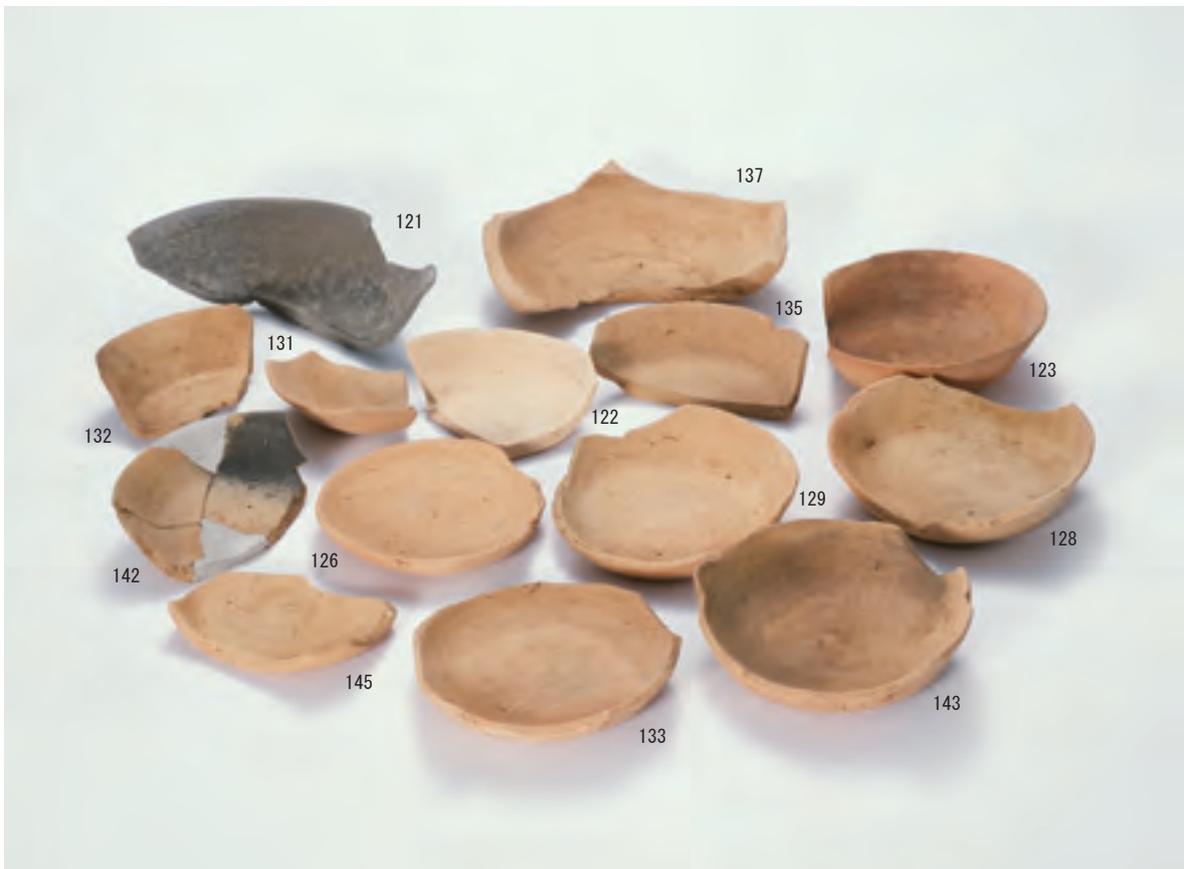
桑鶴遺跡群 II区 SX-05 阿高式土器



桑鶴遺跡群 VI区 ST-03 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-05 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-10 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-11 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-07 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-14 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-16 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅷ区 SH-01 P-1 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-17 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅳ区 SH-01 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 出土 把手部位



把手貼り合わせ状態

Ph. 24



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-05 出土 ヘラ描き「原」



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12 出土 ヘラ描き「原」「〇」



桑鶴遺跡群「原」墨書ヘラ記号



輸入磁器類



桑鶴遺跡群 V区 IIIb層 出土土器



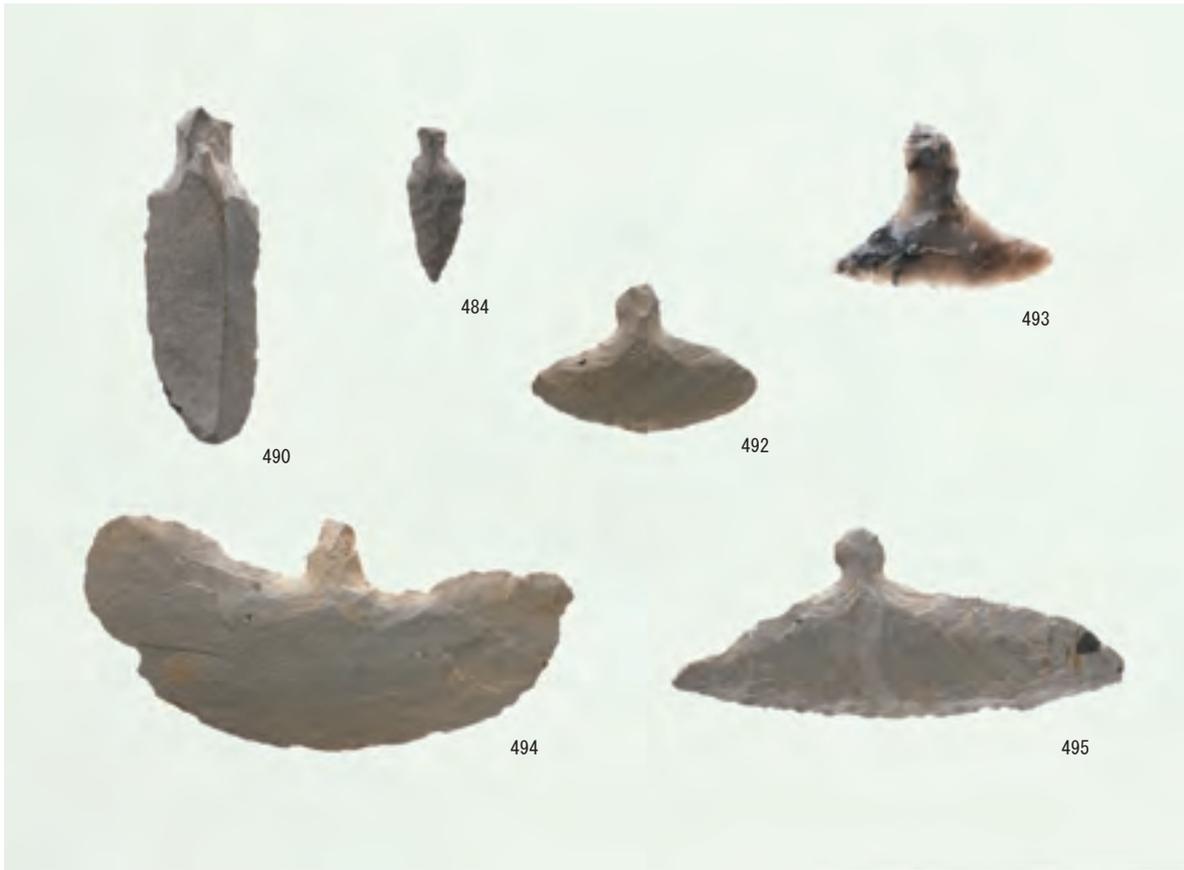
桑鶴遺跡群 III区 SH-05 出土袖石



石器 1 (石鏃)



石器 2 (石鏃・尖頭器)



石器 3 (石匙)



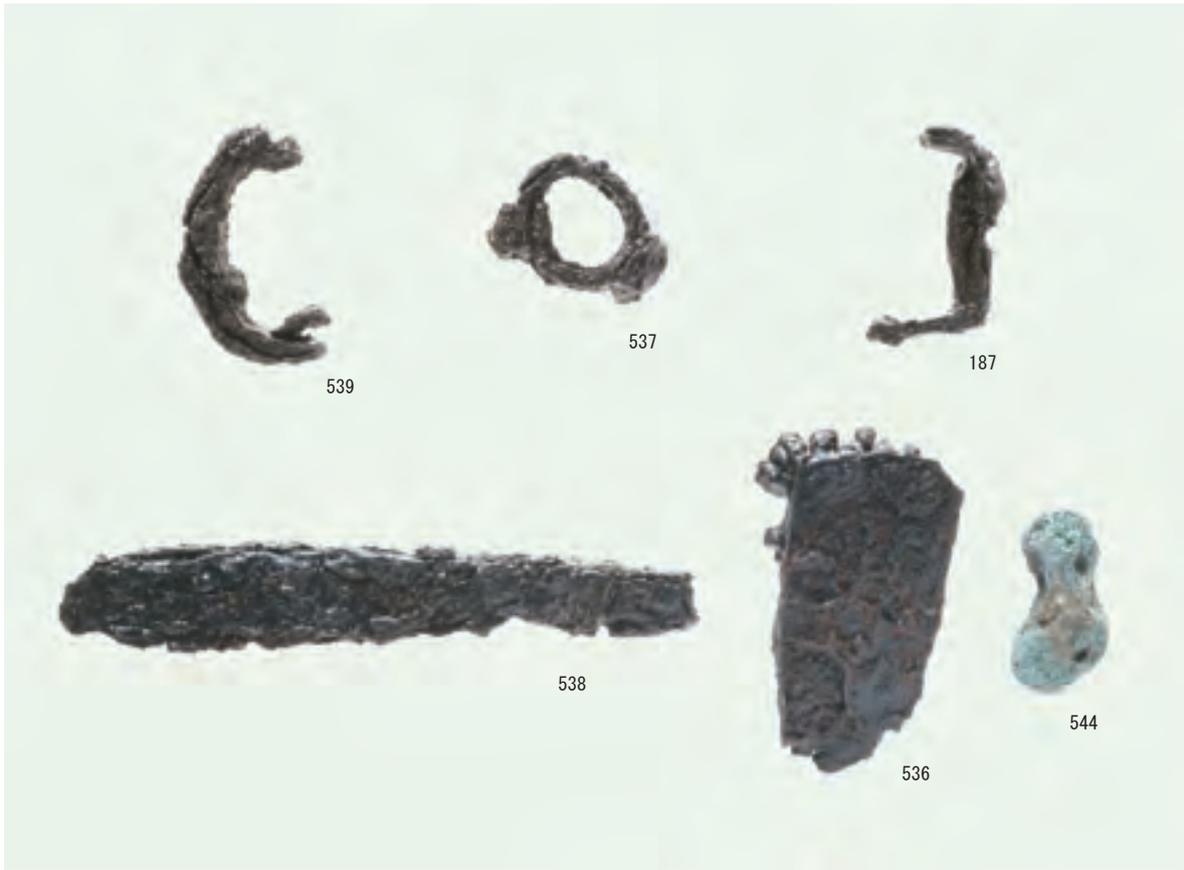
石器 4 (打製石斧・磨製石斧・凹石)



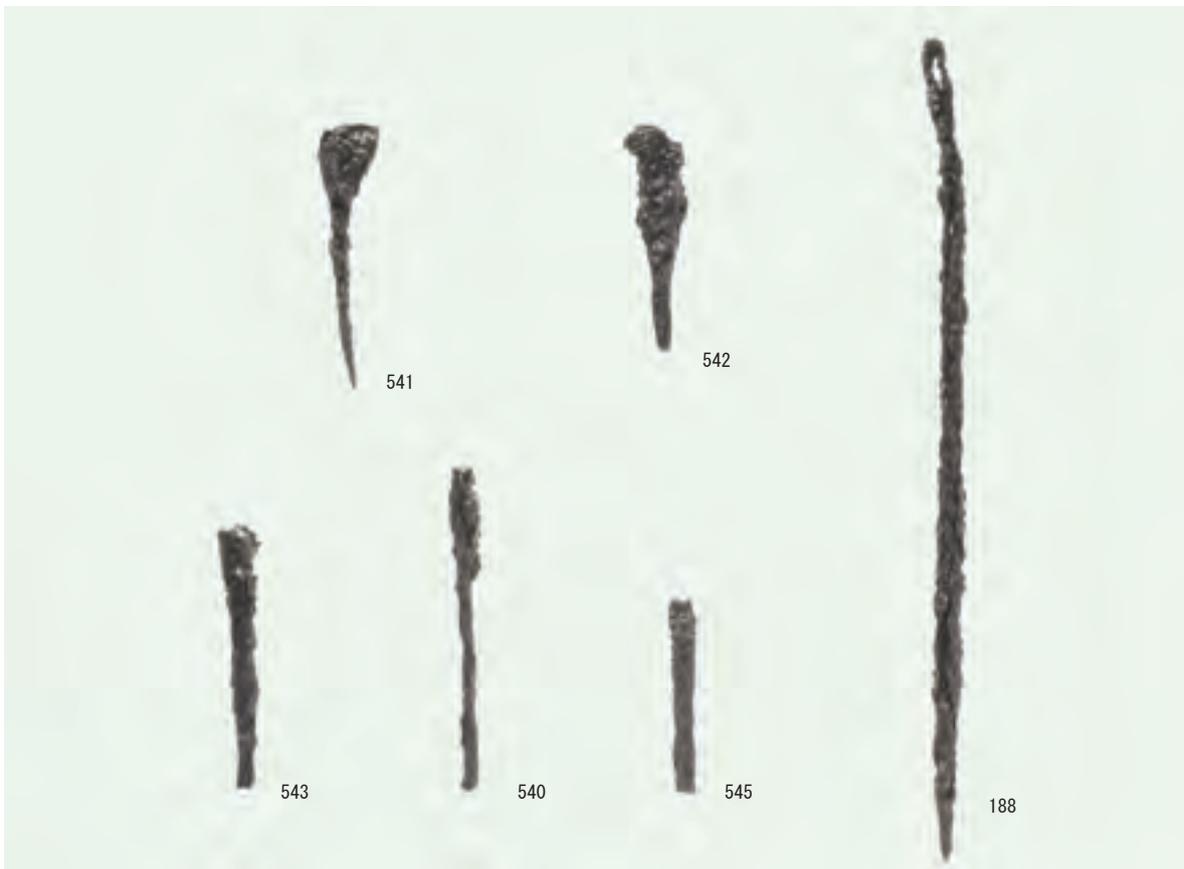
石器 5 (砥石)



石器 6 (石剣・石包丁・用途不明石器)



金属製品 1



金属製品 2

編集後記

近年、報告書に携わる度に思うのだが、報告書とは遺跡が消滅したことを表す「死亡診断書」のようなものである。だからその内容には正確さと緻密さが求められる。本「診断書」はその点において今後の参考程度であろう。これも編集者の力不足による。

調査においては用地買収と並行して行われたため、調査の工程通りにはならない場面が幾つもあった。しかし用地買収の担当者は何度も地権と交渉を重ねられ、調査地を「確保」して下さったことは、この場を借りて感謝申し上げたい。温暖化の影響であろうか近年、春と秋を感じる機会が少なくなった。寒風酷暑、現場は作業員さんと汗を流し、防寒着で小雪を凌いだ。この中で歴史学を専攻したある非常勤職員が居た。少し述べたい。

考古学は概論で学んだというが、当初は仕事の内容を理解できない事も多く、かなり戸惑いが見られた。2年目の調査時に複雑な切り合いの竈付住居を任せた。手も服も汗と土にまみれ、粘り強く調査を敢行し、見事に掘り抜いた。自琢である。それを機にその非常勤職員は積極的な生き方を選んだ。また、逆に遺跡を放棄し自滅していった調査員も少なくはない。整理作業員さんについては、言葉に表せないほど感謝申し上げますが、ここで言葉に表しました。この充実した時間は、私にとり深い想いに昇華しました。

遺跡から学ぶことは無限である。モノと人の架け橋の特質を持つからであろう。昔人の「調査は人なり」との言葉を最近、よく思い出す。

(山下 記)

現場作業員

荒木康利 境 優太 稲村 明 石川貴保 本田美和 狩野禎晴 酒井昌枝 牛島しおり 青木立子 山野美智子 三島多恵子 上内重徳 星野信弘 白石美智子 森本清子 野尻近夫 松永一代 桃井哲夫 緒方洋子 西村信二 林田恵子 西山雅廣 守井昭雄 山本正則 中村良一 関部ロサヘレナ 岩下郁子 桑鶴 護 森本紀代子 合志具英 木村武徳 徳岡 頼 荒木照之 副島頼知 森本勝行 杉本久義 森 明彦 下田高男 廣瀬正義 辰島正徳 森本一人 麻生 昇 稲本俊一 岩下 孝 坂田洋一 松本 崇 高木洋美 野口まさ代 藤井勇二 平田理恵 境 百合子 坂本紀代子 田中鳴美 宮本國昭 牧野律子 関 律子 稲村光則 松本和徳 田尻信行 緒方正明 中井良一 柴田道子 桑鶴律子 井上咲雄 牛島一征 野田 昇 中島 守 広瀬紘二 西村和幸 豊岡キヨミ 川上紀男 甲斐福義 熊谷邦彦 稲本佳子 平松英光 江藤駿助 麻生昭子 石川幹郎 後藤章一 豊民誠之 吉岡龍子 畑中儀介 大塚 昇 野仲朗怡 大久保哲哉 平野直孝 木村利男 中石徳和 宮下忠行 岩下悦子 岩下哲夫 東とし子 広瀬多津子 伊形久佐子 井上順子 早田 均 早田律子 本田敏廣 西嶋直美 竹熊清隆 吉岡睦生 井上利子 中野洋子 森 節子 河端 斎 吉川ゆかり 境 優太 稲本敏行

整理作業員

境美恵子 濱崎清子 園田智子 青木美代子 青木玲子 颯々野ふみ 藤田繁子 一野幸枝 清田幸恵 紫垣博子 村田昭恵 立岩恵美子



整理スタッフ（撮影 2015.01.19）

報告書抄録

ふりがな	くわづるいせきぐん・ごちょうなかばるいせき							
書名	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡							
副書名	砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査							
巻次								
シリーズ名	熊本県文化財調査報告							
シリーズ番号	第308集							
編著者名	山下義満							
編集機関	熊本県教育委員会							
所在地	〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号							
発行年月日	2015年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
くわづるいせきぐん 桑鶴遺跡群 ごちょうなかばるいせき 五丁中原遺跡	くまもとけんくまもとしきたく 熊本県熊本市北区 みつぐまち いずみまち 貢町・和泉町	43201	418 420	32° 46′	130° 38′	2006年 5月18日 ～ 2007年 3月29日 2009年 6月1日～ 2011年 11月11日	約17,000㎡	砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
桑鶴遺跡群 五丁中原遺跡	集落	旧石器 縄文 古代 中世	住居 道路 堀立柱建物	旧石器 縄文土器 土師器 金属器				
要約	<p>桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡は熊本市西部の舌状台地に位置し、両遺跡は同一の性格を持つものである。</p> <p>旧石器は、始良 Tn 火山灰 (AT) 降灰以降の角錐状石器に代表される石器群・小型のナイフ型に代表される石器群・細石刃に代表される石器群が主体的であった。古代は9世紀の古代の集落跡であり、竈付住居を検出し、この遺構から「原」・「原田」のヘラ描き土器によりこの一帯の当時の地名、及び環境を想定する材料になった。中世は掘立柱建物から生活の痕跡が窺え、少数ではあるが輸入磁器を所有する館の存在も想定され、今後、周囲の調査が望まれる。</p>							

熊本県文化財調査報告書 第308集

桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡

－砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告－

平成27年3月31日

編集 熊本県教育委員会
発行

〒862-8609 熊本市中心区水前寺6丁目18番1号

印刷 株式会社 大和印刷所

〒861-8031 熊本市中心区戸島町920-11

発 行 者：熊本県教育委員会
所 属：教育総務局文化課
発行年度：平成 26 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第308集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<https://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦2024年6月21日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>